哲学コース

科 目 名	哲学史特殊研究1　西洋古代・中世哲学における「意志」と「行為」の概念史（続）――ストア派からアウグスティヌスへ							
担当者名	荻野　弘之							
哲学コース	２単位	春学期	金曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

人間の行為の基本的構造に関わる諸問題を考える。英語圏では「モラル・サイコロジー」と呼ばれる学問分野。

昨年度はアウグスティヌスの『自由意志論』第一巻を講読したが、今年度も引続いて、ギリシア哲学とキリスト教が共有する「選択と意志」に関わる問題群を取り上げる。
人間が悪をなすという、ごく日常的な事態を、どのように捉えたらよいのか。宗教が入ってくると、罪やゆるしの概念が加わることで、主知主義的な構図がどのように変わるだろうか。
以下のような問題を意識しながら、主要なテクストを精読するとともに、関連する研究書や文献を参照する。

・合理的な選択と、行為の非合理性の関係をどう考えるか。
・ヘレニズム時代の行為論と、その特徴をどう理解するか。
・アウグスティヌスの「意志」の概念との比較。

古代／中世哲学を専攻とする以外の学生も歓迎する（ギリシア語・ラテン語の知識は必ずしも前提しない）。
小人数が予想されるので、受講者の希望と関心に応じて、取り扱う主題、テキスト、進め方に適宜の変更を加える。
受講者の予備知識に応じて、原典、邦訳、註解書・参考書（英文）を併用して進める予定。
昨年からの継続受講者、新規参加者、いずれも歓迎する。

授業の到達目標

（1）哲学的な基本概念の正しい理解。
（2）通時的な概念史への素養の涵養。
（3）現代哲学で扱われている問題との対照。
（4）テクストの正確な読解能力の養成。
（5）明快で的確な日本語表現の涵養。
（6）参加者間の討議による理解の深化。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない
●**レポート**　0%　　行わない
●**平常点**　90%　　小人数が予想されるため、試験やレポートではなく、出席状況と平常点でのみで採点する。
●**その他**　10%　　出席状況は考慮する

科 目 名	哲学史特殊研究2　ヴィトゲンシュタイン『論理哲学論考』の研究							
担当者名	博士（文学）東大　　伊佐敷　隆弘							
哲学コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

ヴィトゲンシュタイン（Ludwig Wittgenstein, 1889～1951年）はオーストリアで生まれ，イギリスのケンブリッジ大学で活動した20世紀を代表する哲学者である。言語の有意味性の根源，世界の根本構造，独我論や心的作用，数学の基礎などの哲学的難問について深い探究をおこなった。
『論理哲学論考』（1921年刊）を中心とする前期ヴィトゲンシュタイン哲学と『哲学探究』（1953年刊）を中心とする後期ヴィトゲンシュタイン哲学の間には連続性と不連続性があるが，今年度は『論理哲学論考』（『論考』）を丁寧に読み，前期ヴィトゲンシュタインが何をどのように問題にしていたかを明らかにする。

授業の到達目標

・前期ヴィトゲンシュタインが何をどのように問題にしていたかを理解する。
・哲学的問題について自分自身の頭を使って考察することができるようになる。

成績評価方法

出席およびディスカッションへの貢献度を評価します。

備考・関連ＵＲＬ

・講義形式ですが，必要に応じてディスカッションをおこないます。
・自分の頭で考える意志があれば，予備知識や語学力は問いません。

科 目 名	哲学史特殊研究3　フッサールとハイデガーを読むメルロ＝ポンティ							
担当者名	本郷　均							
哲学コース	２単位	春学期	火曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

メルロ＝ポンティ『コレージュ・ド・フランス講義草稿』を繙読し、晩年のメルロ＝ポンティがフッサール、ハイデガーをどのように読み解き、自らの存在論を構築しようとしていたかを検討する。

授業の到達目標

・メルロ＝ポンティ晩年の存在論について説明できる。
・フッサール、ハイデガーとメルロ＝ポンティの差異について説明できる。

成績評価方法

最終レポートをおよそ4割程度、平常の参加と報告担当で調査をしているかどうかなど、参加度を6割程度として評定する。

哲学コース

科目名	哲学史特殊研究4　哲学史研究から考える現代哲学の課題							
担当者名	関口　浩							
哲学コース	２単位	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

哲学の歴史を哲学的に考察することは、ヘーゲルに始まるが、そういう意味での哲学史研究が、その後、現代哲学に至るまでにどのように変遷して行ったかを検討する。

その際、ニーチェとハイデガーとに、特に注目したいと思う。

そのような歴史を理解したうえで、さらに、現代哲学の課題について考察したいと思う。

授業の到達目標

まずは、哲学史を、ヒストリカルな出来事と哲学者の個性とから考えるような通俗的な見方を脱して、それを真に哲学的に思索できるようになってもらいたい。

さらに、現代の世界の状況に目を向けて、それを自ら哲学的に考察することができるようになってもらいたい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　定期試験期間中の試験は行いません。

●**レポート**　80%　　第14回目の講義において課題となるテーマを指示する。 与えられたテーマについて講義内容に応答しつつ考察しているかどうかを評価する。 また考察は哲学的にして根本的でなければならない。講義内容のたんなる要約にとどまらないように。

●**平常点**　20%　　各回の講義時間中での質疑応答など、授業への積極的参加を評価する。

●**その他**　0%

科目名	哲学研究1　マルティン・ハイデガー『哲学への寄与』入門							
担当者名	Ph.D.（テュービンゲン大）　鹿島　徹							
哲学コース	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

Beiträge zur Philosophie. Vom Ereignis は *Sein und Zeit* と並ぶハイデガーの「第二の主著」として知られています。じっさいそれは哲学の歴史に画期をもたらしたものと評価することができるかもしれません。しかし執筆から80年、公刊から30年経ちながらも、このテクストはいまだ一般には「読まれていない」作品にとどまっています。「存在が存在者のもとを立ち去っている」「存在者のうちへの存在の現われと隠れの匿い」といった基本発想がそれ自体として難解なだけではありません。形而上学の用語を避けてごく普通のドイツ語を換骨奪胎して「存在の歴史」を語る言葉にしようする文体的試みもまた、読解を困難なものにしています。

もとより講義担当者は全体をくまなく理解し終えていると自負するものではありませんが、それでもこれまでの読解経験に基づいて、このテクストにこれから挑戦しようとする人たちの負担を軽減するための解説を行うことはだけはできるでしょう。

そうした入門講義を、そのつどテクストの必要個所を紹介し読み解きながら進めたいと思います。

授業の到達目標

『哲学への寄与』を自力で読み解くためのスタートラインに立つこと。

成績評価方法

定期的出席、および学期末のレポートを基本に行います。

科目名	哲学研究2　ハイデガー「ニーチェの言葉「神は死んだ」」を読む							
担当者名	Ph.D.（テュービンゲン大）　鹿島　徹							
哲学コース	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

論考 "Nietzsches Wort 'Gott ist tot'" は、ハイデガーの10年におよぶニーチェとの対決の最終決算書ともいうべきテクストです。

1930年代後半、ハイデガーは畢生の *Beiträge zur Philosophie* を執筆すると同時に、ニーチェ哲学に関する一連の講義を行ないました。1938年に擱筆された *Beiträge* においては、ニーチェ哲学は「形而上学の歴史の終端(Ende)」と位置づけられることにより、「別のはじまり」への過渡とも見なしうる評価が与えられていながら、のちに *Nietzesche* 全二巻（1960年）としてまとめられることになる講義の第五講　"Der europäische Nihilismus" ではニーチェ哲学は、「形而上学の完成(Vollendung)」と位置づけられるにいたりました。ニーチェについてのこの最終評価を独立の論考にまとめたのが、1940年代初頭に書成立したこの論考であり、それを収録する *Holzwege*（1950年刊）の他の諸篇とともに、この時期のハイデガーの思索と表現の頂点を示すものとなっています。と同時に事柄から見て、西欧的「理性」の帰趨と現代資本制システム社会の本質構造についての考察に、他に取って代えることのできない示唆を与える刺激的な論考と見ることができましょう。

この講義では*Nietzsche* におけるハイデガーのニーチェ評価を簡単に概観したのち、上記論考を各部分に区切って解説してゆきます。講義であるため、テクストの訳読は行いませんが、必要なかぎりでテクストの細部にも立ち入り、「形而上学の完成」とされるニーチェ哲学とハイデガーの思索との対決の具体相を明らかにしてゆきたいと思います。

授業の到達目標

ハイデガーのニーチェ解釈を通じて、同時代状況を思想的に考察する糸口を各自が見出すこと。

成績評価方法

定期的出席、および学期末提出のレポートを基本に行います。

科 目 名	哲学研究3　ジル・ドゥルーズ『差異と反復』を読む							
担当者名	博士(哲学)ストラスブール大　　西山　達也							
哲学コース	２単位	春学期	金曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

現代フランスの哲学者ジル・ドゥルーズの『差異と反復』をフランス語で熟読する。「差異」を生み出す運動は、私たちの生、実存、社会、歴史、そして私たちを取り巻く自然界を貫く運動である。

この主題をめぐってドゥルーズがいかなる問いを提起しているのか、そしてその背景にある哲学的伝統との関係を吟味し、現代哲学における「差異」をめぐる思想の潮流を俯瞰する。

授業の到達目標

ある哲学的な概念（「差異」等）の定義を把握し、特定の哲学者（ドゥルーズ等）がこの概念をめぐっていかなる思考を展開しているかを理解する。そのうえで、授業参加者各自がこの概念をそれぞれの関心に結び付けて応用する能力を身につける。

成績評価方法

演習への定期的・積極的な参加を基準とする

科 目 名	哲学研究4　ジル・ドゥルーズ『差異と反復』を読む							
担当者名	博士(哲学)ストラスブール大　　西山　達也							
哲学コース	２単位	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

現代フランスの哲学者ジル・ドゥルーズの『差異と反復』をフランス語で熟読する。

「差異」を生み出す運動は、私たちの生、実存、社会、歴史、そして私たちを取り巻く自然界を貫く運動である。

この主題をめぐってドゥルーズがいかなる問いを提起しているのか、そしてその背景にある哲学的伝統との関係を吟味し、現代哲学における「差異」をめぐる思想の潮流を俯瞰する。

授業の到達目標

ある哲学的な概念（「差異」等）の定義を把握し、特定の哲学者（ドゥルーズ）がこの概念をめぐっていかなる思考を展開しているかを理解する。そのうえで、授業参加者各自がこの概念をそれぞれの関心に結び付けて応用する能力を身につける。

成績評価方法

演習への定期的・積極的な参加を基準とする。

科 目 名	哲学研究5　カント『判断力批判』の研究							
担当者名	Ph.D.（ヴッパタール大(ドイツ)）　　小林　信之							
哲学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

カントは、「美とは何か」という本質規定に関して、第一に美の「無関心性」をあげた。この概念はショーペンハウアーにうけつがれ、ニーチェによる批判を介しつつ、現代的議論へと展開していく。また『判断力批判』の崇高論は、形象化しえないものの表現という問題や、テクノロジーと無気味さのテーマなど、近現代における美的なものの見直しにつうじている。

この研究では、カントの『判断力批判』の射程をさまざまな今日的視点から検証することをめざす。具体的には、近現代のカント解釈をまじえつつ、カント自身のテキストの読解を中心にすすめていく。『判断力批判』のテキストは、ドイツ語を中心に英訳と各種和訳も参照する。

授業の到達目標

哲学的テキストを読解し、みずからの思考を展開することができること。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　研究内容への習熟度、自己の見解の有無、論述の的確さ等
- **その他**　0%

科 目 名	哲学研究6　カント『判断力批判』の研究							
担当者名	Ph.D.（ヴッパタール大(ドイツ)）　　小林　信之							
哲学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

カントは、「美とは何か」という本質規定に関して、第一に美の「無関心性」をあげた。この概念はショーペンハウアーにうけつがれ、ニーチェによる批判を介しつつ、現代的議論へと展開していく。また『判断力批判』の崇高論は、形象化しえないものの表現という問題や、テクノロジーと無気味さのテーマなど、近現代における美的なものの見直しにつうじている。

この研究では、カントの『判断力批判』の射程をさまざまな今日的視点から検証することをめざす。具体的には、近現代のカント解釈をまじえつつ、カント自身のテキストの読解を中心にすすめていく。『判断力批判』のテキストは、ドイツ語を中心に英訳と各種和訳も参照する。

授業の到達目標

哲学的テキストを読解し、みずからの思考を展開することができること。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　研究内容への習熟度、自己の見解の有無、論述の的確さ等
- **その他**　0%

科目名	哲学研究9 『純粋理性批判』の再検討（その1）							
担当者名	御子柴　善之							
哲学コース	２単位	春学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

カント『純粋理性批判』の超越論的分析論第三章から超越論的弁証論第二篇第二章までの間から、最重要箇所を抽出し、その訳文を作成しつつ、その内容の解釈を試みる。これを通して、近代認識論にかんする「深い学識」と「専門の知識」を修得する。

授業の到達目標

参加者が、カント批判哲学の核心に触れることが目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　100%　　毎回提示される原稿を踏まえて、議論にしっかり参加する。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

授業中に使用する原典はドイツ語である。

科目名	哲学研究10 『純粋理性批判』の再検討（その2）							
担当者名	御子柴　善之							
哲学コース	２単位	秋学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

カント『純粋理性批判』の超越論的弁証論第二篇第二章・第三章と超越論的方法論から、最重要箇所を抽出し、その訳文を作成しつつ、その内容の解釈を試みる。これを通して、近代認識論にかんする「深い学識」と「専門の知識」を修得する。

授業の到達目標

参加者が、カント批判哲学の核心に触れることが目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　100%　　授業中に拝受される資料に基づいて、議論にしっかり参加する。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

授業中に使用する文献はドイツ語である。

科目名	哲学研究11　Wollheim 研究							
担当者名	小島　雅春							
哲学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

Richard Wollheim, THE THREAD OF LIFE（1984）
を読んでいく。
かなり困難な作品である。覚悟して登録してもらいたい。
分担部分と担当者を決め、その人にその部分の読解を示してもらい、
それに関して議論を行っていく。

授業の到達目標

主要テキストの理解。

成績評価方法

試験：　0%　　試験はおこなわない。
レポート：　50%　　内容が基準に達しているか否か。
平常点評価：　50%　　講読と討議への参加の度合い。
その他：　0%　　特になし

科目名	哲学研究12　Wollheim 研究							
担当者名	小島　雅春							
哲学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

哲学研究11に続けて、
Richard Wollheim, THE THREAD OF LIFE（1984）
を読んでいく。
かなり困難な作品である。覚悟して登録してもらいたい。
分担部分と担当者を決め、その人にその部分の読解を示してもらい、
それに関して議論を行っていく。

授業の到達目標

主要テキストの理解。

成績評価方法

試験: 0%　試験はおこなわない。

レポート：　50%　内容が基準に達しているか否か。
平常点評価：　50%　講読と討議への参加の度合い。
その他: 0%

備考・関連URL

特になし。

科 目 名	哲学研究13　トマス・アクィナス『存在者と本質について』を読む（1）							
担当者名	博士（学術）東大　　小村　優太							
哲学コース	２単位	春学期	火曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

この授業ではトマス・アクィナスの『存在者と本質について』*De ente et essentia*を中心テクストとして使用し、それに関連するテクスト（アヴィセンナ、アヴェロエスなどのアラビア哲学、またカエタヌスなどの注釈）を適宜参照しながら読解してゆく。『存在者と本質について』はトマス・アクィナスのほぼ最初期の作品であり、宗教的テクストをほとんど典拠として挙げず、もっぱら哲学的議論のみで構成されていることを大きな特徴とする。トマスは一方で『神学大全』のような大著をもつが、『存在者と本質について』はきわめて短いテクストである。しかし中世哲学における存在論を概観するための入り口としては最適であると考えられる。

授業の到達目標

・トマス・アクィナスを入り口として、中世哲学における存在論の展開を理解する。
・周辺テクストの検討を通して、中世哲学における注釈の伝統を実感する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　授業の参加度によって評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

『存在者と本質について』はラテン語で書かれているが、本テクストにはすでに多くのヨーロッパ諸語の翻訳が存在し、和訳も複数存在する。そのため、必ずしもラテン語の知識は必要とされない。場合によってはギリシア語、アラビア語の資料も利用するが、基本的には最低限英語テクストの読解能力があればよい。むしろ、中世哲学を学ぶ学生以外も積極的に参加し、西洋哲学における存在論のひとつの基本型を学んで欲しい。

科 目 名	哲学研究14　トマス・アクィナス『存在者と本質について』を読む（2）							
担当者名	博士（学術）東大　　小村　優太							
哲学コース	２単位	秋学期	火曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

この授業ではトマス・アクィナスの『存在者と本質について』*De ente et essentia*を中心テクストとして使用し、それに関連するテクスト（アヴィセンナ、アヴェロエスなどのアラビア哲学、またカエタヌスなどの注釈）を適宜参照しながら読解してゆく。『存在者と本質について』はトマス・アクィナスのほぼ最初期の作品であり、宗教的テクストをほとんど典拠として挙げず、もっぱら哲学的議論のみで構成されていることを大きな特徴とする。トマスは一方で『神学大全』のような大著をもつが、『存在者と本質について』はきわめて短いテクストである。しかし中世哲学における存在論を概観するための入り口としては最適であると考えられる。

授業の到達目標

・トマス・アクィナスを入り口として、中世哲学における存在論の展開を理解する。
・周辺テクストの検討を通して、中世哲学における注釈の伝統を実感する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　授業の参加度によって評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

『存在者と本質について』はラテン語で書かれているが、本テクストにはすでに多くのヨーロッパ諸語の翻訳が存在し、和訳も複数存在する。そのため、必ずしもラテン語の知識は必要とされない。場合によってはギリシア語、アラビア語の資料も利用するが、基本的には最低限英語テクストの読解能力があればよい。むしろ、中世哲学を学ぶ学生以外も積極的に参加し、西洋哲学における存在論のひとつの基本型を学んで欲しい。

科 目 名	哲学演習1-1　ハイデガー「芸術作品の根源」を読む ― ベンヤミン「技術的複製可能性の時代における芸術作品」と対比しつつ							
担当者名	Ph.D.（テュービンゲン大）　　鹿島　徹							
哲学コース	２単位	春学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

Martin Heidegger, "Der Ursprung des Kunstwerkes" を読みながら、ハイデガーによる芸術作品の意義づけを詳しく読み取る試みを行います。問題を掘り下げるための補助線として、同時期に書かれたヴァルター・ベンヤミンの「技術的複製可能性の時代における芸術作品」を適宜参照してゆきます。

ドイツ語原文を訳読するしかたで進めますが、分量的に全部を読むわけにはいきません。そこで第一部は参加者にその概要を報告してもらうことにして、第二部・第三部を部分的に飛ばしながら読んでゆきます。ドイツ語で書かれた哲学のテクストを読み取る語学力をつける場になるよう工夫しましょう。

授業の到達目標
ハイデガーの芸術作品論にたいする理解を深めること。

成績評価方法
定期的な出席と訳読への参加を評価基準とします。

科 目 名	哲学演習1-2　ハイデガーの講演 "Vom Wesen der Wahrheit" (1930) を読む ― 全集版で公刊されたヴァージョンをもとに							
担当者名	Ph.D.（テュービンゲン大）　鹿島　徹							
哲学コース	２単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要
上記の講演は従来、『存在と時間』から『哲学への寄与』にいたるハイデガーの思索の転換点を示すものとして重視されてきました。しかし単行本および論集 *Wegmarken* に収められたテクストは1943年公刊時に手が加えられたものであり、1930年の講演の実像は断片的なしかたで知られるにすぎませんでした。2016年、*Martin Heidegger Gesamatausgabe*, Bd. 80においてようやく講演のためのいくつかのヴァージョンが活字となり、このテクストの全貌が陽の目を見るにいたりました。この演習では全集第80巻に収められたテクストのなかから、とりあえずまとまりをもったヴァージョンを取り上げ、原文訳読形式で読み進めてゆきます。同時に必要に応じて他のヴァージョンを参照し理解を深めることによって、ハイデガーの思索の転換の意味について考えてゆきたいと思います。

授業の到達目標
1930年におけるハイデガー哲学の転換の跡をたどり、その思想的意味を考えること。

成績評価方法
定期的な出席と訳読への参加を評価基準とします。

科 目 名	哲学演習2-1							
担当者名	小島　雅春							
哲学コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要
以下の研究書の読解をとおして、Stanley Cavell の思想のより深い理解を目指す。
Hearing Things, Timothy Gould, 1998.

授業の到達目標
上記の、「授業概要」で示した通り。

成績評価方法
試験：　0%　　試験はおこなわない。
レポート：　50%　　内容が基準に達しているか否か。
平常点評価：　50%　　講読と討議への参加の度合い。
その他：　0%　　特になし

科 目 名	哲学演習2-2							
担当者名	小島　雅春							
哲学コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要
以下の研究書の読解をとおして、Stanley Cavell の思想のより深い理解を目指す。
Hearing Things, Timothy Gould, 1998.
※但し、哲学演習2-1で終えたところから始める。

授業の到達目標
上記の、「授業概要」で示した通り。

成績評価方法
試験：　0%　　試験はおこなわない。
レポート：　50%　　内容が基準に達しているか否か。
平常点評価：　50%　　講読と討議への参加の度合い。
その他：　0%　　特になし

科 目 名	哲学演習3-1　美学・文化哲学の研究							
担当者名	Ph.D.（ヴッパタール大(ドイツ)）　小林　信之							
哲学コース	２単位	春学期	木曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要
美学・文化哲学の研究にとって基礎的なテキストの解釈を中心にすすめていく。下記の論文集のほか、適宜、重要な文献をとりあげ精読する。

-H. Adler(ed.), Aesthetics and aisthesis.
-J.D.Mininger and Jason Michael Peck(ed.), German Aesthetics.
-K.Bohrer, Ploetzlichkeit: Zum Augenblick des aesthetischen Scheins.

授業の到達目標
哲学的テキストを読解し、みずからの思考を展開することができること。

成績評価方法
- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　研究内容への習熟度、自己の見解の有無、論述の的確さ等
- **その他**　0%

科 目 名	哲学演習3-2　美学・文化哲学の研究							
担当者名	Ph.D.（ヴッパタール大(ドイツ)）　小林　信之							
哲学コース	２単位	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
美学・文化哲学の研究にとって基礎的なテキストの解釈を中心にすすめていく。下記の論文集のほか、適宜、重要な文献をとりあげ、精読する。
-M. Heidegger, Nietzsche I.
-H. Adler(ed.), Aesthetics and aisthesis.
-K.Bohrer, Ploetzlichkeit: Zum Augenblick des aesthetischen Scheins.

授業の到達目標
哲学的テキストを読解し、みずからの思考を展開することができること。

成績評価方法
- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　研究内容への習熟度、自己の見解の有無、論述の的確さ等
- **その他**　0%

科 目 名	哲学演習4-1　フランス現代哲学研究1							
担当者名	博士(哲学)ストラスブール大　西山　達也							
哲学コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
現代フランスの哲学者ジャック・デリダの「白い神話」（『哲学の余白』所収）をフランス語で読む。
このテクストはデリダがメタファー論を集中的に展開したテクストであると同時に、デリダと解釈学の泰斗ポール・リクールとのあいだの論争のきっかけとなったことでも知られるテクストである。メタファーとは、最も広い意味で捉えるならば、単に修辞学上の主題であるにとどまらず、私たちの思考と言語、生と歴史、神話、宗教、社会、そして自然を貫く運動そのものである。この主題をめぐってデリダがいかなる問いを提起しているのか、そしてその背景にある様々な哲学的潮流（プラトン・アリストテレスからヘーゲル、そしてハイデガーに至る形而上学の伝統、ガダマーやリクールに代表される現代解釈学、ブルーメンベルクのメタファー学）との関係を吟味し、フランス現代哲学の動向を俯瞰する。

授業の到達目標
修士論文の完成を目指し、そのための必要な能力を養う。

成績評価方法
演習への定期的・積極的な参加を基準とする。

科 目 名	哲学演習4-2　フランス現代哲学研究2							
担当者名	博士(哲学)ストラスブール大　西山　達也							
哲学コース	２単位	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
現代フランスの哲学者ジャック・デリダの「白い神話」（『哲学の余白』所収）をフランス語で読む。
このテクストはデリダがメタファー論を集中的に展開したテクストであると同時に、デリダと解釈学の泰斗ポール・リクールとのあいだの論争のきっかけとなったことでも知られるテクストである。メタファーとは、最も広い意味で捉えるならば、単に修辞学上の主題であるにとどまらず、私たちの思考と言語、生と歴史、神話、宗教、社会、そして自然を貫く運動そのものである。この主題をめぐってデリダがいかなる問いを提起しているのか、そしてその背景にある様々な哲学的潮流（プラトン・アリストテレスからヘーゲル、そしてハイデガーに至る形而上学の伝統、ガダマーやリクールに代表される現代解釈学、ブルーメンベルクのメタファー学）との関係を吟味し、フランス現代哲学の動向を俯瞰する。

授業の到達目標
修士論文の完成を目指し、そのための必要な能力を養う。

成績評価方法
演習への定期的・積極的な参加を基準とする。

科 目 名	哲学演習6-1　古代哲学							
担当者名	Doctor of Philosophy(Classics)ケンブリッジ大　稲村　一隆							
哲学コース	２単位	春学期	水曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
プラトン、アリストテレスなどの古代哲学分野で修士論文を執筆する学生のための授業です。
参加する学生の関心に応じて授業内容を決めます。
参加者はあらかじめ担当教員（稲村: kinamura@waseda.jp）にメールで連絡すること。
授業では修士論文の検討を中心に行います。

授業の到達目標
古代哲学分野で修士論文を執筆すること。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　授業の参加と論文で評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	哲学演習6-2　古代哲学							
担当者名	Doctor of Philosophy（Classics）ケンブリッジ大　　稲村　一隆							
哲学コース	２単位	秋学期	水曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要
プラトン、アリストテレスなどの古代哲学分野で修士論文を執筆する学生のための授業です。
参加する学生の関心に応じて授業内容を決めます。
参加者はあらかじめ担当教員（稲村: kinamura@waseda.jp）にメールで連絡すること。授業では修士論文の検討を中心に行います。

授業の到達目標
古代哲学分野で修士論文を執筆すること。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　授業への積極的な参加と論文の内容
●**その他**　0%

科 目 名	哲学演習7-1　カント『実践理性批判』の再検討（1）							
担当者名	御子柴　善之							
哲学コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要
カント『実践理性批判』を検討することで、自然と自由とを峻別する「可能性」と「不可能性」を探究するとともに、カント批判哲学の中心問題を見極める。今年度は、同書分析論第二章を検討する。これらを通して、近代哲学にかんする「深い学識」と「専門の知識」を修得する。

授業の到達目標
カントの難解な原文を読解できるようになり、また、二次文献を検討する力をつけること。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　『実践理性批判』に関するレポートを提出する。
●**平常点**　50%　　ドイツ語読解に参加する。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ
特になし。

科 目 名	哲学演習7-2　カント『実践理性批判』の再検討（2）							
担当者名	御子柴　善之							
哲学コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要
カント『実践理性批判』を検討することで、自然と自由とを峻別する「可能性」と「不可能性」を探究するとともに、カント批判哲学の中心問題を見極める。今年度は、同書分析論第三章を検討する。これを通して、近代哲学にかんする「深い学識」と「専門の知識」を修得する。

授業の到達目標
カントの難解な原文を読解できるようになり、また、二次文献を検討する力をつけること。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　『実践理性批判』に関するレポートを提出する。
●**平常点**　50%　　ドイツ語読解に参加する。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ
特になし。

科 目 名	哲学演習8-1　パーソンの同一性問題1							
担当者名	村松　聡							
哲学コース	２単位	春学期	金曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要
倫理学・応用倫理学の研究にとって必須なパーソン論についての哲学論文を取り上げる。

テキストは　パーフィット、『理性と人格』。「Ⅲ　人格の同一性」の12章から読む予定である。 この著作、またとりわけこの章は、人格の同一性問題に大きな波紋を投げかけた議論を含んでいるため、パーソン論にとって欠かせない。

授業の到達目標

研究者としてテキストの正確な読解と理解能力を育てる。哲学的に倫理を考えていくための基本となるパーソン問題、他者問題、身体問題を理解し、考えていくための能力を身につけること。

成績評価方法

期末にレポートを課す。演習への出席、ディスカッション、発表を総合的に評価する。

科 目 名	哲学演習8-2　パーソンの同一性問題2							
担当者名	村松　聡							
哲学コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

前期に続いて、倫理学・応用倫理学の研究にとって必須なパーソン論についての哲学論文を取り上げる。
前期と同様のテキストを取り上げる予定である。
パーフィット、『理性と人格』、前期で取り上げた章に続いて読んでいく。

授業の到達目標

研究者としてテキストの正確な読解と理解能力を育てる。哲学的に倫理を考えていくための基本となるパーソン問題、他者問題、身体問題を理解し、考えていくための能力を身につけること。

成績評価方法

期末にレポートを課す。 演習への出席、ディスカッション、発表を総合的に評価する。

科 目 名	哲学研究指導1-1　M　哲学							
担当者名	Ph.D.（テュービンゲン大）　鹿島　徹							
哲学コース	—	春学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の執筆のための、形式・内容両面でのアドバイスを行う。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	哲学研究指導1-2　M　哲学							
担当者名	Ph.D.（テュービンゲン大）　鹿島　徹							
哲学コース	—	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の執筆のための、形式・内容両面でのアドバイスを行う。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	哲学研究指導2-1　M　英米現代哲学							
担当者名	小島　雅春							
哲学コース	—	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士課程での研究に必要な諸事項を指導する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	哲学研究指導2-2　M　英米現代哲学							
担当者名	小島　雅春							
哲学コース	—	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士課程での研究に必要な諸事項を指導する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	哲学研究指導3-1　M　美学・文化哲学							
担当者名	Ph.D.（ヴッパタール大(ドイツ)）　小林　信之							
哲学コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文執筆のための指導をおこなう。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	哲学研究指導3-2　M　美学・文化哲学							
担当者名	Ph.D.（ヴッパタール大(ドイツ)）　小林　信之							
哲学コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文執筆のための指導をおこなう。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	哲学研究指導4-1　M　近現代フランス哲学							
担当者名	博士(哲学)ストラスブール大　西山　達也							
哲学コース	—	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文執筆のための指導を行う。哲学原典を読解し、二次テクストの利用方法、修士論文執筆に必要な技術を修得する。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	哲学研究指導4-2　M　近現代フランス哲学							
担当者名	博士(哲学)ストラスブール大　西山　達也							
哲学コース	—	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文執筆のための指導を行う。哲学原典を読解し、二次テクストの利用方法、修士論文執筆に必要な技術を修得する。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	哲学研究指導6-1　M　古代哲学							
担当者名	Doctor of Philosophy(Classics)ケンブリッジ大　稲村　一隆							
哲学コース	—	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
プラトン、アリストテレスなどの古代哲学分野で修士論文を執筆する学生のための授業です。
参加する学生の関心に応じて授業内容を決めます。
参加者はあらかじめ担当教員（稲村: kinamura@waseda.jp）にメールで連絡すること。授業では修士論文の検討を中心に行います。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	哲学研究指導6-2　M　古代哲学							
担当者名	Doctor of Philosophy（Classics）ケンブリッジ大　　稲村　一隆							
哲学コース	—	秋学期	水曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

プラトン、アリストテレスなどの古代哲学分野で修士論文を執筆する学生のための授業です。
参加する学生の関心に応じて授業内容を決めます。
参加者はあらかじめ担当教員（稲村: kinamura@waseda.jp）にメールで連絡すること。授業では修士論文の検討を中心に行います。

授業の到達目標

修士論文を完成させること。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	哲学研究指導7-1　M　ドイツ近代哲学、倫理学							
担当者名	御子柴　善之							
哲学コース	—	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

哲学演習7-1と合併で行われるこの授業では、カント『実践理性批判』分析論第二章の読解を手がかりとしつつ、参加者の研究の促進し、近代哲学にかんする学識の修得を図る。なお、この授業時間枠を用いて、研究発表のための予行練習をする場合がある。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連ＵＲＬ

特になし。

科 目 名	哲学研究指導7-2　M　ドイツ近代哲学、倫理学							
担当者名	御子柴　善之							
哲学コース	—	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

哲学演習7-2と合併で行われるこの授業では、カント『実践理性批判』分析論第三章の読解を手がかりとしつつ、参加者の研究の促進し、近代哲学にかんする深い学識の修得を図る。なお、この授業時間枠を用いて、研究発表のための予行練習をする場合がある。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連ＵＲＬ

特になし。

科 目 名	哲学研究指導8-1　M　倫理学・応用倫理学							
担当者名	村松　聡							
哲学コース	—	春学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

哲学演習８－１と合併で行われるが、この授業時間枠を用いて修士論文の過程での研究発表を行う。

授業の到達目標

修士論文の完成が目標である。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	哲学研究指導8-2　M　倫理学・応用倫理学							
担当者名	村松　聡							
哲学コース	—	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

哲学演習８－２と合併で行われるが、この授業時間枠を用いて修士論文の過程での研究発表を行う。

授業の到達目標

修士論文の完成が目標である。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	哲学研究指導1-1　D　哲学							
担当者名	Ph.D.（テュービンゲン大）　鹿島　徹							
哲学コース	—	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の執筆のための、形式・内容両面でのアドバイスを行う。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	哲学研究指導1-2　D　哲学							
担当者名	Ph.D.（テュービンゲン大）　鹿島　徹							
哲学コース	—	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の執筆のための、形式・内容両面でのアドバイスを行う。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	哲学研究指導2-1　D　英米哲学							
担当者名	小島　雅春							
哲学コース	—	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
学生と話し合って決める。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	哲学研究指導2-2　D　英米哲学							
担当者名	小島　雅春							
哲学コース	—	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
学生と話し合って決める。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	哲学研究指導3-1　D　美学・文化哲学							
担当者名	Ph.D.（ヴッパタール大（ドイツ））　小林　信之							
哲学コース	—	春学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文執筆のための指導をおこなう。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	哲学研究指導3-2　D　美学・文化哲学							
担当者名	Ph.D.（ヴッパタール大(ドイツ)）　小林　信之							
哲学コース	—	秋学期	木曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要
博士論文執筆のための指導をおこなう。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	哲学研究指導4-1　D　近現代フランス哲学							
担当者名	博士(哲学)ストラスブール大　西山　達也							
哲学コース	—	春学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
フランス近現代哲学にかんする基礎を再確認すべく、参加者の研究遂行にとって有意義なフランス哲学の基本文献を読解する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	哲学研究指導4-2　D　近現代フランス哲学							
担当者名	博士(哲学)ストラスブール大　西山　達也							
哲学コース	—	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
フランス近現代哲学にかんする基礎を再確認すべく、参加者の研究遂行にとって有意義なフランス哲学の基本文献を読解する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	哲学研究指導7-1　D　ドイツ近代哲学、倫理学							
担当者名	御子柴　善之							
哲学コース	—	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
カント哲学にかんする諸文献を検討しながら、参加者の研究を促進します。授業時においては、参加者による発表と原典講読を行います。これらを通して、学会における研究発表や学術論文発表の準備に取り組みます。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を目標とします。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連ＵＲＬ
特になし。

科 目 名	哲学研究指導7-2　D　ドイツ近代哲学、倫理学							
担当者名	御子柴　善之							
哲学コース	—	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
カント哲学にかんする近現代ドイツ哲学における諸文献を検討しながら、参加者の研究を促進します。授業時においては、参加者による発表と原典講読を行います。これらを通して、学会における研究発表や学術論文発表の準備に取り組みます。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を目標とします。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連ＵＲＬ
特にありません。

東洋哲学コース

科 目 名	東洋哲学特殊問題1　禅家語録研究1							
担当者名	博士(文学)東大　　小川　隆							
東洋哲学コース	２単位	春学期	金曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

禅の語録は、東アジアの思想・宗教・文学・言語などに関心をもつ人にとって、興味ある資料になりうるものだと思います。しかし、その思考と表現の独特さから、難解でとりつくしまのないものとも言われています。

この授業では、これまで禅の語録にふれたことのない方を対象として、その読解の初歩的な勉強をします。

授業の到達目標

辞書や先行の訳注などを参照しながら、各自の専攻分野で、禅の語録を資料として利用できるようになること。

成績評価方法

授業中に担当してもらう解読の水準をもとに、平常点で評価します。

適宜、課題を出し、評価の材料に加えます。

科 目 名	東洋哲学特殊問題2　禅家語録研究2							
担当者名	博士(文学)東大　　小川　隆							
東洋哲学コース	２単位	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

「禅家語録研究1」にひきつづき、禅の語録の読解の初歩的な勉強をする。

授業の到達目標

辞書や先行の訳注を参照しながら、各自の専攻分野で禅の語録を資料として利用できるようになること。

成績評価方法

授業中の読解の水準をもとに平常点で評価する。

適宜、課題を出し、評価の材料に加える。

科 目 名	東洋哲学特殊問題3　『禮記正義』講読							
担当者名	博士(文学)東大　　伊東　貴之							
東洋哲学コース	２単位	春学期	月曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

昨年度に引き続いて、『禮記正義』を購読する。同書は、申すまでもなく、後漢の鄭玄（127～200）の注、唐の孔穎達（574～648）の疏、また、皇侃の疏や熊安生の所説など、古来の解釈をを綜合・集大成したもので、孔穎達等の奉勅撰になる『五経正義』、更には、『十三経注疏』にも収載されたものである。

本講義では、基本的に演習や講読に近い形式を取りつつ、特に儒教における理想的な先王の政治制度について論じた、王制篇を講読することを通じて、広く古典古代以来の経学や注疏・義疏の学、礼学などに関する知見を涵養することを目的とする。

なお、もし余力があれば、孫希旦『禮記集解』、朱彬『禮記訓纂』、黄以周『禮書通故』、林昌彝『三禮通釋』、郭嵩燾『禮記質疑』など、清朝考証学における成果についても、適宜、参照することも、試みたい。

授業の到達目標

本書を講読することを通じて、広く古典古代以来の経学や注疏・義疏の学、礼学などに関する知見を涵養することを目的とする。

また、講読は、基本的には漢文訓読を通して行い、その技法に習熟することを目指すが、中国語圏からの留学生はもとより、中国留学希望者や中国語既習者に関しては、中国語の音読との併用も歓迎する。

成績評価方法

- **試験**　10%　　漢文の訓読などに関して、簡単な小テストなどを行う可能性がある。
- **レポート**　10%　　講義の内容に関する感想や要望など、簡単なレスポンスペーパーを課す可能性がある。
- **平常点**　80%　　平素の授業への参加や貢献の度合いに加えて、予・復習の状況なども総合的に勘案して、評価を行う。
- **その他**　0%　　特になし。

科 目 名	東洋哲学特殊問題4　『禮記正義』講読							
担当者名	博士(文学)東大　　伊東　貴之							
東洋哲学コース	２単位	秋学期	月曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

昨年度に引き続いて、『禮記正義』を購読する。同書は、申すまでもなく、後漢の鄭玄（127～200）の注、唐の孔穎達（574～648）の疏、また、皇侃の疏や熊安生の所説など、古来の解釈をを綜合・集大成したもので、孔穎達等の奉勅撰になる『五経正義』、更には、『十三経注疏』にも収載されたものである。 本講義では、基本的に演習や講読に近い形式を取りつつ、特に樂記篇などの諸篇を講読することを通じて、広く古典古代以来の経学や注疏・義疏の学、礼学などに関する知見を涵養することを目的とする。因みに、樂記篇は、周知の如く、古代における儒教の音楽観や理想を叙述したのみならず、宋学・朱子学のいわゆる天理・人欲説など、人間の本性や性情に関する議論においても、後世に多大な影響を及ぼした言説を含んでいる。

なお、もし余力があれば、孫希旦『禮記集解』、朱彬『禮記訓纂』、黄以周『禮書通故』、林昌彝『三禮通釋』、郭嵩燾『禮記質疑』など、清朝考証学における成果についても、適宜、参照することも、試みたい。

授業の到達目標

本書を講読することを通じて、広く古典古代以来の経書や注疏・義疏の学、礼学に関する知見を涵養することを目的とする。

また、講読は、基本的には漢文訓読を通して行い、その技法に習熟することを目指すが、中国語圏からの留学生はもとより、中国留学希望者や中国語既習者に関しては、中国語の音読との併用も歓迎する。

成績評価方法

●**試験**　10%　　漢文の訓読などに関して、簡単な小テストなどを行う可能性がある。
●**レポート**　10%　　講義の内容に関する感想や要望など、簡単なレスポンスペーパーを課す可能性がある。
●**平常点**　80%　　平素の授業への参加や貢献の度合いに加えて、予・復習の状況なども総合的に勘案して、評価を行う。
●**その他**　0%　　特になし。

科目名	東洋哲学特殊問題5　国学研究							
担当者名	博士(文学)早大　　土田　健次郎							
東洋哲学コース	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

江戸時代の国学を代表する本居宣長の主著『古事記伝』を講読しながら、宣長の思想を検証していく。
『古事記伝』については種々の議論が行われてきたが、肝心の本文を読み込んでの研究は多いと言えなかった。本講義では精確を宗とした『古事記伝』の講読を行うことで、手垢にまみれた宣長解釈を一新させていく。
なお本講義は、ディプロマポリシーに則り、専門的でありながら総合性も合わせ持つ独創性豊かな研究者の育成を目指し、カリキュラムポリシーに則り、専門知識を体系的に修得し、それを個々の研究実践に結びつける力を養うものである。

授業の到達目標

本居宣長を中心とした江戸国学研究の基礎を培う。
本居宣長の著作読解の基礎を培う。
くずし字の文献に慣れる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　訳読の正確さ、典拠の調査の的確さを見る。また授業での発言や報告などを通して宣長の思想についての把握の深度を見る。
●**その他**　0%　　なし。

科目名	東洋哲学特殊問題6　国学研究							
担当者名	博士(文学)早大　　土田　健次郎							
東洋哲学コース	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

江戸時代の国学を代表する本居宣長の主著『古事記伝』を講読しながら、宣長の思想を検証していく。
『古事記伝』については種々の議論が行われてきたが、肝心の本文を読み込んでの研究は多いと言えなかった。本講義では精確を宗とした『古事記伝』の講読を行うことで、手垢にまみれた宣長解釈を一新させていく。
なお本講義は、ディプロマポリシーに則り、専門的でありながら総合性も合わせ持つ独創性豊かな研究者の育成を目指し、カリキュラムポリシーに則り、専門知識を体系的に修得し、それを個々の研究実践に結びつける力を養うものである。

授業の到達目標

本居宣長を中心とした江戸国学研究の基礎を培う。
本居宣長の著作読解の基礎を培う。
くずし字の文献に慣れる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　訳読の正確さ、典拠の調査の的確さを見る。また授業での発言や報告などを通して宣長の思想についての把握の深度を見る。
●**その他**　0%　　なし。

科目名	東洋哲学研究1　近世内丹法基礎文献研究（張伯端著・翁葆光注・戴起宗疏『悟真篇注疏』を読む）							
担当者名	森　由利亜							
東洋哲学コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

中国近世における道家的修養術の歴史において張伯端『悟真篇』は極めて重要な位置をしめる。しかし、その内容は本文および注のいずれに関しても、正確に理解されているとは言い難いのが現状であろう。ここでは、戴起宗『悟真篇註疏』によりながら、特に翁葆光注と張伯端の本文との主旨の違いに注目しつつ読解を進めてゆく。『悟真篇』という文献をいかに読むかについて模索する授業である。あらかじめ答えがあって与えられるような内容ではないので、自分自身で何かをつかみ取れるようにしなくてはならない。

授業の到達目標

広くは、中国近世の内丹法に通暁し、近世神仙家文献を読む上での基礎力を養うことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　40%　　授業内容に即して課題を設定し、学期末に提出していただきます。
●**平常点**　60%　　発表担当箇所については「本文」「語釈」「訓読」「現代語訳」から構成されるレジュメを提出していただきます。これらの資料準備と発表内容によって評価を加えます。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	東洋哲学研究2　近世内丹法基礎文献研究（張伯端著・翁葆光注・戴起宗疏『悟真篇注疏』を読む）							
担当者名	森　由利亜							
東洋哲学コース	２単位	秋学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

中国近世における道家的修養術の歴史において張伯端『悟真篇』は極めて重要な位置をしめる。しかし、その内容は本文および注のいずれに関しても、正確に理解されているとは言い難いのが現状であろう。ここでは、戴起宗『悟真篇註疏』によりながら、特に翁葆光注と張伯端の本文との主旨の違いに注目しつつ読解を進めてゆく。『悟真篇』という文献をいかに読むかについて模索する授業である。あらかじめ答えがあって与えられるような内容ではないので、自分自身で何かをつかみ取れるようにしなくてはならない。

授業の到達目標

広くは、中国近世の内丹法に通暁し、近世神仙家文献を読む上での基礎力を養うことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　40%　　授業の内容に応じて課題を設定し、学期末に提出していただきます。
●**平常点**　60%　　発表担当箇所については「本文」「語釈」「訓読」「現代語訳」から構成されるレジュメを提出していただきます。これらの資料準備と発表内容によって評価を加えます。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	東洋哲学研究3　「古典中国」の形成と王莽							
担当者名	文学博士（筑波大）　渡邉　義浩							
東洋哲学コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本講義は、「古典中国」の形成過程とそのなかにおける王莽の重要性を講義するものです。博士論文を書いていく参考とするために、研究書をどのように構築していくのかをみせていきたいと思います。

授業の到達目標

漢籍を自由に読みこなしたうえで、そこから論文のテーマを見つけ、博士論文を著す法論を学ぶことを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　0%　　レポートは課しません。
●**平常点**　100%　　積極的に授業に参加することを重視します。
●**その他**　0%　　その他はありません。

科 目 名	東洋哲学研究4　「古典中国」における史学と儒教							
担当者名	文学博士（筑波大）　渡邉　義浩							
東洋哲学コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本講義は、「古典中国」における史学思想の展開を儒教との関わりの中で講義するものである。

授業の到達目標

著書を書いていく手順を示すことにより、博士論文執筆の典範を示す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　0%　　レポートは課しません。
●**平常点**　100%　　積極的に授業に参加することを重視します。
●**その他**　0%　　その他はありません。

科 目 名	東洋哲学研究5　仏教・神道資料の読解研究1							
担当者名	吉原　浩人							
東洋哲学コース	２単位	春学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本年度は、『心性罪福因縁集』のうちいくつかの章段を選び輪読する。本書は、『宗鏡録』『万善同帰集』などの著者として知られる永明延寿（904～975）が撰述したと伝えられる。寛治八年（1094）の永超『東域伝燈目録』に書名が見え、永観『往生拾因』にも引用され、『今昔物語集』の原拠に比定される話を見出すこともできる。本書は、長く中国撰述書として扱われてきたが、本朝において偽撰されたと考えられ、その成立には謎が多い。近年院政期古写本が発見されたことにより、再評価の機運が生まれている。

本研究では、中国北宋時代と日本平安時代後期の、禅思想や本覚思想との関連を踏まえながら、本書をどのように仏教史的・思想史的に位置づけるか考察していきたい。

授業の到達目標

本研究では、漢文で記された日本古代・中世の思想・宗教資料を自由に読み解くことを目標としている。そのため、文章構造の基礎知識、文献探索の方法、註釈作成のための基礎技術を伝授する。また、日本宗教思想史についての知識を深めることができるよう、各自努力してほしい。

成績評価方法

講義での発表成果、授業への参加態度、出席状況を総合的に判断する。

備考・関連URL
漢文訓読に関する基礎知識を持っていない者については、その手ほどきをする。発表の義務を果たすことのできるものは、他専修・他大学・学部学生の受講希望者も歓迎する。

科 目 名	東洋哲学研究6　仏教・神道資料の読解研究2							
担当者名	吉原　浩人							
東洋哲学コース	２単位	秋学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
春学期に続き、『心性罪福因縁集』を輪読する。春学期の「授業概要」を参照されたい。

授業の到達目標
春学期に同じ。

成績評価方法
授業での発表成果、授業への参加態度、出席状況を総合的に判断する。

備考・関連URL
漢文訓読に関する基礎知識を持っていない者については、その手ほどきをする。発表の義務を果たすことのできるものは、他専修・他大学・学部学生の受講希望者も歓迎する。

科 目 名	東洋哲学研究7　天台教学研究							
担当者名	博士(文学)早大　　大久保　良峻							
東洋哲学コース	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
日本仏教の中枢とも言える比叡山の仏教は、中国天台の教学を骨子とする。その天台教学は通例、天台大師智顗の講説に基づく天台三大部に依拠して論じられる。しかし、天台教学はそれだけで理解されるものではなく、他にも多くの文献が伝えられている。中でも『維摩経文疏』は智顗の晩年における思想を知るための最重要書である。本書は鳩摩羅什訳『維摩詰所説経』の経文を解釈したものであるが、同時に天台教学を説示したものと看做しうる。本書、或いはその略抄本である『略疏』には独特の教義も見られ、それらが日本天台に与えた影響も少なからざるものがある。本書から導かれる様々な問題点を探りつつ、講読していくことにしたい。

授業の到達目標
『維摩経文疏』の講読を通じ、天台教学の基礎を習得するとともに、研究方法を学ぶ。中国仏教の漢文に習熟することも目標となる。

成績評価方法
- **試験**　0%　　なし。
- **レポート**　70%　　講義の中で連絡する。
- **平常点**　30%　　参加状況等、全般的に評価する。
- **その他**　0%　　特になし。

科 目 名	東洋哲学研究8　天台教学研究							
担当者名	博士(文学)早大　　大久保　良峻							
東洋哲学コース	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
日本仏教の中枢とも言える比叡山の仏教は、中国天台の教学を骨子とする。その天台教学は通例、天台大師智顗の講説に基づく天台三大部に依拠して論じられる。しかし、天台教学はそれだけで理解されるものではなく、他にも多くの文献が伝えられている。中でも『維摩経文疏』は智顗の晩年における思想を知るための最重要書である。本書は鳩摩羅什訳『維摩詰所説経』の経文を解釈したものであるが、同時に天台教学を説示したものと看做しうる。本書、或いはその略抄本である『略疏』には独特の教義も見られ、それらが日本天台に与えた影響も少なからざるものがある。本書から導かれる様々な問題点を探りつつ、講読していくことにしたい。

授業の到達目標
『維摩経文疏』の講読を通じ、天台教学の基礎を習得するとともに、研究方法を学ぶ。中国仏教の漢文に習熟することも目標となる。

成績評価方法
- **試験**　0%　　なし。
- **レポート**　70%　　講義の中で連絡する。
- **平常点**　30%　　参加状況等、全般的に評価する。
- **その他**　0%　　特になし。

科 目 名	東洋哲学演習1-1　日本浄土教研究1							
担当者名	吉原　浩人							
東洋哲学コース	２単位	春学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
院政期の浄土教は、鎌倉浄土教の前段階として位置づけられることが多い。従来、永観や珍海の浄土教は、源信と法然を繋ぐ架橋的存在と評されてきた。しかし、法然・親鸞などを完成形態とする発達史観では、院政期浄土教の重要な部分が抜け落ちるおそれがある。院政期には、源隆国が編集に関与した『安養集』をはじめ、独自の浄土教研究が発達していた。
そういった問題意識のもと、かつて大学院の演習で、永観の『往生拾因』を輪読したことがある。今年度は、その成果を踏ま

えた上で、さらに深く読みを進め、浄土教の基礎について講義しながら学生とともに註釈を完成させることを目指したい。また、院政期浄土教思想の淵源を探る意味で、典拠となる様々な内外典や思想背景にも充分留意する。
本書を精読することにより、浄土教理・浄土教史について、多くの知識を身につけることができるであろう。

授業の到達目標

文章読解能力・文献探索能力を身につけるには、受講者自らが努力しなければならない。資料検索や辞書の使い方、パソコンによる出典の探し方などについても指導する。四六駢儷文の基本については、「東洋哲学研究5」において行うが、本講義においても初学者に対して適宜手ほどきする。

成績評価方法

演習での発表成果、授業への参加態度、出席状況を総合的に判断する。

備考・関連URL

本演習では、浄土教の初学者にも配慮するので、発表の義務を果たすことのできるものは、他専修・他大学・学部学生の受講希望者も歓迎する。

科目名	東洋哲学演習1-2　日本浄土教研究2							
担当者名	吉原　浩人							
東洋哲学コース	２単位	秋学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

春学期に続き、『往生拾因』の浄土教の特色について講義しつつ、学生と輪読する。春学期の「授業概要」を参照されたい。

授業の到達目標

春学期に同じ。

成績評価方法

演習での発表成果、授業への参加態度、出席状況を総合的に判断する。

備考・関連URL

本演習では、浄土教の初学者にも配慮するので、発表の義務を果たすことのできるものは、他専修・他大学・学部学生の受講希望者も歓迎する。

科目名	東洋哲学演習2-1　『論語集解』を読む（1）							
担当者名	文学博士（筑波大）　渡邉　義浩							
東洋哲学コース	２単位	春学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

曹魏の何晏が著した『論語集解』は、朱熹の『論語集注』と並ぶ代表的な『論語』の注釈です。『論語』は、近年、出土資料も発見されましたが、そうした中でも、何晏の注釈が『論語』解釈の中心であることは、動きません。本演習では、何晏の『論語集解』を精読することにより、魏晋の思想史を追究していきます。

授業の到達目標

何晏の『論語集解』を精読することにより、魏晋玄学を中国の思想史の中に位置づけられることを目標とします。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験はいたしません。
- **レポート**　0%　　提出していただきません。
- **平常点**　100%　　各巻の考察・討論の際、積極的な発言を求めます。
- **その他**　0%　　その他はありません。

備考・関連URL

ありません

科目名	東洋哲学演習2-2　『論語集解』を読む（2）							
担当者名	文学博士（筑波大）　渡邉　義浩							
東洋哲学コース	２単位	秋学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

曹魏の何晏が著した『論語集解』は、朱熹の『論語集注』と並ぶ代表的な『論語』の注釈です。『論語』は、近年、出土資料も発見されましたが、そうした中でも、何晏の注釈が『論語』解釈の中心であることは、動きません。本演習では、何晏の『論語集解』を精読することにより、魏晋の思想史を追究していきます。

授業の到達目標

何晏の『論語集解』を精読することにより、魏晋玄学を中国の思想史の中に位置づけられることを目標とします。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験はいたしません。
- **レポート**　0%　　提出していただきません。
- **平常点**　100%　　各巻の考察・討論の際、積極的な発言を求めます。
- **その他**　0%　　その他はありません。

備考・関連URL

ありません

科 目 名	東洋哲学演習3-1　朱子学研究							
担当者名	博士(文学)早大　　土田　健次郎							
東洋哲学コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

南宋の朱熹（朱子）の思想を取り上げる、朱熹の思想（朱子学）は中国思想史上の高峰であるのみならず、東アジア一帯に大きな影響をあたえ続けた。この朱子学の思想構造を朱熹の書簡の読解を通して解明していく。

今学期は、『朱子文集』巻44を講読する。読解は精確を宗とする。なお3回を目処に受講生の発表と質疑を織り込む予定である。

本演習は、ディプロマポリシーに則り、専門的でありながら総合性も合わせ持つ独創性豊かな研究者の育成を目指す。またカリキュラムポリシーに則り、修士論文をはじめとした論文の執筆や発表を行うための学問的基礎を培う。

授業の到達目標

朱子学を中心とした中国近世思想研究の基礎を培う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　テキスト読解と発表内容
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	東洋哲学演習3-2　朱子学研究							
担当者名	博士(文学)早大　　土田　健次郎							
東洋哲学コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

南宋の朱熹（朱子）の思想を取り上げる、朱熹の思想（朱子学）は中国思想史上の高峰であるのみならず、東アジア一帯に大きな影響をあたえ続けた。この朱子学の思想構造を朱熹の書簡の読解を通して解明していく。

今学期は、『朱子文集』巻45を講読する。読解は精確を宗とする。なお3回を目処に受講生の発表と質疑を織り込む予定である。

本演習は、ディプロマポリシーに則り、専門的でありながら総合性も合わせ持つ独創性豊かな研究者の育成を目指す。またカリキュラムポリシーに則り、修士論文をはじめとした論文の執筆や発表を行うための学問的基礎を培う。

授業の到達目標

朱子学を中心とした中国近世思想研究の基礎を培う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　テキスト読解と発表内容
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	東洋哲学演習4-1　『瑜伽師地論』研究							
担当者名	Ph.D. Yale大　　山部　能宜							
東洋哲学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

昨年度に引き続き、インド瑜伽行派最初期の体系的文献である『瑜伽師地論』「本地分」より「意地」を読む．Lambert Schmithausenの研究に代表される最近の成果を参照しつつ，関連する実践・教理文献との関係や導入期のアーラヤ識説の様態などに着目してテキストを精読したい．写本を確認しつつ、梵蔵漢テキストを比較検討することによって、インド仏教研究のために必要な文献学的手法を修得することを目指したい。

授業の到達目標

初期瑜伽行派の識論を理解するとともに、インド仏教の論書に対する文献学的研究手法を会得する.

成績評価方法

●**試験**　0%　　今回は課さない.
●**レポート**　0%　　今回は課さない.
●**平常点**　100%　　演習に対する積極的な参加によって評価する.
●**その他**　0%　　今回は課さない.

科 目 名	東洋哲学演習4-2　『瑜伽師地論』研究							
担当者名	Ph.D. Yale大　　山部　能宜							
東洋哲学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

春学期に引き続き、インド瑜伽行派最初期の体系的文献である『瑜伽師地論』「本地分」より「意地」を読む．Lambert Schmithausenの研究に代表される最近の成果を参照しつつ，関連する実践・教理文献との関係や導入期のアーラヤ識説の様態などに着目してテキストを精読したい．写本を確認しつつ、梵蔵漢テキストを比較検討することによって、インド仏教研究のために必要な文献学的手法を修得することを目指したい。

授業の到達目標

初期瑜伽行派の識論を理解するとともに、インド仏教の論書に対する文献学的研究手法を会得する.

成績評価方法
●**試験**　0%　　今回は課さない.
●**レポート**　0%　　今回は課さない.
●**平常点**　100%　　演習に対する積極的な参加によって評価する.
●**その他**　0%　　今回は課さない.

科 目 名	東洋哲学演習5-1　日本密教研究							
担当者名	博士(文学)早大　　大久保　良峻							
東洋哲学コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
五大院安然は天台密教（台密）の大成者として知られ、教学を論じた代表的述作のひとつが『菩提心義抄』である。空海以後、日本密教の主流はしばらくの間、台密に移行する。その流れにおいて台東両密の集大成を試みたのが安然であり、空海への批判も見られるが、空海からの影響も大きい。但し、安然が密教を真言宗の語で総括しているとしても、安然によって構築された密教は言うまでもなく台密ならではのものであり、本書では蔵・通・別・円・密という五教判を立てている。そして、その教学が台密の綱格となるのみならず、後の東密の学匠にも様々な影響を与えることになる。日本仏教史上、安然を起点とする、思想の新展開も多い。本書の講読を通じ、安然の教学の特色や意義について考えてみたい。

授業の到達目標
日本密教が台密と東密という二つの大きな立場によって形成されたことは、互いの研鑽による展開と看做しうる。日本密教の基礎を習得しつつ、広い視野から安然の果たした役割を考えられるようにしたい。日本仏教の漢文に習熟することも目標となる。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　講義の中で連絡する。
●**平常点**　30%　　参加状況等、全般的に評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	東洋哲学演習5-2　日本密教研究							
担当者名	博士(文学)早大　　大久保　良峻							
東洋哲学コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
五大院安然は天台密教（台密）の大成者として知られ、教学を論じた代表的述作のひとつが『菩提心義抄』である。空海以後、日本密教の主流はしばらくの間、台密に移行する。その流れにおいて台東両密の集大成を試みたのが安然であり、空海への批判も見られるが、空海からの影響も大きい。但し、安然が密教を真言宗の語で総括しているとしても、安然によって構築された密教は言うまでもなく台密ならではのものであり、本書では蔵・通・別・円・密という五教判を立てている。そして、その教学が台密の綱格となるのみならず、後の東密の学匠にも様々な影響を与えることになる。日本仏教史上、安然を起点とする、思想の新展開も多い。本書の講読を通じ、安然の教学の特色や意義について考えてみたい。

授業の到達目標
日本密教が台密と東密という二つの大きな立場によって形成されたことは、互いの研鑽による展開と看做しうる。日本密教の基礎を習得しつつ、広い視野から安然の果たした役割を考えられるようにしたい。日本仏教の漢文に習熟することも目標となる。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　講義の中で連絡する。
●**平常点**　30%　　参加状況等、全般的に評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	東洋哲学演習6-1　道教基礎文献研究							
担当者名	森　由利亜							
東洋哲学コース	２単位	春学期	木曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要
六朝道教は道教学における基礎的な研究対象であり、研究実績の比較的充実した領域である。しかし、経典研究について言えば、いまだに翻訳も手薄であり、さまざまな面で開拓して行くべき未知の領域が残されている。このような状況を意識しながら、本授業では、道教の基礎的事象について確実な了解を得ることを一つの目的として、六朝道教経典の翻訳研究に取り組む。本年度は、昨年度にひきつづき、いわゆる古霊宝経において元始旧経の筆頭に挙げられる重要経典、『元始五老赤書玉篇真文天書経』を読む。本経を翻訳しその思想内容を吟味することを通じて、道教の思想と信仰についての基本的な事項を理解することができるであろう。

授業の到達目標
『元始五老赤書玉篇真文天書経』の一部について翻訳を行い、道教の思想と信仰について基本的な理解を確立することを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　40%　　授業で課題として浮上した点等をめぐってテーマを定め、学期末にレポートを提出する。
●**平常点**　60%　　平常授業における読解の精度、授業への貢献度を勘案する。
●**その他**　0%　　行わない。

備考・関連ＵＲＬ
なし。

科 目 名	東洋哲学演習6-2　道教基礎文献研究							
担当者名	森　由利亜							
東洋哲学コース	２単位	秋学期	木曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要

六朝道教は道教学における基礎的な研究対象であり、研究実績の比較的充実した領域である。しかし、経典研究について言えば、いまだに翻訳も手薄であり、さまざまな面で開拓して行くべき未知の領域が残されている。このような状況を意識しながら、本授業では、道教の基礎的事象について確実な了解を得ることを一つの目的として、六朝道教経典の翻訳研究に取り組む。本年度は、昨年度にひきつづき、いわゆる古霊宝経において元始旧経の筆頭に挙げられる重要経典、『元始五老赤書玉篇真文天書経』を読む。本経を翻訳しその思想内容を吟味することを通じて、道教の思想と信仰についての基本的な事項を理解することができるであろう。

授業の到達目標

『元始五老赤書玉篇真文天書経』の一部について翻訳を行い、道教の思想と信仰について基本的な理解を確立することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　40%　　授業で課題として浮上した点等をめぐってテーマを定め、学期末にレポートを提出する。
●**平常点**　60%　　平常授業における読解の精度、授業への貢献度を勘案する。
●**その他**　0%　　行わない。

備考・関連ＵＲＬ

なし。

科 目 名	東洋哲学研究指導1-1　M　日本宗教思想史・東アジア文化交流史							
担当者名	吉原　浩人							
東洋哲学コース	—	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士・博士後期課程合同で、各自の研究課題について、研究発表・論文添削等の指導を行う。また、必要に応じて、学生の研究対象となるテキストを輪読し、理解を深める。

授業の到達目標

この授業の目的は、修士論文・博士論文を作成するための実力涵養にあるので、各自の実力と研究の進捗状況に応じた指導を行う。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋哲学研究指導1-2　M　日本宗教思想史・東アジア文化交流史							
担当者名	吉原　浩人							
東洋哲学コース	—	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士・博士後期課程合同で、各自の研究課題について、研究発表・論文添削等の指導を行う。また、必要に応じて、学生の研究対象となるテキストを輪読し、理解を深める。

授業の到達目標

この授業の目的は、修士論文・博士論文を作成するための実力涵養にあるので、各自の実力と研究の進捗状況に応じた指導を行う。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋哲学研究指導2-1　M　中国古代思想史の研究							
担当者名	文学博士（筑波大）　渡邉　義浩							
東洋哲学コース	—	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

先行研究の分析により学界の水準を理解することで、研究発表や作成する論文がそれに到達し、かつ新たな知見を提示しているかどうか、学生が各自でも判断できるようにしたい。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋哲学研究指導2-2　M　中国古代思想史の研究							
担当者名	文学博士(筑波大)　　渡邉　義浩							
東洋哲学コース	—	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

先行研究の分析により学界の水準を理解することで、研究発表や作成する論文がそれに到達し、かつ新たな知見を提示しているかどうか、学生が各自でも判断できるようにしたい。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋哲学研究指導3-1　M　中国近世思想・日本近世思想							
担当者名	博士(文学)早大　　土田　健次郎							
東洋哲学コース	—	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

ディプロマポリシーに則り、専門的でありながら総合性も合わせ持つ独創性豊かな研究を遂行できるように指導を行う。またカリキュラムポリシーに則り、節目節目に受講生に発表と質疑をさせ、それを各自の修士論文の作成に結びつけさせる。

同時に中国・日本の近世思想を研究するうえで必須の朱子学の文献講読もあわせて行うことで、この分野の研究に必要な学力を養う。南宋の朱熹（朱子）の思想である朱子学は中国思想史上の高峰であるのみならず、東アジア一帯に大きな影響をあたえ続けた。この朱子学の思想構造を朱熹の書簡の読解を通して解明していく。今学期は、『朱子文集』巻44を講読する。読解は精確を宗とする。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋哲学研究指導3-2　M　中国近世思想・日本近世思想							
担当者名	博士(文学)早大　　土田　健次郎							
東洋哲学コース	—	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

ディプロマポリシーに則り、専門的でありながら総合性も合わせ持つ独創性豊かな研究を遂行できるように指導を行う。またカリキュラムポリシーに則り、節目節目に受講生に発表と質疑をさせ、それを各自の修士論文の作成に結びつけさせる。

同時に中国・日本の近世思想を研究するうえで必須の朱子学の文献講読もあわせて行うことで、この分野の研究に必要な学力を養う。南宋の朱熹（朱子）の思想である朱子学は中国思想史上の高峰であるのみならず、東アジア一帯に大きな影響をあたえ続けた。この朱子学の思想構造を朱熹の書簡の読解を通して解明していく。今学期は、『朱子文集』巻45を講読する。読解は精確を宗とする。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋哲学研究指導4-1　M　仏教を中心としたインドの思想							
担当者名	Ph.D. Yale大　　山部　能宜							
東洋哲学コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

『瑜伽師地論』を基本テキストとして設定しつつも、各自の関心と研究の進展に応じて、適宜必要な文献を取り上げて検討する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋哲学研究指導4-2　M　仏教を中心としたインドの思想							
担当者名	Ph.D. Yale大　　山部　能宜							
東洋哲学コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

『瑜伽師地論』を基本テキストとして設定しつつも、各自の関心と研究の進展に応じて、適宜必要な文献を取り上げて検討する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋哲学研究指導5-1　M　日本・中国を中心とする仏教思想の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　大久保　良峻							
東洋哲学コース	—	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
先行研究の分析によって学界の水準を理解し、研究発表や作成する論文がそれに到達しているかどうか、学生が各自でも判断できるようにしたい。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋哲学研究指導5-2　M　日本・中国を中心とする仏教思想の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　大久保　良峻							
東洋哲学コース	—	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
先行研究の分析によって学界の水準を理解し、研究発表や作成する論文がそれに到達しているかどうか、学生が各自でも判断できるようにしたい。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋哲学研究指導6-1　M　道教基礎文献研究（修論指導）							
担当者名	森　由利亜							
東洋哲学コース	—	春学期	月曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文準備中の学生の研究報告を行う。また、修士学生と課題文献を選びながら、修論作成に必要な訓練を行いたい。

授業の到達目標
修士論文作成を目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
なし。

科 目 名	東洋哲学研究指導6-2　M　道教基礎文献研究（修論指導）							
担当者名	森　由利亜							
東洋哲学コース	—	秋学期	月曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文準備中の学生の研究報告を行う。また、修士学生と課題文献を選びながら、修論作成に必要な訓練を行いたい。

授業の到達目標
修士論文作成を目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
なし。

科 目 名	東洋哲学研究指導1-1　D　日本宗教思想史・東アジア文化交流史							
担当者名	吉原　浩人							
東洋哲学コース	—	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士・博士後期課程合同で、各自の研究課題について、研究発表・論文添削等の指導を行う。また、必要に応じて、学生の研究対象となるテキストを輪読し、理解を深める。

授業の到達目標
この授業の目的は、修士論文・博士論文を作成するための実力涵養にあるので、各自の実力と研究の進捗状況に応じた指導

を行う。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋哲学研究指導1-2　D　日本宗教思想史・東アジア文化交流史							
担当者名	吉原　浩人							
東洋哲学コース	—	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士・博士後期課程合同で、各自の研究課題について、研究発表・論文添削等の指導を行う。また、必要に応じて、学生の研究対象となるテキストを輪読し、理解を深める。

授業の到達目標

この授業の目的は、修士論文・博士論文を作成するための実力涵養にあるので、各自の実力と研究の進捗状況に応じた指導を行う。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋哲学研究指導2-1　D　中国古代思想史の研究							
担当者名	文学博士（筑波大）　渡邉　義浩							
東洋哲学コース	—	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士課程と合同で、各自の研究課題について、研究発表・論文添削等の指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋哲学研究指導2-2　D　中国古代思想史の研究							
担当者名	文学博士（筑波大）　渡邉　義浩							
東洋哲学コース	—	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士課程と合同で、各自の研究課題について、研究発表・論文添削等の指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋哲学研究指導3-1　D　中国近世思想・日本近世思想							
担当者名	博士（文学）早大　土田　健次郎							
東洋哲学コース	—	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

ディプロマポリシーに則り、専門的でありながら総合性も合わせ持つ独創性豊かな研究者の育成を目指す。またカリキュラムポリシーに則り、より専門性の高い研究が推進できるように指導する。

具体的には、朱熹の語録である『朱子語類』巻76を講読し、基本典籍の読解と資料調査の力を高める。

同時に、受講者が学会発表や論文執筆のための研究発表を行い、その内容について全員で討論して、当人の博士論文執筆につなげる。

授業の到達目標

博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋哲学研究指導3-2　D　中国近世思想・日本近世思想							
担当者名	博士（文学）早大　土田　健次郎							
東洋哲学コース	—	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

ディプロマポリシーに則り、専門的でありながら総合性も合わせ持つ独創性豊かな研究者の育成を目指す。またカリキュラムポリシーに則り、より専門性の高い研究が推進できるように指導する。

具体的には、朱熹の語録である『朱子語類』巻76、78を講読し、基本典籍の読解と資料調査の力を高める。

同時に、受講者が学会発表や論文執筆のための研究発表を行い、その内容について全員で討論して、当人の博士論文執筆につなげる。

授業の到達目標

博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	東洋哲学研究指導4-1　D　仏教を中心としたインドの思想							
担当者名	Ph.D. Yale大　　山部　能宜							
東洋哲学コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

『瑜伽師地論』を基本テキストとして設定しつつも、各自の関心と研究の進展に応じて、適宜必要な文献を取り上げて検討する。

授業の到達目標

博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	東洋哲学研究指導4-2　D　仏教を中心としたインドの思想							
担当者名	Ph.D. Yale大　　山部　能宜							
東洋哲学コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

『瑜伽師地論』を基本テキストとして設定しつつも、各自の関心と研究の進展に応じて、適宜必要な文献を取り上げて検討する。

授業の到達目標

博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	東洋哲学研究指導5-1　D　日本・中国を中心とする仏教思想の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　大久保　良峻							
東洋哲学コース	—	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

先行研究の分析により学界の水準を理解することで、研究発表や作成する論文がそれに到達し、かつ新たな知見を提示しているかどうか、学生が各自でも判断できるようにしたい。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	東洋哲学研究指導5-2　D　日本・中国を中心とする仏教思想の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　大久保　良峻							
東洋哲学コース	—	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

先行研究の分析により学界の水準を理解することで、研究発表や作成する論文がそれに到達し、かつ新たな知見を提示しているかどうか、学生が各自でも判断できるようにしたい。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	東洋哲学研究指導6-1　D　道教基礎文献研究（博論指導）							
担当者名	森　由利亜							
東洋哲学コース	—	春学期	月曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文準備中の学生の研究報告を行う。また、学生と課題文献を選びながら、論文作成に必要な訓練を行いたい。

授業の到達目標

博士論文作成を目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連ＵＲＬ

なし。

科 目 名	東洋哲学研究指導6-2　D　道教基礎文献研究（博論指導）							
担当者名	森　由利亜							
東洋哲学コース	—	秋学期	月曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文準備中の学生の研究報告を行う。また、学生と課題文献を選びながら、論文作成に必要な訓練を行いたい。

授業の到達目標

博士論文作成を目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連ＵＲＬ

なし。

心理学コース

科 目 名	精神病理学1（保健医療分野に関する理論と支援の展開） こころの病気とその治療回復について理解する							
担当者名	博士（医学）慶大　前田　貴記							
心理学コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

精神病理学は、“こころ”および“こころ”の病気を扱うための固有の学である。”こころ”は主観的なものであるため、直接扱うことは難しいが、精神医学の基本である精神病理学について講義し、精神疾患でみられる様々な異常心理現象についての理解を深めていただく。その上で、治療回復論についても考える。

文学・藝能などの藝術も、人間の“こころ”を扱う領野であり、精神病理学と主題や技法が重なるところがある。藝術のもつ治療的意義についても考えてみたい。

なお、本授業は保健医療分野に関わる公認心理士の実践としての授業となるような内容となっている。

授業の到達目標

＊精神医学の基本的な考え方を理解する。
＊主な精神疾患の概要を理解する。
＊異常心理を通じて、正常心理について再発見する。
＊こころを護り回復させていくための治療回復論について考える。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　50%　　学期の最後に、レポートを提出していただきます。
●**平常点**　50%　　出席率で評価します。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連ＵＲＬ

備考：他研究科の学生で受講希望の場合は、担当教員に事前に連絡し受講の可否を確認すること

科 目 名	精神病理学2　こころの病気とその治療回復について理解する（応用編）							
担当者名	博士（医学）慶大　前田　貴記							
心理学コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

精神病理学は、“こころ”および“こころ”の病を扱うための、固有の学である。“こころ”は主観的なものであるため、直接的に扱うことは難しいが、精神病理学について講義し、精神疾患でみられる様々な異常心理現象についての理解を深めていただく。その上で、治療回復論についても考える。

文学・藝能などの藝術も、人間の“こころ”を扱う領野であり、精神病理学と主題や技法が重なるところがある。藝術のもつ治療的意義についても考えてみたい。

本クラスは春学期の精神病理学Ｉをふまえ、特に社会との界面で生じてくる精神医学的問題について深く掘り下げていく内容となるが、本クラスのみ履修する者にも理解しやすいように講義を行います。

授業の到達目標

＊精神病理学を通して、”こころ”についてあらためて考える。
＊社会における精神医学の役割について考える。
＊現代社会における主体性のありようをふまえ、こころをいかに護るかについて考える。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　50%　　学期の最後に、レポートの宿題を出します。
●**平常点**　50%　　出席率で評価します。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	神経生理学研究1							
担当者名	工学博士阪大　伊藤　南							
心理学コース	２単位	春学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

我々が日常的に行う知覚、認知、行動の仕組みを理解するには、人間の行動にあらわれるそれらの性質や機能を明らかにするだけではなく、その背後にある神経メカニズムを理解することが必要である。本講義では、広範囲にわたる神経生理学のテーマの中から、視知覚を中心に我々の神経システムが如何に機能するか、そうしたメカニズムをどのように明らかにしていくのかについて概説する。本講義を通じて、システムとしての神経系の機能や振る舞いを明らかにし、そのメカニズムを明らかにするための「基本的な考え方」を学び、考えることにより、本研究科が掲げる多様な考え方、価値観を修得を目指す。神経生理学入門、視覚中枢の概要について講義したのち、テキストの抄読を分担して行う。担当の学生はテキストの内容を解説し、質疑応答を行う。その後、全員で関連したテーマについて議論する。神経生理学研究2と合わせて受講することが望ましい。神経生理学研究1では主に視覚入力の情報処理のメカニズムに焦点を当てて、テキストを丁寧に読み込む。

授業の到達目標

神経システムの構造、そのメカニズム、その研究方法について、基本的な考え方を修得し、今日の神経生理学研究において何が分かっており、今後何を目指すのかを理解することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　20%　　講義中に取り上げた話題をテーマにしたレポートの提出を求める。講義内容の理解度を評価の対象とす

る。
●**平常点**　80%　　講義への参加状況を重視する。質疑応答などの参加状況と、テキスト抄読における担当範囲の発表を等分に評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	神経生理学研究2							
担当者名	工学博士阪大　　伊藤　南							
心理学コース	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
我々が日常的に行う知覚、認知、行動の背後にある神経メカニズムを理解することを目的とする。前半は引き続きテキストの抄読を行うが、知覚の機能やそうした機能を生み出すメカニズムに着目した内容を取り扱う。後半では視覚を中心とした脳科学関連の新しい原著論文の抄読を通じて、テキストで取り扱った内容を発展させる。課題論文を指定するので、担当の学生はその内容を解説し、質疑応答を行う。その後、全員で関連したテーマについて議論する。必要に応じて講義形式で補う。本講義を通じて、システムとしての神経系の機能や振る舞いを明らかにし、そのメカニズムを明らかにするための「基本的な考え方」を学び、考えることにより、本研究科が掲げる多様な考え方、価値観を修得を目指す。神経生理学研究1と合わせて受講することが望ましい。

授業の到達目標
神経科学関連の論文の読み方を修得し、論文に示された実験的事実を評価し、著者の意図するところを的確に把握できることを目標とする。論文の内容に沿って的確な質問や応答ができるようにすることを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　20%　　講義で取り上げた論分についてレポートの提出を求める。論文内容についての理解度を評価する。
●**平常点**　80%　　講義への参加状況を重視する。質疑応答などの参加状況と担当する課題論文の発表を等分に評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	数理モデル1							
担当者名	博士(文学)早大　　椎名　乾平							
心理学コース	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
The Wave Theory of Difference and Similarity 1992　あるいは　The Cambridge Handbook of Computational Psychology 2008 あるいは　Neuroeconomics: Decision Making and the Brain 2008　あるいは　統計学史・統計理論に関する話題。相当広い範囲の心理学を扱っているので、誰にでも興味を持てる話題があると思われる。受講生からの提案も大歓迎である。簡単な数学の知識（微積分、線形代数、確率論、論理等）が必要になるであろう。

授業の到達目標
心理学の理論的側面の理解を深める

成績評価方法
人によって事前知識や興味が異なるので各人の達成度によって評価される。

科 目 名	数理モデル2							
担当者名	博士(文学)早大　　椎名　乾平							
心理学コース	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
The Wave Theory of Difference and Similarity 1992　あるいは　The Cambridge Handbook of Computational Psychology 2008 あるいは　Neuroeconomics: Decision Making and the Brain 2008　あるいは　統計学史・統計理論に関する話題。
相当広い範囲の心理学を扱っているので、誰にでも興味を持てる話題があると思われる。受講生からの提案も大歓迎である。簡単な数学の知識（微積分、線形代数、確率論、論理等）が必要になるであろう。

授業の到達目標
心理学の理論的側面の理解を深める

成績評価方法
人によって事前知識や興味が異なるので各人の達成度によって評価される。

科 目 名	心理学研究2							
担当者名	Ph.D. ケンブリッジ大　　神前　裕							
心理学コース	2単位	秋学期	木曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
ヒトを含む動物の学習・行動に関する最先端の研究による知見を理解するため、近年発表された論文を精読し、議論を行います。またこれを通じ、研究に対する適切な批判の方法を学ぶとともに、より良い研究計画を立案する能力を身につけます。学期末に、設定したテーマに関して適切な研究計画案を作成します。

授業の到達目標
学習・行動研究における新しい展開を把握する
文献を批判的に読むことを通じ、対象となっている研究トピックの問題点を整理し、新たな研究を立案する能力を身につける

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　まとめた研究計画をもとにして、レポートを作成してもらいます
●**平常点**　50%　　議論への参加、発表の準備等を総合的に評価します
●**その他**　0%

科 目 名	心理学研究5　共分散構造分析［入門編］							
担当者名	教育学博士(東大)　　豊田　秀樹							
心理学コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
データ解析の基礎力を付けることが本教授の目的なので、サブゼミ、相当量の予習・課題・宿題が毎週要求される。

授業の到達目標
ベイズ的アプローチによりデータ分析ができるようになる。

成績評価方法
予習による発表・提出された宿題によって採点する

科 目 名	心理学研究6　ベイズ統計分析（中級）							
担当者名	教育学博士(東大)　　豊田　秀樹							
心理学コース	２単位	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
「心理学研究5」の続きの授業である。

授業の到達目標
各自の研究領域において、ベイズモデルを独力で構成できる技能を身につける。

成績評価方法
●**試験**　0%　　—
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　100%　　—授業内の発表80%　宿題20%
●**その他**　0%　　—

科 目 名	心理学研究9　行動意思決定論1							
担当者名	博士(学術)東工大　　竹村　和久							
心理学コース	２単位	春学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
本講義では、行動意思決定論に関する研究の解説と理論に関する批判的議論、専門論文の輪読によるディスカッション形式での演習を行い、また、調査の実施、実験の実施、実験データの解析なども行う予定である。基本的には、講義のほか、社会問題について議論をして、その問題について、行動意思決定論の観点から分析を行う。その観点から、実際に、調査、実験などを行う。

授業の到達目標
人間の意思決定の経験的記述を行う理論を、効用理論などのような規範的理論と区別して行動意思決定論（behavioral decision theory）と呼んでいる。本講義では、この行動意思決定論に関する研究の解説と理論に関する批判的議論、専門論文が読解でき、研究内容について議論ができるようになることを目標とする。また、実際の研究ができるようにする。

成績評価方法
●**試験**　10%　　授業中に予告なしの試験をして理解の程度を確かめる
●**レポート**　20%　　課題についての到達度を評価する
●**平常点**　70%　　授業中の討論の積極度、研究発表、出席状況、授業態度を評価する
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ
本講義を受ける前提として、線形代数、微積分、集合論、社会心理学、認知心理学、統計的検定、多変量解析、計量心理学についての学部上級生程度の知識を学生に要求しますので、ご注意ください。また、授業時間以外にもグループで集まって本授業での課題をしていただく予定です。講義を受ける前には必ず事前に連絡をして必ず担当教員の許可をとってください。
関連URL: http://www.waseda.jp/sem-takemura/

科 目 名	心理学研究10　行動意思決定論2							
担当者名	博士(学術)東工大　　竹村　和久							
心理学コース	２単位	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
本講義では、行動意思決定論に関する研究の解説と理論に関する批判的議論、専門論文の輪読によるディスカッション形式での演習を行い、また、調査の実施、実験の実施、実験データの解析なども行う予定である。基本的には、講義のほか、社会問題について議論をして、その問題について、行動意思決定論の観点から分析を行う。その観点から、実際に、調査、実験などを行う。

授業の到達目標
人間の意思決定の経験的記述を行う理論を、効用理論などのような規範的理論と区別して行動意思決定論（behavioral decision theory）と呼んでいる。本講義では、この行動意思決定論に関する研究の解説と理論に関する批判的議論、専門論文が読解でき、研究内容について議論ができるようになることを目標とする。また、実際の研究ができるようにする。

成績評価方法
●**試験**　10%　　授業中に予告なしの試験をして理解の程度を確かめる
●**レポート**　20%　　課題についての到達度を評価する
●**平常点**　70%　　授業中の討論の積極度、研究発表、出席状況を評価する
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL
本講義を受ける前提として、線形代数、微積分、集合論、社会心理学、認知心理学、統計的検定、多変量解析、計量心理学についての学部上級生程度の知識を学生に要求しますので、ご注意ください。また、授業時間以外にもグループで集まって本授業での課題をしていただく予定です。講義を受ける前には必ず事前に連絡をして許可をとってください。
関連URL: http://www.waseda.jp/sem-takemura/

科 目 名	心理学研究11							
担当者名	博士(文学)早大　大藪　泰							
心理学コース	2単位	春学期	木曜日	2時限	1年以上	—	—	—

心理学コース

授業概要
子どもの精神発達には3つの方向性がある。モノへ向かうもの、人へ向かうもの、そして意味へ向かうものである。第1のモノへ向かうものは、感覚運動から表象世界への発達のルート、第2の人へ向かうものは、愛着対象の形成から内的対象関係の獲得のルートであり、それぞれに複雑な精神発達の過程をたどる。第3の意味へ向かうものは、人間の精神発達に独自なルートであり、意味体系としての文化の学習へと向かうものである。この研究では、こうした3つの精神発達のルートを統合的にとらえる視点に立って、子どもの精神発達を検討していきたい。

授業の到達目標
子どもの精神発達を検討する視点の多様さとその意味について理解する。

成績評価方法
出席状況、文献の理解、ショートレポートで評価する。

科 目 名	心理学研究12　心理学的個人差について学ぶ							
担当者名	博士(教育心理学)名古屋大　小塩　真司							
心理学コース	2単位	春学期	木曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
この授業では，心理学的個人差全般ついて理解を深める。心理学的構成概念がどのように構成されているのか，構成概念を測定するための心理尺度がどのような信頼性と妥当性の検討プロセスを経て構成されているのか，どのように利用されているのか，概念同士がどのように無視日着いているのかなどについて，テキストを読みながら理解を深める。授業では，毎週1名がテキストの内容を紹介し，受講生全員でその内容を議論する。

授業の到達目標
パーソナリティ心理学や発達心理学の研究パラダイムや研究手法，各種概念を理解する。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　授業への参加の程度、発表内容を総合的に判断する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL
受講を希望する学生は，事前にe-mailで担当教員に連絡してほしい。

科 目 名	心理学研究13　司法領域における動機づけ面接について							
担当者名	藤野　京子							
心理学コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
我が国でも近年、犯罪者に対して、動機づけ面接が用いられるようになってきているが、犯罪者を対象とした動機づけ面接の米国での実際について理解を深める。

授業の到達目標
犯罪者に対する動機づけ面接の実際について理解し、わが国で実践する場合のコツや留意点を学び、自身が動機づけ面接を行えるように訓練する。

成績評価方法
担当章での発表内容及び授業内での積極的な発言等の平常点から評価する。

備考・関連URL
受講者の間で発表担当箇所を決め、その箇所を訳出したうえで、内容についての検討を行う形で授業を進める（担当箇所で重要と思われる参考文献にも目を通すことが望ましい）ので、ある程度の英語力が求められる。

科 目 名	心理学研究14　マインドフルネス認知療法							
担当者名	越川　房子							
心理学コース	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
うつを予防する新しいアプローチとして関心を集めているマインドフルネス認知療法について、その基本理論および関連諸理

論について概説し、この治療体系の妥当性について議論する。また、マインドフルネス認知療法で用いられる諸技法を、実習を通して理解し習得する。

授業の到達目標

Mindfulness-based Cognitive Therapy の理論と諸技法を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　発表（50%）、授業への参加態度（30%）、出席（20%）で評価する
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	心理学研究15　語の意味活性化と読みの処理							
担当者名	Ph.D.（西オンタリオ大）　日野　泰志							
心理学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

今年度のこの授業では、語の意味活性化に関する研究論文を読み進めることにする。さらに、脳波測定の手法に関する文献も読み進め、語の意味処理と事象関連電位の関係について検討したいと考えている。その上で、語の意味活性化の処理に関する行動データと事象関連電位との間にどのような関係が認められるのかについて検討したい。この授業では、脳波測定、反応時間測定に関する研究法に関するスキルの習得を目指すと共に、語の意味活性化のプロセスに関する先行研究に接することで、専門知識の獲得を目指したい。

授業の到達目標

この授業では、言語心理学に関する英語の文献に親しむこと、文献を読み進めて知識を獲得することと共に、研究計画作成、討論を通して論理的・説得的に話す能力を身に付け、さらに、反応時間測定や脳波測定に関するスキルを養成することをねらいとする。

成績評価方法

成績は、期末レポートと出席状況を考慮して評価する。

備考・関連URL

授業で使用する教材は以下のURLからダウンロードすること。
http://www.f.waseda.jp/hino/

科 目 名	心理学研究16　言語心理学研究							
担当者名	Ph.D.（西オンタリオ大）　日野　泰志							
心理学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

この授業では、グループ毎にテーマを決めて言語心理学に関する研究を実施し、論文にまとめることを目標とする。各受講生には研究計画をパワーポイントにまとめて発表してもらう。討論を通して計画の問題点を明らかにするとともに、その対策について考察する。さらに、グループ単位で実験を行い最終的な成果を論文にまとめるとともに、パワーポイントを使って報告してもらう。

授業の到達目標

この授業では、小グループ毎に、実験を行い、そのデータをもとに、成果を論文にまとめてもらう。この作業を通して、実験研究に必要な技能の習得を目指すとともに、成果発表、討論を通して論理的・説得的に話す能力を身に付けることをねらいとする。

成績評価方法

学期末に期末レポートを提出してもらう。成績は、期末レポート、グループ毎の作業、授業への出席状況、討論なども考慮して総合的に評価する。

備考・関連URL

この授業では、春学期の「心理学研究15」で作成した研究計画をもとに、グループ毎に実際の実験研究を遂行してもらう予定である。したがって、受講生は春学期の「心理学研究15」を合わせて受講することが望ましい。また、受講生は、グループ毎の作業に積極的に参加してほしい。

科 目 名	心理学研究17（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）　家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践							
担当者名	博士（文学）早大　福川　康之							
心理学コース	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

副題と関連する国内外の公衆衛生学・疫学の最新論文ないし著書から任意のものを選び，順に概要を報告してもらう．報告ののち，参加者全体で議論を行う．

授業の到達目標

当該領域の最新の研究知見を取得する

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　授業での発表の内容や議論への参加度から判断する
●**その他**　0%

科 目 名	心理学特論1　心理統計モデルを理解する							
担当者名	博士(社会学)関西学院大　　小杉　考司							
心理学コース	２単位	春学期	水曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

この講義では，統計モデルを使ってデータや現象を理解，解釈するために必要な，数理的な基礎について講義します。回帰分析や因子分析など，いくつかの統計モデルは専用ソフトウェアを使えばすぐに答えが出てきますが，実際にどのような数理・原理で推定値が得られているかを考えることでより間違いのない理解をすることができるようになります。

また，わからないことを確率で表現するベイズ統計学の立場から，モデルの自由度は飛躍的に広がっていますが，そこで使われている近似アルゴリズムをしっかりと理解することがより深い理解につながります。

なんとなくわかった気になっている，という状態から一歩前に進むための考え方を身につけていきましょう。

授業の到達目標

1.回帰分析の係数の算出，数理的な特徴を理解する
2.因子分析の基本モデルとそこから得られる第一・第二定理を理解し，心理測定の基本を学ぶ
3.ベイズ統計学の立場からモデルを考えること，推定する方法について理解する

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　授業の内容に関連したレポートの提出を適宜課します。
●**平常点**　30%　　普段の授業への参加度を加点します
●**その他**　0%

科 目 名	心理学特論2　認知神経心理学							
担当者名	緒方　洋輔							
心理学コース	２単位	春学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本講義では、fMRIや脳波計測などの脳機能計測法による神経科学的アプローチを中心に、生理心理学、認知心理学、知覚心理学などの分野に関連する知見について講義を行う。特にブレイン・マシン・インタフェースや脳機能デコーディングなど、工学的手法を用いた、神経科学・心理学・医療工学などの分野横断型アプローチに関してのトピックを取り上げて行く。

授業の到達目標

神経科学・神経心理学分野の論文を読み解くのに必要な、脳機能計測法の原理などの方法論も含めた生理学・解剖学・統計学などの分野に亘る基礎知識を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　教場試験は行わない。
●**レポート**　70%　　全講義終了後に、講義内で挙げられたトピックについて論文をレビューするよう求め、それをまとめたレポートを提出する。
●**平常点**　30%　　講義日ごとに小レポートとして講義内のトピックに関する自分の意見や疑問点を記入し提出する。 毎回の講義後半に提出されたコメントについての議論を行い、議論への参加意欲に応じて評価を行う。
●**その他**　0%　　欠席の際は必ず前日までに担当教員まで連絡すること。 5回以上の欠席を行った場合は単位を認めない。

科 目 名	心理学特論3　臨床神経学の基礎と神経心理学							
担当者名	博士(医学)東大　　永井　知代子							
心理学コース	２単位	秋学期	水曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要

ヒト認知機能の脳内基盤に関する基本的な知見は，脳損傷患者の行動観察，すなわち臨床神経心理学研究から得られてきました．古典的な研究の多くは，脳梗塞などの局所病巣に基づいたものでしたが，近年の検査法の発展に伴い，局所病巣を伴わない疾患に関しても研究が可能になってきています．

本講義は，様々な脳疾患の概略を知り，それぞれの疾患に特有の脳の損傷のされ方と，それに伴う神経心理学的症状（高次脳機能障害とも言います）の特徴を修得することを目的としています．はじめの3回は臨床神経学の総論に当たり，神経系の働きを運動・知覚・高次脳機能の3つの視点から捉える伝統的な方法（神経症候学）について学びます．この中で，頭部MRIなどの画像診断法の基礎についても説明します．続く11回は各論で，様々な疾患ごとに，生じやすい神経心理学的症状を取り上げて説明します．各回とも，実際の症例を取り上げて解説します．第12回では，それまで学んだことを総復習する予定です．

授業の到達目標

各脳疾患の概略を説明でき，研究の対象を適切に選択できることを目標とします．

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　第14回の最後に，課題を提示します．学習した内容を正確に理解し応用する力がついているかどうかを評価します．
●**平常点**　30%　　各回講義において，積極的に発言しているかどうかを評価します．
●**その他**　0%

科 目 名	心理学特論4　人間を対象とした脳神経科学							
担当者名	博士(学術)筑波大　　木田　哲夫							
心理学コース	２単位	夏季集中	無	その他	１年以上	—	—	—

授業概要

ヒトを対象とした神経科学は、機能的磁気共鳴画像法や脳磁図、陽電子放出断層撮像、近赤外分光法、経頭蓋的電気・磁気刺激などの非侵襲的脳機能評価法の進歩によりここ20年間で飛躍的な進歩を遂げた。一方、古くから用いられてきた脳波も計測・信号処理技術の進歩により多くの研究分野で今なお広く利用されており、心理学においても様々な分野で用いられている。本講義ではヒトを対象とした神経科学の中でも非侵襲的脳機能評価法を用いた研究を中心に古典から最新知見まで解説する。特に脳波研究に焦点を当てる。

授業の到達目標

脳波や事象関連電位、その他の非侵襲的脳機能評価法の基礎および効果的な利用法を理解する。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　50%　　レポート課題を講義内容の視点と絡めて考えているかどうかを評価します。
- **平常点**　50%　　授業参加への積極性を評価します。
- **その他**　0%

備考・関連URL

講義予定日・時限：
8月26日（月）3時限～5時限
27日（火）1時限～4時限
28日（水）1時限～4時限
29日（木）1時限～4時限

科 目 名	心理学演習1-2							
担当者名	Ph.D. ケンブリッジ大　　神前　裕							
心理学コース	２単位	秋学期	火曜日	その他	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の研究に関わる文献を読み、内容について議論を行う。

授業の到達目標

批判的かつ詳細に論文を読むことを通じて各自の研究分野について体系的な知識を得るとともに、新たな研究のアイデアを得る。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%
- **その他**　0%

科 目 名	心理学演習2-1							
担当者名	博士(文学)早大　　大藪　泰							
心理学コース	２単位	春学期	木曜日	その他	１年以上	—	—	—

授業概要

乳幼児の社会的認知の発達に関する演習を行う。

授業の到達目標

乳幼児の社会的認知能力に関する基礎知識を獲得し、その研究動向について理解する。

成績評価方法

演習への参加状況を評価する。

科 目 名	心理学演習2-2							
担当者名	博士(文学)早大　　大藪　泰							
心理学コース	２単位	秋学期	木曜日	その他	１年以上	—	—	—

授業概要

乳幼児の社会的認知の発達に関する演習を行う。

授業の到達目標

乳幼児の社会的認知の発達に関する基礎知識を獲得し、その研究動向について理解する。

成績評価方法

演習への参加状況を評価する。

科 目 名	心理学演習3-1							
担当者名	博士(教育心理学)名古屋大　　小塩　真司							
心理学コース	２単位	春学期	木曜日	その他	１年以上	—	—	—

授業概要

パーソナリティ心理学および発達心理学，教育心理学にかかわる各自の研究テーマにそって，研究を遂行する。

授業の到達目標
問題意識に沿った各自の研究を展開し，まとめること。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　毎回の参加の様子を総合的に評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL
小塩研究室：http://www.f.waseda.jp/oshio.at/index.html

科 目 名	心理学演習3-2							
担当者名	博士(教育心理学)名古屋大　　小塩　真司							
心理学コース	２単位	秋学期	木曜日	その他	１年以上	—	—	—

心理学コース

授業概要
パーソナリティ心理学および発達心理学，教育心理学にかかわる各自の研究テーマにそって，研究を遂行する。

授業の到達目標
問題意識に沿った研究を展開し，まとめること。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　毎回の参加の様子を総合的に評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL
小塩研究室：http://www.f.waseda.jp/oshio.at/index.html

科 目 名	心理学演習4-1　身体心理学、認知心理学、心身論							
担当者名	博士(文学)京大　　宮田　裕光							
心理学コース	２単位	春学期	火曜日	その他	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文のテーマに関連する学術雑誌論文の講読、英文誌を含む学術雑誌論文の執筆、国内外の学会・シンポジウム等における研究発表の指導を行う。

授業の到達目標
当該分野における最新の研究成果に関する知見を習得するとともに、学術上の発表、討論、および論文執筆ができるようになる。

成績評価方法
講読、執筆、発表、討論を含む授業への参加状況を平常点により評価する（100%）。

備考・関連URL
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

科 目 名	心理学演習4-2　身体心理学、認知心理学、心身論							
担当者名	博士(文学)京大　　宮田　裕光							
心理学コース	２単位	秋学期	火曜日	その他	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文のテーマに関連する学術雑誌論文の講読、英文誌を含む学術雑誌論文の執筆、国内外の学会・シンポジウム等における研究発表の指導を行う。

授業の到達目標
当該分野における最新の研究成果に関する知見を習得するとともに、学術上の発表、討論、および論文執筆ができるようになる。

成績評価方法
講読、執筆、発表、討論を含む授業への参加状況を平常点により評価する（100%）。

備考・関連URL
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

科 目 名	心理学演習5-1							
担当者名	博士(文学)早大　　福川　康之							
心理学コース	２単位	春学期	金曜日	その他	１年以上	—	—	—

授業概要
健康や加齢をテーマにした研究計画の立案，実行，データ解析，結果の考察の作法を指導する．受講生は，各自の研究テーマに沿った文献の読み込みと批評作業を通じて自らの研究計画を洗練し，進捗状況を報告する．また，教員や他の受講生との議論を通じてアイディアをさらに発展させる．

授業の到達目標
最新の研究成果に基づいた研究計画をたてられるようになる

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　授業での発表の内容や議論への参加度から判断する
●**その他**　0%

備考・関連URL
原則として福川の担当指導学生のみを対象とする.

科 目 名	心理学演習5-2　健康心理学，進化心理学，老年心理学							
担当者名	博士(文学)早大　　福川　康之							
心理学コース	2単位	秋学期	金曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
健康，加齢，進化をテーマにした研究計画の立案，実行，データ解析，結果の考察の作法を指導する．受講生は，各自の研究テーマに沿った文献の読み込みと批評作業を通じて自らの研究計画を洗練し，進捗状況を報告する．また，教員や他の受講生との議論を通じてアイディアをさらに発展させる.

授業の到達目標
最新の研究成果に基づいた研究計画をたてられるようになる

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　授業での発表の内容や議論への参加度から判断する
●**その他**　0%

備考・関連URL
原則として福川の担当指導学生のみを対象とする.

科 目 名	心理学演習6-1（心理支援に関する理論と実践）　マインドフルネス諸技法の効果							
担当者名	越川　房子							
心理学コース	2単位	春学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
うつの予防および不安や衝動性をはじめとする感情調整のための新しいアプローチとして関心を集めているマインドフルネス諸技法について、その効果機序を中心に概説し、この治療体系の効果と妥当性について議論する。また、マインドフルネス諸技法を、実習をとおして理解し習得する。

授業の到達目標
マインドフルネス諸技法の効果機序を理解し、実際に習得する。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　発表（50%）、授業への参加態度（30%）、出席（20%）で評価する
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL
備考：他研究科の学生で受講希望の場合は、担当教員に事前に連絡し受講の可否を確認すること

科 目 名	心理学演習6-2　認知行動療法、マインドフルネス認知療法、自己・自我論							
担当者名	越川　房子							
心理学コース	2単位	秋学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文、学会発表等に関する研究計画立案、実施、分析、考察、論文執筆の指導

授業の到達目標
学会発表（含国際会議）および論文投稿。修士論文の執筆と提出。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　出席（50%）、課題への取り組み（25%）、発表内容（25%）を基に評価する。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	心理学演習7-1　社会的判断と意思決定の数理・計量分析1							
担当者名	博士(学術)東工大　　竹村　和久							
心理学コース	2単位	春学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
本演習では、人間の社会的判断や意思決定の現象についての社会心理学的なアプローチの研究とその数理・計量分析を行うプロジェクト研究を、グループ単位で行う。また、これらの調査、実験データの解析を通じて、判断と意思決定の定性的理論や数理モデルの検討や、社会政策を考えるうでの処方的アプローチについてのディスカッションを行う。基本的には学生が、研究発表を行い、それについて議論していくという形式をとる。

授業の到達目標

本演習では、人間の社会的判断や意思決定の現象についての社会心理学的なアプローチの研究とその数理・計量分析を行うプロジェクト研究を、グループ単位で行い、各自が、判断と意思決定の定性的理論や数理モデルの検討や、社会政策を考えるうでの処方的アプローチについて深く理解できることを目標にする。

成績評価方法

●**試験**　20%　　授業中に行う意思決定論や数理解析についての予告なし試験の結果を評価します。
●**レポート**　20%　　授業中に行う意思決定論や数理解析についての何回かのレポートの結果を評価します。
●**平常点**　60%　　授業への出席、研究発表の内容、討論への積極的な参加、授業への態度、実験課題やグループ課題への参加の程度を評価します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

原則として、竹村の担当指導学生のみを対象とする。上記時間以外にも課題をするためにグループで集まってもらいます。上記の対象者以外で、どうしても受講したい場合は、事前に竹村に連絡して、許可を受けてください。本講義を受ける前提として、線形代数、微積分、集合論、統計的検定、多変量解析に関する知識、社会心理学、認知心理学、計量心理学についての知識を学生に要求しています。

関連URL:　http://www.waseda.jp/sem-takemura/

科目名	心理学演習7-2　社会的判断と意思決定の数理・計量分析2							
担当者名	博士(学術)東工大　　竹村　和久							
心理学コース	2単位	秋学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、人間の社会的判断や意思決定の現象についての社会心理学的なアプローチの研究とその数理・計量分析を行うプロジェクト研究を、グループ単位で行う。また、これらの調査、実験データの解析を通じて、判断と意思決定の定性的理論や数理モデルの検討や、社会政策を考えるうでの処方的アプローチについてのディスカッションを行う。基本的には学生が、研究発表を行い、それについて議論していくという形式をとる。

授業の到達目標

本演習では、人間の社会的判断や意思決定の現象についての社会心理学的なアプローチの研究とその数理・計量分析を行うプロジェクト研究を、グループ単位で行い、各自が、判断と意思決定の定性的理論や数理モデルの検討や、社会政策を考えるうでの処方的アプローチについて深く理解できることを目標にする。

成績評価方法

●**試験**　20%　　授業中に行う意思決定論や数理解析についての予告なし試験の結果を評価します。
●**レポート**　20%　　授業中に行う意思決定論や数理解析についての何回かのレポートの結果を評価します。
●**平常点**　60%　　授業への出席、研究発表の内容、討論への積極的な参加、実験課題やグループ課題への参加の程度を評価します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

原則として、竹村の担当指導学生のみを対象とする。上記時間以外にも課題をするためにグループで集まってもらいます。上記の対象者以外で、どうしても受講したい場合は、事前に竹村に連絡して、許可を受けてください。本講義を受ける前提として、線形代数、微積分、集合論、統計的検定、多変量解析に関する知識、社会心理学、認知心理学、計量心理学についての知識を学生に要求しています。

関連URL:　http://www.waseda.jp/sem-takemura/

科目名	心理学演習8-1　心理統計学・教育測定学・マーケティングサイエンス							
担当者名	教育学博士(東大)　　豊田　秀樹							
心理学コース	2単位	春学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

心理統計学に必要な基礎の理論を学ぶ

授業の到達目標

心理統計学をメジャーとする院生に対して専門的演習を行い、研究能力を育成する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　100%　　—　出席状況・授業中の発表および宿題などの平常点
●**その他**　0%　　—

科目名	心理学演習8-2　心理統計学・教育測定学・マーケティングサイエンス							
担当者名	教育学博士(東大)　　豊田　秀樹							
心理学コース	2単位	秋学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

心理統計学に必要な基礎の理論を学ぶ

授業の到達目標

心理統計学をメジャーとする院生に対して専門的演習を行い、研究能力を育成する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—

●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　100%　　出席状況・授業中の発表および宿題などの平常点
●**その他**　0%　　—

科 目 名	心理学演習10-1　視覚的単語認知研究の基礎							
担当者名	Ph.D.（西オンタリオ大）　日野　泰志							
心理学コース	２単位	春学期	火曜日	その他	１年以上	—	—	—

授業概要
まず、視覚的単語認知研究に必要な基礎的な技能の習得を目的として、反応時間測定のためのソフトウェアの使用方法、電子辞書を利用した語彙データ分析のために必要なプログラミング、データ分析の手法等についての簡単な実習を行う。その後、受講生自身が選択した文献を読み、その理論や研究法に関して討論する。受講生には、この講義中に扱った文献をもとに研究計画書を作成してもらう。この演習では修士論文作成に必要な専門知識を習得するとともに、基礎的研究法の習得を目指す。

授業の到達目標
この演習では、視覚的・聴覚的単語認知研究に関する基礎的な知識と研究手法の習得を目指す。

成績評価方法
出席、実習、研究計画発表などから総合的に評価する。

科 目 名	心理学演習10-2　視覚的単語認知研究							
担当者名	Ph.D.（西オンタリオ大）　日野　泰志							
心理学コース	２単位	秋学期	火曜日	その他	１年以上	—	—	—

授業概要
受講生は自分の研究に関連のあるテーマに関する文献リストを作成し、その文献の内容をパワーポイントを使って紹介してもらう。また、紹介された研究の理論や研究法についての討論を通して問題点を明らかにしていくとともに、自分自身の研究計画を充実したものにする。同時に、研究計画に基づいた研究を実施し、収集したデータをパワーポイントを使って報告してもらう。この演習では修士論文作成に必要な専門知識と研究法の習得を目指す。

授業の到達目標
この演習では視覚的単語認知研究に関する問題について、専門書・学術論文を評論し、その問題点を明らかにするとともに、その問題解明のための具体的な研究を立案・実施するという作業を通して、研究に必要な知識と研究手法を身につけることをねらいとする。

成績評価方法
出席、文献紹介、研究経過報告、研究成果報告などを総合して評価する。

科 目 名	心理学演習11-1　科学的説明における理論の役目							
担当者名	言語病理学博士（ノースウェスタン大）　福澤　一吉							
心理学コース	２単位	春学期	火曜日	その他	１年以上	—	—	—

授業概要
科学とは①事象の、②論理的、③実証的、④説明であると要約可能である。この①から④までを丁寧に解説する。さらに、受講生が論文であつかう具体的トピックに①から④までの対応させることで、説明とは何かについの理解を深める。

授業の到達目標
科学的説明とは何かについて理解を深める。

成績評価方法
平常点評価100%を使用する。

備考・関連URL
公開区分　学生　Waseda-netポータルにログインした学生を対象とします。

科 目 名	心理学演習11-2　科学的説明における理論の役目							
担当者名	言語病理学博士（ノースウェスタン大）　福澤　一吉							
心理学コース	２単位	秋学期	火曜日	その他	１年以上	—	—	—

授業概要
科学とは①事象の、②論理的、③実証的、④説明であると要約可能である。この①から④までを丁寧に解説する。さらに、受講生が論文であつかう具体的トピックに①から④までの対応させることで、説明とは何かについの理解を深める。

授業の到達目標
科学的説明とは何かについて理解を深める。

成績評価方法
平常点評価100%を使用する。

備考・関連URL
公開区分　学生　Waseda-netポータルにログインした学生を対象とします。

科 目 名	心理学演習12-1（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開） 犯罪者処遇を考える							
担当者名	藤野　京子							
心理学コース	２単位	春学期	火曜日	その他	１年以上	―	―	―

授業概要

メンタルヘルスの問題を抱えて犯罪をした者に対する適当な処遇について、カウンセラーやセラピストの見解と司法心理学者の見解を比較検討し、あるべき処遇についての考察を深める。

授業の到達目標

メンタルヘルスの問題を抱えて犯罪をした者に対して、患者として扱うのが適当か、あるいは犯罪者として扱うのが適当かについて、これまでどのような議論がなされてきたかを理解し、犯罪者へのかかわり方のサイコロジストとしての自身のスタンスを明確化する。

成績評価方法

担当箇所の発表内容及び他の学生の発表箇所に対する質問や意見など積極的な授業への参加の度合いから評価する。

備考・関連ＵＲＬ

備考：他研究科の学生で受講希望の場合は、担当教員に事前に連絡し受講の可否を確認すること

受講者の間で発表担当箇所を決め、その箇所を訳出したうえで、内容についての検討を行う形で授業を進める（担当箇所で重要と思われる参考文献にも目を通すことが望ましい）ので、ある程度の英語力が求められる。

科 目 名	心理学演習12-2							
担当者名	藤野　京子							
心理学コース	２単位	秋学期	火曜日	その他	１年以上	―	―	―

授業概要

犯罪をはじめとして、他者を攻撃するなどの社会的に容認されない行為を人が行うのはなぜか。個々人の病理以外でどれほど説明できるかについて多角的に検討を行う。

授業の到達目標

犯罪に限定せず、他者を攻撃するなどの非人道的な行為を、人はなぜ行うのかについて、個人の病理以外の要因についての理解を深め、それらの行為を抑止する方策を検討する。

成績評価方法

担当箇所の発表内容及び他の学生の発表箇所に対する質問や意見など積極的な授業への参加の度合いから評価する。

備考・関連ＵＲＬ

受講者の間で発表担当箇所を決め、その箇所を訳出したうえで、内容についての検討を行う形で授業を進める（担当箇所で重要と思われる参考文献にも目を通すことが望ましい）ので、ある程度の英語力が求められる。

科 目 名	心理学演習13-1							
担当者名	博士（文学）早大　　松本　芳之							
心理学コース	２単位	春学期	木曜日	その他	１年以上	―	―	―

授業概要

この演習の目的は、各自の研究テーマを進展させていくことにあります。したがって、受講生が現在行っている研究について個人発表を行うことを中心に進めていきます。具体的には、各回の担当者を決め、それぞれの進捗状況に即して、研究計画の作成、関連する論文のレビュー報告、経過の報告、成果を公表するための検討作業などを行っていきます。また、必要な場合には、文献や書籍を読み進めていきます。

授業の到達目標

発表と討議を通して、知見を高め現象のより深い理解を目指す。

成績評価方法

出席、発表を総合的に判断する。

科 目 名	心理学演習13-2							
担当者名	博士（文学）早大　　松本　芳之							
心理学コース	２単位	秋学期	木曜日	その他	１年以上	―	―	―

授業概要

この演習の目的は、各自の研究テーマを進展させていくことにあります。したがって、受講生が現在行っている研究について個人発表を行うことを中心に進めていきます。具体的には、各回の担当者を決め、それぞれの進捗状況に即して、研究計画の作成、関連する論文のレビュー報告、経過の報告、成果を公表するための検討作業などを行っていきます。また、必要な場合には、文献や書籍を読み進めていきます。

授業の到達目標

発表と討議を通して、知見を高め現象のより深い理解を目指す。

成績評価方法

出席、発表を総合的に判断する。

科 目 名	心理学研究指導1-2　M　行動神経科学、学習理論							
担当者名	Ph.D. ケンブリッジ大　　神前　裕							
心理学コース	—	秋学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

本研究指導では、ヒトを含む動物の認知・行動を形成・変容させる過程についての行動科学的研究および神経科学的研究を行う。具体的な内容は、研究計画の立案、実験室における日常的な研究遂行、得られたデータの分析、論文執筆などであり、それぞれについての議論・指導の一部を本研究指導の時間に行う。

授業の到達目標

ヒトを含む動物の認知・行動を形成する過程についての行動科学的研究及び神経科学的研究をある程度独立して遂行することが可能になる。その内容をもとに修士論文を完成させる。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導2-1　M　発達心理学、乳幼児の社会的認知							
担当者名	博士(文学)早大　　大藪　泰							
心理学コース	—	春学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の指導を行う。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導2-2　M　発達心理学、乳幼児の社会的認知							
担当者名	博士(文学)早大　　大藪　泰							
心理学コース	—	秋学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の指導を行う。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導3-1　M　パーソナリティと個人差、発達心理学							
担当者名	博士(教育心理学)名古屋大　　小塩　真司							
心理学コース	—	春学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

大学院生が各自で取り組む研究の進捗状況を把握し，ディスカッション，助言を行う。
国内外の学会における発表，国内外の査読誌への投稿を目指す。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL

小塩研究室：http://www.f.waseda.jp/oshio.at/index.html

科 目 名	心理学研究指導3-2　M　パーソナリティと個人差、発達心理学							
担当者名	博士(教育心理学)名古屋大　　小塩　真司							
心理学コース	—	秋学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の完成に向けて各自の研究を報告し，ディスカッションを行う。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導4-1　M　身体心理学、認知心理学、心身論							
担当者名	博士(文学)京大　　宮田　裕光							
心理学コース	—	春学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の完成に向けて、研究の立案、実施、データ解析、考察、および論文執筆に関する指導を行う。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

科 目 名	心理学研究指導4-2　M　身体心理学、認知心理学、心身論							
担当者名	博士(文学)京大　　宮田　裕光							
心理学コース	—	秋学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の完成に向けて、研究の立案、実施、データ解析、考察、および論文執筆に関する指導を行う。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

科 目 名	心理学研究指導5-1　M　健康心理学，進化心理学，老年心理学							
担当者名	博士(文学)早大　　福川　康之							
心理学コース	—	春学期	金曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文作成に向けた，関連文献の収集と講読およびテーマの決定に関して指導する．受講生は，毎回研究の進捗状況を報告し，教員や他の受講生との議論を通じてアイディアを発展・洗練させる．

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導5-2　M　健康心理学，進化心理学，老年心理学							
担当者名	博士(文学)早大　　福川　康之							
心理学コース	—	秋学期	金曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文作成に向けた，研究計画の立案と実行および研究結果の分析と考察の作法を指導する．受講生は，毎回研究の進捗状況を報告し，教員や他の受講生との議論を通じてアイディアを発展・洗練させる．

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導6-1　M　認知行動療法、マインドフルネス認知療法、自己・自我論							
担当者名	越川　房子							
心理学コース	—	春学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の研究計画立案、実施、分析、考察、論文執筆に関する指導

授業の到達目標
学会発表（含国際会議）および論文投稿を行う。修士論文の執筆と提出。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導6-2　M　認知行動療法、マインドフルネス認知療法、自己・自我論							
担当者名	越川　房子							
心理学コース	—	秋学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文に関する研究計画立案、実施、分析、考察、論文執筆の指導

授業の到達目標

学会発表（含国際会議）および論文投稿。修士論文の執筆と提出。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　0%　　平常点を基に、下記の「その他」にあるように評価する
●**その他**　100%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導7-1　M　行動意思決定論、消費者行動論、行動計量学、社会心理学							
担当者名	博士（学術）東工大　　竹村　和久							
心理学コース	—	春学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

本研究指導では、人間の社会的判断や意思決定の現象についての社会心理学的なアプローチの研究とその数理・計量分析を行うプロジェクト研究を、グループ単位で行う。また、これらの調査、実験データの解析を通じて、判断と意思決定の定性的理論や数理モデルの検討や、社会政策を考えるうでの処方的アプローチについてのディスカッションを行う。基本的には学生が、研究発表を行い、それについて議論していくという形式をとる。修士論文に向けた指導を行う。

授業の到達目標

本研究指導では、修士論文に向けて、人間の社会的判断や意思決定の現象についての社会心理学的なアプローチの研究とその数理・計量分析を行うプロジェクト研究を行うことを指導する。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL

原則として、竹村の研究担当指導学生のみを対象とする。また、研究指導の関連で、グループで授業時間外にも集まって課題をしてもらう予定です。受講をどうしてもしたい学生は、担当教員に必ず事前に許可を得てください。
関連URL: http://www.waseda.jp/sem-takemura/

科 目 名	心理学研究指導7-2　M　行動意思決定論、消費者行動論、行動計量学、社会心理学							
担当者名	博士（学術）東工大　　竹村　和久							
心理学コース	—	秋学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

本研究指導では、人間の社会的判断や意思決定の現象についての社会心理学的なアプローチの研究とその数理・計量分析を行うプロジェクト研究を、グループ単位で行う。また、これらの調査、実験データの解析を通じて、判断と意思決定の定性的理論や数理モデルの検討や、社会政策を考えるうでの処方的アプローチについてのディスカッションを行う。基本的には学生が、研究発表を行い、それについて議論していくという形式をとる。修士論文に向けた指導を行う。

授業の到達目標

本研究指導では、修士論文に向けて、人間の社会的判断や意思決定の現象についての社会心理学的なアプローチの研究とその数理・計量分析を行うプロジェクト研究を行うことを指導する。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL

原則として、竹村の担当指導学生のみを対象とする。また、研究指導の関連で、グループで授業時間外にも集まって課題をしてもらう予定です。受講をどうしてもしたい学生はその点も考慮してください。また、教員に必ず事前に許可を得てください。
関連URL: http://www.waseda.jp/sem-takemura/

科 目 名	心理学研究指導8-1　M　心理統計学・教育測定学・マーケティングサイエンス							
担当者名	教育学博士（東大）　　豊田　秀樹							
心理学コース	—	春学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

心理統計学・教育測定学・マーケティングサイエンスに関する指導を行う。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導8-2　M　心理統計学・教育測定学・マーケティングサイエンス							
担当者名	教育学博士（東大）　豊田　秀樹							
心理学コース	—	秋学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

心理統計学・教育測定学・マーケティングサイエンスに関する指導を行う。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導10-1　M　視覚的語認知・言語心理学・認知心理学							
担当者名	Ph.D.（西オンタリオ大）　日野　泰志							
心理学コース	—	春学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

受講生は自分の研究に関連のあるテーマに関する文献リストを作成し、その文献の内容をパワーポイントを使って紹介してもらう。また、紹介された研究の理論や研究法についての討論を通して問題点を明らかにしていくとともに、自分自身の研究計画を充実したものにする。同時に、研究計画に基づいた研究を実施し、収集したデータをパワーポイントを使って報告してもらう。この科目では、修士論文の完成に向けて、研究に必要な知識を蓄え、研究スキルを養成する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

視覚的語認知研究に関する問題について、専門書・学術論文を評論し、その問題点を明らかにするとともに、その問題解明のための具体的な研究を立案・実施するという作業を通して、研究に必要な知識と研究手法を身につけることをねらいとする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導10-2　M　視覚的語認知・言語心理学・認知心理学							
担当者名	Ph.D.（西オンタリオ大）　日野　泰志							
心理学コース	—	秋学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

受講生は自分の研究に関連のあるテーマに関する文献リストを作成し、その文献の内容をパワーポイントを使って紹介してもらう。また、紹介された研究の理論や研究法についての討論を通して問題点を明らかにしていくとともに、自分自身の研究計画を充実したものにする。同時に、研究計画に基づいた研究を実施し、収集したデータをパワーポイントを使って報告してもらう。この科目では、修士論文の完成に向けて、研究に必要な知識を蓄え、研究スキルを養成する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

視覚的語認知研究に関する問題について、専門書・学術論文を評論し、その問題点を明らかにするとともに、その問題解明のための具体的な研究を立案・実施するという作業を通して、研究に必要な知識と研究手法を身につけることをねらいとする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導11-1　M　認知神経心理学・計算論的神経科学・説明理論モデル構築							
担当者名	言語病理学博士（ノースウェスタン大）　福澤　一吉							
心理学コース	—	春学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文のテーマに即した先行研究の分析的、批判的読解をし、それをクラスで発表し、議論をする。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導11-2　M　認知神経心理学・計算論的神経科学・説明理論モデル構築							
担当者名	言語病理学博士（ノースウェスタン大）　福澤　一吉							
心理学コース	—	秋学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文のテーマに即した先行研究の分析的、批判的読解をし、それをクラスで発表し、議論をする。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導12-1　M　非行・犯罪に対する心理学からのアプローチ							
担当者名	藤野　京子							
心理学コース	—	春学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
非行臨床・犯罪心理学及びそれと関連したテーマの研究を扱う。
まずは、テーマの取り上げ方について検討する。また、先行研究を精査の上、取り組む課題の意義について検討する。その上で、調査等を実施することになるが、実施可能性も考慮した上で、調査内容については、十分に討議する。さらに、結果の分析・解釈の仕方についても議論を重ねていく。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とし、その準備段階として、学会での口頭発表を複数回実施することを目指す。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　100%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
自身の研究フィールドについては、その研究が実施可能なように自身で獲得しておくことが望ましい。

科 目 名	心理学研究指導12-2　M　非行・犯罪に対する心理学からのアプローチ							
担当者名	藤野　京子							
心理学コース	—	秋学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
非行臨床・犯罪心理学及びそれと関連したテーマの研究を扱う。
まずは、テーマの取り上げ方について検討する。また、先行研究を精査の上、取り組む課題の意義について検討する。その上で、調査等を実施することになるが、実施可能性も考慮した上で、調査内容については、十分に討議する。さらに、結果の分析・解釈の仕方についても議論を重ねていく。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とし、その準備段階として、学会での口頭発表を複数回実施することを目指す。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
自身の研究フィールドについては、その研究が実施可能なように自身で獲得しておくことが望ましい。

科 目 名	心理学研究指導13-1　M　社会心理学							
担当者名	博士(文学)早大　　松本　芳之							
心理学コース	—	春学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の進捗状況および内容を確認するとともに、検討と修正を行う。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。試験、レポートは実施しない。

科 目 名	心理学研究指導13-2　M　社会心理学							
担当者名	博士(文学)早大　　松本　芳之							
心理学コース	—	秋学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の進捗状況および内容を確認するとともに、検討と修正を行う。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。試験、レポートは実施しない。

科 目 名	心理学研究指導1-1　D　行動神経科学、学習理論							
担当者名	Ph.D. ケンブリッジ大　　神前　裕							
心理学コース	—	春学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

本研究指導では、ヒトを含む動物の認知・行動を形成・変容させる過程についての行動科学的研究および神経科学的研究を行う。具体的な内容は、研究計画の立案、実験室における日常的な研究遂行、得られたデータの分析、論文執筆などであり、それぞれについての議論・指導の一部を本研究指導の時間に行う。

授業の到達目標

ヒトを含む動物の認知・行動を形成する過程についての行動科学的研究及び神経科学的研究を独立して遂行することが可能になる。分野にとって重要な理論的貢献を果たす新たな実験結果をもとに、博士論文を完成させる。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導1-2　D　行動神経科学、学習理論							
担当者名	Ph.D. ケンブリッジ大　　神前　裕							
心理学コース	—	秋学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

本研究指導では、ヒトを含む動物の認知・行動を形成・変容させる過程についての行動科学的研究および神経科学的研究を行う。具体的な内容は、研究計画の立案、実験室における日常的な研究遂行、得られたデータの分析、論文執筆などであり、それぞれについての議論・指導の一部を本研究指導の時間に行う。

授業の到達目標

ヒトを含む動物の認知・行動を形成する過程についての行動科学的研究及び神経科学的研究を独立して遂行することが可能になる。分野にとって重要な理論的貢献を果たす新たな実験結果をもとに、博士論文を完成させる。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導2-1　D　発達心理学、乳幼児の社会的認知							
担当者名	博士（文学）早大　　大藪　泰							
心理学コース	—	春学期	金曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文の指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導2-2　D　発達心理学、乳幼児の社会的認知							
担当者名	博士（文学）早大　　大藪　泰							
心理学コース	—	秋学期	金曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文の指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導3-1　D　パーソナリティと個人差、発達心理学							
担当者名	博士（教育心理学）名古屋大　　小塩　真司							
心理学コース	—	春学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文の完成に向け,各自の研究テーマにそって研究計画を立案し,研究の遂行,データ収集と分析を行い,報告をまとめる。
博士論文提出の要件を満たすため，国内外の査読誌への投稿に向けた指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
小塩研究室：http://www.f.waseda.jp/oshio.at/index.html

科 目 名	心理学研究指導3-2　D　パーソナリティと個人差、発達心理学							
担当者名	博士(教育心理学)名古屋大　　小塩　真司							
心理学コース	—	秋学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の完成に向け,各自の研究テーマにそって研究計画を立案し,研究の遂行,データ収集と分析を行い,報告をまとめる。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
小塩研究室：http://www.f.waseda.jp/oshio.at/index.html

科 目 名	心理学研究指導4-1　D　身体心理学、認知心理学、心身論							
担当者名	博士(文学)京大　　宮田　裕光							
心理学コース	—	春学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の完成に向けて、研究の立案、実施、データ解析、考察、および論文執筆に関する指導を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

科 目 名	心理学研究指導4-2　D　身体心理学、認知心理学、心身論							
担当者名	博士(文学)京大　　宮田　裕光							
心理学コース	—	秋学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の完成に向けて、研究の立案、実施、データ解析、考察、および論文執筆に関する指導を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

科 目 名	心理学研究指導5-1　D　健康心理学，進化心理学，老年心理学							
担当者名	博士(文学)早大　　福川　康之							
心理学コース	—	春学期	金曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文作成に向けた，関連文献の収集と講読およびテーマの決定に関して指導する．受講生は，毎回研究の進捗状況を報告し，教員や他の受講生との議論を通じてアイディアを発展・洗練させる．

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導5-2　D　健康心理学，進化心理学，老年心理学							
担当者名	博士(文学)早大　　福川　康之							
心理学コース	—	秋学期	金曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文作成に向けた，研究計画の立案と実行および研究結果の分析と考察の作法を指導する．受講生は，毎回研究の進捗状況を報告し，教員や他の受講生との議論を通じてアイディアを発展・洗練させる．

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導6-1　D　認知行動療法、マインドフルネス認知療法、自己・自我論							
担当者名	越川　房子							
心理学コース	—	春学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文・投稿論文に関する研究計画立案、実施、分析、考察、論文執筆の指導

授業の到達目標
学会発表（含国際会議）および論文投稿を行う。博士論文を執筆・提出する。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　0%　　平常点をもとに、その他にあるように評価する
●**その他**　100%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導6-2　D　認知行動療法、マインドフルネス認知療法、自己・自我論							
担当者名	越川　房子							
心理学コース	—	秋学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文および投稿論文に関する研究計画立案、実施、分析、考察、論文執筆の指導

授業の到達目標
学会発表（含国際会議）および論文投稿を行う。博士論文を執筆し提出する。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　0%　　平常点を基に、下記「その他」にあるように評価する
●**その他**　100%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導7-1　D　行動意思決定論、消費者行動論、行動計量学、社会心理学							
担当者名	博士（学術）東工大　　竹村　和久							
心理学コース	—	春学期	月曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
【授業の到達目標及びテーマ】　本研究指導では、博士論文に向けて、人間の社会的判断や意思決定の現象についての社会心理学的なアプローチの研究とその数理・計量分析を行うプロジェクト研究を行うことを指導する。【授業の概要】　本研究指導では、人間の社会的判断や意思決定の現象についての社会心理学的なアプローチの研究とその数理・計量分析を行うプロジェクト研究を、グループ単位で行う。また、これらの調査、実験データの解析を通じて、判断と意思決定の定性的理論や数理モデルの検討や、社会政策を考えるうでの処方的アプローチについてのディスカッションを行う。基本的には学生が、研究発表を行い、それについて議論していくという形式をとる。博士論文に向けた指導を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連ＵＲＬ
なお、本演習は、原則として、竹村の担当指導学生のみを対象とする。

科 目 名	心理学研究指導7-2　D　行動意思決定論、消費者行動論、行動計量学、社会心理学							
担当者名	博士（学術）東工大　　竹村　和久							
心理学コース	—	秋学期	月曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
本研究指導では、人間の社会的判断や意思決定の現象についての社会心理学的なアプローチの研究とその数理・計量分析を行うプロジェクト研究を行い、調査、実験データの解析を通じて、判断と意思決定の定性的理論や数理モデルの検討や、社会政策を考えるうでの処方的アプローチについての研究指導を行う。基本的には学生が、研究発表を行い、それについて議論していくという形式をとる。【授業の到達目標及びテーマ】　心理学研究指導7-2では、心理学研究指導7-1の結果を踏まえ、人間の社会的判断や意思決定の現象についての社会心理学的なアプローチの研究とその数理・計量分析を行うプロジェクト研究を行い、博士論文に向けた研究の指導をおこなう。

授業の到達目標
最新の研究領域の理解と新しい着想での研究計画ができるようにする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連ＵＲＬ
本研究指導は、原則として竹村の担当指導学生のみを対象とする。
関連URL: http://www.waseda.jp/sem-takemura/

科 目 名	心理学研究指導8-1　D　心理統計学・教育測定学・マーケティングサイエンス							
担当者名	教育学博士（東大）　豊田　秀樹							
心理学コース	—	春学期	月曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
心理統計学・教育測定学・マーケティングサイエンスに関する指導を行う。
参加者の興味に合わせて論文の指導を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導8-2　D　心理統計学・教育測定学・マーケティングサイエンス							
担当者名	教育学博士（東大）　豊田　秀樹							
心理学コース	—	秋学期	月曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
心理統計学に必要な基礎の理論を学ぶ　2
各自の学術的興味に合わせて、論文の指導を行う

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　—
●**レポート**　0%　—
●**平常点**　0%　—
●**その他**　100%　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導10-1　D　視覚的語認知・言語心理学・認知心理学							
担当者名	Ph.D.（西オンタリオ大）　日野　泰志							
心理学コース	—	春学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
受講生は自分の研究に関連のあるテーマに関する文献リストを作成し、その文献の内容をパワーポイントを使って紹介してもらう。また、紹介された研究の理論や研究法についての討論を通して問題点を明らかにしていくとともに、自分自身の研究計画を充実したものにする。同時に、研究計画に基づいた研究を実施し、収集したデータをパワーポイントを使って報告してもらう。この科目では、博士論文作成に向けての専門的知識の蓄積と、研究推進のための研究スキルを養成する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
視覚的語認知研究に関する問題について、専門書・学術論文を評論し、その問題点を明らかにするとともに、その問題解明のための具体的な研究を立案・実施するという作業を通して、研究に必要な知識と研究手法を身につけることをねらいとする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導10-2　D　視覚的語認知・言語心理学・認知心理学							
担当者名	Ph.D.（西オンタリオ大）　日野　泰志							
心理学コース	—	秋学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
受講生は自分の研究に関連のあるテーマに関する文献リストを作成し、その文献の内容をパワーポイントを使って紹介してもらう。また、紹介された研究の理論や研究法についての討論を通して問題点を明らかにしていくとともに、自分自身の研究計画を充実したものにする。同時に、研究計画に基づいた研究を実施し、収集したデータをパワーポイントを使って報告してもらう。この科目では、博士論文作成に向けての専門的知識の蓄積と、研究推進のための研究スキルを養成する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
視覚的語認知研究に関する問題について、専門書・学術論文を評論し、その問題点を明らかにするとともに、その問題解明のための具体的な研究を立案・実施するという作業を通して、研究に必要な知識と研究手法を身につけることをねらいとする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導11-1　D　認知神経心理学・計算論的神経科学・説明理論モデル構築							
担当者名	言語病理学博士(ノースウェスタン大)　　福澤　一吉							
心理学コース	—	春学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文のテーマに即した文献の分析的読解、発表、議論により構成される。

授業の到達目標
博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導11-2　D　認知神経心理学・計算論的神経科学・説明理論モデル構築							
担当者名	言語病理学博士(ノースウェスタン大)　　福澤　一吉							
心理学コース	—	秋学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文のテーマに即した文献の分析的読解、発表、議論により構成される。

授業の到達目標
博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導12-1　D　司法関連領域に対する心理学からのアプローチ							
担当者名	藤野　京子							
心理学コース	—	春学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
非行臨床・犯罪心理学及びそれと関連したテーマの研究を扱う。
具体的には、まず、先行研究を精査の上、取り組む課題の意義や発展可能性について十分な検討を行う。また、博士論文作成にあたっての問題設定の適否について（研究の実現可能性を含む）十分に検討する。その上で、具体的な実験・調査等の内容についての討議を行う。さらに、結果の分析・解釈の仕方についても議論を重ねていく。得られらた知見から更なる実施・調査を展開していく。このサイクルを繰り返すことになる。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする
最終目標は博士論文作成であるが、その準備段階として、学会での口頭発表のみならず、査読有論文を複数作成することを目指す。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
自身の研究フィールドについては、その研究が実施可能なように自身で獲得しておくこと。

科 目 名	心理学研究指導12-2　D　司法関連領域に対する心理学からのアプローチ							
担当者名	藤野　京子							
心理学コース	—	秋学期	火曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要
非行臨床・犯罪心理学及びそれと関連したテーマの研究を扱う。
具体的には、まず、先行研究を精査の上、取り組む課題の意義や発展可能性について十分な検討を行う。また、博士論文作成にあたっての問題設定の適否について（研究の実現可能性を含む）十分に検討する。その上で、具体的な実験・調査等の内容についての討議を行う。さらに、結果の分析・解釈の仕方についても議論を重ねていく。得られらた知見から更なる実施・調査を展開していく。このサイクルを繰り返すことになる。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
最終目標は博士論文作成であるが、その準備段階として、学会での口頭発表のみならず、査読有論文を複数作成することを目指す。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
自身の研究フィールドについては、その研究が実施可能なように自身で獲得しておくこと。

科 目 名	心理学研究指導13-1　D　社会心理学							
担当者名	博士(文学)早大　　松本　芳之							
心理学コース	—	春学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

論文の進捗状況および内容を確認するとともに、検討と修正を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	心理学研究指導13-2　D　社会心理学							
担当者名	博士(文学)早大　　松本　芳之							
心理学コース	—	秋学期	木曜日	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

論文の進捗状況および内容を確認するとともに、検討と修正を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

社会学コース

科 目 名	社会学特論1　原文で読むフランス社会学							
担当者名	博士(文学)早大　　池田　祥英							
社会学コース	２単位	春学期	火曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

フランス社会学において、同時代のピエール・ブルデューと並んで有力な存在であったレイモン・ブードン（1934-2013）の主要な学説について検討する。現代のフランス社会学というと、ブルデューのほか社会運動論のアラン・トゥレーヌなどが知られているが、「方法論的個人主義」を唱えたブードンは、1980年代ごろまでは著作が訳されるなど日本でもよく知られた存在であったが、近年はあまり触れられることはない。しかし、理論的探求もさることながら、数量的分析も得意としたブードンの業績は、もっと検討されなければならないだろう。そこで、彼の主要著作をフランス語で精読し、彼の社会学説の意義を考えていくことにする。

授業の到達目標

1. フランス語による社会学の専門的な議論を正確に理解できる。
2. 現代におけるフランス社会学の動向について、自らの専門と対照しながら、自分なりの見解を論理的に説明できる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　講読したテキストの内容について、各自の専門分野の視点を踏まえてテーマを設定し、その問題について論理的な考察を展開できているかどうかを評価する。
●**平常点**　50%　　各回の事前学習の成果、仏文解釈の完成度、事後学習の取り組み内容について評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	社会学特論2　福祉社会の射程と障害学の視座							
担当者名	博士(社会福祉学)都立大　　岡部　耕典							
社会学コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

「福祉社会論」の射程を「障害学」の視座から検討し、その前提／延長線上にある人と社会のあり方について検討する。

授業は、講義や映像の視聴、テキストの講読を手がかりとし、各人の問題意識のもとに議論するワークショップ形式を基本とする。受講者数にもよるが、まずは、映像の講義や映像の視聴を通じ「再分配」や「ケアの社会化」に対する基本概念のチューニングを図る。続いて、「人間の条件 そんなものはない」（立岩真也）という平易な？本を読みすすみつつ、ああでもない、こうもいえる、と議論して、そしてときどきはもう少し調べたりしてもらいながら、障害学や福祉社会学を各人の文脈で理解を進めてもらう。できれば、生・老・病・死にかかわる世の中の「事件」、〈民主主義〉とか〈多様性〉、〈排除〉などにかかわることも考えてみたい。そんなふうにうねうねとやっていきつつ、興が乗ればさらに参考文献に挙げた本を読み進んだり、授業に触発された各自の自由な報告をして貰うなどするかも。

なお、本科目は社会学コース設置科目であるが、受講に際して特定のディシプリンは前提とされない。〈多様な〉バックグラウンドと問題関心を持った受講生の受講が歓迎されるであろう。「弱くある自由」、「自由の平等」、「分配する最小国家」といった言葉に心惹かれる人、この世の中の、生きて在ることと、「働く」と「稼ぐ」の関係の閉塞にふと疑問もったことのある人、「能力」とか「正常」とかってなんだかなあ、と思ったりする人、そういったことを「大学院レベルで」考え議論してみたいと思う人、きっとあなたの受講は歓迎されると思うのだけれど。

授業の到達目標

生きて在ることの異なりを棄損しない社会の在り方を構想する。

成績評価方法

概ね以下の比率で総合的に評価する。
・報告、議論への参画などの平常点40%
・コースナビからのレビュー（小テスト）60%

備考・関連ＵＲＬ

http://www.f.waseda.jp/k_okabe/　岡部耕典研究室
http://www.arsvi.com/　生存学創生拠点

科 目 名	調査企画・設計特論							
担当者名	田中　慶子							
社会学コース	２単位	春学期	火曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

量的社会調査の調査設計と実施方法について、主に実習を通じて学ぶ科目である．調査目的，目的に沿った仮説設定の仕方，調査設計，標本抽出，質問文・調査票作成，基礎的分析など，各段階に伴う知識と技能の習得を目指す．具体的には実習を通して，調査設計，質問票作成，データ整理，データクリーニング，コーディング，単純集計表の作成，クロス集計表による仮説の検討などを学び，それらの過程が分析結果を導くためにどのような役割を果たすのかを理解する．

授業の到達目標

社会調査を実施するための手順について，調査の企画からデータ収集，そして分析に至るまでのそれぞれの段階を，実習によって経験することを通じて，社会調査に関する実践的な知識の習得を目指す．

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　授業のまとめレポートの内容
●**平常点**　40%　　各演習テーマの取り組みおよびその成果
●**その他**　0%

備考・関連URL
講義形式と演習形式を併用して行う

科 目 名	質的調査法特論							
担当者名	麦倉　泰子							
社会学コース	２単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
エスノグラフィー、フィールドワーク、ライフヒストリー／ライフストーリー法、会話分析、内容分析といった多様な質的調査の方法についての基本的知識を得るとともに、それぞれの方法が提唱されてきた社会調査の歴史的な背景について理解を深める。

授業の到達目標
相互行為としてのインタビュー調査の性質について十分に理解し、「語り」の分析を行うための技法を習得する。さらに、会話分析とエスノグラフィーの方法論と実践例を読み解くことによって、質的調査法の応用範囲の広がりを理解する。

成績評価方法
- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　50%　　各自の調査計画についてのレポートを実施する。
- **平常点**　50%　　授業で行う各自の報告、および各回における議論によって総合的に評価する。
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	社会学演習1-1　都市・地域社会学の課題・方法と都市・地域の解読							
担当者名	浦野　正樹							
社会学コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
都市・地域社会を対象にする学問の目的と研究領域、課題設定の仕方、基本的な研究方法や分析手法などを把握するとともに、都市や地域社会を理解するための経験的な研究や理論研究の系譜と蓄積についての理解を深めることを主たる目標にする。
授業では、とくに都市・地域社会の動態と変化のメカニズムを理解するために、この研究領域の特徴や課題設定の仕方、研究方法などについて学んだうえで、理論研究や経験的研究の系譜と蓄積を知るための基本文献の読解を進めていく。そのうえで、＜現代の日本の都市社会を取り巻く状況と課題＞、＜現代都市が抱えている社会問題の諸相＞について、学生自らが問題設定をし調査研究を進めていけるよう、経験的調査の実施とその内容の理論化の営為を、既存研究の吟味・検討を通して行っていくことにしたい。

授業の到達目標
都市・地域社会を対象にする学問の目的と研究領域、課題設定の仕方、基本的な研究方法や分析手法などを把握するとともに、都市や地域社会を理解するための経験的な研究や理論研究の系譜と蓄積についての理解を深めることを主たる目標にする。そのうえで、＜現代の日本の都市社会を取り巻く状況と課題＞、＜現代都市が抱えている社会問題の諸相＞について、学生が自ら問題を設定して調査研究を企画し実施していくことができる能力を養うことに目標をおく。

成績評価方法
- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　日常的に行われる演習指導での課題や応答によるほか、BBSでのやりとりなどを総合的に判断する。
- **その他**　0%

備考・関連URL
履修する学生は、最終課題レポート（授業の早い段階で提示）を当初から意識して演習授業に参加してほしい。各自が授業計画の後段の＜資料1＞で示したような現在の社会問題にアプローチしようとする時に、手がかりとなりそうな方法について常に意識しながら、研究文献の読解を進めるとともに、積極的に試行し開拓していく努力が必要になってくる。なお、コースナビの利用は必須であり、BBSはもちろん教材についてもコースナビで提供されるものを前提として授業を進めていく。また、半期授業のうち数回程度をオンデマンド授業の形式で実施する予定である。
関連URL: http://www.waseda.jp/sem-muranoIt01/

科 目 名	社会学演習1-2　現代の地域・都市のダイナミズムと社会的構成							
担当者名	浦野　正樹							
社会学コース	２単位	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
現代の地域・都市のダイナミズムとその社会的構成の複雑な動態を解読する目を養うとともに、地域・都市において生成しつつある諸課題について、既存の調査研究・理論研究を踏まえながら社会学的調査を企画し実施し検討していく力を養うことを主たる目標にする。授業では、現代の地域・都市のダイナミズムとその社会的構成の複雑な動態について、近年の英語文献の渉猟と読解を進めながら、日本の現状と照らし合わせ検討を進めていく。とくにエスニック・プロブレムズや階層問題等の、都市の現代の社会的構成の複雑さに起因する社会問題に焦点をあてながら、それに対する地域住民の活動を可能にするコミュニティの文化基盤や社会資本、及びアイデンティティの模索と創造性の構築といった点について検討を進めていくことにしたい。

授業の到達目標
現代の地域・都市のダイナミズムとその社会的構成の複雑な動態を解読する目を養うとともに、地域・都市において生成しつつある諸課題について、既存の調査研究・理論研究を踏まえながら社会学的調査を企画し実施し検討していく力を養うことを主たる目標にする。とくに、この領域に関する英語文献を探索し読解するとともに、それらを現代の地域・都市状況のなかで正確にかつ批判的に把握する力をつけることが目標である。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　日常的に行われる演習指導での課題や応答によるほか、BBSでのやりとりなどを総合的に判断する。
- **その他**　0%

備考・関連URL

履修する学生は、最終課題レポート（授業の早い段階で提示）を当初から意識して演習授業に参加してほしい。各自が手がかりとなりそうな方法について常に意識しながら、研究文献の読解を進めるとともに、積極的に試行し開拓していく努力が必要になってくる。

なお、コースナビの利用は必須であり、BBSはもちろん教材についてもコースナビで提供されるものを前提として授業を進めていく。また、半期授業のうち数回程度をオンデマンド授業の形式で実施する予定である。

関連URL: http://www.waseda.jp/sem-muranolt01/

なお、授業はすべて演習方式で行うので、担当者以外の受講生もあらかじめ指定された文献の検討が必要である。

科 目 名	社会学演習2-1　経験社会学：特に政治意識・ナショナリズムに関する実証的研究							
担当者名	博士（社会学）都立大　　田辺　俊介							
社会学コース	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

様々な社会現象や政治意識と関連する多面的な存在であるナショナリズムは、非常に論争的な概念である。国民国家（ネーション・ステイト）はいつ生まれたのか、ナショナリズムは必要か否か、そのような論点に関する議論は両極に分かれやすいが、そもそも各論者が用いる「ナショナリズム」の意味内容がずれていることから、その論争の内実が不毛なことも少なくない。そこで本演習では、まずは「ナショナリズム」という対象に関する理論的・実証的諸研究を学ぶことによって、それら現象を相対的・複眼的視点から理解・検討できるようになることを目指す。以上プロセスを通じて、ナショナリズムに限らない幅広い社会現象について、まずは社会学的な諸理論を学んだ上で、適切な方法に基づきデータを収集・分析し、経験的な視点から研究する力を身につけることが最終目標である。

授業の到達目標

ナショナリズムや政治意識に関する理論研究と実証研究の双方を理解するとともに、先行研究を批判的に検討し、自ら研究する力を身につける。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学演習2-2　経験社会学：特に政治意識・ナショナリズムに関する実証的研究							
担当者名	博士（社会学）都立大　　田辺　俊介							
社会学コース	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

様々な社会現象や政治意識と関連する多面的な存在であるナショナリズムは、非常に論争的な概念である。国民国家（ネーション・ステイト）はいつ生まれたのか、ナショナリズムは必要か否か、そのような論点に関する議論は両極に分かれやすいが、そもそも各論者が用いる「ナショナリズム」の意味内容がずれていることから、その論争の内実が不毛なことも少なくない。そこで本演習では、まずは「ナショナリズム」という対象に関する理論的・実証的諸研究を学ぶことによって、それら現象を相対的・複眼的視点から理解・検討できるようになることを目指す。以上プロセスを通じて、ナショナリズムに限らない幅広い社会現象について、まずは社会学的な諸理論を学んだ上で、適切な方法に基づきデータを収集・分析し、経験的な視点から研究する力を身につけることが最終目標である。

授業の到達目標

ナショナリズムや政治意識に関する理論研究と実証研究の双方を理解するとともに、先行研究を批判的に検討し、自ら研究する力を身につける。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学演習3-1　社会階層論1：社会階層をめぐる諸問題							
担当者名	津田　好美							
社会学コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

現代社会の諸問題について考察する時、社会階層“要因”をまったく無視することは出来ないであろう。理念的には階層化の補正を行うべき、ソーシャル・セーフティネットとしての公的年金制度ですら、実際には階層構造に即した仕組みとなっており、老後の生活格差を増幅させる要因の一つとなっている。本演習は、社会階層論の理論的な展開を確認し（階層的地位の測定方法や指標の変遷を含む）、長期的な時間軸に沿って階層的地位を捉えることの重要性について議論したい。前期は指定した文献の講読を中心に、後期は履修者の研究関心に近い社会階層に関する文献の講読と、履修者の研究報告を中心に進めていく予定である。

授業の到達目標

社会階層論の理論的な展開と実証的な研究方法の理解とともに、先行研究を批判的に検討する姿勢を身につける。

成績評価方法

授業での文献講読、報告、ディスカッション等の取り組み状況や成果を評価します。

科 目 名	社会学演習3-2　社会階層論2：社会階層をめぐる諸問題							
担当者名	津田　好美							
社会学コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

現代社会の諸問題について考察する時、社会階層"要因"をまったく無視することは出来ないであろう。理念的には階層化の補正を行うべき、ソーシャル・セーフティネットとしての公的年金制度ですら、実際には階層構造に即した仕組みとなっており、老後の生活格差を増幅させる要因の一つとなっている。本演習は、社会階層論の理論的な展開を確認し（階層的地位の測定方法や指標の変遷を含む）、長期的な時間軸に沿って階層的地位を捉えることの重要性について議論したい。後期は履修者の研究関心に近い社会階層に関する文献の講読と、履修者の研究報告を中心に進めていく予定である。

授業の到達目標

社会階層論的アプローチの方法と、実証的な論文を執筆する技能を身につける。

成績評価方法

授業での文献講読、報告、ディスカッション等の取り組み状況や成果を評価します。

科 目 名	社会学演習5-1　比較社会学的な視点を学ぶ1							
担当者名	博士（人間科学）阪大　　竹中　均							
社会学コース	２単位	春学期	金曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

広い意味での比較社会学的な視点を学ぶために、まず、竹中均『柳宗悦・民藝・社会理論』を、受講生とともに細かく読んでいく。その上で、受講生による本書の批判的な検討と討議を重ねてゆき、この本の範囲を超えて、比較の視点の習得を展開してゆきたい。（ただし、受講生の状況を鑑みて、内容を変更することがある。）

授業の到達目標

読解を出発点として、比較の視点を身につけ、自らの研究テーマにも応用できるようにすることを目指す。

成績評価方法

- **試験**　0%　　実施しない。
- **レポート**　0%　　実施しない。
- **平常点**　100%　　演習への出席状況、報告などの実績、討議への参加度を総合的に評価する。
- **その他**　0%　　実施しない。

備考・関連ＵＲＬ

課題に対するフィードバックを希望する人は、その旨を教員にお知らせ下さい。メールなどによってフィードバックをお送りします。

科 目 名	社会学演習5-2　比較社会学的な視点を学ぶ2							
担当者名	博士（人間科学）阪大　　竹中　均							
社会学コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

広い意味での比較社会学的な視点から、まず、竹中均『自閉症の社会学』を、受講生とともに細かく読んでいく。その上で、受講生による本書の批判的な検討と討議を重ねてゆき、この本の範囲を超えて、比較の視点の習得を展開してゆきたい。（ただし、受講生の状況を鑑みて、内容を変更することがある。）

授業の到達目標

読解を出発点として、比較の視点を身につけ、自らの研究テーマにも応用できるようにすることを目指す。

成績評価方法

- **試験**　0%　　実施しない。
- **レポート**　0%　　実施しない。
- **平常点**　100%　　演習への出席状況、報告などの実績、討議への参加度を総合的に評価する。
- **その他**　0%　　実施しない。

備考・関連ＵＲＬ

課題に対するフィードバックを希望する人は、その旨を教員にお知らせ下さい。メールなどによってフィードバックをお送りします。

科 目 名	社会学演習6-1　ライフコース論：ポストモダン社会におけるライフコースをいかに研究するか。							
担当者名	嶋崎　尚子							
社会学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

社会学におけるライフコース論の展開ならびにポストモダン社会に関する理論枠組みを確認したうえで、実証的な分析研究の方法について検討する。研究成果を理解するとともに、その方法・技法に批判的検討を加えていく。

授業の到達目標

・ライフコース研究の方法論を理解する。
・ポストモダン社会に関する理論枠組みを理解する。
・ポストモダン社会におけるライフコースに関する実証研究（ヨーロッパを中心）を理解し、日本での応用を検討する。
・修士論文執筆の基礎的方法論を身につける。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし

●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　授業への参加状況から評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	社会学演習6-2　ライフコース論：ポストモダン社会におけるライフコースをいかに研究するか。							
担当者名	嶋崎　尚子							
社会学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
社会学におけるライフコース論の展開ならびにポストモダン社会に関する理論枠組みを確認したうえで、実証的な分析研究の方法について検討する。研究成果を理解するとともに、その方法・技法に批判的検討を加えていく。

授業の到達目標
・ライフコース研究の方法論を理解する。
・ポストモダン社会に関する理論枠組みを理解する。
・ポストモダン社会におけるライフコースに関する実証研究（ヨーロッパを中心）を理解し、日本での応用を検討する。
・修士論文執筆の基礎的方法論を身につける。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　授業への参加状況から評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	社会学演習7-1　共生教育社会学研究							
担当者名	博士(文学)早大　　岡本　智周							
社会学コース	２単位	春学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
教育社会学・共生社会学・歴史社会学・ナショナリズム研究・社会意識研究の各領域に亘る共生社会論を検討し、社会システムの構造転換について考究する。そのために、社会学における再帰的近代化論を学び、「個人と社会の関係」および「教育の社会化機能」の諸相の変化を理解する。授業は文献講読によって進める。履修者が探究する主題に関係させつつ、順に発表し討議しあうことで学修を深め、新たな調査の実行と研究論文の執筆を支援する。

授業の到達目標
「共生」が社会的に要請されるようになったことの背景を、「近代社会の近代化」という観点から整理し理解することを目標とする。問いを立て、考察に必要な情報を収集・分析し、自らの議論を組みあげていくために必要な社会学の視点と方法を得る。

成績評価方法
授業での発表の内容、討論の内容、ならびに出席状況を総合して評価する。

科 目 名	社会学演習7-2　共生教育社会学研究							
担当者名	博士(文学)早大　　岡本　智周							
社会学コース	２単位	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
教育社会学・共生社会学・歴史社会学・ナショナリズム研究・社会意識研究の各領域に亘る共生社会論を検討し、社会システムの構造転換について考究する。そのために、社会学における再帰的近代化論を学び、「個人と社会の関係」および「教育の社会化機能」の諸相の変化を理解する。授業は文献講読によって進める。履修者が探究する主題に関係させつつ、順に発表し討議しあうことで学修を深め、新たな調査の実行と研究論文の執筆を支援する。

授業の到達目標
「共生」が社会的に要請されるようになったことの背景を、「近代社会の近代化」という観点から整理し理解することを目標とする。問いを立て、考察に必要な情報を収集・分析し、自らの議論を組みあげていくために必要な社会学の視点と方法を得る。

成績評価方法
授業での発表の内容、討論の内容、ならびに出席状況を総合して評価する。

科 目 名	社会学演習8-1　近代日本における人生の物語の生成と変容							
担当者名	大久保　孝治							
社会学コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
個人が自分の人生を物語るときに参照される人生の物語の型（文化的なパターン）というものが存在する。その主要なものは成功の物語と幸福の物語である。この2つの型を中心にして、近代日本において人生の物語がどのように生成し、そして変容していったのかを考察する。

授業の到達目標
社会の変動と人生の物語の生成・変容の関連性を理解し、今後の変化の方向について予見する。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　毎回の授業に積極的に参加したかどうか。
●**その他**　0%

科 目 名	社会学演習8-2　現代日本における人生の物語の生成と変容							
担当者名	大久保　孝治							
社会学コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

個人が自分の人生を物語るときに参照される人生の物語の型（文化的なパターン）というものが存在する。その主要なものは成功の物語と幸福の物語である。この2つの型を中心にして、近現代日本において人生の物語がどのように生成し、そして変容していったのかを考察する。今年度はとくにポストモダン社会における人生の物語について考えみたい。

授業の到達目標

社会の変動と人生の物語の生成・変容の関連性を理解し、今後の変化の方向について予見する。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　毎回の授業に積極的に参加したかどうか。
- **その他**　0%

科 目 名	社会学演習9-2　相互作用としての社会							
担当者名	博士(文学)早大　　草柳　千早							
社会学コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

「相互作用としての社会」という社会認識を方法論上の出発点とする諸研究について知識を深め、研究の方法論として、現代社会の諸問題への相互作用論的なアプローチ法をさらに身につける。前半は主に文献報告を行う。文献は、上記の目的を勘案しつつ履修者の関心に応じて適宜決定する。後半は、履修者の研究報告と討議を中心に進めていく予定である。

授業の到達目標

社会学的研究のひとつの方法論として、現代社会の諸問題への相互作用論的なアプローチ法を身につけ、各自の研究に応用できるようになることを目指す。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験は行わない
- **レポート**　0%　　レポートの提出はなし
- **平常点**　100%　　演習への出席状況、報告、討議への参加状況により評価する。
- **その他**　0%　　特になし

科 目 名	社会学演習10-1　共同性と集合性の社会理論1							
担当者名	山田　真茂留							
社会学コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

共同性と集合性を手がかりにして現代社会の諸現象に挑み、そして社会理論の刷新を図っていく。その際、今日的な関係・集団・組織・制度についてのあらゆる洞察が総動員されよう。個別的な課題としては多様なものが考えられるが、そうした多様性を単に記述するだけでなく、高度な分析力を備えた理論的なアイディアを出し合い、その結果現代社会にフィットした社会学が再構築できるよう努めていきたい。

作業としては指定する文献の講読、各自で選定した文献の報告、ならびに自由報告を適宜行っていく予定だが、具体的な進め方に関しては参加状況を見て決定する。前期は文献検討の比重が高くなるものと考えられる。

授業の到達目標

関係論・集団論・現代社会論を中心とする諸分野における社会学的洞察を深め、同時に社会学のプロの研究者として必要な技能の基礎を身につけること。

成績評価方法

報告、討議への参加、出席状況を総合的に勘案して評価する。

科 目 名	社会学演習10-2　共同性と集合性の社会理論2							
担当者名	山田　真茂留							
社会学コース	２単位	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

共同性と集合性を手がかりにして現代社会の諸現象に挑み、そして社会理論の刷新を図っていく。その際、今日的な関係・集団・組織・制度についてのあらゆる洞察が総動員されよう。個別的な課題としては多様なものが考えられるが、そうした多様性を単に記述するだけでなく、高度な分析力を備えた理論的なアイディアを出し合い、その結果現代社会にフィットした社会学が再構築できるよう努めていきたい。

作業としては指定する文献の講読、各自で選定した文献の報告、ならびに自由報告を適宜行っていく予定だが、具体的な進め方に関しては参加状況を見て決定する。後期は研究報告の比重が高くなるものと考えられる。

授業の到達目標

関係論・集団論・現代社会論を中心とする諸分野における社会学的洞察を深め、同時に社会学のプロの研究者として必要な技能の基礎を身につけること。

成績評価方法

報告、討議への参加、出席状況を総合的に勘案して評価する。

科 目 名	社会学演習11-1　社会学の基礎概念 I							
担当者名	博士(文学)早大　　土屋　淳二							
社会学コース	２単位	春学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

人文・社会科学および自然科学による学際的な研究領域が拡大するなか，本演習では，社会学的研究アプローチの特徴と分析視角の基礎を学ぶ．授業では，古典的文献から近年の重要文献まで，主要な学説の歴史的系譜を紹介しながら，社会学の重要概念について学習し，理論と方法について基礎から習得することを目指す．後半は，とくに受講生の修士論文研究テーマの内容を考慮しながら，理論的パースペクティヴや議論の進め方の可能性と方向性について検討する．

授業の到達目標

社会学の基礎概念と理論的考え方の習得を目指し，修士論文の作成に必要な初歩的な技術について習熟するようにする．

成績評価方法

●**試験**　0%　—
●**レポート**　0%　—
●**平常点**　100%　出席状況と課題報告などにより総合的に判断する．
●**その他**　0%　—

科 目 名	社会学演習11-2　社会学の基礎概念 II							
担当者名	博士(文学)早大　　土屋　淳二							
社会学コース	２単位	秋学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

人文・社会科学および自然科学による学際的な研究領域が拡大するなか，本演習では，社会学的研究アプローチの特徴と分析視角の基礎を学ぶ．授業では，古典的文献から近年の重要文献まで，主要な学説の歴史的系譜を紹介しながら，社会学の重要概念について学習し，理論と方法について基礎から習得することを目指す．後半は，とくに受講生の修士論文研究テーマの内容を考慮しながら，理論的パースペクティヴや議論の進め方の可能性と方向性について検討する．

授業の到達目標

社会学の基礎概念と理論的考え方の習得を目指し，修士論文の作成に必要な初歩的な技術について習熟するようにする．

成績評価方法

●**試験**　0%　—
●**レポート**　0%　—
●**平常点**　100%　出席状況と課題報告などによる総合評価．
●**その他**　0%　—

科 目 名	社会学研究指導1-1　M　地域社会論、都市社会学、災害社会学							
担当者名	浦野　正樹							
社会学コース	—	春学期	火曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要

この研究指導では、都市社会や地域社会を対象にする理論研究や経験的な調査研究について、標準的な水準で一般的な内容の文献を読み取る能力を養い、現代の都市社会を取り巻く状況や課題、都市が抱えている社会問題の位相などについて、学生が独自に検討して深め、それを論文にまとめていく実力をつけることに主眼をおく。

この研究指導の授業は、「演習」授業とも関連させながら進めて行く。掘り下げるテーマとしては、主としてエスニック・プロブレムズや階層問題等の、都市の社会的構成の複雑さに起因する社会問題に焦点をあて、それに対する地域住民の活動としてのコミュニティ拠点活動に関する文献を参考にしながら、検討を続けていく予定である。なお、当然のことながら、学生の関心領域にひきつけながら研究指導を行っていくので、扱うテーマの広がりは柔軟なものになる。

授業の到達目標

この研究指導では、都市社会や地域社会を対象にする理論研究や経験的な調査研究について、標準的で一般的な内容の文献を読み取る能力を養い、現代の都市社会を取り巻く状況や課題、都市が抱えている社会問題の位相などについて、学生が独自に検討して深め、それを修士論文にまとめていく実力をつけることに主眼をおく。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　100%　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL

関連URL: http://www.waseda.jp/sem-muranoIt01/

科 目 名	社会学研究指導1-2　M　地域社会論、都市社会学、災害社会学							
担当者名	浦野　正樹							
社会学コース	—	秋学期	火曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要

この研究指導では、都市社会や地域社会を対象にする理論研究や経験的な調査研究について、標準的な水準で一般的な内容の文献を読み取る能力を養い、現代の都市社会を取り巻く状況や課題、都市が抱えている社会問題の位相などについて、学生が独自に検討して深め、それを論文にまとめていく実力をつけることに主眼をおく。とくに、秋学期は読解力という点では、この領

域に関する英語文献を探索する力や読解力・批判力を養い、それらを現代の地域・都市状況のなかで正確に意味づけて、社会現象を分析していく力を養うことに力点をおきたい。

この研究指導の授業は、「演習」授業とも関連させながら進めて行く。掘り下げるテーマとしては、現代の地域・都市のダイナミズムとその社会的構成の複雑な動態について扱うことにしたい。近年の英語文献の渉猟と読解を進めながら、日本の現状と照らし合わせながら検討を進めていく。とくにエスニック・プロブレムズや階層問題等の、都市の現代の社会的構成の複雑さに起因する社会問題に焦点をあてながら、それに対する地域住民の活動を可能にするコミュニティの文化基盤や社会資本、及びアイデンティティの模索と創造性の構築といった点について検討を進めていく予定である。なお、当然のことながら、学生の関心領域にひきつけながら研究指導を行っていくので、扱うテーマの広がりは柔軟なものになる。

授業の到達目標

この研究指導では、都市社会や地域社会を対象にする理論研究や経験的な調査研究について、標準的な水準で一般的な内容の文献を読み取る能力を養い、現代の都市社会を取り巻く状況や課題、都市が抱えている社会問題の位相などについて、学生が独自に検討して深め、それを論文にまとめていく実力をつけることに主眼をおく。とくに、秋学期は読解力という点では、この領域に関する英語文献を探索する力や読解力・批判力を養い、それらを現代の地域・都市状況のなかで正確に意味づけて、社会現象を分析していく力を養うことに力点をおきたい。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　0%
- **その他**　100%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL

関連URL: http://www.waseda.jp/sem-muranoIt01/

科目名	社会学研究指導2-1　M　ナショナリズムと政治意識に関する経験的研究・社会調査方法論							
担当者名	博士（社会学）都立大　　田辺　俊介							
社会学コース	—	春学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本研究指導は、各自の研究関心・研究テーマに基づき、修士論文執筆に関する研究指導を行うものである。そのためにまず履修者各自が、適切なテーマ設定を行い、そのテーマへの研究方法を明確化する必要があるため、その点について履修者全員で議論しながら検討していく。その上で、修士論文執筆のために必要な知識や技能の習得を行う。そのような課題達成のために、参加者が順番で自らの研究の進捗状況を報告し、それをめぐって参加者全員が議論をするという形式で進める。その具体的な手順と方法論を学ぶため、基本的にナショナリズムや政治意識に関する論文を採り上げ、その批判的読解を通じた検討を行う予定である。

なお2－1では、テーマに関する先行研究の探索と検討を行いつつ研究計画を作成し、それに基づく調査計画もしくは分析計画を策定する。ゼミではその進捗状況を各自報告する。また終盤では書き上げた研究計画と調査（分析）計画を相互に検討し、問題点や修正点を議論する。

授業の到達目標

修士論文（あるいはその1章となる論文）の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	社会学研究指導2-2　M　ナショナリズムと政治意識に関する経験的研究、社会調査方法論							
担当者名	博士（社会学）都立大　　田辺　俊介							
社会学コース	—	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本研究指導は、各自の研究関心・研究テーマに基づき、修士論文執筆に関する研究指導を行うものである。そのためにまず履修者各自が、適切なテーマ設定を行い、そのテーマへの研究方法を明確化する必要があるため、その点について履修者全員で議論しながら検討していく。その上で、修士論文執筆のために必要な知識や技能の習得を行う。そのような課題達成のために、参加者が順番で自らの研究の進捗状況を報告し、それをめぐって参加者全員が議論をするという形式で進める。その具体的な手順と方法論を学ぶため、基本的にナショナリズムや政治意識に関する論文を採り上げ、その批判的読解を通じた検討を行う予定である。

2-2では、2-1で作成した研究計画に基づき必要な（質的・量的は問わない）経験的データの収集を行い、各自が必要な作業に取り組むとともに、その進捗状況を報告する。また終盤では書き上げた論文を相互に読みあい、問題点や修正点を議論して、最終的に修士論文（あるいはその1章となる論文）の完成を目指す。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導3-1　M　社会階層に関する理論的・経験的研究							
担当者名	津田　好美							
社会学コース	—	春学期	金曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

各自の研究関心・研究テーマに基づき、修士論文執筆に関する研究指導を行います。必要に応じて社会階層に関する理論的・経験的論文を購読し、各自の研究テーマを設定、それに適した研究方法を検討し、研究計画を作成してもらいます。履修生は研究計画に基づき、それぞれ必要な作業に取り組むとともに、その進捗状況を報告してもらいます。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導3-2　M　社会階層に関する理論的・経験的研究							
担当者名	津田　好美							
社会学コース	—	秋学期	金曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

各自の研究関心・研究テーマに基づき、修士論文執筆に関する研究指導を行います。3-1で作成した研究計画に基づき、修士論文の進捗状況を報告してもらいます。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導5-1　M　比較社会学							
担当者名	博士（人間科学）阪大　　竹中　均							
社会学コース	—	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

受講生各自が修士論文完成をめざして、そのために必要な様々な手法やノウハウを地道に習得してゆけるように、指導を行う。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL

課題に対するフィードバックを希望する人は、その旨を教員にお知らせ下さい。メールなどによってフィードバックをお送りします。

科 目 名	社会学研究指導5-2　M　比較社会学							
担当者名	博士（人間科学）阪大　　竹中　均							
社会学コース	—	秋学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

受講生各自が修士論文完成をめざして、そのために必要な様々な手法やノウハウを地道に習得してゆけるように、指導を行う。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL

課題に対するフィードバックを希望する人は、その旨を教員にお知らせ下さい。メールなどによってフィードバックをお送りします。

科 目 名	社会学研究指導6-1　M　ライフコース論、社会変動論、家族社会学							
担当者名	嶋崎　尚子							
社会学コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本研究指導では、修士論文を作成するまでに必要な諸技法の理解を確認したうえで、論文作成にむけた具体的研究過程上に必要な知識・研究方法を指導する。指導においては、参加者全員でのディスカッションを重視したい。

授業の到達目標

修士論文を完成させること。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導6-2　M　ライフコース論、社会変動論、家族社会学							
担当者名	嶋崎　尚子							
社会学コース	—	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
本研究指導では、修士論文を作成するまでに必要な諸技法の理解を確認したうえで、論文作成にむけた具体的研究過程上に必要な知識・研究方法を指導する。指導においては、参加者全員でのディスカッションを重視したい。

授業の到達目標
修士論文を完成させること。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導7-1　M　教育社会学、共生社会学、歴史社会学							
担当者名	博士(文学)早大　　岡本　智周							
社会学コース	—	春学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
教育社会学・共生社会学・歴史社会学・ナショナリズム研究・社会意識研究の領域の議論を履修者間で共有し、その基本的な構図を把握する。そのうえで、履修者の探究の成果を順に発表し討議しあうことで学修を深め、新たな調査の実行と学位論文の執筆を支援する。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導7-2　M　教育社会学、共生社会学、歴史社会学							
担当者名	博士(文学)早大　　岡本　智周							
社会学コース	—	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
教育社会学・共生社会学・歴史社会学・ナショナリズム研究・社会意識研究の領域の議論を履修者間で共有し、その基本的な構図を把握する。そのうえで、履修者の探究の成果を順に発表し討議しあうことで学修を深め、新たな調査の実行と学位論文の執筆を支援する。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導8-1　M　ライフストーリー研究							
担当者名	大久保　孝治							
社会学コース	—	春学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
学生の研究テーマに合わせて、ライフストーリー・データ（質的データ）の有効活用について指導する。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　0%
- **その他**　100%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導8-2　M　ライフストーリー研究							
担当者名	大久保　孝治							
社会学コース	—	秋学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
学生の研究テーマに合わせて、ライフストーリー・データ（質的データ）の有効活用について指導する。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　100%　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導9-2　M　相互作用の社会学							
担当者名	博士(文学)早大　草柳　千早							
社会学コース	—	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
社会関係、身体、自己等をめぐる諸問題をテーマとし、相互作用論的な観点と方法から研究していく。相互作用論に関する理論的・方法論的文献の講読を通して、各自の研究をさらに深め、修士論文の執筆・完成に向けて研究の草稿の作成、報告、討論を行い、研究を深めていく。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導10-1　M　理論社会学、組織社会学、宗教社会学、集合的アイデンティティ研究							
担当者名	山田　真茂留							
社会学コース	—	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
研究指導を行う。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導10-2　M　理論社会学、組織社会学、宗教社会学、集合的アイデンティティ研究							
担当者名	山田　真茂留							
社会学コース	—	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
研究指導を行う。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導11-1　M　集合行動論・文化変動論							
担当者名	博士(文学)早大　土屋　淳二							
社会学コース	—	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
本研究指導では，社会学分野のなかでも，とくに集合行動論と文化変動論の領域に焦点を絞り，社会変動における文化変容のダイナミズムの解明を研究テーマとする修士論文制作の実践的指導をおこなう．学術論文として質の高い論文の完成にむけた理論と方法の論点把握と精緻化を目指す．春期科目にあたる当該科目では，とくに先行研究の徹底的なレビューを行い，応用理論の理解度のレヴェルアップと研究計画の立て方について検討していく．

授業の到達目標
学術的に精緻な論理展開の図れる論文制作に必要な技法を習得すること．

成績評価方法
●**試験**　0%　—
●**レポート**　0%　—
●**平常点**　100%　研究課題の消化率，研究態度と自主学習の進捗にて総合的に判断する．
●**その他**　0%　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導11-2　M　集合行動論・文化変動論							
担当者名	博士(文学)早大　　土屋　淳二							
社会学コース	―	秋学期	火曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

本研究指導では，社会学分野のなかでも，とくに集合行動論と文化変動論の領域に焦点を絞り，社会変動における文化変容のダイナミズムの解明を研究テーマとする修士論文制作の実践的指導をおこなう．学術論文として質の高い論文の完成にむけた理論と方法の論点把握と精緻化を目指す．秋期科目にあたる当該科目では，学術的に高度な修士論文の完成にむけて，実践的な指導を実施する.

授業の到達目標

学術的に精緻な論理展開の図れる論文制作に必要な技法を習得すること.

成績評価方法

●**試験**　0%　　―
●**レポート**　0%　　―
●**平常点**　100%　　研究課題の消化率，研究態度と自主学習の進捗にて総合的に判断する.
●**その他**　0%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導1-1　D　地域社会論、都市社会学、災害社会学							
担当者名	浦野　正樹							
社会学コース	―	春学期	火曜日	１時限	１年以上	―	―	―

社会学コース

授業概要

この研究指導では、都市社会や地域社会を対象にする理論研究や経験的な調査研究について、高度な内容の文献を読み取る能力を養い、現代の都市社会を取り巻く状況や課題、都市が抱えている社会問題の位相などについて、学生が独自に検討して深め、それを論文にまとめていく実力をつけることに主眼をおく。

研究指導の授業は、「演習」授業とも関連させながら進めて行く。掘り下げるテーマとしては、主としてエスニック・プロブレムズや階層問題等の、都市の社会的構成の複雑さに起因する社会問題に焦点をあて、それに対する地域住民の活動としてのコミュニティ拠点活動に関する文献を参考にしながら、検討を続けていく予定である。なお、当然のことながら、学生の関心領域にひきつけながら研究指導を行っていくので、扱うテーマの広がりは柔軟なものになる。

授業の到達目標

この研究指導では、都市社会や地域社会を対象にする理論研究や経験的な調査研究について、高度な内容の文献を読み取る能力を養い、現代の都市社会を取り巻く状況や課題、都市が抱えている社会問題の位相などについて、学生が独自に検討して深め、それを修業年限以内で博士論文として完成させることを到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　100%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連ＵＲＬ

関連URL: http://www.waseda.jp/sem-muranoIt01/

科 目 名	社会学研究指導1-2　D　地域社会論、都市社会学、災害社会学							
担当者名	浦野　正樹							
社会学コース	―	秋学期	火曜日	１時限	１年以上	―	―	―

授業概要

この研究指導では、都市社会や地域社会を対象にする理論研究や経験的な調査研究について、高度な内容の文献を読み取る能力を養い、現代の都市社会を取り巻く状況や課題、都市が抱えている社会問題の位相などについて、学生が独自に検討して深め、それを論文にまとめていく実力をつけることに主眼をおく。とくに、秋学期は読解力という点では、この領域に関する英語文献を縦横に探索する力、深い読解力・批判力を養い、それらを現代の地域・都市状況のなかで正確に意味づけ、創造的に組み立てていく力を養うことに力点をおきたい。研究指導の授業は、「演習」授業とも関連させながら進めて行く。掘り下げるテーマとしては、現代の地域・都市のダイナミズムとその社会的構成の複雑な動態について扱うことにしたい。近年の英語文献の渉猟と読解を進めながら、日本の現状と照らし合わせながら検討を進めていく。とくにエスニック・プロブレムズや階層問題等の、都市の現代の社会的構成の複雑さに起因する社会問題に焦点をあてながら、それに対する地域住民の活動を可能にするコミュニティの文化基盤や社会資本、及びアイデンティティの模索と創造性の構築といった点について検討を進めていく予定である。なお、当然のことながら、学生の関心領域にひきつけながら研究指導を行っていくので、扱うテーマの広がりは柔軟なものになる。

授業の到達目標

この研究指導では、都市社会や地域社会を対象にする理論研究や経験的な調査研究について、高度な内容の文献を読み取る能力を養い、現代の都市社会を取り巻く状況や課題、都市が抱えている社会問題の位相などについて、学生が独自に検討して深め、それを修業年限以内で博士論文として完成させることを到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　100%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の

研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL

関連URL: http://www.waseda.jp/sem-muranoIt01/

科 目 名	社会学研究指導2-1　D　ナショナリズムと政治意識に関する経験的研究、社会調査方法論							
担当者名	博士（社会学）都立大　　田辺　俊介							
社会学コース	—	春学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本研究指導は、各自の研究関心・研究テーマに基づき、博士論文執筆に関する研究指導を行うものである。そのためにまず履修者各自が、適切なテーマ設定を行い、そのテーマへの研究方法を明確化する必要があるため、その点について履修者全員で議論しながら検討していく。その上で、修士論文執筆のために必要な知識や技能の習得を行う。そのような課題達成のために、参加者が順番で自らの研究の進捗状況を報告し、それをめぐって参加者全員が議論をするという形式で進める。その具体的な手順と方法論を学ぶため、基本的にナショナリズムや政治意識に関する論文を採り上げ、その批判的読解を通じた検討を行う予定である。

なお2－1では、テーマに関する先行研究の探索と検討を行いつつ研究計画を作成し、それに基づく調査計画もしくは分析計画を策定する。ゼミではその進捗状況を各自報告する。また終盤では書き上げた研究計画と調査（分析）計画を相互に検討し、問題点や修正点を議論する。

授業の到達目標

博士論文（あるいはその1章となる論文）の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導2-2　D　ナショナリズムと政治意識に関する経験的研究、社会調査方法論							
担当者名	博士（社会学）都立大　　田辺　俊介							
社会学コース	—	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本研究指導は、各自の研究関心・研究テーマに基づき、博士論文執筆に関する研究指導を行うものである。そのためにまず履修者各自が、適切なテーマ設定を行い、そのテーマへの研究方法を明確化する必要があるため、その点について履修者全員で議論しながら検討していく。その上で、修士論文執筆のために必要な知識や技能の習得を行う。そのような課題達成のために、参加者が順番で自らの研究の進捗状況を報告し、それをめぐって参加者全員が議論をするという形式で進める。その具体的な手順と方法論を学ぶため、基本的にナショナリズムや政治意識に関する論文を採り上げ、その批判的読解を通じた検討を行う予定である。

2-2では、2-1で作成した研究計画に基づき必要な（質的・量的は問わない）経験的データの収集を行い、各自が必要な作業に取り組むとともに、その進捗状況を報告する。また終盤では書き上げた論文を相互に読みあい、問題点や修正点を議論して、最終的に修士論文（あるいはその1章となる論文）の完成を目指す。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導3-1　D　社会階層に関する理論的・経験的研究							
担当者名	津田　好美							
社会学コース	—	春学期	金曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要

各自の研究関心・研究テーマに基づき、博士論文執筆に関する研究指導を行います。修士論文の成果を踏まえ研究計画を作成し、博士論文執筆に際して必要な知識や研究方法の理解と習得に努めます。履修生は研究計画に基づきそれぞれ必要な作業に取り組むとともに、その進捗状況を報告してもらいます。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導3-2　D　社会階層に関する理論的・経験的研究							
担当者名	津田　好美							
社会学コース	—	秋学期	金曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要

各自の研究関心・研究テーマに基づき、博士論文執筆に関する研究指導を行います。修士論文の成果を踏まえ研究計画を作成し、博士論文執筆に際して必要な知識や研究方法の理解と習得に努めます。履修生は研究計画に基づきそれぞれ必要な作業に取り組むとともに、その進捗状況を報告してもらいます。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導5-1　D　比較社会学							
担当者名	博士（人間科学）阪大　　竹中　均							
社会学コース	—	春学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
比較の視点を活用した博士論文を作成していくために必要な様々な事柄を習得していくことをサポートしていく。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を目標とする

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連ＵＲＬ
課題に対するフィードバックを希望する人は、その旨を教員にお知らせ下さい。メールなどによってフィードバックをお送りします。

科 目 名	社会学研究指導5-2　D　比較社会学							
担当者名	博士（人間科学）阪大　　竹中　均							
社会学コース	—	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
比較の視点を活用した博士論文を作成していくために必要な様々な事柄を習得していくことをサポートしていく。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を目標とする

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連ＵＲＬ
課題に対するフィードバックを希望する人は、その旨を教員にお知らせ下さい。メールなどによってフィードバックをお送りします。

科 目 名	社会学研究指導6-1　D　ライフコース論、社会変動論、家族社会学							
担当者名	嶋崎　尚子							
社会学コース	—	春学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
本研究指導では、博士論文を作成するまでに必要な諸技法の理解を確認したうえで、論文作成にむけた具体的研究過程上に必要な知識・研究方法を指導する。指導においては、参加者全員でのディスカッションを重視したい。

授業の到達目標
博士論文を完成させること。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導6-2　D　ライフコース論、社会変動論、家族社会学							
担当者名	嶋崎　尚子							
社会学コース	—	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
本研究指導では、博士論文を作成するまでに必要な諸技法の理解を確認したうえで、論文作成にむけた具体的研究過程上に必要な知識・研究方法を指導する。指導においては、参加者全員でのディスカッションを重視したい。

授業の到達目標
博士論文を完成させること。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導7-1　D　教育社会学、共生社会学、歴史社会学							
担当者名	博士(文学)早大　　岡本　智周							
社会学コース	—	春学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

教育社会学・共生社会学・歴史社会学・ナショナリズム研究・社会意識研究の領域の議論を履修者間で共有し、その基本的な構図を把握する。そのうえで、履修者の探究の成果を順に発表し討議しあうことで学修を深め、新たな調査の実行と学位論文の執筆を支援する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導7-2　D　教育社会学、共生社会学、歴史社会学							
担当者名	博士(文学)早大　　岡本　智周							
社会学コース	—	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

教育社会学・共生社会学・歴史社会学・ナショナリズム研究・社会意識研究の領域の議論を履修者間で共有し、その基本的な構図を把握する。そのうえで、履修者の探究の成果を順に発表し討議しあうことで学修を深め、新たな調査の実行と学位論文の執筆を支援する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導8-1　D　ライフストーリー研究							
担当者名	大久保　孝治							
社会学コース	—	春学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

学生の研究テーマに合わせて、ライフストーリー・データ（質的データ）の有効活用について指導する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　0%
- **その他**　100%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導8-2　D　ライフストーリー研究							
担当者名	大久保　孝治							
社会学コース	—	秋学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

学生の研究テーマに合わせて、ライフストーリー・データ（質的データ）の有効活用について指導する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　0%
- **その他**　100%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導9-2　D　相互作用の社会学							
担当者名	博士(文学)早大　　草柳　千早							
社会学コース	—	秋学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

履修者の研究関心に基づき、研究テーマと研究方法、研究計画、論文執筆に関して研究指導を行う。履修者には研究の進捗状況を報告してもらい、討論を行う。

関連文献を収集し読みながら問題意識を明確にし、研究テーマを設定する。また研究方法について検討する。論文作成に向けて研究計画を作成し、必要な作業に着手していく。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導10-1　D　理論社会学、組織社会学、宗教社会学、集合的アイデンティティ研究							
担当者名	山田　真茂留							
社会学コース	—	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
研究指導を行う。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導10-2　D　理論社会学、組織社会学、宗教社会学、集合的アイデンティティ研究							
担当者名	山田　真茂留							
社会学コース	—	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
研究指導を行う。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導11-1　D　集合行動論・文化変動論							
担当者名	博士(文学)早大　土屋　淳二							
社会学コース	—	春学期	火曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
本研究指導では，社会学分野のなかでも，とくに集合行動論と文化変動論の領域に焦点を絞り，社会変動における文化変容のダイナミズムの解明を研究テーマとする博士論文制作の実践的指導をおこなう．学術論文として質の高い論文の完成にむけた理論と方法の論点把握と精緻化を目指す．春期科目にあたる当該科目では，とくに先行研究の徹底的なレビューを行い，応用理論の理解度のレヴェルアップと研究計画の立て方について検討していく．
授業の到達目標
学術的に精緻な論理展開の図れる論文制作に必要な技法を習得すること．
成績評価方法
●**試験**　0%　—
●**レポート**　0%　—
●**平常点**　100%　研究課題の消化率，研究態度と自主学習の進捗にて総合的に判断する．
●**その他**　0%　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	社会学研究指導11-2　D　集合行動論・文化変動論							
担当者名	博士(文学)早大　土屋　淳二							
社会学コース	—	秋学期	火曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
本研究指導では，社会学分野のなかでも，とくに集合行動論と文化変動論の領域に焦点を絞り，社会変動における文化変容のダイナミズムの解明を研究テーマとする博士論文制作の実践的指導をおこなう．学術論文として質の高い論文の完成にむけた理論と方法の論点把握と精緻化を目指す．秋期科目にあたる当該科目では，とくに学術論文に要請される研究倫理を含めた実践的指導を行う．
授業の到達目標
学術的に精緻な論理展開の図れる論文制作に必要な技法を習得すること．
成績評価方法
●**試験**　0%　—
●**レポート**　0%　—
●**平常点**　100%　研究課題の消化率，研究態度と自主学習の進捗にて総合的に判断する．
●**その他**　0%　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

教育学コース

科 目 名	教育学研究1　子ども・若者の「育ち」と「学び」を支える社会教育実践・理論							
担当者名	阿比留　久美							
教育学コース	２単位	春学期	水曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

子ども・若者が学び、育つ場は学校のみではなく、（地域）社会での影響も受けながら、社会で生きていく術を身につけてきました。特に、子どもから大人への移行期である青年期における青年期教育においては、学校と（地域）社会両方の学びを得ることによって、「学校から社会への移行」を遂げていくものであるといえます。しかし、学校（と家庭）の影響力が増大し、学びの場の学校教育偏重が進み、（地域）社会の影響力が低下しています。その一方で、ニート・ひきこもり等の社会問題化や非正規雇用の増加、若者の就労支援事業の登場など、若者の「学校から社会への移行」の困難が指摘され、若者の「学校から社会への移行」を学校教育頼りに進めることの限界性も明らかになってきています。

授業の中では、フィールドワークやゲスト講師招聘なども実施して、子ども・若者の「育ち」と「学び」を支える社会教育実践に触れ、さらにそれを理論的に検討していく予定です。

授業の到達目標

・子ども・若者の「育ち」と「学び」を支える社会教育実践と理論について、学び、社会的自立のありようを再検討していく

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこないません
●**レポート**　0%　　課しません
●**平常点**　100%　　毎回の課題、報告、授業への参加状況を踏まえて総合的に評価します
●**その他**　0%　　特にありません

科 目 名	教育学研究2　青年期教育と若者の「自立」の戦後・現在							
担当者名	阿比留　久美							
教育学コース	２単位	秋学期	水曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

子ども・若者が学び、育つ場は学校のみではなく、（地域）社会での影響も受けながら、社会で生きていく術を身につけてきました。特に、子どもから大人への移行期である青年期における青年期教育においては、学校と（地域）社会両方の学びを得ることによって、「学校から社会への移行」を遂げていくものであるといえます。しかし、学校（と家庭）の影響力が増大し、学びの場の学校教育偏重が進み、（地域）社会の影響力が低下しています。その一方で、ニート・ひきこもり等の社会問題化や非正規雇用の増加、若者の就労支援事業の登場など、若者の「学校から社会への移行」の困難が指摘され、若者の「学校から社会への移行」を学校教育頼りに進めることの限界性も明らかになってきています。

この授業のなかでは、青年期教育を学校のみでなく幅広い視点で捉え、若者が社会へと移行していくことに対する学びについて実践的・理論的・歴史的に考えていきます。

授業の到達目標

・青年期教育の変遷をとらえつつ、今日的な移行期における「育ち」と「学び」の場と方法について学び、社会的自立のありようを再検討していく

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこないません
●**レポート**　0%　　課しません
●**平常点**　100%　　毎回の課題、報告、授業への参加状況を踏まえて総合的に評価します
●**その他**　0%　　特にありません

科 目 名	教育学研究5　子ども支援学							
担当者名	博士(文学)早大　　喜多　明人							
教育学コース	２単位	春学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

教育学がどちらかといえば、「教える側」のイニシアチブを軸として成り立つ学問であることに対して、支援学が対象とする支援とは、教わる側、支えられる側、権利主体の側がイニシアチブをもち、自らの力と意思で、自立と参加、生活と成長への自主的活動を行うことに対して、これを維持し、さらに促進し、発展させていくためのあらゆる行為、事業、考え方の総称である。その支援概念は、エンパワーメント実践として、つとめて実践的な理念であるとともに、これを支えていく政策、制度理念でもある。今日、この対極にある政策理念としての厳罰主義（ゼロ・トレランス）が台頭してくる中で、支援主義の実践、政策を深めていくことが重要である。

授業の到達目標

本稿は、上記のような意味における権利主体たる子どもの支援の特質、目的論（エンパワーメント・自己啓発）、実践・方法論（教育学・福祉学・政策学などの学際的研究）を授業の到達目標として設定し、以下のような柱に基づき講義を行う予定である。

子ども支援学　講義計画（詳細は講義時に解説）

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

年間を通しての演習目的に沿った研究活動の成果を十分にあげてきたかどうか、その研究者としてのオリジナリティ、クリティーク、ライティングの力量について、向上とその努力が見られるかを総合的に評価する。

科 目 名	教育学研究6　子ども支援学・子どもの権利学							
担当者名	博士(文学)早大　　喜多　明人							
教育学コース	２単位	秋学期	火曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

教育学がどちらかといえば、「教える側」のイニシアチブを軸として成り立つ学問であることに対して、本講義の子ども支援学が対象とする支援とは、教わる側、支えられる側、権利主体の側がイニシアチブをもち、自らの力と意思で、自立と参加、生活と成長への自主的活動を行うことに対して、これを維持し、さらに促進し、発展させていくためのあらゆる行為、事業、考え方の総称である。その支援概念は、エンパワーメント実践として、つとめて実践的な理念であるとともに、これを支えていく政策、制度理念でもある。今日、この対極にある政策理念としての厳罰主義（ゼロ・トレランス）が台頭してくる中で、支援主義の実践、政策を深めていくことが重要である。

実践領域としては、子ども参加の学校づくりのほか、「多様な学び」支援の実践のほか、子ども支援NPOの活動など幅広く子ども支援の実践と理論、制度論などに言及したい。

授業の到達目標

この講義では、上記のような意味における権利主体たる子どもの支援の特質、目的論（エンパワーメント・自己啓発）、実践・方法論（教育学・福祉学・政策学などの学際的研究）を授業の到達目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%
- **その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

年間を通しての演習目的に沿った研究活動の成果を十分にあげてきたかどうか、その研究者としてのオリジナリティ、クリティーク、ライティングの力量について、向上とその努力が見られるかを総合的に評価する。

科 目 名	教育学研究7　ともに「生きる」「学ぶ」「働く」社会へ（1）							
担当者名	綿貫　公平							
教育学コース	２単位	春学期	水曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

現在「学校から社会へ」わたる課題は多岐に及ぶ。

担当する講師（綿貫）は、2012年3月まで35年間、都内公立中学校で勤務し、教科（美術科）の学習指導だけでなく、学校内外を行き来する取り組みをしながら、生徒や保護者／地域や社会運動（若者の労働、反貧困、奨学金問題、…）に関わってきた。現在も「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワークの世話人なども続けている。

長く民間教育研究団体：全国進路指導研究会に所属、諸先輩の経験を受け継ぎながら実践、研究を行ってきた。特に、1990年代末明るみになった「若者の就職難」「学校から社会（仕事）へ」の接続の困難。…「社会」と「学校」とのつなぎを、自らの行動を通して、検討・検証している。

現在は、若者の就労支援をになうNPO団体の理事・非常勤スタッフとして、「不登校」「引きこもっていた」子ども・若者の進路模索や就労（以前の困難）に向けたサポート、「居場所」のスタッフを主たる「仕事」としている。

授業の到達目標

学校に立ち現れている具体的な問題や実践をもとに、教育とは何かの本質と、それを担う教師の役割、子ども理解と学校の可能性を探求・認識する。「教育学研究」を通して、人間洞察や「自己理解」を深化させる。

生徒一人ひとりが自分のことも、他者のことも傷つけることなく尊重し、よりよい学校生活やその先の進路を創り出していけるようになるために、教員はいかに現状を把握し、どのような教育実践を行うべきであるかを理解する。教育は、当事者である子ども・若者の為だけでも、学校教育に限った問題でもない。日々の学校生活を通して指導する、「ともに生きる・学ぶ・働くために」学び続ける課題である。同時に「学校から社会へ」の接続、「学校間接続」に関わる課題や共通性に気づき、社会全体の課題として考えることを重視する。すべてが「学校で完結する」わけではない。地域社会の資源に気づかせ、それぞれが置かれる場で、その当事者及び実践者としての一歩を踏み出す、その資質形成を目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　20%　　「教育学研究」で扱ったテーマから選択したレポートの内容と水準に基づく。
- **平常点**　80%　　出席状況と、授業での発言内容や、毎回の授業コメント（RP）での課題把握と問題意識のありように基づく。
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	教育学研究8　ともに「生きる」「学ぶ」「働く」社会へ（2）							
担当者名	綿貫　公平							
教育学コース	２単位	秋学期	水曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

春学期「教育学研究7」に同じ

秋学期は、特に具体的な学校内外の取り組み、近隣地域の実践現場から学ぶ機会を設けたい。

授業の到達目標

春学期「教育学研究7」に同じ

また、履修生各自の関心に基づく個別研究テーマを立て、報告・討論を重ねながら、研究・調査をまとめ上げていく。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし

●**レポート**　20%　「教育学研究7」に続いて「境域学研究8」で扱ったテーマから選択したレポートの内容と水準に基づく。
●**平常点**　80%　出席状況と、授業での発言内容や、毎回の授業コメント（RP）での課題把握と問題意識のありように基づく。
●**その他**　0%　なし

科 目 名	教育学研究9　社会教育・成人教育実践研究の理論と方法							
担当者名	村田　晶子							
教育学コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

今日、人々が暮らす地域社会が直面する課題は深刻であるが、その解決のためには社会教育・成人教育の充実が欠かせない。地域に人々の豊かな関係を構築していくために「学びあうコミュニティ」をつくり、人々の学びあいを支えるシステムを構築することが課題である。

本演習では、社会教育・生涯学習・成人教育をめぐる理論と歴史、今日的課題についての基本的な文献講読を行う。

授業の到達目標

社会教育・生涯学習・成人教育をめぐる理論と歴史、今日的課題についての基本的な文献購読

成績評価方法

●**試験**　0%　実施しない
●**レポート**　50%　社会教育に関する課題意識、論理性
●**平常点**　50%　社会教育研究論文の読解
●**その他**　0%　特になし

科 目 名	教育学研究10　社会教育・成人教育の専門職養成と実践研究の方法							
担当者名	村田　晶子							
教育学コース	２単位	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

春期の理論研究を受け、秋期は、専門職養成と実践研究の方法に主眼を置き、いくつかの先行事例に学びつつ、D・ショーンの『省察的実践とは何か』『省察的実践者の教育』の講読を軸にする。また、授業を実践と理論の往還の場としていくために、毎年開催される「早稲田教育実践研究フォーラム」の企画、運営、コーディネートに携わり、また自らの実践を報告し、省察する機会を持つこととしたい。専門性形成に向けての実習の場として、また自らの実践を実践研究の俎上にのせる場として位置づけていく。

授業の到達目標

教育・社会教育の現場で求められている多様な専門性に検討を加えると共に、その専門性形成の方法と、その方法の一部をしめる実践研究の意義とその方法を実践的に学ぶことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　なし
●**レポート**　50%　教育実践研究フォーラムの記録作成
●**平常点**　50%　実践力、理論性
●**その他**　0%　なし

科 目 名	教育学研究11　地域と学校（1）							
担当者名	細金　恒男							
教育学コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

「地方消滅」「地方創生」というときの「地方」とは、中央の政治家や官僚あるいは大都市から見下ろした言い方だと思う。「地方」という官製用語にたいして、日常の暮らしと文化を守るための自前の努力を重ねてきた人びとは、その足場を「地域」と意識的に呼んできた。「地域づくり」「地域再生」とは、自然・しごと（生業・産業）・文化、それを紡ぎだす人間の共同性を“意識的に維持する”ことだという理解も広まってきている。

筆者は21年前、学部ゼミでの農業・農村体験活動を始めたのがきっかけで、その後、食と農の教育の実践にとりくむ地域・学校や、統廃合の危機に直面する小さな学校を訪ねたり、あるいは原発事故後の福島県内各地の避難先の学校を訪ねる旅を重ねてきた。土地の人びとの話に耳を傾けながらいつも心に響くのは、「学校は地域の宝」「地域あっての学校、学校あっての地域」という言葉だった。小中学校はもちろんのことだが、特に、まちやむらに高校がある場合、その存続が、地域の維持可能性を大きく左右する課題だとの認識も人びとのあいだで高まっている。それゆえ近年では、高校存続のためのさまざまな方策が打たれてきた。「地元学」「地域学習」を学校の教育課程に位置づけることや、子ども・若者たちが地域づくりに参加するとりくみも意識的にすすめられている。原発避難後の福島県双葉郡の小中高校では「ふるさと創造学」という名の学習が学校教育の主軸をなしている。

地域のなかの学校は、地域に生きる人びとにとっての精神的拠点である。学校は、地域の社会的諸関係をつくり、人びとの信頼と共同を育んできた場でもあった。そのことは、大震災後の被災・避難地で、あらためて可視化されてきたところでもある。古くから続く地域と教育の多様で豊かな関係を維持し、または修復し、あるいは新しく生みだすことから、再び学校が地域に根を張り、子ども・若者の生きる希望をみいだす手がかりが、どの地域にもあるのではないだろうか。

本講義では、各地の事例に基づきながら、地域と学校との関係のあり方について考察する。

授業の到達目標

地域と学校の結びつきの意義を理解し、地域づくりと学校づくりの展望を探る。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席状況と、随時行ってもらう報告を加味して評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	教育学研究12　地域と学校(2)							
担当者名	細金　恒男							
教育学コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
春学期中にすすめた学習をもとに、さらに研究・調査を積み上げていく。

授業の到達目標
参加者各自の関心にもとづく個別研究テーマを立て、報告・討論を重ねながら、研究・調査をまとめあげていく。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　1年間の研究をもとに、各自の関心にもとづいてレポートをまとめてもらう。
●**平常点**　70%　　出席状況および随時行ってもらう研究報告を勘案して評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	教育学研究15　教育実践の臨床哲学							
担当者名	岩川　直樹							
教育学コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
具体的な教育実践の意味をゆたかに見いだすための哲学的テクストの読み解きを行う。

授業の到達目標
哲学的テクストの理解と教育実践を捉え直す視点の形成

成績評価方法
平常点の積み重ね

備考・関連ＵＲＬ
なし

科 目 名	教育学研究16　教育実践の臨床哲学							
担当者名	岩川　直樹							
教育学コース	２単位	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
教育実践の意味をゆたかに見いだすための哲学的テクストの読み解き。

授業の到達目標
哲学的テクストの理解と教育実践を捉え直す視点の形成。

成績評価方法
平常点の積み重ね

備考・関連ＵＲＬ
なし

科 目 名	教育学研究17　人間形成における遺伝と環境をめぐる諸問題							
担当者名	梅本　洋							
教育学コース	２単位	春学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
人間形成や教育において遺伝的要因と環境的要因がそれぞれどのような影響をおよぼすのかという問題は、古くからさまざまな議論や論争を引き起こしてきた問題であり、教育学のいわば定番的なテーマの1つである。さらに、「カエルの子はカエル」ということわざもあれば「氏より育ち」ということわざもあるというように、これをめぐっては教育学などの学問研究以前の水準においてすでに互いにあい対立する考え方が提示されていることも注目されよう。もとより人間形成においては遺伝的要因も環境的要因もともに重要な意味を有していることは否定すべくもないとしても、それぞれがどのような局面でいかに作用するのか、両者の相互作用とはいったいいかなるものなのかといった種々の問題は、今なお人々の興味を強くひきつけると同時に未解明の部分を多々残しているといわなければならない。
そこで、本科目では、人間形成や教育における遺伝と環境の問題に関する主要な論点を整理し、それらの論点をめぐって展開されたさまざまな議論や論争を展望することにしたい。

授業の到達目標
人間形成や教育における遺伝と環境の問題に関する論点を明確にし、この問題をめぐる議論や論争の要点を把握すること。あわせて、英語の学術文献の読解力を高めること。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　100%　　15回の授業への取組によって平常点を考量する。
●**その他**　0%　　特記すべことなし。

科 目 名	教育学研究18　人間形成における遺伝と環境をめぐる諸問題とエピジェネティクスの研究							
担当者名	梅本　洋							
教育学コース	２単位	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

人間形成や教育において遺伝的要因と環境的要因がそれぞれどのような影響をおよぼすのかという問題は、古くからさまざまな議論や論争を引き起こしてきた問題であり、教育学のいわば定番的なテーマの1つであるが、この方面の研究も、生命科学などに代表される、人間にかかわる近年の学術的研究のめざましい進展によって、これまでとは異なる新しいさまざまなアプローチが試みられるようになっている。そのなかでも特に注目されるのは、エピジェネティクスと呼ばれる領域におけるさまざまな研究成果のインパクトであろう。

そこで、本科目では人間形成や教育における遺伝と環境をめぐる諸問題に対するエピジェネティクス的なアプローチについて検討を試みることによって、この方面の研究状況を展望することにしたい。

授業の到達目標

人間形成や教育における遺伝と環境の問題に対する新しいアプローチを把握すること。あわせて、英語の学術文献の読解力を高めること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　100%　　15回の授業への取組によって平常点を考量する。
●**その他**　0%　　特記すべことなし。

科 目 名	教育学演習1-1　プラグマティズムの教育思想							
担当者名	梅本　洋							
教育学コース	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

アメリカのみならず日本を含めて世界の教育界に絶大な影響を及ぼしたデューイの教育思想をとりあげる。一般にデューイの教育思想といえば、その児童中心主義の論調のみをとりあげて事足れりとするような通俗的な受けとめ方がなされがちである。しかし、教育に関するデューイの思想と実践はそのプラグマティズムに深く根ざしているのであり、根底にあるプラグマティズムの発想にまで迫らなければその真意を捉えることは期しがたい。そこで、この演習では特にデューイにおけるプラグマティズム的な独特の経験概念に着目しつつ彼の教育理論にアプローチすることにしたい。

授業の到達目標

デューイの教育思想のプラグマティズム的基盤を把握することを目的とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　筆記試験は実施しない。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　100%　　授業への取り組み方や出席状況によって成績評価を行う。
●**その他**　0%　　その他として記載する事項はない。

科 目 名	教育学演習1-2　プラグマティズムの教育思想的射程							
担当者名	梅本　洋							
教育学コース	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

デューイの数ある著作の中でも『民主主義と教育』は主著の1つと目されている。この演習では、同書の内容を丹念に分析することを通じて、教育の諸問題を取り扱ううえでデューイのプラグマティズムが有しているパワーや可能性さらには限界を探ることにしたい。

授業の到達目標

デューイの教育思想のプラグマティズム的諸相にアプローチすることを目的とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　筆記試験は実施しない。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　100%　　授業への取り組み方や出席状況によって成績評価を行う。
●**その他**　0%　　その他として記載する事項はない。

科 目 名	教育学演習2-1　国際教育論							
担当者名	山西　優二							
教育学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

演習のなかで実施する研究指導は、2つの領域で実施する。

1．各人の個別テーマ研究への共同協議

修士論文に関連した個別テーマ研究の発表を行い、共同協議を行い、その成果は、早大文学学術院教育学会で発表する。

2．国際教育に関連する特定のテーマに基づく共同研究

2001年度は「NGOのスタディツアー研究―国際教育の視点から―」、2002年度は「地域にみる国際教育の実践研究」、2003-2004年度は、「国際理解教育と文化理解」、2005-2007年度は「国際理解教育の理念」などをテーマに、共同研究を実施した。また2008年度以降は、「ことばと国際理解教育」、「教育実践研究と国際理解教育」、「難民と国際理解教育」というテー

マの2～3年単位の学会課題研究を実施している。必要に応じて受講生との協議により共同研究テーマを決定し、先行研究・関連文献の講読、またフィールド調査、共同研究報告書の作成、学会発表などを行う。

授業の到達目標

研究指導では、受講生が設定する国際教育の理念・理論、実践上の方策・課題について、協議の上、多面的に検討を加え、それらを深化させることを基本目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　授業参加、授業発表
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	教育学演習2-2　国際教育の実践研究							
担当者名	山西　優二							
教育学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

演習のなかで実施する研究指導は、2つの領域で実施する。但しそれぞれの力点の置き方は各年度の参加学生に応じて調整する。

1．各人の個別テーマ研究への共同協議

修士論文に関連した個別テーマ研究の発表を行い、共同協議を行い、その成果は、早大文学学術院教育学会で発表する。

2．国際教育に関連する特定のテーマに基づく共同研究

2001年度は「NGOのスタディツアー研究―国際教育の視点から―」、2002年度は「地域にみる国際教育の実践研究」、2003-2004年度は、「国際理解教育と文化理解」、2005-2007年度は「国際理解教育の理念」などをテーマに、共同研究を実施した。また2008年度以降は、「ことばと国際理解教育」、「教育実践研究と国際理解教育」、「難民と国際理解教育」というテーマの2～3年単位の学会課題研究を実施している。必要に応じて受講生との協議により共同研究テーマを決定し、先行研究・関連文献の講読、またフィールド調査、共同研究報告書の作成、学会発表などを行う。

授業の到達目標

国際教育の実践上の方策・課題について、多面的に検討を加え、それらを深化させることを基本目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　授業参加、授業発表
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	教育学演習3-1　子どもの権利と参加―その実践的、総合的研究							
担当者名	博士(文学)早大　　喜多　明人							
教育学コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

この演習は以下の3つの力量形成をはかることをねらいとする。

1）オリジナリティ（originality＝研究の独創性）を高めること
2）クリティーク（critique＝批評・批判）の力を相互的に培うこと
3）ライティング（writing＝論文執筆）の力を蓄えること

上記の目標を達成するために、以下の演習活動に重点を置いて指導する。

1）オリジナリティ（originality＝研究の独創性）

学問・真理の探求心、学問・研究の自由に基づき、学問的な枠組み・手法の共有と個別研究的なオリジナリティを高める。各自のオリジナリティを刺激するために、喜多が行っている開拓的研究の成果に触れる。具体的には、子ども支援学及び子どもの権利学（子ども法学・子ども環境学・子ども学などと整合性を保つ）、子ども参加論・地域学校共同体論などに触れる。

2）クリティーク（critique＝批評法・相互批判）

「個人研究」の限界（社会科学系列の教育学の場合）と「共同研究」（学会研究等）主流の時代に対応して、“独りよがり”ではなく、あらゆる場で発表し、批判を受けることを重視し、演習において各自「研究発表」及び「研究論文」の執筆に努める。各種学会・研究会の発表や学会紀要等＝レフリー制編集雑誌への投稿などを積極的に行い、支えあう。

演習がとかく閉鎖的な集団になることを避けるために、外部との刺激をふくめて、適切な共同研究に参加する。たとえば、科研の共同研究や喜多が代表をつとめる子どもの権利条約総合研究所における共同研究活動を活かす。

3）ライティング（writing＝論文執筆の力）

上記のようなゼミ発表と連度する論文の執筆に努めるとともに、演習において子ども支援学・子どもの権利論の基礎を習得しつつ、修士論文、博士論文に連動する論文の作成に寄与する。

授業の到達目標

教育学研究者の養成を目的として、上記の3点について力量の形成につとめ、授業の到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

年間を通しての演習目的に沿った研究活動の成果を十分にあげてきたかどうか、その研究者としてのオリジナリティ、クリテ

ィーク、ライティングの力量について、向上とその努力が見られるかを総合的に評価する。

科 目 名	教育学演習3-2　子どもの権利と参加―その実践的、総合的研究							
担当者名	博士(文学)早大　　喜多　明人							
教育学コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

教育学研究者の養成を目的として、以下の3点について力量の形成につとめ、授業の到達目標とする。
1）オリジナリティ（originality＝研究の独創性）を高めること
2）クリティーク（critique＝批評・批判）の力を相互的に培うこと
3）ライティング（writing＝論文執筆）の力を蓄えること
上記の目標を達成するために、前期に引き続き、以下の活動に重点を置いて指導する。
1）オリジナリティ（originality＝研究の独創性）
学問・真理の探求心、学問・研究の自由に基づき、学問的な枠組み・手法の共有と個別研究的なオリジナリティを高める。各自のオリジナリティを刺激するために、喜多が行っている開拓的研究の成果に触れる。具体的には、子ども支援学及び子どもの権利学（子ども法学・子ども環境学・子ども学などと整合性を保つ）、子ども参加論・地域学校共同体論などに触れる。
2）クリティーク（critique＝批評法・相互批判）
「個人研究」の限界（社会科学系列の教育学の場合）と「共同研究」（学会研究等）主流の時代に対応して、“独りよがり”ではなく、あらゆる場で発表し、批判を受けることを重視し、演習において各自「研究発表」及び「研究論文」の執筆に努める。各種学会・研究会の発表や学会紀要等＝レフリー制編集雑誌への投稿などを積極的に行い、支えあう。
演習がとかく閉鎖的な集団になることを避けるために、外部との刺激をふくめて、適切な共同研究に参加する。たとえば、科研の共同研究や喜多が代表をつとめる子どもの権利条約総合研究所における共同研究活動を活かす。
3）ライティング（writing＝論文執筆の力）
上記のようなゼミ発表と連度する論文の執筆に努めるとともに、演習において子ども支援学・子どもの権利論の基礎を習得しつつ、修士論文、博士論文に連動する論文の作成に寄与する。

授業の到達目標

教育学研究者の養成を目的として、以下の3点について力量の形成につとめ、授業の到達目標とする。
1）オリジナリティ（originality＝研究の独創性）を高めること
2）クリティーク（critique＝批評・批判）の力を相互的に培うこと
3）ライティング（writing＝論文執筆）の力を蓄えること

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

年間を通しての演習目的に沿った研究活動の成果を十分にあげてきたかどうか、その研究者としてのオリジナリティ、クリティーク、ライティングの力量について、向上とその努力が見られるかを総合的に評価する。

科 目 名	教育学演習4-1　地域教育研究							
担当者名	細金　恒男							
教育学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

参加者の修士論文テーマおよび研究計画に沿いながら、その研究の進展を援助するため、必要な文献・資料等の調査・研究を行う。

授業の到達目標

修士論文作成のための土台を築く。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　文献・資料にもとづいた研究報告を随時行ってもらう。
●**その他**　0%

科 目 名	教育学演習4-2　地域教育研究							
担当者名	細金　恒男							
教育学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

参加者の修士論文テーマおよび研究計画に沿いながら、その研究の進展を援助するため、必要な文献・資料等の調査・研究を行う。

授業の到達目標

修士論文作成のための土台を築く。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%

●**平常点**　100%　　研究報告を随時行ってもらう。
●**その他**　0%

科 目 名	教育学演習5-1　教育社会学・行政学の方法論探求							
担当者名	沖　清豪							
教育学コース	２単位	春学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本演習（5－1、5－2）の年間を通じての目標は、(1)制度・政策分析や意識調査を主とした教育調査法や研究法といった教育社会学ないし教育制度・行政・経営研究で活用可能な技法の理解・修得、(2)修士論文作成にあたり必要となる技法・問題意識の検討（研究指導を含む）、(3)技法修得の実践としての共通課題の研究・調査活動（中期的目標として学会報告を目指す）、を実施することにある。演習5－1では特に(1)に焦点を当てて、近年の教育学が何を問題視し、どのような技法で問題にアプローチしているのかを、指定教科書および教育社会学・教育行政学に関する優れた論文を輪読し考察する。論文については適宜研究技法についても確認し、それらを自らのものとして活用できるまで深めていく。また適宜受講生の修士論文構想の報告と質疑を実施する。またその前提として修士論文の課題に関する文献解題を重ねていく。

授業の到達目標

（1）修士課程段階の教育学研究法・論文執筆技法を習得する。
（2）教育社会学の研究動向を理解し、自らの問題意識を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　日常的な参加、報告内容、準備状況を総合的に勘案する。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

履修者数、履修者の研究課題に応じて、内容を適切に修正していくこととしたい。
関連URL:　http://www.f.waseda.jp/okikiyo/index.html

科 目 名	教育学演習5-2　教育社会学・行政学の方法論探求							
担当者名	沖　清豪							
教育学コース	２単位	秋学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本演習（5－1、5－2）の年間を通じての目標は、(1)制度・政策分析や意識調査を主とした教育調査法や研究法といった教育社会学ないし教育制度・行政・経営研究で活用可能な技法の理解・修得、(2)修士論文作成にあたり必要となる技法・問題意識の検討（研究指導を含む）、(3)技法修得の実践としての共通課題の研究・調査活動（中期的目標として学会報告を目指す）、を実施することにある。演習5－2では特に(1)に焦点を当てて、近年の教育学が何を問題視し、どのような技法で問題にアプローチしているのかを、指定教科書および教育社会学・教育行政学に関する優れた論文を輪読し考察する。論文については適宜研究技法についても確認し、それらを自らのものとして活用できるまで深めていく。また適宜受講生の修士論文構想の報告と質疑を実施する。またその前提として修士論文の課題に関する文献解題を重ねていく。

授業の到達目標

（1）修士課程段階の教育学研究法・論文執筆技法を習得する。
（2）教育社会学の研究動向を理解し、自らの問題意識を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　日常的な参加、報告内容、準備状況を総合的に勘案する。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

履修者数、履修者の研究課題に応じて、内容を適切に修正していくこととしたい。
関連URL:　http://www.f.waseda.jp/okikiyo/index.html

科 目 名	教育学演習7-1　社会教育実践研究の視点と方法：ジェンダー・フェミニズム・セクシュアリティ：							
担当者名	村田　晶子							
教育学コース	２単位	春学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

フェミニズム教育学、ジェンダー・センシティブ教育学やジェンダー・セクシュアリティに関する基本的な文献の講読を通して、フェミニズムやジェンダー、セクシュアリティに関する基本的な認識を獲得することと教育学研究、とりわけ日本の社会教育における成人教育の蓄積と社会教育実践研究の方法を学ぶ

授業の到達目標

文献講読を重ね、文献読解の力量を高めるとともに、研究の視点、方法を習得すること。及び修士論文の完成を到達目標とする

成績評価方法

文献読解、論文作成の基本的な力量の蓄積

科 目 名	教育学演習7-2　社会教育学・教育とジェンダー							
担当者名	村田　晶子							
教育学コース	２単位	秋学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

フェミニズム教育学、ジェンダー・センシティブ教育学やジェンダー・セクシュアリティに関する基本的な文献の講読を通して、フェミニズムやジェンダー、セクシュアリティに関する基本的な認識を獲得することと教育学研究、とりわけ日本の社会教育における成人教育の蓄積を学ぶ

授業の到達目標

修士論文を完成すること。
研究職、成人教育実践者としての力量を高める。

成績評価方法

論文執筆の技法の習得

科 目 名	教育学研究指導1-1　M　教育思想・教育哲学研究							
担当者名	梅本　洋							
教育学コース	—	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

教育思想に関する研究のし方、あるいは教育に関する哲学的なアプローチのし方を具体的なテーマに即して検討・考察する。
しかるべき内容と水準の修士論文を完成することを目標とする。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

15回の授業へのとりくみによって評価を行う。

科 目 名	教育学研究指導1-2　M　教育思想・教育哲学研究							
担当者名	梅本　洋							
教育学コース	—	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

登録者の問題関心に即して教育思想・教育哲学へのアプローチを検討する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	教育学研究指導2-1　M　国際教育論							
担当者名	山西　優二							
教育学コース	—	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

演習のなかで実施する研究指導は、2つの領域で実施する。
1．各人の個別テーマ研究への共同協議
修士論文に関連した個別テーマ研究の発表を行い、共同協議を行い、その成果は、早大文学学術院教育学会で発表する。
2．国際教育に関連する特定のテーマに基づく共同研究
2001年度は「NGOのスタディツアー研究―国際教育の視点から―」、2002年度は「地域にみる国際教育の実践研究」、2003-2004年度は、「国際理解教育と文化理解」、2005-2007年度は「国際理解教育の理念」などをテーマに、共同研究を実施した。また2008年度以降は、「ことばと国際理解教育」、「教育実践研究と国際理解教育」、「難民と国際理解教育」というテーマの2～3年単位の学会課題研究を実施している。必要に応じて受講生との協議により共同研究テーマを決定し、先行研究・関連文献の講読、またフィールド調査、共同研究報告書の作成、学会発表などを行う。

授業の到達目標

研究指導では、受講生が設定する国際教育の理念・理論、実践上の方策・課題について、協議の上、多面的に検討を加え、それらを深化させることを基本目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%　　実施しない
- **レポート**　0%　　実施しない
- **平常点**　100%　　授業参加、授業発表
- **その他**　0%　　特になし

科 目 名	教育学研究指導2-2　M　国際教育論							
担当者名	山西　優二							
教育学コース	—	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

演習のなかで実施する研究指導は、2つの領域で実施する。

1．各人の個別テーマ研究への共同協議
修士論文に関連した個別テーマ研究の発表を行い、共同協議を行い、その成果は、早大文学学術院教育学会で発表する。
2．国際教育に関連する特定のテーマに基づく共同研究
2001年度は「NGOのスタディツアー研究―国際教育の視点から―」、2002年度は「地域にみる国際教育の実践研究」、2003-2004年度は、「国際理解教育と文化理解」、2005-2007年度は「国際理解教育の理念」などをテーマに、共同研究を実施した。また2008年度以降は、「ことばと国際理解教育」、「教育実践研究と国際理解教育」、「難民と国際理解教育」というテーマの2～3年単位の学会課題研究を実施している。必要に応じて受講生との協議により共同研究テーマを決定し、先行研究・関連文献の講読、またフィールド調査、共同研究報告書の作成、学会発表などを行う。

授業の到達目標
研究指導では、受講生が設定する国際教育の理念・理論、実践上の方策・課題について、多面的に検討を加え、それらを深化させることを基本目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　授業参加、授業発表
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	教育学研究指導3-1　M　子どもの権利としての支援と教育							
担当者名	博士(文学)早大　　喜多　明人							
教育学コース	―	春学期	火曜日	4時限	1年以上	―	―	―

授業概要
日本の教育においては、子どもの自己肯定感の獲得が最優先の実践課題になっている。その点で教育学は、どちらかといえば、「教える側」のイニシアチブ＝主導性を軸として成り立つ学問であり、自己形成を図る子どもの「指導」としての機能には限界があるといえる。これに対して、この研究指導と子ども支援学が対象とする「子どもの権利としての支援」とは、権利享受主体の側がイニシアチブをもち、自らの力と意思で、自己形成を図ることができるように支えることが使命となる。

授業の到達目標
このような意味において、子どもの権利としての支援の概念は、子どもの自己肯定感を高めるエンパワーメント実践として、つとめて実践的な理念であるとともに、これを支えていく政策、制度理念でもある。今日、この対極にある教育政策・子ども政策理念としての厳罰主義（ゼロ・トレランス）が台頭してくる中で、子ども支援主義の実践、政策を具体的に深めていくことが当研究指導の到達目標となる。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%
●**その他**　0%

備考・関連URL
年間を通しての演習目的に沿った研究活動の成果を十分にあげてきたかどうか、その研究者としてのオリジナリティ、クリティーク、ライティングの力量について、向上とその努力が見られるかを総合的に評価する。

科 目 名	教育学研究指導3-2　M　子どもの権利としての支援と教育							
担当者名	博士(文学)早大　　喜多　明人							
教育学コース	―	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	―	―	―

授業概要
日本の教育においては、子どもの自己肯定感の獲得が最優先の実践課題になっている。その点で教育学は、どちらかといえば、「教える側」のイニシアチブ＝主導性を軸として成り立つ学問であり、自己形成を図る子どもの「指導」としての機能には限界があるといえる。これに対して、この研究指導と子ども支援学が対象とする「子どもの権利としての支援」とは、権利享受主体の側がイニシアチブをもち、自らの力と意思で、自己形成を図ることができるように支えることが使命となる。

授業の到達目標
このような意味において、子どもの権利としての支援の概念は、子どもの自己肯定感を高めるエンパワーメント実践として、つとめて実践的な理念であるとともに、これを支えていく政策、制度理念でもある。今日、この対極にある教育政策・子ども政策理念としての厳罰主義（ゼロ・トレランス）が台頭してくる中で、子ども支援主義の実践、政策を具体的に深めていくことが当研究指導の到達目標となる。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%
●**その他**　0%

備考・関連URL
年間を通しての演習目的に沿った研究活動の成果を十分にあげてきたかどうか、その研究者としてのオリジナリティ、クリティーク、ライティングの力量について、向上とその努力が見られるかを総合的に評価する。

科 目 名	教育学研究指導4-1　M　地域教育研究							
担当者名	細金　恒男							
教育学コース	—	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
参加者の修士論文テーマおよび研究計画に沿いながら、その研究の進展を援助するため、必要な文献・資料等の調査・研究を行う。

授業の到達目標
修士論文作成のための土台を築く。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	教育学研究指導4-2　M　地域教育研究							
担当者名	細金　恒男							
教育学コース	—	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
参加者の修士論文テーマおよび研究計画に沿いながら、その研究の進展を援助するため、必要な文献・資料等の調査・研究を行う。

授業の到達目標
修士論文作成のための土台を築く。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	教育学研究指導5-1　M　教育社会学・教育制度学研究							
担当者名	沖　清豪							
教育学コース	—	春学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
各自の修士論文作成の進捗状況を確認し、意見交換を通じて、より質の高い修士論文の完成を目指す。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	教育学研究指導5-2　M　教育社会学・教育制度学研究							
担当者名	沖　清豪							
教育学コース	—	秋学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
各自の修士論文作成の進捗状況を確認し、意見交換を通じて、より質の高い修士論文の完成を目指す。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	教育学研究指導7-1　M　社会教育学・教育とジェンダー							
担当者名	村田　晶子							
教育学コース	—	春学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の完成に向けての先行研究の検討と論文執筆の技法を身につけるための学習を積み重ねる

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	教育学研究指導7-2　M　社会教育学・教育とジェンダー							
担当者名	村田　晶子							
教育学コース	—	秋学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の完成に向けての先行研究の検討と論文執筆の技法を身につけるための学習を積み重ねる

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	教育学研究指導1-1　D　教育思想・教育哲学研究							
担当者名	梅本　洋							
教育学コース	—	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
教育思想に関する研究あるいは教育に関する哲学的研究について、具体的テーマに即して探究する。

授業の到達目標
博士論文の構想をたてて、その完成を目指す。

成績評価方法
●**試験**　0%　　筆記試験は実施しない。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　0%　　出席を重視する。
●**その他**　100%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	教育学研究指導1-2　D　教育思想・教育哲学研究							
担当者名	梅本　洋							
教育学コース	—	秋学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
これまでに達成した内容に立脚して、教育思想に関する研究あるいは教育に関する哲学的研究について、具体的テーマに即して探究する。

授業の到達目標
博士論文の構想を改善し、その完成を目指す。

成績評価方法
●**試験**　0%　　筆記試験は実施しない。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　0%　　出席を重視する。
●**その他**　100%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	教育学研究指導2-1　D　国際教育論							
担当者名	山西　優二							
教育学コース	—	春学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
国際教育に関する学会発表、学会研究論文、共同研究、博士論文などへの研究指導を行う。

授業の到達目標
学会発表、研究論文、博士論文を仕上げていくこと。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　授業参加、授業発表
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	教育学研究指導2-2　D　国際教育論							
担当者名	山西　優二							
教育学コース	—	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
国際教育に関する学会発表、学会論文、共同研究、博士論文などへの研究指導を行う。

授業の到達目標
学会発表、学会論文、共同研究、博士論文などを仕上げていくこと。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない

●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　授業参加、授業発表
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	教育学研究指導3-1　D　子どもの権利としての支援と教育							
担当者名	博士(文学)早大　　喜多　明人							
教育学コース	—	春学期	火曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
日本の教育においては、子どもの自己肯定感の獲得が最優先の実践課題になっている。その点で教育学は、どちらかといえば、「教える側」のイニシアチブ＝主導性を軸として成り立つ学問であり、自己形成を図る子どもの「指導」としての機能には限界があるといえる。これに対して、この研究指導と子ども支援学が対象とする「子どもの権利としての支援」とは、権利享受主体の側がイニシアチブをもち、自らの力と意思で、自己形成を図ることができるように支えることが使命となる。

授業の到達目標
このような意味において、子どもの権利としての支援の概念は、子どもの自己肯定感を高めるエンパワーメント実践として、つとめて実践的な理念であるとともに、これを支えていく政策、制度理念でもある。今日、この対極にある教育政策・子ども政策理念としての厳罰主義（ゼロ・トレランス）が台頭してくる中で、子ども支援主義の実践、政策を具体的に深めていくことが当研究指導の到達目標となる。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%
●**その他**　0%

備考・関連URL
年間を通しての演習目的に沿った研究活動の成果を十分にあげてきたかどうか、その研究者としてのオリジナリティ、クリティーク、ライティングの力量について、向上とその努力が見られるかを総合的に評価する。

科 目 名	教育学研究指導3-2　D　子どもの権利としての支援と教育							
担当者名	博士(文学)早大　　喜多　明人							
教育学コース	—	秋学期	火曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
日本の教育においては、子どもの自己肯定感の獲得が最優先の実践課題になっている。その点で教育学は、どちらかといえば、「教える側」のイニシアチブ＝主導性を軸として成り立つ学問であり、自己形成を図る子どもの「指導」としての機能には限界があるといえる。これに対して、この研究指導と子ども支援学が対象とする「子どもの権利としての支援」とは、権利享受主体の側がイニシアチブをもち、自らの力と意思で、自己形成を図ることができるように支えることが使命となる。

授業の到達目標
このような意味において、子どもの権利としての支援の概念は、子どもの自己肯定感を高めるエンパワーメント実践として、つとめて実践的な理念であるとともに、これを支えていく政策、制度理念でもある。今日、この対極にある教育政策・子ども政策理念としての厳罰主義（ゼロ・トレランス）が台頭してくる中で、子ども支援主義の実践、政策を具体的に深めていくことが当研究指導の到達目標となる。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%
●**その他**　0%

備考・関連URL
年間を通しての演習目的に沿った研究活動の成果を十分にあげてきたかどうか、その研究者としてのオリジナリティ、クリティーク、ライティングの力量について、向上とその努力が見られるかを総合的に評価する。

科 目 名	教育学研究指導4-1　D　地域と学校							
担当者名	細金　恒男							
教育学コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文作成に向け、研究テーマの策定とその研究テーマの探求にあたって必要な文献の探索、あるいは事例研究のための調査活動など、そのつど必要に応じた研究指導を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	教育学研究指導4-2　D　地域と学校							
担当者名	細金　恒男							
教育学コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文作成に向け、研究テーマの策定とその研究テーマの探求にあたって必要な文献の探索、あるいは事例研究のための調査活動など、そのつど必要に応じた研究指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	教育学研究指導5-1　D　高等教育改革研究							
担当者名	沖　清豪							
教育学コース	—	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文作成状況ならびに関連する研究・学会活動・社会実践について確認し、適宜指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	教育学研究指導5-2　D　高等教育改革研究							
担当者名	沖　清豪							
教育学コース	—	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文作成状況ならびに関連する研究・学会活動・社会実践について確認し、適宜指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	教育学研究指導7-1　D　社会教育学研究							
担当者名	村田　晶子							
教育学コース	—	春学期	火曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文の完成に向けての先行研究の検討と論文執筆の技法を身につけるための学習を積み重ねる

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を目標とする

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	教育学研究指導7-2　D　社会教育学研究							
担当者名	村田　晶子							
教育学コース	—	秋学期	火曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文の完成に向けての先行研究の検討と論文執筆の技法を身につけるための学習を積み重ねる

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を目標とする

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

日本語日本文学コース

科 目 名	中国古典文学1　注釈とは何か――杜甫テキストを例にして							
担当者名	博士(文学)早大　　佐藤　浩一							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	水曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

近年、杜甫テキストの刊行が続いている。日本では、著者の逝去で途絶えていた吉川幸次郎『杜甫詩注』が、興膳宏氏によって引き継がれた。講談社学術文庫からは『杜甫詩全訳注』が出て、これ以上ないレベルの全訳本が誕生した。明治書院「新釈漢文大系」からは川合康三氏による訳注が刊行予定という。

本家中国でも、人民文学出版社から『杜甫全集校注』が36年もの歳月を経て、ついに完成した。 また、上海古籍出版社からは、白居易研究者でもある謝思煒氏によって『杜甫集校注』が上梓された。

海を隔てたアメリカでも、ハーバード大学のStephen Owen氏によって、全訳The Poetry of Du Fuが刊行された。

フランスでも、Nicolas Chapuis氏により、こちらも全訳Du Fu, Poèmes de jeunesseが刊行開始となり、昨年は第二巻が上梓された。

このように杜甫をめぐっては、いまや世界的規模で、多くの注釈者たちがその深い学殖と犀利な筆致とをもって、さまざまなコメントを重ねている。

こうした状況の中で、とりわけ注目したいのは謝氏の『杜甫集校注』である。従来、最も一般的な杜甫テキストといえば、中華書局から刊行されている仇兆鰲『杜詩詳註』であったが、謝氏は『杜詩詳註』の杜撰さを批判し、『続古逸叢書』影印の『宋本杜工部集』を底本として『杜甫集校注』を編んだ。『宋本杜工部集』は、数ある杜甫テキストの中でもとりわけ初期の善本として名高い。

しかし、である。謝氏が言うほどに、仇兆鰲『杜詩詳註』は問題の多いテキストなのだろうか。

本講義では、この疑問をもとに、仇兆鰲『杜詩詳註』と謝思煒『杜甫集校注』を読み比べてゆく。そして両注釈書の読解を通じ、ひいては、そもそも注釈とは何であるのかを問う機会ともしたい。

授業の到達目標

（1）精確な読解を通じて、古典中国語への理解を深める。特に、漢文訓読に不安を残す者が、履修後には、相応の読解力が備わっていることを目指す。

（2）複数の注釈書に触れることによって、中国古典学における注釈スタイルへの理解を深める。その知識が、他の注釈書を読む際にも役立てるようにする。

成績評価方法

- **試験**　0%　　行なわない
- **レポート**　0%　　課さない。
- **平常点**　100%　　授業内での取り組みを総合的に勘案して評価する。
- **その他**　0%　　特に無し。

備考・関連ＵＲＬ

質問は随時、受け付けるので、気軽に、かつ積極的に臨んでほしい。

進度についても、受講生のペースに合わせて、無理のないように配慮するので、おそらく負担にはならない。

授業は日本語で読み進めるので、中国語の未履修者でも心配は要らない。むしろ、そういう人にも、中国語の美しさが理解できるような解説をしてゆく。

科 目 名	中国古典文学2　注釈とは何か――杜甫テキストを例にして							
担当者名	博士(文学)早大　　佐藤　浩一							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	水曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

仇兆鰲『杜詩詳註』と謝思煒『杜甫集校注』を読み比べてゆく。この注釈書の読解を通じ、ひいては、そもそも注釈とは何であるのかも問う機会にしたい。 本講義は、春に開講の「中国古典文学1」の続きである。

授業の到達目標

（1）精確な読解を通じて、古典中国語への理解を深める。特に、漢文訓読に不安を残す者が、履修後には、相応の読解力が備わっていることを目指す。

（2）複数の注釈書に触れることによって、中国古典学における注釈スタイルへの理解を深める。その知識が、他の注釈書を読む際にも役立てるようにする。

成績評価方法

- **試験**　0%　　行なわない
- **レポート**　0%　　課さない。
- **平常点**　100%　　授業内での取り組みを総合的に勘案して評価する。
- **その他**　0%　　特に無し。

備考・関連ＵＲＬ

質問は随時、受け付けるので、気軽に、かつ積極的に臨んでほしい。

進度についても、受講生のペースに合わせて、無理のないように配慮するので、おそらく負担にはならない。

授業は日本語で読み進めるので、中国語の未履修者でも心配は要らない。むしろ、そういう人にも、中国語の美しさが理解できるような解説をしてゆく。

科 目 名	文献研究1　文献学を中心に							
担当者名	博士(文学)総合研究大学院大　　久保木　秀夫							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	金曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

日本古典文学は、かつては写本や版本といった古典籍に書写・印刷され、読まれ、伝えられてきた。従って、日本古典文学研

究に際しては、古典籍そのものに関する知識と、取り扱いの技術を身につけることが不可欠である。
それら古典籍の、特に形態に関する学問が書誌学（形態書誌学）であり、また本文に関する学問が文献学である。本講義では、日本古典文学に関わる原本資料の翻刻・校合・校訂作業を行っていくことによって、文献学を活用した日本古典文学研究の方法と意義を学んでいくこととする。その過程で当然、くずし字を解読する練習も積み重ねていくこととなる。
具体例としては、中世までの和歌・物語などに関する写本・版本・古筆切（こひつぎれ、写本を観賞用に分割したもの）を中心に取り上げていく予定であるが、また受講生の専門分野に応じて、臨機応変に対処していきたい。
なお受講生に、授業テーマに即した個別発表を行ってもらう場合もある。

授業の到達目標
・くずし字を的確に解読できるようになる。
・奥書・識語類の価値と、その読解方法・活用方法を学ぶ。
・翻刻・校合・校訂に関する知識と技術を習得する。
・活字化された校訂テキストを批判的に扱えるようになる。

成績評価方法
・くずし字解読の習熟度：30%
・奥書・識語類の理解・読解度：25%
・課題提出状況：25%
・受講態度：20%　＊なお全回出席を前提とする。

科 目 名	文献研究2　書誌学を中心に							
担当者名	博士（文学）総合研究大学院大　　久保木　秀夫							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
日本古典文学は、かつては写本や版本といった古典籍に書写・印刷され、読まれ、伝えられてきた。従って、日本古典文学研究に際しては、古典籍そのものに関する知識と、取り扱いの技術を身につけることが不可欠である。
それら古典籍の、特に形態に関する学問が書誌学（形態書誌学）であり、また本文に関する学問が文献学である。本講義では、教員の持参する原本資料（近世整版本を主とする）をはじめ、複製本・影印本・デジタル画像・webデータベースなどを活用しながら、書誌調査の具体的な方法と、書誌学を活用した日本古典文学研究の方法と意義とを、実践的に学んでいくこととする。
また講義の後半の方で複数回、早稲田大学図書館が所蔵する原本資料の中から、受講者の専門に関わるものを各自撰定した上で、実地に調査し、その書誌学的・文献学的特徴について、まとめてもらう予定である。

授業の到達目標
・書誌学の方法と意義を理解する。
・書誌調査に関する知識と技術を身につける。

成績評価方法
・書誌学に関する知識・技術の習熟度：40%
・課題提出状況：30%
・受講態度：30%　＊全出席を前提とします

科 目 名	日本文学講義1　『懐風藻』を読む							
担当者名	博士（文学）早大　　高松　寿夫							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
現存最古の日本漢詩集『懐風藻』を精読する。
漢詩はもちろん、人物伝も含めて検討する。
『日本書紀』『万葉集』などの同時代の他の文献の語彙や典故との関わりにも配慮することで、7世紀後半から8世紀の文筆の総合的な状況把握にも努める。

授業の到達目標
上代の日本漢詩文をめぐる文学史的問題としてどのような問題点があるのかを理解する。
上代の日本漢詩文を専門的に検討するにあたっての知識をひととおり身につけ、それを各自で駆使・応用し、みずから作品の評価ができるようにする。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末に課す。
●**平常点**　50%　　出席状況等。
●**その他**　0%

科 目 名	日本文学講義2　『懐風藻』を読む							
担当者名	博士（文学）早大　　高松　寿夫							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
現存最古の日本漢詩集『懐風藻』を精読する。
『日本書紀』『万葉集』などの同時代の他の文献の語彙や典故との関わりにも配慮することで、7世紀後半から8世紀の文筆の総合的な状況把握にも努める。

授業の到達目標
上代の日本漢詩文をめぐる文学史的問題としてどのような問題点があるのかを理解する。

上代の日本漢詩文を専門的に検討するにあたっての知識をひととおり身につけ、それを各自で駆使・応用し、みずから作品の評価ができるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末に課す。
●**平常点**　50%　　出席状況等。
●**その他**　0%

科 目 名	日本文学講義3							
担当者名	博士(文学)早大　　新美　哲彦							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本を代表する古典である『源氏物語』は、古注釈書、梗概書、俗語訳、派生作品、二次作品など、さまざまな形で受容されている。

本講義では、早稲田大学蔵の『源氏物語』関連古典籍およびその他の古典籍に触れ、古典籍を調査する方法を学ぶことを眼目とする。書誌学・文献学を学びつつ、各自が興味を持つ本学蔵の古典籍を選び、参加者に調査し、発表してもらう。

授業の到達目標

『源氏物語』の受容についての知見を深める。
古典籍の調査方法について学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　質疑を取り入れてきちんと修正できているか。
●**平常点**　70%　　報告内容および討議参加の度合による。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

3分の2以上の出席を単位修得要件とする。

科 目 名	日本文学講義8　近世小説史における浮世草子と後期戯作							
担当者名	長谷川　正江							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

浮世草子の後続文学への影響については、近年研究が進展しつつあるが、いまだ不十分な作品・作家は少なくない。

この授業では、浮世草子と洒落本を遺した京都の人、福隅軒蛙井（生没年・伝記未詳）とその作品を取り上げる。

洒落本は『洒落本大成』に収録され利用しやすくなっているので、基本的にこれによる。浮世草子3作に関しては原典の複製を入手し、注釈と読解を進める。

浮世草子が洒落本・滑稽本を中心とする後期戯作へ与えた影響や、いわゆる“文運東漸”について、新たな知見を見出すように努める。

授業の到達目標

・浮世草子の書誌学的特徴を理解して、論文執筆に生かすことができるようになる。
・翻刻に拠らず、原典を直接読解できるようになる。
・浮世草子と戯作の影響関係について、受講生が論文を発表することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　授業内容を反映し、なおかつ新知見の有無による。
●**平常点**　40%　　輪講担当時の充実度による。
●**その他**　0%

科 目 名	日本文学講義9　戦時下の外地日本語雑誌に掲載された新発見資料を読む							
担当者名	石川　巧							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

この授業では、戦争末期に北京と上海で発行された文芸総合雑誌『月刊毎日』、『大陸』に焦点をあて、雑誌資料の活用による近代文学研究の方法をを講義するとともに、同誌に掲載された新発見資料を分析する。具体的には、

（1）戦時下の雑誌メディアはどのように企画・編集・出版されたのか。
（2）戦時下を生きた作家たちは、いかにして検閲を回避しようとしたのか。
（3）『月刊毎日』、『大陸』はなぜ歴史のなかに埋もれてしまったのか

といった観点から作品を読み解き、受講生自身がそれぞれの問題意識に基づいて文学研究に取り組むことができるように指導する。

授業の到達目標

この授業では、戦前・戦中における検閲の実態、および、戦時下における雑誌出版の状況を精しく理解し、雑誌『月刊毎日』、『大陸』に掲載された文学作品を読み解くことで、同時代を生きた作家たちがどのような表現を模索したのかを探究する。具体的な到達目標は以下の三点である。

（1）出版文化の観点から近代文学研究を進める方法を体得する。
（2）新発見資料を読み解く訓練を重ねることで、文学作品を多様な角度から分析する能力を身につける。
（3）資料蒐集に関する知識や雑誌研究の方法を習得し、研究の最前線を体験する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末に課題に即したレポートを提出してもらう。
●**平常点**　50%　　授業中に提出してもらう小レポート、口頭発表、発言を総合評価する。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

大学院生が対象なので、こちらが一方的に講義するだけではなく、受講生にも雑誌調査に関する口頭発表をしてもらいたいと考えている。また、1回目の授業の際に受講生の研究テーマ等を聴き取り、必要に
応じて講義内容を修正する。

科 目 名	日本文学講義10　近代文学における原稿および原稿用紙の研究							
担当者名	宗像　和重							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	火曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

私はいま、近代文学における「原稿用紙」という媒体に、強い関心をもっている。一般には二〇字×二〇行の四〇〇字詰、ないし二〇字×一〇行の二〇〇字詰のマス目のある用紙がイメージされるが、おおよそ明治末ごろから、日本語ワープロ・パソコンが普及する近年まで、作家といわず小学生の作文といわず、近代日本のあらゆる文章は、そうした「原稿用紙」によって綴られてきた。そして、そのなかで文や段落の長さ、句読点の用い方などの文章の規範、――つまり、「名文」の意識が育まれてきた。いま、文筆や出版の現場から原稿用紙は消えつつあるが、しかし四〇〇字詰原稿用紙によって分量を換算し、原稿料の単位とする習慣は根強く残っている。「原稿用紙」が近代文学に何をもたらしたのか、その歴史もたどりながら考察してみたい。それは一方で、近代文学が新聞や雑誌などの活字メディアを前提とする「活字的世界」（前田愛）の所産であることを、より明らかにすることにもつながると思う。なお、下記の授業計画は、学習効果を考慮して変更されることがある。

授業の到達目標

「原稿用紙」という視点を通して、近代文学の展開と言葉で表現することの意味をあらたな角度から理解し、あわせて近代の活版印刷や出版文化をより深く理解できるようになることが、この授業の到達目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　各自が研究対象としている作家やテクストに関わる原稿についての考察を、学期末のレポートとして提出してもらう予定。
●**平常点**　30%　　出席および授業中に随時提示する課題などを、レポートに加えて評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	日本文学講義11							
担当者名	博士（学術）お茶の水女子大　　宮内　淳子							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	木曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

主人公が人間ではなかったり、人間以外の存在が大きな位置を占める小説を読み、それを通して近代小説の人間中心主義やリアリズムのあり方を問い直す。取り上げるのは、主として花田清輝『鳥獣戯話』と藤枝静男『田紳有楽』である。『鳥獣戯話』は、猿、狐、みみずくという生物に託して戦国武将の武田信虎の動向が語られる。『田紳有楽』は当時の日本の地方都市に人として暮らす弥勒菩薩や焼き物が語り出す。これらの小説において、人ならぬ存在は、擬人化や隠喩といった解釈を越えて機能していると思われる。これらを読むことで、小説という形式を再考する。

授業の到達目標

異色のスタイルを持つ小説と取り組むことで、小説という形式を改めて見直し、その可能性について考えたり、自分なりの見解を持つようにする。また、自分で読み解く力を増し、そこから問題意識を導いて、分析、批評する能力を身に付ける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　示されたテーマについて、講義中に学んだことを活かしながら、必要な資料を使って自分なりの見解を展開できたか。
●**平常点**　50%　　指定されたテキストを読んできたか、読解や資料調査の分担発表が適切に行えたか、質疑において積極的な参加ができたか問うによって評価する。なお、5回以上欠席した場合は評価の対象としない。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	日本文学講義12　文学理論と現代の人文学							
担当者名	博士（文学）早大　　鳥羽　耕史							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	火曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

この授業の1～11回ではピーター・バリー『文学理論講義』を教科書に文学理論について検討し、12～15回では北野圭介編『マテリアル・セオリーズ　新たなる唯物論にむけて』を教科書に現代の人文学について検討する。

授業の到達目標

文学理論と人文学の現状を理解する。そうした知識をもとに、各自の研究テーマについて、自分なりの考察を表現できるよう

になる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　授業内容を理解して各自の研究テーマが論じられているか。
●**平常点**　30%　　毎回のコメントシートと、授業での議論への参加ができているか。
●**その他**　0%

科 目 名	日本文学講義13　『万葉集』と律令国家の形成							
担当者名	土佐　秀里							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

昨年度は専ら基礎的な事柄を扱ったので、本年度はより具体的な万葉集の問題について考えてみることにしたい。万葉集の歌が作られた七〜八世紀という時代は、律令国家「日本」の形成期に当たっている。そのことは万葉集という書物の編纂事由とも関わり、また個別の歌の主題や表現の形成とも密接に関わっている。具体的には、天皇・外交・都城・官僚機構・交通・軍隊・暦法・文字・儀礼・死生観などの問題が歴史的に形成され、歌の主題や表現を規定している。本講義では、万葉第一期・第二期を中心に、主要な歌の表現を検討し、そこに時代状況や社会問題がどのように関わっているのかを具体的に見てゆくことにしたい。歌人としては、額田王・人麻呂が中心となる。主題と表現を軸に見てゆくことになるが、やはり表記と訓読の問題もそこに関わってくることになろう。

授業の到達目標

上代文学・和歌文学を専攻する大学院生や、その他の日本文学や日本語学を専攻する大学院生が研究者として自立し、高度な専門研究を行うために必要な万葉集についての見識を養うことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　正確な知識を有していること。的確な用字・用語・語法で書かれていること。詳細な調査がなされていること。調査結果をもとに、独自な考察がなされていること。この四点を評価の基準とする。
●**平常点**　20%　　質問・発言・議論や自主的報告・小レポートなど、積極的な授業への参加意欲と講義内容への理解の度合いを、基礎点として評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	日本文学講義14　古今集の表現の特質							
担当者名	博士(文学)東大　　高田　祐彦							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

古今集歌の表現について、序詞、掛詞、見立てなどの具体的な表現に即した分析を行うとともに、古今集歌と時間、物語や日記などの引歌との関係、さらには、かな文字の問題など、多角的な視点から考究する。

授業の到達目標

古今集歌の表現の特質を幅広い視野から理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　80%　　授業中のレポート
●**平常点**　20%　　授業の出席状況
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

基本的に講義形式で行うが、受講者とともに問題を考えてゆくために、必要に応じて、受講者と担当教員で議論を行う機会を設ける。

科 目 名	日本文学講義15							
担当者名	博士(文学)早大　　播本　眞一							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

曲亭馬琴著『南総里見八犬伝』（1814〜42年刊、全106冊）の表紙・見返し・口絵・序文などをとりあげ、『八犬伝』が下敷きにした日本の古典（神話、和歌、説話、歴史物語、軍記、仮名草子、浮世草子、読本、浄瑠璃、歌舞伎等）や、中国の古典（経書、詩文集、志怪小説、白話小説等）との関連について考察する。

授業の進め方は、基礎講義と受講者の分担輪講とする。

授業の到達目標

『八犬伝』の表紙・見返し・口絵・序文を題材として、古典文学との関連を踏まえて近世文芸を読み解く手法を学び、近世文芸における図像表現の特質を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　30%　　与えられた課題について的確な考察がなされているかどうかを評価する。
●**平常点**　70%　　授業時の発表内容、議論への貢献度を評価する。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	日本文学講義16　中世宗教文芸論―『梁塵秘抄』「法文歌」の世界							
担当者名	小島　裕子							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	水曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

『梁塵秘抄』より、仏教にまつわる「法文歌」の歌の世界を繙く。

平安時代の末、時の法皇であった後白河院は「今様」という歌謡の集『梁塵秘抄』を編纂した。そして、「声わざの悲しきことはわが身隠れぬる後、留まることのなきなり」と、消えゆく音声の宿命を嘆き、『梁塵秘抄口伝集』を執筆、これに添えた。今、わずかにその十分の一が現存するにすぎない『梁塵秘抄』であるが、平安時代後期の文化や思想を鮮やかに映し出す歌々で満ち満ちている。後白河院が後世に伝えんとした今様の魅力とは如何なるものであったか。撰述された「今様」のことばを具体的に味わいながら考えてゆきたい。

現存する「今様」は、「神歌」と「法文歌」から成るが、後白河院自身が「法文の歌、聖教の文（経典の教え）に離れたることなし」と、その意義を表明している。学問の地平を押し広げ、歴史・宗教（経典）・美術（仏像）・音楽（声明）・法会儀礼などを含めた様々な分野の文献資料を用いながら、そうした「法文歌」の世界の奥底に眠る豊穣な宗教史の一風景を垣間みたい。

講義では、私に心に響く歌を選び紹介。同時代の文献資料などを駆使しながら、歌に結実した時代の歴史・文化を味わい深く読み解いてゆく。後半は受講者の報告を手がかりに、資料の扱い方を含めた示唆と相互読解を深めるための場を持ちたい。

授業の到達目標

『梁塵秘抄』の「法文歌」に対する理解を深めるなかで、宗教文芸の魅力を知り、またいずれの文芸の読解においても避けて通れない宗教資料の種々や調べ方を身につける。

大学院の講義であるので、講義の聴講のみならず、受講者自身が研究のテーブルに着くことで、研究能力は格段に向上する。そのための時間も設けるので、受講者は講義の聴講に並行して、自ら私選の「今様一首選」を提示し、当該歌の「先行研究資料」を整理し、報告（レジュメ作成・口頭発表）を行なって、文章化までの手順を学ぶ。この過程は、ゼミや研究会、学会などで必ず踏む方法であるので、研究者をめざす者としてのスキルアップとなろう。

成績評価方法

課題：20%。第3回に、受講者が関心をもつ「今様一首選」（今様と選歌の理由を示す）を提出。第4回に「先行研究資料」の作成法を提示。第5回に「先行研究資料」を提出。

報告：30%。レジュメ作成・口頭発表。

平常点評価：10%。講義に対する質疑、報告に対する質疑により、相互に読解が深まることに対する貢献度を評価の対象にする。

レポート：40%。上記の過程は、ゼミや研究会、学会などで必ず踏む方法である。その最終段階として必須である原稿化を想定して書く。

科 目 名	日本語学講義3　複文研究Ⅰ							
担当者名	松木　正恵							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

本年度は、「日本語学講義4」と連続する形で、現代日本語の複文について取り上げる。一口に複文といってもかなり範囲が広く、いわゆる連用修飾・連体修飾の両面から考察していく必要があるが、最終的には、連用複文構文と連体複文構文の接点を探る試みについても紹介してみたい。複文研究は、格助詞・接続助詞・ヴォイス・テンス・アスペクト・モダリティ・引用・複合辞・文法化等の文法研究へも広がりを持つテーマであるため、個々の文法的要素が様々な関連を保ちつつ日本語表現を形作っている様を把握してほしい。

春学期開講の「日本語学講義3」では、複文研究の前半部として、まず複文を概観し、その連続性を確認した上で、従属節の従属度について詳しく検証する。そののち、補足節（名詞節・引用節・疑問節）・名詞修飾節（格成分名詞修飾節・内容補充修飾節・相対名詞修飾節・付随名詞修飾節）について、これまでの研究史も随時参照しながら、個々の考察を深めていく予定である。

複文を解明するには、様々な統語論的手法が必要となるため、この授業は、それらを実践的に学ぶ良い機会ともなろう。初めのうちは講義形式で行うが、次第に文献の輪読形式を中心に進め、演習と同様、関連論文の講読・資料収集・データ分析等も課す予定である。全体像を把握する意味でも、「日本語学講義4」と併せて受講することが望ましい。

授業の到達目標

日本語の文の諸相を考える上で無くてはならない複文の捉え方について、その複雑な全体像を把握すべく様々な角度から探求しつつ、関連領域に対する視野も広げていく。また、それらの過程で、様々な統語論的手法を実践的に学ぶことも到達目標の一つとなる。

成績評価方法

研究発表(50%)、レポート(20%)、および出席を含む平常点（議論への参加状況・作業状況等）(30%)を総合して行う。

科 目 名	日本語学講義4　複文研究Ⅱ							
担当者名	松木　正恵							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

本年度は、「日本語学講義3」に連続する形で、連用修飾をするいわゆる副詞節を中心に取り上げる。複文研究は、格助詞・接続助詞・ヴォイス・テンス・アスペクト・モダリティ・引用・複合辞・文法化等の文法研究へも広がりを持つテーマであるため、個々の文法的要素が様々な関連を保ちつつ日本語表現を形作っている様を把握してほしい。

秋学期開講の「日本語学講義4」では、複文研究の後半部として、連用修飾をするいわゆる副詞節を取り上げる。まずは、従属節として機能する条件節・時間節・目的節・様態節と、副詞節の下位項目を詳細に考察したのち、等位節・並列節にも範囲を広げていく。具体的に検証する表現は、従来言われてきた接続助詞だけに限らず、複合辞的表現や名詞性接続成分等、多様な表現に射程を広げつつ考察を深めていく予定である。

複文を解明するには、様々な統語論的手法が必要となるため、この授業は、それらを実践的に学ぶ良い機会ともなろう。初めのうちは講義形式で行うが、次第に文献の輪読形式を中心に進め、演習と同様、関連論文の講読・資料収集・データ分析等も課す予定である。全体像を把握する意味でも、「日本語学講義3」と併せて受講することが望ましい。

授業の到達目標

日本語の文の諸相を考える上で無くてはならない複文の捉え方について、その複雑な全体像を把握すべく様々な角度から探求しつつ、関連領域に対する視野も広げていく。また、それらの過程で、様々な統語論的手法を実践的に学ぶことも到達目標の一つとなる。

成績評価方法

研究発表(50%)、レポート(20%)、および出席を含む平常点（議論への参加状況・作業状況等）(30%)を総合して行う。

科目名	日本語日本文学基礎講義　日本語日本文学研究入門							
担当者名	森山　卓郎　他／兼築　信行／河野　貴美子／澤崎　文／陣野　英則／高橋　敏夫／高松　寿夫／鳥羽　耕史／宗像　和重／山岡　華菜子／和田　琢磨							
日本語日本文学コース	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

大学院では、各自の専門領域の勉強に重点がおかれるが、それらは、日本語・日本文学の広い分野にわたる知識にもとづくことが求められる。この授業では、各時代、分野の基本的な文献とその利用上の留意点や、さまざまな研究方法の基礎などについて概観し、専門領域の勉強に向けての広い視野と知識を得るための導入とする。上代から近現代までの日本文学および日本語学の各分野について、担当の教員が交代で、講義・解説する。

授業の到達目標

日本語・日本文学を専門的に研究する上で、踏まえておくべき各分野・時代の基本的な文献や研究方法の基礎について、概括的な理解を得ること。

成績評価方法

出席のみで評価、単位認定する。

科目名	日本語日本文学の歴史2　明治・大正・昭和の小説を読み解く							
担当者名	宗像　和重　他／長島　裕子／西元　康雅							
日本語日本文学コース	4単位	秋学期	水曜日	3-4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

この授業では、日本の近代文学を研究するうえで不可欠となる文学者の小説を、表現の細部にこだわり読み解きながら、文学史の流れをたどることを目的とする。対象とする主たる時代は、20世紀前半、明治時代後期から昭和時代前期まで。2時間続きのこの講義では、1時間目には表現に即しながら小説を分析し、2時間目にはディスカッションを中心に授業を進めていくことを原則としている。できるだけ多くの小説を読むことを重視するため、とりあげるのは主に短編小説となる。具体的な授業の進め方などについては、第1回目の授業で説明する。

授業の到達目標

この授業の到達目標は、第一に、近代の小説を中心とするテクストをいかに分析し、読み解くことができるかを、実践的に把握していくことにある。そして第二に、それらを通して明治から昭和にいたる文学史の流れを把握していくことにある。もちろん、作家の個性によっても、時代によっても、テクストの表現や内容は多彩であり、個々のテクストのより深い分析と、広い視野にたった文学史の展望とを、出席者相互の活発な議論を通して身につけていきたい。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　50%　　レポートは、日本語または英語による。日本語の場合は、4,000字程度。英語の場合は、1,500語程度。ただし、英語で執筆の場合は、800字程度の日本語要旨を添付すること。レポートの課題については、授業中に指示する。
- **平常点**　50%　　成績は、授業への参加度と年度末提出のレポートから判断する。
- **その他**　0%

科目名	日本語日本文学資料解読1　近代日本の文学と諸メディア							
担当者名	高橋　敏夫　他／金子　亜由美／棚沢　健／田部　知季／永野　宏志／吉野　泰平							
日本語日本文学コース	4単位	春学期	水曜日	3-4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

この講義では、1時間目にはメディアとの関連に留意しながら、文学者と文学テクストについて考察を行い、2時間目にはディスカッションを中心に授業を進めていく。扱う予定のメディアは新聞・雑誌・書籍など。授業の進め方、とりあげる文学テクストのリストは、第1回目の授業で提案する。なお、この授業は2時間続きで行う。

授業の到達目標

この授業では、日本の近代文学を研究するうえで不可欠となる文学者やその文学テクストを、同時代の新聞・雑誌・書籍などのメディアとの関連を意識しながら検討することを目的とする。このような視点からは、近代日本の文学が常に様々なメディアを通じて、書き手から読み手へと届けられたことが浮かび上がってくるだろう。また、研究において不可欠となる一次資料の扱い方を身につけることも、この講座では目指したい。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　50%　　レポートは、日本語または英語による。日本語の場合は、4,000字程度。英語の場合は、1,500語程度。ただし、英語で執筆の場合は、800字程度の日本語要旨を添付すること。
- **平常点**　50%　　成績は、授業への参加度と年度末提出のレポートから判断する。
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	日本文学演習1-1 『万葉集』精読							
担当者名	博士(文学)早大　高松　寿夫							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

『万葉集』に収録される作品を精読する。

授業の到達目標

『万葉集』の和歌を専門的に読解するために必要な知識・方法を習得し、それらを使いこなしながら、自分で問題点を見つけ考察し論ずる力を養う。

成績評価方法

平常点で評価する。

科 目 名	日本文学演習1-2 『万葉集』精読							
担当者名	博士(文学)早大　高松　寿夫							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

『万葉集』に収録される作品を精読する。

授業の到達目標

『万葉集』の和歌を専門的に読解するために必要な知識・方法を習得し、それらを使いこなしながら、自分で問題点を見つけ考察し論ずる力を養う。

成績評価方法

学期末に授業での成果を論文化して提出してもらう。

科 目 名	日本文学演習2-1 上代散文							
担当者名	博士(文学)早大　松本　直樹							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

『古事記』と「風土記」を中心に上代散文の諸作品を読解する。文献についての知識を身につけ、有効な研究方法を考え、各自の研究のための基礎を固めることを目標とする。

『古事記』と「風土記」の講読を中心に授業を進める。毎時、担当者と担当範囲を定め、諸本の調査、本文校定、注釈・研究史の調査整理、考察を行う。『古事記』は中巻、「風土記」は『播磨国風土記』をとりあげる予定である。具体的な進め方は受講生と相談の上で決定する。

上記のほかに受講生各自の研究発表の機会をもうける。

授業の到達目標

上代散文分野の研究史、学界事情を把握し、各自の研究の基礎力を身につけることを目標とする。

成績評価方法

講読・研究発表など平常点で評価する。

備考・関連ＵＲＬ

上代文学を専攻する学生を対象とした演習を行うので、上代以外で受講を希望する場合には、予め担当教員と相談することが望ましい。

科 目 名	日本文学演習2-2 上代散文							
担当者名	博士(文学)早大　松本　直樹							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

『古事記』と「風土記」を中心に上代散文の諸作品を読解する。文献についての知識を身につけ、有効な研究方法を考え、各自の研究のための基礎を固めることを目標とする。

『古事記』と「風土記」の講読を中心に授業を進める。毎時、担当者と担当範囲を定め、諸本の調査、本文校定、注釈・研究史の調査整理、考察を行う。『古事記』は中巻、「風土記」は『播磨国風土記』と『出雲国風土記』をとりあげる予定である。具体的な進め方は受講生と相談の上で決定する。

上記のほかに受講生各自の研究発表の機会をもうける。

授業の到達目標

上代散文分野の研究史、学界事情を把握し、各自の研究の基礎力を身につけることを目標とする。

成績評価方法

講読・研究発表など平常点で評価する。

備考・関連ＵＲＬ

上代文学を専攻する学生を対象とした演習を行うので、上代以外で受講を希望する場合には、予め担当教員と相談することが望ましい。

科 目 名	日本文学演習3-1 『うつほ物語』「国譲中」巻、ならびに『源氏物語』「若菜上」巻の精読							
担当者名	博士(文学)早大　陣野　英則							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本古典文学、特に平安時代文学(散文)に関する深い学識と専門的職業を担う能力を培うために、学術的な正確さを重視しながら『うつほ物語』「国譲中」巻、ならびに『源氏物語』「若菜上」巻を読む。授業では、毎回、担当者に詳細な発表レジュメを用意してもらい、その発表と討議を中心にすすめる。

授業の到達目標

平安時代末から現代にいたるまでの諸注釈書、関連史料、代表的な諸論考等々を適宜参照しつつ、平安時代文学（特に散文）の本文をできるかぎり正確にとらえるための知識と技術を身につけることを目標とする。あわせてそうした文学の生成に関わる人とコミュニティにも目配りをしてゆく。

さらに、現在の研究水準に照らして、平安時代文学をいかに読み解くべきか、またどのような研究方法が有効なのか、ということも常に意識しつつ、あたらしい研究の開拓をめざす。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　発表の内容、及び質疑の時間における発言内容による。
- **その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

関連URL:　国文学研究資料館　http://www.nijl.ac.jp

科 目 名	日本文学演習3-2 『うつほ物語』「国譲中」巻、ならびに『源氏物語』「若菜上」巻の精読							
担当者名	博士(文学)早大　陣野　英則							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本古典文学、特に平安時代文学(散文)に関する深い学識と専門的職業を担う能力を培うために、学術的な正確さを重視しながら『うつほ物語』「国譲中」巻、ならびに『源氏物語』「若菜上」巻を読む。授業では、毎回、担当者に詳細な発表レジュメを用意してもらい、その発表と討議を中心にすすめる。

授業の到達目標

平安時代末から現代にいたるまでの諸注釈書、関連史料、代表的な諸論考等々を適宜参照しつつ、平安時代文学（特に散文）の本文をできるかぎり正確にとらえるための知識と技術を身につけることを目標とする。あわせてそうした文学の生成に関わる人とコミュニティにも目配りをしてゆく。

さらに、現在の研究水準に照らして、平安時代文学をいかに読み解くべきか、またどのような研究方法が有効なのか、ということも常に意識しつつ、あたらしい研究の開拓をめざす。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　30%　　学期末提出のレポートによる。
- **平常点**　70%　　発表の内容、および質疑の時間における発言内容による。
- **その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

関連URL:　国文学研究資料館　http://www.nijl.ac.jp

科 目 名	日本文学演習4-1 中古・中世和歌テクスト精読							
担当者名	兼築　信行							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

中古・中世和歌に関わる写本・版本の影印を用い、翻字・対校して異同を取り、整定本文を定めたうえで、別出・詠出機会・語釈・通釈・評という項目を立てて注釈し、それを輪講形式で発表して討議を行う。輪読する作品は受講者と相談のうえ決定するが、2016年度春学期は歌学テクストを取り扱いたい。

輪講の発表準備のためには数日を要する。発表者以外はテクストの事前検討に90分程度を要する。

授業の到達目標

主に中古・中世（平安後期〜鎌倉期）の和歌テクストを取り上げ、高度に専門的な注解の方法を修得する。

成績評価方法

発表内容と質疑への参加度による。

科 目 名	日本文学演習4-2 中古・中世和歌テクスト精読							
担当者名	兼築　信行							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

中古・中世和歌に関わる写本・版本の影印を用い、翻字・対校して異同を取り、整定本文を定めたうえで、別出・詠出機会・語釈・通釈・評という項目を立てて注釈し、それを輪講形式で発表して討議を行う。輪読する作品は受講者と相談のうえ決定する。

輪講の発表準備のためには数日を要する。発表者以外はテクストの事前検討に90分程度を要する。

授業の到達目標
主に中古・中世（平安後期～鎌倉期）の和歌テクストを取り上げ、高度に専門的な注解の方法を修得する。

成績評価方法
発表内容と質疑への参加度による。

科 目 名	日本文学演習5-1 『義経記』の本文研究							
担当者名	博士(文学)早大　和田　琢磨							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
『義経記』巻七の本文校訂を通して、判官物の展開について考える。発表者の用意した詳細なレジュメを元に授業を行う。

授業の到達目標
義経の北国落ちを語る『義経記』巻七は本文異同が激しく問題のある巻である。よって、諸本を丁寧に比較検討することを通して、『義経記』の研究史の検証を行うとともに、本文校訂の方法を学ぶ。また、中尊寺・國學院大學・国会図書館等所蔵の絵巻、幸若舞曲や他説話との比較を通して、広く判官物の問題について理解を深める。

成績評価方法
- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　50%　　各自で関心を持ったテーマに即したレポートを提出してもらう。
- **平常点**　50%　　発表の内容、および質疑の内容による。
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	日本文学演習5-2 『平治物語』の研究							
担当者名	博士(文学)早大　和田　琢磨							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
金刀比羅本を中心に、『平治物語』を読む。古態本・古活字本との比較を通して、金刀比羅本の特徴を明らかにしていく。発表者には、詳細なレジュメを用意してもらい、それを基に議論を深めていく。

授業の到達目標
諸本との比較を通して、金刀比羅本『平治物語』の特徴を明らかにする。また、『義経記』との関係についても明らかにしていく。

成績評価方法
- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　50%　　各自で関心を持ったテーマに即したレポートを提出してもらう。
- **平常点**　50%　　発表の内容、および質疑の内容による。
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	日本文学演習7-1 日本近世近代漢詩文読解演習							
担当者名	博士(文学)早大　池澤　一郎							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
日本近世後期から明治大正期にかけて、邦人が制作した漢詩文を読解する。本年度は昨年に引き続き梁川星巌と大沼枕山との漢詩文を版本について、読み進めるが並行して、近代早稲田の漢学三尊、桂湖村、牧野藻州、松平天行の漢詩文、その同時代人の漢詩文を適宜解読する。早稲田の漢学者はその文章の暢達を斯界で高く評価されていた。

読解方法であるが、日本近世近代の漢詩人はほとんど中国語の発音を解せず、訓読という翻訳方法によって漢詩文（白文）を読みかつ作っていた実情にかんがみて、訓読による読解を行う。ただし、本文の理解を伴わない機械的な訓読はこれを厳に戒めたいので、高等学校などの漢文の学習手順とは違って、書き下し文を作ってから現代語訳をなすのではなくして、現代語訳を施してから訓読を作成することで、北京語で唐宋の詩文を直読することを最上とする中国学の近代主義と対峙する。また漢詩文が盛行していた時代には、文言文（白文）は訓読すれば、外国語ではくして、日本語として把握されていたことも再確認に出来るであろう。

また星巌も枕山も早稲田の漢学三尊も、扇面、色紙、掛け軸で今も肉筆の書を見ることが出来る漢詩人なので、彼らやその同時代人が作った漢詩文の中で草書でしたためられたものを随時掲示または配布して、日本漢詩文のみならず近世日本の書画や歴史研究に必須の草書の漢詩文読解能力の向上を目途とする演習を継続的に行う。これ読書人が草書を書けて読めた時代には、むしろ楷書（活字体）よりも草書のほうが日本人に親しみのある書体であり、名声のある学者の中にも草書は理解できるが、楷書が書けないという者もあった（浅野梅堂は荻生徂徠もそうであったという！）という実情が忘却され、現今の中国学が電算活字の席捲によって、活字でしか詩文を読めなくなり、草書で綴られた歴史的文学的漢詩文の資料を閑却しつつある現状に対して反省を迫るために維持向上させたい研究態度なのである。

授業の到達目標
参加者各自が本演習への参加を通して、草書を含めた日本漢詩文を解釈、訓読する基礎力を備え、さらに伝記的事項や典故の調査をすることが出来るようにすることを目標とする。

成績評価方法
演習への継続的参加と事前調査の熱意によって評価する。

科 目 名	日本文学演習7-2　日本近世漢詩文読解演習							
担当者名	博士(文学)早大　　池澤　一郎							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本近世後期から明治期にかけて、邦人が制作した漢詩文を読解する。春学期に引き続き梁川星巌と大沼枕山と、その同時代人の漢詩文、桂湖村、牧野藻洲、松平天行をの漢詩文を版本または配印本について、読み進める。また同時に近世から近代にかけての漢詩人の肉筆原稿や書画に接して草書体の漢詩文を読む演習も行う。これは従来の日本漢詩文研究が中国古典文学研究の成果によりかかるあまり、活字による漢詩文解読に集中してしまい、草書の漢詩文資料を等閑に附する傾向にあったことを反省することによって始められたものである。草書の漢詩文読解力の涵養は日本文学のみならず、中国文学、日本、中国の美術史、歴史研究には必須のものと思われるので、それら東洋学に関心を寄せる学徒の積極的な参加を望んでいる。

授業の到達目標

参加者各自が本演習への参加を通して、日本漢詩文を訓読、解釈する基礎力を備え、さらに伝記的事項や典故の調査をすることが出来るようにすることを目標とする。また日本漢詩文のみならず近世から近代にかけての書画研究に必須の草書の漢詩文を読む力の涵養に努める。

成績評価方法

演習への継続的参加と事前調査の熱意の如何によって評価する。

科 目 名	日本文学演習8-1　A　昭和期							
担当者名	博士(文学)早大　　鳥羽　耕史							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

口頭発表をし、論文を書き、2年間で修士論文を仕上げられるよう、個別指導を中心に授業を進める。各受講者は、自身の研究テーマについて、少なくとも1回は報告をする。

授業の到達目標

1年生は研究方法と発表方法、論文の書き方を修得すること、2年生は修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学演習8-1　B　昭和期							
担当者名	博士(文学)早大　　鳥羽　耕史							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

口頭発表をし、論文を書き、2年間で修士論文を仕上げられるよう、個別指導を中心に授業を進める。各受講者は、自身の研究テーマについて、少なくとも1回は報告をする。

授業の到達目標

1年生は研究方法と発表方法、論文の書き方を修得すること、2年生は修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学演習8-2　A　昭和期							
担当者名	博士(文学)早大　　鳥羽　耕史							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

各自の修士論文のテーマについて、受講生の発表と質疑を中心として演習を進める。とりあげる材料や発表方法などの具体的な点については、教室で相談して決める。

授業の到達目標

戦後期の文学について深く知ると同時に、各自の研究に応用できるようにする。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　50%　　一編の論文としての体裁と内容を備えているかどうか。
- **平常点**　50%　　限られた時間のなかで、どのように説得力のある報告ができるか。
- **その他**　0%

科 目 名	日本文学演習8-2　B　昭和期							
担当者名	博士(文学)早大　　鳥羽　耕史							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

各自の修士論文のテーマについて、受講生の発表と質疑を中心として演習を進める。とりあげる材料や発表方法などの具体的な点については、教室で相談して決める。

授業の到達目標
戦後期の文学について深く知ると同時に、各自の研究に応用できるようにする。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　一編の論文としての体裁と内容を備えているかどうか。
●**平常点**　50%　　限られた時間のなかで、どのように説得力のある報告ができるか。
●**その他**　0%

科 目 名	日本文学演習10-1　A　昭和後期・現代							
担当者名	高橋　敏夫							
日本語日本文学コース	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
本年度は、戦争文学全集として最大規模の試み『コレクション　戦争×文学』（集英社）全20巻・別巻1で、わたしが編集した巻の中から、第20巻『オキナワ　終わらぬ戦争』と第4巻『9・11　変容する戦争』をとりあげる。まず、参加者全員が、それぞれもっとも関心のある新・旧「戦争論」（一冊あるいは複数）について報告したうえで、関心のある巻に収められている作品について考察し報告する。（日本文学演習10－1Bと合併授業。4限、5限連続のゼミ）

授業の到達目標
修士論文の準備をはじめる。

成績評価方法
試験　0%
レポート　70%　成績評価においては、その成績をA＋（優）、A（優）、B（良）、C（可）、F（不可）の五段階評価とし、C以上を合格とする。A＋、A、B、Cについては、課題に対する理解度、独創的視点の有無、文章表現の巧拙を総合して判定する。
平常点評価　30%　出席回数は授業回数の三分の二以上を必要とする。
その他　0%

科 目 名	日本文学演習10-2　A　昭和後期・現代							
担当者名	高橋　敏夫							
日本語日本文学コース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
本年度は、戦争文学全集として最大規模の試み『コレクション　戦争×文学』（集英社）全20巻・別巻1で、わたしが編集した巻の中から、第20巻『オキナワ　終わらぬ戦争』と第4巻『9・11　変容する戦争』をとりあげる。まず、参加者全員が、それぞれもっとも関心のある新・旧「戦争論」（一冊あるいは複数）について報告したうえで、関心のある巻に収められている作品について考察し報告する。

授業の到達目標
修士論文の準備をはじめる。

成績評価方法
試験　0%
レポート　70%　成績評価においては、その成績をA＋（優）、A（優）、B（良）、C（可）、F（不可）の五段階評価とし、C以上を合格とする。A＋、A、B、Cについては、課題に対する理解度、独創的視点の有無、文章表現の巧拙を総合して判定する。
平常点評価　30%　出席回数は授業回数の三分の二以上を必要とする。
その他　0%

科 目 名	日本文学演習10-1　B　新旧の戦争論を概観し、近代・現代の戦争文学を読む							
担当者名	高橋　敏夫							
日本語日本文学コース	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
本年度は、戦争文学全集として最大規模の試み『コレクション　戦争×文学』（集英社）全20巻・別巻1で、わたしが編集した巻の中から、第20巻『オキナワ　終わらぬ戦争』と第4巻『9・11　変容する戦争』をとりあげる。まず、参加者全員が、それぞれもっとも関心のある新・旧「戦争論」（一冊あるいは複数）について報告したうえで、関心のある巻に収められている作品について考察し報告する。（日本文学演習10－1Aと合併授業。4限、5限連続のゼミ）

授業の到達目標
修士論文の完成を目指す。

成績評価方法
試験　0%
レポート　70%　成績評価においては、その成績をA＋（優）、A（優）、B（良）、C（可）、F（不可）の五段階評価とし、C以上を合格とする。A＋、A、B、Cについては、課題に対する理解度、独創的視点の有無、文章表現の巧拙を総合して判定する。
平常点評価　30%　出席回数は授業回数の三分の二以上を必要とする。
その他　0%

科 目 名	日本文学演習10-2　B　新旧の戦争論を概観し、近代・現代の戦争文学を読む							
担当者名	高橋　敏夫							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本年度は、戦争文学全集として最大規模の試み『コレクション　戦争×文学』（集英社）全20巻・別巻1で、わたしが編集した巻の中から、第20巻『オキナワ　終わらぬ戦争』と第4巻『9・11　変容する戦争』をとりあげる。まず、参加者全員が、それぞれもっとも関心のある新・旧「戦争論」（一冊あるいは複数）について報告したうえで、関心のある巻に収められている作品について考察し報告する。

授業の到達目標

修士論文の完成を目指す。

成績評価方法

試験　0%

レポート　70%　成績評価においては、その成績をA＋（優）、A（優）、B（良）、C（可）、F（不可）の五段階評価とし、C以上を合格とする。A＋、A、B、Cについては、課題に対する理解度、独創的視点の有無、文章表現の巧拙を総合して判定する。

平常点評価　30%　出席回数は授業回数の三分の二以上を必要とする。

その他　0%

科 目 名	日本文学演習11-1　A　明治期の文学テクスト（小説）を読む							
担当者名	宗像　和重							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

明治期小説の作品集ないしアンソロジーを材料とし、十数編を選んで、毎回、受講生の発表と質疑を中心として演習を進める。とりあげる材料や発表方法などの具体的な点については、最初の授業時間に提示し、受講生の人数などに応じて日程を相談したい。

なお、修士課程1年生の授業（日本文学演習11－1A）と2年生の授業（日本文学演習11－1B）は、火4・5時限に合同で行う。

授業の到達目標

この演習では、近代文学の広範な領域のなかから、とくに明治期の文学テクスト（小説）を対象として、本文の分析と読解の方法を検討する。文体や風俗、時代背景の違いなどから、今日、明治文学を研究対象とするには多くの困難があるが、文体・視点・語り・描写など、近代文学および近代文学研究の諸課題は、明治期の文学に端を発していることを、あらためて確認する場にしたい。それを通して、大正・昭和・戦後・現代の文学を研究対象としている受講生にも、それぞれの研究に資することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　一編の論文としてまとまった体裁と内容を備えているかどうかを評価する。

●**平常点**　50%　　限られた時間のなかで、どのように説得力のある報告ができたか、また質疑に積極的に参加できたかどうかを評価する。

●**その他**　0%

科 目 名	日本文学演習11-2　A　明治期の文学テクスト（小説）を読む							
担当者名	宗像　和重							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

明治期小説の作品集ないしアンソロジーを材料とし、十数編を選んで、毎回、受講生の発表と質疑を中心として演習を進める。とりあげる材料や発表方法などの具体的な点については、最初の授業時間に提示し、受講生の人数などに応じて日程を相談したい。

なお、修士課程1年生の授業（日本文学演習11－2A）と2年生の授業（日本文学演習11－2B）は、合同で行う。

授業の到達目標

この演習では、近代文学の広範な領域のなかから、とくに明治期の文学テクスト（小説）を対象として、本文の分析と読解の方法を検討する。文体や風俗、時代背景の違いなどから、今日、明治文学を研究対象とするには多くの困難があるが、文体・視点・語り・描写など、近代文学および近代文学研究の諸課題は、明治期の文学に端を発していることを、あらためて確認する場にしたい。それを通して、大正・昭和・戦後・現代の文学を研究対象としている受講生にも、それぞれの研究に資することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　一編の論文としてまとまった体裁と内容を備えているかどうかを評価する。

●**平常点**　50%　　限られた時間のなかで、どのように説得力のある報告ができたか、また質疑に積極的に参加できたかどうかを評価する。

●**その他**　0%

科 目 名	日本文学演習11-1　B　明治期の文学テクスト（小説）を読む							
担当者名	宗像　和重							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	火曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

明治期小説の作品集ないしアンソロジーを材料とし、十数編を選んで、毎回、受講生の発表と質疑を中心として演習を進める。とりあげる材料や発表方法などの具体的な点については、最初の授業時間に提示し、受講生の人数などに応じて日程を相談したい。

なお、修士課程1年生の授業（日本文学演習11－1A）と2年生の授業（日本文学演習11－1B）は、火4・5時限に合同で行う。

授業の到達目標

この演習では、近代文学の広範な領域のなかから、とくに明治期の文学テクスト（小説）を対象として、本文の分析と読解の方法を検討する。文体や風俗、時代背景の違いなどから、今日、明治文学を研究対象とするには多くの困難があるが、文体・視点・語り・描写など、近代文学および近代文学研究の諸課題は、明治期の文学に端を発していることを、あらためて確認する場にしたい。それを通して、大正・昭和・戦後・現代の文学を研究対象としている受講生にも、それぞれの研究に資することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　一編の論文としてまとまった体裁と内容を備えているかどうかを評価する。
●**平常点**　50%　　限られた時間のなかで、どのように説得力のある報告ができたか、また質疑に積極的に参加できたかどうかを評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	日本文学演習11-2　B　明治期の文学テクスト（小説）を読む							
担当者名	宗像　和重							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	火曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

明治期小説の作品集ないしアンソロジーを材料とし、十数編を選んで、毎回、受講生の発表と質疑を中心として演習を進める。とりあげる材料や発表方法などの具体的な点については、最初の授業時間に提示し、受講生の人数などに応じて日程を相談したい。

なお、修士課程1年生の授業（日本文学演習11－2A）と2年生の授業（日本文学演習11－2B）は、合同で行う。

授業の到達目標

この演習では、近代文学の広範な領域のなかから、とくに明治期の文学テクスト（小説）を対象として、本文の分析と読解の方法を検討する。文体や風俗、時代背景の違いなどから、今日、明治文学を研究対象とするには多くの困難があるが、文体・視点・語り・描写など、近代文学および近代文学研究の諸課題は、明治期の文学に端を発していることを、あらためて確認する場にしたい。それを通して、大正・昭和・戦後・現代の文学を研究対象としている受講生にも、それぞれの研究に資することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　一編の論文としてまとまった体裁と内容を備えているかどうかを評価する。
●**平常点**　50%　　限られた時間のなかで、どのように説得力のある報告ができたか、また質疑に積極的に参加できたかどうかを評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	日本文学演習12-1　A　文学研究の方法と実践							
担当者名	Ph.D.（ミシガン大）　榊原　理智							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	火曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士1年と2年が合同で、日本近代文学研究の方法論と実際の論文執筆に役立つ実践的授業を行う。

授業の到達目標

1）論文の基本的な作法を学ぶ　2）　現在の近代日本文学研究を学問領域として大きく眺める眼を養う　3）さまざまな方法論に自覚的になる　4)資料を論文のなかで活かせる方法を学ぶ

成績評価方法

発表の出来、議論へのコミットメント、出席等によって総合的に評価する。

科 目 名	日本文学演習12-2　A　文学研究の方法と実践							
担当者名	Ph.D.（ミシガン大）　榊原　理智							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	火曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士1年と2年が合同で、日本近代文学研究の方法論と実際の論文執筆に役立つ実践的授業を行う。

授業の到達目標

1）論文の基本的な作法を学ぶ　2）　現在の近代日本文学研究を学問領域として大きく眺める眼を養う　3）さまざまな方法論に自覚的になる　4)資料を論文のなかで活かせる方法を学ぶ

成績評価方法

発表の出来、議論へのコミットメント、出席等によって総合的に評価する。

科 目 名	日本文学演習12-1　B　文学研究の方法と実践							
担当者名	Ph.D.（ミシガン大）　榊原　理智							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士1年と2年が合同で、日本近代文学研究の方法論と実際の論文執筆に役立つ実践的授業を行う。

授業の到達目標

1）論文の基本的な作法を学ぶ　2）　現在の近代日本文学研究を学問領域として大きく眺める眼を養う　3）さまざまな方法論に自覚的になる　4)資料を論文のなかで活かせる方法を学ぶ

成績評価方法

発表の出来、議論へのコミットメント、出席等によって総合的に評価する。

科 目 名	日本文学演習12-2　B　文学研究の方法と実践							
担当者名	Ph.D.（ミシガン大）　榊原　理智							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士1年と2年が合同で、日本近代文学研究の方法論と実際の論文執筆に役立つ実践的授業を行う。

授業の到達目標

1)論文の基本的な作法を学ぶ　2)現在の近代日本文学研究を学問領域として大きく眺める眼を養う　3)さまざまな方法論に自覚的になる　4)資料を論文のなかで活かせる方法を学ぶ

成績評価方法

発表の出来、議論へのコミットメント、出席等によって総合的に評価する。

科 目 名	日本文学演習13-1　『蒙求聴塵』を読む							
担当者名	博士(文学)早大　河野　貴美子							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

清原宣賢の『蒙求聴塵』を精読する。『蒙求聴塵』は、清原宣賢が『蒙求』の語句に対して詳細な注釈を施した、いわゆる抄物である。『蒙求』は日本に伝来して以後、学問への入門書、すなわち幼学書として広く学ばれ、日本のことばや文学の世界に大きな影響を与えた。本演習では、清原宣賢による『蒙求』解釈を通じて、漢籍の日本における受容や、『蒙求』所載のことばや故事が説話をはじめとする日本の言説へ及ぼした影響など、文学・文化史の諸問題へも意識を広げながら読解、考察を行っていきたい。授業は、はじめに概説を行った後、個々に分担した箇所について、翻刻、注釈を行い、考察とともに発表してもらう。

授業の到達目標

日本に伝来した漢籍がいかにして日本のことばや文学に影響を及ぼしていったのか、東アジアに展開した漢字・漢文文化について理解を深めるとともに、広く日本文学史・文化史を見渡しながら考察を進めていくための知識、スキルを身につける。写本資料の翻刻、諸本との校合、及びさまざまな和漢古文献の利用について習熟するとともに、資料の読解を通してさらに発展的な考察を構築していける思考力を養う。

成績評価方法

- **試験**　0%　　行わない
- **レポート**　0%　　行わない
- **平常点**　100%　　発表、授業への参加状況により評価する。
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	日本文学演習13-2　『蒙求聴塵』を読む							
担当者名	博士(文学)早大　河野　貴美子							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

清原宣賢の『蒙求聴塵』を精読する。『蒙求聴塵』は、清原宣賢が『蒙求』の語句に対して詳細な注釈を施した、いわゆる抄物である。『蒙求』は日本に伝来して以後、学問への入門書、すなわち幼学書として広く学ばれ、日本のことばや文学の世界に大きな影響を与えた。本演習では、清原宣賢による『蒙求』解釈を通じて、漢籍の日本における受容や、『蒙求』所載のことばや故事が説話をはじめとする日本の言説へ及ぼした影響など、文学・文化史の諸問題へも意識を広げながら読解、考察を行っていきたい。授業は、はじめに概説を行った後、個々に分担した箇所について、翻刻、注釈を行い、考察とともに発表してもらう。

授業の到達目標

日本に伝来した漢籍がいかにして日本のことばや文学に影響を及ぼしていったのか、東アジアに展開した漢字・漢文文化について理解を深めるとともに、広く日本文学史・文化史を見渡しながら考察を進めていくための知識、スキルを身につける。写本資料の翻刻、諸本との校合、及びさまざまな和漢古文献の利用について習熟するとともに、資料の読解を通してさらに発展的な考察を構築していける思考力を養う。

成績評価方法

- **試験**　0%　　行わない
- **レポート**　0%　　行わない
- **平常点**　100%　　発表、授業への参加状況により評価する。
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	日本語学演習2-1　日本語アクセント史の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　上野　和昭							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本語アクセントの史的変遷を見渡しつつ、文献資料を研究する方法とその成果をアクセント史上に位置付ける方法を解説する。

授業の到達目標

アクセント史の文献資料を適切に日本語史上に位置づけられるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　とくに予定していない。
●**レポート**　90%　　テーマ設定が適切であること、データの採集が正確であること、さらにデータの解釈とアクセント史上への位置付けが妥当であることを評価基準とする。
●**平常点**　10%　　3分の2以上の出席は必要。そのうえで授業に積極的に参加しているかどうかにより評価する。
●**その他**　0%　　とくにない。

科 目 名	日本語学演習2-2　日本語アクセント史資料の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　上野　和昭							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本語アクセントの史的変遷を見渡しつつ、文献の記述からアクセント史を考察する方法と、その成果をアクセント史上に位置付ける方法を解説する。

授業の到達目標

文献資料から日本語アクセント史を構築する方法を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　とくに予定していない。
●**レポート**　90%　　テーマ設定が適切であること、データの採集が正確であること、さらにデータの解釈とアクセント史上への位置付けが妥当であることを評価基準とする。
●**平常点**　10%　　3分の2以上の出席は必要。そのうえで授業に積極的に参加しているかどうかにより評価する。
●**その他**　0%　　とくにない。

科 目 名	日本語学演習3-1　日本語の時の表現							
担当者名	学術博士(阪大)　　森山　卓郎							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	木曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要

時の表現について考える

授業の到達目標

時の表現を中心に日本語の見方を考える

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない
●**レポート**　60%　　基本的な概念が理解できているか、オリジナルな観点からの分析ができるか。
●**平常点**　40%　　授業に積極的に参加できているか。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	日本語学演習3-2　日本語研究の重要概念の検討							
担当者名	学術博士(阪大)　　森山　卓郎							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本語研究の重要概念について論文等の輪読をも含めて検討する。
適宜、出席者の研究課題に応じて内容を調整することがある。
出席者の研究発表の予行なども含め、内容を調整することがある。

授業の到達目標

日本語研究上有用と思われる重要概念について理解し、それをもとにした議論ができるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　原則としてしない。
●**レポート**　20%　　オリジナルな知見があるか
●**平常点**　80%　　授業での積極的参加を求める
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	日本文学特別演習1　Listening to Heaven and Earth: Humankind and the Environment in Premodern Literature of the Archipelago							
担当者名	Ph.D. コロンビア大　　リーブズ　クリストファー							
日本語日本文学コース	２単位	春学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

In this course, we will be exploring ways in which the relationships between humankind and the natural environment (animals included) are imagined and negotiated in literary texts written or performed by peoples living on the Japanese archipelago. In some cases, this will include literature belonging to the Ainu and Ryukyu traditions. We will look at a broad range of sources, including poetry, religious essays, and popular fiction, from the Nara through to the Edo period. While all of the primary sources we will be looking at in this course are available in Japanese, we will be focusing a great deal of our attention on English-language translations of these texts. We will, moreover, use English when discussing the material together in class.

Regarding primary sources, students may read materials in the original Japanese or in modern Japanese translations, depending on their language ability. All secondary materials—various articles and chapters from scholarly monographs—looked at in this course are only available in English. As this is a graduate seminar, students are expected to have some knowledge of Japanese language and literature. More importantly, however, students are required to be able to read and understand English.

授業の到達目標

This course seeks to achieve two objectives. First, students will be able to gain an appreciation of the complex ways in which the relationship between humankind and nature has been depicted and negotiated throughout the history of the Japanese archipelago. Second, by looking at materials in both the original and through English translations, students will learn to reconsider Japanese culture from the outside, thereby encouraging new interpretations.

成績評価方法

Students will be evaluated based on the following three factors:

1. Weekly attendance and active participation in class discussions: 30%
2. Weekly in-class short (5-10 minute) presentations: 30%
3. Two written reports, due during the middle and end of the course: 40% (each report being worth 20%)

In exceptional cases, such as unavoidable absence from class, students will be given the opportunity to submit extra work in order to make up for lost marks. Such arrangements may be made on an individual basis with the instructor.

科 目 名	日本文学特別演習2　Where Monsters and Fairies Meet: Popular Stories and Fairytales of Japan and Europe							
担当者名	Ph.D. コロンビア大　　リーブズ　クリストファー							
日本語日本文学コース	２単位	秋学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

In this course, we will be exploring the world of premodern Japanese folktales (mukashi banashi) and popular stories (otogi zōshi) by means of comparison with analogous fairytales and other children's stories from various European literary traditions. By means of this comparative examination, focusing especially on a number of literary motifs found in both Japanese and European tales, we will discuss ways in which Japanese folktales are essentially different from their European counterparts, as well as possible reasons for these differences.

While all of the primary Japanese sources we will be looking at in this course are available in Japanese, we will be focusing a great deal of our attention on English-language translations of these texts. We will, moreover, use English when discussing the material together in class.

Regarding primary sources, students may read materials in the original Japanese or in modern Japanese translations, depending on their language ability. All secondary materials—various articles and chapters from scholarly monographs—looked at in this course are only available in English. As this is a graduate seminar, students are expected to have some knowledge of Japanese language and literature. More importantly, however, students are required to be able to read and understand English.

授業の到達目標

This course seeks to achieve two objectives. First, students will be able to gain an appreciation of a number of essential differences between Japanese folktales and European fairytales. Second, by looking at materials in both the original and through English translations, students will learn to reconsider Japanese culture from the outside, thereby encouraging new interpretations.

成績評価方法

Students will be evaluated based on the following three factors:

1. Weekly attendance and active participation in class discussions: 30%
2. Weekly in-class short (5-10 minute) presentations: 30%
3. Two written reports, due during the middle and end of the course: 40% (each report being worth 20%)

In exceptional cases, such as unavoidable absence from class, students will be given the opportunity to submit extra work in order to make up for lost marks. Such arrangements may be made on an individual basis with the instructor.

科 目 名	日本文学研究指導1-1　M　上代							
担当者名	博士(文学)早大　　高松　寿夫							
日本語日本文学コース	—	春学期	金曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文作成に向けた研究指導

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導1-2　M　上代							
担当者名	博士(文学)早大　　高松　寿夫							
日本語日本文学コース	—	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文作成に向けた研究指導

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導3-1　M　中古散文							
担当者名	博士(文学)早大　　陣野　英則							
日本語日本文学コース	—	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日本中古文学（平安時代文学）、特に物語文学、日記文学など、仮名を用いた散文作品に関する深い学識、およびそれらに関わる専門的職業を担う能力が身につくように指導する。 修士論文については、二年間の修業年限の中で学術的価値のある論文がまとめられるよう、適宜個別に指導する。また、個々の研究に進展がみられる場合には、まず学内の研究会・学会などで研究発表ができるように指導するとともに、学術雑誌への投稿論文をまとめるためのサポートを行う。

授業の到達目標

学術的価値のある修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導3-2　M　中古散文							
担当者名	博士(文学)早大　　陣野　英則							
日本語日本文学コース	—	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日本中古文学（平安時代文学）、特に物語文学、日記文学など、仮名を用いた散文作品に関する深い学識、およびそれらに関わる専門的職業を担う能力が身につくように指導する。

修士論文については、二年間の修業年限の中で学術的価値のある論文がまとめられるよう、適宜個別に指導する。また、個々の研究に進展がみられる場合には、まず学内の研究会・学会などで研究発表ができるように指導するとともに、学術雑誌への投稿論文をまとめるためのサポートを行う。

授業の到達目標

学術的価値のある修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導4-1　M　中古・中世韻文							
担当者名	兼築　信行							
日本語日本文学コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

主として中古・中世和歌に関する調査・研究スキルの基本を習得するとともに、各自の研究テーマに即して問題点を整理し、修士論文への構想を練り、研究計画を立案したうえで、具体的な研究を進めていく。

授業の到達目標
研究の基本スキルを習得し、修士論文の計画を立て、完成させること。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導4-2　M　中古・中世韻文							
担当者名	兼築　信行							
日本語日本文学コース	—	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
主として中古・中世和歌に関する調査・研究スキルの基本を習得するとともに、各自の研究テーマに即して問題点を整理し、修士論文への構想を練り、研究計画を立案したうえで、具体的な研究を進めていく。

授業の到達目標
研究の基本スキルを習得し、修士論文の計画を立て、完成させること。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導5-1　M　中世散文							
担当者名	博士（文学）早大　　和田　琢磨							
日本語日本文学コース	—	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
日本中世文学のうち、軍記物語・説話文学を中心とした散文作品に関する研究指導を行う。
修士論文については、適宜個別に指導する。具体的には、先行研究の批判的検討、各自のテーマの確立、論文の構成と展開に関する事柄を中心に指導する。また、学会発表用の資料の作り方についても指導する。

授業の到達目標
学術的にすぐれた修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導5-2　M　中世散文							
担当者名	博士（文学）早大　　和田　琢磨							
日本語日本文学コース	—	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
日本中世文学のうち、軍記物語・説話文学を中心とした散文作品に関する研究指導を行う。
修士論文については、適宜個別に指導する。具体的には、先行研究の批判的検討、各自のテーマの確立、論文の構成と展開に関する事柄を中心に指導する。また、学会発表用の資料の作り方についても指導する。

授業の到達目標
学術的にすぐれた修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導7-1　M　近世							
担当者名	博士（文学）早大　　池澤　一郎							
日本語日本文学コース	—	春学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
日本近世文学を専攻する修士課程の大学院生に、論文の題材について示唆し、作成方法を指示し、作成した論文について論評を加え、適宜添削を施して、最終的に修士論文の完成につなげる。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導7-2　M　近世							
担当者名	博士（文学）早大　　池澤　一郎							
日本語日本文学コース	—	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
日本近世文学を専攻する修士課程の大学院生に、論文の題材について示唆し、作成方法を指示し、作成した論文について論評を加え、適宜添削を施して、最終的に修士論文の完成につなげる。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導8-1A　M　昭和期							
担当者名	博士(文学)早大　　鳥羽　耕史							
日本語日本文学コース	—	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の完成に向けた指導を行う。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導8-1B　M　昭和期							
担当者名	博士(文学)早大　　鳥羽　耕史							
日本語日本文学コース	—	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の完成に向けた指導を行う。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導8-2A　M　昭和期							
担当者名	博士(文学)早大　　鳥羽　耕史							
日本語日本文学コース	—	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の完成に向けた指導を行う。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導8-2B　M　昭和期							
担当者名	博士(文学)早大　　鳥羽　耕史							
日本語日本文学コース	—	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の完成に向けた指導を行う。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導10-1A　M　昭和後期・現代							
担当者名	高橋　敏夫							
日本語日本文学コース	—	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
本年度は、戦争文学全集として最大規模の試み『コレクション　戦争×文学』（集英社）全20巻・別巻1で、わたしが編集した巻の中から、第20巻『オキナワ　終わらぬ戦争』と第4巻『9・11　変容する戦争』をとりあげる。まず、参加者全員が、それぞれもっとも関心のある新・旧「戦争論」（一冊あるいは複数）について報告したうえで、関心のある巻に収められている作品について考察し報告する。
授業の到達目標
修士論文の準備をはじめる
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指

導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導10-1B　M　昭和後期・現代							
担当者名	高橋　敏夫							
日本語日本文学コース	—	春学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本年度は、戦争文学全集として最大規模の試み『コレクション　戦争×文学』（集英社）全20巻・別巻1で、わたしが編集した巻の中から、第20巻『オキナワ　終わらぬ戦争』と第4巻『9・11　変容する戦争』をとりあげる。まず、参加者全員が、それぞれもっとも関心のある新・旧「戦争論」（一冊あるいは複数）について報告したうえで、関心のある巻に収められている作品について考察し報告する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導10-2A　M　昭和後期・現代							
担当者名	高橋　敏夫							
日本語日本文学コース	—	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本年度は、戦争文学全集として最大規模の試み『コレクション　戦争×文学』（集英社）全20巻・別巻1で、わたしが編集した巻の中から、第第20巻『オキナワ　終わらぬ戦争』と第4巻『9・11　変容する戦争』をとりあげる。まず、参加者全員が、それぞれもっとも関心のある新・旧「戦争論」（一冊あるいは複数）について報告したうえで、関心のある巻に収められている作品について考察し報告する。

授業の到達目標

修士論文の準備をはじめる。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導10-2B　M　昭和後期・現代							
担当者名	高橋　敏夫							
日本語日本文学コース	—	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本年度は、戦争文学全集として最大規模の試み『コレクション　戦争×文学』（集英社）全20巻・別巻1で、わたしが編集した巻の中から、第20巻『オキナワ　終わらぬ戦争』と第4巻『9・11　変容する戦争』をとりあげる。まず、参加者全員が、それぞれもっとも関心のある新・旧「戦争論」（一冊あるいは複数）について報告したうえで、関心のある巻に収められている作品について考察し報告する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導11-1A　M　明治期を中心とした近代文学研究指導							
担当者名	宗像　和重							
日本語日本文学コース	—	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

大学院の研究活動は、対象とするテクストの読解を通して、論文を作成していくことに尽きる。この授業では、各自の研究テーマに即しながら、テクストの読解と注釈、資料の調査、先行研究の摂取などを通して、具体的な論文作成の方法を学んでいく。

授業の到達目標

自分の研究テーマについて理解を深め、それを論文として言語化していくことにあるが、最終的には修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導11-1B　M　明治期を中心とした近代文学研究指導							
担当者名	宗像　和重							
日本語日本文学コース	—	春学期	火曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

大学院の研究活動は、対象とするテクストの読解を通して、論文を作成していくことに尽きる。この授業では、各自の研究テー

マに即しながら、テクストの読解と注釈、資料の調査、先行研究の摂取などを通して、具体的な論文作成の方法を学んでいく。

授業の到達目標

自分の研究テーマについて理解を深め、それを論文として言語化していくことにあるが、最終的には修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導11-2A　M　明治期から大正期を中心とした近代文学研究指導							
担当者名	宗像　和重							
日本語日本文学コース	—	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

大学院の研究活動は、対象とするテクストの読解を通して、論文を作成していくことに尽きる。この授業では、各自の研究テーマに即しながら、テクストの読解と注釈、資料の調査、先行研究の摂取などを通して、具体的な論文作成の方法を学んでいく。

授業の到達目標

自分の研究テーマについて理解を深め、それを論文として言語化していくことにあるが、最終的には修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導11-2B　M　明治・大正期を中心とした近代文学研究指導							
担当者名	宗像　和重							
日本語日本文学コース	—	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

大学院の研究活動は、対象とするテクストの読解を通して、論文を作成していくことに尽きる。この授業では、各自の研究テーマに即しながら、テクストの読解と注釈、資料の調査、先行研究の摂取などを通して、具体的な論文作成の方法を学んでいく。

授業の到達目標

自分の研究テーマについて理解を深め、それを論文として言語化していくことにあるが、最終的には修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導12-1A　M							
担当者名	Ph.D.（ミシガン大）　榊原　理智							
日本語日本文学コース	—	春学期	火曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文完成に向けて、研究方法等を指導する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導12-1B　M　修士論文指導							
担当者名	Ph.D.（ミシガン大）　榊原　理智							
日本語日本文学コース	—	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の完成に向けて、研究方法等の指導を行う。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導12-2A　M							
担当者名	Ph.D.（ミシガン大）　榊原　理智							
日本語日本文学コース	—	秋学期	火曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の完成に向けて、研究方法等を指導する。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導12-2B　M							
担当者名	Ph.D.（ミシガン大）　榊原　理智							
日本語日本文学コース	—	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の完成に向けて、研究方法等の指導を行う。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導13-1　M　和漢比較文学							
担当者名	博士（文学）早大　河野　貴美子							
日本語日本文学コース	—	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
主として日本古代の和漢文による著作に関する研究指導を行う。各自の研究テーマに沿いつつ、関係分野の研究史をおさえながら、資料を収集、整理、分析、考察し、修士論文を作成していけるよう指導する。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導13-2　M　和漢比較文学							
担当者名	博士（文学）早大　河野　貴美子							
日本語日本文学コース	—	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
主として日本古代の和漢文による著作に関する研究指導を行う。各自の研究テーマに沿いつつ、関係分野の研究史をおさえながら、資料を収集、整理、分析、考察し、修士論文を作成していけるよう指導する。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本語学研究指導2-1　M　日本語の歴史と現在2							
担当者名	博士（文学）早大　上野　和昭							
日本語日本文学コース	—	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の研究構想、中間発表などを通して研究上の必要なことを指導するほか、書評・学界展望のやり方についても指導する。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本語学研究指導2-2　M　日本語の歴史と現在2							
担当者名	博士（文学）早大　上野　和昭							
日本語日本文学コース	—	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
それぞれの研究テーマについて、関係する分野の先行研究、学界展望、書評などを課す。さらに、修士論文作成にむけて、何度かの研究発表を要求する。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本語学研究指導3-1　M　日本語の歴史と現在3							
担当者名	学術博士（阪大）　森山　卓郎							
日本語日本文学コース	—	春学期	木曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
論文購読、研究発表などをとおして、修士論文作成にむけた研究を行います。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本語学研究指導3-2　M　日本語の歴史と現在3							
担当者名	学術博士（阪大）　森山　卓郎							
日本語日本文学コース	—	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
研究発表と論文購読
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導1-1　D　上代							
担当者名	博士（文学）早大　高松　寿夫							
日本語日本文学コース	—	春学期	金曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
学位論文作成に向けた研究指導
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導1-2　D　上代							
担当者名	博士（文学）早大　高松　寿夫							
日本語日本文学コース	—	秋学期	金曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
学位論文作成に向けた研究指導
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導2-1　D　上代散文							
担当者名	博士（文学）早大　松本　直樹							
日本語日本文学コース	—	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
学会発表や学術論文の執筆を通して、博士論文の作成を進める。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導2-2　D　上代散文							
担当者名	博士(文学)早大　　松本　直樹							
日本語日本文学コース	—	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

学会発表や学術論文の執筆を通して、博士論文の作成を進める。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導3-1　D　中古散文							
担当者名	博士(文学)早大　　陣野　英則							
日本語日本文学コース	—	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日本中古文学（平安時代文学）、特に物語文学、日記文学など、仮名を用いた散文作品に関する研究を指導し、研究者として自立させることをめざす。

学期中は、毎週、個人の研究発表とそれについての質疑を中心に行う。そこでのやりとりをもとに、研究内容をブラッシュ・アップした上で、学会発表、あるいは学会誌への投稿などを促してゆく。学会発表前には、発表の内容と資料などをチェックする。また、投稿論文についても、投稿前の段階で数次にわたりチェックする。

上記のようなやりとりを経て研究成果を公にしてゆきながら、博士論文の計画についても適宜相談を重ね、体系性と一貫性とを有する学位論文の執筆をサポートする。

なお、個々の研究内容をふまえ、必要に応じて、学外の研究者、あるいは当人にとって有益な研究会などを紹介する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導3-2　D　中古散文							
担当者名	博士(文学)早大　　陣野　英則							
日本語日本文学コース	—	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日本中古文学（平安時代文学）、特に物語文学、日記文学など、仮名を用いた散文作品に関する研究を指導し、研究者として自立させることをめざす。

学期中は、毎週、個人の研究発表とそれについての質疑を中心に行う。そこでのやりとりをもとに、研究内容をブラッシュ・アップした上で、学会発表、あるいは学会誌への投稿などを促してゆく。学会発表前には、発表の内容と資料などをチェックする。また、投稿論文についても、投稿前の段階で数次にわたりチェックする。

上記のようなやりとりを経て研究成果を公にしてゆきながら、博士論文の計画についても適宜相談を重ね、体系性と一貫性とを有する学位論文の執筆をサポートする。

なお、個々の研究内容をふまえ、必要に応じて、学外の研究者、あるいは当人にとって有益な研究会などを紹介する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導4-1　D　中古・中世韻文							
担当者名	兼築　信行							
日本語日本文学コース	—	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

各自の研究テーマを進展させ、博士学位請求論文完成への階梯を昇るアドバイスを適宜継続的に行なう。具体的には、萌芽的な研究報告、学会発表等のリハーサル、論文執筆に関する指導等を、ゼミナール形式で実施する。博士論文の構成・目次を、常に整備することが求められる。

研究発表準備には十数時間が必要。発表者以外はその場での質疑への積極的対応が重要となる。

授業の到達目標

全国規模の学会での研究発表、および査読雑誌への論文掲載を目指しつつ、修業年限内で博士学位請求論文を完成・提出する。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導4-2　D　中古・中世韻文							
担当者名	兼築　信行							
日本語日本文学コース	—	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

各自の研究テーマを進展させ、博士学位請求論文完成への階梯を昇るアドバイスを適宜継続的に行なう。具体的には、萌芽的な研究報告、学会発表等のリハーサル、論文執筆に関する指導等を、ゼミナール形式で実施する。博士論文の構成・目次を、常に整備することが求められる。

研究発表準備には十数時間が必要。発表者以外はその場での質疑への積極的対応が重要となる。

授業の到達目標

全国規模の学会での研究発表、および査読雑誌への論文掲載を目指しつつ、修業年限内で博士学位請求論文を完成・提出する。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導5-1　D　中世散文							
担当者名	博士（文学）早大　　和田　琢磨							
日本語日本文学コース	—	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本中世文学のうち、軍記物語を中心とした散文作品の研究指導を行う。年に2本以上の論文作成を目標にして指導する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導5-2　D　中世散文							
担当者名	博士（文学）早大　　和田　琢磨							
日本語日本文学コース	—	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本中世文学のうち、軍記物語を中心とした散文作品の研究指導を行う。年に2本以上の論文作成を目標にして指導する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導7-1　D　近世（近世俳諧演習）							
担当者名	博士（文学）早大　　池澤　一郎							
日本語日本文学コース	—	春学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本近世文学を専攻する大学院博士課程の院生に、論文の題材について示唆し、論文作成の方法や手順について指示し、作成した論文について論評を加えたり、添削を行って、最終的には博士学位論文につながるような指導を行う。

院生の発表報告の準備期間中は近世俳諧演習（其角、蕪村、几董の俳書、句集読解）を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導7-2　D　近世（近世俳諧演習）							
担当者名	博士（文学）早大　　池澤　一郎							
日本語日本文学コース	—	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本近世文学を専攻する大学院博士課程の院生に、論文の題材について示唆し、論文作成の方法や手順について指示し、作成した論文について論評を加えたり、添削を行って、最終的には博士学位論文につながるような指導を行う。

院生の発表報告の準備期間中は近世俳諧演習（其角、蕪村、几董の俳書の輪読）を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導8-1　D　昭和期							
担当者名	博士(文学)早大　　鳥羽　耕史							
日本語日本文学コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

学会発表をし、学会誌に論文を投稿し、課程博士論文を完成できるよう、個別指導を中心に進める。各受講者は、自身の研究テーマについて、少なくとも1回は報告をする。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導8-2　D　昭和期							
担当者名	博士(文学)早大　　鳥羽　耕史							
日本語日本文学コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

学会発表をし、学会誌に論文を投稿し、課程博士論文を完成できるよう、個別指導を中心に進める。各受講者は、自身の研究テーマについて、少なくとも1回は報告をする。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導10-1　D　昭和後期・現代							
担当者名	高橋　敏夫							
日本語日本文学コース	—	春学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

各自ですすめる研究の現状報告と、学会発表の予行演習、また最新の研究論文を輪読する。授業を通して、年一回の論文発表・学会発表を可能にする。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導10-2　D　昭和後期・現代							
担当者名	高橋　敏夫							
日本語日本文学コース	—	秋学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

各自ですすめる研究の現状報告と、学会発表の予行演習、また最新の研究論文を輪読する。授業を通して、年一回の論文発表・学会発表を可能にする。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導11-1　D　明治期を中心とする近代文学研究指導							
担当者名	宗像　和重							
日本語日本文学コース	—	春学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

各自の研究テーマを深め、資料の調査や先行研究の精査を通して、研究論文の作成や学会報告の実践に資するとともに、最終的には課程博士論文の執筆と完成をめざす。

授業の到達目標

それぞれの研究テーマについて、自立した研究者として研究活動を展開することにあるが、最終的には修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導11-2　D　明治期を中心とする近代文学研究指導							
担当者名	宗像　和重							
日本語日本文学コース	—	秋学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

各自の研究テーマを深め、資料の調査や先行研究の精査を通して、研究論文の作成や学会報告の実践に資するとともに、最終的には課程博士論文の執筆と完成をめざす。

授業の到達目標

それぞれの研究テーマについて、自立した研究者として研究活動を展開することにあるが、最終的には修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導12-1　D　大正期から昭和前期							
担当者名	博士(文学)早大　十重田　裕一							
日本語日本文学コース	—	春学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

課程博士論文を仕上げられるよう、個別指導を中心に授業を進める。各受講者は、自身の研究テーマについて、少なくとも1回は報告をする。

この授業では、各自の研究テーマに即して、様々な研究方法を学びながら、論文にまとめるスキルを身につけることを目的とする。

授業の到達目標

この授業では、各自の研究テーマに即して、様々な研究方法を学びながら、課程博士論文にまとめるスキルを身につけることを目的とする。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　授業の発表と参加度による評価。
- **その他**　0%　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導12-2　D　大正期から昭和前期							
担当者名	博士(文学)早大　十重田　裕一							
日本語日本文学コース	—	秋学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

課程博士論文を仕上げられるよう、個別指導を中心に授業を進める。各受講者は、自身の研究テーマについて、少なくとも1回は報告をする。

この授業では、各自の研究テーマに即して、様々な研究方法を学びながら、論文にまとめるスキルを身につけることを目的とする。

授業の到達目標

この授業では、各自の研究テーマに即して、様々な研究方法を学びながら、課程博士論文にまとめるスキルを身につけることを目的とする。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　授業の発表と参加度による評価。
- **その他**　0%　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導13-1　D　和漢比較文学							
担当者名	博士(文学)早大　河野　貴美子							
日本語日本文学コース	—	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文作成にむけての指導を行う。

各自のテーマによる研究発表を行いつつ、それを学会発表や学術雑誌への投稿論文へと発展させていけるようにする。

各自のテーマを深化させていくと同時に、より幅広く展開していける可能性をそなえもつ研究となるよう指導したい。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本文学研究指導13-2　D　和漢比較文学							
担当者名	博士(文学)早大　　河野　貴美子							
日本語日本文学コース	—	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文作成にむけての指導を行う。
各自のテーマによる研究発表を行いつつ、それを学会発表や学術雑誌への投稿論文へと発展させていけるようにする。
各自のテーマを深化させていくと同時に、より幅広く展開していける可能性をそなえもつ研究となるよう指導したい。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本語学研究指導2-1　D　日本語の歴史と現在2							
担当者名	博士(文学)早大　　上野　和昭							
日本語日本文学コース	—	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

それぞれの研究テーマについて、関係する分野の先行研究、学界展望、書評などを課す。さらに、博士論文作成にむけて、何度かの研究発表を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%　　とくに予定していない。
- **レポート**　0%　　とくに予定していない。
- **平常点**　0%　　評価の対象にはしない。
- **その他**　100%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本語学研究指導2-2　D　日本語の歴史と現在2							
担当者名	博士(文学)早大　　上野　和昭							
日本語日本文学コース	—	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

それぞれの研究テーマについて、関係する分野の先行研究、学界展望、書評などを課す。さらに、博士論文作成にむけて、何度かの研究発表を行う。とくに後期は、修業年限の迫っている学生に対して、徹底した論文指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%　　とくに予定していない。
- **レポート**　0%　　とくに予定していない。
- **平常点**　0%　　とくに予定していない。
- **その他**　100%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本語学研究指導3-1　D　日本語の歴史と現在3							
担当者名	学術博士(阪大)　　森山　卓郎							
日本語日本文学コース	—	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文作成にむけて研究指導をします。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
この一年で学会論文への掲載ないし学会発表を少なくとも一つできることを目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本語学研究指導3-2　D　日本語の歴史と現在3							
担当者名	学術博士(阪大)　　森山　卓郎							
日本語日本文学コース	—	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日本語文法の研究
日本語文法研究の現状と課題について検討する。
受講生の研究課題に対応しつつ、積極的に論文発表や研究発表につなげていく。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を目標とする

学会発表ないし学会への論文投稿をすること。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

英文学コース

科 目 名	英米文学基礎講義1　英米文学はどのように研究するか							
担当者名	Ph.D.（ケント大）　森田　典正							
英文学コース	２単位	春学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士課程のレベルの英米文学研究において、どのような研究を、どのように進めるかについて指導しながら、研究成果を実際に日本語と英語で発表する実践を行います。授業では研究対象やテーマの選択・設定から始め、選んだ研究テーマにかんする論文、書籍、資料の収集の仕方から、データや資料の保存（ノート・テイキングやカード・フォルダリングなど）のやり方や分析方法などの研究の進め方へと進み、口頭発表の仕方、研究論文の書く上での取り決め事を学びます。実際には学んだ研究方法を実際に使用して、研究成果を発表してもらうわけですが、具体的には、それぞれの受講生は与えられた文学作品（作品名については、受講生と相談の上、コースの初日に発表します）について、学習した研究の進め方を踏まえて、まずは日本語で口頭発表の原稿とパワポ・スライドを作って発表を行い、次に日本語の論文を作成します。その後で、別の文学作品について、今度は英語での口頭発表と論文作成を行います。

授業の到達目標

半年間の講義と、自らの研究と成果発表の実践を通じて、英米文学専攻の院生に相応しい研究能力を獲得することを目標にします。身近には修士課程在籍期間に課せられるゼミの発表、レポートをこなすための基礎的な研究の進め方を学ぶことになりますが、同時に、修士論文、あるいは、学内外での研究の口頭発表や学術論文の発表の際にも、そうした作業に耐えられるだけの基礎力を養っていきます。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　50%　　口頭発表2回　研究論文2本の総合点
- **平常点**　50%　　出席、発表
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	英米文学基礎講義2　Research Methods: British & American Literature							
担当者名	PhD in Intellectual History英国・サセックス大　ロビンソン　ピーター							
英文学コース	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

With the needs of postgraduate students in British and American Literature in mind, this course is designed to help students enhance their critical thinking abilities and academic skills to assist in their research and writing. Students will be shown how to brainstorm, identify possible research threads, produce robust arguments, and adopt practices that conform to core academic principles. The course is comprised of a mixture of targeted workshop sessions, student-led presentations, discussion, and individual tutorials, but will adapt flexibly to the needs of individual students.

授業の到達目標

The three main aims of the course are to equip students with:

(i)　Robust and transferable research skills
(ii)　The ability to develop and pursue an academic argument through research
(iii)　The capacity to expand a research topic

成績評価方法

40 % in-class activities
40 % a 1,000-word polemical essay
20 % presentations

備考・関連ＵＲＬ

Regular attendance is a requirement of the course.

科 目 名	英米文学基礎講義3　History of English Literature: From the Middle Ages to the Restoration							
担当者名	学術博士（国際基督教大）　本山　哲人							
英文学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This class will examine some of the main works of English literature from the eighth century through to the seventeenth century. It will survey general traits and shifts in English trends in English literature throughout this period as well as examine individual works. The class will be conducted entirely in English. Students are expected to read the assigned works in English; and as each class will revolve mainly around student discussions and presentations, active classroom participation will be imperative.

授業の到達目標

The primary aim of this course is to have students grasp an overview of English literature from the Middle Ages to the Restoration period and to examine how certain themes such as religion, nature, and gender have been dealt with in the chosen works. A secondary aim is to give students the opportunity to develop and improve their English communicative ability and study skills.

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　40%　　A final 3000 word paper
- **平常点**　60%　　Homework, presentations, and participation in the discussions

●その他　0%

科 目 名	英米文学基礎講義4　English literature from Romanticism to Modernism							
担当者名	文学博士(マンチェスター大)　　鈴木　理恵子							
英文学コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

The long nineteenth century and early twentieth century can be seen as a crucial moment in literary history when writers engaged in, and responded to, the significant change in society that took place during that time. Not only did they address problems related to politics in the aftermath of the French Revolution, the advancement of science that came into head-on conflict with religion, industrialization accompanied by urbanization, gender awareness, and the Empire, etc. It is also a period of time in which the burgeoning middle classes did much to shape the literary scene of the day with their appetite for novels and journalistic writings. Although poets suffered somewhat due to their waning impact on society, they nonetheless produced some of the greatest poetry in English literary history with much innovation of form and subject-matter. Having inherited (and reacted against) the Enlightenment tradition of the eighteenth century, both nineteenth- and early twentieth-century writers manifested a profound sense of modernity.

With such historical import in mind, this course will look at literary works written during the two centuries mentioned above in Britain by reading some of the major texts written in poetry, novel and prose. Although it is fundamentally a lecture course, students will be expected not only to actively engage in discussion, but also to give presentations on a given writer/text as part of the course.

授業の到達目標

The objective of this course is for students to acquire an understanding of English literature during the course of a century from Romanticism to Modernism. Through the close reading of texts, students will gain a sense of how literary style and subject matter evolved over time. The emphasis on different genre will depend to some extent on the interest of the students. While it is impossible to be comprehensive, the selected texts will give them a solid understanding of form, aesthetics, and their relation to society at large.

成績評価方法

Participation 40% Presentation 60%

科 目 名	英米文学基礎講義5　Introducing the study of language							
担当者名	Ph.D. University of Nottingham　　ライアン　スティーブン							
英文学コース	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This course represents an introduction to the study of language and linguistics. Each class will focus on a separate topic area and students will be expected to both read about and discuss key issues connected to the study of language. The course is intended as a foundation for those looking to pursue research in the fields of either English education or linguistics. It should also be of use to those with a wider interest in language, culture and literature.

授業の到達目標

At the end of this course, students will be expected to have an informed awareness of some of the key concepts involved in the study of language and linguistics.

成績評価方法

Research presentation and report - 50%
In-class performance - 50%

科 目 名	英米文学基礎講義6　Overview of American Literature							
担当者名	Ph.D. University of Rochester　　チャン　エドワード　ケイ							
英文学コース	２単位	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This course will provide an overview of American literature. The first part of the course will cover literary history, while the latter part will consist of readings determined by the interests of the students. Students are required to have access of some sort to the textbook. The course will be conducted entirely in English and students should be prepared to speak in English each week.

授業の到達目標

Students will learn literary analysis within cultural and historical context. Students will also develop their English-language reading, writing, listening, and discussion skills for the graduate level.

成績評価方法

Final paper 50%
Participation 50%
TOTAL 100 %

科 目 名	英語学特殊講義1							
担当者名	博士(教育学)国際基督教大　ホサイン　タニア							
英文学コース	２単位	春学期	月曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

Language is indissolubly linked with the members of the society in which it is spoken, and social factors are inevitably reflected in their speech. Language can be studied as a social phenomenon. English is currently regarded as the world's principal international language. It performs a useful function in the multilingual society. People are not forced to master English at all costs. There are people who adopt English and use it alongside their own culture, and combine it with. In this class we will look at how English varies around the world mostly in Asia. Difference among countries as well as within countries will be considered. Additional topics will include the treatment bilingualism in English-speaking world and language standards.

授業の到達目標

Learning a language is a very complex phenomenon, one has to move from grammar to logic and to the philosophy of language to overcome the complexities. Currently English is not viewed as something imposed from the outside, but as something belonging to, and becoming an intrinsic part of the national culture. People are encouraged to express matters that are important to their lives, and confidently and effectively communicate their concerns, cultural viewpoints and personal interests by taking ownership of English and using it as a meaningful interchange with people of other countries, and to relate what it means to be a member of their specific societies and cultures in a positive way to others in the world community. Students will be able to understand English varieties of Asia according to social context, including class, gender, and culture.

成績評価方法

Group presentation……20%
In-class writing……30%
Long paper……40%
Portfolio, home work, participation……10%

科 目 名	英語学特殊講義2							
担当者名	博士(教育学)国際基督教大　ホサイン　タニア							
英文学コース	２単位	秋学期	月曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

Medium of instruction is one of the most influential means of maintaining language and culture. Generally medium of instruction policy decides which social and linguistic groups would have the access of economic and political power. In most of the post colonial countries, colonial language empowers and privileges small elite and creates inequalities in the society. Even in the English-dominant countries, the history of medium of instruction is also the same. In English dominant countries, sometimes indigenous languages treated as uncivilized and made it impossible for the indigenous people to speak in their own language as medium of instruction policy is a part of educational policy. The Maori in New Zealand and Indigenous Indians—all have gone through the same experience. This course will focus on the problems of using indigenous languages as a medium of instruction for the linguistic minorities.

授業の到達目標

This course will introduce major aims of the language-rights movement and language rights of the linguistic minorities in the English-dominant countries. It will also help students to understand the problems of indigenous people to use their language,

成績評価方法

Small presentation……20%
In-class writing……20%
Long paper……40%
Portfolio, home work, participation……20%

科 目 名	英語学特殊講義3　'Individual differences' in foreign language learning							
担当者名	Ph.D. University of Nottingham　ライアン　スティーブン							
英文学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

This seminar considers why certain individuals learn a foreign language more quickly and to a higher level than others. In order to understand why individuals differ so much in their language learning, we will discuss so-called 'individual differences', such as personality, identity, emotions, and motivation, and consider how they affect learning. The course aims to develop students' understanding of the huge role psychological factors play in successful language learning and to encourage students to think about their own experiences as language learners.

授業の到達目標

At the end of this course students will:
1) Understand the core 'individual differences' in second language learning
2) Understand key theories of psychology in second language learning
3) Understand how ideas about the psychology of second language learning are changing

成績評価方法

●**試験**　0%　　No examination
●**レポート**　70%　　One written research paper　One oral presentation
●**平常点**　30%　　Active class participation
●**その他**　0%　　See above

科 目 名	英語学特殊講義4　Qualitative and innovative research approaches							
担当者名	Ph.D. University of Nottingham　　ライアン　スティーブン							
英文学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

In recent years, the field of second language education research has grown dramatically. Together with this growth there have been huge changes in the methods used in research. Good researchers need to be aware of the various research methodologies available in order to be able to select the approach most suitable for their own purposes. This seminar will focus on qualitative and innovative research methods for data collection and analysis, and students will have a hands-on opportunity to design and analyze their own research project.

授業の到達目標

At the end of this course, students will be able to:
1) Understand some of the core methods and approaches used in second language education studies
2) Understand the importance of matching methods with research aims
3) Apply these understandings of methodology to their own research

成績評価方法

●**試験**　0%　　No examination
●**レポート**　70%　　Mini-research project including data collection, analysis and report
●**平常点**　30%　　Class participation and research design
●**その他**　0%　　See above

科 目 名	英米文学特殊研究1　近代英国演劇とその周辺							
担当者名	博士(文学)慶大　　原田　範行							
英文学コース	２単位	春学期	月曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要

17世紀から18世紀にかけてのイギリスでは、小説の誕生・発展とともに、実は演劇が独自の展開を遂げました。この授業では、近代初期にあって奔放な表現で一世を風靡した女性劇作家Susanna Centlivreによる、1709年初演の傑作The Busy Body を精読しながら、王政復古期から風習喜劇に至る過程や風習喜劇の同時代小説への影響も勘案しつつ、演劇的表現の特質を詳細に検討したいと思います。近代演劇作品の戯曲を通して、履修者の皆さんに、自律的な精読力、解釈力、批評力を涵養していただくのがこの授業の目的です。

授業の到達目標

以下の諸点を、本授業の到達目標とする。
1．近代文学作品（演劇）を正確に理解するための十分な読解力の養成。
2．文学作品（演劇）を解釈・分析するための基本的な手法についての理解。
3．自律的に作品研究を行うのに十分な実践的分析力・批評力の養成。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　50%　　学期末に作品論に関するレポートを提出してください。評価基準は、①精緻な読解に基づく議論が展開されているか、②解釈と分析において、着想の独自性と論旨の適切さが見られるか、③論文執筆のための基本的な書式と文体が維持されているか、の3点がポイントです。
●**平常点**　50%　　授業時の読解演習に対する取り組みと、討論への積極的な参加を評価基準とします。
●**その他**　0%　　授業外学習等については、レポートおよび平常点評価に含めて評価します。

備考・関連ＵＲＬ

近代英文学作品（演劇）を精読し分析することで、本格的な読解力と文学批評のための実力を身につけたいという意欲的な諸君の履修を歓迎します。履修者自身の専門分野は問いません。なお参考になるURL等は、授業の際に解説をつけて紹介します。

科 目 名	英米文学特殊研究2　近代英国演劇とその周辺							
担当者名	博士(文学)慶大　　原田　範行							
英文学コース	２単位	秋学期	月曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要

17世紀から18世紀にかけてのイギリスでは、小説の誕生・発展とともに、実は演劇が独自の展開を遂げました。この授業では、1722年に初演された、Richard Steeleの傑作The Conscious Lovers を精読しながら、王政復古期から風習喜劇に至る過程や風習喜劇の同時代小説への影響も勘案しつつ（Steeleは国会議員で近代ジャーナリストの草分けでもあります）、演劇的表現の特質を詳細に検討したいと思います。18世紀演劇作品の戯曲を通して、履修者の皆さんに、自律的な精読力、解釈力、批評力を涵養していただくのがこの授業の目的です。

授業の到達目標

以下の諸点を、本授業の到達目標とする。
1．近代文学作品（演劇）を正確に理解するための十分な読解力の養成。
2．文学作品（演劇）を解釈・分析するための基本的な手法についての理解。

3. 自律的に作品研究を行うのに十分な実践的分析力・批評力の養成。

成績評価方法

●**試験** 0%　試験は実施しません。
●**レポート** 50%　学期末に作品論に関するレポートを提出してください。評価基準は、①精緻な読解に基づく議論が展開されているか、②解釈と分析において、着想の独自性と論旨の適切さが見られるか、③論文執筆のための基本的な書式と文体が維持されているか、の3点がポイントです。
●**平常点** 50%　授業時の読解演習に対する取り組みと、討論への積極的な参加を評価基準とします。
●**その他** 0%　授業外学習等については、レポートおよび平常点評価に含めて評価します。

備考・関連URL

近代英文学作品（演劇）を精読し分析することで、本格的な読解力と文学批評のための実力を身につけたいという意欲的な諸君の履修を歓迎します。履修者自身の専門分野は問いません。なお参考になるURL等は、授業の際に解説をつけて紹介します。

科目名	英米文学特殊研究3　F・スコット・フィツジェラルドの短編を読む							
担当者名	Ph.D.（State University of New York at Buffal）　諏訪部　浩一							
英文学コース	２単位	春学期	月曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要

20世紀アメリカ文学を代表する作家であるF. Scott Fitzgeraldの短編を読む。
The Short Stories of F. Scott Fitzgerald（Ed. Matthew J. Bruccoli）に収められた短編を、年代順に読んでいく。今年度は主に1920年代後半の作品を読む。
担当者を決め、担当作品に関するハンドアウトにもとづいて発表してもらい、ディスカッションをおこなう。

授業の到達目標

さまざまなタイプの作品を読みこなせる能力を養うことを目標とする。

成績評価方法

●**試験** 0%　試験はない。
●**レポート** 0%　希望者のみが提出する。
●**平常点** 100%　ハンドアウトと授業参加によって評価する。
●**その他** 0%　特になし。

科目名	英米文学特殊研究4　“Literary” Science Fiction in American Literature							
担当者名	Ph.D. University of Rochester　チャン　エドワード　ケイ							
英文学コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This course will explore the American science fiction (SF) novel as a “paraliterary”genre that has historically been dismissed as non-literary but has, at times, hovered on the edge of respectability. Nevertheless,the SF genre has increasingly become more and more mainstream in terms of literary criticism, and several writers not based in the genre have taken up the SF form or aspects of it. Thus, we might refer to at least some texts as “literary” science fiction (though we need to emphasize the scare quotes, which represent what some would consider a false distinction and hierarchy). Representative authors include Ray Bradbury, Kurt Vonnegut, Jr., Walter M. Miller, Jr., Philip K. Dick, Ursula K. Le Guin, Cormac McCarthy, Samuel R. Delany, Octavia E. Butler, William Gibson, Chang-Rae Lee, Nnedi Okorafor, and Omar El Akkad. We will consider authors such as these and their works in relation to aesthetics, genre, critical theory, and other issues as proposed by students. Students are required to purchase the texts (print or electronic). The course will be conducted entirely in ENGLISH, and students should be prepared to speak in English each week.

授業の到達目標

Students will learn in-depth literary analysis within cultural and historical context. Students will also develop their English-language reading, writing, listening, and discussion skills for the graduate level.

成績評価方法

Final paper 50%
Participation 50%
TOTAL 100 %

備考・関連URL

http: //www. oxfordhandbooks. com/view/10. 1093/oxfordhb/9780199838844. 001. 0001/oxfordhb-9780199838844-e-008
https://www.wired.com/2015/11/geeks-guide-sci-fi-fantasy-mainstream/

科目名	英米文学特殊研究5　英米の文学理論1							
担当者名	都甲　幸治							
英文学コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

春期ではDavid Lodge and Nigel Wood, ed. Modern Criticism and Theory. Routledge, 2013.から具体的に論文を読んでいく。19世紀後半から1960年代までのものが中心となる。週に10ページ程度と進度は遅いので、理論にあまり知識がない者でもついていけるだろう。なお、

ピーター・バリー『文学理論講義: 新しいスタンダード』高橋和久監訳、ミネルヴァ書房、2014年。

ジョナサン・カラー『文学理論』荒木映子・富山太佳夫訳、岩波書店、2003年。

などを参考書として使用すること。

授業の到達目標

英語で理論的な著作を読み理解できるようになる。

成績評価方法

レポート70%平常点30%

科 目 名	英米文学特殊研究6　英米の文学理論2							
担当者名	都甲　幸治							
英文学コース	２単位	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

秋期ではDavid Lodge and Nigel Wood, ed. Modern Criticism and Theory. Routledge, 2013.から具体的に論文を読んでいく。1960年代から現在までのものが中心となる。週に10ページ程度と進度は遅いので、理論にあまり知識がない者でもついていけるだろう。なお、

ピーター・バリー『文学理論講義: 新しいスタンダード』高橋和久監訳、ミネルヴァ書房、2014年。
ジョナサン・カラー『文学理論』荒木映子・富山太佳夫訳、岩波書店、2003年。

などを参考書として使用すること。

授業の到達目標

英語で理論的な著作を読み理解できるようになる。

成績評価方法

レポート70%平常点30%

科 目 名	英米文学特殊研究7　音楽の聞こえるアメリカ小説							
担当者名	柴田　元幸							
英文学コース	２単位	秋学期	水曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

音楽の聞こえるアメリカ小説を読む。といっても文学に表われたる音楽について系統的に考えようという意図はそれほどなく、とにかくよい小説、重要な小説を読んでもらうことが主眼である。

授業の到達目標

アメリカ英語で書かれた30〜100ページ程度の作品を数時間で読んで、自分の意見がそれなりに言えるようになること

成績評価方法

授業参加度70%、レポート30%

科 目 名	英米文学特殊研究8　英語圏世界文学の名作を精読・翻訳する							
担当者名	博士(学術)東大　　中村　和恵							
英文学コース	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

文学はなにをしようとするものなのか。環境、経済、人口、テクノロジー、人間活動のあらゆる面で世界の維持保全に不安が高まっている現在、文学になにができるのか。文学は個人を救えるのか。大きな問いに答えるちいさな作業を、この授業で試みる。

ポストコロニアリズムが英文科の必須学習概念となる一世紀前頃から、植民地主義への批判と、英文学およびその背後にある英国の価値世界への同化や憧憬を、同時に抱えた植民地・旧植民地の作家たちは、英語で著作活動をつづけてきた。この講義では南アジア、オーストラリア、北米、カリブなどの作家たちの作品をとりあげ（参加人数により作品数は加減する）、セオリーが後追いしたかれらの作品のなにがどうおもしろいのか、論点となるのはどういうことなのかを具体的に論じていく。

世界文学の概念が大きく変化した二〇世紀半ばから二一世紀までの、英語圏世界各地の作家たちの優れた作品（短編小説、随筆や小説の抜粋、詩）を複数、精読し、解釈し、一部作品の翻訳を試みる。参加者の訳文の詳細を検討し、研究論文や関連性の高いセオリストを紹介、作品の背景を解説。参加者がそれぞれの研究主題を絞りこみ、実際に論文を書くためにかならず必要になる英語文学の読解と分析を、ポストコロニアル文学を題材として実践的に

授業の到達目標

英語圏文学のひろがりを実感し、背景となった各地の歴史文化に即して分析、土地ごとの文学概念や問題意識への認識を育てる。さらに一部作品の抜粋翻訳を試みて、研究主題の選択や論文執筆のベースとなる深い作品解釈を実践的に学ぶ。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　40%　　求められている形式と内容（正確な引用、英文理解力、テキストに基づいた解釈）、根拠のある解釈が自分のことばで展開できていることを評価します。
- **平常点**　60%　　授業中の質疑応答、訳読、翻訳実践担当発表の内容と頻度
- **その他**　0%

備考・関連URL

翻訳実践担当のときはA4一枚程度に担当箇所の本文と訳文、気になった単語やフレーズ等をまとめて人数分コピーし配布してください。

科 目 名	英米文学特殊研究9　T. E. ヒュームを讀む（1）							
担当者名	岡田　俊之輔							
英文学コース	２単位	春学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

Thomas Ernest Hulme は第一次世界大戦に於て若くして戰死したが（享年34）、Ezra Pound や T. S. Eliot を始め、モダニズム文學の旗手と稱せられる作家たちに多大なる影響を與へた。彼等は一體ヒュームの何に魅せられたのか。 本研究では先づ手始めに、ヒュームの圓熟した思想が窺はれる代表作'A Notebook'を精讀する（Herbert Read の手に成る舊編書所收の'Humanism and the Religious Attitude'は、これの縮約版）。ルネサンス以降の近代的ヒューマニズム（人間中心主義）に對する徹底批判の一篇である。

（恐らく春學期中には讀み終らないと思ふので、續きは秋學期の「特殊研究10」にて。）

授業の到達目標

名前は屢々言及されるものの、實際に讀まれる事は殆ど無い重要な文學者の思想に直に觸れ、各自の今後の研究に役立てる。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　總合評價
- **その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

一應、舊版を紹介しておく。 T. E. Hulme, *Speculations: Essays on Humanism and the Philosophy of Art,* ed. Herbert Read（London: Kegan Paul, Trench, Trubner & Co.,1924）
https://archive.org/details/in.ernet.dli.2015.218462
第2版（1936年）は、https://archive.org/details/SpeculationsEssaysOnHumanismAndThePhilosophyOfArt

科 目 名	英米文学特殊研究10　T. E. ヒュームを讀む（2）							
担当者名	岡田　俊之輔							
英文学コース	２単位	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

Thomas Ernest Hulme は第一次世界大戦に於て若くして戰死したが（享年34）、Ezra Pound や T. S. Eliot を始め、モダニズム文學の旗手と稱せられる作家たちに多大なる影響を與へた。彼等は一體ヒュームの何に魅せられたのか。 春學期の「特殊研究9」に引續き'A Notebook'を精讀する。讀了後は'Romanticism and Classicism'を讀む豫定。激越なるロマン主義批判の一篇である。

授業の到達目標

名前は屢々言及されるものの、實際に讀まれる事は殆ど無い重要な文學者の思想に直に觸れ、各自の今後の研究に役立てる。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　總合評價
- **その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

一應、舊版を紹介しておく。
T. E. Hulme, *Speculations: Essays on Humanism and the Philosophy of Art,* ed. Herbert Read（London: Kegan Paul, Trench, Trubner & Co.,1924）
https://archive.org/details/in.ernet.dli.2015.218462
第2版（1936年）は、https://archive.org/details/SpeculationsEssaysOnHumanismAndThePhilosophyOfArt

科 目 名	英語学特殊研究1							
担当者名	平埜　雅久							
英文学コース	２単位	春学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

授業は、受講生が、高校、大学等で、英語教師として教壇に立つこと、あるいは、英語の教員を養成する立場におかれることを想定して、日本の英語教育政策や英語指導のあり方について話し合いたいと考えています。テーマとしては、一応、日本の英語教育の現状を踏まえながら、クラッシェンのナチュラル・アプローチと語彙の指導の在り方を考察の対象としてみたいと思います。

授業の到達目標

現代の英語教育の問題点を理解し、より適切な学習指導法を考察する

成績評価方法

レポートの成績と授業への出席率をもとに成績の評価を行う

科 目 名	英語学特殊研究2							
担当者名	平埜　雅久							
英文学コース	２単位	秋学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

テスティングに関するテキストを講読します。「テストの在り方で学習者の学習意欲が違ってくる。」とよく言われます。テストがもたらす波及効果ですが、この点に関して考察を深めていきたいと思います。

授業の到達目標

テスティングの在り方を考える

成績評価方法

レポートの成績と授業への出席率をもとに成績の評価を行う

科 目 名	英米文学演習1-1　（梅宮創造）Dickens批評を読む　（栩木伸明）アイルランド詩を読む							
担当者名	梅宮　創造							
英文学コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

（梅宮創造）David Copperfieldの批評を読みながら、文学の方法について考える。（栩木伸明）アイルランドの詩人W. B. Yeatsの詩を読みながら、言語・歴史・社会と文学の関わりについて考える。

授業の到達目標

（梅宮創造）Dickens文学について、もろもろ考える。
（栩木伸明）イェイツの作品を精読することにより、詩のテクストをさまざまなコンテクストにつなぐスキルを向上させる。

成績評価方法

（梅宮創造）毎回の授業が評価の対象。
（栩木伸明）授業における発表と質疑応答の内容で評価する。

科 目 名	英米文学演習1-2　（梅宮創造）Dickens、他の文学を考える　（栩木伸明）アイルランド詩を読む							
担当者名	梅宮　創造							
英文学コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

（梅宮創造）Dickens、その他の作家と作品に関する考察・発表を通して表現力を練磨する。（栩木伸明）アイルランドの詩人W. B. Yeatsの詩を読みながら、言語・歴史・社会と文学の関わりについて考える。

授業の到達目標

（梅宮創造）イギリス文学についてさまざまな切り口から考えを深め、それの適正な表現力を養う。
（栩木伸明）詩のテクストをさまざまなコンテクストにつなぐスキルを向上させる。

成績評価方法

（梅宮創造）毎回の授業が評価の対象。
（栩木伸明）授業における発表と質疑応答の内容で評価する。

科 目 名	英米文学演習2-1　《担当教員：江田　孝臣》アメリカ詩を読む 《担当教員：冬木　ひろみ》シェイクスピアの劇を読む							
担当者名	江田　孝臣／冬木　ひろみ							
英文学コース	２単位	春学期	金４時限	火５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

（江田）アメリカ詩と、それに関する批評を読み、議論する。（冬木）本年前半は、シェイクスピア単独としては最後の作品となるThe Tempestを読むことにしたい。この劇は、復讐、ポストコロニアル、権力の争いなど、様々な要素を取り込みつつ、極めて不可思議な、もっと言えば劇としての成立ギリギリの劇的構成を取っているとも言える。また、この劇には当時のベン・ジョンソンによる仮面劇の影響も大きいし、当時の宮廷上演との関係も考えられる。テクストを丹念に読むことで、この劇の特異性を探って行ければと思っている。

授業の到達目標

（江田）これまでの研究等を参照しながら、精密にかつ批判的に読む力を養う。
（冬木）
・シェイクスピアのテクストをコンテクストも含め詳細に読み込む力をつける。
・シェイクスピアの「書かれた」テクストと、舞台表象（文化）との融合を試みる。

成績評価方法

（江田）
平常点評価　50%　出席および積極的発言
その他　50%　授業での発表成果

（冬木）平常点（出席と発表による）

科 目 名	英米文学演習2-2 《担当教員：江田　孝臣》アメリカ詩を読む 《担当教員：冬木　ひろみ》シェイクスピアの批評を読む							
担当者名	江田　孝臣／冬木　ひろみ							
英文学コース	２単位	秋学期	金４時限	火４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

（江田）アメリカ詩と、それに関する批評を読み、議論する。（冬木）今年の後半は　"Shakespeare and Literary Theory" を読んでみたい。シェイクスピアの批評史は大部なシリーズ物からアーデンのコンパクトなものまであるが、簡潔に概要をつかめるものとして、特にこの時代全般や他の劇作家を含めるというよりもシェイクスピアに焦点を絞っているという理由から、これを候補に挙げてみた。ただし、受講者の興味と研究方向に応じて、上記2冊を変える可能性もあるので、これは始まってから相談したいと思う。なお、授業の過程では、批評書だけでなく、随時、受講者の論文・発表なども組み入れてゆきたい。

授業の到達目標

（江田）これまでの研究等を参照しながら、精密にかつ批判的に読む力を養う。
（冬木）・シェイクスピアの人物の表象方法への考察を深める。
・シェイクスピア批評の手法を知る。

成績評価方法

（江田）
レポート　50%
平常点評価　50%

（冬木）平常点（出席と発表による）

科 目 名	英米文学演習3-1 （渡辺）ミドルブラウ研究の可能性							
担当者名	都甲　幸治／渡辺　愛子							
英文学コース	２単位	春学期	月３時限	水２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

（渡辺）
近年、モダニズム研究における閉塞感を反映してか、イギリスではミドルブラウ文学や文化に関する注目が高まっている。
本授業では、J.B. Priestleyやdu Maurierらに代表される文学作品や文化に関する評論を読みながら、ミドルブラウという概念を 'Englishness' という観点から読み解いていく。なお、本書のタイトルに現れた作家と事象が中心となるが、そのほかにも、H. V. Morton, George Orewllといった作家の分析を含み、出版事情や映像メディアなど、個々の社会事象とミドルブラウとの関係も考えていく。

授業の到達目標

（渡辺）
・ミドルブラウ研究の現状について知るとともに、その文学的・文化的可能性について考察する。

成績評価方法

（渡辺）平常点（出席と発表による）

科 目 名	英米文学演習3-2 ミドルブラウ研究の可能性（2）							
担当者名	都甲　幸治／渡辺　愛子							
英文学コース	２単位	秋学期	月３時限	水２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

（渡辺）
引き続き、ミドルブラウ研究関連の評論を読んでいく。ただし、扱う論文はこちらからはとくに定めず、情報検索に関する指導をしたあと、「ミドルブラウ」をキーワードに、履修生がみずからの関心に合わせ、とりくむ論文を見つける。

授業の到達目標

（渡辺）
・ミドルブラウ研究についてさらに深く追究するとともに、その文学的・文化的可能性について考察する。

成績評価方法

（渡辺）平常点（出席と発表による）

科 目 名	英米文学演習4-1 アメリカ文学（堀内） イギリス演劇（小田島）							
担当者名	堀内　正規／小田島　恒志							
英文学コース	２単位	春学期	木４時限	金４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

（堀内）　Edgar Allan Poeの短編小説を読みます。
（小田島）　現代イギリス戯曲を読みます。テキストは相談の上決めます。

授業の到達目標

（堀内）19世紀のすぐれた英文を読む力を養いつつ、アメリカ文学の諸問題について理解を深める。
（小田島）戯曲から文化を読み解く力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　テキストの精読を踏まえた自分なりの視点の提示。
●**平常点**　50%　　発表と発言。

●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	英米文学演習4-2　アメリカ文学／イギリス演劇							
担当者名	堀内　正規／小田島　恒志							
英文学コース	２単位	秋学期	木４時限	金４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

（堀内）　Herman MelvilleのMoby-Dickを読みます。
（小田島）　秋期の演習で読むテキストは教場で相談のうえ決めます。実際の上演状況なども考慮して最新のものを読みたい。

授業の到達目標

（堀内）　19世紀の英語の文章を読む力をつけるとともにアメリカ文学の諸問題について理解を深める。
（小田島）　まさに「今」のテキストを読む力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　テキストの精読をふまえて、自分なりの視点を打ち出すこと。
●**平常点**　50%　　発表と発言。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	英米文学演習5-1　Postmodernism and the American Novel I							
担当者名	Ph.D. University of Rochester　　チャン　エドワード　ケイ							
英文学コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This course will examine conceptions of postmodernism as it relates to literature through essays and American "novels" (to be discussed in class). In particular, we will explore the intersection between postmodernism and racial/ethnic issues.

授業の到達目標

Students will gain familiarity with postmodern literary theory and a few exemplary novels. Students will also develop their skills in close reading and applying literary theory to texts.

成績評価方法

Final paper: 50%
Participation: 50%

科 目 名	英米文学演習5-2　Postmodernism and the American Novel II							
担当者名	Ph.D. University of Rochester　　チャン　エドワード　ケイ							
英文学コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This course will continue from "Postmodernism and the American Novel I" to examine conceptions of postmodernism as it relates to literature through essays and American "novels" (to be discussed in class). In particular, we will explore the intersection between postmodernism and racial/ethnic issues.

授業の到達目標

Students will gain familiarity with postmodern literary theory and a few exemplary novels. Students will also develop their skills in close reading and applying literary theory to texts.

成績評価方法

Final paper: 50%
Participation: 50%

科 目 名	英語学演習1-1　Second language acquisition and foreign language education							
担当者名	ライアン　スティーブン／ホサイン　タニア							
英文学コース	２単位	春学期	木３時限	月４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

The aim of this seminar is to deepen knowledge in one or more of the following areas: English language pedagogy, second language acquisition (SLA), language policy, and cultural aspects of language teaching and learning. Specific topics and texts will be decided in consultation with students. As a seminar, students will be required to summarize and present material that they have read each week and take turns leading the discussion. Students will write mid-term reviews of pertinent literature on their chosen topics and a final semester report. Reports will also be presented orally. The seminar will be particularly appropriate for students interested in careers in the educational field after graduation, and for in-service teachers wishing to deepen their knowledge of the above issues.

授業の到達目標

Students will be able to plan and execute research for a master's thesis

成績評価方法

●**試験**　0%　　No examination
●**レポート**　60%　　Written research papers
●**平常点**　0%　　See others

●その他　40%　　Oral presentation and participation

科 目 名	英語学演習1-2　Second language acquisition and foreign language education							
担当者名	ライアン　スティーブン／ホサイン　タニア							
英文学コース	２単位	秋学期	木３時限	月４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

The aim of this seminar is to deepen knowledge in one or more of the following areas: English language pedagogy, second language acquisition (SLA), language policy, and cultural aspects of language teaching and learning. Specific topics and texts will be decided in consultation with students. As a seminar, students will be required to summarize and present material that they have read each week and take turns leading the discussion. Students will write mid-term reviews of pertinent literature on their chosen topics and a final semester report. Reports will also be presented orally. The seminar will be particularly appropriate for students interested in careers in the educational field after graduation, and for in-service teachers wishing to deepen their knowledge of the above issues.

授業の到達目標

Students will be able to plan and execute research for a master's thesis

成績評価方法

Research paper and presentation - 50%
In-class participation - 50%

科 目 名	英米文学研究指導1-1　M　イギリス近代小説／アイルランド文学							
担当者名	梅宮　創造							
英文学コース	—	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の完成を到達目標として、指導を進める。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導1-2　M　イギリス近代小説／アイルランド文学							
担当者名	梅宮　創造							
英文学コース	—	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の完成を到達目標として、指導を進める。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導2-1　M　アメリカ詩／シェイクスピアのテクストと批評を読む							
担当者名	江田　孝臣／冬木　ひろみ							
英文学コース	—	春学期	金４時限	火５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

学生諸君が修士論文および学会発表用草稿の作成に際してぶつかるさまざまな問題の相談に乗り、ともに考える。必要に応じて草稿の添削をする。ほかに学生諸君の研究生活一般に関する相談にも乗る。

授業の到達目標

修士論文の完成

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導2-2　M　アメリカ詩／シェイクスピアのテクストと批評を読む							
担当者名	江田　孝臣／冬木　ひろみ							
英文学コース	—	秋学期	金４時限	火４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

学生諸君が修士論文および学会発表用草稿の作成に際してぶつかるさまざまな問題の相談に乗り、ともに考える。必要に応じて草稿の添削をする。ほかに学生諸君の研究生活一般に関する相談にも乗る。

授業の到達目標

修士論文の完成。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導3-1　M　アメリカ文学／イギリス小説・文化理論							
担当者名	都甲　幸治／渡辺　愛子							
英文学コース	—	春学期	月３時限	水２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
添削や議論を通じて論文執筆を支援する。英米の文学テクストの講読も行う。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導3-2　M　アメリカ文学／イギリス小説・文化理論							
担当者名	都甲　幸治／渡辺　愛子							
英文学コース	—	秋学期	月３時限	水２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
添削や議論を通じて論文執筆を支援する。英米の文学テクストの講読も行う。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導4-1　M　現代イギリス小説・現代イギリス演劇／アメリカ文学							
担当者名	堀内　正規／小田島　恒志							
英文学コース	—	春学期	木４時限	金４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
学生の発表の仕方の指導。（堀内）（小田島）
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導4-2　M　現代イギリス小説・現代イギリス演劇／アメリカ文学							
担当者名	堀内　正規／小田島　恒志							
英文学コース	—	秋学期	木４時限	金４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
学生の発表の仕方の指導。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導5-1　M　American Literature and Critical Theory							
担当者名	Ph.D. University of Rochester　　チャン　エドワード　ケイ							
英文学コース	—	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
This course will focus on students' research and writing. The content of the course will be tailored to students' interests in American literature. Students will report on their ongoing research throughout the semester.
授業の到達目標
Students will develop their skills doing research and writing related to literary studies, as well as English-language ability.
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

Participation: 100%

備考・関連URL

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。

科 目 名	英米文学研究指導5-2　M　American Literature and Critical Theory							
担当者名	Ph.D. University of Rochester　　チャン　エドワード　ケイ							
英文学コース	—	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This course will focus on students' research and writing. The content of the course will be tailored to students' interests in American literature. Students will report on their ongoing research throughout the semester.

授業の到達目標

Students will develop their skills doing research and writing related to literary studies, as well as English-language ability.

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。

Participation: 100%

備考・関連URL

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。

科 目 名	英語学研究指導1-1　M　Second language acquisition and foreign language education / Language Policy and Bilingual Educaion							
担当者名	ライアン　スティーブン／ホサイン　タニア							
英文学コース	—	春学期	木３時限	月４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

The aim of this course is to deepen knowledge in areas relating to English language pedagogy, second language acquisition (SLA), language policy, and cultural aspects of language teaching and learning. Specific topics and texts will be decided in consultation with students. Students will be required to summarize and present material that they have read each week and take turns leading the discussion. Students will write mid-term reviews of the relevant literature on chosen topics and a final semester report. Reports will also be presented orally. The seminar will be particularly appropriate for students interested in careers in the educational field after graduation, and for in-service teachers wishing to deepen their knowledge of the above issues.

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英語学研究指導1-2　M　Second language acquisition and foreign language education / Language Policy and Bilingual Educaion							
担当者名	ライアン　スティーブン／ホサイン　タニア							
英文学コース	—	秋学期	木３時限	月４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

The aim of this course is to deepen knowledge in areas relating to English language pedagogy, second language acquisition (SLA), language policy, and cultural aspects of language teaching and learning. Specific topics and texts will be decided in consultation with students. Students will be required to summarize and present material that they have read each week and take turns leading the discussion. Students will write mid-term reviews of the relevant literature on chosen topics and a final semester report. Reports will also be presented orally. The seminar will be particularly appropriate for students interested in careers in the educational field after graduation, and for in-service teachers wishing to deepen their knowledge of the above issues.

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導1-1　D　イギリス近代小説／アイルランド文学							
担当者名	梅宮　創造							
英文学コース	—	春学期	火曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。それに基づき、指導を進める。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導1-2　D　イギリス近代小説／アイルランド文学							
担当者名	梅宮　創造							
英文学コース	—	秋学期	火曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。それに基づき、指導を進める。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導2-1　D　アメリカ詩／シェイクスピアと16・17世紀イギリス演劇							
担当者名	江田　孝臣／冬木　ひろみ							
英文学コース	—	春学期	金３時限	火６時限	１年以上	—	—	—

授業概要
学生諸君が博士論文および学会発表用草稿の作成に際してぶつかるさまざまな問題の相談に乗り、ともに考える。必要に応じて草稿の添削をする。ほかに学生諸君の研究生活一般に関する相談にも乗る。
授業の到達目標
博士論文の完成および各自所属する学会での発表。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導2-2　D　アメリカ詩／シェイクスピアと16・17世紀イギリス演劇							
担当者名	江田　孝臣／冬木　ひろみ							
英文学コース	—	秋学期	金３時限	火５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
学生諸君が博士論文および学会発表用草稿の作成に際してぶつかるさまざまな問題の相談に乗り、ともに考える。必要に応じて草稿の添削をする。ほかに学生諸君の研究生活一般に関する相談にも乗る。
授業の到達目標
博士論文の完成および各自所属する学会での発表。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導3-1　D　アメリカ文学／イギリス小説・文化理論							
担当者名	都甲　幸治／渡辺　愛子							
英文学コース	—	春学期	月４時限	火１時限	１年以上	—	—	—

授業概要
添削や議論を通じて論文執筆を支援する。英米の文学テクストの講読も行う。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導3-2　D　アメリカ文学／イギリス小説・文化理論							
担当者名	都甲　幸治／渡辺　愛子							
英文学コース	—	秋学期	月４時限	火１時限	１年以上	—	—	—

授業概要
添削や議論を通じて論文執筆を支援する。英米の文学テクストの講読も行う。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導4-1　D　現代イギリス小説・現代イギリス演劇／アメリカ文学							
担当者名	堀内　正規／小田島　恒志							
英文学コース	—	春学期	木５時限	金５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

個々の学生の研究の進展に合わせた論文指導。（堀内）（小田島）

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導4-2　D　現代イギリス小説・現代イギリス演劇／アメリカ文学							
担当者名	堀内　正規／小田島　恒志							
英文学コース	—	秋学期	木５時限	金５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

個々の学生の研究の進展に合わせた論文指導。（堀内）（小田島）

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導5-1　D　American Literature and Critical Theory							
担当者名	Ph.D. University of Rochester　　チャン　エドワード　ケイ							
英文学コース	—	春学期	木曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This course will be tailored to the interests of doctoral students to enable research for the doctoral dissertation.

授業の到達目標

Students will learn in-depth literary analysis within cultural, historical, and theoretical contexts. Students will also develop their English-language reading, writing, listening, and discussion skills for the graduate level. The main objective is to complete the doctoral dissertation within the term limit.

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

Pass or fail

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英米文学研究指導5-2　D　American Literature and Critical Theory							
担当者名	Ph.D. University of Rochester　　チャン　エドワード　ケイ							
英文学コース	—	秋学期	木曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This course will be tailored to the interests of doctoral students to enable research for the doctoral dissertation.

授業の到達目標

Students will learn in-depth literary analysis within cultural, historical, and theoretical contexts. Students will also develop their English-language reading, writing, listening, and discussion skills for the graduate level. The main objective is to complete the doctoral dissertation within the term limit.

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

Pass or fail

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英語学研究指導1-1　D　Approaches to Language Learning and Teaching / Language Policy and Bilingual Educaion							
担当者名	ライアン　スティーブン／ホサイン　タニア							
英文学コース	—	春学期	木６時限	水６時限	１年以上	—	—	—

授業概要

Research supervision is intended to support and guide the student in conducting original, high-quality research in areas relating to foreign language learning and teaching.

授業の到達目標

The principal aim is to enable the student to complete a doctoral thesis within the period of study.

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	英語学研究指導1-2　D　Approaches to Language Learning and Teaching / Language Policy and Bilingual Educaion							
担当者名	ライアン　スティーブン／ホサイン　タニア							
英文学コース	—	秋学期	木６時限	水６時限	１年以上	—	—	—

授業概要

Research supervision is intended to support and guide the student in conducting original, high-quality research in areas relating to foreign language learning and teaching.

授業の到達目標

The principal aim is to enable the student to complete a doctoral thesis within the period of study.

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

フランス語フランス文学コース

科 目 名	フランス文学講義1　マルセル・プルースト『失われた時を求めて』を読む							
担当者名	博士(文学)京大　　小黒　昌文							
仏語仏文コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

20世紀フランスを代表する作家マルセル・プルースト（Marcel Proust, 1871-1922）の長篇小説『失われた時を求めて』から主要場面を取り上げて精読する。どの場面を選択するかについては、受講者と相談しながら決めてゆきたい。なお訳読を進める際には、テクストに織り込まれた重要主題やモチーフの解説をおこなうとともに、作品成立の時代背景（文化的、社会的、政治的コンテクスト）にも可能なかぎり目を配りたい。

授業の到達目標

20世紀初頭のフランス小説に関する深い学識を培いながら、当時の文学状況について体系的な考察をおこなうきっかけを得ること。また、文学作品の精読を通して読解力と分析力のいっそうの向上を目指し、専門的職業を担う能力を養うこと。

成績評価方法

平常点評価：100%　出席と予習（訳読や音読の入念な準備）、授業への積極参加などを総合的に勘案して評価する。

科 目 名	フランス文学講義2　マルセル・プルースト『失われた時を求めて』を読む							
担当者名	博士(文学)京大　　小黒　昌文							
仏語仏文コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

20世紀フランスを代表する作家マルセル・プルースト（Marcel Proust, 1871-1922）の長篇小説『失われた時を求めて』から主要場面を取り上げて精読する。どの場面を選択するかについては、受講者と相談しながら決めてゆきたい。なお訳読を進める際には、テクストに織り込まれた重要主題やモチーフの解説をおこなうとともに、作品成立の時代背景（文化的、社会的、政治的コンテクスト）にも可能なかぎり目を配りたい。

授業の到達目標

20世紀初頭のフランス小説に関する深い学識を培いながら、当時の文学状況について体系的な考察をおこなうきっかけを得ること。また、文学作品の精読を通して読解力と分析力のいっそうの向上を目指し、専門的職業を担う能力を養うこと。

成績評価方法

平常点評価：100%　出席と予習（訳読や音読の入念な準備）、授業への積極参加などを総合的に勘案して評価する。

科 目 名	フランス文学講義11　Introduction à l'œuvre et à la poétique d'Henri Michaux							
担当者名	Ph.D.（パリ第3大）　　F. ビゼ							
仏語仏文コース	２単位	春学期	水曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

Ce séminaire repose sur la lecture et le commentaire, au premier semestre, de quelques textes emblématiques du poète Henri Michaux (Un certain Plume, Epreuves,exorcismes, La Nuit remue), puis au second semestre, sur un examen plus approfondi de son univers poétique et pictural, à travers le motif de l'animalité, très présent tout au long de l'œuvre (Ecuador, Voyage en Grande-Garabagne, La Vie dans les plis, La Nuit remue). Nous nous aiderons pour la réflexion des analyses de Gilles Deleuze et Félix Guattari sur le "devenir-animal", ainsi que de textes d'autres auteurs qui ont pensé et mis en scène l'animal : Franz Kafka (La Métamorphose), Jorge Luis Borges (Le Livre des êtres imaginaires), Pierre Guyotat (Progénitures).

授業の到達目標

Le but global de ce séminaire sera expliqué à l'occasion du premier cours.

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　Un exposé oral en français
- **その他**　0%

科 目 名	フランス文学講義12　Introduction à l'œuvre et à la poétique d'Henri Michaux (2)							
担当者名	Ph.D.（パリ第3大）　　F. ビゼ							
仏語仏文コース	２単位	秋学期	水曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

Ce séminaire repose sur la lecture et le commentaire, au premier semestre, de quelques textes emblématiques du poète Henri Michaux (Un certain Plume, Epreuves, exorcismes, La Nuit remue), puis au second semestre,sur un examen plus approfondi de son univers poétique et pictural, à travers le motif de l'animalité, très présent tout au long de l'œuvre (Ecuador, Voyage en Grande-Garabagne, La Vie dans les plis, La Nuit remue). Nous nous aiderons pour la réflexion des analyses de Gilles Deleuze et Félix Guattari sur le "devenir-animal", ainsi que de textes d'autres auteurs qui ont pensé et mis en scène l'animal : Franz Kafka (La Métamorphose), Jorge Luis Borges (Le Livre des êtres imaginaires), Pierre Guyotat (Progénitures).

授業の到達目標

Le but global de ce séminaire sera expliqué à l'occasion du premier cours.

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　100%　　Un rapport écrit en français

●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	フランス語学講義1　フランス語で書かれた言語(哲)学文献を読む(その1)							
担当者名	博士(学術)東大　　酒井　智宏							
仏語仏文コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

フランス語で書かれた言語(哲)学の文献のうち、文学や思想の研究にも役立ちそうな文献を選んで講読します。分野としては意味論(言語表現の意味を扱う分野)と語用論(言語表現が文脈中で伝える意味を扱う分野)が中心になります。テクストを精読することにより、言語および思考による外界の表象(représentation)の性質について考察します。

授業の到達目標

1. 論理的に書かれたフランス語のテクストを読み解く技術を身につける。
2. 基本的な(フランス語と日本語の)言語学用語を身につける。
3. 言語的表象の性質を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席・テクストへの取り組み・発表・議論への参加・レビューシート等を評価対象とします。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

フランス語はもちろんのこと、日本語や英語ですら言語(哲)学の文献を読んだことのない方が大半だと思いますので、受講者の理解度に合わせてゆっくり進みます。おおむね一回につき1～2ページの読解を予定しています。
関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	フランス語学講義2　フランス語で書かれた言語(哲)学文献を読む(その2)							
担当者名	博士(学術)東大　　酒井　智宏							
仏語仏文コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

フランス語で書かれた言語(哲)学の文献のうち、文学や思想の研究にも役立ちそうな文献を選んで講読します。分野としては意味論(言語表現の意味を扱う分野)と語用論(言語表現が文脈中で伝える意味を扱う分野)が中心になります。テクストを精読することにより、言語および思考による外界の表象(représentation)の性質について考察します。

授業の到達目標

1. 論理的に書かれたフランス語のテクストを読み解く技術を身につける。
2. 基本的な(フランス語と日本語の)言語学用語を身につける。
3. 言語的表象の性質を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席・テクストへの取り組み・発表・議論への参加・レビューシート等を評価対象とします。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

フランス語はもちろんのこと、日本語や英語ですら言語(哲)学の文献を読んだことのない方が大半だと思いますので、受講者の理解度に合わせてゆっくり進みます。おおむね一回につき1～2ページの読解を予定しています。
関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	フランス文学演習1-1　中世南仏の物語『フラメンカ』講読							
担当者名	文学博士(パリ第4大)　　瀬戸　直彦							
仏語仏文コース	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

中世南仏の物語『フラメンカ』の講読を，写本を読みながら行う予定。中世の風俗・心理描写・ウイットを描いて傑出した作品である。カルカッソンヌ市立図書館に保存されている唯一の写本をもとに，オック語の初歩からじょじょに進めるので、中世文学を専門としない受講者も困難を感じることはないであろう。使用する校訂版には現代フランス訳もついている。中世文学にかぎらず，フランス文学研究の文献学的な基礎を固められるような演習としたいと思う。中世オック語の辞書は，DOM (= Dictionnaire de l'occitan médiéval)がインターネットで利用可能である。中世史・美術史など関連分野の研究を志す学生も歓迎する。なお出席者の顔ぶれによって，別の原典と合わせて隔週で講読することになるかもしれない。

授業の到達目標

1）前期・後期を通じて、中世オック語ないし中世フランス語の文法の大略をつかむ。
2）中世の写本の読み方に慣れる。
3）ラテン語からフランス語にどのようにして変化したのか、いわゆる歴史音声学の基礎を学ぶ。
4）　フランス語のさまざまの専門的な辞書の引き方を練習する。

成績評価方法

主として平常点評価。

科 目 名	フランス文学演習1-2　中世南仏の物語，『フラメンカ』講読							
担当者名	文学博士（パリ第4大）　瀬戸　直彦							
仏語仏文コース	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

春期に引き続き、中世南仏の物語『フラメンカ』を講読する。出席者の顔ぶれによっては，隔週で別のテクストを講読する場合もある。

授業の到達目標

1）前期・後期を通じて、中世オック語ならびに中世北フランス語（オイル語）の文法の大略をつかむ。
2）中世の写本の読み方に慣れる。
3）ラテン語からフランス語にどのようにして変化したのか、いわゆる歴史音声学の基礎を学ぶ。
4）　フランス語の専門辞書・語源辞書の引き方を練習する。

成績評価方法

主として平常点評価。

科 目 名	フランス文学演習3-1　19世紀・20世紀フランス小説研究・思想研究							
担当者名	芳川　泰久							
仏語仏文コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

基本的に、受講学生の専門にする対象に関連した論文を読み、研究者を目指すのに必要なフランス語能力を培うことにつとめる。指導する学生と相談した上で確定するが、現在のところ、バダンテールのテクストと、プルーストについての論文を読むことを考えている。フランス文学を学ぶには、フランス語への習熟が必須で、専門知識の習得と同時に語学力を磨く。また、受講生の研究テーマについて、随時、発表してもらい、コメントを付し、修士論文の完成へと導きたい。

授業の到達目標

最終的には、修士論文の基礎となる部分の完成を目指すが、フランス語能力については、テクストをしっかり読んでいくことで、中級を終え、上級にさしかかる程度に達するのではないかと考えている。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　授業中の対応や出席や発表により総合評価する
- **その他**　0%

科 目 名	フランス文学演習3-2　19世紀・20世紀フランス小説研究・思想研究							
担当者名	芳川　泰久							
仏語仏文コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

基本的に、春学期の方向を引き続きおこなう。受講学生の専門にする対象に関連した論文を読み、研究者を目指すのに必要なフランス語能力を培うことにつとめる。また、受講生の研究テーマについて、発表してもらい（春学期よりも多くの回数を考えている）、コメントを付し、修士論文の完成へと導きたい。

授業の到達目標

最終的には、修士一年生にとっては修士論文の前半部分の完成を目指し、二年生以降の受講生にとっては修論の完成に協力できればと思う。フランス語能力については、テクストをしっかり読んでいくことで、中級を終え、上級にさしかかる程度に達するのではないかと考えている。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　授業中の対応と出席と発表により、総合判断する。
- **その他**　0%

科 目 名	フランス文学演習4-1　フランス象徴主義の詩的言語（1）							
担当者名	川瀬　武夫							
仏語仏文コース	２単位	春学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

19世紀末の詩人ステファヌ・マラルメの詩作品を味読することによって、フランス象徴主義の詩的言語の特性を考察する。
数年前からドマン版『マラルメ詩集』を巻頭より順に読み継いでいる。
マラルメの作品は難解をもって知られるが、フランス詩にあまり馴染みのない学生諸君にも配慮して、必要に応じフランス語定型詩の韻律法なども復習しながら、フランス近代詩の奥の院に鎮座するこの詩人への漸進的アクセスを図るつもりである。

授業の到達目標

マラルメに代表されるフランス象徴主義の詩的言語の特性を理解することを目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%　　—
- **レポート**　0%　　—
- **平常点**　100%　　受講者にはテクスト輪読への積極的な参加が求められる。
- **その他**　0%　　—

科 目 名	フランス文学演習4-2　フランス象徴主義の詩的言語（2）							
担当者名	川瀬　武夫							
仏語仏文コース	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

春学期にひきつづき、ドマン版『マラルメ詩集』を読み進めることによって、フランス象徴主義の詩的言語の特性を考察していく。

授業の到達目標

フランス象徴主義の詩的言語についてのより深い知見を得ることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　—
●**レポート**　0%　—
●**平常点**　100%　受講生はテクスト輪読への積極的な参加が求められる。
●**その他**　0%　—

科 目 名	フランス文学演習5-1　近代フランスの文学史・芸術史を再考する							
担当者名	文学博士（パリ第7大）　鈴木　雅雄							
仏語仏文コース	２単位	春学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

大学院の授業内容は、常にその年の出席者の専門との関係で変わる可能性がありますが、今年は基本的に、19世紀後半から20世紀前半のフランス文学史・芸術史を考え直す作業をしようと思います。20世紀の終わりくらいから、アントワーヌ・コンパニョンやウィリアム・マルクスによる「前衛」の（批判的な）捉え直しや、ジャック・ランシエールによる19世紀以降の文学の再評価などの形で、いろいろと新しい視点が提出されているのはよく知られている通りですし、この授業でも数年に一度はこうしたテーマを取り上げています。目新しい話題ではありませんが、定期的にこうした大きなテーマに立ち返るのも必要なことでしょう。

具体的には Laurent Jenny, La Fin de l'intériorité（PUF, 2002）を取り上げるつもりです。3章構成で、1章で象徴主義、2章で20世紀はじめのモダニズム、3章でシュルレアリスムが扱われますが、ここではまず序章を訳読したのちに、象徴主義の部分は軽く触れる程度にして、2章と3章に進みます。そこからは、毎回4～5ページを担当者に要約してもらったうえで、内容について出席者全員で議論する形にしようと思います。

授業の到達目標

近代フランスの文学史・芸術史について、各人が自らのパースペクティヴを持てるようになることを目標とします。同時に、論理的な文章の読解力を研究者としてふさわしいレベルに近づけていくことも目標となります。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　出席と訳読、および発表によって評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	フランス文学演習5-2　近代フランスの文学史・芸術史を再考する							
担当者名	文学博士（パリ第7大）　鈴木　雅雄							
仏語仏文コース	２単位	秋学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

大学院の授業内容は、常にその年の出席者の専門との関係で変わる可能性がありますが、今年は基本的に、19世紀後半から20世紀前半のフランス文学史・芸術史を考え直す作業をしようと思います。20世紀の終わりくらいから、アントワーヌ・コンパニョンやウィリアム・マルクスによる「前衛」の（批判的な）捉え直しや、ジャック・ランシエールによる19世紀以降の文学の再評価などの形で、いろいろと新しい視点が提出されているのはよく知られている通りですし、この授業でも数年に一度はこうしたテーマを取り上げています。目新しい話題ではありませんが、定期的にこうした大きなテーマに立ち返るのも必要なことでしょう。

具体的には、春期に引き続き Laurent Jenny, La Fin de l'intériorité（PUF, 2002）を取り上げてみるつもりです。3章構成で、1章で象徴主義、2章で20世紀はじめのモダニズム、3章でシュルレアリスムが扱われますが、春期は2章の途中で終わると思うので、秋期はその続きを進めていきます。毎回4～5ページを担当者に要約してもらったうえで、内容について出席者全員で議論するという形にしようと思います。

授業の到達目標

近代フランスの文学史・芸術史について、各人が自らのパースペクティヴを持てるようになることを目標とします。同時に、論理的な文章の読解力を研究者としてふさわしいレベルに近づけていくことも目標となります。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　出席と訳読、および発表によって評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	フランス文学研究指導1-1　M　フランス文学・文献学・写本							
担当者名	文学博士（パリ第4大）　瀬戸　直彦							
仏語仏文コース	—	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

フランス文学の研究をじっさいに行うためのinstruments de travail を確認しながら、各自の研究に方向性をあたえる。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	フランス文学研究指導1-2　M　フランス文学・文献学・写本							
担当者名	文学博士（パリ第4大）　瀬戸　直彦							
仏語仏文コース	—	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

フランス文学の研究をじっさいに行うためのinstruments de travail を確認しながら、各自の研究に方向性をあたえる。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	フランス文学研究指導3-1　M　19世紀・20世紀フランス小説研究・思想研究							
担当者名	芳川　泰久							
仏語仏文コース	—	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

基本的に、受講学生の専門にする対象に関連した論文を読み、研究者を目指すのに必要なフランス語能力を培うことにつとめる。指導する学生と相談した上で確定するが、現在のところ、バダンテールのテクストと、プルーストについての論文を読むことを考えている。フランス文学を学ぶには、フランス語への習熟が必須で、専門知識の習得と同時に語学力を磨く。また、受講生の研究テーマについて、随時、発表してもらい、コメントを付し、修士論文の完成へと導きたい。

授業の到達目標

最終的には、修士論文の基礎となる部分の完成を目指すが、フランス語能力については、テクストをしっかり読んでいくことで、中級を終え、上級にさしかかる程度に達するのではないかと考えている。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	フランス文学研究指導3-2　M　19世紀・20世紀フランス小説研究・思想研究							
担当者名	芳川　泰久							
仏語仏文コース	—	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

基本的に、春学期の方向を引き続きおこなう。受講学生の専門にする対象に関連した論文を読み、研究者を目指すのに必要なフランス語能力を培うことにつとめる。また、受講生の研究テーマについて、発表してもらい（春学期よりも多くの回数を考えている）、コメントを付し、修士論文の完成へと導きたい。

授業の到達目標

最終的には、修士論文の前半部分の完成を目指すが、フランス語能力については、テクストをしっかり読んでいくことで、中級を終え、上級にさしかかる程度に達するのではないかと考えている。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	フランス文学研究指導4-1　M　フランス象徴主義の詩的言語（1）							
担当者名	川瀬　武夫							
仏語仏文コース	—	春学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

フランス文学研究に携わるにあたっての基本的な態度を確認したうえで、受講者各人の研究テーマに即した指導をおこなう。
修士論文を書き上げるための具体的な方向性を与える。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	フランス文学研究指導4-2　M　フランス象徴主義の詩的言語（2）							
担当者名	川瀬　武夫							
仏語仏文コース	—	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

春学期にひきつづいて、受講者各人の研究テーマに即した指導をおこなう。
修士論文を書き上げるために必要な知見をさらに深めていく。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	フランス文学研究指導5-1　M　近代フランスの文学史・芸術史を再考する							
担当者名	文学博士（パリ第7大）　鈴木　雅雄							
仏語仏文コース	—	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

19世紀後半から20世紀前半の文学史・芸術史を考え直す作業をすることで、出席者が修士論文を書くうえで参考になる視点を見つけ出せるようにしたいと思います。具体的には、Laurent Jenny, La Fin de l'intériorité (PUF, 2002) を取り上げるつもりです。
また各自の研究内容についても発表してもらうかもしれません。いずれにしても、進め方の詳細は参加者と相談のうえで決定します。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	フランス文学研究指導5-2　M　近代フランスの文学史・芸術史を再考する							
担当者名	文学博士（パリ第7大）　鈴木　雅雄							
仏語仏文コース	—	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

19世紀後半から20世紀前半の文学史・芸術史を考え直す作業をすることで、出席者が修士論文を書くうえで参考になる視点を見つけ出せるようにしたいと思います。具体的には、Laurent Jenny, La Fin de l'intériorité (PUF, 2002) を取り上げるつもりです。
また各自の研究内容についても発表してもらうかもしれません。いずれにしても、進め方の詳細は参加者と相談のうえで決定します。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	フランス文学研究指導1-1　D　フランス中世・ルネサンス文学研究							
担当者名	文学博士（パリ第4大）　瀬戸　直彦							
仏語仏文コース	—	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

フランス語圏の大学への本格的な留学と、博士論文作成のための指導をおこなう。出席者の顔ぶれにもよるが、出席者による文献講読と学会発表のための準備的な研究発表を予定している。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	フランス文学研究指導1-2　D　フランス中世・ルネサンス文学研究							
担当者名	文学博士（パリ第4大）　瀬戸　直彦							
仏語仏文コース	—	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

前期に引き続き、博士論文作成の指導と学会発表の準備をおこなう。また研究論文の書き方を、受講者の専門に関連するじっさいの論文をもとに実習する。課程博士論文を完成させること、学会での発表に慣れること、研究論文を作成することが到達点になるだろう。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	フランス文学研究指導3-1　D　19世紀・20世紀フランス小説研究							
担当者名	芳川　泰久							
仏語仏文コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
登録者各自の論文作成のために、発表とコメントを中心に授業を進める。
目安として、一つの発表が、博士論文の一つの章に結実して行くようなつもりで準備してほしい。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	フランス文学研究指導3-2　D　19世紀・20世紀フランス小説研究							
担当者名	芳川　泰久							
仏語仏文コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
登録者各自の論文作成のために、発表とコメントを中心に授業を進める。
目安として、一つの発表が、博士論文の一つの章に結実して行くようなつもりで準備してほしい。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	フランス文学研究指導4-1　D　フランス象徴主義の詩的言語（1）							
担当者名	川瀬　武夫							
仏語仏文コース	—	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
本格的なフランス文学研究に携わるための心構えを確認したうえで、受講者各人の研究テーマに即した指導をおこなう。
博士論文を書き上げるにあたっての諸条件を認識し、そこにどのような課題があるのか明確にしていく。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	フランス文学研究指導4-2　D　フランス象徴主義の詩的言語（2）							
担当者名	川瀬　武夫							
仏語仏文コース	—	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
春学期にひきつづいて、受講者各人の研究テーマに即した指導をおこなう。
博士論文を書き上げるために必要な知見をさらに深めていく。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	フランス文学研究指導5-1　D　20世紀フランスにおける文学的前衛の諸問題							
担当者名	文学博士（パリ第7大）　鈴木　雅雄							
仏語仏文コース	—	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
20世紀のフランス文学、とりわけ「前衛」と表現されることの多いような文学について考えることを一応の枠組みとはするが、あまりそれにはこだわらず、参加者が自らの研究している内容を次々に発表していく授業にしたいと思う。1学期間に少なくとも2回の発表を要求する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	フランス文学研究指導5-2　D　20世紀フランスにおける文学的前衛の諸問題							
担当者名	文学博士（パリ第7大）　鈴木　雅雄							
仏語仏文コース	—	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

20世紀のフランス文学、とりわけ「前衛」と表現されることの多いような文学について考えることを一応の枠組みとはするが、あまりそれにはこだわらず、参加者が自らの研究している内容を次々に発表していく授業にしたいと思う。1学期間に少なくとも2回の発表を要求する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

ドイツ語ドイツ文学コース

科 目 名	ドイツ文学特殊研究1　J・M・R・レンツ『家庭教師あるいは私的教育の利点』を読む							
担当者名	博士(文学)京大　　西尾　宇広							
独語独文コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

18世紀後半のドイツ語作家ヤーコプ・ミヒャエル・ラインホルト・レンツ（1751-1792）の出世作となる戯曲『家庭教師あるいは私的教育の利点（Der Hofmeister oder Vorteile der Privaterziehung)』（1774）を精読します。同時代の文学運動「疾風怒濤（Sturm und Drang)」の代表的書き手でありながら、近代ドイツ文学の巨星ゲーテが君臨する当時の文学地図において、しばしばその陰に隠れてしまいがちなこの作家は、とくに日本ではいまだ十分に紹介がなされているとはいえません。裏を返せばレンツのテクストは、アウトサイダー的な視点に立って同時代のドイツ語圏社会を見つめた文学者による貴重な証言でもあるのです。

今回講読する作品は、聖職者崩れのしがない若者が公立学校で教師としての求職に失敗し、代わりに貴族の家で家庭教師として雇われるくだりから始まります。こうした舞台設定と作品タイトルによって明確に主題化されている「教育」とは、啓蒙主義の時代を象徴するキーワードのひとつですが、そのとき掲げられた理想的な教育理念を、レンツはこの戯曲のなかで当時の知識階層を取り巻いていた経済的・社会的状況と突き合わせ、同時代の一制度としての「教育」が直面していた袋小路を克明に描き出しています。さらにここで注目すべきは、テクストの構成上の特徴でしょう。主人公をはじめとして、作者の思想を単純に代弁する登場人物がひとりもいないこの舞台では、いわば「答え」なき対話が展開されることになるからです。このきわめてポリフォニックな言説空間で、さらに「教育」という主題と連動して「性愛」や「宗教」をめぐる問題が語られていくとき、さながらそこに現出するのは、さまざまな局面において新たな社会規範を模索した18世紀という時代のひとつの縮図であるように思われます。

この授業では、必要に応じて二次文献や注釈も詳しく参照しながら作品を精読し、このテクストを同時代の文化的・社会的コンテクストのなかに位置づけることで、レンツ文学の内容面と形式面における特徴、さらには18世紀後半のドイツ語圏における文学と社会の一般的な状況についても考察を深めたいと思います。

授業の到達目標

古典的な文学作品を原語で読みこなすための読解能力を養うとともに、ひとつのテクストを複数のレベルで理解し解釈するために必要となる文学研究の手続きを、経験的に習得することをめざします。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし。
- **レポート**　0%　　なし。
- **平常点**　100%　　毎回の出席と訳読、議論の際の意見発表、担当箇所の報告など、授業への貢献度を総合的に評価します。
- **その他**　0%　　なし。

科 目 名	ドイツ文学講義1　Franz Kafka "Das Urteil" und andere Prosa in literaturtheoretischen Modellanalysen							
担当者名	学術博士(フライブルク大)　　ペーカー　トーマス							
独語独文コース	２単位	春学期	木曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

Kafkas relativ kurze Erzählung "Das Urteil" ist doch sehr rätselhaft und erhellt sich auch nur teilweise durch seinen " Brief an den Vater". Sie eignet sich aber gerade deshalb besonders, um an ihr verschiedene Interpretationsmodell（u.a. hermeneutische, strukturalistische, sozialgeschichtliche, psychoanalytische, intertextuelle, dekonstruktivistische ）zu erproben. Damit soll zugleich eine Einführung in die gegenwärtige Literaturtheorie gegeben werden.

Methodisch wird so vorgegangen, dass die Seminardiskussion im Mittelpunkt steht, die durch Teilnehmer- bzw. Teilnehmerinnen-Referate ergänzt wird.

授業の到達目標

Die Studierenden lernen grundlegende Text Kafkas kennen und erwerben Kenntnisse in verschiedenen theoretischen Zugängen zum Verständnis von Literatur. Dadurch soll sowohl ein literaturtheoretisches Bewusstsein als auch die Kenntnis des sogenannten Methodenpluralismus erzeugt werden.

成績評価方法

Teilnahmevoraussetzungen sind: Bereitschaft zur Übernahme eines mündlichen Referats, die regelmäßige Anwesenheit und die Teilnahme an den Seminar-Diskussionen. Die Leistungsbewertung setzt sich aus diesen Komponenten zusammen.

科 目 名	ドイツ文学講義2　Reisen und Schreiben							
担当者名	Ph.D.（ウィーン大）　　シュレンドルフ　レオポルト							
独語独文コース	２単位	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

In diesem Kurs wird das Motiv des Reisens in der deutschen Literaturgeschichte seit dem frühen 19. Jahrhundert behandelt. Es werden Auszüge aus zentralen Werken zum Thema analysiert. In der zweiten Hälfte des Semesters wird ein Schwerpunkt auf Werke von Christian Kracht gelegt.

授業の到達目標

Die Studierenden sollen ein Verständnis für die verschiedenen Repräsentationen der Reise in der Literatur erlangen und in der Lage sein, selbständig Reiseessays und -erzählungen zu analysieren und kontextualisieren. Anhand（mindestens）eines Gesamttextes sollen die Studierenden die erlernten und geübten Methoden anwenden.

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　Abschlussarbeit
●**平常点**　20%　　Mitarbeit, Hausarbeiten
●**その他**　20%　　Referat

科 目 名	ドイツ文学講義3　Wiener Moderne							
担当者名	Ph.D.（ウィーン大）　シュレンドルフ　レオポルト							
独語独文コース	２単位	春学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
In diesem Kurs wird eine Auswahl der grundlegenden Texte der Wiener Moderne gelesen und analysiert. Ein Schwerpunkt liegt auf der Frage nach der Rolle des Künstlers in der Zeit. Es werden sowohl Essays als auch Erzähl- und Bühnentexte berücksichtigt Abschließend werden Auszüge aus zwei Werken behandelt, die sich im Rückblick mit jener Epoche beschäftigen (Joseph Roth: Radetzkymarsch, Stefan Zweig: Die Welt von Gestern).

授業の到達目標
Die Studierenden sollen einen Überblick über die literarischen und kulturgeschichtlichen Debatten der Zeit erhalten. An (mindestens) einem Text sollen die KursteilnehmerInnen eine eigenständige Analyse vornehmen, die im Laufe des Semesters entwickelt und am Ende präsentiert wird.

成績評価方法
Seminararbeit (60 Prozent), Referat (20 Prozent), Hausarbeiten und Diskussionsteilnahme (20 Prozent)

科 目 名	ドイツ文学講義4　戦後ドイツにおける「戦争責任・戦後責任」の言説を検証する。							
担当者名	初見　基							
独語独文コース	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
現代ドイツにおいて「過去の反省」は公的に規範化された姿勢となっている。戦後ドイツの諸言説を追うことを通じて，これがいかにして成立したかを検討し，また現今におけるその問題点を考察する，その一環として，本講義は「文学講義」であるため文学テクストを中心としたかたちでの検証を行う。

授業の到達目標
「戦争責任・戦後責任」という課題に関して，受講者自身の一定の考えをまとめられる状態になる。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　50%　　明確な主題。 説得的な展開。 的確な論拠。 適切な言語使用。
●**平常点**　50%　　下準備を丁寧にしてきて参加する。 問題意識をもって参加する。 疑問点や議論とするべき点を提示し，開かれた議論をする準備がある。
●**その他**　0%　　とくになし

科 目 名	ドイツ文学講義5　文化学の基礎理論：ハンス・ブルーメンベルクの思想再検討							
担当者名	哲学博士（ボン大）　前田　良三							
独語独文コース	２単位	秋学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
戦後ドイツ思想界に特異な位置を占めるハンス・ブルーメンベルクの作品『世界の可読性（Die Lesbarkeit der Welt)』（1981）から、数章を読み、その思想のエッセンスに迫る。

授業の到達目標
ドイツ文学・文化研究をはじめ、哲学・思想研究の現代的水準に対応する問題意識と方法的視点を学び、自立した研究の基礎となるテクスト読解力の訓練を行う。

成績評価方法
平常点評価（授業への参加、担当部分の読解の達成度を総合的に評価）

科 目 名	ドイツ思想講義1　モーツァルト《後宮からの逃走》と啓蒙の諸問題							
担当者名	山崎　太郎							
独語独文コース	２単位	春学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
今年はモーツァルトのジングシュピール『後宮からの逃走』（1782年初演、ゴットリープ・シュテファニー台本）を扱います。若者がトルコの宮廷から恋人を救出するというコンピューター・ゲームばりのストーリーと若きモーツァルトの躍動感あふれる音楽によって人気を集めるこの作品は同時に、キリスト教からイスラム教への転向者にして、唯一歌わない（歌えない）人物セリムを中心に配した複雑な大人のオペラでもあり、また西欧キリスト教世界とイスラム社会の相克というきわめて今日的な問題を扱い、寛容の精神を唱えた点でも注目されます。授業ではジングシュピール（歌芝居）鑑賞の基礎となる音楽（史）的知識を補いながら、（この時代のドイツ語によって書かれた戯曲としては比較的読解の容易な）台本を読み進めます。同時に18世紀の新聞記事をサブテクストとして使いながら、作品の背景となる当時のヨーロッパ・イスラムの関係についての知識を深め、①18世紀ウィーンの生活と社会、②啓蒙主義とモーツァルトのオペラの関わり、③ヨーロッパにおけるトルコ文化受容とエキゾチズム（オリエンタリズム）といった複数の切り口から、作品の魅力と深みを浮き彫りにします。さらには、数種類の演出を映像で比較鑑賞することによって、現代社会の問題がどのように舞台に投影されているかを考えながら、作品という素材（テクス

ト）と上演（パフォーマンス）の関係に光を当て、演出という行為の可能性を探ります。

授業の到達目標

1. 台本や18世紀の文献資料（新聞記事）を読むことで、古いドイツ語に関する感覚を養い、読解力を伸ばす。
2. 《後宮》およびモーツァルトについて書かれた研究論文を読むことで、作品解釈のアプローチを知る。
3. 作品成立の背景となる時代（18世紀ヨーロッパ）の社会・文化・思潮についての理解を深める。
4. DVDなどを通し、幾つかの上演映像を分析することで、演出という営為や作品のアクチュアリティーについて考える。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席に加え、授業中の発言・発表・参加の度合を重視します。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ドイツ文化講義1　「ドイツ」という国の成り立ち							
担当者名	村上　公子							
独語独文コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

「ドイツ」という国がどのような成り立ち方をしたかを、Wege - Irrwege - Umwege, Die Entwicklung der parlamentarischen Demokratie in Deutschlandに採られた論考をもとに学ぶ。

授業の到達目標

近代ドイツ国家が、国民国家としての形を整え、議会制民主主義国家という現在の政体に至るまでの過程を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない
●**レポート**　30%　　講読テキストの内容から興味ある時期を選んで研究し、報告する。
●**平常点**　70%　　テキストの内容を正確に理解し、出席の上それに基いて議論する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ドイツ文学演習1-1　現代ドイツ文学研究							
担当者名	村井　翔							
独語独文コース	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

受講者の修論執筆に資するような研究論文、小説の原典、作者の日記、手紙などを読む予定ですが、受講希望者は念のため担当教員に直接、お問い合わせください。

授業の到達目標

ドイツ語ドイツ文学コース所属者に関しては、修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席回数、授業への貢献度によって評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ文学演習1-2　現代ドイツ文学研究							
担当者名	村井　翔							
独語独文コース	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

受講者の修論執筆に資するような研究論文、小説の原典、作者の日記、手紙などを読む予定ですが、受講希望者は念のため担当教員に直接、お問い合わせください。

授業の到達目標

ドイツ語ドイツ文学コース所属者に関しては、修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席回数、授業への貢献度によって評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ文学演習2-1　Literaturtheorien in der Anwendung: Poststrukturalismus und Kulturwissenschaft							
担当者名	Ph.D. ロストック大（ドイツ）　クラヴィッター　アルネ							
独語独文コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

In dem Kurs werden verschiedene literaturwissenschaftliche Methoden und Theorien vorgestellt und diskutiert. Ausgehend von den Grundpositionen des Strukturalismus, wird ein Drei-Ebenen-Modell zur Struktur-Funktionsanalyse vorgestellt. Im Anschluss daran werden die Grundpositionen des Poststrukturalismus erarbeitet, um dann zum "Cultural turn" überzugehen. Abschließend widmen wir uns der Frage, unter welchen Voraussetzungen eine poststrukturalistische Kulturwissenschaft möglich ist.

授業の到達目標

Der Kurs führt die Studenten in literaturwissenschaftliche Methoden ein, stellt die theoretischen Grundpositionen des Strukturalismus, der Diskurs- und Medienanalyse vor und erprobt an Textbeispielen die Reichweite und Grenzen der verschiedenen Theorieansätze.

成績評価方法

- **試験** 0% no
- **レポート** 0% no
- **平常点** 100% Häufigkeit der Teilnahme (50 %), aktive Beteiligung wie Referate (50 %)
- **その他** 0% no

科 目 名	ドイツ文学演習4-1 モダン小説の巨匠たちが残した戯曲を敢えて読んでみる――ヘルマン・ブロッホ『贖罪』(1933)							
担当者名	山本 浩司							
独語独文コース	2単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

ヘルマン・ブロッホはジェームス・ジョイスとローベルト・ムージル、アルフレート・デーブリーンと並び称されるモダン小説の巨匠であり、小説についても重要な論考を残している。しかし彼が残した世界恐慌を生き残る企業家を取り扱った二編の戯曲『贖罪』(1932)と『でっち上げ、もしくはラボルデ男爵の商売』(1934)については長らく脚光を浴びることはないままだった。この二編が再評価されたのはようやく1990年代のことである。本講義では『贖罪』を精読することによって、戯曲二編がブロッホの作品を理解する上でどのような重要性を持っているかを測定する。

授業の到達目標

モダンクラシック小説と戯曲の相互作用関係を多角的に検討できるようになる。

成績評価方法

- **試験** 0% なし
- **レポート** 50% 4000字程度
- **平常点** 50% 出席とレフェラート
- **その他** 0% なし

科 目 名	ドイツ文学演習4-2 モダン小説の巨匠たちが残した戯曲を敢えて読んでみる――ローベルト・ムージル『夢想家たち』(1920)							
担当者名	山本 浩司							
独語独文コース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

ローベルト・ムージルの『特性のない男』はジェームス・ジョイス『ユリシーズ』、マルセル・プルースト『失われた時を求めて』とともに20世紀の三大モダン小説と呼ばれる。ムージルは『若いテルレスの惑い』や『三人の女』など短編の名手としても知られている。それに比したとき、戯曲『夢想家たち』(1920)は、一般に戯曲翻訳が人気がないこともあって、さほど知られていない。本講義では『夢想家たち』を精読することによって、『特性のない男』に通じるアスペクトを炙り出す。

授業の到達目標

モダンクラシック小説と戯曲の相互作用関係を多角的に検討できるようになる。

成績評価方法

- **試験** 0% なし
- **レポート** 50% 4000字程度
- **平常点** 50% 出席とレフェラート
- **その他** 0% なし

科 目 名	ドイツ語学演習1-1 ドイツ語のテクストを精読する							
担当者名	Ph.D. アウクスブルク大(ドイツ) 藤井 明彦							
独語独文コース	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

ドイツ語のテクストを読むことは、語学的な知識とテクスト内容に関する読み込みという両輪がバランスよく回転して初めてうまく行く。どちらに偏ってもいけない。また修士課程では、自分の関心領域だけでなく、さまざまなジャンル・時代・文体のドイツ語テクストに触れることが将来の糧にもなる。以上のような考えから、この演習では、受講者にそれぞれ自分が最も関心のあるドイツ語テクストを持ち寄ってもらい、それを参加者全員で精読して行くという形式をとる。参加者数にもよるが、1テクストを3～4回連続して読んで行く予定。

授業の到達目標

ドイツ語のテクストを精密・精確に読むために必要な言語的知識を身につける。

成績評価方法

- **試験** 0% 試験は行いません
- **レポート** 0% 不要
- **平常点** 100% 授業参加度と出席状況
- **その他** 0% 特になし

科 目 名	ドイツ語学演習1-2　ドイツ語のテクストを精読する							
担当者名	Ph.D. アウクスブルク大(ドイツ)　　藤井　明彦							
独語独文コース	２単位	秋学期	水曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

ドイツ語のテクストを読むことは、語学的な知識とテクスト内容に関する読み込みという両輪がバランスよく回転して初めてうまく行く。どちらに偏ってもいけない。また修士課程では、自分の関心領域だけでなく、さまざまなジャンル・時代・文体のドイツ語テクストに触れることが将来の糧にもなる。以上のような考えから、この演習では、受講者にそれぞれ自分が最も関心のあるドイツ語テクストを持ち寄ってもらい、それを参加者全員で精読して行くという形式をとる。参加者数にもよるが、1テクストを3〜4回連続して読んで行く予定。

授業の到達目標

ドイツ語のテクストを精密・精確に読むために必要な言語的知識を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません
●**レポート**　0%　　不要
●**平常点**　100%　　授業参加度と出席状況
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	ドイツ語学演習2-1　ドイツ言語学の基礎							
担当者名	室井　禎之							
独語独文コース	２単位	春学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

Meibauer u.a. (2007): Einführung in die germanistische Linguistikを講読します。春学期は教科書の前半を扱います。教科書を中心に授業を進めますが、扱う問題によっては、適宜他の文献も参照します。また随時日本語との対照も行います。

授業の到達目標

秋学期の演習と併せて、教科書および他の文献を読みながら、ドイツ語を体系的に考察するための基礎的な知識と考え方を学ぶことを目標とします。また、将来ドイツ語教員として授業を行う際に必要なドイツ語の言語体系についての基礎知識の習得も目指します。

成績評価方法

平常点評価(100%)：　教科書の内容報告、コメント、問題提起、応用、小レポート

科 目 名	ドイツ語学演習2-2　ドイツ言語学の基礎							
担当者名	室井　禎之							
独語独文コース	２単位	秋学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

春学期に引き続き、Meibauer u.a. (2007): Einführung in die germanistische Linguistikを講読します。秋学期は教科書の後半を扱います。教科書を中心に授業を進めますが、扱う問題によっては、適宜他の文献も参照します。また随時日本語との対照も行います。

授業の到達目標

春学期の演習と併せ、教科書および他の文献を読みながら、ドイツ語を体系的に考察するための基礎的な知識と考え方を学ぶことを目標とします。また、将来ドイツ語教員として授業を行う際に必要なドイツ語の言語体系についての基礎知識の習得も目指します。

成績評価方法

平常点評価(100%)：　教科書の内容報告、コメント、問題提起、応用、小レポート

科 目 名	ドイツ文学研究指導1-1　M　脱構築批評、ディスクール分析							
担当者名	村井　翔							
独語独文コース	—	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

受講者の修論執筆に資するような研究論文、小説の原典、作者の日記、手紙などを読む予定ですが、受講希望者は念のため担当教員に直接、お問い合わせください。

授業の到達目標

ドイツ語ドイツ文学コース所属者に関しては、修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ文学研究指導1-2　M　脱構築批評、ディスクール分析							
担当者名	村井　翔							
独語独文コース	—	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

受講者の修論執筆に資するような研究論文、小説の原典、作者の日記、手紙などを読む予定ですが、受講希望者は念のため担当教員に直接、お問い合わせください。

授業の到達目標
ドイツ語ドイツ文学コース所属者に関しては、修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ文学研究指導2-1　M　ドイツ近現代文学							
担当者名	Ph.D. ロストック大（ドイツ）　クラヴィッター　アルネ							
独語独文コース	—	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の完成に向けて、毎回担当者を決めて研究報告、先行文献の批判的紹介をしてもらい、それを受けて徹底討議する。論文の書き方、論文概要の書き方についても訓練する。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ文学研究指導4-1　M　ドイツ現代文学							
担当者名	山本　浩司							
独語独文コース	—	春学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の完成に向けて、担当者を決めて研究報告、先行文献の批判的紹介をしてもらい、それを受けて徹底討議をする。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ文学研究指導4-2　M　ドイツ現代文学							
担当者名	山本　浩司							
独語独文コース	—	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の完成に向けて、担当者を決めて研究報告、先行文献の批判的紹介をしてもらい、それを受けて徹底討議をする。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ語学研究指導1-1　M　ドイツ語史、ドイツ語学、ドイツ文化史一般							
担当者名	Ph.D. アウクスブルク大（ドイツ）　藤井　明彦							
独語独文コース	—	春学期	水曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
「ドイツ語学演習1-1」を参照のこと。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ語学研究指導1-2　M　ドイツ語史、ドイツ語学、ドイツ文化史一般							
担当者名	Ph.D. アウクスブルク大（ドイツ）　藤井　明彦							
独語独文コース	—	秋学期	水曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
「ドイツ語学演習1-2」を参照のこと。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ語学研究指導2-1　M　ドイツ語学							
担当者名	室井　禎之							
独語独文コース	—	春学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

1年生の場合は、テーマに沿ったリサーチデザイン、データ収集の方法、分析の要点などを主に指導する。2年生の場合は修士論文の作成に向けて、データ分析を深化させ、理論との関係の考察に重点をおく。

授業の到達目標

後期開講の「ドイツ語学研究指導2-2」とあわせ、自立的にドイツ語、ドイツ文化史上の現象を分析する能力を開発することを目標とする。それを通して修業年限内での修士論文の完成を目指す。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ語学研究指導2-2　M　ドイツ語学							
担当者名	室井　禎之							
独語独文コース	—	秋学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

1年生の場合は、テーマに沿ったリサーチデザイン、データ収集の方法、分析の要点などを主に指導する。2年生の場合は修士論文の作成に向けて、データ分析を深化させ、理論との関係の考察に重点をおく。

授業の到達目標

前期開講の「ドイツ語学研究指導2-1」に引き続き、自立的にドイツ語、ドイツ文化史上の現象を分析する能力を開発することを目標とする。それを通して修業年限内での修士論文の完成を目指す。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ文学研究指導1-1　D　20世紀・21世紀ドイツ文学							
担当者名	山本　浩司							
独語独文コース	—	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

この授業は博士課程の研究指導であるから個別発表を中心に進める。各人には研究経過について月一回程度報告してもらい、それをもとにした討議を経て、少なくとも年一回は、国内外の学会で口頭発表を行い、全国的な学会誌に論文を掲載できるよう指導する。これらの成果を踏まえてなるべく早く博士論文を書くことを求めていく。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ文学研究指導1-2　D　20世紀・21世紀ドイツ文学							
担当者名	山本　浩司							
独語独文コース	—	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

この授業は博士課程の研究指導であるから個別発表を中心に進める。各人には研究経過について月一回程度報告してもらい、それをもとにした討議を経て、少なくとも年一回は、国内外の学会で口頭発表を行い、全国的な学会誌に論文を掲載できるよう指導する。これらの成果を踏まえてなるべく早く博士論文を書くことを求めていく。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ文学研究指導2-1　D　ドイツ近現代文学、文学理論							
担当者名	Ph.D. ロストック大（ドイツ）　クラヴィッター　アルネ							
独語独文コース	—	春学期	木曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要

Regelmäßiges Treffen und Diskussion über das eigene Forschungsthema

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ文学研究指導2-2　D　ドイツ近現代文学、文学理論							
担当者名	Ph.D. ロストック大(ドイツ)　　クラヴィッター　アルネ							
独語独文コース	—	秋学期	木曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
Regelmäßiges Treffen und Diskussion über das eigene Forschungsthema

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ文学研究指導3-1　D　ドイツ現代文学と現代文化							
担当者名	松永　美穂							
独語独文コース	—	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の準備状況について、随時面接を行い、指導を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ文学研究指導3-2　D　ドイツ現代文学と現代文化							
担当者名	松永　美穂							
独語独文コース	—	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の準備状況について、随時面接を行い、指導を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ文学研究指導4-1　D　脱構築批評、ディスクール分析							
担当者名	村井　翔							
独語独文コース	—	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文作成のための論文指導を中心とする。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ文学研究指導4-2　D　脱構築批評、ディスクール分析							
担当者名	村井　翔							
独語独文コース	—	秋学期	水曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文作成のための論文指導を中心とする。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ語学研究指導1-1　D　ドイツ語史、ドイツ語学、ドイツ文化史一般							
担当者名	Ph.D. アウクスブルク大(ドイツ)　　藤井　明彦							
独語独文コース	—	春学期	金曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文作成のための論文指導を中心とする。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ語学研究指導1-2　D　ドイツ語史、ドイツ語学、ドイツ文化史一般							
担当者名	Ph.D. アウクスブルク大（ドイツ）　藤井　明彦							
独語独文コース	—	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
博士論文作成のための論文指導を中心とする。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ語学研究指導2-1　D　ドイツ語学							
担当者名	室井　禎之							
独語独文コース	—	春学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
博士論文作成のための論文指導を中心とする。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ドイツ語学研究指導2-2　D　ドイツ語学							
担当者名	室井　禎之							
独語独文コース	—	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
博士論文作成のための論文指導を中心とする。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

ロシア語ロシア文化コース

科 目 名	ロシア語学特論1　古教会スラヴ語入門1							
担当者名	博士(文学)東大　三谷　惠子							
露語露文コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

この授業では、古教会スラヴ語の基本的文法を学びながら、この文語の、スラヴ言語文化史における意義、またあわせて現代ロシア語に到るまでのロシア語の言語変化などについての理解を深める。

授業の到達目標

この授業では以下の2点を到達目標とする。
（1）古教会スラヴ語についての基本的な事項を学ぶ。
（2）古教会スラヴ語テクストの講読を通じて、ロシア語の特徴を理解する。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験は行わない
- **レポート**　20%　　期末レポートなど
- **平常点**　80%　　毎回の予習、授業態度
- **その他**　0%　　とくになし

科 目 名	ロシア語学特論2　古教会スラヴ語入門2							
担当者名	博士(文学)東大　三谷　惠子							
露語露文コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

古教会スラヴ語1に引き続き、古教会スラヴ語の言語特徴を学ぶ。さまざまな古教会スラヴ語のバリエーションを見ながら、スラヴ語・ロシア語の通時的変化についての理解をさらに深める。

授業の到達目標

この授業では次の2点を目標とする。
（1）古教会スラヴ語の特徴を理解し、代表的なテクストが読めるようになる。
（2）古教会スラヴ語から古ロシア語への変化についての理解を深める。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験は行わない
- **レポート**　20%　　期末レポートなど
- **平常点**　80%　　毎回の予習、授業態度など
- **その他**　0%　　とくになし

科 目 名	ロシア文化講義1　文化記号論							
担当者名	博士(文学)早大　大石　雅彦							
露語露文コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

ミハイル・バフチンの著作（英訳）を、解説を加えながら読んでゆきます

授業の到達目標

文化記号論の基礎的理解

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　出席・予習状況
- **その他**　0%

科 目 名	ロシア文化講義2　文化記号論							
担当者名	博士(文学)早大　大石　雅彦							
露語露文コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

バフチンの著作（英文）を、解説・説明を加えながら読んでゆきます

授業の到達目標

文化記号論の基礎的理解

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　100%　　出席・予習状況
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	ロシア文化講義3　ロシア文献学の基礎―書誌記述							
担当者名	源　貴志							
露語露文コース	２単位	春学期	月曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

論文を書く際に不可欠な、文献表示法（主としてロシア語文献）の訓練のため、背景としてのロシアの文献学・書誌学・文芸学について講義を行なう。

授業の到達目標

修士論文の執筆に必要な文献表示の方法について理解し、自らの論文作成に使用する参考文献表や註を、書誌学的な規則に則って作成できるようにする。

成績評価方法

各自の研究テーマについて、参考文献表を書誌規則に則って作成してもらい、講義の内容の理解度について評価する（なお、それらを教員において添削し返却する）。

科 目 名	ロシア文化講義4　ロシア文献学の基礎―参考図書							
担当者名	源　貴志							
露語露文コース	２単位	秋学期	月曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

ロシア語・ロシア文化研究に不可欠な参考図書（辞書・事典・書誌）ほかのレファレンス・ツールの種類・特徴・活用法およびそれらの沿革について解説し、あわせて、その背景としてのロシア文献学・書誌学・文芸学について講義を行なう。

授業の到達目標

修士論文の執筆に必要な参考文献の調査方法について理解し、あわせてロシアの文献学・書誌学・文芸学についての理解を深める。

成績評価方法

通常の講義なかで、ロシアの文献学・書誌学・文芸学についての理解度を確認しつつ行なう。

科 目 名	ロシア文化講義5　ロシア民衆文化の諸ジャンルを知る							
担当者名	博士（文学）東大　　三浦　清美							
露語露文コース	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

ロシア民衆文化の諸ジャンルから具体的な作品を選び、担当者を決めてそのジャンルの特徴を具体的なテクストにもとづいて把握し、その内容を報告してもらう。そのあと、教員よりそのジャンルの諸特徴についての解説、隣接分野との関係性、後代への影響について講義をおこなう。この授業は「講義」という名称がついているが、学生の主体性を重んじて演習的な要素を取り込む。将来、研究を継続させるうえでの糧にしてほしい。種をまくための授業である。

授業の到達目標

研究を継続させるための広い視野を養い、ロシア民衆文化の諸ジャンルの特徴を把握する。

成績評価方法

平常点100%、試験0%、レポート0%、その他0%
出席と予習、授業への参加の仕方を勘案して総合的に評価する。

科 目 名	ロシア文化講義6　ロシア民衆文化の諸ジャンルを知る							
担当者名	博士（文学）東大　　三浦　清美							
露語露文コース	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

ロシア民衆文化の諸ジャンルから具体的な作品を選び、担当者を決めてそのジャンルの特徴を具体的なテクストにもとづいて把握し、その内容を報告してもらう。そのあと、教員よりそのジャンルの諸特徴についての解説、隣接分野との関係性、後代への影響について講義をおこなう。この授業は「講義」という名称がついているが、学生の主体性を重んじて演習的な要素を取り込む。将来、研究を継続させるうえでの糧にしてほしい。種をまくための授業である。

授業の到達目標

研究を継続させるための広い視野を養い、ロシア民衆文化の諸ジャンルの特徴を把握する。

成績評価方法

平常点100%、試験0%、レポート0%、その他0%
出席と予習、授業への参加の仕方を勘案して総合的に評価する。

科 目 名	ロシア文化講義7　19世紀ロシア文学とその思想的・文化的背景							
担当者名	博士（文学）早大　　坂庭　淳史							
露語露文コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

この講義では、19世紀ロシア文学とりわけ詩について、ボリス・トマシェフスキー、リディア・ギンズブルク、ヴァジム・コージノフといった研究者たちの古典的名著と言われる著作を踏まえながら学んでいきます。ロシア詩の体系と個々の作品を分析するために必須の知識を身につけながら、あわせてミハイル・エプシュテインやエフィーム・エトキント、ウラジーミル・カントルといった研究者たちの著作にもを目を向け、最近の研究の動向も把握していきます。
また、ロシア語論文を正確に読むための語学力も養っていきます。

授業の到達目標

おもに19世紀から20世紀初めにかけてのロシア文学の歴史や主要な作家、作品、その背景について、古今の論文を通して総合的に理解することを目標とします。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　出席と予習、授業への参加度をあわせて評価します。
- **その他**　0%

科目名	ロシア文化講義8　19世紀ロシア文学とその思想的・文化的背景							
担当者名	博士(文学)早大　　坂庭　淳史							
露語露文コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

この講義では、19世紀ロシア文学とりわけ詩について、ボリス・トマシェフスキー、リディア・ギンズブルク、ヴァジム・コージノフといった研究者たちの古典的名著と言われる著作を踏まえながら学んでいきます。ロシア詩の体系と個々の作品を分析するために必須の知識を身につけながら、あわせてミハイル・エプシュテインやエフィーム・エトキント、ウラジーミル・カントルといった研究者たちの著作にもを目を向け、最近の研究の動向も把握していきます。

また、ロシア語論文を正確に読むための語学力も養っていきます。

授業の到達目標

おもに19世紀から20世紀初めにかけてのロシア文学の歴史や主要な作家、作品、その背景について、古今の論文を通して総合的に理解することを目標とします。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　出席と予習、授業への参加度をあわせて評価します。
- **その他**　0%

科目名	ロシア文化講義11　ロシア・フォルマリズムとはなんだったのか　1							
担当者名	博士(文学)早大　　八木　君人							
露語露文コース	2単位	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

この「ロシア文化講義11」では、「ロシア文化講義12」と同様に、文学を論じるための理論やツールとしてではなく、文化現象としてロシア・フォルマリズムを扱っていきます。いうまでもなく、「理論」とは、抽象的な真空状態のうちで生まれるのではなく、その理論にたずさわる個人やグループの「心理」や「精神」、そして、歴史的に規定された何らかの条件のもとで生成します。従って、この講義のかかげる根本的な問いは、「ロシア・フォルマリズムとはなんだったのか」ということになります。

とはいえ、そのためにはまず、個別的な理論やツールとして紹介されがちなロシア・フォルマリズムを、ある種の運動体として全体的に捉える必要があります。この「ロシア文化講義11」では、浩瀚な研究書であるハンゼン＝レーヴェ『ロシア・フォルマリズム』と、同時代の当事者の証言としてヤコブソン『形式学派と現代のロシア文芸学』とを中心的にとりあげ、講読しながら、解説を加えていきます。

とりわけロシア・アヴァンギャルドの中でロシア・フォルマリズムを捉えている前者を紐解くことによって、ロシア・フォルマリズムの全体像のみならず、文化現象としての「フォルマリズム」が、同時代の文化的コンテクストの中でどういう位置にあったのかもみえてくるはずです。

授業の到達目標

ロシア・フォルマリズムを文化現象として捉えていくにあたって、個々の理論やツール、用語としての理解を超えて、運動としての全体像を仮構し、ひとりよがりではない、説得力のあるかたちでそれを把握することを目標とします。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　出席や予習の状況、授業への参加態度によって評価します。
- **その他**　0%

科目名	ロシア文化講義12　ロシア・フォルマリズムとはなんだったのか　2							
担当者名	博士(文学)早大　　八木　君人							
露語露文コース	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

この「ロシア文化講義12」では、「ロシア文化講義11」と同様に、文学を論じるための理論やツールとしてではなく、文化現象としてロシア・フォルマリズムを扱っていきます。いうまでもなく、「理論」とは、抽象的な真空状態のうちで生まれるのではなく、その理論にたずさわる個人やグループの「心理」や「精神」、そして、歴史的に規定された何らかの条件のもとで生成します。従って、この講義のかかげる根本的な問いは、「ロシア・フォルマリズムとはなんだったのか」ということになります。

この「ロシア文化講義12」では、上のような観点から、現代のロシア・フォルマリズム研究をみていきます。中心となるのは、ヤン・レフチェンコ『他者の学問』、イリヤ・カリーニンやセルゲイ・ウシャーキンらの著作となります。

授業の到達目標

ロシア・フォルマリズムを文化現象として捉え、「ロシア・フォルマリズムとはなんだったのか」という問いに対して、ひとりよがりではない、説得力を有するかたちで各自が回答を有することを目標とします。

成績評価方法
- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　出席や予習の状況、授業への参加態度によって評価します。
- **その他**　0%

科 目 名	ロシア文化演習1-1　19世紀ロシア散文―小説							
担当者名	源　貴志							
露語露文コース	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要
19世紀ロシアの小説のなかから1作を選んで講読（精読）を行ないます。
単なる語学的な読解にとどまらず、文化史的な背景の考察、参考文献の参照、書誌学的な知識の応用などを実践的に行ないます。

授業の到達目標
露和辞典的・露文和訳的な読解を脱して、ロシア語文献を援用したより広くかつ深い読解の技術をそれぞれに身につけることが目標となります。

成績評価方法
平常点評価：100%　とくにレポートや試験を課しません。日常の読解と訳文作成の成果を評価します。

科 目 名	ロシア文化演習1-2　19世紀ロシア散文―評論							
担当者名	源　貴志							
露語露文コース	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要
19世紀ロシアの評論のなかから1作を選んで講読（精読）を行ないます。
単なる語学的な読解にとどまらず、文化史的な背景の考察、参考文献の参照、書誌学的な知識の応用などを実践的に行ないます。

授業の到達目標
露和辞典的・露文和訳的な読解を脱して、ロシア語文献を援用したより広くかつ深い読解の技術をそれぞれに身につけることが目標となります。

成績評価方法
平常点評価：100%　とくにレポートや試験を課しません。日常の読解と訳文作成の成果を評価します。

科 目 名	ロシア文化演習2-1　ロシア民衆文化を知る―ロシア民衆文化のプロトタイプとしてのロシア北部研究							
担当者名	博士（文学）東大　　三浦　清美							
露語露文コース	２単位	春学期	木曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要
ロシア語のトレーニングを行いながら、ロシア民衆文化の諸特徴を理解することがこの授業の課題である。具体的なことは、履修生と相談して決めたいと思っているが、教員側から提案するテクストは、ロシアの民俗学者にして作家、セルゲイ・ワシーリエヴィチ・マクシーモフの『北の一年Год в Севере』である。マクシーモフの上掲の書は、農奴制が存在せず民衆文化の伝統が根強く残っているロシア北部の文化を克明に記したもので、大学院の授業の題材としてふさわしいと考える。

授業の到達目標
ロシア語の読解能力を向上させ、ロシア民衆文化のの諸特徴を把握する。

成績評価方法
成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。授業中でのパフォーマンスを主な評価の対象とし、所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化演習2-2　ロシア民衆文化を知る―ロシア民衆文化のプロトタイプとしてのロシア北部研究							
担当者名	博士（文学）東大　　三浦　清美							
露語露文コース	２単位	秋学期	木曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要
ロシア語のトレーニングを行いながら、ロシア民衆文化の諸特徴を理解することがこの授業の課題である。具体的なことは、履修生と相談して決めたいと思っているが、教員側から提案するテクストは、ロシアの民俗学者にして作家、セルゲイ・ワシーリエヴィチ・マクシーモフの『北の一年Год в Севере』である。マクシーモフの上掲の書は、農奴制が存在せず民衆文化の伝統が根強く残っているロシア北部の文化を克明に記したもので、大学院の授業の題材としてふさわしいと考える。

授業の到達目標
ロシア語の読解能力を向上させ、ロシア民衆文化のの諸特徴を把握する。

成績評価方法
成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。授業中でのパフォーマンスを主な評価の対象とし、所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化演習3-1　19世紀ロシアの文学史、ジャンル、思想（1830年から1860年代を中心に）							
担当者名	博士(文学)早大　坂庭　淳史							
露語露文コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

この演習では、19世紀ロシアの文学史、ジャンル、思想について、ユーリー・マンやヴァジム・コージノフ、ユーリー・ロトマンといった研究者たちの古典的名著と言われる著作の講読を通して、体系的な知識を身につけていきます。また、最近の研究の動向も把握していきます。受講者には19世紀ロシアを分析するための主要な概念、用語、作家、歴史などについて、自分の研究対象ともすり合わせながら、発表をしてもらう予定です。

授業の到達目標

1830年から1860年代のロシア文学の動向とその背景について古今の研究論文を通して総合的に理解し、受講者それぞれに独自の視点を確立させることを目指します。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　出席と予習、授業への参加度、発表の内容をあわせて評価します。
- **その他**　0%

科 目 名	ロシア文化演習3-2　19世紀ロシアの文学史、ジャンル、思想（1830年から1860年代を中心に）							
担当者名	博士(文学)早大　坂庭　淳史							
露語露文コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

この演習では、19世紀ロシアの文学史、ジャンル、思想について、ユーリー・マンやヴァジム・コージノフ、ユーリー・ロトマンといった研究者たちの古典的名著と言われる著作の講読を通して、体系的な知識を身につけていきます。また、最近の研究の動向も把握していきます。受講者には19世紀ロシアを分析するための主要な概念、用語、作家、歴史などについて、自分の研究対象ともすり合わせながら、発表をしてもらう予定です。

授業の到達目標

1830年から1860年代のロシア文学の動向とその背景について古今の研究論文を通して総合的に理解し、受講者それぞれに独自の視点を確立させることを目指します。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　出席と予習、授業への参加度、発表の内容をあわせて評価します。
- **その他**　0%

科 目 名	ロシア文化演習4-1　20世紀ロシア文化研究（1910年代から30年代を中心に）							
担当者名	博士(文学)早大　八木　君人							
露語露文コース	２単位	春学期	火曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

履修者には、執筆する修士論文のテーマにあわせて発表してもらいます。ただし、その発表は、①：報告者自身が選んだ先行研究を紹介・検証する、②：報告者自身が修士論文で展開する内容について報告する、③：①と②を踏まえた報告者以外の履修者が、関連する文献や先行研究を報告者に提案し、報告者はそれを紹介・検証する、という三つのかたちをとりたいと思います。

無論、履修者数にもよりますが、理想的には、一人の履修者が①②③をそれぞれ一回ずつ、担当するのがベストなかたちであり、それを目指します。

授業の到達目標

①によって自らの修士論文のテーマに関する先行研究の状況を把握し、それを踏まえた上で、②を通して先行研究における自らの研究の位置と意義とを明確にしながら、自身の研究内容を提示し、③によって、他者の知見を取り入れ、より開かれたかたちで修士論文が展開されるようになることを目指します。

成績評価方法

自らの発表はもちろん、他の履修者の発表時における授業への参加態度を含めて、総合的に判断します。

科 目 名	ロシア文化演習4-2　20世紀ロシア文化研究（1910年代から30年代を中心に）							
担当者名	博士(文学)早大　八木　君人							
露語露文コース	２単位	秋学期	火曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

履修者には、執筆する修士論文のテーマにあわせて発表してもらいます。ただし、その発表は、①：報告者自身が選んだ先行研究を紹介・検証する、②：報告者自身が修士論文で展開する内容について報告する、③：①と②を踏まえた報告者以外の履修者が、関連する文献や先行研究を報告者に提案し、報告者はそれを紹介・検証する、という三つのかたちをとりたいと思います。

無論、履修者数にもよりますが、理想的には、一人の履修者が①②③をそれぞれ一回ずつ、担当するのがベストなかたちであり、それを目指します。

授業の到達目標

①によって自らの修士論文のテーマに関する先行研究の状況を把握し、それを踏まえた上で、②を通して先行研究における自らの研究の位置と意義とを明確にしながら、自身の研究内容を提示し、③によって、他者の知見を取り入れ、より開かれたかたちで修士論文が展開されるようになることを目指します。

成績評価方法
自らの発表はもちろん、他の履修者の発表時における授業への参加態度を含めて、総合的に判断します。

科 目 名	ロシア文化演習5-1　ロシア文化・思想研究							
担当者名	貝澤　哉							
露語露文コース	２単位	春学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
受講者の関心にしたがって、それぞれの研究の方法論と内容を深化させ、同時に、他の受講者との討論・意見交換によって、狭い専門の枠内に閉じこもらない、広い視野の獲得をめざす。

授業の到達目標
文献探査、調査、テクスト読解、研究方法論、文化理論の習得をとおして、研究の基礎的スキルの獲得をめざす。

成績評価方法
大学院にふさわしい総合評価。

科 目 名	ロシア文化演習5-2　ロシア文化・思想研究							
担当者名	貝澤　哉							
露語露文コース	２単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
受講者の関心にしたがって、それぞれの研究の方法論と内容を深化させ、同時に、他の受講者との討論・意見交換によって、狭い専門の枠内に閉じこもらない、広い視野の獲得をめざす。

授業の到達目標
文献探査、調査、テクスト読解、研究方法論、文化理論の習得をとおして、研究の基礎的スキルの獲得をめざす。

成績評価方法
大学院にふさわしい総合評価。

科 目 名	ロシア文化研究指導1-1　M　19世紀の散文作品の研究、比較文学、書誌学							
担当者名	源　貴志							
露語露文コース	—	春学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
「19世紀の散文作品の研究、比較文学、書誌学」について、各自の研究テーマにあわせて研究指導を行なう。

授業の到達目標
修業年限内での修士論文の完成を目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化研究指導1-2　M　19世紀の散文作品の研究、比較文学、書誌学							
担当者名	源　貴志							
露語露文コース	—	秋学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
「19世紀の散文作品の研究、比較文学、書誌学」について、各自の研究テーマにあわせて研究指導を行なう。

授業の到達目標
修業年限内での修士論文の完成を目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化研究指導2-1　M　ロシア民衆文化研究							
担当者名	博士(文学)東大　　三浦　清美							
露語露文コース	—	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
担当者を決めて、自分の修士論文に関連するテーマで発表してもらい、全体で検討、ディスカッションする。

授業の到達目標
修士論文の完成を目指す。

成績評価方法
成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。授業中でのパフォーマンスを主な評価の対象とし、所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化研究指導2-2　M　ロシア民衆文化研究							
担当者名	博士(文学)東大　　三浦　清美							
露語露文コース	—	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
担当者を決めて、自分の修士論文に関連するテーマで発表してもらい、全体で検討、ディスカッションする。

授業の到達目標
修士論文の完成を目指す。

成績評価方法
成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。授業中でのパフォーマンスを主な評価の対象とし、所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化研究指導3-1　M　19世紀ロシア文学研究（1820年代から1860年代を中心に）							
担当者名	博士(文学)早大　　坂庭　淳史							
露語露文コース	—	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
担当者を決めて、自分の修士論文に関連するテーマで発表をしてもらい、全体で検討、ディスカッションをします。

授業の到達目標
修士論文の完成を目指します。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化研究指導3-2　M　19世紀ロシア文学研究（1820年代から1860年代を中心に）							
担当者名	博士(文学)早大　　坂庭　淳史							
露語露文コース	—	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
担当者を決めて、自分の修士論文に関連するテーマで発表をしてもらい、全体で検討、ディスカッションをします。

授業の到達目標
修士論文の完成を目指します。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化研究指導4-1　M　20世紀ロシア文化研究（1910-30年代を中心に）							
担当者名	博士(文学)早大　　八木　君人							
露語露文コース	—	春学期	火曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
ゼミ生による研究発表とディスカッション、および修士論文作成にあたって教員によるゼミ生の個別指導を行います。

授業の到達目標
より良い修士論文の完成を目指します。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化研究指導4-2　M　20世紀ロシア文化研究（1910-30年代を中心に）							
担当者名	博士(文学)早大　　八木　君人							
露語露文コース	—	秋学期	火曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
ゼミ生による研究発表とディスカッション、および修士論文作成にあたって教員によるゼミ生の個別指導を行います。

授業の到達目標
より良い修士論文の完成を目指します。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化研究指導5-1　M　ロシア文化・思想研究							
担当者名	貝澤　哉							
露語露文コース	—	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
受講者の関心にしたがって、それぞれの研究の方法論と内容を深化させ、同時に、他の受講者との討論・意見交換によって、狭い専門の枠内に閉じこもらない、広い視野の獲得をめざす。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
総合的に判断する。

科 目 名	ロシア文化研究指導5-2　M　ロシア文化・思想研究							
担当者名	貝澤　哉							
露語露文コース	—	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
受講者の関心にしたがって、それぞれの研究の方法論と内容を深化させ、同時に、他の受講者との討論・意見交換によって、狭い専門の枠内に閉じこもらない、広い視野の獲得をめざす。

授業の到達目標
文献探査、調査、テクスト読解、研究方法論、文化理論の習得をとおして、研究の基礎的スキルの獲得をめざす。

成績評価方法
大学院にふさわしい総合評価。

科 目 名	ロシア文化研究指導1-1　D　19世紀の散文作品の研究、比較文学、書誌学							
担当者名	源　貴志							
露語露文コース	—	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
「19世紀の散文作品の研究、比較文学、書誌学」について、各自の研究テーマにあわせて研究指導を行なう。

授業の到達目標
修業年限内での博士論文の完成を目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化研究指導1-2　D　19世紀の散文作品の研究、比較文学、書誌学							
担当者名	源　貴志							
露語露文コース	—	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
「19世紀の散文作品の研究、比較文学、書誌学」について、各自の研究テーマにあわせて研究指導を行なう。

授業の到達目標
修業年限内での博士論文の完成を目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化研究指導2-1　D　ロシア民衆文化研究							
担当者名	博士(文学)東大　三浦　清美							
露語露文コース	—	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
担当者を決めて、自分の博士論文に関連するテーマで発表してもらい、全体で検討、ディスカッションする。

授業の到達目標
博士論文の完成を目指す。

成績評価方法
成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。授業中でのパフォーマンスを主な評価の対象とし、所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化研究指導2-2　D　ロシア民衆文化研究							
担当者名	博士(文学)東大　三浦　清美							
露語露文コース	—	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
担当者を決めて、自分の博士論文に関連するテーマで発表してもらい、全体で検討、ディスカッションする。

授業の到達目標
博士論文の完成を目指す。

成績評価方法
成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。授業中でのパフォーマンスを主な評価の対象とし、所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化研究指導3-1　D　19世紀ロシア文学研究（1820年代から1860年代を中心に）							
担当者名	博士(文学)早大　坂庭　淳史							
露語露文コース	—	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
担当者を決めて、自分の博士論文に関連するテーマで発表をしてもらい、全体で検討、ディスカッションをします。

授業の到達目標
博士論文の完成を目指します。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化研究指導3-2　D　19世紀ロシア文学研究（1820年代から1860年代を中心に）							
担当者名	博士(文学)早大　坂庭　淳史							
露語露文コース	—	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
担当者を決めて、自分の博士論文に関連するテーマで発表をしてもらい、全体で検討、ディスカッションをします。

授業の到達目標
博士論文の完成を目指します。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化研究指導4-1　D　20世紀ロシア文化研究（1910-30年代を中心に）							
担当者名	博士(文学)早大　八木　君人							
露語露文コース	—	春学期	火曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
ゼミ生による研究発表とディスカッション、および課程博士論文作成にあたって教員によるゼミ生の個別指導を行います。

授業の到達目標
より良い課程博士論文の完成を目指します。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化研究指導4-2　D　20世紀ロシア文化研究（1910-30年代を中心に）							
担当者名	博士(文学)早大　八木　君人							
露語露文コース	—	秋学期	火曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
ゼミ生による研究発表とディスカッション、および課程博士論文作成にあたって教員によるゼミ生の個別指導を行います。

授業の到達目標
より良い課程博士論文の完成を目指します。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	ロシア文化研究指導5-1　D　ロシア文化・思想研究							
担当者名	貝澤　哉							
露語露文コース	—	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
受講者の関心にしたがって、それぞれの研究の方法論と内容を深化させ、同時に、他の受講者との討論・意見交換によって、狭い専門の枠内に閉じこもらない、広い視野の獲得をめざす。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
大学院にふさわしい総合評価。

科 目 名	ロシア文化研究指導5-2　D　ロシア文化・思想研究							
担当者名	貝澤　哉							
露語露文コース	—	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
受講者の関心にしたがって、それぞれの研究の方法論と内容を深化させ、同時に、他の受講者との討論・意見交換によって、狭い専門の枠内に閉じこもらない、広い視野の獲得をめざす。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

大学院にふさわしい総合評価。

中国語中国文学コース

科 目 名	中国文学研究1　未完の天才路翎を読む							
担当者名	博士(文学)慶大　　関根　謙							
中国語中国文学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

1940年代に活躍した路翎の作品を精読する。路翎は胡風によって見出された優れた長編小説作家で、その『財主的児女們』は当時大きな反響を呼んだ超長編作品でありながら、その後の政治情勢により評価研究がそれほど進んではいない。本講義では昨年2017度秋学期から路翎の精読を進めており、初めての戯曲作品「雲雀」の検討を行った。今学期は昨年に続き衝撃的な小説作品『飢餓的郭素娥』に取り組むことにする。本作品は、路翎文学の本質を知る上で貴重な作品であり、単なる文学精読を超えた派生的研究を導くものである。本年度は昨年度までの精読を継続して読み進めて行く。

授業の到達目標

中国文学史上「未完の天才」と言われ、不遇の人生を送った作家路翎、その作品を精読することにより、文学とメディア、文体と思想などについての基本的理解を深める。路翎の文学的達成について理解を深め、路翎周辺の胡風グループとの関係について研究の視野を広げる。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　事前準備の状況、受講時の発表内容などを重視。
- **その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

路翎の作品を知らない受講者が多いと思うが、その代表作1、2点は目を通しておくことが望ましい。

科 目 名	中国文学研究2　未完の天才路翎を読む							
担当者名	博士(文学)慶大　　関根　謙							
中国語中国文学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

春学期に引き続き、1940年代に活躍した路翎の作品を精読する。路翎は胡風によって見出された優れた長編小説作家で、その『財主的児女們』は当時大きな反響を呼んだ超長編作品でありながら、その後の政治情勢により評価研究がそれほど進んではいない。本講義では2017度秋学期から路翎の精読を進めており、これまで「雲雀」「飢餓的郭素娥」の検討を行ってきた。秋学期は路翎の初期の作品を精読していく予定である。単なる文学精読を超えた派生的研究が広がることを期待している。

授業の到達目標

中国文学史上「未完の天才」と言われ、不遇の人生を送った作家路翎、その作品を精読することにより、文学とメディア、文体と思想などについての基本的理解を深める。路翎の文学的達成について理解を深め、路翎周辺の胡風グループとの関係について研究の視野を広げる。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　事前準備の状況、受講時の発表内容などを重視。
- **その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

路翎の作品を知らない受講者が多いと思うが、その代表作1、2点は目を通しておくことが望ましい。

科 目 名	中国文学研究3　中国古典小説研究をめぐって							
担当者名	鈴木　陽一							
中国語中国文学コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本講義は、中国文学研究の流れと、文学研究の新たなパラダイムを踏まえ、実際に講師自身が試みた新たな研究法について具体的に紹介し、作品と方法との関係についての可能性を明らかにしようとするものである。特に、作品のどのような特長に着目して方法を選択したのかという点と、西欧と中国、或いは日本と中国との文化的背景の違いを正確に認識して適用することを重視して、講義を行う。

本講義においては、あらゆる研究方法に万能薬はないこと、あらゆる研究方法には時代と社会と個人の烙印が押されていることを述べつつ、過去の研究者、及び講師自身が何を求めて新たな研究方法を模索していたのかということに重点を置いて議論を進めていきたい。

授業の到達目標

日本の中国小説研究の歴史とその概要、時代の転換点における研究方法の変化発展を理解し、それらの知識を通じて、我々が今立っている地点、自己の研究の出発点がどこにあるのかを認識することを一つの目標とする。そのうえで、今回の講義をヒントにして、自らの研究を進める過程で、より柔軟に、かつ意欲的に新たな研究法を試み、一歩も二歩も研究の創造的な発展につなげること、これが本講義の到達目標である。

成績評価方法

学期途中のレポート20%、最後の報告20%、授業中の質疑応答及び討論への参加10%、最後のレポートを50%とする。

科 目 名	中国文学研究4　中国古典小説研究をめぐって							
担当者名	鈴木　陽一							
中国語中国文学コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本講義は、中国文学研究の流れと、文学研究の新たなパラダイムを踏まえ、実際に講師自身が試みた新たな研究法について具体的に紹介し、作品と方法との関係についての可能性を明らかにしようとするものである。特に、作品のどのような特長に着目して方法を選択したのかという点と、西欧と中国、或いは日本と中国との文化的背景の違いを正確に認識して適用することを重視して、講義を行う。

本講義においては、あらゆる研究方法に万能薬はないこと、あらゆる研究方法には時代と社会と個人の烙印が押されていることを述べつつ、過去の研究者、及び講師自身が何を求めて新たな研究方法を模索していたのかということに重点を置いて議論を進めていきたい。

授業の到達目標

日本の中国小説研究の歴史とその概要、時代の転換点における研究方法の変化発展を理解し、それらの知識を通じて、我々が今立っている地点、自己の研究の出発点がどこにあるのかを認識することを一つの目標とする。そのうえで、今回の講義をヒントにして、自らの研究を進める過程で、より柔軟に、かつ意欲的に新たな研究法を試み、一歩も二歩も研究の創造的な発展につなげること、これが本講義の到達目標である。

成績評価方法

学期途中のレポート20%、最後の報告20%、授業中の質疑応答及び討論への参加10%、最後のレポートを50%とする。

科 目 名	中国語学研究3　「教学語法」を考える							
担当者名	植村　麻紀子							
中国語中国文学コース	２単位	春学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

この授業では、中国語を母語としない学習者に対しての「文法」教育について考える。外国語として中国語の運用能力を養成することと、中国語という言語の体系を知識として学ぶことは必ずしもイコールではない。学習者が必要とする「文法」はニーズやレディネス等によっても変わるはずである。春学期は“理论语法与教学语法”を切り口に、周小兵主编2017《对外汉语教学入门》第11章语法教学と関連資料を読み、受講者と議論しながら進めていく。

授業の到達目標

理論語法と教学語法の違い、中国語を母語としない学習者に対して「文法」を教える際の原則や方法について理解することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　授業で学んだことをまとめた上で、自分なりの考察を加えているか。（より詳細な評価基準は授業時に示す）
●**平常点**　70%　　授業参加度、予習状況、毎回の課題への取り組み。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中国語学研究4　中国語の授業を設計する							
担当者名	植村　麻紀子							
中国語中国文学コース	２単位	秋学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

秋学期は「日本語を母語とする学習者に対して、どのように中国語を教えたらよいか」をテーマに、周小兵主编2017《对外汉语教学入门》第2章外语教学法、第3章课堂教学と関連資料を読み、受講者と議論しながら進めていく。コミュニケーション能力指標に基づく文型リストを検討し、教学方法や教材を具体的に考えていく。 インストラクショナル・デザイン、カリキュラム設計、各種外国語教育スタンダード等の文献も参照し、他の言語教育の知見や実践例も学びながら実際に設計してみる。

授業の到達目標

中国語を母語としない学習者（特に日本語母語話者）への中国語教育において、発音・語彙・文法面でどのような視点や工夫が必要かを理解し、具体的な教学方法を考え、教材を設計することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　授業で学んだことをまとめた上で、自分なりの考察を加えて、具体的に授業設計できているか（より詳細な評価基準は授業時に示す）
●**平常点**　70%　　授業への参加度、予習状況、毎回の課題への取り組み
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中国文学講義3　中国現代文化論（1）							
担当者名	高屋　亜希							
中国語中国文学コース	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

文革が終わった1970年代後半以降、国から与えられたポストや戸籍など、固定的な身分に縛られていた社会状況がしだいに崩れ、再編されていく過程は、人々に大きなアイデンティティの変容をもたらすとともに、現代中国の社会や文化にも変容をもたらすことになった。本講義では、中国現代文化を国によって与えられた身分への異議申し立て、新たな身分の獲得という視角から1970～1980年代の文学などを中心にした中国現代文化について、歴史的かつジャンル横断的に考察する。

授業の到達目標

文革終結から1980年代までの中国現代文化がいかなる社会的背景のもとで生み出されたものか、認識の枠組みを得ることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　1970～1980年代の文学作品や文化現象について、講義で扱った歴史的経緯や社会的背景を理解し、先行研究を広く調査した上で、独自の視点から分析しているものを評価する。
●**平常点**　50%　　授業への出席のほか、発言などの授業への積極性を評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中国文学講義4　中国現代文化論（2）							
担当者名	高屋　亜希							
中国語中国文学コース	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

文革が終わった1970年代後半以降、国から与えられたポストや戸籍など、固定的な身分に縛られていた社会状況がしだいに崩れ、再編されていく過程は、人々に大きなアイデンティティの変容をもたらすとともに、現代中国の社会や文化にも変容をもたらすことになった。本講義では、中国現代文化を国によって与えられた身分への異議申し立て、新たな身分の獲得という視角から1990～2000年代の文学などを中心にした中国現代文化について、歴史的かつジャンル横断的に考察する。

授業の到達目標

1990年代から21世紀初頭までの中国現代文化がいかなる社会的背景のもとで生み出されたものか、認識の枠組みを得ることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　1990年代から21世紀初頭の作品や文化現象について、講義で扱った歴史的経緯や社会的背景を理解した上で、先行研究を広く調査し、独自の視点から分析しているものを評価する。
●**平常点**　50%　　授業への出席のほか、発言などの授業への積極性を評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中国文学講義5　清代言語史の研究（一）（2019年前期）							
担当者名	落合　守和							
中国語中国文学コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

（1）清代から民国にかけて北方中国に流行した藝能のうち旗人小説，北京評書と裁判供述，満漢合璧課本から四つの作品を選び，その読解を通じて，百年前の北京の話し言葉に対する感触をつかむ。
（2）三つの作品の，18世紀半ばの『石頭記（紅楼夢）』，19世紀半ばの『児女英雄伝』から20世紀初めの『実事小説春阿氏』・『社会小説小額』を経て，老舎30年代の『我這一輩子』・『離婚』に至る，北京語の成立過程への位置付けを試みる。
（3）朝鮮中国語課本『老乞大』の初期刊本に見られる語「漢児言語」（中国語）や黒龍江省ドルブトモンゴルの混合言語（包聯群）を手がかりに中国語の複合的性格に目を向け先行研究を見直そうとする近二十年来の研究動向にも触れる。
（4）1990年代終わりから2018年にかけて放送されたテレビドラマを参照し，二百年前，百年前の言葉との異同について理解を深める。

授業の到達目標

・十六世紀の末に清の太祖ヌルハチがエルデニとカガイに命じ満洲文字を制定してからおよそ三百年「国語騎射」のかけ声に示されるように，満洲語には標準言語の地位が与えられた。一方，清代中国で生み出された書物のうちには，満洲文字満洲語と漢字漢語が並列対照する満洲語読本があり，その形式には，ある時期の北京において，満洲語と漢語とが言語接触の状態にあったことが反映していると考えられる。すでに早く乾隆（1735-95）の末年北京の内城では日常言語として漢語が話され，満洲語は衙門（役所）の公用語としての役割しか持たなくなっていたという。居住地域を内城に限定されていた満洲旗人が，なぜどのようにして自らの言語から被征服民族の言語への切替えを行なったのか，その具体的な契機や経過はほとんど解明されていない。北京語が形成される過程を，資料に基づいて解明したい。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　・小レポート，報告内容などによる総合評価
●**平常点**　50%　　・小レポート，報告内容，理解度の確認などによる総合評価
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

・満洲文字の書き方と音声については『清文啓蒙』巻一，「満文十二字頭」及び同「清書運筆先後」，・満洲語の語法については季永海等198『満語語法』（北京：民族出版社）及び季永海2014『満語語法増訂版』（北京：中央民族大学出版社）を参照する。・新聞連載（の小説・」評書）及び満漢課本の刊本では原件または原件複製（写真・複写・pdf）を，小説及び裁判供述の抄本では，原件またはそのマイクロフィルム版から抄写したテキスト（1999-2018落合による抄写）を使用する。複写テキストを配布。

科 目 名	中国文学講義6　清代言語史の研究（二）（2019年後期）							
担当者名	落合　守和							
中国語中国文学コース	２単位	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

（1）清代から民国にかけて北方中国に流行した藝能のうち旗人小説，北京評書と裁判供述，満漢合璧課本から四つの作品を選び，その読解を通じて，百年前の北京の話し言葉に対する感触をつかむ。

（2）三つの作品の，18世紀半ばの『石頭記（紅楼夢）』，19世紀半ばの『児女英雄伝』から20世紀初めの『実事小説春阿氏』・『社会小説小額』を経て，老舎30年代の『我這一輩子』・『離婚』に至る，北京語の成立過程への位置付けを試みる。

（3）朝鮮中国語課本『老乞大』の初期刊本に見られる語「漢児言語」（中国語）や黒龍江省ドルブトモンゴルの混合言語（包聯群）を手がかりに中国語の複合的性格に目を向け先行研究を見直そうとする近二十年来の研究動向にも触れる。

（4）1990年代終わりから2018年にかけて放送されたテレビドラマを参照し，二百年前，百年前の言葉との異同について理解を深める。

授業の到達目標

・十六世紀の末に清の太祖ヌルハチがエルデニとカガイに命じ満洲文字を制定してからおよそ三百年「国語騎射」のかけ声に示されるように，満洲語には標準言語の地位が与えられた。一方，清代中国で生み出された書物のうちには，満洲文字満洲語と漢字漢語が並列対照する満洲語読本があり，その形式には，ある時期の北京において，満洲語と漢語とが言語接触の状態にあったことが反映していると考えられる。すでに早く乾隆（1735-95）の末年北京の内城では日常言語として漢語が話され，満洲語は衙門（役所）の公用語としての役割しか持たなくなっていたという。居住地域を内城に限定されていた満洲旗人が，なぜどのようにして自らの言語から被征服民族の言語への切替えを行なったのか，その具体的な契機や経過はほとんど解明されていない。北京語が形成される過程を，資料に基づいて解明したい。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　・小レポート，報告内容などによる総合評価
●**平常点**　50%　　・小レポート，報告内容，理解度の確認などによる総合評価
●**その他**　0%

備考・関連URL

・満洲文字の書き方と音声については『清文啓蒙』巻一，「満文十二字頭」及び同「清書運筆先後」，・満洲語の語法については季永海等198『満語語法』（北京：民族出版社）及び季永海2014『満語語法増訂版』（北京：中央民族大学出版社）を参照する。・新聞連載（の小説・」評書）及び満漢課本の刊本では原件または原件複製（写真・複写・pdf）を，小説及び裁判供述の抄本では，原件またはそのマイクロフィルム版から抄写したテキスト（1999-2018落合による抄写）を使用する。複写テキストを配布。

科 目 名	中国文学講義7　中国文献学の基礎と応用							
担当者名	高橋　智							
中国語中国文学コース	２単位	春学期	金曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要

中国文献学の範疇についての講義と研究意義についての理解を深める

授業の到達目標

中国に於ける古籍文献研究の現状を知る

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　毎回、出席確認をする
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中国文学講義8　中国版本学講義							
担当者名	高橋　智							
中国語中国文学コース	２単位	秋学期	金曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要

中国版本学に於ける中国印刷史の意義と中国蔵書史の概要を講義する

授業の到達目標

中国に於ける版本学・蔵書史研究の現状を知る

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　毎回　出席確認をする
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中国文学講義9							
担当者名	王　瑞来							
中国語中国文学コース	２単位	春学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本には昔から優れた漢文の訓読方法がある。この方法は漢文史料の解読において大いに裨益する。しかし古代中国語である

漢文は、やはり現代中国語とは異なる。本講義では、漢文・現代語ともに重んじ、宋代の随筆を輪読して、中国古典文学を研究する際に、不可欠な漢文史料の解読力を養成する。受講者の積極的な参加を期待する。

授業の到達目標

漢文・現代文ともに重んじ、解読力と翻訳力を養成することを目指す。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　70%　　課題の完成度
- **その他**　30%　　出席点

科目名	中国文学講義10							
担当者名	王　瑞来							
中国語中国文学コース	２単位	秋学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本には昔から優れた漢文の訓読方法がある。この方法は漢文史料の解読において大いに裨益する。しかし古代中国語である漢文は、やはり現代中国語とは異なる。本講義では、漢文・現代語ともに重んじ、宋代の随筆を輪読して、中国古典文学を研究する際に、不可欠な漢文史料の解読力を養成する。受講者の積極的な参加を期待する。

授業の到達目標

漢文・現代文ともに重んじ、解読力と翻訳力を養成することを目指す。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　70%　　課題の完成度
- **その他**　30%　　出席点

科目名	中国文学演習2-1　『桃花扇』伝奇を読む							
担当者名	岡崎　由美							
中国語中国文学コース	２単位	春クォーター	金３時限	金４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

清・孔尚任の『桃花扇』伝奇を輪読する。歴史群像劇である本作品は、清代伝奇の一つの完成点に達したともいえる名作であり、演劇としてのドラマツルギーの面でも、文学的描写の面でも完成度が高く、また、日本の文学・芸能にも影響をあたえており、中国戯曲研究の一環として学ぶべきところの多い作品である。授業では、分担形式で訳注を施しつつ、輪読を進める。

授業の到達目標

① 翻字、校勘、訳注の作業を通じて古典テクストを扱う専門的スキルを養う。
② 精読を通じて、分析的視点で作品の理解を深める。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　100%　　出席と発表を主な対象とする。
- **その他**　0%　　なし

科目名	中国文学演習2-2　『桃花扇』伝奇を読む							
担当者名	岡崎　由美							
中国語中国文学コース	２単位	冬クォーター	金３時限	金４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

春学期に引き続き、清・孔尚任の『桃花扇』伝奇を輪読する。授業では、分担形式で訳注を施しつつ、輪読を進める。

授業の到達目標

① 翻字、校勘、訳注の作業を通じて古典テクストを扱う専門的スキルを養う。
② 精読を通じて、分析的視点で作品の理解を深める。
③ 問題点の検討、ディスカッションから、研究課題を見出す。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　100%　　出席と発表を主な対象とする。
- **その他**　0%　　なし

科目名	中国文学演習3-1　中国文学・文化研究							
担当者名	千野　拓政							
中国語中国文学コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

中国現代文学の作品を一つ選び、受講者全員が日本語に翻訳する。
あわせて、現代の中国文学・文化が抱える課題について検討・討論を行う。
毎回、報告者を決め、それらの翻訳に基づいて問題点などを提示してもらい、全員で検討する。報告者はその検討に基づいて

最終稿を提出する。
翻訳は最終的にまとめて、公表する。
翻訳する作品は、教場で指示する。

授業の到達目標

中国現代文学・文化に関する作品の翻訳を実践する。
また、当該の作家などについての調査や、著作目録・関連文献目録などの資料の作成も行う。
あわせて、上記の作業を通して、中国現代文学・文化が抱える課題について考察する。

成績評価方法

平常点と提出物で評価する。

備考・関連URL

翻訳の実践を通じて、良質な中国語の感覚を養っていただき、あわせて、中国文学が直面している問題について、知見を深めていただきたいと思います。活発な議論を期待します。
関連URL:　その都度教場で指示する

科目名	中国文学演習3-2　中国文学・文化研究							
担当者名	千野　拓政							
中国語中国文学コース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

中国現代文学の作品を一つ選び、受講者全員が日本語に翻訳する。あわせて、現代の中国文学・文化が抱える課題について検討・討論を行う。
毎回、報告者を決め、それらの翻訳に基づいて問題点などを提示してもらい、全員で検討する。報告者はその検討に基づいて最終稿を提出する。
翻訳は最終的にまとめて、公表する。
翻訳する作品は、教場で指示する。

授業の到達目標

中国現代文学・文化に関する作品の翻訳を実践する。
また、当該の作家などについての調査や、著作目録・関連文献目録などの資料の作成も行う。
あわせて、上記の作業を通して、中国現代文学・文化が抱える課題について考察する。

成績評価方法

平常点と提出物で評価する

備考・関連URL

翻訳の実践を通じて、良質な中国語の感覚を養っていただき、あわせて、中国文学が直面している問題について、知見を深めていただきたいと思います。活発な議論を期待します。
関連URL:　その都度教場で指示する

科目名	中国語学演習2-1　中国言語理論・文法論1							
担当者名	博士(文学)早大　内藤　正子							
中国語中国文学コース	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

言語理論の構築には、言語観の確立も含め、その概念形成において、どのような言語に基づくかということが重要になる。中国語の特徴に基づく言語理論とはどのようなものか、高名凱から徐通鏘へと受け継がれたこのテーマを、≪語言学是什麽≫を読みながら考えてゆきたい。各テーマについて、受講者による問題点の整理とそれに基づく討議を行うことにより、理解をより確かなものとし、更なる研究へのステップとすることができるだろう。

授業の到達目標

中国語の言語理論について、先行研究や周辺領域の研究成果を踏まえて、各自が独自の研究課題を見つけ進展させることを狙いとする。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　50%　課題に対する取り組みを評価する。
- **平常点**　50%　出席及び授業に対する積極性等を評価する。
- **その他**　0%

科目名	中国語学演習2-2　中国言語理論・文法論2							
担当者名	博士(文学)早大　内藤　正子							
中国語中国文学コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

≪馬氏文通≫以来の根源的な問題、即ち、西洋の言語理論と中国の言語研究とをいかに結びつけるかという問題を、建国後から現代までの文法研究史を視野に入れつつ考えてゆきたい。春期に引き続き、徐通鏘≪語言学是什麽≫をテキストとし、各テーマについて受講者による問題点の整理と討議を中心に授業を進める。

授業の到達目標

春期（中国語学演習2-1）に引き続き、中国語の言語理論について、哲学、心理学、社会学等言語学の関連分野の研究成果を取り入れつつ理解し、それを基に各自が独創的な研究を進める力をつけることを狙いとする。

成績評価方法

- **試験**　0%

●**レポート**　50%　　課題に対する取り組みを評価する。
●**平常点**　50%　　出席及び授業に対する積極性を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	中国語学演習3-1　テストと教材							
担当者名	楊　達							
中国語中国文学コース	２単位	春学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
授業では、第二言語習得、テスト理論、認知心理学などのテキストを発表することと並行して、2013年度の統一テストのデータを整理して、分析しながら、現在試行している一年中国語の教材の改善点を見出し、修正案を作成する予定。専門書の学習と具体的な作業が50%ずつの割合になります。

授業の到達目標
具体的な作業を通じて、理論を検証、発見することを目指します。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　課題を正確にとらえること
●**平常点**　50%　　研究発表
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中国語学演習3-2　テストと教材							
担当者名	楊　達							
中国語中国文学コース	２単位	秋学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
春期につづき、授業では、第二言語習得、テスト理論、認知心理学などのテキストを発表することと並行して、2013年度の統一テストのデータを整理して、分析しながら、現在試行している一年中国語の教材の改善点を見出し、修正案を作成する予定。専門書の学習と具体的な作業が50%ずつの割合になります。

授業の到達目標
具体的な作業を通じて、理論を検証、発見することを目指します。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　50%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

科 目 名	中国文学研究指導2-1　M　近世白話文学							
担当者名	岡崎　由美							
中国語中国文学コース	—	春学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
清・孔尚任の『桃花扇』伝奇を輪読する。歴史群像劇である本作品は、清代伝奇の一つの完成点に達したともいえる名作であり、演劇としてのドラマツルギーの面でも、文学的描写の面でも完成度が高く、また、日本の文学・芸能にも影響をあたえており、中国戯曲研究の一環として学ぶべきところの多い作品である。授業では、分担形式で訳注を施しつつ、輪読を進める。

授業の到達目標
①　翻字、校勘、訳注の作業を通じて古典テクストを扱う専門的スキルを養う。
②　精読を通じて、分析的視点で作品の理解を深める。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席と発表を主な対象とする。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中国文学研究指導2-2　M　近世白話文学							
担当者名	岡崎　由美							
中国語中国文学コース	—	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
春学期に引き続き、清・孔尚任の『桃花扇』伝奇を輪読する。授業では、分担形式で訳注を施しつつ、輪読を進める。

授業の到達目標
①　翻字、校勘、訳注の作業を通じて古典テクストを扱う専門的スキルを養う。
②　精読を通じて、分析的視点で作品の理解を深める。
③　問題点の検討、ディスカッションから、研究課題を見出す。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席と発表を主な対象とする。

●その他　0%　　なし

科 目 名	中国文学研究指導3-1　M　中国近現代文学・文化研究							
担当者名	千野　拓政							
中国語中国文学コース	—	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
学生から研究の進捗状況を報告してもらい、それにもとづいて全員で討論し、新たな課題の提示を行う。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
論文への取り組みで評価する

備考・関連URL
教場で指示する

科 目 名	中国文学研究指導3-2　M　中国近現代文学・文化研究							
担当者名	千野　拓政							
中国語中国文学コース	—	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
学生から研究の進捗状況を報告してもらい、それにもとづいて全員で討論し、討論や新たな課題の提示を行う。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
論文への取り組みで評価する

科 目 名	中国語学研究指導2-1　M　中国言語理論の研究							
担当者名	博士(文学)早大　内藤　正子							
中国語中国文学コース	—	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
「中国語学演習2－1」に同じ。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	中国語学研究指導2-2　M　中国言語理論の研究							
担当者名	博士(文学)早大　内藤　正子							
中国語中国文学コース	—	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
「中国語学演習2－2」に同じ。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
PQの二級。Pを合格とし、Qを不合格とする。

科 目 名	中国語学研究指導3-1　M　中国語教育（第二言語習得）							
担当者名	楊　達							
中国語中国文学コース	—	春学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
授業では、第二言語習得、テスト理論、認知心理学などのテキストを発表することと並行して、一昨年度の統一テストのデータを整理して、分析しながら、現在試行している一年中国語の教材の改善点を見出し、修正案を作成する予定。専門書の学習と具体的な作業が50%ずつの割合になります。

授業の到達目標
具体的な作業を通じて、理論を検証、発見することを目指します。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	中国語学研究指導3-2　M　中国語教育（第二言語習得）							
担当者名	楊　達							
中国語中国文学コース	—	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

より正確に言語能力を測定できるシステムをめざす。基礎外国語で実施した統一テストについて、すべての問題の正解率、難易度および識別度などを割り出し、これらのデータを使ってテスト、教材、授業について相関を分析する。授業では作業が多くなるが、並行してテスト理論の先行研究をも読む。

授業の到達目標

分析でえた結果を学会などで研究発表できることを目指す。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	中国文学研究指導2-1　D　近世白話文学							
担当者名	岡崎　由美							
中国語中国文学コース	—	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

個別指導とする。各自課程博士論文の執筆をめざして年度初に今年度の研究計画を立て、それに則して中間成果発表としての学会、研究誌への発表論文の作成を指導する。前期は主に8月～10月に開催される全国学会、国際学会での研究発表を目標として、研究指導を進める。

授業の到達目標

査読誌論文最低1編の執筆（前期・後期通算）。または国内の全国学会もしくは中国で開催される国際学会での研究発表

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　100%　　学会発表や学会誌への研究論文掲載などの業績、論文の完成度およびその完成に至るプロセスを総合的に評価する
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	中国文学研究指導2-2　D　近世白話文学							
担当者名	岡崎　由美							
中国語中国文学コース	—	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

個別指導とする。各自課程博士論文の執筆をめざして年度初に今年度の研究計画を立て、それに則して中間成果発表としての学会、研究誌への発表論文の作成を指導する。後期は主に前期の学会発表などを踏まえ、査読論文誌への論文投稿を目指して執筆指導を行う。

授業の到達目標

査読誌論文最低1篇の執筆（前期・後期通算）、および国内外の学会での研究発表。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　100%　　学会発表および論文掲載の業績、論文の完成度、および完成に至るプロセスを総合的に評価する
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	中国文学研究指導3-1　D　中国近現代文学・文化研究							
担当者名	千野　拓政							
中国語中国文学コース	—	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

学生から研究の進捗状況に関する報告をしてもらい、それにもとづいて討論し、新たな課題を提示する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

論文の進展を見て判断する

科 目 名	中国文学研究指導3-2　D　中国近現代文学・文化研究							
担当者名	千野　拓政							
中国語中国文学コース	—	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

学生から研究の進捗状況に関する報告をしてもらい、それにもとづいて全員で討論し、新たな課題を提示する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
論文の進展を見て判断する

科 目 名	中国語学研究指導2-1　D　字本位による理論・応用研究							
担当者名	博士(文学)早大　　内藤　正子							
中国語中国文学コース	—	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の作成に向けて、各自の論文の発表と討議を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	中国語学研究指導2-2　D　字本位による理論・応用研究							
担当者名	博士(文学)早大　　内藤　正子							
中国語中国文学コース	—	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の作成に向けて、各自の論文の発表と討議を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	中国語学研究指導3-1　D　中国語教育（第二言語習得）							
担当者名	楊　達							
中国語中国文学コース	—	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
発表形式で授業を行います。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	中国語学研究指導3-2　D　中国語教育（第二言語習得）							
担当者名	楊　達							
中国語中国文学コース	—	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
発表形式で授業を行います。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

演劇映像学コース

科 目 名	映画学特論1　映画とその分身							
担当者名	博士(言語学)フランス国立社会科学高等研究院　　武田　潔							
演劇映像学コース	２単位	春学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

これまで数次にわたって、映画作品に登場する視覚的表象の主題系を分析し、映画における自己反省作用の問題を検討してきた。今年度はその締めくくりとして、これまで詳しく取り上げてこなかった形象やテーマを中心に考察することにする。

授業の到達目標

映画における自己反省作用の諸相とその理論的探究についての理解を深めることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　課題についての的確な理解が示されるとともに、受講者の独創的な知見が明瞭に述べられていること。
●**平常点**　50%　　出席状況が良好であり、有意義な質問や発言を行えること。
●**その他**　0%

科 目 名	映画学特論2　フィルムアーカイブは映画史研究にどのような貢献ができるか							
担当者名	とちぎ　あきら							
演劇映像学コース	２単位	秋学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

長年フィルムアーキビストとして活動してきた講師の経験を基に、映画フィルムなど視聴覚メディアと映画関連資料、及びこれらアーカイブ資料に関係する情報を、さまざまな技術と手法を用いて取り扱うフィルムアーカイブの理論と実務内容を概観し、そこで蓄積された資料や情報と、映画史研究との関係を具体的な事例により紹介する。

授業の到達目標

フィルムアーカイブが実務を遂行するうえでの理論的な裏付けと実務内容を体系的に理解し、今後研究者としてアーカイブされた資料や情報をどのように活用し、自らの研究に役立たせていくかについて、認識を高めていくことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　課題は年内中に授業において提示します。講義内容について、各自の調査研究と関係づけながら考察できているかを評価します。
●**平常点**　20%　　毎回の授業の最後に、授業内容に対するフィードバックや疑問を提出してもらうことで、授業への積極性を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

・2/3以上の出席を、成績評価の対象とします。
・フィルムアーカイブへの興味と関心を前提とする授業ですので、当校の坪内博士記念演劇博物館、国立映画アーカイブ、川崎市市民ミュージアム等のフィルムアーカイブ機関における公開事業への参加や所蔵資料の利用などを、積極的に行うことを勧めます。また、公文書やその他の資料を扱うアーカイブ機関の活動についても、ネットを通した情報収集や機関訪問等を通して理解を深めることを奨励します。

科 目 名	舞踊学特論3　ポストモダンダンス再考							
担当者名	博士(文学)東大　　外山　紀久子							
演劇映像学コース	２単位	春学期	水曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

ジャドソン･グループによるラディカルな実験に端を発するポストモダンダンスを、1960～70年代の多様なアート、パフォーマンス、劇場舞踊の動向と比較し、リニアーな舞踊史よりもその同時代的コンテキストの網の目の中で捉え返すことを試みる。代表的な事例によってダンスと非ダンスの間を往還する身体を観察し、コンテンポラリーダンスの一部にも継続する「拡大ダンス」問題の意味について検討を加える。

授業の到達目標

舞踊について各自が経験の中で培ってきた見方・考え方を吟味し直し、ダンスとは何か、いつ、どのように踊っているという状態が成立するのかという、答えのない問いを巡って考える場を提供する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　意欲的な取り組み、論理的な議論の展開、独自の視点や発想、引用や書誌情報の明記といった点をもとに、総合的に評価する。
●**平常点**　50%　　授業に出席し、積極的に参加しているかどうかで評価する。
●**その他**　0%　　格段の事情がある場合は別途考慮する。

備考・関連URL

予備知識がなくとも関心のある学生さんの参加を歓迎します。

科 目 名	舞踊学特論4　映画におけるバレエの表象							
担当者名	博士(文学)早大　　川島　京子							
演劇映像学コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

この講義は、「映画におけるバレエの表象」をテーマに、舞踊史上に存在するバレエをモチーフとした映画を取り上げる。

海外の映画と日本映画に分け、まずはそうした映画の調査・発掘、所蔵確認を行い、各映画に登場するバレエ映像の歴史的重要性を分析する。
舞踊学において新しいアプローチとなるため、最終的に何らかの形で成果発表できればと思っている。
なお、関連する分野のゲスト・スピーカーも予定している。

授業の到達目標
舞踊史の基礎を理解しつつ、バレエ映画の発掘と各映画の舞踊史における重要性を分析。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　口頭発表を行った上で、それに関する省察。
●**平常点**　20%　　出席と討議への参加度（ただし、出席率が2／3に満たない場合は評価の対象にはならない）。
●**その他**　50%　　口頭での研究発表。

備考・関連URL
＊上記スケジュールはあくまでも予定であり、受講学生の興味や知識によって変更することがあります。

科目名	現代演劇研究1　アングラ・小劇場演劇の演劇論を読む							
担当者名	博士（学術）東大　　内野　儀							
演劇映像学コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
いわゆる日本のアングラ・小劇場演劇について、主としてその実践者による演劇論を精読することにより、どのような主題がどのような言語態・方法によって論じられてきたのかを、研究する。なにをもってアングラ・小劇場の代表的演劇論といえるのかについては議論があろうが、ここでは、すでに正典化されているとみなされうる実践家、また、単著として刊行されていることを基準として、扱う対象とする。鈴木忠志・唐十郎・寺山修司の著作からはじめ、佐藤信・太田省吾を経由し、平田オリザ・岡田利規までを扱う予定。2回の授業で一冊の著作のみを扱う予定だが、実践家によっては、量的・質的な差もあるので、適宜、案配をしながら進行する予定である。演習形式の授業なので、担当者は担当演劇論につき、1）歴史的背景、2）作者の経歴、3）演劇論そのものの概要と批判的読解および解釈を、30～45分程度の時間をかけて発表する。その後、他の受講者と討論を行う。

授業の到達目標
本来上演がすべてとされる演劇実践につき、実践家が言語化したいわゆる演劇論が、誰に対して何のために書かれたのかを、具体的に想像しながら読む訓練をする。そのことによって、歴史的文脈への想像力を失うことなく、演劇作家（劇作家・演出家）の特性を分析できる能力を身につけることを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　担当した演劇論についての、学術的エッセイ（400字詰め原稿用紙10枚～15枚程度）を学期末に提出する
●**平常点**　40%　　出席及び担当者としての発表
●**その他**　0%

科目名	現代演劇研究2　芸術文化政策の基礎							
担当者名	片山　泰輔							
演劇映像学コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
舞台芸術をはじめとした芸術文化を対象とする公共政策について、歴史、理論、及び国際比較の観点から検討を行い、日本における舞台芸術の現状と課題の理解を深める。

授業の到達目標
日本の芸術文化政策の歴史的経緯及び、現在の主要な政策の制度的特徴、及び理論的意義についての基礎を身につける。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業の理解度と問題意識にもとづくその応用
●**平常点**　50%　　授業の理解度
●**その他**　0%

科目名	日本近世演劇研究1							
担当者名	児玉　竜一							
演劇映像学コース	２単位	春学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
演劇映像コース室および研究室で所蔵する、近世（時に近代）演劇に関する原資料ないし影印を講読しながら、近世演劇研究に関わる視野を広げることを目的とする。

授業の到達目標
原資料を扱う力を養う。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　20%　　レポートを課す予定。
●**平常点**　80%　　平常点を重視する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	日本近世演劇研究2							
担当者名	児玉　竜一							
演劇映像学コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

演劇映像コース室および研究室で所蔵する、近世（時に近代）演劇に関する原資料ないし影印を講読しながら、近世演劇研究に関わる視野を広げることを目的とする。

授業の到達目標

原資料を扱う力を養う。

成績評価方法

- **試験**　0%　　実施しない。
- **レポート**　20%　　レポートを課す予定。
- **平常点**　80%　　平常点を重視する。
- **その他**　0%　　特になし。

科 目 名	日本演劇史研究1　風流踊研究							
担当者名	和田　修							
演劇映像学コース	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	—	フルオンデマンド

授業概要

日本の各地に伝わる風流踊（ふりゅうおどり）を取り上げ、その様式の変遷と伝播の経路を探る。

日本の民俗芸能のなかで、風流踊は、神楽・田楽などに比べて、きわめて多種多様で伝承地も広いことから、十分な研究がなされていない。この授業はすべてオンデマンドで行うが、毎回風流踊の映像をいくつか掲載し、その解説を試みる。成立時期や地域ごとの特色など、知るべきことは多々あるが、不明の点は少なくない。これらを丁寧に分析してゆくことで、風流踊の展開についての理解を深め、中世芸能の特色を知る一端としたい。

履修者は各回の芸能についてコメントを送信していただくほか、学期中に自分で実際の風流踊を見学し、そのレポートを提出することが求められる（劇場・ホール等でのイベントを除く）。いつどこで何を見るのかは各自の判断に委ねられる。現地に足を運ぶ余裕がある方のみ履修されたい。

授業の到達目標

映像と現地調査により風流踊の特色を理解することが目標となる。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験は実施しない。
- **レポート**　50%　　風流踊の現地調査レポートにより評価する。
- **平常点**　50%　　各回のオンデマンドコメントにより評価する。
- **その他**　0%　　とくになし。

備考・関連URL

授業はフルオンデマンドで行う。

ただし、学期中（7月末まで）に、自分自身で風流踊の現地調査に行くことができる人のみ履修していただきたい。

科 目 名	日本演劇史研究2　風流踊研究							
担当者名	和田　修							
演劇映像学コース	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	—	フルオンデマンド

授業概要

日本の各地に伝わる風流踊（ふりゅうおどり）を取り上げ、その様式の変遷と伝播の経路を探る。

日本の民俗芸能のなかで、風流踊は、神楽・田楽などに比べて、きわめて多種多様で伝承地も広いことから、十分な研究がなされていない。この授業はすべてオンデマンドで行うが、毎回風流踊の映像をいくつか掲載し、その解説を試みる。成立時期や地域ごとの特色など、知るべきことは多々あるが、不明の点は少なくない。これらを丁寧に分析してゆくことで、風流踊の展開についての理解を深め、中世芸能の特色を知る一端としたい。

履修者は各回の芸能についてコメントを送信していただくほか、学期中に自分で実際の風流踊を見学し、そのレポートを提出することが求められる（劇場・ホール等でのイベントを除く）。いつどこで何を見るのかは各自の判断に委ねられる。現地に足を運ぶ余裕がある方のみ履修されたい。

授業の到達目標

映像と現地調査により風流踊の特色を理解することが目標となる。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験は実施しない。
- **レポート**　50%　　風流踊の現地調査レポートにより評価する。
- **平常点**　50%　　各回のオンデマンドコメントにより評価する。
- **その他**　0%　　とくになし。

備考・関連URL

授業はフルオンデマンドで行う。

ただし、学期中（1月末まで）に、自分自身で風流踊の現地調査に行くことができる人のみ履修していただきたい。

12月以降はあまり風流踊が行われないので注意が必要である。

科 目 名	西洋演劇研究1　演劇とドキュメント／アーカイヴ／リイナクトメント							
担当者名	藤井　慎太郎							
演劇映像学コース	２単位	春学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

近年、演劇とドキュメント／ドキュメンタリー、アーカイヴ、リイナクトメントなどのキー・タームをめぐる議論が盛んである。本講義では、そうした議論の基本文献（主に英語、一部は日本語）を講読し、重要概念を理解するとともに、実際の作品を取り上げながら、そうした理論との関連を議論し、理解をさらに深めたい。

授業の到達目標

・現代演劇に関する理論的理解を深める
・研究に必要な外国語（英語）の運用能力を高める
・論文執筆に必要となる議論の構築能力を高める

成績評価方法

授業参加、発表、レポートによって総合的に評価する。

科 目 名	西洋演劇研究2　演劇とドキュメント／アーカイヴ／リイナクトメント							
担当者名	藤井　慎太郎							
演劇映像学コース	２単位	秋学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

近年、演劇とドキュメント／ドキュメンタリー、アーカイヴ、リイナクトメントなどのキー・タームをめぐる議論が盛んである。本講義では、そうした議論の基本文献（主に英語、一部は日本語）を講読し、重要概念を理解するとともに、実際の作品を取り上げながら、そうした理論との関連を議論し、理解をさらに深めたい。

授業の到達目標

・現代演劇に関する理論的理解を深める
・研究に必要な外国語（英語）の運用能力を高める
・論文執筆に必要となる議論の構築能力を高める

成績評価方法

授業参加、発表、レポートによって総合的に評価する。

科 目 名	演劇学特論1　転換期の歌舞伎と諸芸能							
担当者名	今岡　謙太郎							
演劇映像学コース	２単位	春学期	水曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

江戸時代末期から明治初期にかけて、時代の変化と期を一にするように演劇・芸能の世界も大きな変革を迎えていたといえる。歌舞伎界ではそれまで市内にあった大芝居三座が当時としては辺鄙な浅草猿若町に移転させられ、旧来とは異なる環境の中で新たな展開を見せるようになる。また一方、化政期に定着を見た寄席に於ける興行は活発さを増し、幕末期にはそれまでの芝居に拮抗する存在へ成長していく。本授業ではこうした様相について述べ、その特色と演劇史上における問題点について考えてゆく。

授業の到達目標

江戸末期から明治初期にかけての諸芸能について基礎知識を習得し、日本演劇全体の特色についての理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　授業内容を踏まえた上で、独自の見解が表れていることを評価基準とします。
●**平常点**　40%　　質疑応答など、授業への参加意識を評価基準とします。
●**その他**　0%

科 目 名	演劇学特論2　江戸末期にみる諸芸と文学の交流							
担当者名	今岡　謙太郎							
演劇映像学コース	２単位	秋学期	水曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

江戸時代末期から明治初期にかけて、時代の変化と期を一にするように演劇・芸能そして文学の世界も大きな変革を迎えていた。本講義ではこの時期における江戸の諸芸能と文学の相互関係の特色と問題点について考えてゆく。具体的には二世三亭春馬作の合巻『仇桜恋白浪』を読み進めながら、当時の芸能界と文学界の関係、芸能と戯作との関係についてみてゆく。

授業の到達目標

当時における芸能、文学について基礎的な知識を習得し、芸能・演劇全般における判断力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　授業内容を踏まえた上で独自の視点が出ているかを評価基準とします。
●**平常点**　40%　　授業への参加など意欲が見られるかを評価基準とします。
●**その他**　0%

科 目 名	演劇学演習1-1							
担当者名	児玉　竜一							
演劇映像学コース	２単位	春学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

近世演劇に関する基礎知識を得ることをめざすとともに、各自の現在の研究課題、修士論文・博士論文の課題設定について、受講者とともに討議・検討し、指導を行う。

受講生各自の課題についての発表と、こちらより設定する課題についての発表を並行する予定。今年度は、歌舞伎台本の講読を並行する予定。

授業の到達目標

原資料にもとづき、調査・検討・発表についての力量を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　課さない。
●**レポート**　20%　　レポートを課す。
●**平常点**　80%　　平常点を重視する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	演劇学演習1-2							
担当者名	児玉　竜一							
演劇映像学コース	２単位	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

近世演劇に関する基礎知識を得ることをめざすとともに、各自の現在の研究課題、修士論文・博士論文の課題設定について、受講者とともに討議・検討し、指導を行う。

受講生各自の課題についての発表と、こちらより設定する課題についての発表を並行する予定。今年度は、歌舞伎台本の講読を並行する予定。

授業の到達目標

原資料にもとづいて、調査・検討・発表についての力量を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　20%　　レポートを課す。
●**平常点**　80%　　平常点を重視する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	演劇学演習2-1　演劇学・芸術文化環境学							
担当者名	藤井　慎太郎							
演劇映像学コース	２単位	春学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

教員（場合によってはゲスト講師）による講義、および学生自身が発表やテクストを準備する実際の作業を通じて、修士論文の完成に必要となる方法論を身につけることを目指す。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

授業参加、発表、レポートによって総合的に評価する。

科 目 名	演劇学演習2-2　演劇学・芸術文化環境学							
担当者名	藤井　慎太郎							
演劇映像学コース	２単位	秋学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

教員（場合によってはゲスト講師）による講義、および学生自身が発表やテクストを準備する実際の作業を通じて、修士論文の完成に必要となる方法論を身につけることを目指す。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

授業参加、発表、レポートによって総合的に評価する。

科 目 名	演劇学演習4-1　『大和守日記』講読							
担当者名	和田　修							
演劇映像学コース	２単位	春学期	金曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要

近世前期のかぶき・浄瑠璃操の実態を知る上で欠かすことのできない基本資料である『大和守日記』の芸能記事を年代順に取りあげて検討する。発表者には(1)本文異同確認、(2)記載された芸能内容の調査、などの作業報告をしていただく。発表の分担は初回に行う。本年度前期は、前年度に引き続き、寛文7年から読み進める。

授業の到達目標
『大和守日記』に記載された芸能の内容を把握するとともに、藩邸記録の性格についても理解を深めたうえで、17世紀後期の近世演劇の展開を学ぶ。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　100%　　正しく翻字する力、適切に参考文献を調べる力を評価する。
●**その他**　0%　　とくになし。

備考・関連URL
初期歌舞伎および古浄瑠璃について一定の知識を有することが履修の前提となる。

科 目 名	演劇学演習4-2 『大和守日記』講読							
担当者名	和田　修							
演劇映像学コース	2単位	秋学期	金曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
近世前期のかぶき・浄瑠璃操の実態を知る上で欠かすことのできない基本資料である『大和守日記』の芸能記事を年代順に取りあげて検討する。発表者には(1)本文異同確認、(2)記載された芸能内容の調査、などの作業報告をしていただく。発表の分担は初回に行う。本年度後期は、前期に引き続き、寛文8年から読み進める。

授業の到達目標
『大和守日記』に記載された芸能の内容を把握するとともに、藩邸記録の性格についても理解を深めたうえで、17世紀後期の近世演劇の展開を学ぶ。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　100%　　正しく翻字する力、適切に参考文献を調べる力を評価する。
●**その他**　0%　　とくになし。

備考・関連URL
初期歌舞伎および古浄瑠璃について一定の知識を有することが履修の前提となる。

科 目 名	舞踊学演習1-1							
担当者名	鈴木　晶							
演劇映像学コース	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
1.「舞踊学」とは何か、つまり何をどう研究する学問なのかについて確認する。
2. 舞踊学の範囲、とくに隣接分野との関係について検討する。
3. 舞踊学の方法論、すなわち歴史的・文献学的研究、数値的動作分析、人類学的・社会学的研究、ジェンダー論的研究、哲学的研究、などについて知る。
4. 先行論文を読むことを通じて、舞踊学の論文とは具体的にはどのようなものなのかについての認識を深める。

授業の到達目標
舞踊学という学問分野に関する基本知識を得ること。
舞踊学の方法論に関する知識を得ること。
それにのっとって、研究者それぞれが自らの研究目標、すなわち対象と方法論を明確にできるようになること。
先行研究のすべてを検討できるようになること。
「授業計画」について、ここで注意事項を述べておく。基本文献や先行研究は、たえず変わっていくので、毎年その内容は変わる。できるだけ最新の研究を扱う。また、受講生各人が自分の研究の展望と今後の具体的スケジュールについて発表するという点については、毎年、受講生の数は変化するので、授業の計画もそれに応じて変わる。

成績評価方法
平常点で評価する。

科 目 名	舞踊学演習1-2 舞踊研究、舞踊史							
担当者名	鈴木　晶							
演劇映像学コース	2単位	秋学期	水曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
「舞踊学演習1-1」の内容を踏まえ、その目標が達成されたことを前提として、具体的な論文執筆に関するさまざまな課題をこなしていく。
そのためには、舞踊学に限らず、一般に学術論文とは何か、何が優れた論文なのか、許されないことは何なのか、などについて検討する。
そのうえで、舞踊学の論文として認められるための要件について考える。
以上を踏まえ、各人の研究成果と今後の展望を個々に検討する。

授業の到達目標
最終年次（修士2年）の場合には修士論文の完成。
修士1年の場合は修士論文の構想の確定。
舞踊学演習1-1と同様、受講生の数によって、計画は変わる。

成績評価方法
平常点で評価する。

科 目 名	映画学演習1-1　映画史・映画理論文献講読							
担当者名	藤井　仁子							
演劇映像学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
映画史・映画理論に関する英語文献を原書で講読する。具体的に何を読むかは受講者の研究テーマに配慮して相談のうえ決める。毎回それなりの分量を各自で読んできてもらい、担当者の発表を受けて全員で議論を行なう予定である。よって、書いてあることをただ鵜呑みにするのではなく、批判的に読みこんだうえで独自に論を展開しようとする姿勢が受講者には求められる。
併せて、藤井が指導する大学院生については、修士論文執筆に向けての中間発表を適宜行なってもらう。 研究科カリキュラムポリシーに謳われるとおり、「専門の知識を体系的に修得し、それを実践に結びつける力」の形成を目指す。

授業の到達目標
映画史・映画理論に関する専門知識を身につけるとともに、研究のために必要な読解力、思考の論理性を磨く。効果的なプレゼンテーションとディベートの方法についても各自で工夫してもらう。

成績評価方法
出席、発表の出来、議論での積極性および発言内容を併せて総合的に評価する。

備考・関連ＵＲＬ
文献に取り上げられているフィルムは、必ず各自で見るべく最善を尽くすこと（どうしても見られないものについては相談にのる）。

科 目 名	映画学演習1-2　映画史・映画理論文献講読							
担当者名	藤井　仁子							
演劇映像学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
映画史・映画理論に関する英語文献を原書で講読する。具体的に何を読むかは受講者の研究テーマに配慮して相談のうえ決める。毎回それなりの分量を各自で読んできてもらい、担当者の発表を受けて全員で議論を行なう予定である。よって、書いてあることをただ鵜呑みにするのではなく、批判的に読みこんだうえで独自に論を展開しようとする姿勢が受講者には求められる。
併せて、藤井が指導する大学院生については、修士論文執筆に向けての中間発表を適宜行なってもらう。 研究科カリキュラムポリシーに謳われるとおり、「専門の知識を体系的に修得し、それを実践に結びつける力」の形成を目指す。

授業の到達目標
映画史・映画理論に関する専門知識を身につけるとともに、研究のために必要な読解力、思考の論理性を磨く。効果的なプレゼンテーションとディベートの方法についても各自で工夫してもらう。

成績評価方法
出席、発表の出来、議論での積極性および発言内容を併せて総合的に評価する。

備考・関連ＵＲＬ
文献に取り上げられているフィルムは、必ず各自で見るべく最善を尽くすこと（どうしても見られないものについては相談にのる）。

科 目 名	映画学演習2-1　映画理論研究							
担当者名	博士（言語学）フランス国立社会科学高等研究院　　武田　潔							
演劇映像学コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
映画理論に関する原書講読を行う。併せて、受講者の修士論文についても発表してもらい、その研究内容について検討する。

授業の到達目標
上記の作業を通じて、映画理論の諸問題についての理解を深めるとともに、論理的な思考、的確な批判、明晰な論述の能力を培う。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　課題についての的確な理解が示されるとともに、受講者の独創的な知見が明瞭に述べられていること。
●**平常点**　50%　　出席状況が良好であり、自ら優れた発表を行うとともに、他の受講者の発表をめぐって有意義な議論を展開できること。
●**その他**　0%

科 目 名	映画学演習2-2　映画理論研究							
担当者名	博士（言語学）フランス国立社会科学高等研究院　　武田　潔							
演劇映像学コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
映画理論に関する原書講読を行う。併せて、受講者の修士論文についても発表してもらい、その研究内容について検討する。

授業の到達目標
上記の作業を通じて、映画理論の諸問題についての理解を深めるとともに、論理的な思考、的確な批判、明晰な論述の能力を培う。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　課題についての的確な理解が示されるとともに、受講者の独創的な知見が明瞭に述べられていること。
●**平常点**　50%　　出席状況が良好であり、自ら優れた発表を行うとともに、他の受講者の発表をめぐって有意義な討議を展開できること。
●**その他**　0%

科 目 名	映画学演習3-1　日本映画史研究							
担当者名	小松　弘							
演劇映像学コース	２単位	春学期	土曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
日本映画史の問題に関して学生に調査してもらう。

授業の到達目標
新たな日本映画史像をとらえる。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　演習の発表内容によって評価
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	映画学演習3-2　映画史研究							
担当者名	小松　弘							
演劇映像学コース	２単位	秋学期	土曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
諸外国の映画史に関して学生に調査してもらう。

授業の到達目標
各国映画史に関する新たな認識を持てるようにする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　演習の発表内容によって評価
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	演劇学研究指導1-1　M　日本演劇史							
担当者名	児玉　竜一							
演劇映像学コース	—	春学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の完成をめざして、個々の課題について共に考える。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	演劇学研究指導1-2　M　日本演劇史							
担当者名	児玉　竜一							
演劇映像学コース	—	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の完成をめざして、個々の課題について共に考える。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	演劇学研究指導2-1　M　演劇学・芸術文化環境学							
担当者名	藤井　慎太郎							
演劇映像学コース	—	春学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
教員（場合によってはゲスト講師）による講義、および学生自身が発表やテクストを準備する実際の作業を通じて、修士論文の完成に必要となる方法論を身につけることを目指す。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	演劇学研究指導2-2　M　演劇学・芸術文化環境学							
担当者名	藤井　慎太郎							
演劇映像学コース	—	秋学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
教員（場合によってはゲスト講師）による講義、および学生自身が発表やテクストを準備する実際の作業を通じて、修士論文の完成に必要となる方法論を身につけることを目指す。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	演劇学研究指導4-1　M　日本芸能史							
担当者名	和田　修							
演劇映像学コース	—	春学期	金曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の作成に向けた指導をする。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	演劇学研究指導4-2　M　日本芸能史							
担当者名	和田　修							
演劇映像学コース	—	秋学期	金曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の作成に向けた指導をする。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	舞踊学研究指導1-1　M　舞踊史・舞踊理論							
担当者名	鈴木　晶							
演劇映像学コース	—	春学期	水曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
「舞踊学演習1-1」を参照されたい。内容的には「舞踊学演習1-1」と重複することになる。ただしこちらは個別指導中心である。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	舞踊学研究指導1-2　M　舞踊史・舞踊理論							
担当者名	鈴木　晶							
演劇映像学コース	—	秋学期	水曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
「舞踊学演習1-2」を参照されたい。内容的には「舞踊学演習1-2」と重複する。ただしこちらは個人指導中心である。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	映画学研究指導1-1　M　映画史・映画理論							
担当者名	藤井　仁子							
演劇映像学コース	—	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
映画史・映画理論に関する研究・論文作成の指導を行なう。 研究科カリキュラムポリシーに謳われるとおり、「専門の知識を体系的に修得し、それを実践に結びつける力」の形成を目指す。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	映画学研究指導1-2　M　映画史・映画理論							
担当者名	藤井　仁子							
演劇映像学コース	—	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
映画史・映画理論に関する研究・論文作成の指導を行なう。 研究科カリキュラムポリシーに謳われるとおり、「専門の知識を体系的に修得し、それを実践に結びつける力」の形成を目指す。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	映画学研究指導2-1　M　映画理論							
担当者名	博士（言語学）フランス国立社会科学高等研究院　　武田　潔							
演劇映像学コース	—	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
映画理論に関する研究の指導を行う。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	映画学研究指導2-2　M　映画理論							
担当者名	博士（言語学）フランス国立社会科学高等研究院　　武田　潔							
演劇映像学コース	—	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
映画理論に関する研究の指導を行う。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	映画学研究指導3-1　M　映画史							
担当者名	小松　弘							
演劇映像学コース	—	春学期	土曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
学生それぞれの研究テーマに応じて課題を出します。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	映画学研究指導3-2　M　映画史							
担当者名	小松　弘							
演劇映像学コース	—	秋学期	土曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
学生それぞれの研究テーマに応じて課題を出します。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	演劇学研究指導1-1　D　日本演劇史							
担当者名	児玉　竜一							
演劇映像学コース	—	春学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の完成をめざして、個々の課題について共に考える。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	演劇学研究指導1-2　D　日本演劇史							
担当者名	児玉　竜一							
演劇映像学コース	—	秋学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の完成をめざして、個々の課題について共に考える。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	演劇学研究指導2-1　D　演劇学・芸術文化環境学							
担当者名	藤井　慎太郎							
演劇映像学コース	—	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
教員（場合によってはゲスト講師）による講義、および学生自身が発表やテクストを準備する実際の作業を通じて、博士論文の完成に必要となる方法論を身につけることを目指す。

授業の到達目標
修業年限内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　0%
- **その他**　100%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	演劇学研究指導2-2　D　演劇学・芸術文化環境学							
担当者名	藤井　慎太郎							
演劇映像学コース	—	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
教員（場合によってはゲスト講師）による講義、および学生自身が発表やテクストを準備する実際の作業を通じて、博士論文の完成に必要となる方法論を身につけることを目指す。

授業の到達目標
修業年限内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　0%
- **その他**　100%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	演劇学研究指導4-1　D　日本芸能史							
担当者名	和田　修							
演劇映像学コース	—	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の作成に向けた指導をする。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を目標とする

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	演劇学研究指導4-2　D　日本芸能史							
担当者名	和田　修							
演劇映像学コース	—	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
学位取得のための基本的な指導を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	舞踊学研究指導1-1　D　舞踊史・舞踊理論							
担当者名	鈴木　晶							
演劇映像学コース	—	春学期	水曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文完成に向けて、さまざまな課題について検討する。
個人指導が中心である。
ただし、博士論文執筆者も、原則として「舞踊学演習」の履修も必修である。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	舞踊学研究指導1-2　D　舞踊史・舞踊理論							
担当者名	鈴木　晶							
演劇映像学コース	—	秋学期	水曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文完成に向けて、さまざまな課題をこなす。
個人指導中心である。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
博士論文執筆の進行状況と元に成績を付ける。

科 目 名	映画学研究指導1-1　D　映画史・映画理論							
担当者名	藤井　仁子							
演劇映像学コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
映画史・映画理論に関する研究・論文作成の指導を行なう。 研究科のディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに謳われるとおり、「いっそう専門性の高い知識を身につけながら、学位論文を完成させること」を目標とし、「研究者としての自立」を促す。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	映画学研究指導1-2　D　映画史・映画理論							
担当者名	藤井　仁子							
演劇映像学コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

映画史・映画理論に関する研究・論文作成の指導を行なう。 研究科のディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに謳われるとおり、「いっそう専門性の高い知識を身につけながら、学位論文を完成させること」を目標とし、「研究者としての自立」を促す。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	映画学研究指導2-1　D　映画理論							
担当者名	博士(言語学)フランス国立社会科学高等研究院　　武田　潔							
演劇映像学コース	—	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

映画理論に関する研究の指導を行う。

授業の到達目標

修業年限内での博士論文の完成を目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	映画学研究指導2-2　D　映画理論							
担当者名	博士(言語学)フランス国立社会科学高等研究院　　武田　潔							
演劇映像学コース	—	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

映画理論に関する研究の指導を行う。

授業の到達目標

修業年限内での博士論文の完成を目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	映画学研究指導3-1　D　映画史							
担当者名	小松　弘							
演劇映像学コース	—	春学期	土曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

学生それぞれの研究テーマに応じて課題を出します。

授業の到達目標

博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	映画学研究指導3-2　D　映画史							
担当者名	小松　弘							
演劇映像学コース	—	秋学期	土曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

学生の研究個別指導。当面の研究課題に関する問題点の点検、および論文作成のための指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を目標とする

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

美術史学コース

科 目 名	美術史学特論1　やまと絵の成立と展開（平安～鎌倉）							
担当者名	博士(文学)早大　　山本　聡美							
美術史学コース	２単位	春学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

平安時代に、中国唐時代絵画の影響を受けて成立したやまと絵は、次第に主題や様式上の独自性を獲得した。また中・近世を通じて、仏教や文学と結びつきつつ展開し、その伝統は現代の日本画にも継承されている。

この講義では、平安時代から鎌倉時代にかけてのやまと絵の成立と展開を、絵画様式・主題・絵師・注文主・コレクション形成などの観点からよみとく。

授業の到達目標

平安時代から鎌倉時代にかけてのやまと絵の成立と展開を、絵画様式・主題・絵師・注文主・コレクション形成などの観点から理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　60%　　学期末の課題レポート。講義を通じて理解したやまと絵の特性について、特定の絵師や作品を取り上げ、5,000字程度で論じる。
●**平常点**　40%　　質疑応答など、講義に対する積極性を評価する。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	美術史学特論2　やまと絵の成立と展開（南北朝～現代日本画）							
担当者名	博士(文学)早大　　山本　聡美							
美術史学コース	２単位	秋学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

平安時代に、中国唐時代絵画の影響を受けて成立したやまと絵は、次第に主題や様式上の独自性を獲得した。また、中・近世を通じて、仏教や文学と結びつきつつ展開し、その伝統は現代の日本画にも継承されている。

この講義では、南北朝～江戸時代にかけてやまと絵の展開を追い、さらに明治期における日本画の誕生から現代日本画への展望を概観する。

授業の到達目標

南北朝～江戸時代にかけてやまと絵に関する諸論点への関心を深め、絵師や作品に関する十分な知識を獲得する。

さらに明治期における日本画の誕生から現代日本画への展望を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　60%　　学期末の課題レポート。講義を通じて理解したやまと絵の特性について、特定の絵師や作品を取り上げ、5,000字程度で論じる。
●**平常点**　40%　　質疑応答など、講義に対する積極性を評価する。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	美術史学特論3　隋唐時代仏教美術の課題と研究方法（1）							
担当者名	博士(文学)早大　　肥田　路美							
美術史学コース	２単位	春学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

中国仏教の最盛期である隋・唐時代約三世紀余の間に展開した仏教美術に関する諸問題を取り上げる。それに当たっては、次の二つの観点に留意したい。一つは、この時代の仏教美術が、東アジアの古典となる模範の確立という際立った時代的個性を示す点である。特に前半期に当たる七世紀から八世紀前期に流行した図像形式や表現上の特徴は、同時代の日本など周辺諸地域の仏教美術に対して決定的な影響力をもっただけでなく、後代においても時に参照され学ばれる手本となった。隋・唐時代のいかなる要因がこのような型を作り上げたのか。また一つは、そうした隋・唐時代の仏教美術が、南北両朝からさまざまな因子を受け継いだものだったことである。史的発展の流れのなかで、この時代が何をどう受け継いだのか。そして、後の五代や宋、遼の仏教美術にはどう繋がっていったのか。 毎回、具体的な作品や文献史料を中心に据えながら、課題の抽出、視点の設定や立論の方法を紹介しつつ進めるが、受講生の顔ぶれによって異なる専門や習熟度を見ながら、適宜、扱う題材や時間のかけかたを調整したい。

授業の到達目標

・隋・唐時代の仏教美術の歴史的意義を理解する。
・国内外における研究の動向と問題の所在を理解する。
・仏教美術研究における視点の設定や立論の手法を理解・習得する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末に理解度の確認のため、論述式の試験をおこなう。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業への積極的な参加姿勢を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	美術史学特論4　隋唐時代仏教美術の課題と研究方法（2）							
担当者名	博士(文学)早大　　肥田　路美							
美術史学コース	２単位	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

中国仏教の最盛期である隋・唐時代約三世紀余の間に展開した仏教美術に関する諸問題を取り上げる。それに当たっては、次の二つの観点に留意したい。一つは、この時代の仏教美術が、東アジアの古典となる模範の確立という際立った時代的個性を示す点である。特に前半期に当たる七世紀から八世紀前期に流行した図像形式や表現上の特徴は、同時代の日本など周辺諸地域の仏教美術に対して決定的な影響力をもっただけでなく、後代においても時に参照され学ばれる手本となった。隋・唐時代のいかなる要因がこのような型を作り上げたのか。また一つは、そうした隋・唐時代の仏教美術が、南北両朝からさまざまな因子を受け継いだものだったことである。史的発展の流れのなかで、この時代が何をどう受け継いだのか。そして、後の五代や宋、遼の仏教美術にはどう繋がっていったのか。 毎回、具体的な作品や文献史料を中心に据えながら、課題の抽出、視点の設定や立論の方法を紹介しつつ進めるが、受講生の顔ぶれによって異なる専門や習熟度を見ながら、適宜、扱う題材や時間のかけかたを調整したい。

授業の到達目標

・隋・唐時代の仏教美術の歴史的意義を理解する。
・国内外における研究の動向と問題の所在を理解する。
・仏教美術研究における視点の設定や立論の手法を理解・習得する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末に理解度の確認のため、論述式の試験をおこなう。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業への積極的な参加姿勢を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	美術史学特論5　19世紀フランスの宗教画							
担当者名	博士(文学)早大　　喜多崎　親							
美術史学コース	２単位	春学期	火曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要

西洋の近代美術史は、長らく20世紀の抽象に至るモダニズムの発展史として記述されてきた。しかし、1980年代に始まるリヴィジョニズム（記述としての美術史の見直し作業）は、同時代における美術作品の機能や受容に対する研究を促進し、アカデミズムをはじめとするそれまで顧みられなかったジャンルへの再評価を促した。19世紀のフランス宗教画も、かつてはほとんど着目されなかったが、実際にはフランス革命によって破壊された聖堂の、王政復古期から7月王政期の復興事業や、普仏戦争後の愛国主義的風潮の中での国家によるカトリック推進などと結びついた、きわめて同時代的な問題を内包していることが明らかになりつつある。本講義では、こうした近年の研究動向を踏まえて、19世紀のフランス宗教画を取り上げる。

授業の到達目標

特定の作家や作品についての専門的知識だけではなく、汎用性のある美術史の方法や視点を習得できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　70%　　課題レポート。
●**平常点**　30%　　授業中の質疑応答など講義に対する積極性。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	美術史学特論6　美術史における「古典」とはなにか？ーヴィンケルマンの古典主義をめぐって							
担当者名	佐藤　直樹							
美術史学コース	２単位	秋学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

美術における「古典」という概念は、「規範」や「頂点」「不変的価値」というイメージと結びつきながら、受容のプロセスのなかで展開していくものとして、時代ごとに異なる受容現象であるとするのが最近の一般的な見方となっている。つまり、古典を定式化したものではなく、多様に捉えようとする考え方である。しかし、18-19世紀のヨーロッパでは、《ヴェルベデーレのアポロン》や《ラオコオン》といった、古典古代の決定的な「アイコン」が存在していた。ドイツ古典期に活躍したヨハン・ヨアヒム・ヴィンケルマンは、ギリシャの芸術が堕落したものがローマ芸術であるとする発展史的な見解を発表し、美術史が学問として成立する重要な契機を作り出す。なかでも『ギリシャ美術模倣論』（1755年）は、ヴィンケルマンによる古典古代の理解が示された極めて重要な著作である。本講義では、この著作を軸にドイツ古典主義の成立と展開を学びながら、美術史における「古典とは何か」を理解することを目的とする。

また、ヴィンケルマンの『ギリシャ美術模倣論』を和訳し、日本で初めて紹介したのが早稲田大学の澤柳大五郎教授であったことを忘れてはならない。本講義は、早稲田大学における美術史学の系譜を知ることにもなるだろう。

授業の到達目標

本講義では、ルネサンスの古代発見からヴィンケマンの古典主義に至るまで、美術作品を軸に「古典」という概念や規範的作品の移り変わりを丁寧に検証し、西洋美術史における「古典」の概念を理解することを目指す。ヴィンケルマンの記念碑的著作『ギリシャ美術模倣論』の内容を理解するだけでなく、多くの美術作品を通して現代の美術史学における古典の概念も学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　80%　　学期末の試験
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　20%　　授業の出席状況
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	美術史学特論7　中世後期からバロックにかけての西欧美術比較研究―16世紀を中心に							
担当者名	Ph.D. ピサ高等研究院　　児嶋　由枝							
美術史学コース	２単位	春学期	火曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

中世後期からバロックにかけての作品を比較し、各時代、地域、流派あるいは画家の特徴について論じる。毎回、テーマを決めていくつかの作品をとりあげて考察する。様式と図像が分かち難いものであることや社会や宗教と作品との関係について具体的に議論する。今回は特に16世紀に焦点をあてる。なかでも16世紀後半のカトリック美術における隠修士と孤独の表現について着目する予定である。

授業の到達目標

特に以下の3点を目標としたい。

（1）中世後期、イタリア・ルネサンス美術からマニエリスム美術へ、さらにカトリック宗教改革（対抗宗教改革）の美術、そしてバロック美術への変遷を、造形的な側面のほか、宗教的、政治的な観点からも理解を深める。

（2）芸術作品と同時代の芸術理論との関係について把握する。

（3）トレント公会議と造形美術について理解を深める。

成績評価方法

出席、授業参加、発表内容を総合的に評価します。

科 目 名	美術史学特論8　トレント公会議後の芸術理論							
担当者名	Ph.D. ピサ高等研究院　　児嶋　由枝							
美術史学コース	２単位	秋学期	火曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

トレント公会議（1545年～1563年）後のカトリック美術に関する芸術理論書の英訳を読み、実際の美術作品や建築においてどのように反映されているのか考察する。同時に、それが日本のキリシタン美術にどのように反映されたのか見当する。

特に、カルロ・ボッローメオの『聖堂の建築と装飾に関する指針』（Carlo Borromeo, Instructionum Fabricae et Supellectilis ecclesiasticae）とガブリエレ・パレオッティの『宗教画と世俗画に関する議論』（Gabliele Paleotti, Discorso intorno alle immagini sacre e profane)を取り上げる。

授業の到達目標

芸術理論と実際の美術作品・建築との関係について、特定の領域に限定せず、普遍的な観点から理解する。

成績評価方法

授業の参加度や出席など、総合的に判断する。

科 目 名	美術史学研究1　日本彫刻史、仏教美術史基礎研究							
担当者名	川瀬　由照							
美術史学コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

美術史研究は基礎資料からえられる情報を文字にして他者に伝えることからはじまる。日本彫刻史の基準作例や重要作品を中心として作品や資料を十分に把握して文章化を行う。最新の研究成果にもとづきながら基礎研究と実践的な研究への橋渡しを行いながら、実作品に関する基礎的な事項の把握が、論文作成や現場での調査・取扱い・展示・修理等にとって欠くことのできないものであることを提示したい。

美術史の現場（調査・研究・展示・修理）に出ようとするなら必ず身につけておくべき事柄を精選し、美術作品の基礎的な事柄の意義と実践、それらを応用した個別研究について受講生とともに深めていく。

春学期は基本的な事項の確認を行い、作品の形状把握を徹底的に行う。あわせて表面彩色等の記述や特徴について把握するよう作品研究の基礎トレーニングを行う。

授業の到達目標

美術作品の基礎を再確認・再考し、調査研究や論文作成に結びつく実践的な研究能力の向上を目標としたい。日頃の調査・研究が実際の現場（調査・研究・展示・修理・原稿）でどのようにいかされるのか理解でき、美術史の最前線の現場における即戦力が身につくように配慮する。研究者として独り立ち支援を行う。

成績評価方法

- **試験**　0%　　行わない
- **レポート**　0%　　行わない
- **平常点**　70%　　出席及び各回ごとの内容の理解度を総合的に判断する。出席重視！
- **その他**　30%　　文化財の取扱いや考え方の習熟度

備考・関連ＵＲＬ

各回は独立した内容ではないので毎回の授業参加は必須です。

科 目 名	美術史学研究2　日本彫刻史、仏教美術史基礎研究							
担当者名	川瀬　由照							
美術史学コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

美術史研究は基礎資料からえられる情報を文字にして他者に伝えることからはじまる。本演習では日本彫刻史の基準作例や重要作品を中心として作品や資料を十分に把握して文章化を行ってもらう。その後最新の研究成果にもとづきながら基礎研究と実践的な研究への橋渡しを行う。実作品に関する基礎的な事項の把握が、論文作成や現場での調査・取扱い・展示・修理等にとって欠くことのできないものであることを提示したい。

美術史の現場（調査・研究・展示・修理）に出ようとするなら必ず身につけておくべき事柄を精選し、美術作品の基礎的な事柄の意義と実践、それらを応用した個別研究について受講生とともに深めていく。
秋学期は基準作例や重要作品に関する資料（銘記・文献史料・経典）の読解と彫像の制作年代について検討する。

授業の到達目標

美術作品の基礎を再確認・再考し、調査研究や論文作成に結びつく実践的な研究能力の向上を目標としたい。日頃の調査・研究が実際の現場（調査・研究・展示・修理・原稿）でどのようにいかされるのか理解でき、美術史の最前線の現場における即戦力が身につくように配慮する。研究者として独り立ち支援を行う。

成績評価方法

- **試験**　0%　　行わない
- **レポート**　0%　　行わない
- **平常点**　70%　　出席及び各回ごとの内容の理解度を総合的に判断する。出席重視！
- **その他**　30%　　文化財の取扱いの習熟度

備考・関連ＵＲＬ

各回はそれぞれに関連しているので欠席しないようにして下さい。

科目名	美術史学研究3　司馬江漢『江漢西遊日記』を読む							
担当者名	成澤　勝嗣							
美術史学コース	２単位	春学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

江戸の洋風画家であり蘭学者であった司馬江漢が長崎を訪れた際の絵入り自筆日記『江漢西遊日記』（1788～89年）を通読し、内容を検討する。前年度より継続。

授業の到達目標

簡易なくずし字の文章に慣れる。
江戸時代の一蘭学者の思想を知る。
長崎を通じた江戸の国際文化交流を理解する。
江戸時代の諸風俗を知る。

成績評価方法

発表の成果によって評価する。

科目名	美術史学研究4　司馬江漢『江漢西遊日記』を読む							
担当者名	成澤　勝嗣							
美術史学コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

江戸の洋風画家であり蘭学者であった司馬江漢が長崎を訪れた際の絵入り自筆日記『江漢西遊日記』（1788～89年）を通読し、内容を検討する。前年度より継続。

授業の到達目標

簡易なくずし字の文章に慣れる。
江戸時代の一蘭学者の思想を知る。
長崎を通じた江戸の国際文化交流を理解する。
江戸時代の諸風俗を知る。

成績評価方法

発表の成果によって評価する。

科目名	美術史学研究7　書の造形表現に関する研究方法							
担当者名	博士（美術史学）学習院大　　笠嶋　忠幸							
美術史学コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本美術史の一分野として「書」の世界がある。絵画における筆墨表現とも近い関係にありながら、そのモチーフのあたるものが文字であり、またテーマとするものが文学や歴史との関わりが深いことから、造形表現として「書」を見つめ、分析することは難しいとされる。この主な要因は、筆跡の造形性を観察することと、筆文字を判読し書かれている内容を理解することが区別することなく、曖昧に一つの観点と見定めてしまう従来の習慣にある。本講座では、まずこうした課題の原点である「書」の世界の多様性について分析する。その上で日本美術としての「書」作品の造形表現について、各時代の代表的な作例に掲げ、具体的な研究方法の手順を提示するとともに、その成果に関する効果や可能性を考える。

授業の到達目標

日本美術史上、「書」作品として分類される領域を、歴史的観点からの検証し、理解を深める。また近現代的表現との共通点や相違点についても分析的研究ができるような視点、観点の獲得を目指す。

成績評価方法

- **試験**　0%　　行いません
- **レポート**　60%　　学期末のレポート
- **平常点**　20%　　出席状況
- **その他**　20%　　任意の自主レポート

科 目 名	美術史学研究8　幕末明治日本絵画史研究							
担当者名	岡戸　敏幸							
美術史学コース	２単位	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

絵画がただそれのみで存在し得ないのは、美術史を学び始めた者の誰もが知るところであろう。
幕末から明治へといたる、およそ百年の日本絵画も例外ではなく、自然科学（博物学・医学・光学等）、文学はもとより同時代の雅俗混淆の文化全般との関連をもっている。その様相は、人間の営みの多様さを映し出す。
本講義では、幕末明治の日本絵画を「人の営み」の所産と捉え、その特質を考えていく。
講義科目ではあるが、受講者各自の考えをきく機会を多く設け、問題意識の共有と討議の場としたい。受講者と相談の上、教室外での見学会等も検討したい。
なお、毎時間、美術史研究に必須な江戸明治の一次文献資料（版本・写本・自筆を問わない。草・行書体や漢文で書かれたものが中心となる）読解を課すので、そのための自学自習が求められる。

授業の到達目標

幕末明治の日本絵画の特質を考究し、新しい研究課題を発見する契機とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特に予定していません。
●**レポート**　70%　　問題設定の有為性と独創性、論述の正確さと説得性などを軸に評価します。
●**平常点**　30%　　出席状況に加え、講義への参加度などを評価します。
●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連ＵＲＬ

美術史を「我がこと」として学ぶ姿勢を期待します。

科 目 名	美術史学演習1-1							
担当者名	成澤　勝嗣							
美術史学コース	２単位	春学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

受講者諸君がこれまで手がけてきた研究（卒業論文など）や、現在関心を抱いているテーマ、作品調査の報告などについて発表してもらい、皆で検討を試み、意見の交換をおこなう。さらにその発表をもとに、こちらから各受講者にふさわしい新たな課題を与え、それに関する研究発表をおこなってもらう。どちらも意欲的な発表と活発な質疑を期待する。
実際に絵画作品と出逢ったとき、どのように調査・記録・考察をおこない、日本文化の顕彰に役立てていくか、それに必要な知識と技術を身につけることを目標とする。

授業の到達目標

実際に絵画作品と出逢ったとき、どのように調査・記録・考察をおこない、日本文化の顕彰に役立てていくか、それに必要な知識と技術を身につけることを目標とする。

成績評価方法

平常点　100%　研究発表の独自性、完成度による

科 目 名	美術史学演習1-2							
担当者名	成澤　勝嗣							
美術史学コース	２単位	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

受講者諸君がこれまで手がけてきた研究（卒業論文など）や、現在関心を抱いているテーマ、作品調査の報告などについて発表してもらい、皆で検討を試み、意見の交換をおこなう。さらにその発表をもとに、こちらから各受講者にふさわしい新たな課題を与え、それに関する研究発表をおこなってもらう。どちらも意欲的な発表と活発な質疑を期待する。
実際に絵画作品と出逢ったとき、どのように調査・記録・考察をおこない、日本文化の顕彰に役立てていくか、それに必要な知識と技術を身につけることを目標とする。

授業の到達目標

実際に絵画作品と出逢ったとき、どのように調査・記録・考察をおこない、日本文化の顕彰に役立てていくか、それに必要な知識と技術を身につけることを目標とする。

成績評価方法

平常点　100%　研究発表の独自性、完成度による

科 目 名	美術史学演習2-1　『集神州三宝感通録』巻下聖寺篇の釈読							
担当者名	博士(文学)早大　　肥田　路美							
美術史学コース	２単位	春学期	木曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要

7世紀の仏教史家、道宣の晩年の著作『集神州三宝感通録』は、中国への仏教初伝から初唐に至る約600年間に仏舎利、仏像、仏寺、聖僧、仏経などに現れた感通譚（霊験説話）を集録したもので、中国に限らず広く仏教美術の作品やそれに関わるさまざまな事象について考える上での、貴重な示唆と情報の宝庫である。この演習では、巻下の聖寺篇を釈読し、特に仏教美術に関わる問題を細かく拾い上げて、できる限りの解釈の可能性を追究したい。春学期の本科目では、テキストの予定範囲を事前に訓読、現代語訳し、注を付すべき事項について考えたものを持ち寄って、詳細に検討を加える。 秋学期に開講する「演習2－2」では、それをもとに注の執筆を進めるので、両科目とも履修することが望ましい。なお、これら一年間の成果は、冊子としてまとめる

計画である。

授業の到達目標

・仏教美術研究に必要な漢文史料の読解力を養うために、専門的な用語に慣れ、訓読、現代語訳ができるようになること。
・史料を素材とした時にどのような論点の設定が可能であるかについて、問題意識を深めること。
・国内外における研究動向と問題の所在を理解すること。

成績評価方法

授業への積極的な参加姿勢、釈読および注の執筆の状況によって評価する。

備考・関連URL

なし 関連URL:　なし

科 目 名	美術史学演習2-2 『集神州三宝感通録』巻下聖寺篇の釈読							
担当者名	博士(文学)早大　　肥田　路美							
美術史学コース	２単位	秋学期	木曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要

7世紀の仏教史家、道宣の晩年の著作『集神州三宝感通録』は、中国への仏教初伝から初唐に至る約600年間に仏舎利、仏像、仏寺、聖僧、仏経などに現れた感通譚（霊験説話）を集録したもので、中国に限らず広く仏教美術の作品やそれに関わるさまざまな事象について考える上での、貴重な示唆と情報の宝庫である。この演習では、巻下の聖寺篇を釈読し、特に仏教美術に関わる問題を細かく拾い上げて、できる限りの解釈の可能性を追究したい。春学期に引き続いてテキストの訓読、現代語訳をおこない、確定した付注箇所について注の執筆を進め、その読み合わせと検討をおこなう。

授業の到達目標

・仏教美術研究に必要な漢文史料の読解力を養うために、専門的な用語に慣れ、訓読、現代語訳ができるようになること。
・史料を素材とした時にどのような論点の設定が可能であるかについて、問題意識を深めること。
・国内外における研究動向と問題の所在を理解すること。

成績評価方法

授業への積極的な参加姿勢、釈読および注の執筆の状況によって評価する。

備考・関連URL

なし 関連URL:　なし

科 目 名	美術史学演習3-1 東洋・日本彫刻史研究－平安時代を中心として－							
担当者名	川瀬　由照							
美術史学コース	２単位	春学期	火曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本彫刻史のなかでも平安時代前期及び中期は作品と史実の堅実な学習が不可欠である。恣意的な作風理解ではなく、学術的根拠にもとづく平安時代彫刻史の理解と研究を演習を通して学ぶ。本年度はおもに観心寺や東寺、神護寺、安祥寺に関する史料の読解と作品研究を行い、日本彫刻史の基礎的な研究姿勢および最新の研究成果を習得する。本年度は『観心寺勘録縁起資財帳』の講読から行う。また受講生の研究課題に関する発表や調査・整理・検討をおこなってもらう。

授業の到達目標

着実な基礎研究にもとづく基礎知識の習得をおこない、実証的な論文の完成への道程とする。発表や作文を行い専門的な研究方法や発表の仕方を着実に身につける。

成績評価方法

授業参加や取り組み、発表内容等を総合的に評価する。

備考・関連URL

各回はそれぞれ関連するので安直な欠席はしないこと。

科 目 名	美術史学演習3-2 東洋・日本彫刻史研究－平安時代を中心として－							
担当者名	川瀬　由照							
美術史学コース	２単位	秋学期	火曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本彫刻史のなかでも平安時代前期及び中期は作品と史実の堅実な学習が不可欠である。恣意的な作風理解ではなく、学術的根拠にもとづく平安時代彫刻史の理解と研究を演習を通して学ぶ。本年度はおもに観心寺や東寺、神護寺、安祥寺に関する史料の読解と作品研究を行い、日本彫刻史の基礎的な研究姿勢および最新の研究成果を習得する。本年度は『観心寺勘録縁起資財帳』の講読から行う。また受講生の研究課題に関する発表や調査・整理・検討をおこなってもらう。

授業の到達目標

着実な基礎研究にもとづく基礎知識の習得をおこない、実証的な論文の完成への道程とする。発表や作文を行い専門的な研究方法や発表の仕方を着実に身につける。

成績評価方法

授業参加や取り組み、発表内容等を総合的に評価する。

備考・関連URL

各回はそれぞれ関連するので安直な欠席はしないこと。

科 目 名	美術史学演習5-1　西洋美術史学演習							
担当者名	Ph.D. ピサ高等研究院　　児嶋　由枝							
美術史学コース	２単位	春学期	木曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

前半では、受講生各自が自身の研究テーマに関する欧文雑誌論文について批判的に発表を行い、さらに全員で討論する。後半では、修士論文作成に向けて研究発表を行い、その内容について全員で議論する。

授業の到達目標

1年次は、修士論文のテーマと具体的な構成の確定を行う。同時に、修士論文作成に必要な学術的総合力をつける。
2年次においては、修士論文の完成を目指す。

成績評価方法

出席、発表の内容、および演習参加（特に質問や討論）に基づいて総合的に評価する。

備考・関連ＵＲＬ

以下2つは西洋美術史研究における最も基本的な学術文献検索サイト。使用方法等については授業中に説明する。

http://primo.getty.edu/primo_library/libweb/action/search.do?vid=BHA
http://aleph.mpg.de/F?func=file&file_name=find-b&local_base=kub01

科 目 名	美術史学演習5-2　西洋美術史学演習							
担当者名	Ph.D. ピサ高等研究院　　児嶋　由枝							
美術史学コース	２単位	秋学期	木曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

前半では、受講生各自が自身の研究テーマに関する欧文雑誌論文について批判的に発表を行い、さらに全員で討論する。後半では、修士論文作成に向けて研究発表を行い、その内容について全員で議論する。

授業の到達目標

1年次は、修士論文のテーマと具体的な構成の確定を行う。同時に、修士論文作成に必要な学術的総合力をつける。
2年次においては、修士論文の完成を目指す。

成績評価方法

出席、発表の内容、および演習参加（特に質問や討論）に基づいて総合的に評価する。

備考・関連ＵＲＬ

以下2つは西洋美術史研究における最も基本的な学術文献検索サイト。使用方法等については授業中に説明する。

http://primo.getty.edu/primo_library/libweb/action/search.do?vid=BHA
http://aleph.mpg.de/F?func=file&file_name=find-b&local_base=kub01

科 目 名	美術史学演習7-1　日本古代・中世絵画史：画面分析の方法							
担当者名	博士(文学)早大　　山本　聡美							
美術史学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

古代・中世絵画（仏画、掛幅画、絵巻、障屏画）を調査・研究するに際して必要な方法や技能を、実践を通じて獲得する。この演習では、絵画様式や図像学的分析を行う方法や目的について理解するために、基礎文献の読解を踏まえた研究発表に取り組む。

各自対象とする作品を定め、先行研究においてどのような方法による研究が蓄積されてきたかを検証した上で、論点の整理や新たな問題提起を行う。

発表とディスカッションを軸に授業を進める。

発表担当スケジュールや、対象作品についてはガイダンス時に、参加者全員で相談の上決定する。

授業の到達目標

古代・中世絵画（仏画、掛幅画、絵巻、障屏画）を調査・研究するに際して必要な方法や技能を理解し、身に付ける。
絵画様式や図像学的分析を行う方法や目的について理解し、それらの方法を自らの研究に応用できるようになる。
先行研究を深く理解し、自分自身で論点の整理や新たな問題提起を行う能力を獲得する。
自ら定めたテーマについて、口頭発表、ディスカッション、論文作成ができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　60%　　研究発表に基づく最終レポートで評価する。 論述内容の妥当性・論理的記述がなされているか・学術論文としての体裁が整っているかを重視する。
●**平常点**　10%　　ディスカッションへの積極的参加を評価する。
●**その他**　30%　　担当する回の研究発表への取り組み。事前準備や発表内容を評価する。

科 目 名	美術史学演習7-2　日本古代・中世絵画史：史料分析の方法							
担当者名	博士(文学)早大　　山本　聡美							
美術史学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

古代・中世絵画（仏画、掛幅画、絵巻、障屏画）を調査・研究するに際して必要な方法や技能を、実践を通じて獲得する。この演習では、関連史料（日記や記録、修理銘等）やテキスト（絵画の典拠となった経典や文学作品）を読解し、内容を分析する

方法や目的について理解するために、基礎文献の読解を踏まえた研究発表に取り組む。
各自対象とする作品を定め、先行研究においてどのような方法による研究が蓄積されてきたかを検証した上で、論点の整理や新たな問題提起を行う。
発表とディスカッションを軸に授業を進める。
発表担当スケジュールや、対象作品についてはガイダンス時に、参加者全員で相談の上決定する。

授業の到達目標

古代・中世絵画（仏画、掛幅画、絵巻、障屏画）を調査・研究するに際して必要な方法や技能を理解し、身に付ける。
関連史料（日記や記録、修理銘等）やテキスト（絵画の典拠となった経典や文学作品）を読解できるようになり、内容を分析する方法や目的について理解する。
それらの方法を、自らの研究に応用できるようになる。
先行研究を深く理解し、自分自身で論点の整理や新たな問題提起を行う能力を獲得する。
自ら定めたテーマについて、口頭発表、ディスカッション、論文作成ができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　60%　　研究発表に基づく最終レポートで評価する。 論述内容の妥当性・論理的記述がなされているか・学術論文としての体裁が整っているかを重視する。
●**平常点**　10%　　ディスカッションへの積極的参加を評価する。
●**その他**　30%　　担当する回の研究発表への取り組み。事前準備や発表内容を評価する。

科目名	美術史学演習8-1　近現代美術史							
担当者名	博士(文学)早大　　坂上　桂子							
美術史学コース	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

近現代美術史研究の基礎的アプローチの手法について学びます。毎回、受講生のプレゼンテーションを中心とし、それに対し講評と議論をすることで進めます。各自、与えられた課題についてテーマを設定し、発表準備をしてもらいます。発表に際しては、適切なテーマをプレゼンテーションの形で確実に伝えることができているか、内容はもちろんのこと、まとめかた、パワーポイントのデザイン、話し方、レジュメのつくりかたまでを含め指導していきます。また、ほかの受講生の発表内容について意見を述べ、互いに議論をする能力も同時に身につけます。

授業の到達目標

美術史の基礎にかかわる知識と手法を学ぶことが目的です。自身が設定・研究した課題を、プレゼンテーションとしてまとめ、人に伝える能力を身につけると同時に、他の受講生の発表を聞いて、それについて質問をしたり、議論する力も同時に養うことを目標とします。

成績評価方法

研究内容に応じます。

科目名	美術史学演習8-2　近現代美術史							
担当者名	博士(文学)早大　　坂上　桂子							
美術史学コース	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

近現代美術史研究の基礎的アプローチの手法について学びます。毎回、受講生のプレゼンテーションを中心とし、それに対し講評と議論をすることで進めます。各自、与えられた課題についてテーマを設定し、発表準備をしてもらいます。発表に際しては、適切なテーマをプレゼンテーションの形で確実に伝えることができているか、内容はもちろんのこと、まとめかた、パワーポイントのデザイン、話し方、レジュメのつくりかたまでを含め指導していきます。また、ほかの受講生の発表内容について意見を述べ、互いに議論をする能力も同時に身につけます。

授業の到達目標

美術史の基礎にかかわる知識と手法を学ぶことが目的です。とくに自身が設定・研究した課題を、プレゼンテーションとしてまとめ、人に伝える能力を身につけると同時に、他の受講生の発表を聞いて、それについて質問をしたり、議論する力も同時に養うことを目標とします。

成績評価方法

研究内容に応じます。

科目名	美術史学研究指導1-1　M　日本近世絵画史研究							
担当者名	成澤　勝嗣							
美術史学コース	—	春学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の作成に向けて、現在の進捗状況、研究中のテーマ、問題点、作品調査の報告などを各人が発表し、参加者全員で検討を試み、意見の交換をおこなう。意欲的な発表と活発な質疑を期待する。

授業の到達目標

修士論文の完成度を堅実に高め、より豊かな成果を獲得することを目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	美術史学研究指導1-2　M　日本近世絵画史研究							
担当者名	成澤　勝嗣							
美術史学コース	—	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の作成に向けて、現在の進捗状況、研究中のテーマ、問題点、作品調査の報告などを各人が発表し、参加者全員で検討を試み、意見の交換をおこなう。意欲的な発表と活発な質疑を期待する。

授業の到達目標

修士論文の完成度を堅実に高め、より豊かな成果を獲得することを目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	美術史学研究指導2-1　M　東洋古代中世美術研究							
担当者名	博士(文学)早大　肥田　路美							
美術史学コース	—	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の作成に関する指導を中心に、個人指導の形式で実施。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	美術史学研究指導2-2　M　東洋古代中世美術研究							
担当者名	博士(文学)早大　肥田　路美							
美術史学コース	—	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の作成に関する指導を中心に、個人指導の形式で実施。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	美術史学研究指導3-1　M　東洋及び日本彫刻史、仏教美術史研究							
担当者名	川瀬　由照							
美術史学コース	—	春学期	木曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文作成にあたり各受講生が修論テーマに関する作品調査や先行研究、進捗状況について報告し、作品の把握や先行研究の理解、着眼点等について問題ないか指導を行い、実証的、蓋然性高い着実な修士論文の完成を目指す。修士論文の進捗状況の報告およびその指導を行う。また美術史の作品記述や基礎研究の確認を徹底的に行う。卒業論文から脱却し、専門の研究者としての論文作成をめざす。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

研究指導の受講、研究成果の報告がない場合には不合格とする。

科 目 名	美術史学研究指導3-2　M　東洋及び日本彫刻史、仏教美術史研究							
担当者名	川瀬　由照							
美術史学コース	—	秋学期	木曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文作成にあたり各受講生が修論テーマに関する作品調査や先行研究、進捗状況について報告し、作品の把握や先行研究の理解、着眼点等について問題ないか指導を行い、実証的、蓋然性高い着実な修士論文の完成を目指す。修士論文の進捗状況の報告およびその指導を行う。また美術史の作品記述や基礎研究の確認を徹底的に行う。卒業論文から脱却し、専門の研究者としての論文作成をめざす。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

研究指導および研究報告がなされない場合には不合格とする。

科 目 名	美術史学研究指導5-1　M　西洋中近世美術研究							
担当者名	Ph.D. ピサ高等研究院　　児嶋　由枝							
美術史学コース	—	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
ルネサンス・バロック美術史学ならびにその周辺領域に関する学術研究の基本を学ぶ。学術論文の構成方法や執筆に関して、受講生各自の専門内容をふまえて具体的な指導を個別に実施する。執筆した修士論文の原稿については、添削を行う。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
以下の2つは最も重要な美術史学文献検索サイト

ゲッティ研究所内のBHA（Bibliography of History of Art）
http://aleph.mpg.de/F?func=file&file_name=find-b&local_base=kub01

ドイツ美術史研究所総合サイト内の文献検索ページ
http://primo.getty.edu/primo_library/libweb/action/search.do?vid=BHA

科 目 名	美術史学研究指導5-2　M　西洋中近世美術研究							
担当者名	Ph.D. ピサ高等研究院　　児嶋　由枝							
美術史学コース	—	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
ルネサンス・バロック美術史学ならびにその周辺領域に関する学術研究の基本を学ぶ。学術論文の構成方法や執筆に関して、受講生各自の専門内容をふまえて具体的な指導を個別に実施する。執筆した修士論文の原稿については、添削を行う。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
以下の2つは最も重要な美術史学文献検索サイト

ゲッティ研究所内のBHA（Bibliography of History of Art）
http://aleph.mpg.de/F?func=file&file_name=find-b&local_base=kub01

ドイツ美術史研究所総合サイト内の文献検索ページ
http://primo.getty.edu/primo_library/libweb/action/search.do?vid=BHA

科 目 名	美術史学研究指導7-1　M　日本古代・中世絵画史研究							
担当者名	博士（文学）早大　　山本　聡美							
美術史学コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文作成に際して、各自が、テーマ設定、作品や文献の調査・研究の進捗状況について報告する。その上で、テーマ設定の妥当性、作品や先行研究の理解、論の展開等について、教員及び参加者全員でディスカッションしながら検証する。実証性と論理性の伴った、精度の高い修論作成を目指す。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	美術史学研究指導7-2　M　日本古代・中世絵画史研究							
担当者名	博士（文学）早大　　山本　聡美							
美術史学コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文作成に際して、各自が、テーマ設定、作品や文献の調査・研究の進捗状況について報告する。その上で、テーマ設定の妥当性、作品や先行研究の理解、論の展開等について、教員及び参加者全員でディスカッションしながら検証する。実証性と論理性の伴った、精度の高い修論作成を目指す。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	美術史学研究指導8-1　M　近現代美術研究							
担当者名	博士(文学)早大　　坂上　桂子							
美術史学コース	—	春学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
近現代美術史を研究するための基本的方法について指導します。とくに研究をはじめるための準備として、基礎的文献について学びます。文献の種類にはどのようなものがあるのか、何をいかに収集するのか、どこでどのように使用するのか、その扱いかたについて学びます。同時に、適切な研究テーマの設定およびアプローチの方法について、個人の研究テーマに即し具体的な指導をしていきます。

授業の到達目標
適切な研究テーマをみつけ、自分で研究を進めるための能力を身に着けます。最終的には修士論文の執筆を目標として、その準備を進めます。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	美術史学研究指導8-2　M　近現代美術研究							
担当者名	博士(文学)早大　　坂上　桂子							
美術史学コース	—	秋学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
近現代美術史を研究するための基本的方法について指導します。とくに、美術史論文の作成に関する基礎を学びます。論文のテーマ設定、構想、構成、執筆の具体的手法について指導していきます。各自が対象とする研究内容の論文に限定することなく、できるだけ多くの論文を読み、内容を詳しく検討することで、美術史の論文を書くための技法を十分に身につけるようにしていきます。同時に、個人の研究テーマと、進捗状況に即した内容について具体的な指導をします。

授業の到達目標
適切な研究テーマをみつけ、自分で研究を進めるための能力を身につけます。最終的には修士論文の執筆を目標とします。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	美術史学研究指導1-1　D　日本絵画史研究							
担当者名	成澤　勝嗣							
美術史学コース	—	春学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の作成に向けて、現在の進捗状況、研究中のテーマ、問題点、作品調査の報告などを各人が発表し、参加者全員で検討を試み、意見の交換をおこなう。意欲的な発表と活発な質疑を期待する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	美術史学研究指導1-2　D　日本絵画史研究							
担当者名	成澤　勝嗣							
美術史学コース	—	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の作成に向けて、現在の進捗状況、研究中のテーマ、問題点、作品調査の報告などを各人が発表し、参加者全員で検討を試み、意見の交換をおこなう。意欲的な発表と活発な質疑を期待する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	美術史学研究指導2-1　D　東洋古代中世美術研究							
担当者名	博士(文学)早大　　肥田　路美							
美術史学コース	—	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

個人指導の形式で実施。博士学位請求論文の作成に関する指導を中心に、学会での口頭発表や論文執筆の指導をおこなう。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。そのために一年間に少なくとも学術誌等への投稿論文を一本書き上げ、学会での口頭発表を一回はおこなうことを目指す。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	美術史学研究指導2-2　D　東洋古代中世美術研究							
担当者名	博士(文学)早大　　肥田　路美							
美術史学コース	—	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

個人指導の形式で実施。博士学位請求論文の作成に関する指導を中心に、学会での口頭発表や論文執筆の指導をおこなう。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。そのために一年間に少なくとも学術誌等への投稿論文を一本書き上げ、学会での口頭発表を一回はおこなうことを目指す。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	美術史学研究指導3-1　D　東洋及び日本彫刻史、仏教美術史研究							
担当者名	川瀬　由照							
美術史学コース	—	春学期	木曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士学位請求論文の作成に向けて、総合的に指導を行う。研究テーマや先行研究、問題点等について検討や修整を行いつつ、作品調査や作例・文献史料の収集について受講生が報告し、論文の進捗状況を発表していく。作品調査や学会発表、論文執筆を積極的に行い、博士論文完成をめざす。

博士論文の全体設計を意識しながら論文作成を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

研究指導の受講、研究成果の報告がない場合には不合格とするので注意されたし。

備考・関連URL

博士課程においては研究の進捗状況・成果の報告を必ず行うこと。

科 目 名	美術史学研究指導3-2　D　東洋及び日本彫刻史、仏教美術史研究							
担当者名	川瀬　由照							
美術史学コース	—	秋学期	木曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士学位請求論文の作成に向けて、総合的に指導を行う。研究テーマや先行研究、問題点等について検討や修整を行いつつ、作品調査や作例・文献史料の収集について受講生が報告し、論文の進捗状況を発表していく。作品調査や学会発表、論文執筆を積極的に行い、博士論文完成をめざす。

博士論文の全体設計を意識しながら論文作成を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

研究指導ないし研究状況の報告がない場合には不合格とするので注意されたし。

備考・関連URL

博士課程においては研究の進捗状況・成果の報告を必ず行うこと。

科 目 名	美術史学研究指導5-1　D　西洋中近世美術史学研究							
担当者名	Ph.D. ピサ高等研究院　　児嶋　由枝							
美術史学コース	—	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文作成に向けての個別指導を実施する。同時に、学会誌への投稿、学会での口頭発表に関して具体的な指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	美術史学研究指導5-2　D　西洋中近世美術史学研究							
担当者名	Ph.D. ピサ高等研究院　　児嶋　由枝							
美術史学コース	—	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文作成に向けての個別指導を実施する。同時に、学会誌への投稿、学会での口頭発表に関して具体的な指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	美術史学研究指導7-1　D　日本古代・中世絵画史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　山本　聡美							
美術史学コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文作成に際して、各自が、テーマ設定、作品や文献の調査・研究の進捗状況について報告する。その上で、テーマ設定の妥当性、作品や先行研究の理解、論の展開等について、教員及び参加者全員でディスカッションしながら検証する。実証性と論理性の伴った、精度の高い博論作成を目指す。また、学会誌への投稿、学会での口頭発表に関して具体的な指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	美術史学研究指導7-2　D　日本古代・中世絵画史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　山本　聡美							
美術史学コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文作成に際して、各自が、テーマ設定、作品や文献の調査・研究の進捗状況について報告する。その上で、テーマ設定の妥当性、作品や先行研究の理解、論の展開等について、教員及び参加者全員でディスカッションしながら検証する。実証性と論理性の伴った、精度の高い博論作成を目指す。また、学会誌への投稿、学会での口頭発表に関して具体的な指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	美術史学研究指導8-1　D　近現代美術研究							
担当者名	博士(文学)早大　　坂上　桂子							
美術史学コース	—	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文を視野に、各自が研究テーマを深め、展開するための指導をしていきます。1年生については、博士論文の具体的な計画を行い、内容を確定します。また2年次生以上については研究計画に基づいた具体的な研究を進めるべく指導します。学会発表、および、学会誌への論文投稿も順次行ってもらいます。自身の研究内容を掘り下げつつ、同時に美術史全般の幅広い知識を獲得し、より優れたプレゼンテーション、質の高い文章を書く能力を身につけるよう指導していきます。

授業の到達目標

学会での発表、および論文投稿について、自身で目標を定めて確実に行うこと、また就業年限以内での博士論文の完成を到達目標とします。

成績評価方法

研究内容に応じます。

科 目 名	美術史学研究指導8-2　D　近現代美術研究							
担当者名	博士(文学)早大　　坂上　桂子							
美術史学コース	—	秋学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

博士論文を視野に、各自が研究テーマを深め、展開するための指導をしていきます。1年生については、博士論文の具体的な計画を行い、内容を確定します。また2年次生以上については研究計画に基づいた具体的な研究を進めるべく指導します。学会発表、および、学会誌への論文投稿も順次行ってもらいます。自身の研究内容を掘り下げつつ、同時に美術史全般の幅広い知識を獲得し、より優れたプレゼンテーション、質の高い文章を書く能力を身につけるよう指導していきます。

授業の到達目標

学会での発表、および論文投稿について、自身で目標を定めて確実に行うこと、また修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とします。

成績評価方法

研究内容に応じます。

日本史学コース

科 目 名	古文書学・古記録学特論1　中世の古記録を読む							
担当者名	博士(文学)東大　　遠藤　珠紀							
日本史学コース	２単位	春学期	水曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

室町期の朝廷の官人中原康富による日記『康富記』がある。本講義では『康富記』を主なテキストとして、並行する他の古記録とも読み比べつつ中世古記録に親しんでいただきたい。授業の進め方としては、講読テキストの写真のコピーを受講者に割り当てて講読を進める。報告者はテキストの文字を判読・校訂して正確な釈文を作成するとともに、問題点について報告し、参加者全員で釈文や報告内容について議論する。

授業の到達目標

崩し字で書かれた原本・古写本の文字を解読しながら、古記録の文体や用語に親しみ、史料読解の基礎を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　適宜指定する
●**平常点**　100%　　担当報告の内容と、議論における発言などにより評価する
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	古文書学・古記録学特論2　中世の古記録を読む							
担当者名	博士(文学)東大　　遠藤　珠紀							
日本史学コース	２単位	秋学期	水曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

室町期の朝廷の官人中原康富による日記『康富記』がある。本講義では『康富記』を主なテキストとして、並行する他の古記録とも読み比べつつ中世古記録に親しんでいただきたい。授業の進め方としては、テキストの原本写真のコピーを受講者に割り当てて講読を進める。報告者はテキストの文字を判読・校訂して正確な釈文を作成するとともに、問題点について報告し、参加者全員で釈文や報告内容について議論する。

授業の到達目標

崩し字で書かれた原本・古写本の文字を解読しながら、古記録の文体や用語に親しみ、史料読解の基礎を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　適宜指定する
●**平常点**　100%　　担当報告の内容と議論での発言などを評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	日本史学特論1　「長楽寺永禄日記」の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　久保　健一郎							
日本史学コース	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

戦国時代の上野長楽寺住持賢甫義哲が記した「長楽寺永禄日記」は、当該時代の第一級の史料である。本特論ではこれを素材として、戦国時代の領主権力や在地社会の様相に注目していく。

授業の到達目標

戦国時代の領主権力について理解を深める。

成績評価方法

授業における発言等の参加姿勢や、理解度から評価する。

科 目 名	日本史学特論2　「長楽寺永禄日記」の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　久保　健一郎							
日本史学コース	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

戦国時代の上野長楽寺住持賢甫義哲が記した「長楽寺永禄日記」は、当該時代の第一級の史料である。本特論ではこれを素材として、戦国時代の領主権力や在地社会の様相に注目していく。

授業の到達目標

戦国時代の在地社会についての理解を深める。

成績評価方法

授業での発言等、参加姿勢や理解度から評価する。

科 目 名	日本史学特論3　経済史からみた近現代日本の家族と個人1							
担当者名	博士(経済学)東大　　沼尻　晃伸							
日本史学コース	２単位	春学期	火曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

この授業では、以下の2つのテーマを扱います。(1)20世紀前半の農民日記などの分析を通じて、マイクロ・ヒストリーの方法とその意義を概説するとともに、その理解のための演習を行います。具体的には、一農民の日記史料を長期的に検討することを通じて、農民のライフコースと労働、生活、思想を明らかにし、そこで得られた知見が、近年の、経済史、社会史、ジェンダー史研究のなかでどのような意義と限界を有するかを追究します。(2)同時に、経済史研究を進めていくうえで必要となる、内外

の古典的文献に関する講読を行います。

授業の到達目標

第一に、日記史料を用いたマイクロ・ヒストリーの方法（史料の利用の仕方や史料批判など）を理解することです。第二に、日記史料の講読と古典的文献の講読を合わせておこなうことで、近現代日本の農家と農民に関する歴史的理解を深めることです。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　授業での質疑応答への参加度（出席回数を含む）と個人報告の内容
- **その他**　0%

備考・関連URL

この授業内容は、秋学期開講の日本史学特論4に継続していきます。

科 目 名	日本史学特論4　経済史からみた近現代日本の家族と個人2							
担当者名	博士(経済学)東大　　沼尻　晃伸							
日本史学コース	２単位	秋学期	火曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

この授業では、春学期開講の日本史学特論3に引き続き、以下の2つのテーマを扱います。(1)20世紀前半の農民日記などの分析を通じて、マイクロ・ヒストリーの方法とその意義を概説するとともに、その理解のための演習を行います。具体的には、一農民の日記史料を長期的に検討することを通じて、農民のライフコースと労働、生活、思想を明らかにし、そこで得られた知見が、近年の、経済史、社会史、ジェンダー史研究のなかでどのような意義と限界を有するかを追究します。(2)同時に、経済史研究を進めていくうえで必要となる、内外の古典的文献に関する講読を行います。

授業の到達目標

第一に、日記史料を用いたマイクロ・ヒストリーの方法（史料の利用の仕方や史料批判など）を理解することです。第二に、日記史料の講読と古典的文献の講読を合わせておこなうことで、近現代日本の農家と農民に関する歴史的理解を深めることです。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　授業での質疑応答への参加度（出席回数を含む）と個人報告の内容
- **その他**　0%

備考・関連URL

この授業内容は、春学期開講の日本史学特論3から継続するものですが、本授業（日本史学特論4）のみ受講しても構いません。

科 目 名	日本史学特論5　『春記』の研究							
担当者名	博士(文学)東大　　小倉　慈司							
日本史学コース	２単位	春学期	水曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

平安時代の古記録である『春記』を対象として、古記録の読解方法を学ぶ。

授業の到達目標

平安時代の古記録を活用して論文が書けるような力をつける。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　100%　　講読担当箇所のレジュメの作成と報告（70%）、質疑討論等毎回授業への参加姿勢（30%）
- **その他**　0%　　なし

備考・関連URL

毎回出席を原則とする。レジュメに引用した史料は、すべて読めるようにしておくこと。

科 目 名	日本史学特論6　『春記』とその時代についての研究							
担当者名	博士(文学)東大　　小倉　慈司							
日本史学コース	２単位	秋学期	水曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

平安時代の古記録である『春記』を活用して、平安時代研究能力を養う。

授業の到達目標

平安時代の古記録を活用して論文が書けるような力をつける。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　100%　　講読担当箇所のレジュメの作成と報告（70%）、質疑討論等毎回授業への参加姿勢（30%）
- **その他**　0%　　なし

備考・関連URL

毎回出席を原則とする。レジュメに引用した史料は、すべて読めるようにしておくこと。

科 目 名	日本史学特論7　宮内庁所蔵史料及び編纂事業の分析・検討							
担当者名	博士(人文科学)お茶の水女子大　　真辺　美佐							
日本史学コース	２単位	春学期	金曜日	６時限	１年以上	―	―	―

授業概要

近年、宮内庁書陵部に宮内公文書館が設置され、宮内庁所蔵の史料へのアクセスは以前にくらべ、格段によくなった。とはいえ、宮内庁という行政機関にどのような文書が存在するのか、全体像は依然として把握しづらい状況にある。本講義では、宮内庁書陵部はもちろん、それ以外の宮内庁部局が所蔵する文書も含め、宮内庁所蔵文書の全体像を紹介し、その構造や特質を把握してもらう。さらに、個別の史料や、それと密接に関連する編纂物の解読、分析・検討を行う。特に、宮内省・宮内庁による編集事業は、臨時帝室編修局によって蒐集・整理された「臨帝本」や「内大臣府文書」などの宮内庁所蔵の資料群と密接な関連を有しており、また、現在閲覧することのできない史料を多く使っていることも含め、宮内庁所蔵史料の全体像を把握するうえでは、編纂物の検討も不可欠である。なお、シラバスは『明治天皇紀』『大正天皇実録』『昭和天皇実録』を軸にして組み立てているが、受講生と相談し、各自の問題関心に応じて、別の史料に変更する可能性もある。また随時、受講生が研究を進める上で有用な参考文献を提示する。受講生の調査・発表を随時組み込み、自ら文書史料の調査を行ってもらう。

授業の到達目標

宮内庁所蔵の文書について、その構造や特質を把握した上で史料を読み込むとともに、それを利用した編纂物を批判的に検討する。最終的には史料批判の力を養う。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　50%　　報告内容によって判断する。
- **平常点**　50%　　出席を重視する。
- **その他**　0%

科 目 名	日本史学特論8							
担当者名	葦名　ふみ							
日本史学コース	２単位	秋学期	金曜日	６時限	１年以上	―	―	―

授業概要

・近現代について調査する場合、史料の解読・批判の前段として、比較的広範囲の素材に出会うこととなります。その際、自分の調査した文献やデータベースがどこまでの範囲を検索できているかを見通すことは意外にも難しく、調べやすい史資料に時間をとられているうちに、より適切な情報源を見落としてしまうことも、現実にはよく生じます。

・日本近現代史の調査環境は近年飛躍的に向上し、経験則も変化を迫られています。刊行、未刊行の有無を問わず、膨大な情報源に対し時間を節約しながら史資料に出会うことが重要な段階に入っているという前提に立ち、史資料を見つけ、必要に応じた射程のもとに調査を行い、活用することを目指した実践的な講義内容とします。

授業の到達目標

・受講者自身が、新たなテーマに出会った際に、効率的に調査を進めるための手法や典型的な調査手法を知る。
・調査に有用な文献・データベース、史資料の体系、その引用方法について理解する。
・土地勘のない分野を調査する際に、どのようなプロセスで史資料に出会えそうかを推測できるようにする。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　30%　　出席状況
- **その他**　70%　　授業中の発言・報告

備考・関連ＵＲＬ

・調査事例の報告や参加者の関心に応じた課題を求めることがあります。
・第6～8回の一部において英文文献を用います（使用文献は、日本語対訳付書誌等であり、高度な語学力を求めるものではありません）。

科 目 名	日本史学研究1　近代日本の地誌編纂							
担当者名	博士(文学)京大　　鶴見　太郎							
日本史学コース	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

大正末から昭和初期にかけて行われた地誌編纂について周辺資料も含めて考察する。事例として、信州東筑摩郡、福井県大野郡などを対象に、東京から来村して当該地に滞在・調査を行った民俗学者たちの記録、在地の郷土史家側の記録、書簡、覚書などを読んでいく。前近代の民間習俗と、大正期の大衆文化が地方においても一部混在している時期に相当しているため、その点を明確に区分しながら資料購読をすすめていく予定である。

授業の到達目標

当該期における地誌編纂の実像、ならびに中央と地方の研究者の交流について把握する。

成績評価方法

- **試験**　0%　　特に行わない
- **レポート**　0%　　特に行わない
- **平常点**　100%　　会読への出席と発表
- **その他**　0%　　特に行わない

科 目 名	日本史学研究2　昭和初期の山村・海村の生活誌							
担当者名	博士(文学)京大　　鶴見　太郎							
日本史学コース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

昭和初年に行われた組織的な郷土研究の成果である「全国山村生活調査」、ならびに「海村調査」の採集手帖を読み解いていく。この時期から次第に、民俗学者の個性が組織化の中でと平準化されていき、採集手帳の記述も個性が減じていくが、調査に当たった個々の民俗学者の経歴、手掛けた主題などにも目を向けて資料を読んでいく。また、会読の際には必要に応じて、採集した民俗学者・郷土史家の残した書簡、覚書、モノグラフなども適宜、参照しながら読みすすめていく。

授業の到達目標

昭和初年における郷土像の変容の諸相について把握する。

成績評価方法

- **試験**　0%　　特に行わない
- **レポート**　0%　　特に行わない
- **平常点**　100%　　会読への出席と発表
- **その他**　0%　　特に行わない

科 目 名	日本史学研究3　近世前期の朝廷制度と朝幕関係　―寛文・延宝期―							
担当者名	博士(史学)学習院大　　田中　暁龍							
日本史学コース	2単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

寛文・延宝期の公家日記を中心に史料講読を進め、当該期の朝廷制度や朝幕関係の特質について講義・議論していきます。担当者の講義に加えて、参加者による様々な報告を随時入れ、参加者による議論や史料等の講読も行っていきます。また、担当者・参加者の人数や議論の方向により、下記「授業計画」と内容が前後したり、そこにはないものが時として加わることがあることも、あらかじめ了解して下さい。

授業の到達目標

寛文・延宝期の公家日記を中心に史料講読を行うことを通じて、当該期の朝廷の制度やその変容を観察し、あわせて朝廷と幕府の関係について認識を深めます。近世前期の政治史や朝幕関係史の研究を深める上で基礎的な知識を習得し、さらには各自の史料読解の力量を高めます。

成績評価方法

- **試験**　0%　　行いません。
- **レポート**　60%　　授業の中で指示するレポート課題。
- **平常点**　40%　　参加記録、リアクションペーパー等の提出物。
- **その他**　0%　　その他はありません。

科 目 名	日本史学研究4　近世前期の朝廷制度と朝幕関係　―天和～元禄期―							
担当者名	博士(史学)学習院大　　田中　暁龍							
日本史学コース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

天和～元禄期の公家日記を中心に史料講読を進め、当該期の朝廷制度や朝幕関係の特質について講義・議論していくことにします。担当者の講義に加えて、参加者による様々な報告を随時入れ、参加者による議論や史料等の講読も行っていきます。また、担当者・参加者の議論の方向により、下記「授業計画」と内容が前後したり、そこにはないものが時として加わることがあることも、あらかじめ了解して下さい。

授業の到達目標

天和～元禄期の公家日記を中心に史料講読を行うことを通じて、当該期の朝廷の制度やその変容を観察し、あわせて朝廷と幕府の関係について認識を深めます。近世前期の政治史や朝幕関係史の研究を深める上で基礎的な知識を習得し、さらには各自の史料読解の力量を高めます。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験は行いません。
- **レポート**　60%　　授業の中で指示するレポート課題。
- **平常点**　40%　　参加記録、リアクションペーパー等の提出物。
- **その他**　0%　　特にございません。

科 目 名	日本史学演習1-1　近世日本と飲酒文化							
担当者名	博士(文学)東大　　伊川　健二							
日本史学コース	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日本酒の歴史において、近世は清酒の誕生や流通経路の確立など、大きな画期となる要素を含んでいる。また、来日外国人による記録や、国内各地における史料の蓄積など、関係史料を多角的かつ質量ともに充実した情報収集が期待できる時期でもある。

本演習では、各自の研究テーマに関わるなかで、飲酒もしくは酒に関わる情報を抽出し、輪読や研究報告の形式で共有し、情報を蓄積する。

授業の到達目標

飲酒文化に関連する原典史料や研究の情報を収集し、読み込んでいくことで、当該分野への認識を深化させるとともに、各自の研究テーマ相互の接点を探る。

口頭報告に使用した書面の資料は、保存して関連する他の演習や、出版で使用されることがありうる。
以下の具体的内容はあくまで予定であり、受講者との相談によるなどの事情により変更される可能性がある。

成績評価方法

- **試験**　0%　－
- **レポート**　60%　演習における報告内容およびレポート
- **平常点**　40%　出席および授業時間中における発言
- **その他**　0%　－

科 目 名	日本史学演習1-2　近世日本と飲酒文化							
担当者名	博士(文学)東大　伊川　健二							
日本史学コース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日本酒の歴史において、近世は清酒の誕生や流通経路の確立など、大きな画期となる要素を含んでいる。また、来日外国人による記録や、国内各地における史料の蓄積など、関係史料を多角的かつ質量ともに充実した情報収集が期待できる時期でもある。
本演習では、各自の研究テーマに関わるなかで、飲酒もしくは酒に関わる情報を抽出し、輪読や研究報告の形式で共有し、情報を蓄積する。

授業の到達目標

飲酒文化に関連する原典史料や研究の情報を収集し、読み込んでいくことで、当該分野への認識を深化させるとともに、各自の研究テーマ相互の接点を探る。
口頭報告に使用した書面の資料は、保存して関連する他の演習や、出版で使用されることがありうる。
以下の具体的内容はあくまで予定であり、受講者との相談によるなどの事情により変更される可能性がある。

成績評価方法

- **試験**　0%　－
- **レポート**　60%　演習における報告内容およびレポート
- **平常点**　40%　出席および授業時間中における発言
- **その他**　0%　－

科 目 名	日本史学演習2-1　中世前期史料の講読							
担当者名	博士(文学)早大　下村　周太郎							
日本史学コース	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

中世前期の史料を講読する。分担して現代語訳および語釈を準備し、授業時間中は発表者の報告に基づいて、参加者全員で議論を行い認識を深める。

授業の到達目標

史料読解を通じて中世史に関する専門的な知識・技能を習得する。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　毎回の予習（特に報告者における発表準備）および授業時間中における討論への積極的な参加。
- **その他**　0%

科 目 名	日本史学演習2-2　中世前期史料の講読							
担当者名	博士(文学)早大　下村　周太郎							
日本史学コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

中世前期の史料を講読する。分担して現代語訳および語釈を準備し、授業時間中は発表者の報告に基づいて、参加者全員で議論を行い認識を深める。

授業の到達目標

史料読解を通じて中世史に関する専門的な知識・技能を習得する。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　毎回の予習（特に報告者における発表準備）および授業時間中における討論への積極的な参加。
- **その他**　0%

科 目 名	日本史学演習3-1　近世史料の読解							
担当者名	博士(文学)早大　谷口　眞子							
日本史学コース	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

近年の日本史研究は、研究テーマが多彩になり、それにともなって使用する史料も多様性に富んだものとなっている。近世史についても幕府の儀礼関係史料、藩の行政史料、朝廷関係文書、商家の経営文書、裁判に関する一件史料、旅日記などに至るまで、さまざまである。研究者を目指す人はもちろん、文書館や史料館、あるいは高校教員として働く場合にも、このような幅広い史料についての知見が求められている。

そこで本演習では、それら多彩な史料が読める能力を身につけるために、活字史料、さらにはくずし字史料を用い、史料に含まれた情報を最大限引き出して、その意味を歴史的に位置づける能力を修得してもらう。

授業の到達目標

使用する史料は、幕府・藩・朝廷・町共同体が作成した史料である。受講生は、近世史についての幅広い視野と深い洞察力をもって、担当部分について語句や人名・地名を調べ、関連する文献や史料などを紹介した上で、史料解釈を行うことが求められる。

本演習の目標は2つある。第一は活字史料やくずし字史料を正確に解釈し、史料に含まれた情報を最大限引き出して、その意味を歴史的に位置づける能力を身につけることである。第二に、研究史から導かれる研究課題に取り組む際に、どのような史料を組み合わせて読み込むと何がみえてくるのか、といった感覚を養うことである。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　史料の翻刻・読解、討論への参加、出席などで評価する。
- **その他**　0%

科 目 名	日本史学演習3-2　近世史料の読解							
担当者名	博士(文学)早大　　谷口　眞子							
日本史学コース	２単位	秋学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

近年の日本史研究は、研究テーマが多彩になり、それにともなって使用する史料も多様性に富んだものとなっている。近世史についても幕府の儀礼関係史料、藩の行政史料、朝廷関係文書、商家の経営文書、裁判に関する一件史料、旅日記などに至るまで、さまざまである。研究者を目指す人はもちろん、文書館や史料館、あるいは高校教員として働く場合にも、このような幅広い史料についての知見が求められている。

そこで本演習では、それら多彩な史料が読める能力を身につけるために、活字史料、さらにはくずし字史料を用い、史料に含まれた情報を最大限引き出して、その意味を歴史的に位置づける能力を修得してもらう。

授業の到達目標

使用する史料は、幕府・藩・朝廷・町共同体が作成した史料である。受講生は、近世史についての幅広い視野と深い洞察力をもって、担当部分について語句や人名・地名を調べ、関連する文献や史料などを紹介した上で、史料解釈を行うことが求められる。

本演習の目標は2つある。第一は活字史料やくずし字史料を正確に解釈し、史料に含まれた情報を最大限引き出して、その意味を歴史的に位置づける能力を身につけることである。第二に、研究史から導かれる研究課題に取り組む際に、どのような史料を組み合わせて読み込むと何がみえてくるのか、といった感覚を養うことである。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　史料の翻刻・読解、討論への参加、出席などで評価する。
- **その他**　0%

科 目 名	日本史学演習4-1　井上馨関係文書の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　真辺　将之							
日本史学コース	２単位	春学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

国立国会図書館所蔵の井上馨関係文書の書翰の部を解読する。井上馨関係文書は、元老の一人である井上馨宛の書翰や、井上旧蔵の書類からなる膨大な文書であり、日本近代史研究の中でも最重要史料のひとつである。しかし、同文書は、いまだ活字化されておらず、利用には一定のくずし字解読能力を必要とする。本演習ではこの井上馨関係文書を解読することにより、近代のくずし字文書の解読能力を習得するとともに、日本近代の政治史・経済史を始めとする井上が関わった諸方面の歴史についての知見を深めていきたい。

授業の到達目標

(1)明治・大正期のくずし字文書の解読能力を習得する。
(2)文書の読解を通じて日本近代史に関する新たな知見を得る。
(3)井上馨に関連する日本近代政治史・経済史についての近年の研究動向とその問題点を把握する。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験は行わない。
- **レポート**　0%　　レポートは課さない。
- **平常点**　100%　　出席状況ならびに発言・予習状況などの参加態度で評価する。予習復習をしている様子のない者、出席の少ない者には単位を与えない。
- **その他**　0%　　特に無し。

備考・関連ＵＲＬ

出席状況や予習復習状況の成績への加味を厳密に行うのでそのつもりで参加されたい。

科 目 名	日本史学演習4-2　井上馨関係文書の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　真辺　将之							
日本史学コース	２単位	秋学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

国立国会図書館所蔵の井上馨関係文書の書翰の部を解読する。井上馨関係文書は、元老の一人である井上馨宛の書翰や、井上旧蔵の書類からなる膨大な文書であり、日本近代史研究の中でも最重要史料のひとつである。しかし、同文書は、いまだ活字化されておらず、利用には一定のくずし字解読能力を必要とする。本演習ではこの井上馨関係文書を解読することにより、近代のくずし字文書の解読能力を習得するとともに、日本近代の政治史・経済史を始めとする井上が関わった諸方面の歴史についての知見を深めていきたい。

授業の到達目標

(1)明治・大正期のくずし字文書の解読能力を習得する。
(2)文書の読解を通じて日本近代史に関する新たな知見を得る。
(3)井上馨に関連する日本近代政治史・経済史についての近年の研究動向とその問題点を把握する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　100%　　出席状況ならびに発言・予習状況などの参加態度で評価する。予習復習をしている様子のない者、出席の少ない者には単位を与えない。
●**その他**　0%　　特に無し。

備考・関連ＵＲＬ

出席状況や予習復習状況の成績への加味を厳密に行うのでそのつもりで参加されたい。

科 目 名	日本史学演習5-1　弘仁格の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　川尻　秋生							
日本史学コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本古代史を研究するためには、文献史料を精読することが必要不可欠である。その努力なくしては、一見魅力あるような学説も、砂上の楼閣と化してしまうことを心に銘じる必要がある。

本演習では、散逸した「弘仁格」を研究することによって、日本の「格」の特質を理解し、従来にない史料の読み方を習得するとともに、併せて古代史料の解読の仕方を身につけることを目的とする。本年度は、式部上格を対象とする。

授業の到達目標

弘仁格の読解および解釈を身に付けた上で、弘仁格の特質を理解することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　平常点による
●**その他**　0%

科 目 名	日本史学演習5-2　弘仁格の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　川尻　秋生							
日本史学コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本古代史を研究するためには、文献史料を精読することが必要不可欠である。その努力なくしては、一見魅力あるような学説も、砂上の楼閣と化してしまうことを心に銘じる必要がある。

本演習では、散逸した「弘仁格」を研究することによって、日本の「格」の特質を理解し、従来にない史料の読み方を習得するとともに、併せて古代史料の解読の仕方を身につけることを目的とする。本年度は、式部上格を対象とする。

授業の到達目標

弘仁格の読解および解釈を身に付けた上で、弘仁格の特質を理解することを目標とする。

成績評価方法

毎回、参加者に史料を割り当て、関連史料を集めた上で、その読み、内容、そして発表する史料の「弘仁格」における位置づけについて、報告していただく。

科 目 名	日本史学演習6-1　奈良時代の国際環境を探る							
担当者名	博士(歴史学)国学院大　　田中　史生							
日本史学コース	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

文献史学では八世紀以前の列島をとりまく国際環境を、外交史、国家間関係史から捉えることが多い。けれども近年の考古学の成果などを参照すれば、東アジア海域には、国家間交流とは異なる次元で、地域・人びとを主体とする国際交流も存在していた。日本古代史研究は、こうした多様な交流をどのようにして捉え、国民国家史的な列島史を世界史のなかに描き直せるであろうか。本演習では、八世紀以前の列島の国際交流に関する史料を取り上げ、その読解、分析を通して上記の課題に実証的に迫りたいと思う。今年度は昨年度から読解を進めている「唐大和上東征伝」を扱う予定である。演習は各自の分担報告と討論を中心に進める。

授業の到達目標
①日本古代史の国際交流史関連史料の分析方法を学ぶ。
②列島古代社会の国際環境の実態について新たな知見を得る。

成績評価方法
●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　50%　　内容によって評価。なお、報告時の討論や指摘事項を踏まえて作成すること。
●**平常点**　50%　　報告内容、質疑の内容、参加の積極性によって総合的に判断する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	日本史学演習6-2　奈良時代の国際環境を探る							
担当者名	博士(歴史学)国学院大　　田中　史生							
日本史学コース	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
文献史学では八世紀以前の列島をとりまく国際環境を、外交史、国家間関係史から捉えることが多い。けれども近年の考古学の成果などを参照すれば、東アジア海域には、国家間交流とは異なる次元で、地域・人びとを主体とする国際交流も存在していた。日本古代史研究は、こうした多様な交流をどのようにして捉え、国民国家史的な列島史を世界史のなかに描き直せるであろうか。本演習では春学期(日本史学演習6-1)に引き続き、八世紀以前の列島の国際交流に関する史料を取り上げ、その読解、分析を通して上記の課題に実証的に迫りたいと思う。今年度は昨年度に続き「唐大和上東征伝」を扱う予定である。演習は各自の分担報告と討論を中心に進める。

授業の到達目標
①日本古代史の国際交流史関連史料の分析方法を学ぶ。
②列島古代社会の国際環境の実態について新たな知見を得る。

成績評価方法
●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　50%　　内容によって評価。なお、報告時の討論や指摘事項を踏まえて作成すること。
●**平常点**　50%　　報告内容、質疑の内容、参加の積極性によって総合的に判断する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	日本史学演習7-1　近代日本都市史の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　大日方　純夫							
日本史学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
昨年度につづいて、東京市会疑獄事件に関する司法史料（第二東京弁護士会所蔵）の解読・分析を進める。これを通じて、1920～30年代における東京市の政治構造・社会構造などに迫り、あわせて裁判制度の実態把握と司法史料の史料論的検討を深めたい。なお、内容・進行方法とも、参加者と協議のうえで決定するので、シラバス等は変更の可能性がある。

授業の到達目標
近代日本都市史に関する史料の講読を通じて、都市の実態把握を具体的にはかり、また、史料論を鍛えることを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　報告内容と参加状況
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	日本史学演習7-2　近代日本都市史の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　大日方　純夫							
日本史学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
春期に引き続き、東京市会疑獄事件に関する司法史料（第二東京弁護士会所蔵）の解読・分析を進める。これを通じて、1920～30年代における東京市の政治構造・社会構造などに迫り、あわせて裁判制度の実態把握と司法史料の史料論的検討を深めたい。なお、内容・進行方法とも、参加者と協議のうえで決定するので、シラバス等は変更の可能性がある。

授業の到達目標
近代日本都市史に関する史料の講読を通じて、都市の実態把握を具体的にはかり、また、史料論を鍛えることを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　報告内容と参加状況
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	日本史学演習8-1　中世国家史の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　久保　健一郎							
日本史学コース	２単位	春学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
中世前期における国家の研究。日本史上中世国家は、他の時代の国家に比してその内実がもっとも不分明である。したがって

中世史のみならず日本史を総体として理解するためには、その追究は最重要課題のひとつである。本演習ではこうした認識に基づき、中世前期の国家に関わる問題を、権力構造・社会制度・思想・文化などから多角的に追求する。

授業の到達目標

中世前期国家論の理解を深める。

成績評価方法

授業での発言等、参加姿勢や報告の内容から評価する。

科 目 名	日本史学演習8-2　中世国家史の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　久保　健一郎							
日本史学コース	２単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

中世後期における国家の研究。日本史上中世国家は、他の時代の国家に比してその内実がもっとも不分明である。したがって中世史のみならず日本史を総体として理解するためには、その追究は最重要課題のひとつである。本演習ではこうした認識に基づき、中世後期の国家に関わる問題を、権力構造・社会制度・思想・文化などから多角的に追求する。

授業の到達目標

中世後期国家論の理解を深める。

成績評価方法

授業での発言等、参加姿勢や報告の内容から評価する。

科 目 名	日本史学演習9-1　昭和初年の社会主義者							
担当者名	博士(文学)京大　　鶴見　太郎							
日本史学コース	２単位	春学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

前年度より引き続き、社会主義者・橋浦時雄（1891－1969）の「日記」(「橋浦時雄日記」)を会読していく。対象となる時期は1920年代後半から30年代初頭までを予定している。当該期は、労農派の形成、「十五年戦争」の開始など、思想・政治史上、大きな変動があった時期であり、橋浦自身がそれをどう捉えたのか、資料から検討していく。これまでと同様、資料中、回想にわたる部分については、適宜、関連資料によって、その内容と事実関係を確かめつつ、会読をすすめる。

授業の到達目標

当該期の国際情勢に対し、明治時代からの社会主義運動家の示した姿勢について理解する。

成績評価方法

- **試験**　0%　　特に行わない
- **レポート**　0%　　特に行わない
- **平常点**　100%　　会読への出席と発表によって評価
- **その他**　0%　　特に行わない

科 目 名	日本史学演習9-2　1930年代の社会主義者							
担当者名	博士(文学)京大　　鶴見　太郎							
日本史学コース	２単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

前期に続いて、橋浦時雄（1891－1969）の「日記」(「橋浦時雄日記」)を読み解いていく。対象時期は、1930年代初頭から半ばにかけてを予定している。この時代は、思想史的に社会主義者の大量転向の時期に符合するが、その渦中にあって橋浦がどのような態度を示したのかを主題のひとつに据える。必要に応じて他の同時代資料を適宜参照しながら、記述内容との比較を行い、考察をすすめる。また、「労農派」の群像が、当該の時代にあって、どのような人的交流を行っていたのかを検討課題に据える。

授業の到達目標

1930年代の思想環境について、同時代の社会主義者を指標に把握できる。

成績評価方法

- **試験**　0%　　特に行わない
- **レポート**　0%　　特に行わない
- **平常点**　100%　　会読への出席と発表
- **その他**　0%　　特に行わない

科 目 名	日本史学研究指導1-1　M　日本近世史の研究							
担当者名	博士(文学)東大　　伊川　健二							
日本史学コース	—	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本近世史の分野から修士論文の課題を設定し、修論準備報告を行う。課題の設定、論理構成、史料解釈などについて指導する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導1-2　M　日本近世史の研究							
担当者名	博士(文学)東大　　伊川　健二							
日本史学コース	—	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日本近世史の分野から修士論文の課題を設定し、修論準備報告を行う。課題の設定、論理構成、史料解釈などについて指導する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導2-1　M　日本中世史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　下村　周太郎							
日本史学コース	—	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日本中世史に関する史料および学術論文の講読とそれをめぐる参加者相互の議論を通じて、専門的知識・技能の高度化を図る。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導2-2　M　日本中世史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　下村　周太郎							
日本史学コース	—	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日本中世史に関する史料および学術論文の講読とそれをめぐる参加者相互の議論を通じて、専門的知識・技能の高度化を図る。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導3-1　M　日本近世史研究－修士論文の完成に向けて							
担当者名	博士(文学)早大　　谷口　眞子							
日本史学コース	—	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

学期の最初で1年生は卒論報告、2年生は1回目の修論準備報告を行う。その後、共同研究を通じて史料解釈能力を身につけてもらい、2年生は2回目の修論準備報告、ついで1年生は1回目の修論構想報告を行い、夏休みの課題を具体的に明らかにする。受講生は定められた時間内で、研究内容をわかりやすく報告するよう努力してほしい。また人の報告を聞いて、その成果と問題点を的確に指摘できる力も身につけること。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。修士論文を作成するためには3つの能力が求められる。第1は研究テーマに関連した研究史を整理し、問題点を析出する能力である。そのためには、日本近世史に対する総合的かつ史学史的理解が必要となる。第2は綿密に史料を解釈し、史料に含まれた情報を最大限引き出す力である。これについては、「日本史学演習3－1、3－2」を通じて身につけてもらいたい。第3は、自己の見解を的確な日本語でまとめ、それをわかりやすく伝える能力である。何度も口頭報告を行い、さまざまな質問や批判を受け、それにこたえるべく考察を重ねることによって、緻密な研究をわかりやすく表現する能力が身につく。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導3-2　M　日本近世史研究－修士論文の完成に向けて							
担当者名	博士(文学)早大　　谷口　眞子							
日本史学コース	—	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

夏休み中の研究成果として、最初に2年生が3回目の修論準備報告、1年生が2回目の修論構想報告を行う。前期と同じく、史料読解演習を通じて史料解釈能力を養いながら、論理が一貫した構成力のある修士論文完成を目指す。そして、2年生に4回目の修論準備報告、1年生に3回目の修論構想報告を発表してもらう。なお、毎年3月には大学院ゼミ合宿を1泊2日で行っており、ここでも研究発表をしてもらう。1年生、また修士論文を書いて博士後期課程に進む2年生には、主査以外の先生方からコメントを受けられるチャンスなので、頑張って欲しい。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。修士論文を作成するためには3つの能力が求められる。第1は研究テーマに関連した研究史を整理し、問題点を析出する能力である。そのためには、日本近世史に対する総合的かつ史学史的理解が必要となる。第2は綿密に史料を解釈し、史料に含まれた情報を最大限引き出す力である。これについては、「日本史学演習3－1，3－2」を通じて身につけてもらいたい。第3は、自己の見解を的確な日本語でまとめ、それをわかりやすく伝える能力である。何度も口頭報告を行い、さまざまな質問や批判を受け、それにこたえるべく考察を重ねることによって、緻密な研究をわかりやすく表現する能力が身につく。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導4-1　M　日本近現代史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　真辺　将之							
日本史学コース	—	春学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

主として修士論文のテーマについて報告してもらい、グループでの討議を通じてその問題点を認識し、修正・発展・完成への道筋をつけてもらう。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導4-2　M　日本近現代史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　真辺　将之							
日本史学コース	—	秋学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

主として修士論文のテーマについて報告してもらい、グループでの討議を通じてその問題点を認識し、修正・発展・完成への道筋をつけてもらう。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導5-1　M　日本古代史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　川尻　秋生							
日本史学コース	—	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文執筆ができるように、各学生にあわせて指導を行う。基本的には、日本史学演習5-1と同時間内のため、史料講読を行うが、各期に院生1人につき、2回の修士論文の構想を発表していただき、他の出席している院生諸君とともに批評しあう。なお、指導については、必要と判断した場合には時間外に行うこともあるので、了解されたい。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導5-2　M　日本古代史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　川尻　秋生							
日本史学コース	—	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文執筆ができるように、各学生にあわせて指導を行う。基本的には、日本史学演習5-2と同時間内のため、史料講読を行うが、各期に院生1人につき、2回の修士論文の構想を発表していただき、他の出席している院生諸君とともに批評しあう。なお、指導については、必要と判断した場合には修行時間外に行うこともあるので、了解されたい。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導6-1　M　日本古代史研究							
担当者名	博士（歴史学）国学院大　　田中　史生							
日本史学コース	—	春学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
各自、設定した研究テーマに関し、研究目的や研究成果を報告し、討論を行う。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導6-2　M　日本古代史研究							
担当者名	博士（歴史学）国学院大　　田中　史生							
日本史学コース	—	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
各自、設定した研究テーマに関し、研究目的や研究成果を報告し、討論を行う。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導7-1　M　日本近現代史研究							
担当者名	博士（文学）早大　　大日方　純夫							
日本史学コース	—	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
それぞれの研究テーマに即して、問題意識、研究史整理、研究方法などに関する報告・討論を重ねて論文構想を練り上げ、実証面、論理構成面での報告・討論を展開することによって論文執筆への構えを構築し、それを修士論文に結実させる。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導7-2　M　日本近現代史研究							
担当者名	博士（文学）早大　　大日方　純夫							
日本史学コース	—	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
それぞれの研究テーマに即して、問題意識、研究史整理、研究方法などに関する報告・討論を重ねて論文構想を練り上げ、実証面、論理構成面での報告・討論を展開することによって論文執筆への構えを構築し、それを修士論文に結実させる。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導8-1　M　日本中世史研究							
担当者名	博士（文学）早大　　久保　健一郎							
日本史学コース	—	春学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
中世前期国家論における問題点を検討し、それをいかに各自の修士論文作成に活かしていけるかを指導していく。中世前期国家論の視点から、修士論文作成のための基礎的知識を得る。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導8-2　M　日本中世史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　久保　健一郎							
日本史学コース	—	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

中世後期国家論における問題点を検討し、それをいかに各自の修士論文作成に活かしていけるかを指導していく。中世後期国家論の視点から、修士論文作成のための基礎的知識を得る。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導9-1　M　日本近現代史研究							
担当者名	博士(文学)京大　　鶴見　太郎							
日本史学コース	—	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

各人の研究テーマによって行われる個別発表に即して、視点の形成、研究方法、研究史上における当該発表の位置付け、資料上の問題などの諸点から助言を行い、修士論文作成に向けての足がかりとする。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導9-2　M　日本近現代史研究							
担当者名	博士(文学)京大　　鶴見　太郎							
日本史学コース	—	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

各人の研究テーマによって行われる個別発表に即して、視点の形成、研究方法、研究史上における当該発表の位置付け、資料上の問題などの諸点から助言を行い、修士論文作成に向けての足がかりとする。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導1-1　D　日本近世史の研究							
担当者名	博士(文学)東大　　伊川　健二							
日本史学コース	—	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日本近世史の分野から博士論文の課題を設定し、博論準備報告を行う。課題の設定、論理構成、史料解釈などについて指導する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導1-2　D　日本近世史の研究							
担当者名	博士(文学)東大　　伊川　健二							
日本史学コース	—	秋学期	木曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日本近世史の分野から博士論文の課題を設定し、博論準備報告を行う。課題の設定、論理構成、史料解釈などについて指導する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導2-1　D　日本中世史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　下村　周太郎							
日本史学コース	—	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日本中世史に関する史料と学術論文の読解および参加者間での緊張感ある相互批判を通じて、学術研究者として求められる高度な専門性を涵養する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導2-2　D　日本中世史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　下村　周太郎							
日本史学コース	—	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日本中世史に関する史料と学術論文の読解および参加者間での緊張感ある相互批判を通じて、学術研究者として求められる高度な専門性を涵養する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導3-1　D　日本近世史研究－博士論文の完成に向けて							
担当者名	博士(文学)早大　　谷口　眞子							
日本史学コース	—	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

第1回目の授業で、これまでの研究業績一覧と今年の研究計画書を提出してもらい、研究計画をチェックする。第2回目以降は博士論文の完成に向けての報告である。準備報告はある程度まとまった長いものを、前期で2回行う。それとは別に、研究テーマに関連した本・論文の要約や、その問題点を指摘したもの、あるいは論争の核となる史料についての見解を紹介したものなど、本格的な報告をするためのミニ報告を数回行う。とりあげる本や論文は原則として5年以内に刊行されたものとし、論文は『日本史研究』『日本歴史』『史学雑誌』『国史学』『ヒストリア』など、主要な学会誌に掲載されたものを選ぶこと。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。博士論文は、課程博士が400字400枚、論文博士が400字600枚程度の長さが要求される論文である。通常の研究論文が400字約50～70枚であることを考えれば、博士論文を作成するのは容易なことではない。的確な研究史批判と綿密な史料解釈を基礎としながらも、章と章の間の論理的連関性、博士論文全体の構想など、グランドデザインが求められるわけである。そこで、研究指導はミニ報告と、それをもとにした1章分にあたる内容のものを報告する本報告との、二本立てとする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導3-2　D　日本近世史研究－博士論文の完成に向けて							
担当者名	博士(文学)早大　　谷口　眞子							
日本史学コース	—	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

まず最初に博士論文の準備報告第3回目を行ってもらう。夏休み中の研究成果を存分に発表して欲しい。その後は、春学期と同じくミニ報告を数回してもらい、期末に再び本報告第4回目行うこと。とりあげる本や論文の条件などは春学期と同じである。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。博士論文は、課程博士が400字400枚、論文博士が400字600枚程度の長さが要求される論文である。通常の研究論文が400字約50～70枚であることを考えれば、博士論文を作成するのは容易なことではない。的確な研究史批判と綿密な史料解釈を基礎としながらも、章と章の間の論理的連関性、博士論文全体の構想など、グランドデザインが求められるわけである。そこで、研究指導はミニ報告と、それをもとにした1章分にあたる内容のものを報告する本報告との、二本立てとする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導4-1　D　日本近現代史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　真辺　将之							
日本史学コース	—	春学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

主として博士論文のテーマ、もしくはそれに準じる自己課題について報告してもらい、グループでの討議を通じてその問題点を認識し、修正・発展・完成への道筋をつけてもらう。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導4-2　D　日本近現代史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　真辺　将之							
日本史学コース	—	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

主として博士論文のテーマ、もしくはそれに準じる自己課題について報告してもらい、グループでの討議を通じてその問題点を認識し、修正・発展・完成への道筋をつけてもらう。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導5-1　D　日本古代史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　川尻　秋生							
日本史学コース	—	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

課程博士を取得することを目指して、大学院生を指導する。そのためには、題材の決定、博士論文の計画、学会での口頭発表、論文の執筆などについて、細かな指導を行う。したがって、指導は、時間外に行うこともありうるので、その点はご了承願いたい。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導5-2　D　日本古代史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　川尻　秋生							
日本史学コース	—	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

課程博士を取得することを目指して、大学院生を指導する。そのためには、題材の決定、博士論文の計画、学会での口頭発表、論文の執筆などについて、細かな指導を行う。したがって、指導は、時間外に行うこともありうるので、その点はご了承願いたい。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導6-1　D　日本古代史研究							
担当者名	博士(歴史学)国学院大　　田中　史生							
日本史学コース	—	春学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

各自、研究テーマに関し、目的や研究成果を報告し、質疑応答をおこなう。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導6-2　D　日本古代史研究							
担当者名	博士(歴史学)国学院大　　田中　史生							
日本史学コース	—	秋学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

各自、研究テーマに関し、目的や研究成果を報告し、質疑応答をおこなう。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導7-1　D　日本近現代史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　大日方　純夫							
日本史学コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

それぞれの研究テーマに即して、問題意識、研究史整理、研究方法などに関する報告・討論を重ねて論文構想を練り、実証面、論理構成面での報告・討論を展開することによって論文執筆への構えを構築し、博士学位論文の執筆を具体化する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導7-2　D　日本近現代史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　大日方　純夫							
日本史学コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

それぞれの研究テーマに即して、問題意識、研究史整理、研究方法などに関する報告・討論を重ねて論文構想を練り、実証面、論理構成面での報告・討論を展開することによって論文執筆への構えを構築し、博士学位論文の執筆を具体化する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導8-1　D　日本中世史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　久保　健一郎							
日本史学コース	—	春学期	金曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日本中世後期の国家における政治史・権力論について、従来の研究の問題点を析出し、新たな切り口から追究していく見通しを得る。このことを通じて博士論文作成のための基礎的能力を養う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導8-2　D　日本中世史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　久保　健一郎							
日本史学コース	—	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日本中世後期の地域社会における政治史・権力論について、従来の研究の問題点を析出し、新たな切り口から追究していく見通しを得る。このことを通じて博士論文作成のための基礎的能力を養う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導9-1　D　日本近現代史研究							
担当者名	博士(文学)京大　　鶴見　太郎							
日本史学コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

各人の研究テーマに沿って個別に行う研究報告に即し、研究方法、資料上の事項について助言を行う。とりわけ当該の研究報告がそれまでの研究史の上に新しく何を積み重ねたのかを明確にすることを念頭におく。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	日本史学研究指導9-2　D　日本近現代史研究							
担当者名	博士(文学)京大　　鶴見　太郎							
日本史学コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

各人の研究テーマに沿って個別に行う研究報告に即し、研究方法、資料上の事項について助言を行う。とりわけ当該の研究報告がそれまでの研究史の上に新しく何を積み重ねたのかを明確にすることを念頭におく。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

東洋史学コース

科 目 名	東洋史学特論1　史学史からみた東アジア史の諸問題							
担当者名	博士(文学)早大　　李　成市							
東洋史学コース	２単位	春学期	金曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

東アジア史に関わる諸問題を史学史の観点からとらえることによって、東アジアにおける歴史研究の課題について論じる。

授業の到達目標

史学史の意義を学び、自ら取り組んでいる研究課題の史学史を構想できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　講義に関するレポートを提出する。
●**平常点**　50%　　出席と教場での討議。
●**その他**　0%

科 目 名	東洋史学特論2　朝鮮古代史上の諸問題							
担当者名	博士(文学)早大　　李　成市							
東洋史学コース	２単位	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

朝鮮古代史上の論争について、基本史料を取り上げながら、私見を提示したうえで、それらの研究の問題点を検討する。

授業の到達目標

個々の論争で何が問題になっているのかを史料に即して見極め、それらの論争に主体的に関与できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　講義終了後のレポート
●**平常点**　50%　　毎回の講義での質疑、討議の内容
●**その他**　0%

科 目 名	東洋史学特論3　『史記』南越列伝の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　工藤　元男							
東洋史学コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

これまで古代中国の周辺民族誌として、『後漢書』南蛮西南夷列伝、同西羌伝、及び『史記』西南夷列伝を講読してきたが、それを継承して、本年度は『史記』南越列伝を検討の対象とする。本列伝は前漢時代の対外政策において、北方の匈奴に対する南方の地勢確保のため、前漢武帝によって滅ぼされた南越の伝である。『史記』の南越列伝は『漢書』の南粤伝に引き継がれているので、授業では両者を合わせて講読し、東アジア世界の成立の関係における南越の果たした役割について検討する。

授業の到達目標

漢と南越の関係史から、東アジア世界成立史を考える視点を学習させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　自由な討議の内容を参考にして評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	東洋史学特論4　『史記』南越列伝の研究							
担当者名	博士(文学)早大　　工藤　元男							
東洋史学コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

これまで古代中国の周辺民族誌として、『後漢書』南蛮西南夷列伝、同西羌伝、及び『史記』西南夷列伝を講読してきたが、それを継承して、本年度は『史記』南越列伝を検討の対象とする。本列伝は前漢時代の対外政策において、北方の匈奴に対する南方の地勢確保のため、前漢武帝によって滅ぼされた南越の伝である。『史記』の南越列伝は『漢書』の南粤伝に引き継がれているので、授業では両者を合わせて講読し、東アジア世界の成立の関係における南越の果たした役割について検討する。

授業の到達目標

前漢の武帝が北方の騎馬遊牧民の匈奴に対抗する上で、漢の南方に位置する南越の確保を必要とし、それに連動して西南夷、朝鮮に進出し、それらの諸民族との関係の中から浮上する東アジアの秩序構造を理解させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　自由な討論の内容を参考にして評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	東洋史学特論5　宋元時代史研究の課題（1）							
担当者名	博士(文学)早大　　飯山　知保							
東洋史学コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

前期は、主に日本の中国史研究の課題を、代表的な論著を中心に取り上げ、現在の学界動向と比較しながら考察する。

授業の到達目標

戦後東洋史学の研究潮流の変化を段階的に把握することで、受講者が専攻領域のみならず東洋史学全体のなかで、自分の研究課題がどのように位置づけられるかを検討する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　数回ある担当時のレポートが評価の対象
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

適宜提示する。

科 目 名	東洋史学特論6　宋元時代史研究の課題（2）							
担当者名	博士(文学)早大　　飯山　知保							
東洋史学コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

前期に検討した日本の中国史研究の課題を基礎として、その間の海外の動向を考察し、再度受講生各自の研究課題を学界潮流のなかに位置づける。

授業の到達目標

海外での研究潮流の理解。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　担当時の報告書を評価の対象とする。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

とくになし。

科 目 名	東洋史学特論11　17-19世紀の清朝とロシア：媒介言語・翻訳者・相互認識							
担当者名	柳澤　明							
東洋史学コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

清朝とロシアは、17世紀の最初の接触以来、曲折に富む外交を通じて独特な関係の枠組みを作り上げていったが、その実相を明らかにすることは、清帝国の多元構造を照射する上でも重要な意味をもつ。本講では、17世紀から19世紀中葉までの両国関係を、外交における媒介言語、翻訳者、翻訳をめぐるコミュニケーション・ギャップ、およびそれらと連関する相互認識の変遷に焦点を当てて検討する。このテーマは、2017年度に一度取り上げたが、あらたな知見を加えるとともに、特に翻訳に従事した「人」に注意を向けて再論してみたい。

本科目は、「カリキュラムポリシー」にいう「特論」に該当する。

授業の到達目標

講義内容のみならず、教員と受講者との意見交換・討論を通じて、清帝国の全体構造の中での対ロシア関係の位置づけに対する認識を深めることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　50%　　期末に課す。授業内容の理解度を主に評価する。
●**平常点**　50%　　授業への参加度による。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	東洋史学特論12　八旗制の再検討							
担当者名	柳澤　明							
東洋史学コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

八旗制は、清帝国の特質を理解するための鍵の一つでありながら、史料上の制約もあって、その全体像の解明は必ずしも進んでいなかった。しかし近年、満洲文史料の活用等を通じて、あらたな角度から八旗制に切り込む研究が現れつつある。そうした研究動向をも踏まえつつ、八旗制の形成・変遷過程を検討する。今年度は、特に東北地区における八旗制の展開と、「民族」のまとまり・アイデンティティ変容の関係に重点を置いて論じてみたい。

本科目は、「カリキュラムポリシー」にいう「特論」に該当する。

授業の到達目標

講義内容のみならず、教員と受講者との意見交換・討論を通じて、八旗制に対する理解を深めることを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　50%　　期末に課す。主に授業内容の理解度を評価する。
●**平常点**　50%　　授業への参加度による。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	東洋史学特論13　唐代ソグド人漢文墓誌の研究(1)							
担当者名	博士(文学)早大　　石見　清裕							
東洋史学コース	２単位	春学期	水曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
隋唐時代の中国は、国際色豊かな文化が花開いた時代とされる。その際に想定されるのは、西域文化の流入と中国社会のその消化であろうが、それをもたらした民族としては通常ペルシア系ソグド人が想起される。
ソグド人に関しては、これまでも多くの研究が蓄積され、もはや限られた史料からは言い尽くされた感があった。しかしながら、20世紀末から21世紀初めにかけて、中国で数多くのソグド人墓葬が発見され、それらからこれまでは全く知られなかった新しいソグド人の漢文墓誌が出土した。それらの新しい情報によって、従来のソグド人解釈は書き改められるべき段階に入っている。
本講座は、上記の新出ソグド人墓誌を講読し、その情報を分析することによって、隋唐時代のソグド人社会のあり方と、それが中国史に与えた影響とを考察する。
本年度は、長安周辺より出土した墓誌を講読し、訳注作業を行う。

授業の到達目標
引用出典の特定と墓誌文の正確な解釈を行い、録文・訓読・語釈・口語訳を施し、隋唐史研究に対して本史料がもたらす新知見をつかみ、最終的には学術誌に発表することを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行わない予定。
●**レポート**　0%　　レポート提出は行わない予定。
●**平常点**　100%　　講読担当者の発表と、授業への取り組み方によって評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	東洋史学特論14　ソグド人漢文墓誌の講読(2)							
担当者名	博士(文学)早大　　石見　清裕							
東洋史学コース	２単位	秋学期	水曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
唐時代のソグド人・テュルク人墓誌を、担当者を決めて全員で講読し、訓読・語釈・口語訳を確定し、訳注を作成する。同時に、引用故事の出典や類似表現を調べ、他の史書・文書とも照らし合わせて、本史料の持つ意義、および本史料によって新たに得られる知見を整理する。

授業の到達目標
墓誌文を講読し、最終的には全文の訳注を作成し、それを発表して学界に史料を提供する。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行わない予定。
●**レポート**　0%　　レポート提出は行わない予定。
●**平常点**　100%　　授業への取り組み方によって評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	東洋史学演習1-1　『三国遺事』を読み直す							
担当者名	博士(文学)早大　　李　成市							
東洋史学コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
『三国遺事』は高麗の僧一然によって1280年代に編纂された。『三国史記』と同様に936年に滅亡した後百済以前の歴史を対象としながらも、儒教史観ともいうべき『三国史記』とは異なり、三国(新羅・高句麗・百済)以前の古くにさかのぼる歴史を扱い、さらには仏教関係記事を中心に、信仰、習俗、説話、詩歌など、広く社会・文化に関わる史料をふんだんに採録していることから、ときには『三国史記』以上の価値評価がなされることがある。ただし、様々な逸書の引用や難解な仏教関係記事、文体、編纂の不統一などによって、その解釈は容易でない。まずは、歴史資料として扱う前に、同書が編纂された時代の文脈の中での記述内容に留意しながら、従来の解釈や注釈を批判的に検討し、『三国遺事』の文献としての性格を見極めたい。

授業の到達目標
『三国遺事』の精読を通して、従来の『三国遺事』に対する解釈や訳注の問題点を具体的に見出す。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　教場における訳注の分担発表および担当原稿の提出。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	東洋史学演習1-2 『三国遺事』を読み直す							
担当者名	博士(文学)早大　李　成市							
東洋史学コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

『三国遺事』は高麗の僧一然によって1280年代に編纂された。『三国史記』と同様に936年に滅亡した後百済以前の歴史を対象としながらも、儒教史観ともいうべき『三国史記』とは異なり、三国(新羅・高句麗・百済)以前の古くにさかのぼる歴史を扱い、さらには仏教関係記事を中心に、信仰、習俗、説話、詩歌など、広く社会・文化に関わる史料をふんだんに採録していることから、ときには『三国史記』以上の価値評価がなされることがある。ただし、様々な逸書の引用や難解な仏教関係記事、文体、編纂の不統一などによって、その解釈は容易でない。まずは、歴史資料として扱う前に、同書が編纂された時代の文脈の中での記述内容に留意しながら、従来の解釈や注釈を批判的に検討し、『三国遺事』の文献としての性格を見極めたい。

授業の到達目標

『三国遺事』の精読を通して、従来の『三国遺事』に対する解釈や訳注の問題点を具体的に見出す。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし。
- **レポート**　0%　　なし。
- **平常点**　100%　　教場における訳注の分担発表および分担箇所の原稿提出。
- **その他**　0%　　なし。

科 目 名	東洋史学演習2-1 北京大学蔵西漢竹書の研究							
担当者名	博士(文学)早大　工藤　元男							
東洋史学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

近年、中国の北京大学が入手した西漢簡牘を講読する。本資料には種々の典籍が含まれるが、中でも「趙正書」は始皇帝に関する新史料として注目されている。本演習ではこれを逐字的に解読することによって、従来の伝世文献では分からなかった始皇帝臨終直前の史実の再検討を行う。

授業の到達目標

中国古代史に関する出土文字資料をどのように“史料化”して新たな歴史学を開拓すべきかを考えるトレーニングとする。演習では各自の作成したレジュメを全員で検討する。

成績評価方法

報告者の毎回の報告で評価する

科 目 名	東洋史学演習2-2 北京大学蔵西漢竹書の研究							
担当者名	博士(文学)早大　工藤　元男							
東洋史学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

近年、中国の北京大学が入手した西漢簡牘を講読する。本資料には種々の典籍が含まれるが、中でも「趙正書」は始皇帝に関する新史料として注目されている。本演習ではこれを逐字的に解読することによって、従来の伝世文献では分からなかった始皇帝臨終直前の史実の再検討を行う。

授業の到達目標

出土文字資料をどのように“史料化”して新たな歴史学を開拓すべきかを考えるトレーニングとする

成績評価方法

報告者の毎回の報告で評価する

科 目 名	東洋史学演習3-1 史料研究							
担当者名	博士(文学)早大　飯山　知保							
東洋史学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

受講生各自が輪番に自分の研究課題と関係する史料を提示し、その史料に即して参加者全員で読解を試みる。研究課題の行論とは別に、史料そのものがもつ情報を可能な限り明らかにすることが目的である。

授業の到達目標

東洋史研究における史料批判の問題を扱い、文献史料による実証史学の手法を習得する。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　100%　　担当時の報告を評価する。
- **その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

なし

科 目 名	東洋史学演習3-2　中国五代宋元史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　飯山　知保							
東洋史学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文作成中の問題に対応する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

修論完成度を基準とする。

備考・関連ＵＲＬ

なし

科 目 名	東洋史学演習6-1　清代東北の社会と文化							
担当者名	柳澤　明							
東洋史学コース	２単位	春学期	火曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

清代の東北（満洲）では、清朝による八旗制を基軸とした統治と、中国内地からの漢人の移入とによって、多元的・流動的な社会が形成された。清代前期東北の社会・文化の実情を伝える史料は少ないが、流人によって書かれたいくつかの著作は、短いながらも貴重な情報を多く含む。その中から、その中から、楊賓『柳辺紀略』巻4を講読する。

本科目は、「カリキュラムポリシー」にいう「演習」に該当する。

授業の到達目標

清代前期東北の社会・文化に対する理解を深めるとともに、漢文史料の読解能力を向上させることを目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%　　実施しない。
- **レポート**　0%　　実施しない。
- **平常点**　100%　　テキスト講読への参加状況による。
- **その他**　0%　　特になし。

科 目 名	東洋史学演習6-2　清代東北（マンチュリア）の社会と文化							
担当者名	柳澤　明							
東洋史学コース	２単位	秋学期	火曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

清代の東北（満洲）では、清朝による八旗制を基軸とした統治と、中国内地からの漢人の移入とによって、多元的・流動的な社会が形成された。清代前期東北の社会・文化の実情を伝える史料は少ないが、流人によって書かれたいくつかの著作は、短いながらも貴重な情報を多く含む。その中から、呉振臣『寧古塔紀略』を講読する。

本科目は、「カリキュラムポリシー」にいう「演習」に該当する。

授業の到達目標

清代前期東北社会・文化に対する理解を深めるとともに、漢文史料の読解能力を向上させることを目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%　　実施しない。
- **レポート**　0%　　実施しない。
- **平常点**　100%　　テキスト講読への参加状況による。
- **その他**　0%　　特になし。

科 目 名	東洋史学演習7-1　魏晋南北朝隋唐時代史の諸問題(1)							
担当者名	博士(文学)早大　　石見　清裕							
東洋史学コース	２単位	春学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

受講生各自が、自己の研究テーマに沿って発表報告を行い、それを全員で討論し、研究を深化させる作業を行う。

対象は中国史の魏晋南北朝隋唐時代が中心となるが、受講生のテーマによっては前後の時代が取り上げられることもあり、また中国以外の地域を対象とすることもあり得る。

分析史料は、各自が持ち寄り、それを全員で討議する。

授業の到達目標

基本史料と関連研究論文を正確に理解し、それによって各自の研究を深化させることを狙う。

具体的には、修士論文作成を最終目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験は行わない。
- **レポート**　0%　　レポート提出は行わない。
- **平常点**　100%　　授業における発表報告の水準、およびその進展具合によって評価する。
- **その他**　0%　　特になし。

科 目 名	東洋史学演習7-2　魏晋南北朝隋唐時代史の諸問題(2)							
担当者名	博士(文学)早大　　石見　清裕							
東洋史学コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

受講生各自が、自己の研究テーマに沿って発表報告を行い、それを全員で討論し、研究を深化させる作業を行う。

対象は中国史の魏晋南北朝隋唐時代が中心となるが、受講生のテーマによっては前後の時代が取り上げられることもあり、また中国以外の地域を対象とすることもあり得る。

分析史料は、各自が持ち寄り、それを全員で討議する。

授業の到達目標

基本史料と関連研究論文を正確に理解し、それによって各自の研究を深化させることを狙う。

具体的には、修士論文作成を最終目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　レポート提出は行わない。
●**平常点**　100%　　授業における発表報告の水準、およびその進展具合によって評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	東洋史学研究指導1-1　M　古代東アジア史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　李　成市							
東洋史学コース	―	春学期	火曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

修士論文の研究課題に即して論文作成の指導する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋史学研究指導1-2　M　古代東アジア史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　李　成市							
東洋史学コース	―	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

修士論文の研究課題に即して論文作成の指導する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋史学研究指導2-1　M　中国古代史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　工藤　元男							
東洋史学コース	―	春学期	木曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

修士論文作成に対する論文指導

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋史学研究指導2-2　M　中国古代史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　工藤　元男							
東洋史学コース	―	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

修士論文作成に対する論文指導。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋史学研究指導3-1　M　中国五代宋元明史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　飯山　知保							
東洋史学コース	—	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
各自の報告をもとに自由討論をする。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
なし

科 目 名	東洋史学研究指導3-2　M　中国五代宋元明史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　飯山　知保							
東洋史学コース	—	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
各自の報告を互いに批評する形で進める。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
なし

科 目 名	東洋史学研究指導6-1　M　近世東アジア史（清朝史）研究							
担当者名	柳澤　明							
東洋史学コース	—	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文作成へ向けて、各受講者の研究発表と質疑応答、教員による個別指導を組み合わせつつ進めていく。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋史学研究指導6-2　M　近世東アジア史（清朝史）研究							
担当者名	柳澤　明							
東洋史学コース	—	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文作成へ向けて、各受講者の研究発表と質疑応答、教員による個別指導を組み合わせつつ進めていく。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋史学研究指導7-1　M　中国隋唐史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　石見　清裕							
東洋史学コース	—	春学期	金曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
受講生各自が、「東洋史学演習7-1」における発表報告によって得られた成果に沿って、それをさらに教員や他の受講生と討論し、研究を深化させる。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
- **試験**　0%　　試験は行わない。
- **レポート**　0%　　レポート提出は行わない。
- **平常点**　100%　　平常点によってP、Qを評価する。
- **その他**　0%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋史学研究指導7-2　M　中国隋唐史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　石見　清裕							
東洋史学コース	—	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
受講生各自が、「東洋史学演習7-2」における発表報告によって得られた成果に沿って、それをさらに教員や他の受講生と討論し、研究を深化させる。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　レポート提出は行わない。
●**平常点**　100%　　平常点によってP、Qを評価する。
●**その他**　0%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋史学研究指導1-1　D　古代東アジア史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　李　成市							
東洋史学コース	—	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の研究課題に即して論文作成の指導する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋史学研究指導1-2　D　古代東アジア史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　李　成市							
東洋史学コース	—	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の研究課題に即して、論文の作成を指導する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋史学研究指導2-1　D　中国古代史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　工藤　元男							
東洋史学コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文作成に対する論文指導

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋史学研究指導2-2　D　中国古代史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　工藤　元男							
東洋史学コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文作成に対する論文指導。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋史学研究指導3-1　D　中国五代宋元明史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　飯山　知保							
東洋史学コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
各自の報告を互いに論評する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
なし

科 目 名	東洋史学研究指導3-2　D　中国五代宋元明史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　飯山　知保							
東洋史学コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
お互いの発表を論評する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋史学研究指導6-1　D　近世東アジア史（清朝史）研究							
担当者名	柳澤　明							
東洋史学コース	—	春学期	火曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
各自の研究テーマに関する発表と、他の学生・教員とのディスカッションを主として進める。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋史学研究指導6-2　D　近世東アジア史（清朝史）研究							
担当者名	柳澤　明							
東洋史学コース	—	秋学期	火曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
各自の研究テーマに関する発表と、他の学生・教員とのディスカッションを主として進める。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋史学研究指導7-1　D　中国隋唐史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　石見　清裕							
東洋史学コース	—	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
学術雑誌に投稿する論文の原稿をもとに、その分析をより深め、学界に新知見をもたらす研究となるよう、指導する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　レポート提出は行わない。
●**平常点**　100%　　平常点によってP、Qを評価する。
●**その他**　0%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	東洋史学研究指導7-2　D　中国隋唐史研究							
担当者名	博士(文学)早大　　石見　清裕							
東洋史学コース	—	秋学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

学術雑誌に投稿する論文の原稿をもとに、その分析をより深め、学界に新知見をもたらす研究となるよう、指導する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　レポート提出は行わない。
●**平常点**　100%　　平常点によってP、Qを評価する。
●**その他**　0%　　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

西洋史学コース

科 目 名	西洋史学特論2							
担当者名	博士(文学)京大　井上　文則							
西洋史学コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

ローマ帝国の時代に流行したミトラス教の諸問題を考える。本講義は、「ディプロマポリシー」の「明日の人類文化に寄与する学識豊かな人材の養成」を目指す一環である。

授業の到達目標

ミトラス教についての知見を深めるとともに、ラテン語・ギリシア語史料の読解能力向上を目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　40%　　4000字程度のレポートを課す。
●**平常点**　60%　　出席と受講態度を評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	西洋史学特論3　中世ヨーロッパの教会と社会							
担当者名	博士(文学)早大　甚野　尚志							
西洋史学コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

この授業では中世ヨーロッパ教会史の基本問題について考える。具体的には、カロリング時代から15世紀にいたる教会改革、修道院、教皇権、国家と教会との対立、民衆宗教運動などについて概観する。

参加者には適宜、課題を出し、報告をしてもらう予定である。

授業の到達目標

中世ヨーロッパの教会史について理解を深めながら、中世ヨーロッパ史の専門的知識を身に付ける。3

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席と授業での報告。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	西洋史学特論4　歴史人類学的研究の方法とその実例							
担当者名	Doctorat en nouveau regime histoire(ナンシー第2大)　堀越　宏一							
西洋史学コース	２単位	春学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

2019年度は、ヴィクター・ターナー『象徴と社会』を講読する。

授業の到達目標

象徴人類学の代表的な著作である本書は、日常生活における儀礼や演劇的要素のもつ意味を明らかにしたことでよく知られており、アナール派などの歴史学研究にも多大な影響を与えてきた。

本書では、第2章が12世紀イングランドを題材としているほか、第3章では巡礼が論じられている。そのような歴史研究にもかかわる人類学の著作の講読を通じて、通常の歴史研究とは大きく異なる発想や方法論を知るとともに、過去の社会に対して人類学的な研究方法を用いることの実例とその有効性を学ぶ。

これにより、歴史研究における人類学的研究方法の意義を理解し、自らの研究に生かすことが最終的な目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　出席ならびに参加者が行うテキストの要約報告。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	西洋史学特論7　イギリス近現代史							
担当者名	Ph.D.（英国リーズ大）　松園　伸							
西洋史学コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

16世紀宗教改革から名誉革命までの史料を読解することによりイギリス近代史の理解を深める。また必要に応じてレクチャーを行う。またそれぞれの時代にかんするDVDなどを視聴することもある。 史料は印刷・刊行されたものを用いる。英語は受講生の現代英語の知識で十分対応できる。

授業の到達目標

一次史料の読解を通じてイギリス近現代史の理解を深める

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　30%　　授業の理解度
●**平常点**　70%　　出席、授業への意欲・熱意
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	西洋史学特論8　イギリス近現代史							
担当者名	Ph.D.（英国リーズ大）　松園　伸							
西洋史学コース	２単位	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

18世紀から20世紀初頭までの史料を読解することによりイギリス近現代史の理解を深める。また必要に応じてレクチャーを行う。またそれぞれの時代にかんするDVDなどを視聴することもある。 史料は印刷・刊行されたものを用いる。英語は受講生の現代英語の知識で十分対応できる。

授業の到達目標

史料の読解とレクチャーによってイギリス近現代史の理解を深める

成績評価方法

- **試験**　0%　　実施しない
- **レポート**　30%　　授業の理解度
- **平常点**　70%　　出席、授業への意欲・熱意
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	西洋史学特論9　帝政期のドイツ							
担当者名	博士（文学）早大　小原　淳							
西洋史学コース	２単位	春学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

帝政期のドイツに関する近年の論文を読みながら、当該期の時代状況と研究の状況を考える。その際に、個別のテーマを設定するのではなく、できるだけ多様なトピックを扱い、全般的な理解を得ることを心がける。担当教員によるレクチャーだけではなく、受講者による発表や、参加者全員での文献講読も行う。

授業の到達目標

当該期に関する基礎的な理解を得るとともに、研究動向と今後の課題を把握する。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし。
- **レポート**　0%　　なし。
- **平常点**　100%　　授業への参加度、発言内容から判断する。
- **その他**　0%　　なし。

科 目 名	西洋史学特論10　ヴァイマル期とナチス期のドイツ							
担当者名	博士（文学）早大　小原　淳							
西洋史学コース	２単位	秋学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

ヴァイマル期とナチス期のドイツに関する近年の論文を読みながら、当該期の時代状況と研究の状況を考える。その際に、個別のテーマを設定するのではなく、できるだけ多様なトピックを扱い、全般的な理解を得ることを心がける。担当教員によるレクチャーだけではなく、受講者による発表や、参加者全員での文献講読も行う。

授業の到達目標

当該期に関する基礎的な理解を得るとともに、研究動向と今後の課題を把握する。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし。
- **レポート**　0%　　なし。
- **平常点**　100%　　授業への参加度、発言内容から判断する。
- **その他**　0%　　なし。

科 目 名	西洋史学演習2-1							
担当者名	博士（文学）京大　井上　文則							
西洋史学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

5世紀のラテン語史料を講読する。「ディプロマポリシー」にある「人類が生みだしてきた人文科学の知の財産を継承」する一助となる授業である。

授業の到達目標

講読を通して、ラテン語読解力の向上を目指すとともに、5世紀のローマ帝国についての理解を深める。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　100%　　発表・討論内容で評価する。
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	西洋史学演習2-2							
担当者名	博士(文学)京大　井上　文則							
西洋史学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

5世紀のラテン語史料を講読する。「ディプロマポリシー」にある「人類が生みだしてきた人文科学の知の財産を継承」する一助となる授業である。

授業の到達目標

講読を通して、ラテン語読解力の向上を目指すとともに、5世紀のローマ帝国についての理解を深める。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　100%　　発表・討論内容で評価する。
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	西洋史学演習3-1　中世ラテン語史料購読I							
担当者名	博士(文学)早大　甚野　尚志							
西洋史学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

中世ヨーロッパ史の史料に関する知識を得るために中世ラテン語史料(証書、年代記など)を読む。授業では史料の読解だけでなく、史料の書かれた歴史的な背景について参加者が調べ、報告することも行う。

授業の到達目標

中世ヨーロッパ史の史料についての知識を深める。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし。
- **レポート**　0%　　なし。
- **平常点**　100%　　訳読を評価する。
- **その他**　0%　　なし。

科 目 名	西洋史学演習3-2　中世ラテン語史料講読II							
担当者名	博士(文学)早大　甚野　尚志							
西洋史学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

中世ヨーロッパ史に関する史料の知識を得るために、中世ラテン語の史料（証書、年代記など）を読む。授業では史料の読解だけでなく、史料の書かれた歴史的な背景についても参加者が調べ、報告する。秋学期は春学期の「中世ラテン語史料購読I」の継続として授業を行う。

授業の到達目標

中世ヨーロッパ史の史料についての知識を深める。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし。
- **レポート**　0%　　なし。
- **平常点**　100%　　訳読で評価する。
- **その他**　0%　　なし。

科 目 名	西洋史学演習4-1　ハプスブルク帝国の国民史・国民国家史研究の現状と課題							
担当者名	博士(文学)早大　中澤　達哉							
西洋史学コース	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

18−19世紀ハプスブルク帝国にかかわる国民形成論・国民国家論・ナショナリズム研究を、一次史料を踏まえ検証する。言うまでもなく、1980年代から2010年前後にかけての欧米の学界では、ヨーロッパの国民/民族は太古の昔から存在する共同体なのかどうか、あるいは、近代以降に創られた人工物なのかどうかについて、ハプスブルク帝国史との関連で激しい論争が展開されてきた。これまでの学説は以下のふたつに割れていた。前者は、国民/民族の起源を古代に置き血縁的・社会的連続性を重視する「原初論系本質主義」であり、後者は、18世紀の産業革命に際して国民/民族が構築ないしは捏造されたと理解する「近代論系構築主義」である。近年では、中間形態としての「エスノ象徴主義」、さらには「社会構成主義」が現れている。

本演習は、一次史料も参照しながら、近代ハプスブルク帝国史研究にかかわる近代国民/民族とそのナショナリズムの根源に関する社会構成主義のP・ギアリーとM・ヴィローリの著書を講読し、近世後期以降のハプスブルク帝国史を考察する際に必要な総合的な分析力を高める。

授業の到達目標

社会構成主義のP・ギアリーとM・ヴィローリの著書を概観し、その利点と問題点を一次史料を通じて理解する。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験は実施しない。
- **レポート**　30%　　正確かつ論理的なレポートを書くことができる。
- **平常点**　70%　　授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。
- **その他**　0%　　特になし。

科 目 名	西洋史学演習4-2　中近世国家史・国家概念史・国家思想史における「王国の王冠」と「複合国家」の位置							
担当者名	博士(文学)早大　　中澤　達哉							
西洋史学コース	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本演習は、中世後期中東欧で発展した「王国の王冠（corona regni）」概念を検討し、王と特権身分層との協同による政治を「共和政」（res publica）と呼ばれるようになった過程を把握する。いわゆる西欧型国民国家の一元的支配にみる「凝集性」とは異なる、ハプスブルク帝国の多元的支配にみる「集塊性」を、中世の「王国の王冠」概念を踏まえた「共和政」論から理解するための授業構成とする。 そのうえで、近世ハプスブルク帝国の「共和政」が複合的（礫岩的）国家形態の実現によって実現されると考えられていく歴史的変遷と政治的言説をたどる。最終部において、近代の同帝国における「共和政」概念のジャコバン主義的転回と民族問題の発生を、複合（礫岩）国家論のなかで理解し直す。

授業の到達目標

中欧のかつての多民族帝国・ハプスブルク帝国の歴史的変遷とそれを支える政治的言説を、歴史学の新たな分析枠組みである複合国家・礫岩国家論から捉え直せるようになることを目指す。とりわけ、一人の君主が複数の国家・地域の君主を兼ね、その君主のもとで諸国家・諸地域が緩やかに連合している「複合君主政」のシステムを把握することが重要である。「合意」を旨とする複合君主政の政治文化はハプスブルク帝国史のほか、帝国以後の東欧現代史をも規定することになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　30%　　正確かつ論理的なレポートを書くことができる。
●**平常点**　70%　　授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	西洋史学演習5-1　イギリス近現代史							
担当者名	Ph.D.（英国リーズ大）　　松園　伸							
西洋史学コース	２単位	春学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

受講者の発表をもとに、議論を主体とした演習を行う。

授業の到達目標

議論を通じて質の高い修士論文の作成を目指す。

成績評価方法

演習への出席、討論参加への熱意。

科 目 名	西洋史学演習5-2　イギリス近現代史							
担当者名	Ph.D.（英国リーズ大）　　松園　伸							
西洋史学コース	２単位	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

受講者の発表をもとに、議論を主体とした演習を行う。

授業の到達目標

議論を通じて、質の高い修士論文の作成を目指す。

成績評価方法

演習への出席、討論参加への熱意。

科 目 名	西洋史学演習6-1　フランス語の文献講読能力の向上							
担当者名	森原　隆							
西洋史学コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

フランス語史料文献の読解をおこなう。
フランス語史料の読解能力の向上、を目指す受講生の参加により、近世・近代フランス史研究を中心にした諸問題を考察する。

授業の到達目標

フランス語史料文献の読解・分析力を向上させる。

成績評価方法

出席と平常点

科 目 名	西洋史学演習6-2　近世・近代フランス史フランス語文献の講読							
担当者名	森原　隆							
西洋史学コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

フランス語史料文献の読解をおこなう。
フランス語史料の読解能力の向上、を目指す受講生の参加により、近世・近代フランス史研究を中心にした諸問題を考察する。

授業の到達目標

フランス語史料文献の読解・分析力を向上させる。

成績評価方法

出席と平常点

科 目 名	西洋史学演習9-1							
担当者名	博士(文学)早大　小原　淳							
西洋史学コース	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
ドイツ語の史料・文献の読解を行なう。

授業の到達目標
ドイツ語の史料・文献の読解力を向上させる。

成績評価方法
平常点100%

科 目 名	西洋史学演習9-2							
担当者名	博士(文学)早大　小原　淳							
西洋史学コース	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
ドイツ語の史料・文献の読解を行なう。

授業の到達目標
ドイツ語の史料・文献の読解力を向上させる。

成績評価方法
平常点100%

科 目 名	西洋史学研究指導2-1　M　ギリシア・ローマ史							
担当者名	博士(文学)京大　井上　文則							
西洋史学コース	—	春学期	木曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文に向けての報告・討論を行う。「ディプロマポリシー」に沿って、「深い学識と専門的職業を担う能力を培い、日本のみならず国際社会で活躍しうる人材の養成」を目指す。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導2-2　M　ギリシア・ローマ史							
担当者名	博士(文学)京大　井上　文則							
西洋史学コース	—	秋学期	木曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文に向けての報告・討論を行う。「ディプロマポリシー」に沿って、「深い学識と専門的職業を担う能力を培い、日本のみならず国際社会で活躍しうる人材の養成」を目指す。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導3-1　M　中世ヨーロッパ史							
担当者名	博士(文学)早大　甚野　尚志							
西洋史学コース	—	春学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の作成を指導する。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導3-2　M　中世ヨーロッパ史							
担当者名	博士(文学)早大　甚野　尚志							
西洋史学コース	—	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の作成を指導する。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導4-1　M　東欧近世・近代史、ハプスブルク帝国史、複合国家論・礫岩国家論、ナショナリズム・スタディーズ							
担当者名	博士（文学）早大　　中澤　達哉							
西洋史学コース	—	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文に向けての報告・討論を行う。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導4-2　M　東欧近世・近代史、ハプスブルク帝国史、複合国家論・礫岩国家論、ナショナリズム・スタディーズ							
担当者名	博士（文学）早大　　中澤　達哉							
西洋史学コース	—	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文に向けての報告・討論を行う。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導5-1　M　イギリス近現代史							
担当者名	Ph.D.（英国リーズ大）　　松園　伸							
西洋史学コース	—	春学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文作成のための指導を行う。とくに修士1年は自分のテーマに即した一次史料をみつけることとその解釈、史料批判について考えていく。2年以上は受講者の報告をもとに質の高い修士論文の完成を目指す。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導5-2　M　イギリス近現代史							
担当者名	Ph.D.（英国リーズ大）　　松園　伸							
西洋史学コース	—	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文作成のための指導を行う。とくに修士1年は自分のテーマに即した一次史料をみつけることとその解釈、史料批判について考えていく。2年以上は受講者の報告をもとに質の高い修士論文の完成を目指す。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導6-1　M　近世・近代フランス史研究							
担当者名	森原　隆							
西洋史学コース	—	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
受講者各自による研究発表を中心に実施する。
西洋史修士論文作成に向けた研究方法の習得を目指す受講生の参加により、近世・近代フランス史研究を中心にした諸問題を考察する。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
出席と平常点

科 目 名	西洋史学研究指導6-2　M　近世・近代フランス史研究							
担当者名	森原　隆							
西洋史学コース	—	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
受講者各自による研究発表を中心に実施する。
西洋史修士論文作成に向けた研究方法の習得を目指す受講生の参加により、近世・近代フランス史研究を中心にした諸問題を考察する。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
出席と平常点

科 目 名	西洋史学研究指導9-1　M　近現代ドイツ史							
担当者名	博士(文学)早大　小原　淳							
西洋史学コース	—	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の作成指導を行う。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導9-2　M　近現代ドイツ史							
担当者名	博士(文学)早大　小原　淳							
西洋史学コース	—	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の作成指導を行う。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導2-1　D　ギリシア・ローマ史							
担当者名	博士(文学)京大　井上　文則							
西洋史学コース	—	春学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文に向けての報告・討論を行う。「ディプロマポリシー」に沿って、「深い学識と専門的職業を担う能力を培い、日本のみならず国際社会で活躍しうる人材の養成」を目指す。

授業の到達目標
博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導2-2　D　ギリシア・ローマ史							
担当者名	博士(文学)京大　井上　文則							
西洋史学コース	—	秋学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文に向けての報告・討論を行う。「ディプロマポリシー」に沿って、「深い学識と専門的職業を担う能力を培い、日本のみならず国際社会で活躍しうる人材の養成」を目指す。

授業の到達目標
博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導4-1　D　東欧近世・近代史、ハプスブルク帝国史、複合国家論・礫岩国家論、ナショナリズム・スタディーズ							
担当者名	博士(文学)早大　　中澤　達哉							
西洋史学コース	—	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の作成指導を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導4-2　D　東欧近世・近代史、ハプスブルク帝国史、複合国家論・礫岩国家論、ナショナリズム・スタディーズ							
担当者名	博士(文学)早大　　中澤　達哉							
西洋史学コース	—	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の作成指導を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導5-1　D　イギリス近現代史							
担当者名	Ph.D.（英国リーズ大）　　松園　伸							
西洋史学コース	—	春学期	水曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文は院生自らの学問的研鑽によって作成するものであるが、この授業では必要な史料の探し方、史料批判、論理的な文章を書くための指導も行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導5-2　D　イギリス近現代史							
担当者名	Ph.D.（英国リーズ大）　　松園　伸							
西洋史学コース	—	秋学期	水曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文は院生自らの学問的研鑽によって作成するものであるが、この授業では必要な史料の探し方、史料批判、論理的な文章を書くための指導も行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導6-1　D　近世・近代フランス史研究							
担当者名	森原　隆							
西洋史学コース	—	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
西洋史博論の準備

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導6-2　D　近世・近代フランス史研究							
担当者名	森原　隆							
西洋史学コース	—	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
西洋史博論の準備

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
出席と平常点

科 目 名	西洋史学研究指導9-1　D　近現代ドイツ史							
担当者名	博士(文学)早大　小原　淳							
西洋史学コース	—	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の作成指導を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導9-2　D　近現代ドイツ史							
担当者名	博士(文学)早大　小原　淳							
西洋史学コース	—	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の作成指導を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導10-1　D　中世ヨーロッパ史							
担当者名	博士(文学)早大　甚野　尚志							
西洋史学コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の作成を指導する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	西洋史学研究指導10-2　D　中世ヨーロッパ史							
担当者名	博士(文学)早大　甚野　尚志							
西洋史学コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の作成を指導する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

考古学コース

科 目 名	考古学研究1　文化資源論1							
担当者名	寺崎　秀一郎							
考古学コース	２単位	春学期	火曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

考古学研究の対象となる遺跡・遺構・遺物は人類のたどった過去の歴史を明らかにするばかりではなく、現代に生きる人びとのアイデンティティ形成に寄与したり、ある種の経済効果をもたらし、地域振興に貢献することは、昨今の世界遺産登録をめぐる国内の状況からも明らかである。考古学研究に従事する以上、こうした現状を看過することはできない。本講では、開発途上国の事例を中心に文化資源を取り巻く諸状況について概観する。

授業の到達目標

自身の研究対象を広い視野の中に位置づけ、人類学をはじめとした考古学研究の隣接領域への関心と理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　授業におけるディスカッション、文献講読等の取り組み状況や成果を評価します。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	考古学研究2　文化資源論2							
担当者名	寺崎　秀一郎							
考古学コース	２単位	秋学期	火曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

考古学研究1を踏まえた上で、地域振興や景観を含む保存などの今日的問題を明らかにし、文化資源のもつ可能性を探る。とくに「持続可能な開発」としての文化資源をめぐる観光開発の現状と課題について、遺跡エンジニアリングの視点から組織論をはじめ、総合的に考える。近郊における文化資源利用の実地見学もおこなっていきたい。

授業の到達目標

自身の研究対象を広い視野の中に位置づけ、人類学をはじめとした考古学研究の隣接領域への関心と理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　授業におけるディスカッション、文献講読等の取り組み状況や成果を評価します。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	考古学研究3　日本先史考古学の諸問題1							
担当者名	高橋　龍三郎							
考古学コース	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	―	―	ﾌﾙｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ

授業概要

オンデマンド授業により、縄文時代の開始期から、生業活動の復元について、狩猟、漁労捕採、植物採集、製塩活動から説き起こす。

縄文集落から集落構造の把握を目指す。血縁・地縁組織の分析を通して、地域社会の形成について学ぶ。

授業の到達目標

縄文時代の文化と社会、生業などについて総合的理解を深める。

特に縄文社会を根底から支えた生業活動の多面性について学ぶ。それは「考古学研究4」で縄文社会について学ぶ上で必須の基礎的素養を養うものであるから、高度の理解を必要とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　前期講義の終わりにレポートを課すので、期間内に提出する。
●**平常点**　50%　　出席状況に応じて評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	考古学研究4　日本先史考古学の諸問題2							
担当者名	高橋　龍三郎							
考古学コース	２単位	秋学期	無	フルOD	１年以上	―	―	ﾌﾙｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ

授業概要

オンデマンド授業により、縄文時代の社会原理について、集落、居住、墓制などから探る。集団の構成原理である親族組織、出自体系、結社組織、祭祀組織などの導き出し方について、実際に遺跡・遺物の分析から教授する。それらが社会進化のうえでどのように位置付けられるかについて講義する。

また日本考古学の基礎を形成した亀ヶ岡式土器の研究について編年、分布の問題を扱う。

授業の到達目標

縄文時代の社会の発達について、社会進化論的視点より扱う。

従来縄文社会は平等社会であるとの認識の元、社会的リーダーは不在でユートピア的世界が展開したとの考え方が支配的であったが、リーダーのあり方、先祖祭祀とのかかわり方などから、すでに階層化過程の途中にあったことを、社会の複雑化過程とともに理解する。

また土器型式の捉え方について基礎的な分析と、その背景にある社会的要因論について理解する。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　後期講義の終わりにレポートを課すので、期間内に提出する。
●**平常点**　50%　　出席状況に応じて評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	考古学研究5　エジプト考古学研究（1）							
担当者名	近藤　二郎							
考古学コース	２単位	春学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
本年は、新王国時代の考古学研究について講義をおこなう。本研究では新王国第18王朝時代の考古学において遺跡、遺構、副葬品などを個別に取り上げて説明を加える。第18王朝時代を理解する上で基礎的な事項を解説する。

授業の到達目標
新王国第18王朝時代の考古学研究を概観し、その基礎となる知識を身につけること。エジプト考古学、エジプト学の学習方法、研究課題へのアプローチの仕方などの訓練も合わせて行い。自らの課題へアプローチできる能力を培うこと。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　課題レポートの提出を課する。
●**平常点**　50%　　出席、受講態度等から判断し採点する。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	考古学研究6　エジプト考古学研究（2）							
担当者名	近藤　二郎							
考古学コース	２単位	秋学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
考古学研究5に引き続き、新王国時代の考古学研究について講義をおこなう。本研究では新王国第19・20王朝時代の考古学において遺跡、遺構、副葬品などを個別に取り上げて説明を加え、第18王朝時代のものとの相違を考察する。

授業の到達目標
新王国第19・20王朝時代の考古学研究を概観し、第18王朝時代との相違と、その背景となる知識を身につけること。エジプト考古学、エジプト学の学習方法、研究課題へのアプローチの仕方などの訓練も合わせて行い。自らの課題へアプローチできる能力を培うこと。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　課題レポートの提出を課する。
●**平常点**　50%　　出席、受講態度等から判断し採点する。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	考古学研究7　基本文献読解							
担当者名	博士（地域研究）上智大　　田畑　幸嗣							
考古学コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
考古学理論に関する基本文献の精読を行います。受講者のみなさんには、英語文献（考古理論の論集）をそれぞれ読んで、その内容を発表してもらいます。徹底的な理解を目指すため、文字通り一行ずつの精読を行い、徹底的な討論を行います。
自分の口頭発表だけでなく、他の受講者の発表への質問・コメントなどを通じて積極的にクラスに参加することを強く奨励します。

授業の到達目標
欧米における代表的な考古理論の理解を目指します。

成績評価方法
授業への貢献度で評価します。

科 目 名	考古学研究8　基本文献読解							
担当者名	博士（地域研究）上智大　　田畑　幸嗣							
考古学コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
春期の考古学研究7の続きとして、考古学理論に関する基本文献の精読を行います。受講者のみなさんには、英語文献（考古理論の論集）をそれぞれ読んで、その内容を発表してもらいます。徹底的な理解を目指すため、文字通り一行ずつの精読を行い、徹底的な討論を行います。
自分の口頭発表だけでなく、他の受講者の発表への質問・コメントなどを通じて積極的にクラスに参加することを強く奨励します。

授業の到達目標
欧米における代表的な考古理論の理解を目指します。

成績評価方法
授業への貢献度で評価します。

科 目 名	考古学研究9　火山灰考古学							
担当者名	長崎　潤一							
考古学コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本は火山国であり、九州から北海道まで多くの火山が存在する。その噴火は災害をもたらす一方、噴火による火山灰・火砕流の堆積は考古学に多くの恩恵をもたらすこともある。考古学において火山灰は広域編年、年代、発掘調査での生活面の検出など多様に活用されている。また発掘調査時の土壌の分析によって、各種の古気候データを得たり、生態環境を復元したりしている。 第1回から第5回までは長崎が包括的な解説を行う。その後、各自のフィールドを考慮した上で火山灰考古学の事例、土壌分析の事例を取り上げ、受講生全体で検討し議論する。

なお火山灰分析の実際の工程を知るために、発掘調査中の遺跡もしくは理化学分析ラボの見学を実施する予定である。

授業の到達目標

考古学での火山灰学との連携、火山灰をどのように考古学で活用しているのかといった点について理解し、各自の研究に活用できるレベルの知識習得を目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　50%　　授業への参加度を評価する。
- **その他**　50%　　各自の事例研究の内容を評価する。

科 目 名	考古学研究10　石器研究の方法と理論							
担当者名	長崎　潤一							
考古学コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本では緊急調査によって圧倒的に多量の考古資料が蓄積されてきた。この調査報告とその資料の利用によって、日本考古学は進展してきたといってもよいだろう。一方、欧米では比較的小規模の調査を行いながら、関連諸学との密接な連携の中で考古学の理論的・方法論的検討が進展してきた。90年代以降、日本でも東大学派が中心になって先史考古学における理論と方法論の提示、および実資料への実践に意欲的な研究が進んでいる。

この授業では特に石器研究の研究動向についてたどりながら、そのベースとなる欧米のプロセス学派、ポストプロセス学派の方法論・理論・術語についても触れたい。

授業の到達目標

石器研究で用いられる理論、方法論、用語に習熟し、その学史的背景について理解することを目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　50%　　授業への参加度を評価する。
- **その他**　50%　　事例研究を評価する。

科 目 名	考古学研究11　奈良時代の考古学（1）							
担当者名	博士(文学)早大　　城倉　正祥							
考古学コース	２単位	夏季集中	無	その他	１年以上	—	—	—

授業概要

考古学研究11では、奈良時代の考古学に関する実践的な知識の習得を目的とする。後期のオンデマンド形式の考古学研究12では、「奈良時代の考古学（2)」として、知識重視の講義を開講するため、そちらで知識を得るようにしてほしい。

一方、前期の夏季集中講義で実施する本授業では、奈良時代の遺跡・遺構・遺物を、短期間に実際にフィールドで「体験」することを目的とする。

授業の到達目標

奈良時代の遺跡・遺構・遺物に関する実際の知識を得ることを目的とする。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　30%　　授業内容を踏まえて、特定課題のレポートを義務付ける。その内容により評価する。
- **平常点**　70%　　授業への出席状況より評価する。
- **その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

後期の「考古学研究12」はオンデマンド授業による講義形式なので、そちらの継続受講が望ましい。

講義予定日・時限：

8月21日（水）1～5時限
22日（木）1～5時限
23日（金）1～5時限

科 目 名	考古学研究12　奈良時代の考古学（2）							
担当者名	博士(文学)早大　　城倉　正祥							
考古学コース	２単位	秋学期	無	フルOD	１年以上	―	―	フルオンデマンド

授業概要

平城京に都がおかれた710-784年までを奈良時代と呼ぶ。この時代は、日本が律令国家として成熟期を迎えると同時に、大陸・半島からの影響を受けつつ以後の日本文化の基層となりうる文化基盤を整えた時期でもあった。本講では、この時代の文化的特色を歴史的に位置づけるため、平城京での人々の暮らしに焦点をあてる。特に、発掘された遺構・遺物など考古学的素材をもとに、当時の都での人々の生活を復原する。発掘資料に目を向ければ、文献史料には残らなかった人々の姿が見えてくるはずである。

授業の到達目標

平城京の出土遺物に関する最新の研究成果について理解を深めるとともに、受講者自身が考え、調べる力をつけることを目標とする。レポート作成を課題とする。

成績評価方法

オンデマンド授業の視聴状況を基に出席と判断し、評価対象とする（30%）。レポートの提出を課題とし、評価の対象とする（70%）。

科 目 名	考古学演習1-1　修士論文の作成技術							
担当者名	長崎　潤一							
考古学コース	２単位	春学期	月曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

修士論文作成のため論文読解力、研究構想力の養成のため、専門分野の異なる受講生が共通に議論できるような、優れた論文を選択して受講生全員で読んで論評しあう形で授業を進める。またこれまで取り組んできた研究について受講生全員に発表してもらう。これを題材に受講生相互に議論しあう形をとる。

授業の到達目標

修士論文作成の遂行力養成を目標とする。また他人の論文、研究に対しての批評力を養成する。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　0%　　なし
- **その他**　100%　　授業への参加度で評価する。

科 目 名	考古学演習1-2　修士論文執筆の研究指導							
担当者名	長崎　潤一							
考古学コース	２単位	秋学期	月曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

この授業では修士論文作成にむけて実践的な研究指導を行う。受講者の研究テーマ、専門分野を考慮して、論文作成のための資料の扱い方、分析の視点の設定、分析結果からどんな結論も導くのか、など修士論文作成の経過を見ながら、具体的に問題になる事項について扱う。

授業の到達目標

修士論文の作成に必要な資料操作力、分析力、適切な解釈について、これらを遂行できる実践力の育成を目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　授業への参加度によって評価する
- **その他**　0%

科 目 名	考古学演習2-1　権力の生成							
担当者名	寺崎　秀一郎							
考古学コース	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

数百万年にわたる人類社会の歴史が明らかにしたのは、単純なものから複雑なものへの変化、ということである。これは、L.H.モルガンからE.サービス、M.サーリンズ、M.フリードらへと連なる社会進化説として知られているが、社会進化を換言するならば、平等な社会から不平等な社会への変化ということになる。したがって、不平等の起源とそのメカニズムを理解することが重要であるが、不平等とは考古学的には各種の資源に対するアクセス権の差異として顕在化する。これを「権力」と呼び、その本質について受講生とともに議論を深化させていく。本演習では、特に考古学以外の領域に目を向け、理論的な側面について、日本語文献（邦訳）を中心に精読する。

授業の到達目標

考古学研究が人類学、歴史学等の周辺領域の研究成果を応用しながら、その理論的側面を充実させてきたことを学び、各自の研究に反映させることを目指す。

成績評価方法

研究報告の内容、および討議への積極的参加等を総合的に評価する。

備考・関連URL

後期に開講する考古学演習2-2とは連続する授業内容であるため、併せて受講することを推奨する。

科 目 名	考古学演習2-2　権力の生成							
担当者名	寺崎　秀一郎							
考古学コース	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

数百万年にわたる人類社会の歴史が明らかにしたのは、単純なものから複雑なものへの変化、ということである。これは、L.H.モルガンからE.サービス、M.サーリンズ、M.フリードらへと連なる社会進化説として知られているが、社会進化を換言するならば、平等な社会から不平等な社会への変化ということになる。したがって、不平等の起源とそのメカニズムを理解することが重要であるが、不平等とは考古学的には各種の資源に対するアクセス権の差異として顕在化する。これを「権力」と呼び、その本質について受講生とともに議論を深化させていく。本演習では、個別の論文（英語・スペイン語文献を中心）を取り上げつつ、事例研究をおこなう。

授業の到達目標

考古学研究が人類学、歴史学等の周辺領域の研究成果を応用しながら、その理論的側面を充実させてきたことを学び、各自の研究に反映させることを目指す。

成績評価方法

研究報告の内容、および討議への積極的参加等を総合的に評価する。

備考・関連ＵＲＬ

前期に開講する考古学演習2-2とは連続する授業内容であるため、併せて受講することを推奨する。

科 目 名	考古学演習3-1　東アジア考古学の方法論（1）							
担当者名	博士(文学)早大　　城倉　正祥							
考古学コース	２単位	夏季集中	無	その他	１年以上	—	—	—

授業概要

列島の古墳時代～古代の考古学的研究において、東アジア的視点の重要性が高まりつつある。しかし、朝鮮半島、中国、シルクロードに繋がる遺構・遺物の比較研究を進めるにあたっては、考古学的分析の方法論を洗練させる必要がある。すなわち、日本考古学が培ってきた精緻な分析方法論を用いて、東アジア的比較研究を進めなければならない。そのため、考古学演習3－1では遺構、考古学演習3－2では遺物の分析方法を対象とした講義を行う。

本授業では遺構分析の方法論として、GPR(Ground Penetrating Rader)とGIS（Geographic Information System）を扱う。具体的には、受講者が各自のフィールドから持ち寄ったデータをもとにして、GPRSlice及びArcGISのソフトウェアを駆使した分析を実践する。東アジアの考古学的比較研究を進めるための普遍的な方法論の体得こそが本授業の目的である。

授業の到達目標

GPRSlice及びArcGISソフトウェアを用いた分析の方法論を受講者が体得することを目標とする。

成績評価方法

授業への参加、及び発表内容をもとに評価する。

備考・関連ＵＲＬ

2019年度は、夏季集中講義として実施するため、受講の際には日程などに注意してほしい。実際のフィールドに出る予定だが、場所などについては最初の授業の際に指示する予定である。

講義予定日・時限：
8月8日（木）1～5時限
9日（金）1～5時限
19日（月）1～5時限

科 目 名	考古学演習3-2　東アジア考古学の方法論（2）							
担当者名	博士(文学)早大　　城倉　正祥							
考古学コース	２単位	冬季集中	無	その他	１年以上	—	—	—

授業概要

考古学演習3－1では遺構、3－2では遺物を対象とした考古学的分析方法の講義を行う。東アジアの考古学的比較研究の方法論を洗練化することが目的である。

本講義では、遺物の3D化に集中して授業を進める。特に、Exascanを用いた考古遺物の三次元計測、及びGeo Magic、Cloud Compareなどのソフトウェアを用いた解析を受講者自身の研究対象とする遺物において実践する。

授業の到達目標

Exascanを用いた遺物の三次元計測とGeo Magicソフトウェアの受講者自身の習熟を目標とする。

成績評価方法

授業への参加、及び発表内容を評価する。

備考・関連ＵＲＬ

2019年度は、冬季集中講義として実施するため、受講の際には日程などに注意してほしい。実際の遺物を計測する予定だが、場所などについては最初の授業の際に指示する予定である。

講義予定日・時限：
12月24日（火）1～5時限
25日（水）1～5時限
26日（木）1～5時限

科 目 名	考古学演習5-1　東南アジア歴史考古学、世界遺産研究							
担当者名	博士（地域研究）上智大　　田畑　幸嗣							
考古学コース	２単位	春学期	火曜日	６時限	１年以上	―	―	―

授業概要

東南アジア歴史考古学、世界遺産研究に関する総合演習。

授業の到達目標

文献読解と受講者の研究発表が中心となる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　100%　　出席率と授業への取り組みを基本的な評価基準とし、さらに指定文献の読了率、発表技術等を加えて評価する。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	考古学演習5-2　東南アジア歴史考古学、世界遺産研究							
担当者名	博士（地域研究）上智大　　田畑　幸嗣							
考古学コース	２単位	秋学期	火曜日	６時限	１年以上	―	―	―

授業概要

東南アジア歴史考古学、世界遺産研究に関する総合演習。

授業の到達目標

文献読解と受講者の研究発表が中心となる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　100%　　出席率と授業への取り組みを基本的な評価基準とし、さらに指定文献の読了率、発表技術等を加えて評価する。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	考古学演習6-1　エジプト考古学演習							
担当者名	近藤　二郎							
考古学コース	２単位	春学期	木曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

エジプト考古学演習としてエジプト学の基礎的知識を身につけることを目指す。本年度はエジプト考古学の研究史や研究方法に関する幾つかの文献を紹介して理解を深めていきたい。また各自の研究テーマについても適宜発表・ディスカションをおこない研究の進展をはかりたい。

授業の到達目標

エジプト考古学の基礎知識を得ることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　50%　　実施する。
●**平常点**　50%　　出席、発表項目のプレゼンテーション内容、受講態度等から判断し採点する。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	考古学演習6-2　エジプト考古学演習							
担当者名	近藤　二郎							
考古学コース	２単位	秋学期	木曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

エジプト考古学演習としてエジプト学の基礎的知識を身につけることを目指す。本年度はエジプト考古学の研究史や研究方法に関する幾つかの文献を紹介して理解を深めていきたい。また各自の研究テーマについても適宜発表・ディスカションをおこない研究の進展をはかりたい。

授業の到達目標

エジプト考古学の基礎知識を得ることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　50%　　実施する。
●**平常点**　50%　　出席、発表項目のプレゼンテーション内容、受講態度等から判断し採点する。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	考古学演習7-1							
担当者名	高橋　龍三郎							
考古学コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

大学院生の個別の研究テーマはそれぞれ異なり、個別の対応は不可能なので、全員に共通し、しかも個別分野を包括する内容を授業では扱う。それは先史社会に関するテーマで、どのような個別課題も、当時の社会的脈絡を離れて論じ得ないので、本授業では社会進化史的視点から個別社会を捉えるために、洋書および英語論文を講読する。

社会の階層化過程を研究することを目標にして、オセアニアや北米北西海岸部の諸部族の民族誌を検討する。当該地域の民族誌中、社会に直接関係する社会構造や親族組織、それらを支える文化社会理念、社会的リーダーのあり方などについて基本的な事柄を修得する。それと比較するために一段階進歩した首長制社会を知るためにミシシッピー川流域の、例えばカホキアやマウンドビル文化、カッド文化などの様相について講読する。

授業の到達目標

どのような考古学の個別テーマを掲げようとも、遺物や遺構が当時の社会と離れがたく結びついていることを理解する。社会と遊離したニュートラルな遺物論・遺構論はあり得ないことを理解してもらう。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験は実施しない。
- **レポート**　0%　　レポートは実施しない。
- **平常点**　100%　　出席点に加えて、内容の把握などを評価する。
- **その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

洋書購読については輪番制をとるので各自の担当を順守すること。

科 目 名	考古学演習7-2							
担当者名	高橋　龍三郎							
考古学コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

学院生の個別の研究テーマはそれぞれ異なり、個別の対応は不可能なので、全員に共通し、しかも個別分野を包括する内容を授業では扱う。それは先史社会に関するテーマで、どのような個別課題も、当時の社会的脈絡を離れて論じ得ないので、本授業では社会進化史的視点から個別社会を捉えるために、洋書および英語論文を講読する。

社会の階層化過程を研究することを目標にして、オセアニアやオーストラリア原住民、新大陸の原住民諸部族の民族誌を検討する。当該地域の民族誌中、社会に直接関係する社会構造や親族組織、それらを支える文化社会理念、社会的リーダーのあり方、儀礼・祭祀などについて基本的な事柄を修得する。それと比較するために一段階進歩した首長制社会を知るためにミシシッピー川流域の、例えばカホキアやマウンドビル文化、カッド文化などの様相について講読する。また台湾原住民社会のパイワン族、プユマ族などの民族誌を比較する。

授業の到達目標

どのような考古学の個別テーマを掲げようとも、遺物や遺構が当時の社会と離れがたく結びついていることを理解する。社会と遊離したニュートラルな遺物論・遺構論はあり得ないことを理解してもらう。そのために世界の古今東西に通有する儀礼・祭祀を中核とした事象に注目し、それらと社会の一般的関係性について理解してもらう。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験は実施しない。
- **レポート**　0%　　レポートは実施しない。
- **平常点**　100%　　出席点に加えて、内容の把握などを評価する
- **その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

洋書購読については輪番制をとるので各自の担当を順守すること。

科 目 名	考古学研究指導1-1　M　修士論文作成のための指導							
担当者名	長崎　潤一							
考古学コース	—	春学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の完成にむけて、資料の収集法、資料の取り扱い方、執筆について指導を行う。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導1-2　M　修士論文作成のための指導							
担当者名	長崎　潤一							
考古学コース	—	秋学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文作成のための研究指導を行う。修士論文の作成状況について受講生全員に発表してもらう。これを題材に受講生相互に議論しあう形をとる。また各自の論文作成にあたって配慮すべき研究倫理についても触れる。論文作成にあたって実践的な指

導を行う。
　論文作成支援ソフト、図表・グラフの組み方、説得力のある作図法などについても指導する。

授業の到達目標
　修士論文作成のための研究遂行力を身につけることを目標とする。

成績評価方法
　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導2-1　M　資料の収集と整理1							
担当者名	寺崎　秀一郎							
考古学コース	—	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
　修士論文作成にあたっては、資料を集め、それらを整理し、分析することが必要であるが、本研究指導では、以下の諸点を重点的に扱う。
　1．文献収集の重要性　2．文献の探し方　3．文献データベースの構築　4．考古資料の収集　5．収集資料の整理、データベース化　併せて、論文としての体裁を整える上で重要な註や引用、図版の提示方法などについても受講生の草稿をもとに、解説・修正をおこないながら、修士論文、あるいは投稿論文としての水準を満たす基本技術の習得を目指す。

授業の到達目標
　修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導2-2　M　資料の収集と整理2							
担当者名	寺崎　秀一郎							
考古学コース	—	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
　修士論文作成にあたっては、資料を集め、それらを整理し、分析することが必要であるが、本研究指導では、以下の諸点を重点的に扱う。
　1．文献収集の重要性　2．文献の探し方　3．文献データベースの構築　4．考古資料の収集　5．収集資料の整理、データベース化　併せて、論文としての体裁を整える上で重要な註や引用、図版の提示方法などについても受講生の草稿をもとに、解説・修正をおこないながら、修士論文、あるいは投稿論文としての水準を満たす基本技術の習得を目指す。

授業の到達目標
　修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導3-1　M　東アジア考古学							
担当者名	博士(文学)早大　　城倉　正祥							
考古学コース	—	春学期	火曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
　各自の修士論文の進み具合に応じて指導を行う。特に考古学演習3－1と連動して、東アジアの視点での考古学的分析方法の確立に重点を置く。

授業の到達目標
　修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導3-2　M　東アジア考古学							
担当者名	博士(文学)早大　　城倉　正祥							
考古学コース	—	秋学期	火曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
　各自の修士論文の進み具合に応じて指導を行う。特に考古学演習3－2と連動して、東アジアの視点での考古学的分析方法の確立に重点を置く。

授業の到達目標
　修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
　研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導5-1　M　東南アジア考古学、世界遺産研究							
担当者名	博士（地域研究）上智大　　田畑　幸嗣							
考古学コース	—	春学期	火曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の完成に向けて、テーマの選択、研究法、資料の取り扱い、理論的枠組み、執筆などについて、発表と討論を通じて指導を行います。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導5-2　M　東南アジア考古学、世界遺産研究							
担当者名	博士（地域研究）上智大　　田畑　幸嗣							
考古学コース	—	秋学期	火曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の完成に向けて、テーマの選択、研究法、資料の取り扱い、理論的枠組み、執筆などについて、発表と討論を通じて指導を行います。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導6-1　M　エジプト考古学・エジプト学研究指導							
担当者名	近藤　二郎							
考古学コース	—	春学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

それぞれの課題について修士論文が完成するように個別に指導していく。

授業の到達目標

修業年限以内での修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二つに分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連ＵＲＬ

特になし。

科 目 名	考古学研究指導6-2　M　エジプト考古学・エジプト学研究指導							
担当者名	近藤　二郎							
考古学コース	—	秋学期	木曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

それぞれの課題について修士論文が完成するように個別に指導していく。

授業の到達目標

修業年限以内での修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連ＵＲＬ

特になし。

科 目 名	考古学研究指導7-1　M　考古資料の特質							
担当者名	高橋　龍三郎							
考古学コース	—	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文を作成するに当たって、目標の設定、資料の検索、資料の操作と検討、分析手段の検討、分析結果の検討などを経て、修士論文が実際に完成するまでについて指導する。具体的には学生各自の卒業論文をまず発表させ、課題が何処にあるかを自覚させ、新たな手法や方法論について教授する。

必要に応じて内外の著名な文献に当たり、関連分野の知識を涵養する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指

導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導7-2　M　著名論文を読む							
担当者名	高橋　龍三郎							
考古学コース	—	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文を作成するに当たって、目標の設定、資料の検索、資料の操作と検討、分析手段の検討、分析結果の検討などを経て、修士論文が実際に完成するまでについて指導する。具体的には学生各自の卒業論文をまず発表させ、課題が何処にあるかを自覚させ、それを新たな手法や方法論について教授する。

特に先史学では、失われた情報を民族誌によって補うことが大きな方法論となるので、それについて基本的な考え方を学ぶ。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導1-1　D　北方考古学、先史考古学の博士論文作成							
担当者名	長崎　潤一							
考古学コース	—	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文の完成にむけての指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導1-2　D　北方考古学、先史考古学の博士論文作成							
担当者名	長崎　潤一							
考古学コース	—	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文の完成にむけての指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導2-1　D　研究成果の公開1							
担当者名	寺崎　秀一郎							
考古学コース	—	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

将来における課程博士取得のためにも研究成果の公開は必須条件であるが、それらが学位論文の中でどのように位置づけられるのか、受講生の研究計画を基本としながら、戦略を練る必要がある。本研究指導では、研究計画の立案とそれに則った論文発表、学会発表に向けての添削・指導をおこなう。

授業の到達目標

修業年限内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導2-2　D　研究成果の公開2							
担当者名	寺崎　秀一郎							
考古学コース	—	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

将来における課程博士取得のためにも研究成果の公開は必須条件であるが、それらが学位論文の中でどのように位置づけられるのか、受講生の研究計画を基本としながら、戦略を練る必要がある。本研究指導では、研究計画の立案とそれに則った論文発表、学会発表に向けての添削・指導をおこなう。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指

導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導3-1　D　東アジア考古学							
担当者名	博士（文学）早大　　城倉　正祥							
考古学コース	—	春学期	火曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
各自の博士論文の進み具合に応じて指導を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導3-2　D　東アジア考古学							
担当者名	博士（文学）早大　　城倉　正祥							
考古学コース	—	秋学期	火曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
各自の博士論文の進み具合に応じて指導を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導5-1　D　東南アジア考古学、世界遺産研究							
担当者名	博士（地域研究）上智大　　田畑　幸嗣							
考古学コース	—	春学期	火曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
東南アジア考古学、貿易陶磁器研究分野での博士論文作成の指導を行う。研究指導のほかに、博士課程以降の研究で必須となる研究資金の獲得法、海外調査申請の手続き、予想されるトラブルや対処法などについても指導をおこなう。

授業の到達目標
博士論文の完成を到達目標とする

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導5-2　D　東南アジア考古学、世界遺産研究							
担当者名	博士（地域研究）上智大　　田畑　幸嗣							
考古学コース	—	秋学期	火曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
東南アジア考古学、貿易陶磁器研究分野での博士論文作成の指導を行う。研究指導のほかに、博士課程以降の研究で必須となる研究資金の獲得法、海外調査申請の手続き、予想されるトラブルや対処法などについても指導をおこなう。

授業の到達目標
博士論文の完成を到達目標とする

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導6-1　D　エジプト考古学・エジプト学研究指導							
担当者名	近藤　二郎							
考古学コース	—	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
それぞれの課題について博士論文が完成するように個別に指導していく。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二つに分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
特になし。

科 目 名	考古学研究指導6-2　D　エジプト考古学・エジプト学研究指導							
担当者名	近藤　二郎							
考古学コース	―	秋学期	月曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

それぞれの課題について博士論文が完成するように個別に指導していく。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二つに分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連ＵＲＬ

特になし。

科 目 名	考古学研究指導7-1　D　日本先史考古学							
担当者名	高橋　龍三郎							
考古学コース	―	春学期	木曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

学位論文の完成に必要な基本的要件を満たすために、今までの自分の研究について発表する。各章の内容ごとに、正しい方法論が整備されているか、データの収集に問題はないか、必要事項が網羅されているか、不要な個所がないかを検討する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	考古学研究指導7-2　D　日本先史考古学							
担当者名	高橋　龍三郎							
考古学コース	―	秋学期	木曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

学位論文の完成に必要な基本的要件を満たすために、今までの自分の研究について発表する。各章容ごとに、正しい方法論が整備されているか、データの収集に問題はないか、必要事項が網羅されているか、不要な個所がないかを検討する

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

文化人類学コース

科 目 名	文化人類学特論1　文明論ー文明の勃興から衰退まで							
担当者名	Ph.D.（ミシガン大）　西村　正雄							
文化人類学コース	２単位	春学期	月曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

文化人類学の学説の中で、進化主義的考え方は、最初に起こった理論的課題であった。最初に起こった一系進化論的な考え方が、あまりにもヨーロッパ中心主義であり、本来人類学が求めている人間の多様性の研究からかけ離れているため、現在それは誤った理論的見解として考えられている。このことが、文化人類学における文明の研究に影響を及ぼしていることは否めない。しかし、文明の研究は人類学の歴史の中で重要な位置を占めていたのも事実である。本講では、文化人類学が文明に対してどのように考えてきたのか、またどのように研究をしてきたのかについて概説し、多くのテキストを読みながら、現代の文明について考えてゆく。内容は、文化人類学の基礎をなす民族誌を始め、考古学、歴史学等の文献にふれてゆく。

授業の到達目標

過去の文明の発生から衰退までを概観し、現代の文明について考えをめぐらし、分析する力を身につけることを目指す。

成績評価方法

成績評価は次の3点で行う。

1. 授業中の発表
2. 発表後のレポート
3. 授業中の態度（積極的な授業参加）

科 目 名	文化人類学特論2　映像人類学ー映像で文化を描写し、記述すること							
担当者名	Ph.D.（ミシガン大）　西村　正雄							
文化人類学コース	２単位	秋学期	月曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

現代は映像の時代と言える。おおくの文化的発信が言葉よりも映像の手段でなされている。文化人類学の分野でも、映像がいわゆる一般的な記述の民族誌とならんで、映像民族誌として示されるようになって70年以上たつ。本講では、そうした手段で文化を映してきた作品を見ながら、それを批判し、長所と短所をさぐる。さらにそれを乗り越えて自ら映像を通して民族誌を作成ゆく基礎を学ぶ。

授業の到達目標

映像人類学とは何かをまず知り、その研究方法を使って何ができるのか探ることを目的とする。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　50%　授業の出席状況と、授業中のディスカッションの参加状況。
- **その他**　50%　少なくとも2回のフィールド調査と文献調査に基づいた研究課題の発表。

備考・関連URL

参考文献等、後で授業中指示する。

科 目 名	文化人類学特論3　Humans and language							
担当者名	Ph.D. University of Nottingham　ライアン　スティーブン							
文化人類学コース	２単位	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

This course primarily aims to help students acquire an essential understanding of key theories of the development of human language and the role of language in the development of humans. through reading English materials on the subject. The secondary objective is to help students develop the abilities that are needed when pursuing their own academic research. Students are strongly encouraged to use English in the classes, though there's no prerequisite for enrollment in terms of language competence.

授業の到達目標

Students are expected to acquire an essential understanding of key theories of the development of human language and the role of language in the development of humans.

成績評価方法

50%: In-class participation
50%: Class presentation

科 目 名	文化人類学特論4　多文化共生時代の日本における外国人居住者のフィールドワーク							
担当者名	Ph.D. University of London　三浦　恵子							
文化人類学コース	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

本コースでは、修士論文を書くための事前体験授業として文化人類学で重要な民族、宗教、文化、自己と他者、周辺性、ジェンダー、国家、市民、コミュニティ、アイデンティティなど多くの課題に関連している多文化共生の問題をフィールドワークを伴った授業を通して考察していく。具体的には、グローバリゼーションの進行に伴って多文化共生が課題になっている日本に3年以上在住している移民、難民、日本人との結婚や他の長期居住者（研修生、長期労働者、中国帰国者とその家族）などについて、文献とフィールドワークから実態を明らかしていく。日本に居住する外国人が我が国に居住するまでに至った背景、日本における彼らの生活と居住するコミュニティや支援組織との関係の実態、関連する法制度などを資料とフィールドワークから探り、日本における多文化共生の問題点と方向性を考察していく。当該外国人集団の民族、宗教、来日目的、来日時期などを考慮に入れ

て学生ごとに異なるグループを調査し、比較研究する。

授業の到達目標

1. 日本における多文化共生の現状を文献とフィールドワークを通して理解する。
2. 異なる外国人居住者集団が日本に居住するまでに至った経緯と居住に関する問題点について理解する。
3. フィールドワークを経験し、その手法や問題点についての考察を深める。
4. 文化人類学の理論とフィールドワークの関係について理解する。
5. 日本の多文化共生に関して自分はどのようなことができるかを考える。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　レポートの内容が、関連文献や理論、統計、フィールドワークのデータを十分に収集して考察した上で適切な分析を行っていることがよくわかることが基本であり、また多文化共生の問題との関連が明確に書かれていることを重視する。
●**平常点**　20%　　普段の学習態度や発表内容、デイスカッションへの参加、出席率などを総合的に評価する。
●**その他**　10%　　出席率が80%以上であること。

科 目 名	文化人類学専門研究3　Critical Reading of Ethnography							
担当者名	博士(文学)早大　　小田島　理絵							
文化人類学コース	２単位	春学期	土曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

解釈人類学以降の文化人類学研究に焦点を当て、現代の民族誌的営為に関する知見の蓄積を目指す。文献講読はもちろんのこと、民族誌を書き、その実践を通して、人類学研究の視座と方法論を身体化させていく。自身の文化人類学実践と社会関与に関してつねに省察する姿勢とともに各自の研究の進展を促していくことを目指す。授業では、既知の研究あるいはこれから自分自身が行う研究に関し、以下の設問を抱きつつ、現代民族誌＝文化人類学研究を客観的に読み解き、分解することが望まれる。

The aim of the lecture is to accumulate anthropological knowledge and to internalize skills of ethnographic writing. The lecture is conducted with a focus on anthropological studies that have been conducted since the appearance of Geerz's interpretive anthropology. Students are required not only to read through handouts and reading materials but also to make up their own research designs by carefully analyzing methods, theories, and practices that anthropological researchers have already used or made in their studies. Some important points for students to keep in minds at the lecture are:

（1）フィールドワークはどのように実行されたか（実行していくか）/ How was fieldwork designed and conducted in previous studies? (How or in what ways will you conduct your fieldwork?)
（2）フィールドワークにおける研究者の位置づけと民族誌の中での位置づけ/ What kinds of social positions did researchers construct at their field sites? (What position do you anticipate to construct at your field?)
（3）何を「データ」としているのか（していくのか）/ What kinds of data did previous researchers utilize for representing their researches? (What kinds of data do you intend to acquire for your own study?)
（4）「データ」はどのように提示されているか（提示していくのか）/ In what ways did previous researchers present their data? (How are you going to present your data for potential audiences?)
（5）理論的主題はいかに輪郭づけられたか（輪郭づけていくか）/ How did researchers polish and shape their theoretical considerations? (How will you polish your theoretical consideration?)
（6）民族誌的知見が参入し、活用されうる場とは / For what kinds of places, areas, and fields does ethnographic knowledge make significant contributions?

授業の到達目標

読む、まとめる、考察する、議論する、発展させる

成績評価方法

授業への積極的参加を80%、最終レポートを20%の割合で評価

科 目 名	文化人類学専門研究4　観光人類学の挑戦(チャレンジ)							
担当者名	成田　弘成							
文化人類学コース	２単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

最近の日本における観光政策は、ワールドカップ(ラグビー)やオリンピックというビッグイベントの開催の時を迎え、その影響力を顕著に現わすようになっている。日本を取り巻くグローバリゼーションの在り方が大きく変化しつつある今日、日本の観光政策も、数を求めるオーバー・ツーリズムを検証し、SDGsの時代に対応する政策転換を正面から問い直す時期に来ていることを理解すべきだろう。本講義では、こうした激動の時代の中で、真の変革的アプローチを探求しながら、現代のグローバリゼーションに対応する観光のあり方を議論の中心に置き、今後の未来において重要な課題を検討してゆきたい。理論的には、観光人類学の先駆的で挑戦的な研究を世界の事例を用いて紹介しつつ、将来の有効な視点を議論してゆきたい。

授業の到達目標

観光人類学において重要となるトピックを理解し、それに関連した専門的な研究論文を読破することで、観光の研究における国際的な水準の議論が出来るようになるだろう。また開発政策としての観光のアプローチを習得することにもなろう。

成績評価方法

●**試験**　0%　　期末試験は実施しません
●**レポート**　40%　　期末レポート
●**平常点**　30%　　質疑応答
●**その他**　30%　　プレゼンテーション

科 目 名	文化人類学実習1　Anthropology Systematics and Research Method（1）							
担当者名	Ph.D.（ミシガン大）　西村　正雄							
文化人類学コース	４単位	秋学期	土曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

文化人類学は、約130年の歴史の中で、その中心的な理論と方法論を変えてきた。文化人類学を学ぶことは、各時代を代表する理論と方法論を学ぶことである。しかし、それらを学ぶことは、単に文化人類学の「歴史」を学ぶことではない。重要なのは、なぜ理論や方法論が変わったのか／変わる必要があったのか、前の理論と方法論のどこに問題があったのかを学ぶことであり、そしてそれぞれの理論的および方法論的立場が出てくる歴史的背景を学ぶことである。そうすることで、私たち自らが、次の理論構成に関わってゆくにはどうしたらよいか分かってくる。

文化人類学の理論と方法論が大きく変化してきている時、演習では、今の理論のどこに問題があるのかを検討し、次にどのような理論的、方法論的立場が必要なのか考えてゆく。この演習（1-1）では、第二次世界大戦終了時までの時代背景について考えてゆく。

授業の到達目標

人類学という学問がどのような理論的考え方を出してきたのかを概観し、それがそれを生んだ時代的、および地理的背景と密接に結びついており、かつ人類学者個人の生き方と結びついている点を理解してもらうことを目標としている。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　レポート以外で評価する。
●**平常点**　100%　　授業中科せられる課題をこなすこと、それに基づいて行う発表とディスカッションに参加することで評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	文化人類学実習2　フィールドワーク論							
担当者名	博士（人文科学）お茶の水女子大　　國弘　暁子							
文化人類学コース	４単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

このフィールドワーク実習授業では、まず、テキスト講読を通じて、日本国内、および海外でフィールドワークを実施する際に直面するであろう問題群を想定し、その解決方法について考え、そして、フィールドで得られたデータをどのように論文としてまとめることができるのかについて考えることを目的としている。フィールドワークの多様な可能性について学んだ上で、国内・海外（インドを予定）におけるフィールドワークを実施する。海外渡航費、現地滞在費など（20万円前後の見込み）は自費となります。

授業の到達目標

海外でのフィールドワーク経験を通じて、修士論文執筆に向けた独自の研究構想を描くことを到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　フィールドワークから得られた知見をまとめた報告書の提出
●**平常点**　50%　　ディスカッションへの参加度
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	文化人類学演習1-1　Anthropology Systematics and Research Method（1）							
担当者名	Ph.D.（ミシガン大）　西村　正雄							
文化人類学コース	２単位	春学期	金曜日	１時限	１年以上	―	―	―

授業概要

文化人類学は、約130年の歴史の中で、その中心的な理論と方法論を変えてきた。文化人類学を学ぶことは、各時代を代表する理論と方法論を学ぶことである。しかし、それらを学ぶことは、単に文化人類学の「歴史」を学ぶことではない。重要なのは、なぜ理論や方法論が変わったのか／変わる必要があったのか、前の理論と方法論のどこに問題があったのかを学ぶことであり、そしてそれぞれの理論的および方法論的立場が出てくる歴史的背景を学ぶことである。そうすることで、私たち自らが、次の理論構成に関わってゆくにはどうしたらよいか分かってくる。

文化人類学の理論と方法論が大きく変化してきている時、演習では、今の理論のどこに問題があるのかを検討し、次にどのような理論的、方法論的立場が必要なのか考えてゆく。この演習（1-1）では、第二次世界大戦終了時までの時代背景について考えてゆく。

授業の到達目標

人類学という学問がどのような理論的考え方を出してきたのかを概観し、それがそれを生んだ時代的、および地理的背景と密接に結びついており、かつ人類学者個人の生き方と結びついている点を理解してもらうことを目標としている。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　レポート以外で評価する。
●**平常点**　100%　　授業中科せられる課題をこなすこと、それに基づいて行う発表とディスカッションに参加することで評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	文化人類学演習1-2　Anthropology Systematics and Research Method (2)							
担当者名	Ph.D.（ミシガン大）　西村　正雄							
文化人類学コース	２単位	秋学期	金曜日	１時限	１年以上	―	―	―

授業概要

文化人類学は、約130年の歴史の中で、その中心的な理論と方法論を変えてきた。文化人類学を学ぶことは、各時代を代表する理論と方法論を学ぶことである。しかし、それらを学ぶことは、単に文化人類学の「歴史」を学ぶことではない。重要なのは、なぜ理論や方法論が変わったのか／変わる必要があったのか、前の理論と方法論のどこに問題があったのかを学び、そしてそれぞれの理論的および方法論的立場が出てくる歴史的背景を学ぶことである。そうすることで、私たち自らが、次の理論構成に関わってゆくにはどうしたらよいか分かってくる。

文化人類学の理論と方法論が大きく変化してきている時、演習では、今の理論のどこに問題があるのかを検討し、次にどのような理論的、方法論的立場が必要なのか考えてゆく。この演習（1-2）では、第二次世界大戦以後の時代背景について考えてゆく。

授業の到達目標

人類学の理論的立場がどのようにして生まれ、それがどのような時代的、地理的背景を持っていいたのか、また個人的事情がからんでいるのか理解し、今ある理論的立場にいたずらに飲み込まれるのではなく、それを乗り越えて次の新しい考え方を出すにはどうしたらよいか考える力を身につけてもらう。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験は行わない。
- **レポート**　0%　　レポート以外で評価する。
- **平常点**　100%　　授業中科せられる課題をこなしてゆくことで評価する。
- **その他**　0%　　特になし。

科 目 名	文化人類学演習2-1　移動・移住とグローバリゼーションへの人類学的アプローチ							
担当者名	博士(学術)東大　松前　もゆる							
文化人類学コース	２単位	春学期	金曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

人の移動・移住は今日の世界における顕著な社会現象のひとつであると言え、人類学における移民研究も珍しいことではない。しかし、世界では難民や移民の受け入れが社会的な「問題」としてクローズアップされ続け、同時に近年、従来の移民研究が国民国家を前提とし、とりわけ国境をこえる移動を非日常、逸脱と捉えてきたことを再考する動き、さらには、移民＝男性を前提としてきたことを批判しジェンダーの視点からとらえ直す試みも広がっている。従って本演習では、これまでの移動・移住に関する人類学および隣接諸分野の研究を概観した後、近年の問題提起について検討していく。さらに授業の中では、移動を選択する人たちばかりではなく、移動をしない人々も含め、グローバリゼーションのなかで変容する地域社会で人々がいかに生きているかも視野に入れて、全体として、現代世界における移動・移住への人類学的アプローチの可能性について考えたい。

授業の到達目標

移動・移住に関する人類学的研究について理解を深めるとともに、近年の議論もふまえ、各自の研究テーマに対するアプローチの仕方を考える力を身につける。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験は行いません。
- **レポート**　0%　　学期末のレポート課題はありません。
- **平常点**　100%　　報告の内容およびディスカッションへの参加状況によって評価します。
- **その他**　0%　　特になし。

科 目 名	文化人類学演習2-2　ヨーロッパ、および各地域の人類学的研究の現在							
担当者名	博士(学術)東大　松前　もゆる							
文化人類学コース	２単位	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

本学期の演習では、ヨーロッパを中心として、受講者が関心を持つ地域に関する人類学的研究の現在を知るための文献を購読し、全員で討議を行う。ヨーロッパをフィールドとする人類学的研究は、人類学においては後発の分野であるが、近年、日本においても、またヨーロッパ（あるいは欧米）においても、新たな研究が蓄積されつつある。ヨーロッパ人類学および各地域に関する人類学的研究の最近の議論を概観し、各地域の諸課題・諸現象を考える視角としての人類学的アプローチの可能性について理解を深めていく。 具体的には、まず、Kockel, Ullrich et al. A Companion to the Anthropology of Europe, 2012. の購読から始めたい。

授業の到達目標

ヨーロッパおよび受講者自身が関心を持つ地域に関する人類学的研究について理解を深めるとともに、近年の議論もふまえ、各自の研究テーマに対するアプローチの仕方を考える力を身につける。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験は行いません。
- **レポート**　0%　　学期末のレポート課題はありません。
- **平常点**　100%　　報告の内容とディスカッションへの参加状況によって評価します。
- **その他**　0%　　特になし。

科 目 名	文化人類学演習3-1　Anthropology of Religion							
担当者名	博士（人文科学）お茶の水女子大　　國弘　暁子							
文化人類学コース	２単位	春学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

この演習では、宗教人類学のテキスト講読を通して、宗教という領域への人類学的アプローチを習得することを目的とする。指定テキストでは著名な研究者による議論のポイントがまとめられているので、それらを参考にして、履修者は各自の研究テーマにとって必要と思われる文献を探して読み進めていくことが求められる。

授業の到達目標

宗教人類学の射程を把握し、各自の研究テーマを設定することを到達目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験は行わない。
- **レポート**　50%　　研究計画レポートを対象とする。
- **平常点**　50%　　授業への参加度を対象とする。
- **その他**　0%　　特になし。

科 目 名	文化人類学演習3-2　Anthropology of Religion							
担当者名	博士（人文科学）お茶の水女子大　　國弘　暁子							
文化人類学コース	２単位	秋学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

この演習では、宗教人類学のテキスト講読を通して、宗教という領域への人類学的アプローチを習得することを目的とする。指定テキストでは著名な研究者による議論のポイントがまとめられているので、それらを参考にして、履修者は各自の研究テーマにとって必要と思われる文献を探して読み進めていくことが求められる。

授業の到達目標

テキスト講読から学んだことを土台にして、修士論文執筆に必要となる抽象的な議論を構築することを到達目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験は行わない。
- **レポート**　50%　　研究計画レポートを対象とする。
- **平常点**　50%　　授業への参加度を対象とする。
- **その他**　0%　　特になし。

科 目 名	文化人類学研究指導1-1　M　Anthropology Systematics							
担当者名	Ph.D.（ミシガン大）　　西村　正雄							
文化人類学コース	—	春学期	金曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要

研究指導では、文化人類学の発達を歴史的に概観し、理論、方法論を多角的に学ぶ。その上にたって、学生が修士論文をまとめてゆくための理論的、そして方法論的課題を個別に指導する。指導はディスカッション形式で行ってゆく。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	文化人類学研究指導1-2　M　Anthropology Systematics							
担当者名	Ph.D.（ミシガン大）　　西村　正雄							
文化人類学コース	—	秋学期	金曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要

研究指導では、文化人類学の発達を歴史的に概観し、理論、方法論を多角的に学ぶ。その上にたって、学生が修士論文をまとめてゆくための理論的、そして方法論的課題を個別に指導する。指導はディスカッション形式で行ってゆく。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　学生の授業の参加度と、ディスカッションなどの様子で評価する。
- **その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

積極的な授業参加を期待する。

科 目 名	文化人類学研究指導2-1　M　移動・移住、およびヨーロッパに関する人類学的研究							
担当者名	博士(学術)東大　　松前　もゆる							
文化人類学コース	—	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の完成に向けて、受講生の研究計画の立案・実施に対し助言を行い、理論的および方法論的課題について個別に指導する。授業は主に、受講生による研究発表とディスカッションの形式で行う。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	文化人類学研究指導2-2　M　移動・移住、およびヨーロッパに関する人類学的研究							
担当者名	博士(学術)東大　　松前　もゆる							
文化人類学コース	—	秋学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の完成に向けて、受講生の研究計画の立案・実施について助言を行い、理論的および方法論的課題について個別に指導する。授業は主に、受講生による研究発表とディスカッションの形式で行う。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	文化人類学研究指導3-1　M　Research Methods for Anthropological Studies							
担当者名	博士(人文科学)お茶の水女子大　　國弘　暁子							
文化人類学コース	—	春学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

受講生の研究計画の確立、および、修士論文を書くための理論的、方法論的課題を個別に指導する。授業は主に受講生による発表とディスカッションの形式でおこなう。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	文化人類学研究指導3-2　M　Research Methods for Anthropological Studies							
担当者名	博士(人文科学)お茶の水女子大　　國弘　暁子							
文化人類学コース	—	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

受講生の研究計画の確立、および、修士論文を書くための理論的、方法論的課題を個別に指導する。授業は主に受講生による発表とディスカッションの形式でおこなう。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	文化人類学研究指導1-1　D　本格的なフィールドワークと博士論文完成に向けた指導							
担当者名	Ph.D.（ミシガン大）　　西村　正雄							
文化人類学コース	—	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

文化人類学の基本を復習しながら、人類学的思考法、方法論を自由の応用できる知識を身につけてゆくことが重要である。また、自身の研究領域の最前線を認知し、そこに合わせながらさらに論を進めてゆく力を身につけてゆく努力をしてゆきたい。そのため、個別指導の形で授業を進めてゆく。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導をうけることをもってP（合格）とする。

科 目 名	文化人類学研究指導1-2　D　本格的なフィールドワークと博士論文完成に向けた指導							
担当者名	Ph.D.（ミシガン大）　西村　正雄							
文化人類学コース	—	秋学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

文化人類学の基本を復習しながら、人類学的思考法、方法論を自由の応用できる知識を身につけてゆくことが重要である。また、自身の研究領域の最前線を認知し、そこに合わせながらさらに論を進めてゆく力を身につけてゆく努力をしてゆきたい。そのため、個別指導の形で授業を進めてゆく。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導をうけることをもってP（合格）とする。

科 目 名	文化人類学研究指導2-1　D　移動・移住、およびヨーロッパに関する人類学的研究							
担当者名	博士（学術）東大　松前　もゆる							
文化人類学コース	—	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文の完成に向けて、受講生のフィールドワークの計画立案および実施を支援し、理論的、方法論的課題について個別に指導する。受講生が、フィールドワークから得られる厚みのある記述と理論的展開とを結び付けられるよう、助言を行いたい。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	文化人類学研究指導2-2　D　移動・移住、およびヨーロッパに関する人類学的研究							
担当者名	博士（学術）東大　松前　もゆる							
文化人類学コース	—	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文の完成に向けて、受講生のフィールドワークの計画立案および実施を支援し、理論的、方法論的課題について個別に指導する。受講生が、フィールドワークから得られる厚みのある記述と理論的展開とを結び付けられるよう、助言を行いたい。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	文化人類学研究指導3-1　D　Research Methods for Anthropological Studies Advanced Level							
担当者名	博士（人文科学）お茶の水女子大　國弘　暁子							
文化人類学コース	—	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

受講生の研究計画の確立、および、博士論文を書くための理論的、方法論的課題を個別に指導する。授業は主に受講生による発表とディスカッションの形式でおこなう。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	文化人類学研究指導3-2　D　Research Methods for Anthropological Studies Advanced Level							
担当者名	博士（人文科学）お茶の水女子大　國弘　暁子							
文化人類学コース	—	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

受講生の研究計画の確立、および、博士論文を書くための理論的、方法論的課題を個別に指導する。授業は主に受講生による発表とディスカッションの形式でおこなう。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	文化人類学研究指導4-1　D　日本の民俗文化に関する総合的・学際的研究							
担当者名	博士(文学)京大　　鶴見　太郎							
文化人類学コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

個別に行う研究報告によって、研究方法・資料上の助言を行う。特に昭和期（戦前・戦後）に行われたフ民俗調査における採集手帳を読み解くことで、今後の研究に資することを心がける。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	文化人類学研究指導4-2　D　日本の民俗文化に関する総合的・学際的研究							
担当者名	博士(文学)京大　　鶴見　太郎							
文化人類学コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

個別に行う研究報告によって、研究方法・資料上の助言を行う。特に昭和期（戦前・戦後）に行われたフ民俗調査における採集手帳を読み解くことで、今後の研究に資することを心がける。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

アジア地域文化学コース

科 目 名	アジア地域文化学研究指導1-1　D　アジアの諸地域文化研究に関する集団指導（美術史の視点）							
担当者名	博士(文学)早大　　山本　聡美							
アジア地域文化学コース	—	春学期	水曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
文化史、特に美術史の問題点をマクロとミクロの両方向から論じていく。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	アジア地域文化学研究指導1-2　D　アジアの諸地域文化研究に関する集団指導（美術史の視点）							
担当者名	博士(文学)早大　　山本　聡美							
アジア地域文化学コース	—	秋学期	水曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
文化史、特に美術史の問題点をマクロとミクロの両方向から論じていく。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	アジア地域文化学研究指導2-1　D　アジアの諸地域文化研究に関する集団指導（考古学の視点）							
担当者名	高橋　龍三郎							
アジア地域文化学コース	—	春学期	水曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
学位論文の完成に必要な基本的要件を満たすために、今までの自分の研究について発表する。各章の内容ごとに、正しい方法論が整備されているか、データの収集に問題はないか、必要事項が網羅されているか、不要な個所がないかを検討する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	アジア地域文化学研究指導2-2　D　アジアの諸地域文化研究に関する集団指導（考古学の視点）							
担当者名	高橋　龍三郎							
アジア地域文化学コース	—	秋学期	水曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
学位論文の完成に必要な基本的要件を満たすために、今までの自分の研究について発表する。各章の内容ごとに、正しい方法論が整備されているか、データの収集に問題はないか、必要事項が網羅されているか、不要な個所がないかを検討する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	アジア地域文化学研究指導3-1　D　アジアの諸地域文化研究に関する集団指導（東洋哲学の視点）							
担当者名	森　由利亜							
アジア地域文化学コース	—	春学期	水曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
各自の研究課題について担当教員が共同で指導し議論する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	アジア地域文化学研究指導3-2　D　アジアの諸地域文化研究に関する集団指導（東洋哲学の視点）							
担当者名	森　由利亜							
アジア地域文化学コース	—	秋学期	水曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
各自の研究課題について担当教員が共同で指導し議論する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	アジア地域文化学研究指導4-1　D　アジアの諸地域文化研究に関する集団指導（東洋史の視点）							
担当者名	博士（文学）早大　工藤　元男							
アジア地域文化学コース	—	春学期	水曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文作成に対する論文指導。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	アジア地域文化学研究指導4-2　D　アジアの諸地域文化研究に関する集団指導（東洋史の視点）							
担当者名	博士（文学）早大　工藤　元男							
アジア地域文化学コース	—	秋学期	水曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
博士論文作成に対する論文指導。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	アジア地域文化学研究指導5-1　D　アジアの諸地域文化研究に関する集団指導（日本史の視点）							
担当者名	博士（歴史学）国学院大　田中　史生							
アジア地域文化学コース	—	春学期	水曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
研究題材の選択・決定、博士論文の計画、学会での口頭発表、論文の執筆などについて指導を行う。したがって、指導は、時間外に行うこともありうるので、その点はご了承願いたい。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	アジア地域文化学研究指導5-2　D　アジアの諸地域文化研究に関する集団指導（日本史の視点）							
担当者名	博士（歴史学）国学院大　田中　史生							
アジア地域文化学コース	—	秋学期	水曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
研究題材の選択・決定、博士論文の計画、学会での口頭発表、論文の執筆などについて指導を行う。したがって、指導は、時間外に行うこともありうるので、その点はご了承願いたい。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

表象・メディア論コース

科 目 名	表象・メディア論講義1　アニメーション精読（1）							
担当者名	博士(理学)京大　細馬　宏通							
表象・メディア論コース	２単位	春学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本講義では、さまざまなアニメーション作品の「精読」を行う。発声と身体動作の時間構造に注目しながら、いくつかのアニメーション作品の特定のシークエンスを毎回精密に分析する。必要に応じて絵コンテを参照し、演出で目指されていることと、実際の受け止められ方との差を考える。この作業を通じて、アニメーション批評を行うための仮説を探索的に発見し、より一般的な批評の枠組みを導出することを目指す。

授業の到達目標

・アニメーションを精読するための基本的な概念を身につける。
・絵コンテとアニメーションの各コマの関係を把握しながら分析を行うことができるようになる。
・映像と音、音楽の関係を言語化できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　随時、分析課題を課す。
●**平常点**　50%　　分析への取り組み、各回ごとの小レポート。
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論講義2　マンガ研究文献紹介と実践							
担当者名	博士(理学)京大　細馬　宏通							
表象・メディア論コース	２単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

マンガには読解のための一般的な手がかりがある一方で、作品はそれぞれが固有の読みを行うことを誘っている。本講義では、マンガを読み解くための基本文献を精読し、マンガ史やマンガの道具立てに関する俯瞰的な視点を立てる。その上で、実際のマンガ読解によって彼らの読解方法を更新する。

授業の到達目標

・特定の分野のメディア文献を読むことで、そのメディアの歴史と基本的な要素を系統的に考える力を身につける。
・理論や方法と実際の体験とを結びつけ、言語化できるようになる。
・特定の作品について作品の個別性と歴史性の双方を考えることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　随時、分析課題を課す。
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論講義3　文化記号論							
担当者名	博士(文学)早大　大石　雅彦							
表象・メディア論コース	２単位	春学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

ミハイル・バフチンの著作（英訳）を、解説を加えながら読んでゆきます

授業の到達目標

文化記号論の基礎的理解

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席・予習状況
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論講義4　文化記号論							
担当者名	博士(文学)早大　大石　雅彦							
表象・メディア論コース	２単位	秋学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

バフチンの著作（英訳）を、説明・解説を加えながら読んでゆきます

授業の到達目標

文化記号論の基礎的理解

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席・予習状況
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	表象・メディア論演習1-1　現代思想研究							
担当者名	藤本　一勇							
表象・メディア論コース	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

ジャック・デリダの脱構築思想に関する文献を輪読する。テクストは受講者の専門や関心と相談のうえ、開講時に決定する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論演習1-2　現代思想研究							
担当者名	藤本　一勇							
表象・メディア論コース	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

ジャック・デリダの脱構築思想に関する文献を輪読する。テクストは受講者の専門や関心と相談のうえ、開講時に決定する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論演習2-1　現代ポピュラーカルチャー理論の購読と演習							
担当者名	石岡　良治							
表象・メディア論コース	２単位	春学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

Thomas Lamarre, "The Anime Ecology: A Genealogy of Television, Animation, and Game Media"(University of Minnesota Press, 2018)を関連文献とともに購読することで、日本アニメをめぐる理論的言説の現状を捉える。同書は邦訳がある『アニメ・マシーン』の続編にあたるが、「メディア生態学」を「アニメ生態学」と読み替えているところに着目しつつ、メディア理論の基礎文献や現代日本のマンガ・アニメについての論文を読解する。受講者の研究テーマや関心に応じて隣接領野の文献も扱う予定である。

授業の到達目標

現代ポピュラーカルチャーの理論テクストを精読することで、各自の研究関心との結びつきについての理解を深める
英語文献と訳書を、具体的な作品分析と関連させる

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　50%
- **平常点**　50%
- **その他**　0%

備考・関連URL

出席・レジュメの作成・演習への貢献を総合的に判断し、学期末レポートを併せて評価する。

科 目 名	表象・メディア論演習2-2　現代ポピュラーカルチャー理論の購読と演習							
担当者名	石岡　良治							
表象・メディア論コース	２単位	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

Thomas Lamarre, "The Anime Ecology: A Genealogy of Television, Animation, and Game Media"(University of Minnesota Press, 2018)を関連文献とともに購読することで、日本アニメをめぐる理論的言説の現状を捉える。同書は邦訳がある『アニメ・マシーン』の続編にあたるが、「メディア生態学」を「アニメ生態学」と読み替えているところに着目しつつ、メディア理論の基礎文献や現代日本のマンガ・アニメについての論文を読解する。受講者の研究テーマや関心に応じて隣接領野の文献も扱う予定である。

授業の到達目標

現代ポピュラーカルチャーの理論テクストを精読することで、各自の研究関心との結びつきについての理解を深める
英語文献と訳書を、具体的な作品分析と関連させる

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　50%
- **平常点**　50%
- **その他**　0%

備考・関連URL

出席・レジュメの作成・演習への貢献を総合的に判断し、学期末レポートを併せて評価する。

科 目 名	表象・メディア論演習3-1　演劇・テレビ・映画等の作品分析							
担当者名	Ph.D.（アイルランド国立大ダブリン校）　岡室　美奈子							
表象・メディア論コース	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

欧米および日本の近・現代の演劇・テレビドラマ・映画・小説等を詳細に研究する。研究発表とディスカッションを中心とするが、受講者全員で一つの作品や文献を分析・批評する機会も作りたい。何を取り上げるかは、受講者の希望を聞いて決定する。

また、MLA Handbookを用いながら、論文執筆やプレゼンテーションの訓練を行なう。

授業の到達目標

本演習の目的は、受講者に演劇・テレビ・小説等に関する水準の高い修士論文を完成してもらうことにある。そのために、研究と論文執筆の手法を身につけつつ、各自の研究を深めることを目指す。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし。
- **レポート**　0%　　なし。ただし、場合によってはレポートを課す場合もある。
- **平常点**　100%　　研究発表、出席、発言の量と質、貢献度等を総合的に判断する。
- **その他**　0%　　なし。

科 目 名	表象・メディア論演習3-2　演劇・テレビ・映画等の作品分析							
担当者名	Ph.D.（アイルランド国立大ダブリン校）　岡室　美奈子							
表象・メディア論コース	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本研究指導の目的は、演劇・テレビ・映画・小説等に関する水準の高い修士論文を執筆してもらうことにある。したがって基本的には、修士論文執筆のための研究発表とディスカッションを中心とする。

また、MLA Handbookを用いながら、論文の書き方のノウハウを身につけることを目指す。

授業の到達目標

充実した修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし。
- **レポート**　0%　　なし。ただし、場合によってはレポとを課す場合もある。
- **平常点**　100%　　研究発表、出席、発言の量と質、貢献度等を総合的に判断する。
- **その他**　0%　　なし。

科 目 名	表象・メディア論演習4-1							
担当者名	長谷　正人							
表象・メディア論コース	２単位	春学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

ヒッチコック映画についての英語論文を読んで議論する

授業の到達目標

19世紀と20世紀の映像文化と社会の関わりについて理解する

成績評価方法

授業への参加度で評価する。

科 目 名	表象・メディア論演習4-2							
担当者名	長谷　正人							
表象・メディア論コース	２単位	秋学期	月曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

ベンヤミン関連の論文を読みながら映像が動くとはどういうことか議論する

授業の到達目標

19世紀と20世紀の映像メディアと社会の関わりについて理解する

成績評価方法

授業への参加度で評価する。

科 目 名	表象・メディア論演習5-1　視覚表象研究							
担当者名	丹尾　安典							
表象・メディア論コース	２単位	春学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

課題レポートや論文にもとづいて、具体的に論文作法を指導する。発表を課す。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%　　通常の試験を課すことはない。
- **レポート**　0%　　研究発表ができなかった場合にはレポートを課す。
- **平常点**　80%　　課題発表。

●**その他**　20%　　研究発表。

科 目 名	表象・メディア論演習5-2　視覚表象研究							
担当者名	丹尾　安典							
表象・メディア論コース	２単位	秋学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

課題レポートや論文にもとづいて、具体的に論文作法を指導する。発表を課す。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　通常の試験を課すことはない。
●**レポート**　0%　　研究発表ができなかった場合はレポートを課す
●**平常点**　80%　　課題発表
●**その他**　20%　　研究発表

科 目 名	表象・メディア論演習6-1　舞台芸術と記録							
担当者名	Ph.D.（アイルランド国立大ダブリン校）　坂内　太							
表象・メディア論コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

演劇やダンスなどの舞台芸術は、その時間と場所を共有した観客よりも、写真や記録映像、文章など、様々なメディアを通じて、上演の後に作品について知る人々の方が多い芸術でもある。多くの人々が、 パフォーマンスの記録を見たり、読んだりして、そうした作品の上演があったことを知る。本演習では、実際のパフォーマンスと、その記録との間にある複雑な問題について考察を重ねる。

授業の到達目標

本演習では、各受講生の研究分野・テーマに於ける研究・論文執筆の手法の十全たる習得と研究の深化を目指す。

成績評価方法

授業への参加度・貢献度で評価する

科 目 名	表象・メディア論演習6-2　舞台芸術と記録							
担当者名	Ph.D.（アイルランド国立大ダブリン校）　坂内　太							
表象・メディア論コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

演劇やダンスなどの舞台芸術は、その時間と場所を共有した観客よりも、写真や記録映像、文章など、様々なメディアを通じて、上演の後に作品について知る人々の方が多い芸術でもある。多くの人々が、 パフォーマンスの記録を見たり、読んだりして、そうした作品の上演があったことを知る。本演習では、実際のパフォーマンスと、その記録との間にある複雑な問題について考察を重ねる。

授業の到達目標

本演習では、各受講生の研究分野・テーマに於ける研究・論文執筆の手法の十全たる習得と研究の深化を目指す。

成績評価方法

授業への参加度・貢献度で評価する

科 目 名	表象・メディア論演習7-1　イメージ文化史							
担当者名	博士（学術）東大　橋本　一径							
表象・メディア論コース	２単位	春学期	木曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要

水面に映る像などを含めるとすれば、「鏡像」とは、人類が、主体的にも系譜的にも、初めて遭遇するイメージであると言えるのかもしれない。このような「鏡」は、多くの美術作品において重要なモチーフとされてきたのはもちろんのこと、たとえばジャック・ラカンの有名な鏡像段階説を思い起こすまでもなく、多くの思想家にとっても欠かせない主題となってきた。ハンス・ベルティンクの「イメージ人類学」やピエール・ルジャンドルの「ドグマ人類学」においても、「鏡」とは欠かせない要素である。「顔」のイメージを重要な主題とするベルティンクの思想にとり、鏡もまた重要な要素となることは言うまでもない。一方、『鏡を持つ神』という著作のあるルジャンドルにとって、「鏡」のモチーフは、精神分析的な主体形成の議論と、法制史的な議論を結びつけるキーワードの一つである。このような観点を念頭に置きながら、本演習では、「鏡」をめぐる美術史や文化史の基本文献を講読し、参加者各自の関心と「鏡」の問題との接合を図る。

授業の到達目標

ハンス・ベルティンクの「イメージ人類学」とピエール・ルジャンドルの「ドグマ人類学」の基本を理解し、両者の異同について説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　最低1回の研究発表および、文献講読や議論における貢献度を総合的に評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論演習7-2　イメージ文化史							
担当者名	博士(学術)東大　　橋本　一径							
表象・メディア論コース	２単位	秋学期	木曜日	６時限	１年以上	―	―	―

授業概要

・映画の中の「会議」ビジネス書のコーナーを一瞥してみれば、必ず目につくのが、会議の害悪を説く啓発書である。会議とは、卓越したビジネスパーソンにとっての仮想敵の代表であり、無駄な会議を廃止することは、模範的な経営者となるための前提である。だが、字義からすれば単に人が会って議論することが、どうしてここまで目の敵にされるようになってしまったのか。思想史を遡れば、プラトンの『饗宴』を挙げるまでもなく、対話こそが人間の知を培ってきたのは明らかだが、そういったシュンポシオンと会議は、どこで異なるものとなってしまったのだろうか。本演習は、主として映画の中に描かれた会議を取り上げながら、人類にとっての害悪の象徴と化した「会議」に、知的創造力を再び見出そうとする試みである。

授業の到達目標

「会議」とは何かを理解し、それが人類の思想や映像作品に果たしている意義を考察し、すぐれた「会議」をみずから実践できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　最低1回の研究発表および、文献講読や議論における貢献度を総合的に評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論演習8-1　多様性文化研究							
担当者名	宮沢　章夫							
表象・メディア論コース	２単位	春学期	木曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

文化の多様性、世界の多様性に着目し、様々な芸術・文化（演劇／映画／文学／ポップカルチャーなど）を考察、学生それぞれが目標とする研究テーマに即して指導する。

授業の到達目標

充実した修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　研究発表、出席、発言の量と質、貢献度等を総合的に判断する。
●**その他**　0%　　実施しない。

科 目 名	表象・メディア論演習8-2　多様性文化研究							
担当者名	宮沢　章夫							
表象・メディア論コース	２単位	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

文化の多様性、世界の多様性に着目し、様々な芸術・文化（演劇／映画／文学／ポップカルチャーなど）を考察し、学生それぞれが目標とする研究テーマに即して指導する。

授業の到達目標

充実した修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　研究発表、出席、発言の量と質、貢献度等を総合的に判断する。
●**その他**　0%　　実施しない。

科 目 名	表象・メディア論演習9-1　創造性を増幅するメディア技術の実装							
担当者名	博士(学際情報学) 東大　　チェン　ドミニク							
表象・メディア論コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

「メディア技術を使う人（ユーザー）の創造性を増幅する」という課題に実践的に取り組むことで、人工知能全盛時代におけるメディアの在り方に対する思考を深めます。

2019年度には、2018年度に大学院生と開発した、「リレー文章」形式で書評を投稿するウェブサービス「extext」（エクステクスト）の継続開発と運営を行う予定ですが、extext以外にも良いアイデアが生まれれば、新規プロジェクト（ウェブサービス以外の、電子工作や展示の企画なども可能）の開発を行う可能性もあります。また、自分たちで作ったシステムの設計、思想、評価、展望を共著論文として執筆・発表することも目指します。

以下のようなモチベーションを持ち、積極的な参加ができる人であれば、プログラミングやデザインの経験がなくても歓迎します。

・プログラミング言語を習得し、実際に稼働するサービス上で活用したい
・UX（ユーザーエクスペリエンス）デザインを行いたい

・文章の編集・企画を実践したい

※ 博士課程生の参加も歓迎です。

授業の到達目標

実際に人々が利用するメディア技術に携わることで、座学では得られない深い理解を得ること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　100%　　積極的な参加、未知の技術を習得する意欲を評価します。
●**その他**　0%　　特になし

科目名	表象・メディア論演習9-2　創造性を増幅するメディア技術の実装							
担当者名	博士（学際情報学）東大　　チェン　ドミニク							
表象・メディア論コース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

「メディア技術を使う人（ユーザー）の創造性を増幅する」という課題に実践的に取り組みながら、修士論文レベルに相当する研究と論文執筆を指導する。
研究対象に関わる提案型プロトタイプを制作し、その効果を評価・測定し、論文にまとめていく。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　100%　　定常的かつ継続的にアウトプットを行えるか、未知の課題に積極的に取り組めるか、試行錯誤を恐れずに果敢に実験できるか、といった点を評価します
●**その他**　0%　　特になし

科目名	表象・メディア論研究指導1-1　M　現代思想研究							
担当者名	藤本　一勇							
表象・メディア論コース	—	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

ジャック・デリダの脱構築思想に関する文献を輪読する。テクストは受講者の専門や関心と相談のうえ、開講時に決定する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	表象・メディア論研究指導1-2　M　現代思想研究							
担当者名	藤本　一勇							
表象・メディア論コース	—	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

ジャック・デリダの脱構築思想に関する文献を輪読する。テクストは受講者の専門や関心と相談のうえ、開講時に決定する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	表象・メディア論研究指導2-1　M　メディア表現研究							
担当者名	石岡　良治							
表象・メディア論コース	—	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の経過について議論する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導2-2　M　メディア表現研究							
担当者名	石岡　良治							
表象・メディア論コース	—	秋学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の経過について議論する。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導3-1　M　演劇・テレビ・映画等の作品分析							
担当者名	Ph.D.（アイルランド国立大ダブリン校）　岡室　美奈子							
表象・メディア論コース	—	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
本研究指導の目的は、演劇・テレビ・映画・小説等に関する水準の高い修士論文を執筆してもらうことにある。したがって基本的には、修士論文執筆のための研究発表とディスカッションを中心とする。
また、MLA Handbookを用いながら、論文の書き方のノウハウを身につけることを目指す。

授業の到達目標
充実した修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導3-2　M　演劇・テレビ・映画等の作品分析							
担当者名	Ph.D.（アイルランド国立大ダブリン校）　岡室　美奈子							
表象・メディア論コース	—	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
本研究指導の目的は、演劇・テレビ・映画・小説等に関する水準の高い修士論文を執筆してもらうことにある。したがって基本的には、修士論文執筆のための研究発表とディスカッションを中心とする。
また、MLA Handbookを用いながら、論文の書き方のノウハウを身につけることを目指す。

授業の到達目標
充実した修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導4-1　M　メディア社会研究							
担当者名	長谷　正人							
表象・メディア論コース	—	春学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
各自が修士論文の途中経過を報告し、全員で議論する。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導4-2　M　メディア社会研究							
担当者名	長谷　正人							
表象・メディア論コース	—	秋学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
各自が修士論文の途中経過を報告し、全員で議論する。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導5-1　M　視覚表象研究							
担当者名	丹尾　安典							
表象・メディア論コース	—	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
学生おのおのの修士論文テーマに即して指導する。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導5-2　M　視覚表象研究							
担当者名	丹尾　安典							
表象・メディア論コース	—	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の作成指導を中心とする。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導6-1　M　身体表象研究							
担当者名	Ph.D.（アイルランド国立大ダブリン校）　坂内　太							
表象・メディア論コース	—	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の作成を目的とし、各学生の研究成果報告をもとに議論を重ねる。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
修論の進捗状況に合わせて個別にフィードバックを行う。

科 目 名	表象・メディア論研究指導6-2　M　身体表象研究							
担当者名	Ph.D.（アイルランド国立大ダブリン校）　坂内　太							
表象・メディア論コース	—	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の作成を目的とし、各学生の研究成果報告をもとに議論を重ねる。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連URL
修論の進捗状況に合わせて個別にフィードバックを行う。

科 目 名	表象・メディア論研究指導7-1　M　イメージ文化史							
担当者名	博士（学術）東大　橋本　一径							
表象・メディア論コース	—	春学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
（本研究指導は、「表象・メディア論演習7-1」と同じ枠内で行われる。該当者は同演習に参加し、自らの修士論文のテーマに沿った研究発表を行う。）水面に映る像などを含めるとすれば、「鏡像」とは、人類が、主体的にも系譜的にも、初めて遭遇するイメージであると言えるのかもしれない。このような「鏡」は、多くの美術作品において重要なモチーフとされてきたのはもちろんのこと、たとえばジャック・ラカンの有名な鏡像段階説を思い起こすまでもなく、多くの思想家にとっても欠かせない主題となってきた。ハンス・ベルティンクの「イメージ人類学」やピエール・ルジャンドルの「ドグマ人類学」においても、「鏡」とは欠かせない要素である。「顔」のイメージを重要な主題とするベルティンクの思想にとり、鏡もまた重要な要素となることは言うまでもない。一方、『鏡を持つ神』という著作のあるルジャンドルにとって、「鏡」のモチーフは、精神分析的な主体形成の議論と、法制史的な議論を結びつけるキーワードの一つである。このような観点を念頭に置きながら、本演習では、「鏡」をめぐる美術史や文化史の基本文献を講読し、参加者各自の関心と「鏡」の問題との接合を図る。

授業の到達目標
ハンス・ベルティンクの「イメージ人類学」とピエール・ルジャンドルの「ドグマ人類学」の基本を理解し、両者の異同について説明できるようになる。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　最低1回の研究発表および、文献講読や議論における貢献度を総合的に評価する。
●**その他**　0%

科目名	表象・メディア論研究指導7-2　M　イメージ文化史							
担当者名	博士(学術)東大　　橋本　一径							
表象・メディア論コース	—	秋学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
（本研究指導は、「表象・メディア論演習7-2」と同じ枠内で行われる。該当者は同演習に参加し、自らの修士論文のテーマに沿った研究発表を行う。）・映画の中の「会議」ビジネス書のコーナーを一瞥してみれば、必ず目につくのが、会議の害悪を説く啓発書である。会議とは、卓越したビジネスパーソンにとっての仮想敵の代表であり、無駄な会議を廃止することは、模範的な経営者となるための前提である。だが、字義からすれば単に人が会って議論することが、どうしてここまで目の敵にされるようになってしまったのか。思想史を遡れば、プラトンの『饗宴』を挙げるまでもなく、対話こそが人間の知を培ってきたのは明らかだが、そういったシュンポシオンと会議は、どこで異なるものとなってしまったのだろうか。本演習は、主として映画の中に描かれた会議を取り上げながら、人類にとっての害悪の象徴と化した「会議」に、知的創造力を再び見出そうとする試みである。

授業の到達目標
「会議」とは何かを理解し、それが人類の思想や映像作品に果たしている意義を考察し、すぐれた「会議」をみずから実践できるようになる。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　最低1回の研究発表および、文献講読や議論における貢献度を総合的に評価する。
●**その他**　0%

科目名	表象・メディア論研究指導8-1　M　多様文化研究							
担当者名	宮沢　章夫							
表象・メディア論コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
文化の多様性、世界の多様性に着目し、様々な芸術・文化（演劇／映画／文学／ポップカルチャーなど）を考察、学生それぞれが目標とする研究テーマに即して指導する。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	表象・メディア論研究指導8-2　M　多様文化研究							
担当者名	宮沢　章夫							
表象・メディア論コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
文化の多様性、世界の多様性に着目し、様々な芸術・文化（演劇／映画／文学／ポップカルチャーなど）を考察、学生それぞれが目標とする研究テーマに即して指導する。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	表象・メディア論研究指導9-1　M　創造性を増幅するメディア技術の実装							
担当者名	博士(学際情報学) 東大　　チェン　ドミニク							
表象・メディア論コース	—	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
「メディア技術を使う人（ユーザー）の創造性を増幅する」という課題に実践的に取り組むことで、人工知能全盛時代におけるメディアの在り方に対する思考を深めます。

2019年度には、2018年度に大学院生と開発した、「リレー文章」形式で書評を投稿するウェブサービス「extext」（エクステクスト）の継続開発と運営を行う予定ですが、extext以外にも良いアイデアが生まれれば、新規プロジェクト（ウェブサービス以外の、電子工作や展示の企画なども可能）の開発を行う可能性もあります。また、自分たちで作ったシステムの設計、思

想、評価、展望を共著論文として執筆・発表することも目指します。
以下のようなモチベーションを持ち、積極的な参加ができる人であれば、プログラミングやデザインの経験がなくても歓迎します。

・プログラミング言語を習得し、実際に稼働するサービス上で活用したい
・UX（ユーザーエクスペリエンス）デザインを行いたい
・文章の編集・企画を実践したい

※ 博士課程生の参加も歓迎です。

授業の到達目標
実際に人々が利用するメディア技術に携わることで、座学では得られない深い理解を得ること。

成績評価方法
●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　100%　　積極的な参加、未知の技術を習得する意欲を評価します。
●**その他**　0%　　特になし

科目名	表象・メディア論研究指導9-2　M　創造性を増幅するメディア技術の実装							
担当者名	博士（学際情報学）東大　　チェン　ドミニク							
表象・メディア論コース	—	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
「メディア技術を使う人（ユーザー）の創造性を増幅する」という課題に実践的に取り組みながら、修士論文レベルに相当する研究と論文執筆を指導する。
研究対象に関わる提案型プロトタイプを制作し、その効果を評価・測定し、論文にまとめていく。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　100%　　定常的かつ継続的にアウトプットを行えるか、未知の課題に積極的に取り組めるか、試行錯誤を恐れずに果敢に実験できるか、といった点を評価します
●**その他**　0%　　特になし

科目名	表象・メディア論研究指導1-1　D　現代思想研究							
担当者名	藤本　一勇							
表象・メディア論コース	—	春学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
ジャック・デリダの脱構築思想に関する文献を輪読する。テクストは受講者の専門や関心と相談のうえ、開講時に決定する。

授業の到達目標
博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	表象・メディア論研究指導1-2　D　現代思想研究							
担当者名	藤本　一勇							
表象・メディア論コース	—	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
ジャック・デリダの脱構築思想に関する文献を輪読する。テクストは受講者の専門や関心と相談のうえ、開講時に決定する。

授業の到達目標
博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科目名	表象・メディア論研究指導2-1　D　メディア表現研究							
担当者名	石岡　良治							
表象・メディア論コース	—	春学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
受講生の研究の進展についての報告を検討しつつ、関連文献のリサーチを進める。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導2-2　D　メディア表現研究							
担当者名	石岡　良治							
表象・メディア論コース	—	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
受講生の研究の進展についての報告を検討しつつ、関連文献のリサーチを進める。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導3-1　D　演劇・テレビ・映画等の作品分析							
担当者名	Ph.D.（アイルランド国立大ダブリン校）　岡室　美奈子							
表象・メディア論コース	—	春学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
本研究指導の目的は、受講者に水準の高い博士論文を完成してもらうことにある。したがって基本的には、博士論文執筆のための研究発表とディスカッションを中心とする。
授業の到達目標
修業年限以内での水準の高い博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導3-2　D　演劇・テレビ・映画等の作品分析							
担当者名	Ph.D.（アイルランド国立大ダブリン校）　岡室　美奈子							
表象・メディア論コース	—	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
本研究指導の目的は、受講者に水準の高い博士論文を完成してもらうことにある。したがって基本的には、博士論文執筆のための研究発表とディスカッションを中心とする。
授業の到達目標
修業年限以内での水準の高い博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導4-1　D　メディア社会研究							
担当者名	長谷　正人							
表象・メディア論コース	—	春学期	木曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要
各自が博士論文の途中経過を報告し、全員で議論する。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導4-2　D　メディア社会研究							
担当者名	長谷　正人							
表象・メディア論コース	—	秋学期	木曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要
各自が博士論文の途中経過を報告し、全員で議論する。
授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導5-1　D　視覚表象研究							
担当者名	丹尾　安典							
表象・メディア論コース	—	春学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
学生おのおのの博士論文テーマに即して指導する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導5-2　D　視覚表象研究							
担当者名	丹尾　安典							
表象・メディア論コース	—	秋学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
学生おのおのの博士論文テーマに即して指導する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導6-1　D　身体表象研究							
担当者名	Ph.D.（アイルランド国立大ダブリン校）　坂内　太							
表象・メディア論コース	—	春学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の作成を目的とし、各学生の研究成果報告をもとに議論を重ねる。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を目標とする

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連ＵＲＬ
博論の進捗状況に合わせて個別にフィードバックを行う。

科 目 名	表象・メディア論研究指導6-2　D　身体表象研究							
担当者名	Ph.D.（アイルランド国立大ダブリン校）　坂内　太							
表象・メディア論コース	—	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の作成を目的とし、各学生の研究成果報告をもとに議論を重ねる。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を目標とする

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

備考・関連ＵＲＬ
博論の進捗状況に合わせて個別にフィードバックを行う。

科 目 名	表象・メディア論研究指導7-1　D　イメージ文化史							
担当者名	博士（学術）東大　橋本　一径							
表象・メディア論コース	—	春学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
博士論文の完成を目的として、学生が研究を報告し議論する。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導7-2　D　イメージ文化史							
担当者名	博士(学術)東大　　橋本　一径							
表象・メディア論コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

博士論文の完成を目的として、学生が研究を報告し議論する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導8-1　D　多様文化研究							
担当者名	宮沢　章夫							
表象・メディア論コース	—	春学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

文化の多様性、世界の多様性に着目し、様々な芸術・文化（演劇／映画／文学／ポップカルチャーなど）を考察し、学生それぞれが目標とする研究テーマに即して指導する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導8-2　D　多様文化研究							
担当者名	宮沢　章夫							
表象・メディア論コース	—	秋学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

文化の多様性、世界の多様性に着目し、様々な芸術・文化（演劇／映画／文学／ポップカルチャーなど）を考察し、学生それぞれが目標とする研究テーマに即して指導する。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	表象・メディア論研究指導9-1　D　創造性を増幅するメディア技術の実装							
担当者名	博士(学際情報学) 東大　　チェン　ドミニク							
表象・メディア論コース	—	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

「メディア技術を使う人（ユーザー）の創造性を増幅する」という課題に実践的に取り組むことで、人工知能全盛時代におけるメディアの在り方に対する思考を深めます。

修士での院ゼミと合流する形を取るか、もしくは個別に博士のプログラムを組むかは状況に応じて決定します。

2019年度には、2018年度に大学院生と開発した、「リレー文章」形式で書評を投稿するウェブサービス「extext」（エクステクスト）の継続開発と運営を行う予定ですが、extext以外にも良いアイデアが生まれれば、新規プロジェクト（ウェブサービス以外の、電子工作や展示の企画なども可能）の開発を行う可能性もあります。また、自分たちで作ったシステムの設計、思想、評価、展望を共著論文として執筆・発表することも目指します。

以下のようなモチベーションを持ち、積極的な参加ができる人であれば、プログラミングやデザインの経験がなくても歓迎します。

・プログラミング言語を習得し、実際に稼働するサービス上で活用したい
・UX（ユーザーエクスペリエンス）デザインを行いたい
・文章の編集・企画を実践したい

授業の到達目標

実際に人々が利用するメディア技術に携わることで、座学では得られない深い理解を得ること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　100%　　積極的な参加、未知の技術を習得する意欲を評価します。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	表象・メディア論研究指導9-2　D　創造性を増幅するメディア技術の実装							
担当者名	博士（学際情報学）東大　　チェン　ドミニク							
表象・メディア論コース	―	秋学期	火曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

「メディア技術を使う人（ユーザー）の創造性を増幅する」という課題に実践的に取り組みながら、修士論文レベルに相当する研究と論文執筆を指導する。

研究対象に関わる提案型プロトタイプを制作し、その効果を評価・測定し、論文にまとめていく。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　100%　　積極的な参加、未知の技術を習得する意欲を評価します。
●**その他**　0%　　特になし

現代文芸コース

科 目 名	現代文芸講義1　作者になったつもりで『野火』を読む							
担当者名	芳川　泰久							
現代文芸コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

創作に必要な専門的な能力を培うには、名作と言われるテクストを、書く作者の視点から読むことが有効である。

その例として、大岡昇平の『野火』を対象にする。なお、各章の理解に必要な問いを用意するので、それをめぐるやりとりが授業を構成していくことになる。全体は39章からなる成るので、毎回、おおよそ3章程度ずつ進むが、重要な章については、時間を割くので、その限りではない。

授業の到達目標

書くという視点から小説作品を読むことによって、作品へのアプローチの仕方を少しでも多様化する。書くことに意識的になることで、書くスキルを客観化し、相対化する。

成績評価方法

- **試験**　30%　　達成度の確認を行なう。
- **レポート**　0%
- **平常点**　70%　　授業中の質問への取り組みと出席による総合評価。
- **その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

授業は、小説の理解に必要な問いを中心に、その応答も重要な講義の一部を構成するので、正解を答えようとして消極的になるよりも、返答の正否にかかわらず、積極的な応答を歓迎する。問いをあいだにおいた広い意味での対話型の講義を目指す。

科 目 名	現代文芸講義2　村上春樹　『アンダーグラウンド』から読む物語論							
担当者名	芳川　泰久							
現代文芸コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

深い読解能力を養う目的で、小説一般にも援用できる物語論を示しながら、村上春樹の長篇小説の変化を論じる。その主要な契機が二つあると考えられ、一つは大江健三郎による村上批判であり、もう一つが『アンダーグラウンド』に結実するサリン事件である。この二つを経ることで、村上春樹の小説がどのように変わっていったかを長篇作品を対象にみてゆきたい。

授業の到達目標

大江健三郎から村上春樹へと現代小説の中心が移動した足跡に触れることで、現代小説の流れについての知識を豊かにする。

成績評価方法

- **試験**　30%　　達成度確認による
- **レポート**　0%
- **平常点**　70%　　授業中の対応と出席による総合評価
- **その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

長篇小説を扱うが、可能なかぎり、授業で扱う前に読んで欲しいし、文庫本なので、授業に持参のこと。なお、物語論を扱う回のときは、関連する他の文献を紹介するので、上記の予定が多少ずれることがあるかもしれない。

科 目 名	現代文芸講義4							
担当者名	重松　清							
現代文芸コース	２単位	秋学期	土曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

1964年に開催された東京オリンピック直前の東京を活写した開高健のノンフィクション『ずばり東京』を読みつつ、ノンフィクション全般について考える。

授業の到達目標

開高健『ずばり東京』を精読し、当時の社会状況や、ノンフィクションの動きをとらえることで、「文学」「文芸」「ジャーナリズム」に対する理解をよりいっそう深める。

成績評価方法

期末にレポートを課す（詳細は教場で指示）。その内容と、授業の出席回数、参加度で評価する。

科 目 名	現代文芸講義5　ジャーナリズムの現場から考える							
担当者名	津田　大介							
現代文芸コース	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

報道、雑誌、文芸、編集の現場やノウハウを紹介し、実践的な取材にまつわるコミュニケーションスキルと、原稿の書き方を身につけることを目的とする。

演習では最初に具体的な取材のやり方と原稿の書き方を学び、次の段階で日本が抱える社会課題、地域振興にスポットを当て、創造的な課題解決や地域振興を行っている事例を紹介する。

座学で一方的に授業を聴くだけでは、社会に出たあとの実践的な応用力は身につかないため、この授業ではアクティブラーニングの手法を用いたフィールドスタディを学期中2回行う（フィールドスタディへの参加は必須。詳細は備考を参照のこと）。

授業は参加型で実施する。教わるだけでなく、自分で問題を調べ、当事者にインタビューを行って得た情報を学生同士で共有し、ディスカッションすることを目的としているので、積極的な参加を前提とする。

授業の到達目標

自らの力で興味のある事象に対してさまざまな方法で調べ、調べた結果を論理的な文章にできるようにする。インタビューや取材などを行い、ルポルタージュを執筆、あるいはガイドブックをまとめられる編集スキルを身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　6月末と学期末にフィールドスタディのルポルタージュあるいは紀行文をレポートとして提出
●**平常点**　50%　　授業のディスカッションやフィールドスタディへの積極的参加
●**その他**　0%

備考・関連URL

●フィールドスタディについて
5/17（金）～19（日）「いわき万本桜」（福島県いわき市）
8/2（金）～4（日）「あいちトリエンナーレ」（愛知県名古屋市・豊田市）
上記日程で現地を訪問する。これらに参加できる人のみ履修登録できる。社会課題解決と地域振興を独自の手法で行っているこれらの地域を取材し、現地の作業を手伝うことで社会への視野を広げる。

●参加費用について
「いわき万本桜」の参加費は1万円程度。交通費は5000円（高速バス利用）～7000円（JR利用）前後。
「大地の芸術祭」の参加費は1万5000円程度。交通費は2500円（高速バス利用）～1万1000円（新幹線・JR利用）前後

※2つのフィールドスタディ参加は演習の単位取得には必須だが、なんらかの事情で1つしか参加できないながら本演習を履修したい場合は、ガイダンス時に相談すること。事情に応じて検討する。5/17（金）、5/18（土）にほかの授業を履修している場合の対応は応相談。2つとも参加できない場合は履修・単位取得不可とする。
※フィールドスタディのみ「文芸・ジャーナリズム論系演習（編集実践3）」との合同授業とする。

科目名	現代文芸講義6　ジャーナリズムの現場から考える							
担当者名	津田　大介							
現代文芸コース	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

報道、雑誌、文芸、編集の現場やノウハウを紹介し、実践的な取材にまつわるコミュニケーションスキルと、原稿の書き方を身につけることを目的とする。

演習では最初に具体的な取材のやり方と原稿の書き方を学び、次の段階で日本が抱える社会課題、地域振興にスポットを当て、創造的な課題解決や地域振興を行っている事例を紹介する。

座学で一方的に授業を聴くだけでは、社会に出たあとの実践的な応用力は身につかないため、この授業ではアクティブラーニングの手法を用いたフィールドスタディを学期中2回行う（フィールドスタディへの参加は必須。詳細は備考を参照のこと）。

授業は参加型で実施する。教わるだけでなく、自分で問題を調べ、当事者にインタビューを行って得た情報を学生同士で共有し、ディスカッションすることを目的としているので、積極的な参加を前提とする。

授業の到達目標

自らの力で興味のある事象に対してさまざまな方法で調べ、調べた結果を論理的な文章にできるようにする。インタビューや取材などを行い、ルポルタージュを執筆する編集スキルを身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　11月末と学期末にフィールドスタディのルポルタージュあるいは紀行文をレポートとして提出
●**平常点**　50%　　授業のディスカッションやフィールドスタディへの積極的参加
●**その他**　0%

備考・関連URL

●フィールドスタディについて
10/25（金）～27（日）「阿蘇」（熊本県南阿蘇村）
12/12（木）～15（日）「沖縄」（沖縄県沖縄本島）
上記日程で現地を訪問する。これらに参加できる人のみ履修登録できる。社会課題解決と地域振興を独自の手法で行っているこれらの地域を取材し、現地の作業を手伝うことで社会への視野を広げる。

●参加費用について
「阿蘇」の参加費は2万円程度。交通費は2万円（LCC利用）～5万円（JAL/ANA利用）前後。
「沖縄」の参加費は3万円程度。交通費は2万円（LCC利用）～5万円（JAL/ANA利用）前後
※2つのフィールドスタディ参加は演習の単位取得には必須だが、なんらかの事情で1つしか参加できないながら本演習を履修したい場合は、ガイダンス時に相談すること。事情に応じて検討する。10/25（金）、10/26（土）、12/12（木）、12/13（金）、12/14（土）にほかの授業を履修している場合の対応は応相談。2つとも参加できない場合は履修・単位取得不可とする。

※フィールドスタディのみ「文芸・ジャーナリズム論系演習（編集実践4）」との合同授業とする。

科 目 名	現代文芸講義9　2010年代（テン年代）小説論							
担当者名	佐々木　敦							
現代文芸コース	２単位	春学期	火曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

2010年代＝テン年代に発表された主として日本語小説を論じる。

授業の到達目標

現在形の／で「小説」を読むとは如何なることかを体得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%
●**平常点**　50%　　出席
●**その他**　0%

科 目 名	現代文芸講義10　中上健次とファロス・被差別部落・天皇制の問い							
担当者名	守中　高明							
現代文芸コース	２単位	春学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

戦後日本文学史における巨星であり、その早すぎた死によって「日本近代文学は終わった」（浅田彰）とすら言われた中上健次の作品群において、「ファロス」「被差別部落」「天皇制」がどのように問題化されているかを考察する。

前提としてフロイトによるセクシュアリティ理論、およびデリダによるその批判を概観したのち、『枯木灘』（1976年）において凝縮され、やがて『地の果て　至上の時』（1983年）において究極化する「ファロス」＝〈父〉の系譜学の問いを分析し、ついで作家におけるこの問いの宿命的土壌であった「被差別部落」が主題化された連作『千年の愉楽』（1982年）および特異な紀行文『紀州　木の国・根の国物語』（1978年）を読む。そして最後に「ファロス」と「被差別部落」の双方と分かちがたく結ばれた「天皇制」についての作家の固有の省察をその講演・対談等から抽出する。

われわれが20世紀に持ち得た最も鋭利な日本語作家の一人がその出自から不可避的に引き受けた三つの問いの読解をとおして、この国でなお現在進行形で存在し続ける根源的問題系を照射することを試みたい。

文芸批評・文学研究を志す人々のためには、文学作品を論ずる際にどのように理論的参照項を求め、どのように援用すべきか、その基本的技術を指南する機会ともするつもりである。文学を生きようとする人々のための生きたエクリチュールのレッスン。

授業の到達目標

すぐれた作家が、みずからの存在の深層からどのようにして資源を汲み上げ、しかし、その特殊性に還元されない普遍的地平へとどのように作品を生成させているかを、リアルに触知すること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　学期末にレポートを提出してもらう。作品の分析力、文章の構成力、理論およびその歴史的文脈の理解力などを総合的に評価する。
●**平常点**　50%　　発表の水準、および出席状況・教室での議論への参加の積極性を評価する。
●**その他**　0%　　特に考慮しない。

科 目 名	現代文芸講義11　二人であることの病――古井由吉・M.デュラス・金井美恵子をめぐって。							
担当者名	守中　高明							
現代文芸コース	２単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

戦後日本文学を牽引してきた小説家・古井由吉の初期の傑作『杳子』（1971年）と『聖』（1976年）、20世紀フランス文学の巨星マルグリット・デュラスの『死の病』（1982年）、そして今日の最もラディカルな日本語作家の一人・金井美恵子の同じく初期の傑作『夢の時間』（1970年）を読むことを通して、恋愛関係における「二人であることの病」の問題を考察する。

一方においてビンスヴァンガー、木村敏などの現存在分析系精神病理学の理論、および柄谷行人による他者論を参照し、他方においてJ.-L.ナンシー『無為の共同体』およびモーリス・ブランショ『明かしえぬ共同体』などのハイデガー以降の哲学における「共－存在」をめぐる理論、さらにはフロイトからラカンそしてデリダに至る精神分析理論をも参照しつつ、上記の3人の作家が見事に描き出す「二人であること」と「病むこと」の本質を多角的に分析・解読する。

情報テクノロジーの高度化にともなって、人間関係の根本的希薄化や「恋愛の不可能性」すらが語られる時代にあって、「二人」であることがいかに深く豊かな経験領域であり、さらには時としておよそ最も危険な（何にとって？誰にとって？）経験領域と化すかを、検証してみたい。

文芸批評・文学研究を志す人々のためには、文学作品を論ずる際にどのように理論的参照項を求め、どのように援用すべきか、その基本的技術を指南する機会ともするつもりである。

授業の到達目標

すぐれた小説作品が、いかにして精神病理学や哲学の諸概念をあらためて照射し、さらにそれらの概念をいかにして書くこと＝エクリチュール固有の力が解体し、乗り越えているかを理解すること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　学期末にレポートを提出してもらう。作品の分析力、文章の構成力、理論およびその歴史的文脈の理解

力などを総合的に評価する。
●**平常点**　50%　　教室での議論への参加の積極性・発表の水準、および出席状況等を総合的に評価する。
●**その他**　0%　　特に考慮しない。

備考・関連URL

この講義が目指すのは、いわゆる病跡学ではまったくない。逆に、書くこと＝エクリチュールという他の何ものにも還元不可能な領野において、「病むこと」と「治癒すること」が等価な経験として「二人」において交叉する根源的場面を指し示すことが目的である。このパラドクシカルな経験を、文学の課題として引き受けようとする意欲的な学生諸君の参加を期待する。

科目名	現代文芸講義12　エッセイから小説へ							
担当者名	伊藤　比呂美							
現代文芸コース	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

エッセイから小説へ。詩から小説へ。の流れを考えていく。みんなの発表をもとにやっていく。時に応じて、興味のおもむくままに、テーマを変えていくこともある。

授業の到達目標

自分の文学を知る。

成績評価方法

出席。意見。提出作品。課題発表。

科目名	現代文芸演習1-1　島崎藤村『夜明け前』精読							
担当者名	堀江　敏幸							
現代文芸コース	2単位	春学期	土曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

島崎藤村『夜明け前』第二部を精読しつつ、藤村の散文と個々の研究課題との共鳴を見出す。

授業の到達目標

長編小説全体の構造と細部の照応を、「現場」でたどる感覚を養い、21世紀における本作の現代性を理解する。

成績評価方法

出席、発表等、平常点を中心に評価する。

科目名	現代文芸演習1-2　島崎藤村『夜明け前』精読							
担当者名	堀江　敏幸							
現代文芸コース	2単位	秋学期	土曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

島崎藤村『夜明け前』第二部を精読しつつ、藤村の散文と個々の研究課題との共鳴を見出す。

授業の到達目標

長編小説全体の構造と細部の照応を、「現場」でたどる感覚を養い、21世紀における本作の現代性を理解する。

成績評価方法

出席、発言等、平常点を評価する。

備考・関連URL

学期末に機関誌の編集・および合評を行う。

科目名	現代文芸演習3-1　英語圏の小説/エッセイを精読し、翻訳する。							
担当者名	Ph.D. パリ第8大　　小野　正嗣							
現代文芸コース	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

V.S.ナイポールのエッセイ集*Literary Occasions*を読む。そのなかでもとりわけ自伝的な色彩の強いエッセイを対象にする。短いエッセイのものであれば、1回、長いものであれば、複数に分けて精読する。取り扱うエッセイのうちから、何篇かは翻訳を試みる。

授業の到達目標

旧植民地出身の作家の置かれた歴史的状況について考察を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席、発言、課題への取り組みを総合的に判断する。
●**その他**　0%

科目名	現代文芸演習3-2　英語圏の小説/エッセイを精読し、翻訳する。							
担当者名	Ph.D. パリ第8大　　小野　正嗣							
現代文芸コース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

V.S.ナイポールのエッセイ集 *The Writer and the World*から何編かを選んで読む。履修者は、それぞれのエッセイを理解するために必要な歴史的・文化的背景について調査し、報告する。取り扱うエッセイのうちから、何篇かは翻訳を試みる。

授業の到達目標
旧植民地出身の作家の書いた旅行記の特徴について考察を深める。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席、発言、課題への取り組みを総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	現代文芸演習4-1							
担当者名	小沼　純一							
現代文芸コース	２単位	春学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
実際に批評をおこなう心身があり、そのかたちとしての「批評文」がある。その双方を考えてゆく。
自らの生活のなかで、さまざまな批評的実践が「自然」化することをめざす。
たとえば石をなげて、その波紋がどう生じるか。出席者は水であり波紋であり、石は作品や教員のことばである。
そのインタラクティヴなありようを毎回に生かしたい。

授業の到達目標
自らの生活のなかで、さまざまな批評的実践が「自然」化することをめざす。

成績評価方法
参加度が成績に反映します。

備考・関連ＵＲＬ
自ら文章を書き、参加者に読んでもらい、講評する。
自分が発表するだけではなく、他者のものを読むことに意味がある。
そのため、出席は重視する。

科 目 名	現代文芸演習4-2							
担当者名	小沼　純一							
現代文芸コース	２単位	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
実際に批評をおこなう心身があり、そのかたちとしての「批評文」がある。その双方を考えてゆく。
自らの生活のなかで、さまざまな批評的実践が「自然」化することをめざす。
たとえば石をなげて、その波紋がどう生じるか。出席者は水であり波紋であり、石は作品や教員のことばである。
そのインタラクティヴなありようを毎回に生かしたい。

授業の到達目標
自らの生活のなかで、さまざまな批評的実践が「自然」化することをめざす。

成績評価方法
参加度が反映します。

備考・関連ＵＲＬ
自ら文章を書き、参加者に読んでもらい、講評する。
自分が発表するだけではなく、他者のものを読むことに意味がある。
そのため、出席は重視する。

科 目 名	現代文芸演習5-1　世界文学における翻訳							
担当者名	松永　美穂							
現代文芸コース	２単位	春学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
世界文学とは何かを考えるとき、それは翻訳された文学である、という言葉をよく耳にする。ある言語で書かれた文学作品が、他の言語に翻訳され、出版される過程とはどのようなものか。グローバリゼーションと出版資本主義のなかで働く力学に注目すると同時に、翻訳者や読者の存在も忘れるわけにはいかない。この演習ではダムロッシュの『世界文学とは何か』、モレッティの『遠読』、論文集『世界文学史はいかにして可能か』などを参照しつつ、世界文学における翻訳について考察する。また、日本語文学の英語への翻訳について、具体的な作品に当たりつつ検討していく。

授業の到達目標
世界文学という概念について各地で行われている議論に触れ、翻訳や出版についてさまざまな角度から考える。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　0%　　レポートの提出は必要ありません。
●**平常点**　100%　　出席プラス発表、授業への参加度
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	現代文芸演習5-2　翻訳を行う作家たちについて考える　――　創作と翻訳の関わりについて							
担当者名	松永　美穂							
現代文芸コース	２単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

外国文学から大きな影響を受け、文学の翻訳を通して新しい文体を作り上げていった近代の作家たちがいた。現代においても、創作の傍ら熱心に翻訳を行う作家たちがいる。作家にとっての翻訳が持つ意味を、彼らの創作・翻訳それぞれの作品を取り上げつつ考えていきたい。

授業の到達目標

近代・現代の日本語文学のなかで、翻訳を活発に行う作家たちの作品（創作・翻訳）に触れ、翻訳が創作に与える影響を考察する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はありません。
●**レポート**　0%　　レポートの提出はありません。
●**平常点**　100%　　出席＋発表、授業への参加度
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	現代文芸演習6-1　現代演劇を読む							
担当者名	水谷　八也							
現代文芸コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

受講者と相談の上、扱う戯曲を決めていきますが、最初はThornton Wilderの3分間劇の中から数編を翻訳しつつ、「演劇」について議論する予定です。

授業の到達目標

履修者が独自の視点をもって戯曲を批評できる精神を養うことが到達目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　0%　　なし。
●**その他**　100%　　演習内での発表、思考過程、学期末の作品論を総合して評価します。

備考・関連ＵＲＬ

以上は2019年1月6日現在の「予定」です。

科 目 名	現代文芸演習6-2　現代演劇を読む							
担当者名	水谷　八也							
現代文芸コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

受講者と相談の上、扱う戯曲を決めていきます。

授業の到達目標

履修者が独自の視点をもって戯曲を批評できる精神を養うことが到達目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　0%　　なし。
●**その他**　100%　　演習内での発表、思考過程、学期末の作品論を総合して評価します。

備考・関連ＵＲＬ

以上は2019年1月6日現在の「予定」です。

科 目 名	現代文芸演習7-1							
担当者名	市川　真人							
現代文芸コース	２単位	春学期	土曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

実践的な批評の執筆をめぐるプラクティスを行なう。テキストと批評の関係はもとより、批評の／としてのメディアや、その射程についてなど、複合的な要素を踏まえて書くこととは何かを実践に結びつけてゆく。

授業の到達目標

修士論文と同等の批評テキストの完成

成績評価方法

発表、執筆物、出席状況を複合して評価する。

科 目 名	現代文芸演習7-2							
担当者名	市川　真人							
現代文芸コース	２単位	秋学期	土曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

実践的な批評の執筆をめぐるプラクティスを行なう。テキストと批評の関係はもとより、批評の／としてのメディアや、その射程についてなど、複合的な要素を踏まえて書くこととは何かを実践に結びつけてゆく。

授業の到達目標

修士論文と同等の批評テキストの完成

成績評価方法

発表、執筆物、出席状況を複合して評価する。

科 目 名	現代文芸研究指導1-1　M　創造的読書から創作へ							
担当者名	堀江　敏幸							
現代文芸コース	—	春学期	土曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の主題と執筆の進展に応じて、個別に指導する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	現代文芸研究指導1-2　M　創造的読書から創作へ							
担当者名	堀江　敏幸							
現代文芸コース	—	秋学期	土曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の主題と執筆の進展に応じて、個別に指導する。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	現代文芸研究指導3-1　M　英語圏・仏語圏の文学テクストを批評的に読む。							
担当者名	Ph.D. パリ第8大　　小野　正嗣							
現代文芸コース	—	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の準備状況について、随時面接を行い、指導を行う。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%
- **その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	現代文芸研究指導3-2　M　英語圏・仏語圏の文学テクストを批評的に読む。							
担当者名	Ph.D. パリ第8大　　小野　正嗣							
現代文芸コース	—	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

修士論文の準備状況について、随時面接を行い、指導を行う。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%
- **その他**　0%

備考・関連URL
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	現代文芸研究指導4-1　M　多様な文化ジャンルに対する批評技法の研究							
担当者名	小沼　純一							
現代文芸コース	—	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
批評とは、任意の、自らが遭遇したものに対して抱く「なにか」がある言語的なかたちをなしたものであるから、さまざまな遭遇をここでは提示し、それをめぐって話をしたいと考える。
授業の到達目標
修士論文の完成をめざす。
成績評価方法
参加度が成績に反映します。
備考・関連URL
自ら文章を書き、参加者に読んでもらい、講評する。
自分が発表するだけではなく、他者のものを読むことに意味がある。
そのため、出席は重視する。

科 目 名	現代文芸研究指導4-2　M　多様な文化ジャンルに対する批評技法の研究							
担当者名	小沼　純一							
現代文芸コース	—	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
批評とは、任意の、自らが遭遇したものに対して抱く「なにか」がある言語的なかたちをなしたものであるから、さまざまな遭遇をここでは提示し、それをめぐって話をしたいと考える。
授業の到達目標
修士論文の完成をめざす。
成績評価方法
参加度が反映します。
備考・関連URL
自ら文章を書き、参加者に読んでもらい、講評する。
自分が発表するだけではなく、他者のものを読むことに意味がある。
そのため、出席は重視する。

科 目 名	現代文芸研究指導5-1　M　世界文学と翻訳							
担当者名	松永　美穂							
現代文芸コース	—	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の準備状況について、随時面接を行い、指導を行う。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	現代文芸研究指導5-2　M　世界文学と翻訳							
担当者名	松永　美穂							
現代文芸コース	—	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
修士論文の準備状況について、随時面接を行い、指導を行う。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	現代文芸研究指導6-1　M　近/現代演劇研究							
担当者名	水谷　八也							
現代文芸コース	—	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
受講者と相談の上、修士論文の指導をする。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	現代文芸研究指導6-2　M　近/現代演劇研究							
担当者名	水谷　八也							
現代文芸コース	—	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
受講者と相談のうえ、修士論文の指導をする。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	現代文芸研究指導7-1　M　現代メディアとそのコンテンツについての、構想及び批評をめぐる実践的指導							
担当者名	市川　真人							
現代文芸コース	—	春学期	土曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
各自の研究計画にあわせて指導を行います。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	現代文芸研究指導7-2　M　現代メディアとそのコンテンツについての、構想及び批評をめぐる実践的指導							
担当者名	市川　真人							
現代文芸コース	—	秋学期	土曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要
修士論文とその準備について、随時面接と指導を行う。
授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。
成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

中東・イスラーム研究コース

科 目 名	中東・イスラーム研究特論1　中世アラブ・イスラーム史研究							
担当者名	博士(史学)中大　　五十嵐　大介							
中東・イスラーム研究コース	２単位	春学期	木曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

本講義は、大学院で中東・イスラーム研究、特に中世アラブ・イスラーム史を研究する大学院生が、修士論文の完成に繋がるような専門性の高い知識を身につけることを目的とする。具体的には、講義と文献講読、それに基づくディスカッション、各自の研究発表などを行う。これらを通じて、専門の知識を体系的に習得し、それを実践に結びつける力を養うとともに、研究能力を研鑽し、修士論文を完成させる素地を身につける。

授業の到達目標

中世アラブ・イスラーム史に関する修士論文執筆のための専門的知識を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　0%　　行わない。
●**平常点**　100%　　授業内での講読、ディスカッション、発表の内容で評価します。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	中東・イスラーム研究特論2							
担当者名	博士(国際関係論)オックスフォード大　　佐藤　尚平							
中東・イスラーム研究コース	２単位	秋学期	木曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

中東・イスラーム研究の遂行に必要となる研究手法に慣れ親しみ、中東・イスラーム研究の最前線で国際発信する姿勢を涵養する。特に、中東地域とイギリス帝国の関係に注目する。授業では資料の輪読と受講生による発表を重視する。

授業の到達目標

中東・イスラーム研究の研究手法について自覚的に学習し、口頭発表を行い、学術的な著作の執筆や学術的な討議の仕方について実践的に学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　平常点による。
●**その他**　0%

科 目 名	中東・イスラーム研究特論3　The History of the Middle East and Europe, 600-1500							
担当者名	Ph.D. University of Edinburgh　　マレト　アレクサンデル　フィリップ　ジョン							
中東・イスラーム研究コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	―	―	―

授業概要

This course will explore the history of the Middle East and its relations with medieval Europe from the beginning of the Islamic movement in the early seventh century down to the end of the fifteenth century. As well as seeking to understand the politics, society, culture, and religion of the Middle East during this time, it will also explore the hostility and outright conflict that periodically flared up between Muslims and Christian Europe, most notably in the era of the Crusades, and will try to make sense of the extensive social, economic and cultural interactions that took place between the two. By exploring the complex reality of both the Islamic World and of Christian-Muslim relations in the medieval past, this course will help further understanding of modern tensions within the Islamic world and between it and the non-Muslim world.

授業の到達目標

By the end of the course, students are expected to:

- Have knowledge of the main events in Middle Eastern history in the period 600-1500
- Understand the main types of primary evidence, how to use them, and what their problems are
- Understand and be able to engage with modern scholarship on the subject
- Show awareness of how the events of this period continue to have a significant impact on the contemporary Muslim world.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　A 4,000-word essay based on one of the questions that will be supplied at the beginning of the course. The essay will be due by the end of the week of class 12.
●**平常点**　20%　　This is for participation in the class discussions through active and intelligent contributions. It is also based on evidence that the reading for each class has been done and understood.
●**その他**　0%

科 目 名	中東・イスラーム研究特論4　The History of the Middle East and Europe, 600-1500							
担当者名	Ph.D. University of Edinburgh　マレト　アレクサンデル　フィリップ　ジョン							
中東・イスラーム研究コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This course will explore the history of the Middle East and its relations with medieval Europe from the beginning of the Islamic movement in the early seventh century down to the end of the fifteenth century. As well as seeking to understand the politics, society, culture, and religion of the Middle East during this time, it will also explore the hostility and outright conflict that periodically flared up between Muslims and Christian Europe, and will try to make sense of the extensive social, economic and cultural interactions that took place between the two. It will also explore the ways in which various objects, cultural aspects, and scientific knowledge passed between them. By exploring the complex reality of both the Islamic World and of Christian-Muslim relations in the medieval past, this course will help further understanding of modern tensions within the Islamic world and between it and the non-Muslim world.

授業の到達目標

By the end of the course, students are expected to:

- Have knowledge of the main events in Middle Eastern history in the period 600-1500
- Understand the main types of primary evidence, how to use them, and what their problems are
- Understand and be able to engage with modern scholarship on the subject
- Show awareness of how the events of this period continue to have a significant impact on the contemporary Muslim world.

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　80%　A 4,000-word essay based on one of the questions that will be supplied at the beginning of the course. The essay will be due by the end of the week of class 12.

●**平常点**　20%　This is for participation in the class discussions through active and intelligent contributions. It is also based on evidence that the reading for each class has been done and understood.

●**その他**　0%

科 目 名	イラン・トルコ研究　シーア派（12イマーム・シーア派）の歴史と現在：イラン地域を中心に							
担当者名	博士(史学)慶大　杉山　隆一							
中東・イスラーム研究コース	２単位	春学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

現在信徒数が約15億と推定されるイスラームには、周知のとおり多数の分派が存在する。そのひとつで最大の分派であるシーア派（12イマーム・シーア派）は、信徒数は1億5千万人ほどと少数であるものの、西アジアの大国イランの国教となっていることもあり、中東およびイスラーム教徒が多数派を占める諸地域において大きな影響力を誇っている。この授業では、シーア派の誕生からその独自の宗教思想・共同体の発展、イラン地域での同派の前近代における拡大過程や近代化におけるその役割、加えて同国をはじめに西アジア一帯および国際政治にシーア派が与えている影響などを取り上げ、考察する。

授業の到達目標

シーア派（12イマーム・シーア派）に関する知識の習得を通して、イスラームの多様性の一端について理解を深めることを目標としたい。その上で、シーア派がイランの歴史・現在に与えてきた影響、さらには同派を視点の中心に据えて中東、西アジアの歴史と現在および国際関係の変化を見ることで、宗派という側面から地域とその政治がどう動いてきたのかに関しても考えてゆきたい。

成績評価方法

●**試験**　80%　原則、全15回の授業終了後に論述試験を実施する予定である。

●**レポート**　0%

●**平常点**　20%　出席状況の把握を兼ねて授業終了後にリアクションペーパーを記入・提出してもらう。授業に対する感想、疑問、質問などを書いてもらうが、その内容が良いものに関してはテストに加点する形で評価する。

●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

受講者数が少ない場合には、授業の進め方・成績評価法につき変更することがある。

科 目 名	南・東南アジアやアフリカのムスリム社会　東南アジアにおけるイスラームの展開							
担当者名	Ph.D. (Southeast Asian History)Australian National University　弘末　雅士							
中東・イスラーム研究コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

東南アジアにおけるイスラームの展開を、1）近世期における東西交易の活性化と港市国家の隆盛、2）植民地支配とムスリム、3）民族主義運動とイスラーム、4）グローバリセーション下の国民統合とイスラーム、の4つの観点から考察する。この地域が、多様な周辺世界との交流をとおして、独自のムスリム社会を形成してきたことに着目し、広域秩序と個別的な社会秩序の関係について検討する。

授業の到達目標

広域秩序原理としてのイスラームと個別的な社会を形成する秩序原理が、緊密に連関していることを理解する。両者を仲介する存在の重要性を考える。

成績評価方法
●**試験**　70%　　最終授業時の試験
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業への出席と、配布する用紙に記述された授業内容へのリスポンスを評価対象にします。
●**その他**　0%

科 目 名	中東・イスラームの宗教と思想1　イスラーム思想論1							
担当者名	小林　春夫							
中東・イスラーム研究コース	２単位	春学期	金曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要
イスラームにかんする基本知識を確認しながら、思想史のやや専門的内容について考察する。

授業の到達目標
イスラーム思想の多面性や内容について正確に理解する。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末レポート。授業の内容を踏まえ、発展的な内容になっていることを評価する。
●**平常点**　50%　　授業への積極的参加を評価する。また毎回のリアクションペーパーにより内容の理解度を確認する。
●**その他**　0%

科 目 名	中東・イスラームの宗教と思想2　イスラーム思想論2							
担当者名	小林　春夫							
中東・イスラーム研究コース	２単位	秋学期	金曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要
イスラーム思想の諸問題について、やや専門的に考察する。

授業の到達目標
イスラーム思想の特徴について理解を深める。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末レポートを課します。
●**平常点**　50%　　毎回のリアクションペーパーにより内容の理解度を確認します。
●**その他**　0%

科 目 名	中東の移民とイスラームの拡大　ヨーロッパと／のイスラームを中心にして							
担当者名	植村　清加							
中東・イスラーム研究コース	２単位	春学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
本講義では、中東からの人の移動を軸に、移民の生活世界からイスラームの拡大について考える。ここでは、各地からの移民によりイスラームが第二の宗教となっているフランスをはじめ、歴史的にもアクチュアリティにおいても中東からの移民と関係の深いヨーロッパのムスリム系移民に関する諸事例と、現代の多様な文化的、または社会・経済的な資料を用いて、ミクロかつグローバルな観点から、イスラームの広がりを研究する方法を扱う。移民の生活の場や、ヨーロッパの事例を挟むことで、各地域の個性とイスラームの関わり・現れ方の多様性に出会い、日本と中東の比較にとどまらない「広がり」を知る糸口をつかんでほしい。毎回の講義で中心的に扱うテーマの他に、視点を広げるエクササイズワークや受講コメントのフィードバックにより受講生相互の意見を参照しあう時間をとる。自分の「物事の見方」を知り、異なる生き方や新たな発想と結び付け、自分なりの研究テーマを発見してほしい。

授業の到達目標
・研究書の他、新聞記事・音楽・映画・漫画等の様々な文化的資料を通じて、「中東・イスラーム」世界の広がりを捉えられるようになること。
・移動する人びとと文化的・宗教的なイスラームの拡大から、文化の恣意性や構築的な側面を考察し、人々の生と関連づけてろらえられるようになること。また、「イスラームフォビア」のような、違いに向けられた衝突の構図とともに、イスラームの広がりのなかで示される共生の技法を諸事例から学ぶこと
・「マイノリティ」「移動する人びと」の生活の場から、私たちのいま・現代社会を捉えなおす力。

成績評価方法
●**試験**　50%　　第15回目の授業時間中に試験（ないしレポート試験）を実施し、理解度と達成度の確認を行う。
●**レポート**　0%　　事前事後学習として、平常点内で評価する。
●**平常点**　50%　　毎回の授業で提出するコメントシート、事前学習課題、授業内で用いるワークシート等の内容・積極性・貢献度から総合的に評価する。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ
事前学習やレポート課題の提出をCourse N@viで行うことがある。また、課題によっては授業内およびCourse N@vi内で受講生同士の課題の相互参照を行うことがある。

科 目 名	中東・イスラームの社会研究　ジェンダーをめぐる諸問題							
担当者名	博士(学術)東大　　後藤　絵美							
中東・イスラーム研究コース	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

イスラームにおけるジェンダーの問題は、中東各地の社会にとっても、また個々人の生活や人生にとっても重要なものとして、しばしば議論の俎上に載せられてきた。本講義ではそうした議論の具体的な内容に注目し、その検討を通して、イスラームや中東の諸社会への理解を深める。

前半ではイスラームとジェンダーの関わりを概観する。啓示の書であるクルアーンや預言者の言行録であるハディースといった「聖典」や、古典から現代までのイスラーム法を取り上げ、その中でジェンダーがどのように問題化してきたのかを検討する。後半では、ジェンダーをめぐって中東各地の社会で何が議論されてきたのかを、複数の主題について見ていく。

授業の到達目標

イスラームや中東の諸社会をどう理解しうるのか。ジェンダーという視覚を通して、この問いに対する自分なりの答えを見つけることが本講義の目標である。

成績評価方法

●**試験**　40%　　第14回で理解度の確認を行う
●**レポート**　40%　　各回の終わりに小レポートを提出する
●**平常点**　20%　　グループワークや授業内での発言などの貢献による
●**その他**　0%

科 目 名	中東・イスラームの政治経済　イスラーム主義から読み解く現代中東政治							
担当者名	博士(地域研究)京大　　横田　貴之							
中東・イスラーム研究コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

「アラブの春」後の中東諸国における政治変動は、世界の大きな注目を集めています。「アラブの春」後に顕著となった穏健派イスラーム主義運動の政治的台頭は、2013年のエジプトにおけるクーデタを契機に後退しました。最近では、「イスラーム国」など過激派イスラーム主義運動の活動が話題になっています。こうした混乱は中東諸国のみならず、周辺地域、さらには国際社会にも多大な影響を与えています。

本講義では、現代中東の政治・経済へ大きな影響を与えているイスラーム主義に着目することで、諸問題の背景・経緯・現状を考察します。授業では、必要最低限の知識・視座を習得した後、具体的事例に即して現代中東政治の実態解明を目指します。

授業の到達目標

中東諸国の政治・社会・経済に関する知識を深めつつ、20世紀以降の中東地域における多様かつ複雑な政治事象を理解することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　80%　　期末試験（論述式）
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　20%　　毎回、リアクションペーパーの提出を求め、良い回答が加点対象とします。 また、履修人数によっては、受講生にプレゼンを課す可能性もあります。

科 目 名	中東・イスラームの芸術と文学　『アラビアン・ナイト』の国の芸術と文学							
担当者名	小林　一枝							
中東・イスラーム研究コース	２単位	秋学期	水曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

正式名称を『千夜一夜物語』という『アラビアン・ナイト』は、アラビア語文学の金字塔のように思われているが、
実は中世ペルシア語（パフラヴィー語）の『千物語』を起源とする。
本講座では、『アラビアン・ナイト』と、イランの民族叙事詩である『王書（シャー・ナーメ）』という2つの文学作品を軸として、
イラク、シリア、エジプトを中心としたアラブ美術、および中央アジアやムガル時代のインドを含む
イラン（ペルシア）の芸術を絵画史を中心に概説していく。

授業の到達目標

最近の研究は、細分化された各国美術史を扱うことが多いが、地域・時代を超えて偏在するイスラーム美術の特質を理解することを第一義とする。

生物描写の禁忌の実態やその影響を、イラン・イラクを中心とした東方イスラーム世界における絵画史を概観することによって考察し、学期末には各自が問題意識をもってレポートを作成する。

ミクロの芸術である写本挿絵は、文学とも密接な関連をもつ。

それゆえ、挿絵史を通して中東の文学に親しみ、視覚芸術と併せて基礎知識を習得することを目標とする。

成績評価方法

60%
学期末レポート

40%
積極的な授業参加
読書課題
リアクション・ペーパー（学期中2、3回）

備考・関連URL

毎回、デジタル画像および動画を含む視聴覚資料を使用する予定である。

前後に講義がある学生多数のため
美術館見学会を行えないが、学生の希望によっては実施する可能性もある。
講義内容に、大きな変更はないが、講義内容に細かな変更はありえる。

科 目 名	中東・イスラーム研究演習1-1　イラン研究基礎演習も							
担当者名	博士(文学)東大　　近藤　信彰							
中東・イスラーム研究コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士課程において、レk史学・地域研究イラン研究を行うための基礎的な知識を身につける。具体的には、さまざまな工具の使い方を習得するとともに、受講者が自分のテーマについて行う発表、文献講読を組み合わせる。ペルシア語は最も重要なスキルであるので、必要に応じて、ペルシア語の文献講読を行う。

授業の到達目標

イラン研究において、修士論文にむけて、自らテーマを選択し、そのテーマについて研究を進めることができるようになる基礎力をつける。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　授業における研究発表、文献講読における授業の準備状況に応じて、評価する。
- **その他**　0%

備考・関連URL

ペルシア語を必要としない学生が出席した場合は、別の言語の文献の講読をおこなう。

科 目 名	中東・イスラーム研究演習1-2　イラン研究基礎演習も							
担当者名	博士(文学)東大　　近藤　信彰							
中東・イスラーム研究コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

修士課程において、レk史学・地域研究イラン研究を行うための基礎的な知識を身につける。具体的には、さまざまな工具の使い方を習得するとともに、受講者が自分のテーマについて行う発表、文献講読を組み合わせる。ペルシア語は最も重要なスキルであるので、必要に応じて、ペルシア語の文献講読を行う。

授業の到達目標

イラン研究において、修士論文にむけて、自らテーマを選択し、そのテーマについて研究を進めることができるようになる基礎力をつける。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　授業における研究発表、文献講読における授業の準備状況に応じて、評価する。
- **その他**　0%

備考・関連URL

ペルシア語を必要としない学生が出席した場合は、別の言語の文献の講読をおこなう。

科 目 名	中東・イスラーム研究演習2-1　中東の国際関係史							
担当者名	博士(国際関係論)オックスフォード大　　佐藤　尚平							
中東・イスラーム研究コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、中東の国際関係史を扱う。基礎的なテキストを輪読した後で、最新の研究状況を調査する。発展段階では、一次史料も検討する。学生による発表が中心となるが、随時、研究の現場を共有する。

授業の到達目標

学術論文を作成するための基礎的な方法論と作法を習得することを目的とする。まず中東の国際関係史についての研究の基礎的な知識を得た上で、最新の研究状況を調査する方法を学び、さらに一次史料を検討する研究能力を養う。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　発表を含む平常点により評価する。
- **その他**　0%

科 目 名	中東・イスラーム研究演習2-2　中東の国際関係史							
担当者名	博士(国際関係論)オックスフォード大　　佐藤　尚平							
中東・イスラーム研究コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、中東の国際関係史を扱う。基礎的なテキストを輪読した後で、最新の研究状況を調査する。発展段階では、一次

史料も検討する。学生による発表が中心となるが、随時、研究の現場を共有する。

授業の到達目標

学術論文を作成するための基礎的な方法論と作法を習得することを目的とする。まず中東の国際関係史についての研究の基礎的な知識を得た上で、最新の研究状況を調査する方法を学び、さらに一次史料を検討する研究能力を養う。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　発表を含む平常点により評価する。
- **その他**　0%

科 目 名	中東・イスラーム研究演習3-1　中世アラブ・イスラーム史演習							
担当者名	博士(史学)中大　　五十嵐　大介							
中東・イスラーム研究コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本演習は、中世アラブ・イスラーム史を研究する大学院生が、修士論文あるいは博士論文の執筆に必要な専門的な知識・技術を身につけることを目的とする。具体的には、①中世アラブ・イスラーム史に関するアラビア語の一次資料（歴史書・年代記）を講読し、史料の読み方を学ぶ、②中世アラブ・イスラーム史に関する英語の研究書を講読し、現在の研究動向と研究文献の読み方・まとめ方・発表の仕方を学ぶ。iこれらを通じて、専門の知識を体系的に習得し、それを実践に結びつける力を養うとともに、研究能力を研鑽し、修士論文／博士論文を完成させる素地を身につける。

授業の到達目標

中世アラブ・イスラーム史研究を深めるための知識・技術を身につける。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　100%　　担当部分の発表、史料・文献の理解度、および授業への貢献度によって評価する。
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	中東・イスラーム研究演習3-2　中世アラブ・イスラーム史演習							
担当者名	博士(史学)中大　　五十嵐　大介							
中東・イスラーム研究コース	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本演習は、中世アラブ・イスラーム史を研究する大学院生が、修士論文あるいは博士論文の執筆に必要な専門的な知識・技術を身につけることを目的とする。具体的には、①中世アラブ・イスラーム史に関するアラビア語の一次資料（寄進文書）を講読し、史料の読み方を深める、②中世アラブ・イスラーム史に関する英語の研究書（社会史関連）を講読し、現在の研究動向と研究文献の読み方・まとめ方・発表の仕方を深める。これらを通じて、専門の知識を体系的に習得し、それを実践に結びつける力を養うとともに、研究能力を研鑽し、修士論文／博士論文を完成させる素地を身につける。

授業の到達目標

中世アラブ・イスラーム史研究のための知識・技術を深める。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　100%　　担当部分の発表、史料・文献の理解度、および授業への貢献度によって評価する。
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	中東・イスラーム研究指導2-1　M　中東の国際関係史							
担当者名	博士(国際関係論)オックスフォード大　　佐藤　尚平							
中東・イスラーム研究コース	—	春学期	火曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

研究発表、受講者による討論、論文執筆指導などによって、修士論文の完成に向けた指導を行う。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	中東・イスラーム研究指導2-2　M　中東の国際関係史							
担当者名	博士(国際関係論)オックスフォード大　　佐藤　尚平							
中東・イスラーム研究コース	—	秋学期	火曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

研究発表、受講者による討論、論文執筆指導などによって、修士論文の完成に向けた指導を行う。

授業の到達目標

修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	中東・イスラーム研究指導3-1　M　イスラーム中世史研究							
担当者名	博士（史学）中大　　五十嵐　大介							
中東・イスラーム研究コース	—	春学期	火曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
本授業は、文学研究科中東・イスラーム研究コース修士課程の研究指導である。中世アラブ・イスラーム史を志す学生が、自らの研究テーマに関する様々なトピックについて持ち回りで報告する。受講者は修士論文執筆までの全体的な研究スケジュールを作成し、それに基づいて先行研究のサーベイ、重要な研究文献の批評・紹介、史料の講読、修士論文構想発表と順を追って報告し、皆で議論する。iこれらを通じて、専門の知識を体系的に習得し、それを実践に結びつける力を養うとともに、修士論文を完成させる素地を身につける。それを通じ、専門の知識を体系的に習得し、それを実践に結び付ける力を形成することを目的とする。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	中東・イスラーム研究指導3-2　M　イスラーム中世史研究							
担当者名	博士（史学）中大　　五十嵐　大介							
中東・イスラーム研究コース	—	秋学期	火曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
本授業は、文学研究科中東・イスラーム研究コース修士課程の研究指導である。中世アラブ・イスラーム史を志す学生が、自らの研究テーマに関する様々なトピックについて持ち回りで報告する。受講者は修士論文執筆までの全体的な研究スケジュールを作成し、それに基づいて先行研究のサーベイ、重要な研究文献の批評・紹介、史料の講読、修士論文構想発表と順を追って報告し、皆で議論する。iこれらを通じて、専門の知識を体系的に習得し、それを実践に結びつける力を養うとともに、修士論文を完成させる素地を身につける。それを通じ、専門の知識を体系的に習得し、それを実践に結び付ける力を形成することを目的とする。

授業の到達目標
修士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	中東・イスラーム研究指導1-1　D　中東・イスラーム社会史研究							
担当者名	博士（文学）東大　　大稔　哲也							
中東・イスラーム研究コース	—	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
優れた博士論文を完成させる能力を涵養すべく、できる限りきめ細やかに個別的な指導を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	中東・イスラーム研究指導1-2　D　中東・イスラーム社会史研究							
担当者名	博士（文学）東大　　大稔　哲也							
中東・イスラーム研究コース	—	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
優れた博士論文を完成させる能力を涵養すべく、できる限りきめ細やかに個別的な研究指導を行う。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	中東・イスラーム研究指導2-1　D　中東の国際関係史							
担当者名	博士(国際関係論)オックスフォード大　　佐藤　尚平							
中東・イスラーム研究コース	—	春学期	火曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

研究発表と論文執筆指導などによって、博士論文の完成に向けた指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	中東・イスラーム研究指導2-2　D　中東の国際関係史							
担当者名	博士(国際関係論)オックスフォード大　　佐藤　尚平							
中東・イスラーム研究コース	—	秋学期	火曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

研究発表と論文執筆指導などによって、博士論文の完成に向けた指導を行う。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	中東・イスラーム研究指導3-1　D　イスラーム中世史研究							
担当者名	博士(史学)中大　　五十嵐　大介							
中東・イスラーム研究コース	—	春学期	火曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本授業は、文学研究科中東・イスラーム研究コース博士課程の研究指導である。中世アラブ・イスラーム史を志す学生が、自らの研究テーマに関する様々なトピックについて持ち回りで報告する。受講者は博士論文執筆までの全体的な研究スケジュールを作成し、それに基づいて先行研究のサーベイ、重要な研究文献の批評・紹介、史料の講読、博士論文構想発表と順を追って報告し、皆で議論する。それらを通じ、研究能力を研鑽し、専門性の高い知識を身に着けながら、最終的には博士論文の作成につなげる。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	中東・イスラーム研究指導3-2　D　イスラーム中世史研究							
担当者名	博士(史学)中大　　五十嵐　大介							
中東・イスラーム研究コース	—	秋学期	火曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本授業は、文学研究科中東・イスラーム研究コース博士課程の研究指導である。中世アラブ・イスラーム史を志す学生が、自らの研究テーマに関する様々なトピックについて持ち回りで報告する。受講者は博士論文執筆までの全体的な研究スケジュールを作成し、それに基づいて先行研究のサーベイ、重要な研究文献の批評・紹介、史料の講読、博士論文構想発表と順を追って報告し、皆で議論する。それらを通じ、研究能力を研鑽し、専門性の高い知識を身に着けながら、最終的には博士論文の作成につなげる。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	中東・イスラーム研究指導4-1　D　トルコ近代史研究							
担当者名	博士(文学)東大　　小松　香織							
中東・イスラーム研究コース	—	春学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

オスマン帝国近代史を研究対象として、院生各自の問題関心や研究テーマを考慮しつつ公文書や定期刊行物などさまざまな種類のオスマン・トルコ語史料を読み、博士論文作成に向けて指導をおこなう。

授業の到達目標

※博士論文作成に必要な一次史料の読解力を修得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。

●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　100%　　史料講読の能力に応じて評価する。
●**その他**　0%　　特に無し。

科 目 名	中東・イスラーム研究指導4-2　D　トルコ近代史研究							
担当者名	博士(文学)東大　　小松　香織							
中東・イスラーム研究コース	—	秋学期	木曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要

オスマン帝国近代史を研究対象として、院生各自の問題関心や研究テーマを考慮しつつ公文書や定期刊行物などさまざまな種類のオスマン・トルコ語史料を読み、博士論文作成に向けて指導をおこなう。

授業の到達目標

※博士論文作成に必要な一次史料の読解力を修得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。※
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　100%　　史料講読の能力に応じて評価する。
●**その他**　0%　　特に無し。

国際日本学コース

科 目 名	国際日本学コースワーク1　Coursework with Japanese Language Materials							
担当者名	リーブズ　クリストファー　他／高井　詩穂／由尾　瞳							
国際日本学コース	—	春学期	水曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This course aims at providing students with the necessary knowledge and skills with which to engage in high-level research, using both Japanese- and English-language materials, with other scholars on an international scale. To this end, students participating in this course will be introduced to a broader, more far-ranging understanding of both their own as well as other related fields. Examination of a number of different approaches and methodologies to the study of Japanese literature and culture will serve as a means of encouraging students to become more adaptable and dynamic in their own research. Moreover, an intimate acquaintance with Japanese-language materials will supply students with a rich set of skills that will be of immense value in their future work.

授業の到達目標

This course aims at fostering in students the knowledge, methodology, and relevant skills necessary to engage in international research and other scholarly activities.

成績評価方法

Students will be evaluated based on the following three factors:

1. Weekly attendance and active participation in class discussions: 30%
2. Weekly in-class short (10 minute) presentations, or other similar assignments: 30%
3. Written reports, or other assignments determined by instructors: 40%

In exceptional cases, such as unavoidable absence from class, students will be given the opportunity to submit extra work in order to make up for lost marks. Such arrangements may be made on an individual basis with the instructor.

科 目 名	国際日本学コースワーク2　Coursework with Japanese Language Materials							
担当者名	リーブズ　クリストファー　他／高井　詩穂／由尾　瞳							
国際日本学コース	—	秋学期	水曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This course aims at providing students with the necessary knowledge and skills with which to engage in high-level research, using both Japanese- and English-language materials, with other scholars on an international scale. To this end, students participating in this course will be introduced to a broader, more far-ranging understanding of both their own as well as other related fields. Examination of a number of different approaches and methodologies to the study of Japanese literature and culture will serve as a means of encouraging students to become more adaptable and dynamic in their own research. Moreover, an intimate acquaintance with Japanese-language materials will supply students with a rich set of skills that will be of immense value in their future work.

授業の到達目標

This course aims at fostering in students the knowledge, methodology, and relevant skills necessary to engage in international research and other scholarly activities.

成績評価方法

Students will be evaluated based on the following three factors:

1. Weekly attendance and active participation in class discussions: 30%
2. Weekly in-class short (10 minute) presentations, or other similar assignments: 30%
3. Written reports, or other assignments determined by instructors: 40%

In exceptional cases, such as unavoidable absence from class, students will be given the opportunity to submit extra work in order to make up for lost marks. Such arrangements may be made on an individual basis with the instructor.

備考・関連URL

Students in this course will be given either a P (pass) or a Q (fail). Those students who complete all assigned work in a timely manner and demonstrate sufficient understanding of the material dealt with throughout the course will receive a P.

科 目 名	国際日本学コースワーク3　日本語によるコースワーク							
担当者名	博士(文学)早大　　塩野　加織							
国際日本学コース	—	春学期	火曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

国内外の日本学研究の諸論考を読み、そこでの考察内容や研究方法に関する議論を行った上で、受講者が自分の研究テーマに接続可能な視点を見出していく。学期前半は課題文献の講読を中心とし、後半では受講者各自がテーマを設定し発表する演習形式で進める。

授業の到達目標
この授業では、受講者が日本学研究の様々な研究方法を学んだ上で各自のテーマに即した調査分析を行い、論文にまとめるスキルを修得することを到達目標とする。

成績評価方法
- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　授業への取り組み（発表内容や提出課題等含む）を総合的に評価する。
- **その他**　0%

科 目 名	国際日本学コースワーク4　日本語によるコースワーク							
担当者名	博士（文学）早大　　塩野　加織							
国際日本学コース	—	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
国内外の日本学研究の諸論考を読み、そこでの考察内容や研究方法に関する議論を行った上で、受講者が自分の研究テーマに接続可能な視点を見出していく。学期前半は課題文献の講読を中心とし、後半では受講者が各自のテーマについて報告・論文執筆する演習形式で進める。

授業の到達目標
この授業では、受講者が日本学研究の様々な研究方法を学んだ上で各自のテーマに即した調査分析を行い、論文にまとめるスキルを修得することを到達目標とする。

成績評価方法
- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　授業への取り組み（発表内容や提出課題等含む）を総合的に評価する。
- **その他**　0%

科 目 名	国際日本学研究指導1-1　D　Modern and Contemporary Japanese Literature and Culture　日本近現代文学・文化							
担当者名	博士（日本文学）コロンビア大　　由尾　瞳							
国際日本学コース	—	春学期	水曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
英語・日本語両言語により、課程内で博士論文を仕上げられるよう、個別指導を中心に進める。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	国際日本学研究指導1-2　D　Modern and Contemporary Japanese Literature and Culture　日本近現代文学・文化							
担当者名	博士（日本文学）コロンビア大　　由尾　瞳							
国際日本学コース	—	秋学期	水曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
英語・日本語両言語により、課程内で博士論文を仕上げられるよう、個別指導を中心に進める。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	国際日本学研究指導2-1　D　Modern and Contemporary Japanese Literature and Culture　日本近現代文学・文化							
担当者名	十重田　裕一　他／榊原　理智							
国際日本学コース	—	春学期	水曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
英語・日本語両言語により、課程内で博士論文を仕上げられるよう、個別指導を中心に進める。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	国際日本学研究指導2-2　D　Modern and Contemporary Japanese Literature and Culture　日本近現代文学・文化							
担当者名	十重田　裕一　他／榊原　理智							
国際日本学コース	—	秋学期	水曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
英語・日本語両言語により、課程内で博士論文を仕上げられるよう、個別指導を中心に進める。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	国際日本学研究指導3-1　D《エメリック　マイケル》Japanese Literature　日本文学　《陣野　英則》Heian literature　平安時代文学							
担当者名	陣野　英則　他／エメリック　マイケル							
国際日本学コース	—	春学期	水曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
英語・日本語両言語により、課程内で博士論文を仕上げられるよう、個別指導を中心に進める。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	国際日本学研究指導3-2　D《エメリック　マイケル》Japanese Literature　日本文学　《陣野　英則》Heian literature　平安時代文学							
担当者名	陣野　英則　他／エメリック　マイケル							
国際日本学コース	—	秋学期	水曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
英語・日本語両言語により、課程内で博士論文を仕上げられるよう、個別指導を中心に進める。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	国際日本学研究指導4-1　D《ルーリー　ディヴィッド》Japanese History and Literature　上代日本文学、前近代日本文化史《河野　貴美子》Comparative literature, ancient Chinese books in Japan　和漢比較文学、和漢古文献研究							
担当者名	河野　貴美子　他／ルーリー　ディヴィッド							
国際日本学コース	—	春学期	水曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
英語・日本語両言語により、課程内で博士論文を仕上げられるよう、個別指導を中心に進める。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	国際日本学研究指導4-2　D《ルーリー　ディヴィッド》Japanese History and Literature　上代日本文学、前近代日本文化史《河野　貴美子》Comparative literature, ancient Chinese books in Japan　和漢比較文学、和漢古文献研究							
担当者名	河野　貴美子　他／ルーリー　ディヴィッド							
国際日本学コース	—	秋学期	水曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
英語・日本語両言語により、課程内で博士論文を仕上げられるよう、個別指導を中心に進める。

授業の到達目標
修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法
研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	国際日本学研究指導5-1　D《嶋崎　聡子》Japanese theater and literature　日本演劇、文学《児玉　竜一》Theater studies, history of performing arts　演劇学、芸能史							
担当者名	児玉　竜一　他／嶋崎　聡子							
国際日本学コース	—	春学期	水曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要
演劇学、芸能史の領分に関わる博士論文執筆の指導を行う。
日米双方での方法論を参照しながら、原資料を解読する力量を涵養し、幅広い視野の獲得をめざす。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

科 目 名	国際日本学研究指導5-2 D《嶋崎　聡子》Japanese theater and literature　日本演劇、文学《児玉　竜一》Theater studies, history of performing arts　演劇学、芸能史							
担当者名	児玉　竜一　他／嶋崎　聡子							
国際日本学コース	—	秋学期	水曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

演劇学、芸能史の領分に関わる博士論文執筆の指導を行う。

日米双方での方法論を参照しながら、原資料を解読する力量を涵養し、幅広い視野の獲得をめざす。

授業の到達目標

修業年限以内での博士論文の完成を到達目標とする。

成績評価方法

研究指導の成績評価については、その成績をPQの二級に分かち、Pを合格、Qを不合格とする。所定の研究指導を登録して指導を受けることをもってP（合格）とする。

共通科目（講義）

科 目 名	ギリシャ・ラテン文学1　文学の中の英雄伝説とギリシャ神話							
担当者名	博士(文学)京大　　宮城　徳也							
共通授業科目	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

西洋文学の根幹である西洋古典文学（ギリシャ・ラテン文学）の概要を理解した上で、「英雄伝説」を中核として、ギリシャ神話、叙事詩、悲劇、喜劇、ローマ文学における「英雄伝説」の意味と後世への影響を考える。有名な「英雄」を取り上げ，彼らがどのように文学で扱われているかを整理し，後世への影響を考察する。

授業の到達目標

「英雄伝説」を通して、ギリシャ・ラテン文学の全体を視野に入れつつ、その後世への影響をも考察する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　レポートと平常点で評価
●**レポート**　40%　　学期末に3000字程度で、学習と研究の成果の報告を求める
●**平常点**　60%　　授業での、学習と議論を平常点として評価する
●**その他**　0%　　レポートと平常点で評価

備考・関連ＵＲＬ

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	ギリシャ・ラテン文学2　「英雄伝説と「歴史」,「伝記」							
担当者名	博士(文学)京大　　宮城　徳也							
共通授業科目	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

ギリシャ神話の英雄伝説が、ギリシャ文学、ローマ文学おいてどのように取り上げられたかを，「歴史」、「伝記」を通じて考える。その際に，伝説上の人物と実在の歴史的人物の両方を取り上げ、「歴史」、「伝説」、「神話」が古代人にそれぞれどのように意識されていたかも合わせて考察する。古代陶器，古代彫刻をも資料として、文学と視覚芸術の双方に取り上げられた「英雄」たちの姿を可能な限り浮き彫りにする。

授業の到達目標

古代文学と視覚芸術（陶器画と彫刻）に表現された「神話」、「伝説」、「歴史」を考察する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　レポートと平常点で評価
●**レポート**　40%　　学期末に3000字程度で、学習と研究の成果の報告を求める
●**平常点**　60%　　授業での、学習と議論を平常点として評価する
●**その他**　0%　　レポートと平常点で評価

備考・関連ＵＲＬ

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	比較文学1							
担当者名	源　貴志							
共通授業科目	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

日本近代文学へのロシア文学の影響について、二葉亭四迷の仕事を詳しく見ることによって総合的な検討を行なう。

とくに、二葉亭による翻訳作品の選定の問題を、二葉亭の生涯や、ロシアの文学史、同時代のヨーロッパ文学との関係などから多角的に検討する。なお、翻訳作品選定の問題に関しては、森鴎外によるヨーロッパ文学の翻訳の仕事にも注目する。

さらに広く、ヨーロッパ文学の翻訳が日本近代文学のなかに占めた重要性についてもできるだけ考察を及ぼしたい。

授業の到達目標

比較文学研究のなかの重要なテーマとしての、外国文学の日本文学への影響の問題を、できるだけ多角的に理解できるようにする。また、研究上の文献の取扱いの問題についても、基本的な理解が得られるようにする。

成績評価方法

各自執筆中の修士論文のテーマに添って、講義に触発された内容でのレポートを提出してもらう。

備考・関連ＵＲＬ

ロシア語の知識は必要なし。西洋文学の日本文学への影響について関心ある人ならば歓迎します。

科 目 名	比較文学2　日本の「現代詩」を読む							
担当者名	堀内　正規							
共通授業科目	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

この授業は、演習形式で、参加するみなさんといっしょに、日本の第二次大戦後の詩、いわゆる「現代詩」と呼ばれるジャンルの詩の作品を、実際に読んでゆくクラスです。日本文学に関心のある方で、現代詩はちょっと苦手、とかいままであまり縁がなかった、とかといった方たちにも、予備知識を必要とせずに、自由に言葉を読んで、感じたことや考えたことを、臆せず話してもらい、ともに考えたいと思っています。（詩に深い関心がある方や、現代詩にも精通している方はもちろん大歓迎です。）毎週、一人の詩人を取り上げて、事前に印刷して配布しておいた幾つかの詩を、みなさんにも教室に来る前に読んできていただいて、ディスカッションができればいいと考えています。どんな稚拙なことでも、素朴なことでも大丈夫です。

第二次大戦終了が1945年、もう遥か昔の時代になりましたが、日本の詩の伝統というか、ある種の影響関係にもとづくつながりは、現代にまで及んでいます。とりあえず「荒地派」の鮎川信夫、田村隆一あたりから始めて、そうですね、1960年代にデビューした重要な詩人たちの代表的な詩を読んでいきましょう。時代について、戦後日本について、詩とは何かについて、あるいはひとの生をどう捉えるかなどなど、様々な問題にアプローチできるような授業にしましょう。
（以下の予定は仮のものなので、実際には変更の可能性もあります。）

授業の到達目標
戦後日本の詩について、読みの実践を通じて、理解を深める。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　論理性・洞察力・感受性。
●**平常点**　50%　　教室での参加度。出席は3分の2以上を必須とします。
●**その他**　0%

科 目 名	美学特論1　西洋近代美学の根本問題（1）「美の理論」							
担当者名	博士（美術）東京芸術大　　小川　真人							
共通授業科目	２単位	春学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
この講義は、Aesthetica（美学）という学問領域が創建された西洋近代における美についての考え方を、近代美学に先行する古代および中世との対照から、また、現代美学に顕著な近代批判的ないし脱近代的傾向も考慮しつつ、場合によっては日本美学との比較から、批判的に検討しようとするものです。具体的には、近代美学を理論的に構成する基本的諸題目に関して鍵と目されるテクストを選び、その読解検討を進めて、近代美学の基本構造を考察します。

授業の到達目標
西洋近代美学における美の思想の基本的特徴について、具体的な美学理論や思想家にふれながら、わかりやすく説明することができることをこの授業の到達目標とします。

成績評価方法
●**試験**　50%　　第15回目の授業時間中に試験（論述）を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　30%　　レポート課題は第八回目の授業で提示します。テーマについて講義内容と深く関連づけて分かりやすく論じているかどうかを評価します。
●**平常点**　20%　　授業に積極的に取り組んでいるかどうかを、随時、小レポート等で評価します。
●**その他**　0%　　とくになし。

備考・関連ＵＲＬ
授業で検討するテクストや作品等の分量を調整。また、用語などの説明の必要性がある場面が増加することを念頭に置き、厳選した検討素材をこれまで以上に丁寧に扱うようにする。

科 目 名	美学特論2　西洋近代美学の根本諸問題（2）「芸術概念と近代美学」							
担当者名	博士（美術）東京芸術大　　小川　真人							
共通授業科目	２単位	秋学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要
この講義は、「芸術」の概念を軸に西洋近代美学の思想構造を考察します。近代美学は芸術という概念の確立に多大な寄与を果たしましたが、現代において近代的な芸術概念は厳しい批判に晒されることもしばしばです。この授業では、近代的芸術概念の成立と展開を、それに対する現代的批判を意識しつつ、主要な理論や思想を取り上げながら批判的に検討します。

授業の到達目標
西洋近代美学における近代的芸術概念について、具体的な芸術哲学や思想にふれながら、わかりやすく説明することができることをこの授業の到達目標とします。

成績評価方法
●**試験**　50%　　第15回目の授業時間中に試験（論述形式）を実施し、理解度の確認をおこないます。
●**レポート**　30%　　課題は第7回目の授業で提示します。講義の内容との関連づけて分かりやすく論述しているかどうかを評価します。
●**平常点**　20%　　随時小レポートを課すなどして、授業への積極性などを評価します。
●**その他**　0%　　とくになし。

備考・関連ＵＲＬ
授業で扱うテクストや作品等の分量を調整。用語等の説明が必要な場面が増加することを念頭に置き、これまで以上に丁寧に授業を進行させる。

科 目 名	宗教学特論1　トマス・アクィナス『定期討論集：徳について』を読む							
担当者名	博士（文学）京大　　辻内　宣博							
共通授業科目	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要
13世紀の神学者であるトマス・アクィナスの『定期討論集：徳について』を読むことによって，アクィナスの「徳理論」を体系的に提示する。
アクィナスは，アリストテレス哲学の枠組みを使いながらも，それを哲学的・自然本性的・現世的な世界観に留めることなく，神学的・超自然本性的・来世的な世界観へと連ねて展開している。
こうしたアクロバティックな展開がなぜ可能になるのかを考えてみるために，まずは，徳そのものの在り方をアクィナスがどのように考えていたのかを体系的に概観する。

授業の到達目標

アクィナスが徳について体系的に論じている『定期討論集：徳について』での議論の展開を精密に分析し，アクィナスの徳に関する哲学的理論を素描することを目指す。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　70%　　講義内容の視点と絡めて，深く考察しているかどうかを評価する。
- **平常点**　30%　　授業への参加度を評価する。
- **その他**　0%

備考・関連URL

講義要項やWebシラバスの記載内容は，登録された受講生の人数や理解度，進捗度に応じて，授業開始後に変更となる可能性があります。

科 目 名	宗教学特論2　トマス・アクィナス『定期討論集：枢要徳について』を読む							
担当者名	博士(文学)京大　　辻内　宣博							
共通授業科目	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

13世紀の神学者であるトマス・アクィナスの『定期討論集：枢要徳について』を読むことによって，アリストテレス的な現実世界での徳と神学的な徳との関係について考察する。

アクィナスは，アリストテレス哲学の枠組みを使いながらも，それを哲学的・自然本性的・現世的な世界観に留めることなく，神学的・超自然本性的・来世的な世界観へと連ねて展開している。

こうしたアクロバティックな展開がなぜ可能になるのかを考えてみるために，現実世界での枢要徳の在り方と神学的な徳との関係をアクィナスがどのように考えていたのかを体系的に概観する。

授業の到達目標

アクィナスが枢要徳について体系的に論じている『定期討論集：枢要徳について』での議論の展開を精密に分析し，枢要徳と神学的徳との関係に関するアクィナスの神学／哲学的理論を素描することを目指す。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　70%　　講義内容の視点と絡めて，深く考察しているかどうかを評価する。
- **平常点**　30%　　授業への参加度を評価する。
- **その他**　0%

備考・関連URL

講義要項やWebシラバスの記載内容は，登録された受講生の人数や理解度，進捗度に応じて，授業開始後に変更となる可能性があります。

科 目 名	言語学特論1　比較の手法と構造分析を理解する							
担当者名	森田　彰							
共通授業科目	２単位	春学期	木曜日	６時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本特論は、言語（学）を専攻しようとする学生だけでなく、特に言語（学）を専攻はしていないが、言語と関係する研究分野を専攻する、あるいは専攻しようとしている学生を対象に、言語を対象とした比較の方法論、構造分析の手法について解いていく。この二つの方法は、いかなる科学的分析にも必要な方法である。

具体的には、近代的言語学発祥とともに始まった「比較文法」あるいは、「比較言語学」の概要を見ることによって、言語探求とそこにおける比較の方法について学ぶ。次に、履修者全員が知識を持つであろう英語と日本語から主な例をひき、構造とは何かを明確に定義し、この定義に基づいて、言語における構造の何たるかを考察する。この考察の過程に用いる例は、主に英語と日本語からとるので、必然的に英語と日本語の構造についての理解を深めていくことになる。また、欧州の言語については、履修者が専攻するものについても触れることがある。

最終的には、科学的手法による比較と構造分析によって、何が可能になるかを考えていく。また、その中の重要な手法「記述」とはどう言うことかを知る。但し、大学院の特論なので、履修者が問題意識を持ち、積極的に関わってくれれば、柔軟に対処したい。

授業の到達目標

科学における比較の手法について理解する。
構造とは何かを理解する。
言語における構造とは何かを理解し、構造分析の手法を理解する。
比較、構造分析という科学的手法によって何が可能かが理解できる。
科学的手法の一つ、「記述」とは何かを理解する。

成績評価方法

評価の方法は、履修者の人数、基礎知識の程度によって異なるが、毎回の講義への参加度が重要な評価の対象となる。また、レポートを課すので、これも大切な評価対象である。

備考・関連URL

事前の知識は特に必要としないが、言語に対し興味を持続して欲しい。言語事実を理解した上で、理論を身につけるようにして欲しい。第1回の講座には必ず出席すること。かなわぬ場合は、moritaforstudents@gmail.com に連絡してください。

授業計画に示した項目は、主たる話題であって、これも履修者によって柔軟な対応があり得る。

なお、履修者の人数等によるが、11号館13階の森田研究室で講義を行う。

機会を得て、他学年、他校学生との交流会も設ける予定。

科 目 名	倫理学特論1　生命倫理の問題に直面して人間観を再考する							
担当者名	村松　聡							
共通授業科目	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

倫理学・応用倫理学の研究にとっての必須な哲学論文を取り上げ、生命、環境、社会などの広範なテーマについて考える。今年は、生命倫理と深く関わるテーマ、人間の尊厳、自然と人間の関わり、生命観などを取り上げる。

テキストは参加者と相談のうえ決定するが、現在、以下のようなのテキストからいくつかの論文を取り上げる予定である。いずれも、日本語訳を主とするので、ドイツ語を習得していない学生、英語に自信のない学生でも参加可能である。

ジープ/バイエルツ/クヴァンテ、『ドイツ応用倫理学の現在』、ナカニシヤ出版
クヴァンテ、『人間の尊厳と人格の自律』、法政大学出版局　ビルンバッハー『自然と利害関心の間』、法政大学出版局

授業の到達目標

現代の具体的な倫理的問題にどのように　哲学的理解が資することができるかを学ぶことが大きな目標である。

成績評価方法

まず、授業に三分の二以上出ていることが必須条件。その上で、日常点40%、レポート60%で評価する。

備考・関連ＵＲＬ

倫理学についての専門的な知識と理解についてはその都度説明するので、前提としない。哲学的に理解する力、合理的に考える能力があれば理解に困難なことはないだろう。

科 目 名	倫理学特論2　生命倫理の問題に直面して人間観を再考する							
担当者名	村松　聡							
共通授業科目	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

倫理学・応用倫理学の研究にとっての必須な哲学論文を取り上げ、生命、環境、社会などの広範なテーマについて考える。

前期に続いて、生命倫理と深く関わるテーマ、人間の尊厳、自然と人間の関わり、生命観などを取り上げる。

テキストは参加者と相談のうえ決定するが、現在、以下のようなのテキストからいくつかの論文を取り上げる予定である。いずれも、日本語訳を主とするので、ドイツ語を習得していない学生、英語に自信のない学生でも参加可能である。

ジープ/バイエルツ/クヴァンテ、『ドイツ応用倫理学の現在』、ナカニシヤ出版
クヴァンテ、『人間の尊厳と人格の自律』、法政大学出版局
ビルンバッハー『自然と利害関心の間』、法政大学出版局

授業の到達目標

現代の倫理的問題にどのように　哲学的理解が資することができるかを学ぶことが大きな目標である。

成績評価方法

まず、授業に三分の二以上出ていることが必須条件。その上で、日常点40%、レポート60%で評価する。

備考・関連ＵＲＬ

倫理学についての専門的な知識と理解については、その都度説明する。哲学的に理解する力、合理的に考える能力があれば理解に困難なことはないだろう。

科 目 名	人類学特論1　文化人類学の視座：学説史の回顧を通して							
担当者名	博士（文学）東北大　　松本　尚之							
共通授業科目	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

グローバル化、情報化が進んだ現代社会では、「文化」は人と人を分かち、対立や摩擦を生み出す主要な要因と考えられています。我々の日常においても、出身（国籍・民族・国内の出身地域）や宗教、ジェンダーや経済的格差、政治的な主義主張によって異なる文化（生活習慣や考え方）を持つと感じる「他者」と交わる機会が増えています。文化人類学は、フィールドワークを通して、自らが「他者」「異文化」と感じる存在の理解を目指す学問です。その過程は、対象を「異なる」と感じる自分自身の視点を問い直し、自らのうちの偏見や固定観念を内省する作業でもあります。 文化人類学者は、「文化」という概念を用いて「他者」を総体的に捉え、論じることを試みてきました。しかし、何について論じれば「他者」を語ったことに、あるいは理解したことになるのでしょうか。この講義では、文化人類学の学説史の回顧を通して、異文化研究、異文化理解の可能性について検討したいと思います。

授業の到達目標

代表的な研究者の著作の購読を通して、文化人類学における問題関心や視座の基本的な知識を習得することが目的です。それによって、「人間」や「社会」「文化」を論じる際の視座の多様性を学び、自身の研究に活かして欲しいと思います。

成績評価方法

各講義での発表と討論への参加度をもとに評価します。

科 目 名	人類学特論2　文化人類学の視座：民族誌を読む							
担当者名	博士（文学）東北大　　松本　尚之							
共通授業科目	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

本講義では、今日の文化人類学の諸関心について、アフリカ地域をフィールドとした代表的な民族誌の輪読を通じて検討します。「民族誌」（エスノグラフィー）とは、文化人類学や社会学における研究手法であり、その成果物を指します。もともとは特

定の民族や社会集団の「文化」を体系的に記述した文書を指しましたが、現在では幅広い領域、対象に対し用いられています。講義では、今日のアフリカ諸社会をめぐる研究動向について概括するとともに、近年研究関心がますます多様化する文化人類学の理論的展開について、アフリカ地域を事例として学ぶことが目的です。さらに、フィールドワークにもとづき記述されたモノグラフを購読することで、調査から論文執筆に至る研究過程について考えていきます。

授業の到達目標

アフリカ地域の諸研究の購読を通して、文化人類学における近年の諸議論の基本的な知識を習得します。加えて、民族誌の購読を通して、フィールドデータの分析の仕方、論文の書き方について学んで欲しいと思います。

成績評価方法

各講義での発表と討論への参加度をもとに評価します。

科 目 名	金石文特論1							
担当者名	橋本　栄一							
共通授業科目	２単位	春学期	火曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

一般に、金石文とは中国を中心とした東アジアにおいて、金属や石に文字や画像を鋳・刻したものおよびそれらを拓本にしたものを指す。本講義では、書の歴史に沿いながら、金石文について概観していくこととする。

その際、青銅器や石碑における形式、意匠と文字を総合的に検討したり、金石文と肉筆の書との変容の関係性等についてみていく。

そのためには、実物資料を実見することと文献資料とを併せ、さらに様々な背景に基いて考えていくことが重要となる。

授業の到達目標

金石文とはどのようなものであり、それが東アジアの文化にとってどのような意味を持っているか理解できるようになることを授業の到達目標とする。

また、そこで得た知見や方法を自己の研究に活用していける力を養う。

成績評価方法

- **試験**　40%　　講義の内容を理解しているか確認する。
- **レポート**　40%　　講義の内容をヒントに自分が課題とした対象についてレポートを作成し、その内容を評価する。
- **平常点**　20%　　授業に対する取り組みの姿勢や出席等についてみていく。
- **その他**　0%

科 目 名	金石文特論2							
担当者名	橋本　栄一							
共通授業科目	２単位	秋学期	火曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

一般に、金石文とは中国を中心とした東アジアにおいて、金属や石に文字や画像を鋳・刻したものおよびそれらを拓本にしたものを指す。本講義では、書の歴史に沿いながら、金石文について概観していくこととする。

その際、青銅器や石碑における形式、意匠と文字を総合的に検討したり、金石文と肉筆の書との変容の関係性等についてみていく。

そのためには、実物資料を実見することと文献資料とを併せ、さらに様々な背景に基いて考えていくことが重要となる。

今期は、特に石碑や墓誌銘等について取り上げていく。

授業の到達目標

金石文とはどのようなものであり、それが東アジアの文化にとってどのような意味を持っているか理解できるようになることを授業の到達目標とする。

また、そこで得た知見や方法を自己の研究に活用していける力を養う。

成績評価方法

- **試験**　40%　　講義の内容を理解しているか確認する。
- **レポート**　40%　　講義の内容をヒントに自分が課題とした対象についてレポートを作成し、その内容を評価する。
- **平常点**　20%　　授業に対する取り組みの姿勢や出席等についてみていく。
- **その他**　0%

科 目 名	地理学特論1　平野の地形と環境変化(1)							
担当者名	博士(理学)都立大　　久保　純子							
共通授業科目	２単位	春学期	水曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

平野の地形、先史・歴史時代の環境復元などを中心に、受講生の専門分野を考慮しながら、関連するテーマの文献輪読、研究発表・討論などをおこなう。また、野外巡検（フィールドにおける現地討論）を実施する。

おもに考古学専攻者を対象に想定するが、それ以外の分野の専攻者でも関心があれば歓迎する。

特論1では東京～関東平野を中心に取りあげる。

授業の到達目標

人類の活動の舞台としての地形の特質と由来を、身近な地域により理解する。

成績評価方法

平常点で評価

備考・関連ＵＲＬ

フィールドワークの日程および対象地は受講生と相談の上決定する。

科 目 名	地理学特論2　平野の地形と環境変化(2)							
担当者名	博士(理学)都立大　　久保　純子							
共通授業科目	２単位	秋学期	水曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

平野の地形、先史・歴史時代の環境復元などを中心に、受講生の専門分野を考慮しながら、関連するテーマの文献輪読、研究発表・討論などをおこなう。また、野外巡検（フィールドにおける現地討論）を実施する。

おもに考古学専攻者を対象に想定するが、それ以外の分野の専攻者でも関心があれば歓迎する。

特論2では国内外の平野について取り上げるほか、サンプル地域を選び、図上作業や実習もおこないたい。

授業の到達目標

人類の活動の舞台である平野の地形とその変化を学ぶ手法を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

フィールドワークの日程および対象地は受講生と相談の上決定する。

科 目 名	比較文化論1　データと理論の間を埋める考古学							
担当者名	小川　英文							
共通授業科目	２単位	春学期	火曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

授業の目的：
①考古学研究のための問題発見のしかたについて、受講者自身のテーマに沿って、発表や課題論文執筆をとおして学んで行く。
②考古学の論文を執筆する際の理論とデータの使い方を、幅広く人文・社会科学の研究方法に学び、実践する。
授業の概要：
①考古学のさまざまな問題を抱える受講生各自が、問題設定と主張、論拠を展開する論文にまとめることを念頭に入れながら、ゼミを進めていく
②毎回の授業では、受講生各自がその問題意識にしたがって、論文を紹介し、発表する。
③各回の発表者は、紹介する論文の概要と、自分の問題との接点を説明することから始め、さらに教室で議論すべきトピックを調べ、整理し、レジュメにまとめ、事前に配布し、司会進行役として議論を実りあものとすべく努めてほしい。
④各自の問題意識に沿った発表を行い、期末に課題論文を提出してもらう。

授業の到達目標

各自が抱える考古学の問題について、授業時のレジュメ作成と発表、そして期末の課題論文作成をとおして、この授業の目的である、データと理論の間隙を埋めることを目的とする。

成績評価方法

口頭発表および課題論文を評価の基準とする。
評価配分は、発表・テスト50%、積極的発言30%、レポート20%。
課題論文の評価ポイントは以下です；
①課題論文で、あなたの問い、主張と論拠が展開され、『論文の形式』にしたがって書かれているか。
②まずあなたが、小川HPの『論文の形式』を理解し、あなたの論文が形式を守って作成されているか。
③次に「はじめに」で、あなたが読者に訴えたい問い(問題設定)がしっかり議論されており、「はじめにの書き方」の形式である赤字部分をすべて使って書き、結論を「はじめに」に書いているか。
④自分の主張をかたち作っていく上で、多くの文献を渉猟しているか。
⑤他人の意見を雑誌論文等で調べ、それらを咀嚼して、理解し、そして自分の主張を展開できているか。
⑥「結論の書き方」の形式にしたがって、「はじめに」で展開した問題設定をまずふり返り、そして各章で検討したことをまとめているか。
⑦文献目録が形式どおりに作成されているか。

備考・関連ＵＲＬ

http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/kidlat/Thesis%20Writing/thesis.htm

科 目 名	比較文化論2　データと理論の間を埋める考古学							
担当者名	小川　英文							
共通授業科目	２単位	秋学期	火曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

授業の目的：
①考古学研究のための問題発見のしかたについて、受講者自身のテーマに沿って、発表や課題論文執筆をとおして学んで行く。
②考古学の論文を執筆する際の理論とデータの使い方を、幅広く人文・社会科学の研究方法に学び、実践する。
授業の概要：
①考古学のさまざまな問題を抱える受講生各自が、問題設定と主張、論拠を展開する論文にまとめることを念頭に入れながら、ゼミを進めていく
②毎回の授業では、受講生各自がその問題意識にしたがって、論文を紹介し、発表する。
③各回の発表者は、紹介する論文の概要と、自分の問題との接点を説明することから始め、さらに教室で

議論すべきトピックを調べ、整理し、レジュメにまとめ、事前に配布し、司会進行役として議論を実りあ
ものとすべく努めてほしい。
④各自の問題意識に沿った発表を行い、期末に課題論文を提出してもらう。

授業の到達目標

各自が抱える考古学の問題について、授業時のレジュメ作成と発表、そして期末の課題論文作成をとおして、
この授業の目的である、データと理論の間隙を埋めることを目的とする。

成績評価方法

口頭発表および課題論文を評価の基準とする。
評価配分は、発表・テスト50%、積極的発言30%、レポート20%。
課題論文の評価ポイントは以下です；
①課題論文で、あなたの問い、主張と論拠が展開され、『論文の形式』にしたがって書かれているか。
②まずあなたが、小川HPの『論文の形式』を理解し、あなたの論文が形式を守って作成されているか。
③次に「はじめに」で、あなたが読者に訴えたい問い(問題設定)がしっかり議論されており、
「はじめにの書き方」の形式である赤字部分をすべて使って書き、結論を「はじめに」に書いているか。
④自分の主張をかたち作っていく上で、多くの文献を渉猟しているか。
⑤他人の意見を雑誌論文等で調べ、それらを咀嚼して、理解し、そして自分の主張を展開できているか。
⑥「結論の書き方」の形式にしたがって、「はじめに」で展開した問題設定をまずふり返り、そして各章で検討したことをまとめているか。
⑦文献目録が形式どおりに作成されているか。

備考・関連ＵＲＬ

http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/kidlat/Thesis%20Writing/thesis.htm

共通科目（外国語）（大学院設置科目）

科 目 名	英　　語1　一神教と戰爭							
担当者名	岡田　俊之輔							
外国語科目	1単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

一神教の嚴格で獨善的な世界觀が聖戰を惹き起す要因なのだから、聖典に基づく宗教的枠組を乗り越えて、眞に世俗的で多元主義的な世界を築くべしと、『テロと文明』の著者 Shadia B. Drury は説く。リベラル派知識人の典型的な主張だが、彼等の論據を知るのは勉強になるし、英語自體も讀み易いので語學の教材としても惡くはあるまい。

このクラス（英語1）では、結論部分に當る第5部'Terror, Ideals, and Civilization'を通讀する。

授業の到達目標

宗教、別けても一神教と戰爭の關係を考へると同時に、英語の讀解力向上を目指す。

成績評価方法

- **試験**　90%　　期末試験
- **レポート**　0%
- **平常点**　10%　　出席點等
- **その他**　0%

備考・関連URL

なほ、秋學期の英語2では、クリスト教の人間觀に焦點を絞つた論攷を讀む。

關聯URL：http://phil.uregina.ca/CRC/

※昨年度までに英語1の單位を修得した者は重複履修を避けること。

科 目 名	英　　語2　イエス・クリストの「愛の倫理」							
担当者名	岡田　俊之輔							
外国語科目	1単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

クリスト教の嚴格な道德律が人間に對して必要以上に苛酷な要求を課して來たと著者は論じ、今こそ眞に世俗的なヒューマニズムを確立せねばならぬと説く。リベラル派知識人の典型的な主張だが、彼等の論據を知るのは勉強になるし、英語自體も讀み易いので語學の教材としても惡くはあるまい。

春學期（英語1）から引續き Shadia B. Drury の著書を扱ひ、このクラス（英語2）では第3部'Ethic of Love'を通讀する。これはイエス・クリストの「愛の倫理」を批判した文章であるが、半面の眞理しか捉へてゐないやうに思はれる。

授業の到達目標

イエス・クリストの嚴しい「愛の倫理」が西洋世界に及ぼした影響について考へると共に、英語の讀解力向上を目指す。

成績評価方法

- **試験**　90%　　期末試験
- **レポート**　0%
- **平常点**　10%　　出席點等
- **その他**　0%

備考・関連URL

英語1の受講は必須の前提條件ではないが、理解の補助にはかなりなる筈である。

関連URL：http://phil.uregina.ca/CRC/

※昨年度までに英語2の單位を修得した者は重複履修を避けること。

科 目 名	英　　語11							
担当者名	平埜　雅久							
外国語科目	1単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日本語と英語は、構造的に異なる点が多々あります。そうした点を踏まえ、英語らしい英語が書けるよう訓練を積んでいきます。

ただし、本講座は通常の授業形態は取りません。学部学生と違って、大学院生ともなりますと、専門の研究が進み、そのため、日頃の研究生活の中で英語を活用する度合いに違いが生じ、その結果、語彙の量、文法力、表現力に相当大きな個人差が見られます。日本語と英語に見られる構造上の違いについても、理屈抜きである程度のことは体得している者もいます。そうした点を考慮し、受講生の利益と授業の効率を考え、受講生の運用力に応じた対応をしていこうと思います。

本講座は、受講生全員が毎週決められた時限に授業を受けるといった通常の授業形態は取りません。高い英語運用力がすでにあると判断された学生は、通常授業への参加を免除し、それに代わって、2本、エッセイ（1本2500語前後）を提出してもらいます。その他の学生は、通常授業の中で、英語が書けるよう訓練を積んでいきます。

授業の到達目標

日本語と英語の発想上の違いを確認し、英語の運用能力を高める

成績評価方法

レポート70%、授業に臨む姿勢30%

備考・関連URL

第一回目の授業で、英語力判定テストを行います。辞書（携帯電話の辞書は不可）を忘れずに持参してください。

科 目 名	英　　語12							
担当者名	平埜　雅久							
外国語科目	1単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本講座は、受講生全員が毎週決められた時限に授業を受けるといった通常の授業形態は取りません。高い英語運用力がすでにあると判断された学生は、通常授業への参加を免除し、それに代わって、2〜3本、エッセイ(1本につき2000語以上)を提出してもらいます。その他の学生は、通常授業の中で、英語が書けるよう訓練を積んでいきます。

授業の到達目標

アカデミックな英語運用力を高める

成績評価方法

レポートの成績(70%)と授業に臨む姿勢(30%)を考慮に入れて判定しますます

備考・関連URL

第1回目の授業で、英語のレベルチェックテストを行いますので、辞書(携帯電話の辞書は不可）を持参してください。

科 目 名	フランス語1							
担当者名	北村　陽子							
外国語科目	1単位	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

フランス語で書かれた文化史関係のテキストを読んでゆく。

授業の到達目標

辞書を引いてフランス語のテキストを読みこなすことができるようになること。(それは言い換えれば、辞書を引くことの難しさを知るということである。）また、その過程で、さまざまな発見ができること。

成績評価方法

平常点と提出された訳文による。

科 目 名	フランス語2							
担当者名	北村　陽子							
外国語科目	1単位	秋学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

フランス語で書かれた文化史関係のテキストを読んでゆく。

授業の到達目標

辞書を引いてフランス語のテキストを読みこなすことができるようになること。(それは言い換えれば、辞書を引くことの難しさを知るということである。）また、その過程で、さまざまな発見ができること。

成績評価方法

平常点と提出された訳文による。

科 目 名	ドイツ語1							
担当者名	荒井　訓							
外国語科目	1単位	春学期	金曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

読解に徹し、詳細な解説をする
受講生の発表にもとづき、発音・抑揚も矯正しながら授業を進める

授業の到達目標

ドイツ語文献を正確に読み解く力を養う
構文把握はもとより、不変化詞ひとつの意味もおろそかにしない読み方を身につける

成績評価方法

●**試験**　50%　　必要に応じて試験を実施し、理解度を確認する　参加者が少数の場合は、毎回の授業での発表が試験に相当するため実施しない
●**レポート**　0%　　課さない
●**平常点**　50%　　授業中の発表を評価する
●**その他**　0%　　無し

科 目 名	ドイツ語2							
担当者名	荒井　訓							
外国語科目	1単位	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

読解に徹し、詳細な解説をする。受講生の発表にもとづき、発音・抑揚も矯正しながら授業を進める。

授業の到達目標

ドイツ語文献を正確に読み解く力を養う。
構文把握はもとより、不変化詞ひとつの意味もおろそかにしない読み方を身につける。

成績評価方法

●**試験**　50%　　必要に応じて試験を実施し、理解度を確認する。参加者が少数の場合は、毎回の授業での発表が試験に相当

するため実施しない。
●**レポート**　0%　　課さない。
●**平常点**　50%　　授業中の発表を評価する。
●**その他**　0%　　無し。

科 目 名	ドイツ語3　Das Verfassen einer literaturwissenschaftlichen Arbeit							
担当者名	Ph.D. ロストック大(ドイツ)　　クラヴィッター　アルネ							
外国語科目	1単位	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
Im Kurs erhalten die Studierenden eine Einführung in die Arbeitstechniken des wissenschaftlichen Studiums sowie in die Prinzipien des Abfassens einer literaturwissenschaftlichen Arbeit.

授業の到達目標
Den Schwerpunkt bilden Übungen, die den Studierenden helfen sollen, die Techniken wissenschaftlichen Arbeitens zu erlernen. Ziel ist die selbständige Planung, Vorbereitung und Abfassung einer Seminar- bzw. Abschlussarbeit.

成績評価方法
●**試験**　0%　　Text verfassen
●**レポート**　50%　　Qualität der geschriebenen Texte
●**平常点**　40%　　Häufigkeit der Teilnahme (30%), aktive Teilnahme (30%)
●**その他**　10%　　Regelmäßiges Erledigen der Hausaufgaben

科 目 名	ドイツ語4　学術的なドイツ語文献を読む							
担当者名	山本　浩司							
外国語科目	1単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
日本の人文学もますますの国際化が求められています。修士課程の院生や大学院進学を考える学部生も今後、英語はもちろんのこと、ドイツ語で口頭発表したり論文を書いたりする局面が増えてくることは間違いありません。この授業では、哲学、東洋哲学、言語学、外国語教育、音楽学、日文、英文、仏文、露文、社会学、西洋史、美術史、表象・メディア、文芸・ジャーナリズムなどを専攻する人たちを念頭に置いて、学術的なドイツ語文献を読み、ドイツ語の読解力を養成するとともに、学術論文の作法も習得するという一石二鳥を狙います。読むテキストは受講生の専攻領域を考慮しながら相談して決めていきます。最初の数回は国際学会や学術論文の要旨を読み漁り、その後はあまり専門的になりすぎないように、論文や論集の導入部などを読んでいくつもりです。

授業の到達目標
学術的なドイツ語文献をすらすら読む力を身につける。
国際学会のドイツ語エクスポゼやや学術論文の要旨を書く力を身につける。

成績評価方法
●**試験**　70%　　理解度の確認テストの点数。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　出席点と参加度。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	ロシア語1　ロシア語のさまざまな文体							
担当者名	博士(文学)ボッフム大　　ヴァレリー・グレチュコ							
外国語科目	1単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
ロシア語のさまざまな文体（日常会話、新聞や雑誌、文学作品、学術論文など）に触れてそれぞれの特徴を学ぶ。受講生にはそれぞれの文体で書かれた文章を読み、それらを分析して、発表してもらう。また、それぞれの文体で実際にロシア語の文章を書く練習をするが、特にアカデミックなスタイルで口頭発表したり文章を書いたりすることに重点を置く。
教材としては書かれたテクストだけでなく、ビデオなどのメディアも用いる。

授業の到達目標
ロシア語運用能力をさらに高めて、学術的な内容を持つレポートや論文をロシア語で書いたり、口頭発表したりする能力を身につける。また、さまざまなスタイルの文章に触れることを通じて、ロシア文化・ロシア事情に対する理解を深めることを目指す。

成績評価方法
●**試験**　0%　　期末試験は行わない。
●**レポート**　40%　　授業で扱ったテーマのうちひとつを選んで、ロシア語でA4用紙1枚程度のレポートを提出する。
●**平常点**　60%　　授業への参加態度、議論への貢献度、宿題の提出状況
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	ロシア語2　ロシア語のさまざまな文体							
担当者名	博士(文学)ボッフム大　　ヴァレリー・グレチュコ							
外国語科目	1単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

前期に引き続き、ロシア語のさまざまな文体（日常会話、新聞や雑誌、文学作品、学術論文など）に触れてそれぞれの特徴を学ぶ。受講生にはそれぞれの文体で書かれた文章を読み、それらを分析して、発表してもらう。また、それぞれの文体で実際にロシア語の文章を書く練習をするが、特にアカデミックなスタイルで口頭発表したり文章を書いたりすることに重点を置く。

教材としては書かれたテクストだけでなく、ビデオなどのメディアも用いる。

授業の到達目標

ロシア語運用能力をさらに高めて、学術的な内容を持つレポートや論文をロシア語で書いたり、口頭発表したりする能力を身につける。また、さまざまなスタイルの文章に触れることを通じて、ロシア文化・ロシア事情に対する理解を深めることを目指す。

成績評価方法

- **試験**　0%　　期末試験は行わない。
- **レポート**　40%　　授業で扱ったテーマのうちひとつを選んで、ロシア語でA4用紙1枚程度のレポートを提出する。
- **平常点**　60%　　授業への参加態度、議論への貢献度、宿題の提出状況
- **その他**　0%　　特になし。

科 目 名	ラテン語1　ラテン語で読むキケロ『書簡集』							
担当者名	博士(文学)京大　　宮城　徳也							
外国語科目	1単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

古代，中世、ルネサンスのラテン語よ読むためにも、古典中の古典の1つであるセネカ読解は、有益である。本年度は、セネカの散文作品を読むことにし、『道徳書簡集』の読解を目指す。初心者にも配慮して、文法を丁寧に確認しながら読み進む。「書簡体文学」の白眉として，熟読玩味したい.

授業の到達目標

セネカのラテン語散文を読解することにより、古典古代、中世、ルネサンスの文献を読む力の獲得を目指す。

成績評価方法

- **試験**　0%　　平常点で評価
- **レポート**　0%　　平常点で評価
- **平常点**　100%　　原典講読のための予習と努力を平常点として評価する
- **その他**　0%　　平常点で評価

備考・関連URL

ラテン語の初歩以上を学び、古代、中世、ルネサンスの思想，文学，歴史，文化、言語一般に興味のある人の参加を期待します。
http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	ラテン語2　ラテン語で読むキケロ『書簡集』2							
担当者名	博士(文学)京大　　宮城　徳也							
外国語科目	1単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

春学期にの「ラテン語1」に引き続きセネカ『道徳書簡集』を読む．古代，中世、ルネサンスのラテン語よ読むためにも、古典中の古典の1つであるセネカ読解は、有益である。本年度は、セネカの散文作品を読むことにし、『道徳書簡集』の読解を目指す。初心者にも配慮して、文法を丁寧に確認しながら読み進む。「書簡体文学」の白眉として，熟読玩味したい.

授業の到達目標

セネカのラテン語散文を読解することにより、古典古代、中世、ルネサンスの文献を読む力の獲得を目指す。

成績評価方法

- **試験**　0%　　平常点で評価
- **レポート**　0%　　平常点で評価
- **平常点**　100%　　原典講読のための予習と努力を平常点として評価する
- **その他**　0%　　平常点で評価

備考・関連URL

ラテン語の初歩以上を学び、古代、中世、ルネサンスの思想，文学，歴史，文化、言語一般に興味のある人の参加を期待します。
http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	ギリシャ語1　プラトン『ゴルギアス』を読む							
担当者名	三嶋　輝夫							
外国語科目	1単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

このクラスでは、授業を初学者向けの前半と、既習者向けの後半の二つに分けて進めます。前半では初級文法の基礎をアルファベットから始めて、関係代名詞、分詞まで学びます。後半では前年度に引き続きニーチェも絶賛したプラトンの『ゴルギアス』を読みます。その主題は、哲学と弁論術、哲学的生と政治的実践の緊張に満ちた関係ですが、今年はその中でも最もスリリングなカリクレスとソクラテスの対決の部分を読みます。

授業の到達目標

授業の前半では、名詞と動詞の変化を覚えることを中心に、実際のテクストを読む上で不可欠な関係代名詞や分詞まで学ぶことを目標とします。

後半では、現在刊行されているギリシャ語テクストのみならず、写本も参照しながら、テクストクリティークの基本も習得することを目指します。

成績評価方法

特に学期末の試験やレポートは課さず、毎回の授業での文法修得度（初学者）、翻訳の出来とディスカッションへの参加度（既習者）と努力度を加味して、評価します。

備考・関連ＵＲＬ

既習者も、毎回、手持ちのギリシャ語文法書を持参してください。

科 目 名	ギリシャ語2　プラトン『ゴルギアス』を読む							
担当者名	三嶋　輝夫							
外国語科目	１単位	秋学期	水曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

授業の前半では前期の「ギリシャ語I」に引き続き、前期の復習も含め基礎文法をしっかり身につけるとともに、後半では前期に引き続き『ゴルギアス』の講読を行います。今期は終盤のソクラテスによるアテナイの現実政治批判と、本篇の最後を飾る「死後の裁き」に関するミュートスを読む予定です。

初学者の諸君にも、残りの文法事項の学習と併行して、直接プラトンのギリシャ語原典に体当たりして、その醍醐味を味わって頂きたいと思います。

授業の到達目標

初学者の諸君は、前期に学んだ文法事項の徹底マスターとともに、直接プラトンのテキストに則して、文法的事項を再確認するとともに、プラトンの知的奔放さと思索の深みを体験することを目指します。既習者の諸君は、前期に学んだ文献批判を踏まえて、自分自身でテクストの読みについて吟味し、その解釈を展開出来るようになることを目標とします。

成績評価方法

ギリシャ語I同様、平常点で評価します。

科 目 名	中国古典語1　韓愈の文を読む							
担当者名	文学博士（北京大）　丸井　憲							
外国語科目	１単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

「韓文の全集、篇として佳ならざるは無し（韓文全集、無篇不佳）」とは、清代の学者で『韓文起』の編著者である林雲銘（1628－1697）の言葉である。実際、近代以前の中国において、韓愈の文は長らく綴り方の手本とされてきた。一方、現代の私たちにとって、それは中唐士大夫たちの生活ぶりや交遊の有り様を知る上で、高い資料的価値を有する。とりわけ韓愈の書状・送序・雑記・碑誌・祭文などには、彼を取り巻く親族・友人に対する温かな情愛が溢れている。これらを丹念に訓読しながら味読し、さらに中唐という時代にも思いを馳せることが、本講座の目的である。

授業の到達目標

（1）原文の中国古典語に、精確な日本古典語を当てはめる作業を丹念に行なうことで、訓読力を高める。
（2）訓読文の作成を通じて、中国古典を読解する力を養う。
（3）作成された訓読文を通じて、中唐という時代の雰囲気を感じ取る。

成績評価方法

- **試験**　0%　　行なわない。
- **レポート**　0%　　行なわない。
- **平常点**　100%　　訓読文の作成作業の成果（発表）を中心に、授業に対する積極性（討論）なども踏まえて評価する。
- **その他**　0%　　とくになし。

備考・関連ＵＲＬ

授業は日本語で行なうので、中国語を履修していない者でも心配は要らない。質問は随時、所定のメールアドレス宛てに行なうことができる。

科 目 名	中国古典語2　韓愈の文を読む							
担当者名	文学博士（北京大）　丸井　憲							
外国語科目	１単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

「韓文の全集、篇として佳ならざるは無し（韓文全集、無篇不佳）」とは、清代の学者で『韓文起』の編著者である林雲銘（1628－1697）の言葉である。実際、近代以前の中国において、韓愈の文は長らく綴り方の手本とされてきた。一方、現代の私たちにとって、それは中唐士大夫たちの生活ぶりや交遊の有り様を知る上で、高い資料的価値を有する。とりわけ韓愈の書状・送序・雑記・碑誌・祭文などには、彼を取り巻く親族・友人に対する温かな情愛が溢れている。これらを丹念に訓読しながら味読し、さらに中唐という時代にも思いを馳せることが、本講座の目的である。

授業の到達目標

（1）原文の中国古典語に、精確な日本古典語を当てはめる作業を丹念に行なうことで、訓読力を高める。
（2）訓読文の作成を通じて、中国古典を読解する力を養う。
（3）作成された訓読文を通じて、中唐という時代の雰囲気を感じ取る。

成績評価方法

- **試験**　0%　　行なわない。

●**レポート**　0%　　行なわない。
●**平常点**　100%　　訓読文の作成作業の成果（発表）を中心に、授業に対する積極性（討論）なども踏まえて評価する。
●**その他**　0%　　とくになし。

備考・関連ＵＲＬ

授業は日本語で行なうので、中国語を履修していない者でも心配は要らない。質問は随時、所定のメールアドレス宛てに行なうことができる。

科 目 名	現代中国語1　人民日報海外版の記事を読み解く力の向上を目指す							
担当者名	孫　国震							
外国語科目	1単位	春学期	水曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

中国語の基礎語彙と文法を習得している学習者を対象とし、習得した語彙や構文と文法事項を確認しながら、500文字前後の新聞記事の読解に取り組みます。

前期は、社会関連記事から入り、政治や文化関連の記事などを多読して、記事の読解力を高めるように指導する。また、記事の朗読も練習します。

但し、記事の内容は、事情によって、調整する可能性があります。

授業の到達目標

中国語の記事の読解に必要な語彙や常用表現を習得し、ピンインに頼らず、社会や政治に関する記事を読み解くことができるようにする。

成績評価方法

●**試験**　50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

科 目 名	現代中国語2　人民日報海外版の記事を読み解く力の向上を目指す							
担当者名	孫　国震							
外国語科目	1単位	秋学期	水曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

中国語の基礎語彙と文法を習得している学習者を対象とし、習得した語彙や構文と文法事項を確認しながら、600文字以上の新聞記事の読解に取り組みます。

後期は、前期の続きとして、多方面にかかわる記事を多読して、記事の読解力を高めるように指導する。また、記事の朗読も練習します。

但し、記事の内容は、事情によって、調整する可能性があります。

授業の到達目標

中国語の記事の読解に必要な語彙や常用表現を習得し、総合的な読解力や読解速度の向上を目指します。

成績評価方法

●**試験**　50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

科 目 名	サンスクリット語1　『瑜伽師地論』「五識身相応地意地決択」講読							
担当者名	Ph.D. Yale大　　山部　能宜							
外国語科目	1単位	春学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

『瑜伽師地論』「五識身相応地意地決択」冒頭部分のアーラヤ識説を精読する。冒頭の八論証に続く部分については、サンスクリット原典が発見されていないため、蔵漢訳を比較して梵語の原文を想定しつつ読む必要がある。そのような作業を行ないたい。

授業の到達目標

梵本の現存しないテキストに対する文献学的研究手法を修得するとともに，インド瑜伽行派の思想体系を理解する.

成績評価方法

授業への積極的な参加により評価する。

科 目 名	サンスクリット語2　『摂大乗論』講読							
担当者名	Ph.D. Yale大　　山部　能宜							
外国語科目	1単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

『摂大乗論』本論ならびに諸註釈書の蔵漢テキストを参照して、本論の還梵案を検討しつつ、内容の理解に努めたい。漢文資料のみでも理解できるよう配慮するので，インド仏教を専攻しない院生の参加も可能である.

授業の到達目標

梵本の現存しないテキストに対する文献学的研究手法を修得するとともに，インド瑜伽行派の思想体系を理解する.

成績評価方法

●**試験**　0%　　今回は課さない.

●**レポート**　0%　　今回は課さない.
●**平常点**　100%　　授業への積極的な参加により評価する。休講課題を課した場合は平常点として評価に含める.
●**その他**　0%　　今回は課さない.

科 目 名	研究のための日本語表現1（アカデミックスキル）　正確な日本語による論理的な文章作成と口頭発表の方法							
担当者名	川端　芳子							
外国語科目	1単位	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
大学院における研究レポートや論文作成に必要な日本語表現のスキルを学ぶ。学期前半では、正確な日本語表現を意識して、情報収集や全体の構成の立て方、及び、引用、資料解説などの基本的な表現を学び、小レポートを作成し、提出する。学期後半では修論執筆へのステップとして、時事問題などの中から各自がテーマを決定し、研究レポートを作成する（レジュメの作成、口頭発表を含む）。口頭発表、クラスでの意見交換を通して、説得力のある論理的な文章、発表の方法について考え、そのスキルを習得することを目的とする。

授業の到達目標
正確な日本語表現による論理的な研究レポート・研究論文を書けるようにすること、聞き手が理解しやすい口頭発表のスキルを身に付けることを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験を実施しない。
●**レポート**　50%　　研究レポート30%、小レポート20%　①学期中に学んだ表現が適切に正しく使用されているか。②引用文献、先行研究、情報収集の妥当性。③全体の構成（アウトライン）、論理性。④意見交換による指摘が内容に反映されているか。
●**平常点**　35%　　出席状況・参加態度10%、 レポート以外の提出課題の内容と提出状況25%
●**その他**　15%　　口頭発表の準備・発表態度、発表者への意見述べ

科 目 名	研究のための日本語表現2（アカデミックスキル）　学術的な論文の書き方を身につける							
担当者名	博士(文学)早大　　三原　裕子							
外国語科目	1単位	秋学期	水曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
本授業では、わかり易い論文、明解な論点をもつ論文を書くために必要な表現力―技術―を身につける。そのために、構成の立て方、ことばの選択や表記、文体などを学んでいく。さまざまな文章を読んでその表現法を会得する。
担当した文章について検討し、自身でも同様のテーマで文章を書くなどの実践をおこなう。

授業の到達目標
論文を書くことは、自分の考えを相手に知ってもらうことことであり、発信能力が問われる。
骨格のしっかりとした、読んでわかる文章、明解な文章を書く日本語の表現を身に付けることが目標になる。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　30%　　検討結果についてのレポート、学習した日本語表現を用いたレポートについて、評価する。 基準は予め明示した「作成の際の論点」が明確かどうかを重視する。
●**平常点**　30%　　意見交換に積極的に参加したか、建設的な意見を提出できたかどうかを評価の基準にする。
●**その他**　40%　　担当した内容の発表。

科 目 名	研究のための日本語表現3（研究発表のための日本語）　研究発表と論文作成のための日本語表現方法							
担当者名	博士(文学)早大　　塩野　加織							
外国語科目	1単位	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
この授業では、日本語による研究発表と論文執筆の方法を習得するために、まず、基本的な表記・表現について学習した上で、①資料の収集・分析、②要約と引用、③論点の設定等を段階的に学んでいく。春学期は、前半でアカデミックライティングとプレゼンテーションの基礎を学び、後半では研究テーマに関する口頭発表とそれに基づくディスカッションを行う。各回の授業を通し、研究テーマについて「書く」・「読む」・「話す」ための正確な日本語力を磨いていく。

授業の到達目標
日本語での研究発表と論文執筆のために必要となるアカデミックスキルの習得を目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席状況、中間報告の内容、議論への参加、以上3点を重視する。
●**その他**　0%

科 目 名	研究のための日本語表現4（研究発表のための日本語）　研究発表と論文作成のための日本語表現方法							
担当者名	博士(文学)早大　　塩野　加織							
外国語科目	1単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
この授業では、日本語による研究発表と論文執筆の方法を習得するために、まず、基本的な表記・表現について学習した上で、①資料の収集・分析、②要約と引用、③論点の設定等を段階的に学んでいく。秋学期は、学術的文章の表記・表現を学んだ上で、

受講者が実際に研究レポートを作成し、先行研究の読み取りや事実と意見の区別等について理解する。各回の授業を通し、研究テーマについて「読む」・「書く」・「話す」ための正確な日本語力を磨いていく。

授業の到達目標

日本語での研究発表と論文執筆のために必要となるアカデミックスキルの習得を目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　出席状況、中間報告の内容、議論への参加、以上3点を重視する。
- **その他**　0%

共通科目（外国語）（学部合併科目）

科 目 名	Academic Skills (Writing) Us A							
担当者名	D. J. ウェブスター							
英語	1単位	春学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course will develop upper-intermediate and advanced writing skills for students in academic writing in English.

[CEFR level C2]

授業の到達目標

Developing logical paragraphs
Paraphrasing, summarizing, and quotation
Writing strong, descriptive sentences
Using intensifiers and transitional words and phrases

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Us B							
担当者名	カーリン　オマール							
英語	1単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course will develop upper-intermediate and advanced writing skills for students in academic writing in English.

[CEFR level C2]

授業の到達目標

Developing logical paragraphs
Paraphrasing, summarizing, and quotation
Writing strong, descriptive sentences
Using intensifiers and transitional words and phrases

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Uf A							
担当者名	D. J. ウェブスター							
英語	1単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for higher level, upper-intermediate writers. The course will focus on essay writing.

[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Develop skills in creating and organizing essays
Acquire high-level academic vocabulary
Develop skills in editing writing

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Uf B							
担当者名	カーリン　オマール							
英語	1単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for higher level, upper-intermediate writers. The course will focus on essay writing.

[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Develop skills in creating and organizing essays
Acquire high-level academic vocabulary
Develop skills in editing writing

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　40%　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Us A							
担当者名	D. J. ウェブスター							
英語	1単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for upper-intermediate students

[CEFR Level B2-C1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Us B							
担当者名	小林　亜紀子							
英語	1単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for upper-intermediate students

[CEFR Level B2-C1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Us C							
担当者名	カラン　ポール							
英語	1単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for upper-intermediate students

[CEFR Level B2-C1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points.

●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Uf A							
担当者名	D. J. ウェブスター							
英語	1単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
This course will develop reading skills and academic vocabulary for upper-intermediate students.

[CEFR level C1]

授業の到達目標
Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between causes and effects
Understand use of analogies

成績評価方法
●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Uf B							
担当者名	小林　亜紀子							
英語	1単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
This course will develop reading skills and academic vocabulary for upper-intermediate students.

[CEFR level C1]

授業の到達目標
Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between causes and effects
Understand use of analogies

成績評価方法
●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Uf C							
担当者名	カラン　ポール							
英語	1単位	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
This course will develop reading skills and academic vocabulary for upper-intermediate students.

[CEFR level C1]

授業の到達目標
Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between causes and effects
Understand use of analogies

成績評価方法
●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Us B							
担当者名	Ph.D. (オックスフォード大)　ウィリアムズ　洋子							
英語	1単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Us C							
担当者名	馬　玉晶							
英語	1単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Us D							
担当者名	小林　亜紀子							
英語	1単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Uf B							
担当者名	Ph.D.（オックスフォード大）　ウィリアムズ　洋子							
英語	1単位	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Uf C							
担当者名	馬　玉晶							
英語	1単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Uf D							
担当者名	小林　亜紀子							
英語	1単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Intensive Studies 1 (Philosophy 1)　Ideas and Thinkers 1							
担当者名	Ph.D.（哲学）エディンバラ大　ダルグリーシュ　ブレガム							
英語	1単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

Thought is the means by which we elaborate who we are, justify our political systems, design our economic architecture, assert our membership of a culture, authorise institutions within society, and make ethical claims

upon each other. Indeed, without any philosophical reflection upon these matters, life would have neither any sense nor articulated meaning. It is thus precisely at the cross-roads between our daily practices and taken for granted ideas that this course is situated. This course provides instruction and practice in the art of philosophical reflection and the skill of critical argument through the study of some of the core（Western）texts in the humanities and social sciences. While the focus is on analytical reading and critical thinking, there is an equal emphasis on expressing and presenting one's ideas in writing, as well as engaging in dialogue on how to interpret and explain concepts and the practices they capture.

授業の到達目標

The purpose of the course is for students to:

1）read critically by asking pertinent questions and evaluating ideas in a text;
2）recognise core assumptions and wider implications of a text;
3）read texts of different genres and disciplines in the humanities and social sciences.
4）ascertain the meaning of a passage by identifying evidence and narrative sequences;
5）recognise the implicit assumptions and values underlying a written work;
6）assess ideas in terms of the rhetorical structures used to persuade readers;
7）distinguish between facts and opinions in a text;
8）identify the tone, mood and voice of a text through an analysis of its linguistic features, context of production and literary devices.

成績評価方法

30% Final Class Test
30% Participation
40% Presentations

備考・関連ＵＲＬ

This course is best suited to students with a TOEFL score of 500 or more and/or who relish and enjoy engaging in active class discussion and debate with a view to thinking differently. Please note that Ideas and Thinkers 1 (Spring Semester) and Ideas and Thinkers 2 (Winter Semester) are two separate courses. They have the same structure and format but the content - the authors studied - is different.

科 目 名	Intensive Studies 2 (Philosophy 2) Ideas and Thinkers 2							
担当者名	Ph.D.（哲学）エディンバラ大　ダルグリーシュ　ブレガム							
英語	１単位	秋学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

Thought is the means by which we elaborate who we are, justify our political systems, design our economic architecture, assert our membership of a culture, authorise institutions within society, and make ethical claims upon each other. Indeed, without any philosophical reflection upon these matters, life would have neither any sense nor articulated meaning. It is thus precisely at the cross-roads between our daily practices and taken for granted ideas that this course is situated. This course provides instruction and practice in the art of philosophical reflection and the skill of critical argument through the study of some of the core（Western）texts in the humanities and social sciences. While the focus is on analytical reading and critical thinking, there is an equal emphasis on expressing and presenting one's ideas in writing, as well as engaging in dialogue on how to interpret and explain concepts and the practices they capture.

授業の到達目標

The purpose of the course is for students to:

1）read critically by asking pertinent questions and evaluating ideas in a text;
2）recognise core assumptions and wider implications of a text;
3）read texts of different genres and disciplines in the humanities and social sciences.
4）ascertain the meaning of a passage by identifying evidence and narrative sequences;
5）recognise the implicit assumptions and values underlying a written work;
6）assess ideas in terms of the rhetorical structures used to persuade readers;
7）distinguish between facts and opinions in a text;
8）identify the tone, mood and voice of a text through an analysis of its linguistic features, context of production and literary devices.

成績評価方法

30% Final Class Test
30% Participation
40% Presentations

備考・関連ＵＲＬ

This course is best suited to students with a TOEFL score of 500 or more and/or who relish and enjoy engaging in active class discussion and debate with a view to thinking differently. Please note that Ideas and Thinkers 1 (Spring Semester) and Ideas and Thinkers 2 (Winter Semester) are two separate courses. They have the same structure and format but the content - the authors studied - is different.

科 目 名	Intensive Studies 3 (Philosophy 3) Introduction to Political Theory 1							
担当者名	Ph.D. (哲学)エディンバラ大　ダルグリーシュ　ブレガム							
英語	1単位	春学期	月曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

The course examines key ideas in the history of (Western) thought and the questions they raise about the design of the political order. It considers the ways thinkers have responded to political problems of their times and how these dilemmas are inextricably entwined with the social, economic, cultural and ethical aspects of everyday life. Such an approach enables us to understand the strengths and weaknesses of various epochs and philosophical approaches; concomitantly, we gain a critical perspective on our own. Students are therefore expected to master a number of relevant concepts and to assess the form and quality of the influence that certain political theories have had – and may still have – on the contemporary political landscape. Similarly, students are expected to constantly compare past and present, and to discern the connections between other empirical and normative social science and humanities disciplines, from political science, sociology and economics to history, literature, philosophy and cultural studies.

授業の到達目標

The course is much an invitation as an introduction to understanding the "political" and how it harbours the good life and fosters coexistence. While introductions map out a territory and lay the groundwork for more detailed research, invitations invite students to:

1) critically assess key social and political ideas and concepts, both orally and in writing;
2) appreciate the nuances of persuasive and sophisticated language in debates about politics, society, the economy and who we are more generally;
3) develop an ability in scrutinising to what extent theories enable us to understand and explain facts and values, instead of simply learning the facts and values themselves;
4) and, finally, broaden their perspective on many of today's political problems, together with their potential resolution.

成績評価方法

50% Final Class Exam
25% Weekly Multiple Choice Questions
25% Participation

備考・関連ＵＲＬ

This course is best suited to students with a TOEFL score of 500 or more and/or who relish and enjoy engaging in active class discussion and debate with a view to thinking differently. Please note that Introduction to Political Theory 1 (Spring Semester) and Introduction to Political Theory 2 (Winter Semester) are two separate courses. They have the same structure and format but the content – the concepts studied – is different.

科 目 名	Intensive Studies 4 (Philosophy 4) Introduction to Political theory 2							
担当者名	Ph.D. (哲学)エディンバラ大　ダルグリーシュ　ブレガム							
英語	1単位	秋学期	月曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

The course examines key ideas in the history of (Western) thought and the questions they raise about the design of the political order. It considers the ways thinkers have responded to political problems of their times and how these dilemmas are inextricably entwined with the social, economic, cultural and ethical aspects of everyday life. Such an approach enables us to understand the strengths and weaknesses of various epochs and philosophical approaches; concomitantly, we gain a critical perspective on our own. Students are therefore expected to master a number of relevant concepts and to assess the form and quality of the influence that certain political theories have had – and may still have – on the contemporary political landscape. Similarly, students are expected to constantly compare past and present, and to discern the connections between other empirical and normative social science and humanities disciplines, from political science, sociology and economics to history, literature, philosophy and cultural studies.

授業の到達目標

The course is much an invitation as an introduction to understanding the "political" and how it harbours the good life and fosters coexistence. While introductions map out a territory and lay the groundwork for more detailed research, invitations invite students to:

1) critically assess key social and political ideas and concepts, both orally and in writing;
2) appreciate the nuances of persuasive and sophisticated language in debates about politics, society, the economy and who we are more generally;
3) develop an ability in scrutinising to what extent theories enable us to understand and explain facts and values, instead of simply learning the facts and values themselves;
4) and, finally, broaden their perspective on many of today's political problems, together with their potential resolution.

成績評価方法

50% Final Class Exam
25% Weekly Multiple Choice Questions

25% Participation

備考・関連URL

This course is best suited to students with a TOEFL score of 500 or more and/or who relish and enjoy engaging in active class discussion and debate with a view to thinking differently. Please note that Introduction to Political Theory 1 (Spring Semester) and Introduction to Political Theory 2 (Winter Semester) are two separate courses. They have the same structure and format but the content - the concepts studied - is different.

科 目 名	Intensive Studies 5 (Literature 1) Critical Theory (Part 1)							
担当者名	文学博士(マンチェスター大)　鈴木　理恵子							
英語	1単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course offers a sweeping view of literary theory that either focuses on the text alone or deals with the psyche of the author. Students will familiarize themselves with the various schools of thought and theoretical practices that have dominated literary criticism of the twentieth century. Depending on the critical perspective from which one examines the text, the outcome of criticism varies significantly. While traditional close reading of the text is still valued in literary criticism, theoretical practice cannot be ignored in the academic world today. Such being the case, it is vital and also useful to become acquainted with the various schools of thought that have left a mark in the landscape of literary criticism.

授業の到達目標

Students will have a solid understanding of the way in which literary theory emerged and developed through the course of time. Each theory is, in some sense, time and place specific so that getting to know the background in which it originated will provide students with a better understanding of the nature of theory. The course is intended so that students engage with some of the central concepts of literary criticism.

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　30%　A 1500-word essay must be submitted at the end of the course.
- **平常点**　40%　Regular attendance and active participation will be required.
- **その他**　30%　A 20-minute presentation on a given topic is mandatory.

科 目 名	Intensive Studies 6 (Literature 2) Critical Theory (Part 2)							
担当者名	文学博士(マンチェスター大)　鈴木　理恵子							
英語	1単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course offers an overview of literary theory that focuses primarily on the social context of a literary work. Students will familiarize themselves with the various schools of thought and theoretical practices that have dominated literary criticism of the twentieth to the twenty-first century. Depending on the critical perspective from which one examines the text, the outcome of criticism varies significantly. While close reading of text is still valued in literary criticism, theoretical practice cannot be ignored in the academic world today. Such being the case, it is vital and also useful to become acquainted with the various schools of thought that have left a mark in the landscape of literary criticism.

授業の到達目標

Students will have a solid understanding of the way in which literary theory developed after the new criticism which dominated the literary criticism of the mid decades of the twentieth century. Each theory is, in some sense, time and place specific so that getting to know the background in which it originated will provide students with a better understanding of the nature of theory. The course is intended so that students engage with some of the central concepts of literary criticism.

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　30%　A 1500-word essay must be submitted at the end of the course.
- **平常点**　40%　Regular attendance and active participation will be required.
- **その他**　30%　A 20-minute presentation on a given topic is mandatory.

科 目 名	Intensive Studies 7 (American Studies 1) Popular Culture and Globalization							
担当者名	Ph.D. ロチェスター大　溝口　彰子							
英語	1単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course will explore ways in which popular culture has become globalized. Topics for the spring semester will include advertising, art, attitudes, beverages, celebrity icons, cyberculture, dancing, fashion, foodways, and leisure (see specific examples in the course schedule). The course will be conducted entirely in English. Students should be prepared to actively participate in class discussion. Active participation means that each student will be expected to speak in English about her or his ideas and understanding of readings and presentations every week.

授業の到達目標

Through intensive use of various English language skills (reading, listening, speaking, presenting, and writing),

students will improve their English usage. Students will also learn about academic approaches to popular culture.

成績評価方法

In-class activities and participation 50%
Presentations (15% each) 30%
Paper 20%

備考・関連URL

Make sure to attend the first class.

科 目 名	Intensive Studies 8 (American Studies 2) Globalization and Popular Culture							
担当者名	Ph.D. University of Rochester　チャン　エドワード　ケイ							
英語	1単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course will explore ways in which popular culture has become globalized, with particular reference to the United States. Topics for the spring semester will include advertising, art, attitudes, beverages, celebrity icons, cyberculture, dancing, fashion, foodways, and leisure (see specific examples in the course schedule). Topics for the fall semester will include literature, movies, music, slang, sports, technology, tourism, toys, television, and video games. The course will be conducted entirely in English, and each student will be expected to speak in English about her or his ideas and understanding of readings and presentations every week.

授業の到達目標

Through intensive use of various English language skills (reading, listening, speaking, presenting, and writing), students will improve their English usage. Students will also learn about academic approaches to popular culture.

成績評価方法

Reading quizzes (10 x 5 points) 50%
Group presentation 15%
Individual presentation 15%
Participation / In-class activities 20%
TOTAL 100 %

科 目 名	Intensive Studies 9 (Survey of Japanese Literature 1) Classical Japanese Literature							
担当者名	Ph.D. コロンビア大　高井　詩穂							
英語	1単位	秋クォーター	火3時限	金3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course provides an introduction to a variety of Japanese literary genres from the beginning to the Medieval period (-1600), examining major works and themes. Through encounters with primary works, we will consider the cultural, social, and historical background of the time. Students are expected to prepare for the class by reading the assigned texts(at least 20 pages per class) carefully and participating actively in class discussions. There are also weekly response paper assignments.

The class will be conducted in English.

授業の到達目標

1. To provide basic knowledge of classical Japanese Literature (genres, texts, etc.) and to stimulate students' interest in it.
2. To develop an appreciation of classical Japanese Literature as a significant element of Japanese intellectual history.
3. To outline the possibility of an inter-disciplinary approach to classical Japanese Literature.
4. To enhance students' critical thinking.
5. Last but not least, to increase the pleasure of reading.

成績評価方法

30% Exam

30% Attendance and Class Participation

40% Weekly Assignments, Quizzes, and Presentations

科 目 名	Intensive Studies 10 (Survey of Japanese Literature 2) Edo and Meiji Literature and Culture							
担当者名	バナード　ジュニア　ピーター　ジョン							
英語	1単位	冬クォーター	火3時限	金3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

In this course we will explore the literature and culture of the Edo (1603-1868) and Meiji (1868-1912) periods. Reading a wide range of works of fiction, drama, and poetry, we will consider the social, political, and economic contexts in which they were produced and consumed. (All readings are in English translation. No knowledge of Japanese is necessary.)

授業の到達目標

1. Read some of the most representative texts written in the Edo and Meiji periods.

2. Situate specific works in their historical and cultural contexts.
3. Appreciate the diversity of literary-artistic cultures in Japan during these periods.
4. Use the tools of literary analysis to interpret the readings.

成績評価方法

●**試験** 40% Midterm and Final Examinations
●**レポート** 0%
●**平常点** 30% Attendance and Class Participation
●**その他** 30% Weekly Responses; In-Class Assessments

備考・関連ＵＲＬ

You will need passing grades in all categories (Examinations / Attendance & Participation / Responses & Assessments) in order to obtain a grade for the course.

科 目 名	Intensive Studies 11 (Survey of Japanese Literature 3) Classical Japanese Literature							
担当者名	博士(日本文学)コロンビア大　由尾　瞳							
英語	１単位	春クォーター	火３時限	金３時限	１年以上	—	—	—

授業概要

In this course we will read representative works of modern and contemporary Japanese fiction in translation. By working together through the readings we will aim towards two objectives. First, to gain a glimpse at the Japanese experience of the 20th and 21st centuries, including modernization, colonialism, postwar democratization and globalization. Second, to develop tools to critically analyze texts as literary narratives, focusing on how meaning is rhetorically created. We will strive to understand how these two dimensions (thematic and formal) shape and enrich each other, and how they inform the fiction that Japanese writers have created to try and make sense of the world they live(d) in.

The course will be conducted in English. Although the readings will be offered in English, you are encouraged to consult the material in the original language whenever available.

授業の到達目標

1) Gain familiarity with major authors and works of the 20th and 21st centuries.
2) Recognize the diversity of Japanese literary culture through first-hand encounters with selected works in English translation.
3) Cultivate the tools of formal analysis by critically engaging with primary texts and situating the writings in their historical and cultural contexts.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Assignments (40%)
3. Midterm & Final Exams (40%)

科 目 名	Intensive Studies 12 (Introduction to Japanese Culture and Civilization 1) Culture and Civilization from Prehistory to the Muromachi Period							
担当者名	Ph.D. コロンビア大　リーブズ　クリストファー							
英語	１単位	秋クォーター	火４時限	金４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This course will serve as an introductory survey of Japanese culture and civilization from prehistory through to the end of the Muromachi period, that is, roughly, from the fourth to the sixteenth century. We will look at both secondary material —writing about the history and culture of Japan by modern scholars— as well as English translations of a selection of representative primary sources —premodern texts written by Japanese authors in the period under consideration— and discuss their historical background, as well as their cultural and intellectual significance.

Regarding primary sources, students may read materials in the original Japanese or in modern Japanese translations, depending on their language ability. All secondary materials looked at in this course are only available in English. No previous knowledge of Japanese language or history is required.

授業の到達目標

This course seeks to achieve two objectives. First, students will be able to gain a broad understanding of the historical development of Japanese culture and thought. Second, by studying Japanese cultural history through English sources and translations, students will learn to reconsider Japanese culture from the outside, thereby encouraging new interpretations.

成績評価方法

Students will be evaluated based on the following three factors:

1. Weekly attendance and active participation in class discussions: 30%
2. Weekly in-class short quizzes held at the beginning of each session: 30%
3. Two written reports, due during the middle and end of the course: 40% (each report being worth 20%)

In exceptional cases, such as unavoidable absence from class, students will be given the opportunity to submit extra work in order to make up for lost marks. Such arrangements may be made on an individual basis with the

instructor.

科 目 名	Intensive Studies 13 (Introduction to Japanese Culture and Civilization 2)							
担当者名	ブルチャー　ミヒャエル							
英語	1単位	冬クォーター	火4時限	金4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This class will consider Japan's emergence as a modern state with a focus on the transition from the Tokugawa to the Meiji era. In studying societal and political change predominantly in the nineteenth century (albeit with a view to twentieth-century developments), it will pay particular attention to conceptual shifts in the political and intellectual lexicon of the modern Japanese language.

授業の到達目標

The purpose of this class is to serve as an introduction to the history and political culture of modern Japan. While proceeding roughly chronologically in laying the narrative groundwork, each lecture will apply a topical focus designed to bring larger questions into view. Even as this class will study the emergence of new ways of thinking in response - not solely but also not least - to the impact of Western encroachments and ideas, it will emphasize the extent to which this response could draw on preexisting conceptual resources. Special attention will be paid to how concepts such as 'civilization' and 'culture', 'corporation' and 'society', or 'public' and 'rights', were translated into Sino-Japanese character compounds. A further focus of this class will be the role of the imperial institution in attempts at defining, or contesting, Japanese culture in national terms.

成績評価方法

Two in-class tests (25% each)　50%
Take-home assignment　30%
Attendance and participation　20%

科 目 名	Intensive Studies 14 (Introduction to Japanese Culture and Civilization 3)							
担当者名	アコスタ　アリエル　キャサリン							
英語	1単位	春クォーター	火4時限	金4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course examines 20th-century Japanese history through the lens of the urban and the rural, the center and the periphery. Japan has been one of the most urbanized countries in the world since the Edo period, but the rural has always played an outsized part in Japanese politics, conceptions of Japanese nationalism, and Japanese aesthetics, among other things. We will approach questions about tradition and modernity, what constitutes "Japanese-ness," and Japan's place in the world, and consider how answers to these questions have changed over time. Students will gain an overview of Japan's 20th century, from the ideology of nation building in the Meiji period, through the tensions between country and city in the interwar period, to colonization and imperialism, to postwar economic expansion and environmental issues. The last several sessions of the class will discuss issues in contemporary Japan, including disasters, tourism, and depictions of the urban and rural in popular culture.

授業の到達目標

Students will learn to use a variety of sources, not just history textbooks, as a means of telling and understanding history. We will discuss the use of primary source documents, fiction, mass media, print culture, and visual culture in understanding and analyzing the past. The course will be conducted in English, but students are encouraged to seek out and consult sources in Japanese as well.

成績評価方法

●**試験**　30%　There will be a mid-term and final exam, each worth 15% of the total grade. These exams will be fact-based, to ensure students have a solid understanding of key events, names, places, etc. of 20th-century Japanese history.

●**レポート**　40%　Students will write one final five-page research paper on a topic of their choice, to be decided in consultation with the professor. A series of small writing assignments (350-400 words) throughout the class will prepare the students for the final paper.

●**平常点**　30%　Class participation includes both regular attendance of class sessions, as well as active participation in class and small-group discussions, and in-class presentations.

●**その他**　0%

科 目 名	Intensive Studies 15 (Introduction to Japanese Thought and Religion 1)							
担当者名	博士(仏教学)駒澤大　グレイス　ステファン・ピーター							
英語	1単位	秋クォーター	月6時限	木6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course attempts to take a balanced approach in exploring the unique characteristics of Japanese religion and thought. A strong focus will be placed on the ideas of emic (insider) vs. etic (outsider) descriptions of culture. The course will give equal weight to: 1) close readings of emic essays about Japanese ethnicity, and 2) a broad survey of the scholarship on Japanese religion and thought based on points raised in An Introduction to Japanese Society by Sugimoto Yoshio.

授業の到達目標

Students will gain a broad understanding of the many views on the idea of Japanese uniqueness, from both a “traditional narrative” perspective and a “critical deconstructive” perspective, and will learn to appreciate the dramatic tension between these two opposing worldviews.

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　Report on student’s understanding of emic vs. etic perspectives on Japanese thought and religion.

●**平常点**　50%　　Based on participation in class discussion and on short homework reports/summaries, etc.

●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

Grading will be primarily focused on students’ proactivity. “Stupid” questions are greatly encouraged and valued.

科目名	Intensive Studies 16（Introduction to Japanese Thought and Religion 2）							
担当者名	Ph.D. ロンドン大　　眞野　新也							
英語	１単位	冬クォーター	月６時限	木５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This course provides an introduction of Japanese Buddhist doctrine, and devotes attention to various themes, such as art and ritual. This class will involve interactive lectures, and seminar-like discussions. Students are expected to participate actively, express their thoughts and critically evaluate the sources they study.

本科目は、日本仏教教学の基礎を学びつつ、美術や儀礼に関する諸問題にも注目していく。ティーチングスタイルは講義とセミナー形式のディスカッションとを採用する。学生には授業で用いるテキストを批判的に評価することや、授業に積極的に参加し自分の考えを表明することなどが求められる。

授業の到達目標

At the end of the course, students will acquire;

1）a basic knowledge of Japanese Buddhist Doctrine
2）skills for describing Japanese Buddhism in English
3）an understanding of English necessary for post-graduate studies（for MA students）

本コースの終了時までに、

1）日本仏教教学の基礎知識
2）英語で日本仏教思想を解説する技術
3）大学院レヴェルの英語力（修士の学生）

を習得することが見込まれる。

成績評価方法

Academic Essay 60%
Attendance 40%

備考・関連ＵＲＬ

The above schedule is not entirely fixed. There will be a change in schedule according to level of participants.

科目名	Intensive Studies 17（Introduction to Japanese Thought and Religion 3）							
担当者名	博士（学術）東大　　クリステワ　ツベタナ							
英語	１単位	春クォーター	月６時限	木６時限	１年以上	—	—	—

授業概要

The course will cover a rather long period in the history of Japanese Religion and Intellectual Thought – from ancient times up to the Early Modern Period.

In the first half the course will introduce the traditional Japanese Religions: Shinto and Buddhism. In the second half the focus will be on the specific forms of development of the intellectual thought in Japan, which deviate from the stereotypes based on the Western tradition.

授業の到達目標

1. To provide basic knowledge on the history of Japanese religion.
2. To outline the specific development of the intellectual thought in Japan by challenging the stereotypes.
3. To enhance students’ critical thinking and understanding of cultural diversity.

成績評価方法

●**試験**　40%　　The figures provided below are not absolute. They merely give an idea about the importance of each component in the final evaluation.

●**レポート**　20%

●**平常点**　20%

●**その他**　20%

備考・関連URL

For those students who are interested in the course but lack confidence in their knowledge of English: if you were able to read and understand the syllabus, you may consider enrolling in the course.

科 目 名	Intensive Studies 18 (Introduction to Japanese Visual and Performing Arts 1) Japanese Cinema							
担当者名	博士(日本文学)コロンビア大　　由尾　瞳							
英語	1単位	秋クォーター	月4時限	木4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course offers a general survey of Japanese cinema through introducing important films and directors from the postwar period to contemporary times. Students will engage in close analysis of the films, as well as learn their historical, cultural, and social contexts. Reading assignments include academic articles and film reviews that will assist students in developing their critical understanding of the films.

The class will be conducted in English. All of the films will be subtitled in English.

授業の到達目標

- Acquire exposure to major works of Japanese cinema.
- Cultivate the tools to critically analyze cinematic texts.
- Develop an understanding of the historical, cultural, and social backgrounds.
- Situate Japanese cinema in a global context.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Response Papers (50%)
3. Final Paper (30%)

科 目 名	Intensive Studies 19 (Introduction to Japanese Visual and Performing Arts 2)							
担当者名	Ph.D. コロンビア大　　高井　詩穂							
英語	1単位	冬クォーター	月4時限	木4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This class provides an introduction to various forms of Japanese theater and performance (nō, kyōgen, jōruri, kabuki, and modern theater) through exploring play scripts, visual materials such as actors' prints, and video recordings of performances. The class gives a chronological survey, starting from the religious roots of these performing arts, up through the modern period. Through encounters with primary works, we will consider the cultural, social, and historical background of the time. We will also consider some gender issues, such as women in nō and female-role acting in kabuki. Students are expected to prepare for the class by reading the assigned texts carefully and participate actively in class discussions.

The class will be conducted in English.

授業の到達目標

1. To understand the defining characteristics and development of Japanese theater.
2. To become familiar with the transformations of major topical themes (such as ghosts, warriors, and women) across genre and time.
3. To engage in a synthetic analysis that draws in a variety of media, such as visual arts, performative video clips, and cinema, in addition to textual analysis.

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　30%　Final project
- **平常点**　30%　Attendance and class participation
- **その他**　40%　Assignments, quizzes, response papers, and presentations

科 目 名	Intensive Studies 20 (Introduction to Japanese Visual and Performing Arts 3) Seeing and Thinking about Japan through Visual Culture							
担当者名	博士(文学)コロンビア大　　土金　康子							
英語	1単位	春クォーター	月5時限	木4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

The class will introduce you to some dialogues in art history dealing with Japan, and will help you to look at, think and discuss about works of "art," or more broadly, "visual culture," which have been historically and are currently associated with Japan. The central question we will ask ourselves will be what (if anything) is specifically "Japanese" about the making, appreciation and practice of visual culture from the past and present within and outside of Japan. In its application to Japanese culture, is such a national framework timeless or fluid, universally valid or variable, creatively fruitful or rather superficial? Our class will explore this set of large questions regarding various media of visual art, such as painting, graphic art, design, sculpture, calligraphy, ceramics, architecture, gardens, photography and manga through the following two venues: 1) an introductory historical survey of the rise of new artistic tendencies of such a visual culture from the prehistoric period to the present within the current geopolitical territory of Japan, with some major considerations on how Japan's visual culture has interacted with the rest of the world over time; and 2) a thematic approach, highlighting selected visual conventions in Japanese

society across time that privilege certain materials, aesthetics, beliefs, and collecting and displaying customs, such as tea ceremony and Zen meditation.

授業の到達目標

1) Introduce the method of art history to visually examine art works in person while learning their historical backgrounds and integrating them with the visual information of the works
2) Introduce major artistic phenomena from Japan's prehistoric to modern/contemporary periods
3) Discuss major works, sites, individuals and institutions within the large historical context of Japanese visual culture (the emphasis is on discussion and analysis, not on the memorization of dates and names)
4) Analyze major typologies and visual strategies from historical, artistic and conceptual points of view
5) Examine various notions of "Japan" in visual culture available in Japan and elsewhere by referring to examples from both premodern and modern/contemporary periods
6) Cultivate cultural sensitivity toward premodern examples of Japanese visual culture (before the beginning of the Meiji period in 1868)

成績評価方法

●**試験** 45% Two Small Quizzes, Midterm and Final Exam. The criteria for grading are based primarily on understanding the contents of the readings, class lectures and discussions, not on the memorization of dates and names.
●**レポート** 20% Two Short Writing Assignments & One Museum Report
●**平常点** 30% Attendance and Class Discussions (Bring a question or answer a question given for each class reading)
●**その他** 5% Short Oral Presentation (5 minutes)

科 目 名	Intensive Studies 21 (Education 1)							
担当者名	博士(教育学)国際基督教大　ホサイン　タニア							
英語	1単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

Education is a process through which people learn to create new institutions, use new technologies, cope with their environment and alter their patterns of behavior. Economic and social development of a nation depends on these factors. In a broad sense education improves the capacity of individuals and institutions that contributes to the social, economic, cultural, and demographical changes which are related with the national development. As a whole, education is a process of providing enlightenment and skills to a nation. It is not clear how these changes occur through education but evidence suggests that schooling and education can make major contributions to poverty reduction, gender equity, responsibility of citizenship and equality of life.

授業の到達目標

In this course, students will develop their academic speaking, listening, reading, and writing skills through study and discussion of English lectures of varying lengths. Major focus would be on Education. Activities will include listening to lectures in class, taking structured notes, discussion, answering questions, and writing summaries. Students will also develop their communication skills through a variety of pair, group and class activities. Emphasis will be placed on developing a deep understanding of sentence and text structure, and also on micro- and macro-reading skills. Students will learn how to get the main points of the text quickly and effectively, without the need for translation into the native language. They will also be encouraged to read related reading with the referred textbook to gain a deeper understanding of the covered topics. Students will also develop writing skills in English. In addition, students are required to master academic words including their meaning and collocations by studying the words from the textbook. Students are expected to do 90 minutes homework on weekly assignments.

成績評価方法

Book Report……20%
In-class short test……40%
Final Assessment/ Presentations……40%

科 目 名	Intensive Studies 22 (Education 2)							
担当者名	梅宮　悠							
英語	1単位	秋学期	木曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

Education is a process through which people learn to create new institutions, use new technologies, cope with their environment and alter their patterns of behavior. Economic and social development of a nation depends on these factors. In a broad sense education improves the capacity of individuals and institutions that contributes to the social, economic, cultural, and demographical changes which are related with the national development. As a whole, education is a process of providing enlightenment and skills to a nation. It is not clear how these changes occur through education but evidence suggests that schooling and education can make major contributions to poverty reduction, gender equity, responsibility of citizenship and equality of life.

授業の到達目標

In this course, students will develop their academic speaking, listening, reading, and writing skills through study and discussion of English lectures of varying lengths. Main focus would be education in different countries. Activities will include listening to lectures in class, taking structured notes, discussion, answering questions, and

writing summaries. Students will also develop their communication skills through a variety of pair, group and class activities. Emphasis will be placed on developing a deep understanding of sentence and text structure, and also on micro- and macro-reading skills. Students will learn how to get the main points of the text quickly and effectively, without the need for translation into the native language. They will also be encouraged to read related reading with the referred textbook to gain a deeper understanding of the covered topics. To show their active enrollment in this activity, there is going to be a day for the book report where students are required to introduce their readings and share their opinions in class. Students will also develop writing skills in English. In addition, students should aim to master academic words including their meaning and collocations by studying the words from the textbook.

成績評価方法

Book Report……20
In-class activities……40
Final Assessment/ Presentations……40

科 目 名	Intensive Studies 23 (European Thought 1) British and European Landscape and Garden Interactions, 1680-1950							
担当者名	PhD in Intellectual History英国・サセックス大　ロビンソン　ピーター							
英語	1単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

The process by which landscapes are shaped, whether in the form of medieval royal hunting forests, aristocratic pleasure grounds, public parks, or intimate private gardens, tells us a lot about national identity, cultural priorities, and aesthetic values. This course introduces students to key principles, developments, and transitions in the British and European landscape tradition, spanning the Baroque period to the end of WWII. By studying a range of key concepts, important examples of landscapes, gardens, and their designers as well as the ideals and principles that lay behind them, we will see how the land has been a rich site for political, philosophical, and artistic expression, rivalling other mediums in which ideas are born, develop, and reach maturity.

授業の到達目標

By the end of the course you will understand the key philosophical and aesthetic ideas that underpinned attitudes towards landscape in Britain and Europe from the mid-seventeenth century to the mid-twentieth century, recognize the importance of specific gardens in the process of development and place landscape within the wider intellectual and social framework of the Western Tradition.

成績評価方法

- **試験**　0%　None.
- **レポート**　70%　End of term paper.
- **平常点**　30%　Individual/group presentation.
- **その他**　0%　Regular attendance is a requirement of the course.

科 目 名	Intensive Studies 24 (European Thought 2) A Cultural History of Collecting							
担当者名	PhD in Intellectual History英国・サセックス大　ロビンソン　ピーター							
英語	1単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course explores the cultural importance of collecting in the Anglophone world. From important institutional collections of plants in botanical gardens and vast museums containing millions of artefacts, to small private 'cabinets of curiosities' first popularized in the 17th century, the desire to collect is timeless. Collections have satisfied inquiring minds throughout the ages, become obsessions and fetishes, and been used to project political power and status. Collections undoubtedly remain important, but are transforming. Many of the insights into the cultures of past societies that we have today, and a whole range of scientific break-throughs, are the result of the existence of collections. This course will address the motivation behind collecting and consider both the great harm collections have done, but also the great benefits they have brought us. A range of indicative collections will be introduced, such as plants, antiques, fossils, natural history, art, as well as examples of popular culture such as American comics.

授業の到達目標

By the end of the course you will have a solid understanding of the importance of collecting, its social and intellectual impact on the Anglophone world, and be familiar with some of the most important collections in their respective fields. The roles played by the concepts of curatorship (the construction of narratives), display, classification, and the impact of digitalization and technology will also be explored.

成績評価方法

1) A short (750 word) paper responding to an assigned question based on session 9 (40% of grade)
2) An end-of-term in-class written examination (60% of grade)

備考・関連ＵＲＬ

Regular attendance is a requirement of the course.

科 目 名	Intensive Studies 25 (Critical Theory) Literary and Cultural Theory: Text, World, Self							
担当者名	Ph.D. Columbia University　マッキン　ゼイン　ディーン　リバー							
英語	1単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course introduces literary and cultural critical theory from the 20th century to the present, with special attention to issues relevant to the study of East Asia. Students will be encouraged to think critically and creatively about any theoretical arguments or issues that emerge in the course of our readings and discussions, rather than treat theoretical idiom as an instrument to be applied to a literary text.

(All readings for this course will be in English.)

授業の到達目標

1. Become familiar with the main theoretical debates relevant to the study of East Asia.
2. Develop the skills necessary to interpret literary, cultural, and historical texts.
3. Develop and practice analytical writing skills.

成績評価方法

●**試験**　30%　Final Exam
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　Attendance and Class Participation
●**その他**　40%　Weekly Responses and Presentations

科 目 名	Intensive Studies 26 (Japanese Culture and Society 1) Mapping East Asia: Tracing the Borders of Japan in the Early 20th Century							
担当者名	博士(日本文学)コロンビア大　ハートマン　ナン							
英語	1単位	夏クォーター	月3時限	木2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course serves as an introduction to the entity commonly referred to as "Japan." Focusing on the topic of "extraterritorial" (gaichi), the readings of this course take an intensive look at transculturations of Japanese literature and aims to deepen knowledge of Japanese colonialism(s).They are selected to provide mappings of the colonies in literary languages that inevitably shape our sense of the strange, while requiring us to re-conceptualizethe definitions of nation, language, culture, ethnicity, and self-identity.

授業の到達目標

- familiarize students with the modern nation-state of Japan through literary works
- recognize Japan's shifting geographies across time and space in the early 20th century
- critical reading and analytical skills of texts from various historical contexts

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　Four response papers 4 x 15%
●**平常点**　20%　Attendance and Participation
●**その他**　20%　Presentation

科 目 名	Intensive Studies 27 (Japanese Culture and Society 2) Voices from the Margins: Radical Thought, Protest, and Dissent in Modern Japan							
担当者名	アコスタ　アリエル　キャサリン							
英語	1単位	夏クォーター	火3時限	金3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This class will approach modern Japanese history, from the mid-Meiji period to our current day, from the 'margins' of history. We will read primary source documents from suppressed voices, including political radicals, ethnic and cultural minorities, labor movements, feminist activists and others, while investigating the political and cultural contexts that lead to their marginalization and/or suppression.

授業の到達目標

Students will learn to use a variety of sources, not just history textbooks, as a means of telling and understanding history. We will discuss the use of primary source documents, fiction, mass media, print culture, and visual culture in understanding and analyzing the past. The course will be conducted in English, but as this course emphasizes primary source documents, students are encouraged to seek out and consult sources in Japanese as well.

成績評価方法

●**試験**　30%　There will be a mid-term and final exam, each worth 15% of the total grade. The format of exams will be multiple choice and short answer.
●**レポート**　30%　Students will write one final five-page research paper on a topic of their choice, to be decided in consultation with the professor. A series of small writing assignments (350-400 words) throughout the class will prepare the students for the final paper.
●**平常点**　20%　Class participation includes both regular attendance of class sessions, as well as active participation in class and small-group discussions and in-class presentations.
●**その他**　20%　Students will give a short (10-15 minute) presentation on one reading. The presentation schedule will be decided during the first meeting of the class.

科 目 名	Intensive Studies 28 (Japanese Culture and Society 3) Sociolinguistic dynamics in Japanese languages and dialects							
担当者名	言語学(副専攻・認知科学)インディアナ大　　吉田　健二							
英語	1単位	冬クォーター	火5時限	金5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

In this course, we will review current issues in Japanese languages and dialects focusing on their diversity and sociolinguistic dynamics. We will look at multiple languages spoken in the islands of Japan and overseas, and varieties of dialects with their wide range of interesting features. Some of the topics to be discussed in this course may challenge common perceptions on socio-linguistic situation of Japan, i.e., virtually monolingual, fairly homogeneous culture with the strong standard variety. I hope that this course help students to gain a solid understanding of sociolinguistic theory and analysis and to expand their interest in important and interesting issues related to language and society.

授業の到達目標

The class will proceed with lectures by the instructors and discussion by students. The course materials will be posted on Course Navi. The students will be asked to find their own research questions and develop them throughout the course with the final write-up. The mid-term presentation will be held to help students to start and develop their course project.

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　70%　The term final paper will be evaluated using the criteria below: 1) Clear and meaningful research question(s) grounded on the discussion and materials covered throughout the course 2) Coherent essay structure that naturally leads to appropriate answers to the research questions 3) Proper citation of preceding studies

●**平常点**　30%　Contribution to class discussion will be highly evaluated. Students are encouraged to report on materials or their own findings.

●**その他**　0%

科 目 名	Intensive Studies 29 (Japanese Visual Culture and Media 1) Japanese Cinema and Literature							
担当者名	博士(日本文学)コロンビア大　　ハートマン　ナン							
英語	1単位	夏クォーター	月5時限	木4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course examines visual adaptations of Japanese literary works. Through comparative analysis of textual and visual media we will discuss issues including the relationship between content and style, politics of representation (such as hyper femininity/masculinity), intended readership/audience, aesthetics, and genre characteristics. Students will learn about Japanese cinema as the artistic expression of individual directors and gain a better understanding of the history of Japanese society as reflected and documented in literature and popular culture.

授業の到達目標

- practice discussing film with reference to story, character, image, and narration
- learn about some of the major directors of Japanese cinema and auteurism
- improve analytical skills by reading primary texts and critical essays on films viewed
- improve writing skills, particularly description, analysis, and refining of arguments about films/stories in question

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　60%　Six short written responses 6 x 10%

●**平常点**　30%　Attendance (15%) and participation in discussion (15%)

●**その他**　10%　Final presentation

科 目 名	Intensive Studies 30 (Japanese Visual Culture and Media 2) Anime: The Face of Japanese Popular Culture							
担当者名	ケルツ　ローランド　ノゾム							
英語	1単位	夏クォーター	土4時限	土5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course provides a critical perspective on Japanese animation ('anime') and its relationship to postwar Japanese history and popular culture. The focus of this course is to develop a nuanced understanding of anime, not only as an aesthetic discipline and form of expression, but also as a cultural product informed by native economic and societal conditions. Through screenings, readings, lectures, discussions and collaborative projects, students will gain a broader and deeper awareness of what lies behind the curtain of such a profoundly hybridized and influential medium — and how it may evolve in the future.

授業の到達目標

- Acquire exposure to major works in the history of anime.
- Cultivate the tools to critically analyze anime narratives and visuals.
- Develop an understanding of historical, cultural and social backgrounds.

- Situate anime in a global context.

成績評価方法

1. Class Participation 30%
2. Homework/Class Preparation 30%
3. Presentations 20%
4. Papers 20%

備考・関連URL

*If you miss more than 5 classes, the university will not grant you credit for the course.
*More than 30 minutes late will count as a missed class, barring urgent reasons.

科 目 名	Intensive Studies 31 (Japanese Visual Culture and Media 3) Global Perspective on Japanese Arts and Culture							
担当者名	博士(文学)早大　柳下　惠美							
英語	1単位	秋クォーター	火5時限	金5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course will focus on the arts, culture, and philosophy of Japan, as well as on the work of Japanese artists active in other countries. In this class, students will study influential aspects of Japanese arts, culture, and philosophy, while gaining a global viewpoint by learning about how other nations perceive Japan and Japanese civilization. We will cover a variety of Japnese topics, including their impact on Western art and thought; Noh theatre; Kabuki; Tea master and tea ceremony; Samurai culture; notable Japanese philosophers, dancers, sculptors, writers, film directors, conductors, painters, government officials, and academicians, etc.

Students are required to develop their own opinions on these subjects and summarize their ideas in oral presentations and writings. At the end of class, different points of view will be compared and discussed. In this course, some illustrations and audio-visual materials will be used to deepen students' knowledge.

授業の到達目標

1. Develop reading, writing, speaking and listening skills
2. Increase vocabulary
3. Understand aspects of Japanese arts and culture
4. Gain a global viewpoint on Japanese arts and culture

成績評価方法

●**試験**　0%　N/A
●**レポート**　30%　Report
●**平常点**　70%　Attendance/Class Participation
●**その他**　0%　N/A

科 目 名	Intensive Studies 32 (Comparative Perspectives in Japanese Literature) Japanese Essay Literature							
担当者名	Ph.D. コロンビア大　リーブズ　クリストファー							
英語	1単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course will serve as an introductory survey of Japanese essay literature (zuihitsu bungaku). We will look at English translations of a selection of representative essays, both literary and philosophical, and discuss their historical background, literary features, and contribution to Japanese intellectual history. We will, by way of comparison, look at a number of short essays by writers of other nations, as a means of gaining a broader understanding of our material.

Students may also read materials in the original Japanese or in modern Japanese translations, depending on their language ability. No previous knowledge of Japanese language or literature is required.

授業の到達目標

This course seeks to achieve two objectives. First, students will be able to gain a broad understanding of the historical, literary, and intellectual features of Japanese essay literature. Second, by studying essay literature through English translations, students will learn to reconsider Japanese culture from the outside, thereby encouraging new interpretations.

成績評価方法

Students will be evaluated based on the following three factors:

1. Weekly attendance and active participation in class discussions: 30%
2. Weekly in-class short quizzes held at the beginning of each session: 30%
3. Two written reports, due during the middle and end of the course: 40% (each report being worth 20%)

In exceptional cases, such as unavoidable absence from class, students will be given the opportunity to submit extra work in order to make up for lost marks. Such arrangements may be made on an individual basis with the instructor.

科 目 名	Intensive Studies 51（Seminar: Topics in Japanese Literature 1） Classical Japanese							
担当者名	Ph.D. コロンビア大　　高井　詩穂							
英語	1単位	春クォーター	火1時限	金1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

Classical Japanese (bungo or kogo) is not so remote and foreign as one may think – it was a standard written language in Japan until well into the twentieth century, and has direct connections to modern Japanese language. This class will introduce students to the basic grammar of classical Japanese and we will read together a wide range of original Japanese texts from the eighth to mid-twentieth centuries.The texts are picked on the basis of grammatical points, but they are also selected from representative interesting classical texts, including poetry, tales, legal writings, etc. You will open doors to the rich breadth of historical texts that are only accessible through knowledge of classical Japanese.

The grammatical points for the next class will be provided in each class. Students are required to look up the vocabulary and prepare their own translation for a short historical passage before each class. In class, students and the instructor discuss the grammatical points and the translation of the historical texts for the class.

Language requirement:
The class is conducted in English. Since this class involves translation from classical Japanese into English, fluent English and a minimum of an intermediate level modern Japanese (about 2 years of Japanese) is required, and a higher level is recommended. Please consult with the instructor if you are unsure about your language level.

授業の到達目標

1. To learn the basic grammar of classical Japanese in different time periods.
2. To be able to read and understand some historical Japanese texts with the help of a dictionary.
3. To appreciate how the knowledge of classical Japanese may enrich your understanding of Japanese literature.

成績評価方法

50% Class Participation, quizzes, written assignments

25% Midterm

25% Final

科 目 名	Intensive Studies 52 (Seminar: Topics in Japanese Literature 2) Reading and Translating Japanese Literature							
担当者名	バナード　ジュニア　ピーター　ジョン							
英語	1単位	春クォーター	火4時限	金4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course is a first introduction to the challenges of Japanese-to-English literary translation. Students will read recent works of short Japanese fiction and produce English translations of selected passages. Class time will be devoted to analyzing the original texts as literary works, and discussing the different choices available in the process of their translation. (An advanced level of both Japanese and English is required for this course.)

授業の到達目標

1. Improve one's ability to produce accurate translations of literary Japanese texts into English.
2. Identify the key features of a literary text and the choices available to its translator.
3. Evaluate the quality of a translation and identify areas of improvement.

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　30%　Final Project
- **平常点**　30%　Attendance and Class Participation
- **その他**　40%　Weekly Responses and Presentations

科 目 名	Intensive Studies 53 (Seminar: Topics in Japanese Literature 3) Gender performances and Femininity in Japanese Literature: From Heian to Meiji							
担当者名	博士(国際コミュニケーション学)早大　　マルティネス・シレス　パウラ							
英語	1単位	冬クォーター	火5時限	金5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

Women writers have played a major role in the development of Japanese literature throughout the centuries. In this seminar we will journey from Heian to Meiji period in order to explore how were femininity or the role of women defined and enacted through several texts (*Kagerō Nikki, The Pillow Book, The tale of Genji,* Abutsu-ni or Higuchi Ichiyō's stories, etc.), and what happened when certain characters performed actions that went against the expectations of the gender they were assigned at birth (*Torikaebaya monogatari, Ariake no wakare, The life of an amorous woman...*).

授業の到達目標

Students should expect to:
1. Develop an understanding of the historical and social backgrounds of the texts.
2. Become familiar with a wide range of Japanese literature and women writers.

3. Achieve a general understanding of how literature reflects gender performativity.
4. Read more analytically, extract relevant information from the readings and improve communication and writing skills in English.

成績評価方法

●**試験** 0% There is no examination for this course.
●**レポート** 40% A well-researched and properly presented final paper addressing a question of your choice related to the general course topic. It should be typewritten in a 12-point font and double-spaced, and must be submitted in the form of a hard copy as well as via CourseN@vi.
●**平常点** 30% Attendance and class participation.
●**その他** 30% Occasional assignments, response papers, and a presentation.

備考・関連ＵＲＬ

You will need passing grades in all categories (Paper / Attendance & Participation / Responses & Presentations) in order to obtain a grade for the course.

科 目 名	Intensive Studies 54 (Seminar: East Asian Cultures in Global Perspective 1) Literary Themes in Japan, China, and Korea							
担当者名	Ph.D. コロンビア大　リーブズ　クリストファー							
英語	１単位	春クォーター	月３時限	木２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This course will serve as an introductory survey of a number of central literary themes found in premodern Japanese, Korean, and Chinese literature. We will thus consider Japanese literary and intellectual history from a broader East Asian perspective, exploring some of the more striking similarities and differences between Japan, on the one hand, and Korea and China, on the other. We will look at English translations of a selection of representative texts, and discuss both their historical background as well as literary features.

Students may also read materials in the original languages, or through modern translations in languages other than English, depending on their language ability. No previous knowledge of Japanese, Korean, or Chinese language or literature is required.

授業の到達目標

This course seeks to achieve two objectives. First, students will be able to gain a broad understanding of some of the major literary themes running through Japanese, Korean, and Chinese premodern literature. Second, by studying these literary traditions through English translations, students will learn to reconsider Japanese culture, and, more broadly speaking, East Asian culture, from the outside, thereby encouraging new and creative interpretations.

成績評価方法

Students will be evaluated based on the following three factors:

1. Weekly attendance and active participation in class discussions: 30%
2. Weekly in-class short quizzes held at the beginning of each session: 30%
3. Two written reports, due during the middle and end of the course: 40% (each report being worth 20%)

In exceptional cases, such as unavoidable absence from class, students will be given the opportunity to submit extra work in order to make up for lost marks. Such arrangements may be made on an individual basis with the instructor.

科 目 名	Intensive Studies 55 (Seminar: East Asian Cultures in Global Perspective 2) Literary Themes in Japan, China, and Korea							
担当者名	Ph.D. コロンビア大　リーブズ　クリストファー							
英語	１単位	春クォーター	月４時限	木４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This course will serve as an introductory survey of a number of central literary themes found in premodern Japanese, Korean, and Chinese literature. We will thus consider Japanese literary and intellectual history from a broader East Asian perspective, exploring some of the more striking similarities and differences between Japan, on the one hand, and Korea and China, on the other. We will look at English translations of a selection of representative texts, and discuss both their historical background as well as literary features.

Students may also read materials in the original languages, or through modern translations in languages other than English, depending on their language ability. No previous knowledge of Japanese, Korean, or Chinese language or literature is required.

授業の到達目標

This course seeks to achieve two objectives. First, students will be able to gain a broad understanding of some of the major literary themes running through Japanese, Korean, and Chinese premodern literature. Second, by studying these literary traditions through English translations, students will learn to reconsider Japanese culture, and, more broadly speaking, East Asian culture, from the outside, thereby encouraging new and creative interpretations.

成績評価方法

Students will be evaluated based on the following three factors:

1. Weekly attendance and active participation in class discussions: 30%
2. Weekly in-class short quizzes held at the beginning of each session: 30%
3. Two written reports, due during the middle and end of the course: 40% (each report being worth 20%)

In exceptional cases, such as unavoidable absence from class, students will be given the opportunity to submit extra work in order to make up for lost marks. Such arrangements may be made on an individual basis with the instructor.

科 目 名	Intensive Studies 56 (Seminar: East Asian Cultures in Global Perspective 3) Writing Women in Premondern East Asia							
担当者名	Ph.D. コロンビア大　　高井　詩穂							
英語	1単位	秋クォーター	火1時限	金1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This class is a discussion-based seminar that focuses on women's autobiographical writings in premodern East Asia (China, Japan, and Korea), considering the changing historical and social contexts in which the women wrote. Students are asked to take an active role by critically engaging with assigned texts and by discussing their views on the readings with fellow students and the instructor in every class. This class has at least 20 pages of reading assignments per class and weekly response paper assignments. Please allow yourself sufficient time to read through the materials and think them over prior to and after each class.

This course will be conducted in English. No knowledge of Chinese, Korean, or Japanese is required.

授業の到達目標

1. To be acquainted with some women's autobiographical writings from China, Japan, and Korea.
2. To be able to critically analyze texts in their contexts and in comparison to each other.
3. To be able to communicate one's ideas effectively in class and in writing.

成績評価方法

30% Final Project
30% Attendance and Class Participation
40% Pop Quizzes, Weekly Assignments, and Presentations

科 目 名	フランス語を読む1（文学1）							
担当者名	福山　智							
仏語	1単位	春学期	水曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

初等文法を履修した学生（一般的には2年生以上、ただし独学や高校以前の既習者はその限りではない）が対象となります。

特に2年生は文法事項を修めたばかりで実際に読むためにその知識を運用した経験がほとんどないでしょう。また3年生以上でもしばらくブランクがある場合も考えられます。したがって前期は、文字数の少ない韻文詩を読みましょう（だからといって簡単には読めませんが）。前半は比較的読みやすい20世紀の作品をいくつか取り上げます。それから、せっかく韻文を読む機会なので、後半は、フランス詩法のイロハにも目くばせをするために、19世紀近代史の幕開けを告げる詩人たち、ボードレール、ランボー等の代表的な韻文作品を読みます。時には、実際に読んだ作品とゆかりのある映像なども観る予定です。

どれも知っておいて損のない作品ばかりです。フランス語力のみならず知識としても還元できればと思います。

フランス語を読む楽しみ、原文でしかわからない味わいを感じること、またそれだけではなく、作品の背後にある、それぞれの歴史、文化にもふれることでより豊かにテキストに接すること、これが当講義の主眼となります。従って、2年生のみならず、3年生、4年生、さらに上の学生の受講も、もちろん歓迎です。またオープン科目でもあります。他学部からの受講生もおおいに歓迎します。このようにダイレクトにひたすら文学的な作品を読むという講義は他学部ではなかなかお目にかかれるものではないかもしれません。そうした機会を逃さずに、臆することなく参加してください。

試験は期末の教場試験とします。辞書持ち込み可。おおよそ半分は授業で扱ったプリントから、残りの半分は実力テストで基本的には和訳形式になります。

授業の到達目標

フランス語で読む楽しみ、継続して読もうという意欲を感じるようになること。また文化一般にも興味を抱くようになること。

成績評価方法

- **試験**　70%　　辞書持ち込み可
- **レポート**　0%　　特になし
- **平常点**　30%　　授業での積極性
- **その他**　0%　　特になし

科 目 名	フランス語を読む2（哲学）　哲学書のフランス語に慣れる							
担当者名	博士(文学)早大　　立花　史							
仏語	1単位	春学期	火曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

思想・哲学系のフランス語文献を読んでゆきます。

春、秋ともに、それぞれ哲学者のテクストの抜粋（1～2つ）を読みます。そのつど、新たな哲学者のテクストに入るときには、可能な範囲で、こちらから哲学者の簡単な解説もおこないます。

※ただし登録者や講師の問題関心によっては美学・社会学・分析哲学に関わるテクストや哲学的な文学テクストを扱う場合もあります。

論述文によく出てくる語彙や熟語、文構造というものがあります。それらを少しずつ身につけてゆくと、文面から徐々に意味が汲み取れるようになります。それまでの間、辞書を片手に、フランス語の文章と根気よく向き合える登録者がのぞましいと考えています。なるべく平易なテクストを選ぶつもりですが、哲学という縛りがあるので、どうしてもテクストのレヴェルは中級以上になります。

中級者を主な対象としていますが、学部生から院生まで、学年や所属は幅広く歓迎します。

準備・環境がととのえば、視聴覚教材も利用したいと思います。

授業の到達目標

本講座の到達目標は、哲学書に出てくるフランス語に慣れることです。単に辞書を引くだけでなく、独特の語彙、熟語、文構造をなるべく習得するように心がけてください。

もちろん本講座は、フランス語圏の思想・哲学に関する教養を深め、さまざまなテーマに関して自主的に考える機会を提供する場となることも目指しています。(ただし哲学や思想そのものを専門的に講ずる授業ではないのであしからず。)

成績評価方法

- **試験**　45%
- **レポート**　0%
- **平常点**　55%
- **その他**　0%

備考・関連URL

秋期からの登録も歓迎しますが、通年で受講することをお勧めします（春期のテクストの途中からになる場合もあります）。

科 目 名	フランス語を読む3（芸術・文化）　フランスの文学作品をとにかく読んでいくうちに、フランス語が自力で読めるようになる							
担当者名	中島　万紀子							
仏語	1単位	春学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

フランスの、おもに文学のテクストをとりあげて、とにかく辞書さえあれば自力でフランス語の本格的な文章を読むことができるようになる。

フランス文学の有名な作品を、読むにたやすいものから順に取り上げて、数多く読んでいくので、フランス文学の名作について知る機会も兼ねている。

フランス語をひととおり学習した人を対象としているが、フランス語に少々自信のない人でも、文法事項も復習しながらフランス語読解のコツをおさえていくので、じっさいのフランス語の文章を自分で読めるようになる……はずである。

取りあげるテーマに関しては、学期の初めにアンケートをおこなうので、可能な限り皆さんの希望にも添いたいと考えている。

毎回短めの文章を読みきりというかたちで取りあげる。

授業の到達目標

じっさいのフランス語の文章を、自分で辞書をひいて読めるようになること。

成績評価方法

- **試験**　60%　　学期末に、持込不可（辞書も不可）の復習テストをおこなう。学期中に読んだフランス語の文章の抜粋を出題するので、それを和訳すること。
- **レポート**　0%　　レポートは課さない。訳文提出については「平常点評価」の項を参照のこと。
- **平常点**　40%　　出席を1回2点として30点、訳文提出を、1回2点、上限5回として10点、計40点とする。
- **その他**　0%　　特になし。

科 目 名	フランス語を読む4（現代文明）　フランスの現代社会。							
担当者名	博士(文学)早大　　梶田　裕							
仏語	1単位	春学期	月曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

「移民」のテーマを中心に新聞記事やブログなどの短いテクストを読み、フランスの植民地主義、格差、差別、極右の台頭といった様々な政治的問題について理解を深めていきたいと思います。

授業の到達目標

中級程度のフランス語を読むための語学力・読解力を身につけること。また、現在のフランス社会が抱えている様々な問題をより深く理解すること。

成績評価方法

毎回の予習や授業への参加50%、筆記試験50%で評価する。

備考・関連URL

初回の授業の際、辞書を持参すること。

科 目 名	フランス語を読む6（文学1）							
担当者名	福山　智							
仏語	1単位	秋学期	水曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

前期（春期）での自信や興味を糧に、後期はより多くのフランス語を読むことを目指します(とはいえ、後期(秋期)からの履修でもまったく問題ありません)。散文詩や小説作品を中心に徐々に難易度の高いテクストへとステップ・アップしていきましょう。名文の誉れ高い作品や、原文で読んでこそ魅力が伝わる文章を取り上げます。時には作品が引用されている映画、映像にも時間が許す限り目を通す予定です。当講義はテクストのつまみぐいのようなものです。フランス語力を培うのみならず、今後の個人的な興味や研究対象を選ぶヒントになるよう期待しています。

対象は、フランス語初級文法を修めた学生となります。またオープン科目でもあります。文学作品を読むことに垣根は有りま

せん。他学部からの受講生もおおいに歓迎します。
　カリキュラムはあくまでも目安です（授業計画は2018年度後期に実際取り上げたテクストを挙げておきます）。というのも、受講者からのリクエストを優先して授業で扱うテクストを選定しているからです。もちろん全員のリクエストにこたえることはできませんが、どしどし読みたいテクストを提案してください。フランス人による作品ではないもの、フランス語「訳」作品を読むこともやぶさかではありません。ただし、アゴタ・クリストフ『文盲』、サガン『悲しみよこんにちは』、カミュ『異邦人』、フローベールは必ず取り上げる予定です（フローベールに関しては、具体的に作品や箇所のリクエストがあるのなら歓迎します）。
　試験は期末に教場試験を行います。辞書持ち込み可。半分は授業で扱ったプリントから、残りの半分は実力テストで和訳形式です。

授業の到達目標

　フランス語を読むことに喜びを感じること。語学力のみならず、フランスの文化、ひいてはヨーロッパ全体の文化や歴史への興味を抱くこと。

成績評価方法

●**試験**　70%　　辞書持ち込み可
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　30%　　授業における積極性
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	フランス語を読む7（哲学）　哲学書のフランス語に慣れる							
担当者名	博士（文学）早大　　立花　史							
仏語	1単位	秋学期	火曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

　思想・哲学系のフランス語文献を読んでゆきます。
　春、秋ともに、それぞれ哲学者のテクストの抜粋（1～2つ）を読みます。そのつど、新たな哲学者のテクストに入るときには、可能な範囲で、こちらから哲学者の簡単な解説もおこないます。
　※ただし登録者や講師の問題関心によっては美学・社会学・分析哲学に関わるテクストや哲学的な文学テクストを扱う場合もあります。
　論述文によく出てくる語彙や熟語、文構造というものがあります。それらを少しずつ身につけてゆくと、文面から徐々に意味が汲み取れるようになります。それまでの間、辞書を片手に、フランス語の文章と根気よく向き合える登録者がのぞましいと考えています。なるべく平易なテクストを選ぶつもりですが、哲学という縛りがあるので、どうしてもテクストのレヴェルは中級以上になります。
　中級者を主な対象としていますが、学部生から院生まで、学年や所属は幅広く歓迎します。
　準備・環境がととのえば、視聴覚教材も利用したいと思います。

授業の到達目標

　本講座の到達目標は、哲学書に出てくるフランス語に慣れることです。単に辞書を引くだけでなく、独特の語彙、熟語、文構造をなるべく習得するように心がけてください。
　もちろん本講座は、フランス語圏の思想・哲学に関する教養を深め、さまざまなテーマに関して自主的に考える機会を提供する場となることも目指しています。（ただし哲学や思想そのものを専門的に講ずる授業ではないのであしからず。）

成績評価方法

●**試験**　45%
●**レポート**　0%
●**平常点**　55%
●**その他**　0%

備考・関連URL

　秋期からの登録も歓迎しますが、通年で受講することをお勧めします（春期のテクストの途中からになる場合もあります）。

科 目 名	フランス語を読む8（芸術・文化）　フランスの文学作品をとにかく読んでいくうちに、フランス語が自力でサクサク読めるようになる							
担当者名	中島　万紀子							
仏語	1単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

　基本的には、春学期の「フランス語を読む3（芸術・文化）」のつづきであるが、秋学期だけ単独で受講することもできる。（しかし、春学期のつづきではあるので、春学期から履修している人はレベルアップしているはずである。したがって、秋学期から履修する人は、周りのレベルに合わせて自助努力する必要が出てくるかもしれない。）
　春学期と同様、フランスの、おもに文学のテクストをとりあげて、とにかく辞書さえあれば自力でフランス語の本格的な文章を読むことに慣れていく。フランス語の有名な作品を、できるだけ難易度順に数多く読んでいくので、フランス文学の名作について知る機会も兼ねている。
　フランス語をひととおり学習した人を対象としているが、フランス語に少々自信のない人でも、文法事項も復習しながらフランス語読解のコツをおさえていくので、じっさいのフランス語の文章を自分で読めるようになる……はずである。
　取りあげるテーマに関しては、学期の初めにアンケートをおこなうので、可能な限り皆さんの希望にも添いたいと考えている。
　毎回短めの文章を読みきりというかたちで取りあげる。

授業の到達目標

　じっさいのフランス語の文章を、自分で辞書をひいて読むのに慣れること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末に、持込不可（辞書も不可）の復習テストをおこなう。学期中に読んだフランス語の文章の抜粋を出題するので、それを和訳すること。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。「訳文提出」については以下の「平常点評価」の項を参照のこと。

●**平常点**　40%　　出席を1回2点として30点、訳文提出を、1回2点、上限5回として10点、計40点とする。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	フランス語を読む9（現代文明）　映画評論を読む。							
担当者名	博士(文学)早大　　梶田　裕							
仏語	1単位	秋学期	月曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要
現代文明がイメージの文明であることは疑いの余地がないように思われます。映画は、最も大衆的なイメージの芸術の一つとして、この文明に様々な形で介入します。それは現実を写し出すだけでなく、現実のある部分を見えなくしたり、反対に、それなしには見えなかったであろうものを見えるようにしたりします。映画がこうしたことを行うのは、単に映画作品の中で語られる内容によってだけでなく、それが現実を切り取り、その切り取られたイメージを他の切り取られたイメージと結びつけ、時間の中に配列する仕方によっても行われます。この授業では、Cahiers du cinéma誌や、Trafic誌といったフランスの映画専門誌に掲載された短い論文を読みながら、映画という芸術について考えると同時に、映画を語るための言葉、概念、あるいは技法について学んでいきたいと思います。

授業の到達目標
中級程度のフランス語を読むための語学力・読解力を身につけること。映画を論じるための初歩的な技法を学ぶこと。

成績評価方法
毎回の予習や授業への参加50%、筆記試験50%で評価する。

備考・関連URL
初回の授業の際、辞書を持参すること。

科 目 名	フランス語で表現する2（会話中級）　A　日常生活の表現から意見の発表までフランス語で言う							
担当者名	ヴァンシンテヤン　カトリーヌ							
仏語	1単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要
発音と聞き取りの復習をしながら、フランス語の自然度を高める。
オーディオやAV資料を参照し、ロールプレーと会話を実地する。

授業の到達目標
日常生活の語彙を身につけて、表現したいことを分かりやすく伝えるようになる。

成績評価方法
●**試験**　40%
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%
●**その他**　0%

科 目 名	フランス語で表現する2（会話中級）　B							
担当者名	クーショ　マリナ							
仏語	1単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
「フランス語で表現する1（会話初級）A」クラスに引き続き、教科書『TOTEM 3』のビデオ（字幕付き）に基づいて行われる授業です。
中級編のビデオはほとんど、フランスのTVプログラム（コマーシャルなど）からの動画です。流行語、慣用表現などがたくさん出てますので、普段あまり触れる機会のない仏語を身につけましょう。
また取り上げたテーマについて話し、新しい表現を再現できる力を養います。

授業の到達目標
ー自然なフランス語に慣れていくこと。
ー自分の感想をより豊かに、自然に述べること。
ー意見をかわす力を得ること。

成績評価方法
●**試験**　60%　　会話テスト（2回）
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　20%　　参加態度
●**その他**　20%　　出席

科 目 名	フランス語で表現する4（作文中級）　Traduire, écrire, composer							
担当者名	ヴァンシンテヤン　カトリーヌ							
仏語	1単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
Deux types d'exercices seront alternativement proposés :
-la traduction en français d'un court passage de japonais,
-la composition d'un texte rédigé directement en français à partir du passage japonais précédemment traduit ou d'un texte français lu en classe.
Une semaine, le cours sera consacré à la reprise des traductions faites à la maison, à des exercices de

grammaire portant sur des points spécifiques ainsi qu'à des recherches de vocabulaire. Un nouveau texte sera donné à traduire.
La semaine suivante, les étudiants remettront leur nouvelle traduction et commenceront à produire et rédiger en français leur propre texte, d'après les consignes proposées.
Une présence régulière est souhaitable.

授業の到達目標

Révision et mise en pratique des structures grammaticales.
Révision et apprentissage de vocabulaire.
Entraînement à écrire un récit, à donner son avis et exprimer ses goûts de manière nuancée.

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　80%
- **平常点**　0%
- **その他**　20%

科 目 名	フランス語で表現する5（会話・作文総合） Discuter, s'exprimer en français フランス語で議論する、表現する。							
担当者名	博士（文学）早大　　梶田　裕							
仏語	1単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

À partir de supports variés -- articles de presse, émissions télévisées, films, sites web, etc. -- portant sur des sujets qui concernent la culture et la société françaises, nous nous entraînons à discuter et écrire en français. Une séquence est composée de cinq séances consacrées à un même sujet. Les étudiants doivent rendre un petit compte-rendu à la fin de la séquence. Les sujets seront choisis en fonction des intérêts des participants.
フランス社会および文化に関するテーマを選び、新聞、雑誌、テレビ、映画、ウェブサイトなど様々な媒体を用いて、フランス語で議論し、また書く練習をします。だいたい5回の授業で1つのテーマを扱い、5回目の授業で扱ったテーマに関するフランス語のレポートを提出してもらいます。テーマは参加者の興味に応じて一緒に選びます。

授業の到達目標

S'entraîner à lire, écrire, écouter, parler en français.
Mieux comprendre la société et la culture française.
フランス語で読む・書く・聞く・話すという総合的な能力を高めること。
フランス社会や文化について理解を深めること。

成績評価方法

Présence et participation aux cours : 40%; comptes-rendus : 60% 授業への参加40%、提出されたレポート60%で評価する。

科 目 名	フランス語で表現する7（会話中級） A　日常生活の表現から意見の発表までフランス語で言う							
担当者名	ヴァンシンテヤン　カトリーヌ							
仏語	1単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

発音と聞き取りの復習をしながら、フランス語の自然度を高める。
オーディオやAV資料を参照し、ロールプレーと会話を実地する。

授業の到達目標

日常生活の語彙を身につけて、表現したいことを分かりやすく伝えるようになる。

成績評価方法

- **試験**　40%
- **レポート**　0%
- **平常点**　60%
- **その他**　0%

科 目 名	フランス語で表現する7（会話中級） B							
担当者名	クーショ　マリナ							
仏語	1単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

「フランス語で表現する6（会話初級）A」クラスに引き続き、教科書『TOTEM 3』のビデオ（字幕付き）に基づいて行われる授業です。
中級編のビデオはほとんど、フランスTVプログラム（コマーシャルなど）からの動画です。流行語、慣用表現などがたくさん出てますので、普段あまり触れる機会のない仏語を身につけましょう。
また取り上げたテーマについて話し、新しい表現を再現できる力を養います。

授業の到達目標

ー自然なフランス語に慣れていくこと。
ー自分の感想をより豊かに、自然に述べること。
ー意見かわす力を得ること。

成績評価方法

- **試験**　60%　　会話テスト（2回）

●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　20%　　参加態度
●**その他**　20%　　出席

科 目 名	フランス語で表現する9（作文中級） Traduire, écrire, composer							
担当者名	ヴァンシンテヤン　カトリーヌ							
仏語	1単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

Deux types d'exercices seront alternativement proposés :
-la traduction en français d'un court passage de japonais,
-la composition d'un texte rédigé directement en français à partir du passage japonais précédemment traduit ou d'un texte français lu en classe.
Une semaine, le cours sera consacré à la reprise des traductions faites à la maison, à des exercices de grammaire portant sur des points spécifiques ainsi qu'à des recherches de vocabulaire. Un nouveau texte sera donné à traduire.
La semaine suivante, les étudiants remettront leur nouvelle traduction et commenceront à produire et rédiger en français leur propre texte, d'après les consignes proposées.
Une présence régulière est souhaitable.

授業の到達目標

Révision et mise en pratique des structures grammaticales.
Révision et apprentissage de vocabulaire.
Entraînement à écrire un récit, à donner son avis et exprimer ses goûts de manière nuancée.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%
●**平常点**　0%
●**その他**　20%

科 目 名	フランス語で表現する10（会話・作文総合） Discuter, s'exprimer en français フランス語で議論する、表現する。							
担当者名	博士(文学)早大　　梶田　裕							
仏語	1単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

À partir de supports variés -- articles de presse, émissions télévisées, films, sites web, etc. -- portant sur des sujets qui concernent la culture et la société françaises, nous nous entraînons à discuter et écrire en français. Une séquence est composée de cinq séances consacrées à un même sujet. Les étudiants doivent rendre un petit compte-rendu à la fin de la séquence. Les sujets seront choisis en fonction des intérêts des participants.
フランス社会および文化に関するテーマを選び、新聞、雑誌、テレビ、映画、ウェブサイトなど様々な媒体を用いて、フランス語で議論し、また書く練習をします。だいたい5回の授業で1つのテーマを扱い、5回目の授業で扱ったテーマに関するフランス語のレポートを提出してもらいます。テーマは参加者の興味に応じて一緒に選びます。

授業の到達目標

S'entraîner à lire, écrire, écouter, parler en français.
Mieux comprendre la société et la culture française.
フランス語で読む・書く・聞く・話すという総合的な能力を高めること。
フランス社会や文化について理解を深めること。

成績評価方法

Présence et participation aux cours : 40%; comptes-rendus : 60% 授業への参加40%、提出されたレポート60%で評価する。

（共通科目（外国語）学部合併）

科 目 名	フランス語の資格をめざす2（中級） A DELF中級レベル準備クラス							
担当者名	オジュロ　アン							
仏語	1単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

この授業は、すでにフランス語の基礎的な知識を学んだ学生のためのものです。
出席者は、フランス人の日常生活で普通に使われるようなテキストを学びながら、書くことと口頭表現の両方について、理解のレベルを上げていけるでしょう。

授業の到達目標

この授業の目標は、文法と語彙の知識を豊かにすることで、出席者が、手紙を書いたり文章の要約をしたり、あるいはまた割り振られたテーマについて、自分自身の視点を表現したり議論をしたりできるような方法を身につけることです。
授業の最後のころには、学生はDELFのB2レベルの試験に合格できると思います。DELFとは、フランス政府が実施するフランス語能力の認定試験です。これに合格すると留学のさいに有利になります。

成績評価方法

出席点：10%
筆記あるいは口頭での課題：30%
試験：60%

科 目 名	フランス語の資格をめざす4（中級） A DELF中級レベル準備クラス							
担当者名	オジュロ アン							
仏語	1単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

この授業は、すでにフランス語の基礎的な知識を学んだ学生のためのものです。

出席者は、フランス人の日常生活で普通に使われるようなテキストを学びながら、書くことと口頭表現の両方について、理解のレベルを上げていけるでしょう。

授業の到達目標

この授業の目標は、文法と語彙の知識を豊かにすることで、出席者が、手紙を書いたり文章の要約をしたり、あるいはまた割り振られたテーマについて、自分自身の視点を表現したり議論をしたりできるような方法を身につけることです。

授業の最後のころには、学生はDELFのB2レベルの試験に合格できると思います。DELFとは、フランス政府が実施するフランス語能力の認定試験です。これに合格すると留学のさいに有利になります。

成績評価方法

出席点：10%
筆記あるいは口頭での課題：30%
試験：60%

科 目 名	ドイツ語で表現する11（上級の会話・作文） Sprech- und Schreibkurs							
担当者名	Ph.D. ロストック大(ドイツ) クラヴィッター アルネ							
独語	1単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

Die Studenten üben das Bewältigen alltäglicher Situationen auf höherem Niveau. Es werden die Grundfertigkeiten Sprechen, Hören, Lesen, Schreiben gleichermaßen geübt.

授業の到達目標

Besonderes Gewicht wird darauf gelegt, dass die Studierenden mit Hilfe von Stichworten（und ohne elektronische Wörterbücher）möglichst frei sprechen. Durch ergänzende Übungen erweitern die Studierenden ihren Wortschatz und erlernen die Routinen der Alltagskommunikation.

成績評価方法

- **試験** 40% Ergebnis der Prüfung am Ende des Semesters
- **レポート** 0% no
- **平常点** 60% Häufigkeit der Teilnahme (30%), aktive Teilnahme (30%)
- **その他** 0% no

科 目 名	ドイツ語で表現する12（上級の会話・作文） Das 20. Jahrhundert in Bilder - Deutsche Geschichte							
担当者名	学術博士(フライブルク大) ペーカー トーマス							
独語	1単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

"Ein Bild besagt mehr als 1000 Wort" ist ein Sprichwort und besagt, dass komplizierte Dinge sich mit Bildern einfacher als mit Worten erklären lassen. Deshalb soll in der Veranstaltung das 20. Jahrhundert（mit dem Schwerpunkt auf der Geschichte und Kultur Deutschlands）in Bildern thematisiert werden, d.h., dass Bilder, zumeist aus Massenmedien, wie Zeitungen und Zeitschriften, im Mittelpunkt stehen, die in historische und kulturelle Kontexte eingerückt werden. Einige grundsätzliche Überlegungen zur 'Bildwissenschaft'/Visuellen Kultur sollen die Veranstaltung abrunden.

授業の到達目標

Die Studierenden lernen die Geschichte und Kultur Deutschlands im Überblick kennen. Weiter erhalten sie ein Bewusstsein über die Bedeutung und Relevanz verschiedener Medien（insbesondere Bildmedien）und der Bildwissenschaft vermittelt.

成績評価方法

Teilnahmevoraussetzungen sind: Bereitschaft zur Übernahme eines mündlichen Referats, die regelmäßige Anwesenheit und die Teilnahme an der Seminar-Diskussion. Die Leistungsbewertung setzt sich aus diesen Komponenten zusammen.

科 目 名	ドイツ語を読む1（文学） 簡単なドイツ語のテキストを読みながら、ドイツ語に親しむ							
担当者名	E・ヘルメル							
独語	1単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

1—5頁の短いテキストを通して、ドイツ語圏の20世紀後半の幾人かの代表的な作家の短編や随筆などを紹介します。

第2次大戦の終戦から1970年代までに刊行されたものを読む予定です。短編の中では、その時代を反映するテーマが扱われています。

授業中そのテキストを一緒に解読します。1回で読む量は1-2頁くらいです。テキストの種類は文学、随筆などです。

語彙と文法の説明は日本語で行います。

授業の到達目標

この講座の目標はドイツ語の読解力を向上させ、受講者が辞書を使いながら、独りでも簡単な文学系のテキストが読めるよう

になることです。
　授業中、語彙と文法を細かく説明しますので、ドイツ語の文法の復習にも役立ちます。

成績評価方法
　平常点　50%
　和訳の課題　50%

備考・関連URL
　語彙と文法の説明は日本語で行います。

科 目 名	ドイツ語を読む2（文学）							
担当者名	村井　浩一							
独語	1単位	秋学期	木曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
　文学作品を味読しながらドイツ語の読解力の向上を目指す授業です。
　今期は短編小説の中でも特に短いもの（長くても4ページ程度、短いものは1ページで終わる「掌編」）を教材にします。19世紀から現代に至るまでの作家の小品から、趣向も文体も異なる何篇かを選んで読みます。Bertolt Brecht（1898-1956)のような有名作家の他、日本ではあまり馴染みのない作家の「名品」も取り上げたいと思っています。必要に応じて文法の復習もまじえながら、丁寧に読み進めていきます。

授業の到達目標
　辞書を用いて一般的なドイツ語の文章をなんとか自力で読める力を身につける。

成績評価方法
●**試験**　60%　　学期末に独文和訳を中心とした筆記試験を実施します（辞書使用可)。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　随時教室で指名し、きちんと授業準備ができているかどうかを確認します。授業への真摯な取り組みを評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語を読む3（思想）　様々なドイツ語テキストを読んでみる							
担当者名	博士(文学)早大　　高橋　透							
独語	1単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
　受講生の希望があれば、基本的にそれに応じます。受講生の趣味関心も多様なので、多様性に対応するつもりでいます。

　とはいえ、希望がとくにないという場合もあるので、現在以下を候補として考えています。詳細は初回に決めましょう。様々のテキストを部分的扱うので構いません。
　(「ドイツ語を読む3（思想)」となってますが、「思想」を広く取り、何かを考えさせるという意味に解して下記テキストを選んでいます。)
　なお、テキストはプリント配布します。

　＋ドイツ語圏の精神分析医たちによって書かれた、ハリウッド映画（おもに）の心理分析。(2016年には、『マトリクス』と『アバター』を授業で扱いました。部分的に当該映画を鑑賞しながら進めます。ドイツ語学習歴1年でついて来られます。)
　＋グリム童話を読む　＋宮崎駿『風の谷のナウシカ』（漫画版・ドイツ語訳）を読む
　＋ヴァルター・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』（翻訳あり。ガチで思想。)

　＋ドイツ・ラジオ放送局による外国人ドイツ語初級学習者向けのニュース・テキスト。(これも考えさせるニュースが多い。語彙集が付いています。)

　＊必要であれば、初等文法から説明しますので、安心して受講してください。

授業の到達目標
　思想にかかわるドイツ語読解力を身につける

成績評価方法
●**試験**　50%　　最終日に簡単なテストをおこないます
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　平常点を見ます
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ドイツ語を読む4（思想）　ドイツの全体像を知る―生活、社会、文化―							
担当者名	前川　一貴							
独語	1単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
　この授業では、ドイツの一般常識を学びつつ、基礎的な文法事項を固めて、語彙力を増やしていきます。取り扱われるテーマは、授業計画にある通り、多岐に渡っていて、専門分野に偏ることなく、幅広い知識が身に付きます。基本的には、読解が中心にはなりますが、日本について尋ねられたときに、ドイツ語で答えられるように、会話や独作文の練習も、適宜、取り入れていく予定です。このような練習を通じて、ドイツと日本を比較して、双方の生活スタイル、社会制度、文化様式について、理解を深めていきます。

授業の到達目標

・やや長めの文章を理解し、内容に関する質問に答えられる。
・日独の具体的・抽象的なテーマについて、簡単に会話したり、短い文章を書いたりすることができる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　教場試験
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　出席：15%、単語リストの作成：5%、独作文などの宿題：30%
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

・単位を取得するには、合計で3分の2以上の出席が必要です。

科 目 名	ドイツ語を読む5（ナチ＝ドイツと言語）　ナチ＝ドイツと言語							
担当者名	村井　浩一							
独語	1単位	春学期	木曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

独裁的な政権が国民をコントロールしようとするとき効力を発揮するのは、物理的・身体的脅迫もさることながら、言葉の力です。言葉を通じて人々を煽り、「民族」としての一体感を演出し、単純な二者択一を迫って合理的判断力を奪い、特定のイデオロギーを個々人の内面にまで浸透させていく。そのような戦略は残念ながらいまなお「有効」なのかもしれません。だからこそ、おぞましい結果を招いた過去を検証することが、我々の変わらぬ課題としてあるのだとも言えます。

この授業では、ナチ統治下のドイツの人々を「魅了」してしまった様々な「言葉」も教材とします。たとえば、ナチ党大会を記録したリーフェンシュタール監督の映画『意志の勝利』の中でのヒトラーの演説などを取り上げます。一方でナチ政権に対する人々の距離感をうかがわせるようなジョークにも目を向けます。そのうえで、ナチ時代に独特の意味を付与されてしまった語彙を現代人がどう扱うべきかを論じた文章も読みたいと思っています。それらのテクストを訳読し、批判的な目で検証しながら、基本文法を学び終えた受講生を対象にドイツ語の読解力をさらに高めていこうというわけです。あくまで「ドイツ語の読解力」向上を第一目標とする授業ではありますが、プロパガンダに惑わされない、広い意味での「読む力」を養う一助になればと願います。

授業の到達目標

辞書を用いて一般的なドイツ語の文章をなんとか自力で読解する能力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末に独文和訳を中心とした筆記試験を実施します（辞書持ち込み可）。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　授業中、随時指名して授業準備をきちんとしてあるか確認します。授業への真摯な取り組みを評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語を読む6（童話）　ドイツ語で子ども向けのストーリーを読む							
担当者名	松永　美穂							
独語	1単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

この授業では、初級文法の知識がある人を対象に、文法の復習を行いながら、ドイツ語圏の8～10歳くらいの子を対象に書かれたストーリーを読んでいきます。

授業の到達目標

中級程度のドイツ語を楽に読みこなせるようになること。語彙を増やし、ドイツ語の構文を理解すること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最後の授業のときに教場試験を行います。
●**レポート**　0%　　レポートは必要ありません。
●**平常点**　50%　　普段の授業では、一人一人に当ててテクストの翻訳をしてもらいます。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	ドイツ語を読む7（大学院受験のためのドイツ語）　柔軟性のあるドイツ語脳を作ろう							
担当者名	山本　浩司							
独語	1単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

このクラスは学部最高レベルの講読の授業として設計されています。「大学院受験のため」と副題にありますが、受験一辺倒の練習ばかりではなく、高度なドイツ語の読解力を身につけることも目的にします。原則として国内主要大学院の入試に出されてきたさまざまなドイツ語テキストと同等以上のレベルのテキストを一回読み切りの形で取り上げます。人文科学分野の様々な研究領域から選ばれたテキストを手当たり次第に読み、語彙力の偏りを是正して柔軟性のあるドイツ語脳を養います。

授業の到達目標

大学院入学試験におけるドイツ語問題を難なく読めるようになること。

成績評価方法

●**試験**　80%　　理解度の確認テストの結果
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　出席と参加度
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語を読む8（大学院受験のためのドイツ語） ドイツ語をじっくり読む							
担当者名	柳　勝己							
独語	1単位	秋学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

ドイツ語で大学院を受験するために必要な読解力を養います。ドイツ語圏の作家、芸術家たちの書いた短編、エッセイなどを読みます。既に中級科目を受講し上級を目指そうという人、しばらくドイツ語から離れていた人、初級で学んだことを活かしたいと思う人。ドイツ語を読みたい人ならば専攻にかかわらずどなたでも歓迎します。本文にはなるべく注を付けますので、文法的な側面の心配は要らないと思います。一方で内容が難しい箇所はみんなで解釈を試みましょう。

授業の到達目標

腰を落ち着けてドイツ語テキストに接することで文章の構造を理解し、ドイツ語による大学院受験、ひいては大学院においてドイツ語文献の読解が出来るようになることを目標にします。

成績評価方法

試験は行いません。毎回の授業で担当する訳文の質および量により評価します。出席は授業回数の三分の二以上必要ですが、出席点はありません。

科 目 名	ドイツ語で表現する5（中級の会話・作文） ドイツ語で簡単な話をしよう、簡単な文章を書こう							
担当者名	E・ヘルメル							
独語	1単位	春学期	水曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

この授業ではドイツ語圏の文化を紹介する短いテキストを読み、そのテキストを口頭と作文で纏める練習します。
同時に1年生の時に習ったものの、まださほど定着していない文法、例えば副文の接続詞、zu不定句、接続法なども練習問題で復習します。
話す、書く練習以外に聴き取りの練習も頻繁に行います。
教材としてはドイツ語圏についての知識を広げる面白いテキストを選びます。

次のテーマを授業で扱います：
1.ドイツ人との付き合い（招待された時のやり取り、礼儀、プレゼントなど）
2.グリム童話(Die Märchen der Gebrüder Grimm)
3.オーストリア＝ハンガリー帝国の皇后。「シシィ」（Sissi）の伝記(Sissi: Ein Leben wie im Märchen)
シシィの人生を扱う映画も鑑賞する予定です。
4. Ödön von Horváth（オーストリアの作家）の滑稽な自伝
5. シルダという町の愚行(Schildbürgerstreiche)（シルダは、市民の愚行で有名になった町の伝説）

語彙と文法は日本語で説明します。

授業の到達目標

この講座はドイツ語の文法知識をさらに深め、ドイツ語での発言力や筆記表現力や聴解力を育てること、
すなわち受講生のドイツ語の語感を発達させ、学生が自主的に簡単な作文を書けることが目標です。

成績評価方法

平常点（50%）と課題（50%）

備考・関連URL

語彙と文法は日本語で説明します。

科 目 名	ドイツ語で表現する6（中級の会話・作文） 日常生活の場面に必要な文章パターンを身につけよう。							
担当者名	E・ヘルメル							
独語	1単位	秋学期	水曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

日常生活で頻繁に出会う場面での情報交換に必要なドイツ語を、ペアワークで練習します。授業は主にペアワークでの会話練習や、短い作文の練習に当てられます。単語と文法は日本語で説明します。

授業の到達目標

日常生活に必要な語彙、文法、文章などのパターンを身につけること。

成績評価方法

- **試験**　40%
- **レポート**　0%
- **平常点**　60%
- **その他**　0%

科 目 名	ドイツ語で表現する7（中級の会話・作文） Sprech- und Schreibkurs							
担当者名	Ph.D. ロストック大(ドイツ)　　クラヴィッター　アルネ							
独語	1単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

Der Kurs zielt auf den weiteren Fortschritt im Erwerb der deutschen Sprache ab. Die Studenten sollen befähigt werden, alltägliche Kommunikationssituationen auf Deutsch zu bewältigen.

授業の到達目標

Besonderes Gewicht wird darauf gelegt, dass die Studierenden mit Hilfe von Stichworten（und ohne elektronische Wörterbücher）möglichst frei sprechen. Durch ergänzende Übungen erweitern die Studierenden ihren Wortschatz und erlernen die Routinen der Alltagskommunikation.

成績評価方法

●**試験**　40%　　Ergebnis der Prüfung
●**レポート**　0%　　no
●**平常点**　60%　　Häufigkeit der Teilnahme 30%, aktive Teilnahme 30%
●**その他**　0%　　no

科 目 名	ドイツ語で表現する8（中級の会話・作文） ドイツ語で簡単な話をしよう、簡単な文章を書こう！							
担当者名	E・ヘルメル							
独語	1単位	秋学期	水曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

この授業ではドイツ語圏の文化を紹介する短いテキストを読み、そのテキストを口頭と作文で纏める練習をします。同時に1年生の時に習った、まださほど定着していない文法、例えばzu不定句、現在完了形、接続法II、前置詞的な目的語なども練習問題で復習します。話す、書く練習以外に聴き取りの練習も頻繁に行います。教材としてはドイツ語圏についての知識を広げる面白いテキストを選びます。

授業では次のテーマを扱います：
1. ドイツ人の権利意識
2. 実の親と里親の葛藤 B. BRECHT: Der Augsburger Kreidekreis
3. 日常生活におけるコンピュータ・メディア
4. ドイツ人の食生活と健康についての考え
5. 健康的な栄養という神話

語彙と文法は日本語で説明します。

授業の到達目標

この講座はドイツ語の文法知識をさらに深め、ドイツ語での発言力や筆記表現力や聴解力を育てること、
すなわち受講生のドイツ語の語感を発達させ、学生が自主的に簡単な作文を書けることが目標です。

成績評価方法

平常点（50%）と課題（50%）

備考・関連URL

語彙と文法は日本語で説明します。

科 目 名	ドイツ語で表現する9（中級の会話・作文） Konversation Deutsch							
担当者名	Ph.D.（ウィーン大）　シュレンドルフ　レオポルト							
独語	1単位	春学期	木曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

Der Kurs stellt die kommunikativen Fertigkeiten ins Zentrum. Dazu wird auch die Grammatik wiederholt. Der Kurs richtet sich im Niveau an die vorhandenen Kenntnisse der Studierenden auf Mittelstufeniveau (B1 - B2) und versucht individuelle Ziele zu formulieren und zu erreichen. Besondere Berücksichtigung finden Gruppen- und Partnerarbeiten, auch im Rahmen der Hausarbeiten.

授業の到達目標

Aufbau komplexer kommunikativer Fertigkeiten in Alltag, Studium und Beruf

成績評価方法

●**試験**　50%　　Test
●**レポート**　0%　　none
●**平常点**　50%　　Mitarbeit
●**その他**　0%　　none

科 目 名	ドイツ語で表現する10（中級の会話・作文） Konversation Deutsch							
担当者名	Ph.D.（ウィーン大）　シュレンドルフ　レオポルト							
独語	1単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

Der Kurs stellt die kommunikativen Fertigkeiten ins Zentrum. Dazu wird auch die Grammatik wiederholt. Der Kurs richtet sich im Niveau an die vorhandenen Kenntnisse der Studierenden auf Mittelstufeniveau (B1 - B2) und versucht individuelle Ziele zu formulieren und zu erreichen. Besondere Berücksichtigung finden Gruppen- und Partnerarbeiten, auch im Rahmen der Hausarbeiten.

授業の到達目標

Aufbau komplexer kommunikativer Fertigkeiten in Alltag, Studium und Beruf

成績評価方法

●**試験**　50%　　Test
●**レポート**　0%　　none

●**平常点**　50%　　Mitarbeit
●**その他**　0%　　none

科 目 名	ロシア語力を磨く１（進学・留学のためのロシア語）　生きたロシア語を身につける							
担当者名	博士（文学）早大　　上田　洋子							
露語	１単位	春学期	月曜日	２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

大学院への進学、ロシア語圏の大学への留学、ロシア語を使う就職、あるいは他のかたちでもよいですが、生涯ロシア語に関わっていきたいと考えている学生を対象とします。ロシア語圏の文化や社会のいまを、自分の力で知ることができるだけの語学力をつけることがこの授業の目標です。具体的には、現在と歴史をつなぐインタビューやニュース記事、論文、新しい文学・芸術作品などの講読を通じて、読解力と語彙力、そしてロシア語のセンスを養います。また、テクストの読解とあわせて、動画あるいは音声を通じて耳で聞いたロシア語を理解する力をつけ、実際に使えるロシア語を身につけることを目指します。そのロシア語を日本語に置き換えるとなににあたるのか。論理的かつ柔軟に言葉に対峙する術を身につけましょう。昨年度はウラジーミル・ソローキン編のアンソロジー『ロシア残酷物語　Русский жестокий рассказ』（2014）から、ソローキンとソルジェニーツィンの短編を読み、ひとつのテーマに対する2人の作家の異なるアプローチ、異なる形の緻密な文体を比較しました。今年もソローキンの作品と別の現代作家の作品の2本を読む予定です。そこで描かれている状況を知るために、ニュースやジャーナリズムの文章や映像にもアプローチします。

授業の到達目標

自分のロシア語の知識に自信を持ち、読みたいと思うロシア語の文章にどんどんチャレンジできるような語彙力と読解力をつけることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　評価はレポートになります。
●**レポート**　50%　　授業で学んだことを、言葉のレベルと内容のレベルで確認します。
●**平常点**　50%　　予習復習をきちんとやってきているか、これまでに学んだことを身につけて力を伸ばしているかを確認します。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

授業内容は受講者のレベルや理解度、また、扱うトピックの鮮度に合わせて調整します。授業計画通りに進むとは限りません。

科 目 名	ロシア語力を磨く２（上級会話）							
担当者名	岡野　エレナ							
露語	１単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

ロシア語の基本会話を修得したが、さらに磨きをかけたい人のためのクラスです。通じるだけでなく、周囲の人々に不快感を与えない、洗練された振る舞いに裏打ちされた会話を目指します。そのためには、ロシアの生活慣習や常識を十分に身に付けなければなりません。

最初にロシアの生活慣習や常識を、興味深い内容のビデオとテキストを用いて学びます。次にその知識を背景に、より洗練された実際的なロシア語会話を修得します。

一通りテキストを理解した後に、テキストの内容に沿った会話練習を行います。基本をマスターした後に、実地で応用できるよう一対一あるいは複数人で自由会話を行います。絵なども多用し、楽しく進めます。使用できる単語数を確実に増やす一方、聞き取り能力もバランスよく向上するよう授業を進めます。基本文法の理解度チェックも適宜行います。

なお、毎回関連の課題を出し、次回の授業で解説し、理解を深めます。

授業の到達目標

ネイティブにも違和感のない洗練されたロシア語をマスターします。ロシア語圏への留学やビジネスにも役立つことも目標とします。そのために必要となるロシアの慣習や常識を身に付け、関連の基本単語とより洗練した言い回しをマスターするとともに、正しい発音と聞き取り能力を一段と向上させます。

成績評価方法

●**試験**　50%　　設問に対する適切度で評価。暗記力でなく、表現力、自由な発想力のある解答を期待している。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　50%　　出席状況と授業中の活動状況で評価。受け身でなく、積極的で活発な授業参加を期待している。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	ロシア語力を磨く３（さまざまな文体を身につける）　Этикет письменного и разговорного русского языка							
担当者名	東井　ナジェージュダ							
露語	１単位	秋学期	水曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

Усвоить некоторые приемы, формы, клише публицистического стиля в русском языке

授業の到達目標

Стилистические приемы письменной и разговорной речи

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　100%　　Оценка будет ставиться по письменным работам и выступлениям студентов на занятиях.

科 目 名	ロシア語力を磨く4（上級会話） コミュニケーション能力を鍛える							
担当者名	V. フィラトフ							
露語	1単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

話す力、聞く力というレベルにおいて、コミュニケーション能力をより完璧なものへと導きます。モノローグ、ダイアローグの能力を鍛え、具体的なもの、抽象的なものについて叙述する方法、さらには互いの質問や意見交換の中で、判断したり、論証したり、評価したりする方法を学んでいきます。

授業の到達目標

受講者には、講義終了までにさまざまな場（家庭、職場、レジャー、私生活、親と子、男性と女性、芸術、政治、社会、自由時間、趣味、旅行）に対応できるコミュニケーション能力の獲得を目指します。

成績評価方法

- **試験** 50%　教場試験。
- **レポート** 0%
- **平常点** 50%　授業への主体的な参加態度。
- **その他** 0%

科 目 名	ロシア語力を磨く5（上級講読） 現代ロシアを読む							
担当者名	博士(文学)早大　上田　洋子							
露語	1単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

現代ロシアを捉えようとするとき、わたしたちは何を読めばよいのでしょうか。ネット時代になって文学や言語は多様化し、また、その位置づけも変わってきているように思います。この授業では現代の作家、思想家、エッセイスト、劇作家の作品や論考を精読します。また、インターネット上で公開されている現代ロシアを考えるためのプロジェクトなども紹介し、読んだり視聴したりする機会を設けます。

ソ連崩壊後、あらたなアイデンティティを模索し続けてきたロシアは、現在は保守化し、伝統の賛美や歴史への興味が高まっています。他方、たとえばウラジオストクのアフチェンコら、モスクワ・ペテルブルク以外の都市を題材にする文学も外国語に翻訳されるようになってきました。最初の授業の際に現代ロシアを映し出すいくつかのテクストを提示し、そのなかから受講生の興味に合わせて何を読むかを決定する予定です。

授業の到達目標

ロシア語のテクストを読みながら、論理や思考の流れを正確に追えるようになることが目標です。

成績評価方法

- **試験** 0%
- **レポート** 50%　ロシア語が読めるか、日本語にできるか、内容を理解しているかの3点を確認します。
- **平常点** 50%　予習をやってきているか、これまでに学んだことを理解しているかを確認します。
- **その他** 0%

科 目 名	中国語ヒアリング（上級）1							
担当者名	南　勇							
中語	1単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

今までマスターした中国語文法知識を活用して、より高い次元で中国語聴力の実力をレベルアップします。そのため、さまざまなジャンルの音声(映像)を素材に、聞く・話す・読む・書くなど多様な練習を通じて、聴覚イメージを総合的に形成します。特に、ネイティブスピーカーの発話で「耳」を刺激し、単語・文法・表現などの知識を内面化します。

授業の到達目標

新HSK6級の合格を目指します。中国語のテレビ番組、映画、演説など基本的に聞き取り、理解できるようにする。

成績評価方法

- **試験** 70%　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
- **レポート** 0%　なし。
- **平常点** 30%　授業参与の積極性を評価します。また、様々な課題の完成度も評価のポイントにします。
- **その他** 0%　なし。

備考・関連URL

履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と方法を調整することがある。

科 目 名	中国語翻訳1　中文翻訳の技法　レベル4							
担当者名	土屋　文子							
中語	1単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

■授業概要■

1年以上の学習歴を持ち、基礎的な読解力を身につけた上で、中日翻訳の具体的な技法を学びたい方を対象とするクラスです。ニュース・論説・文芸などさまざまなジャンルの文章を題材に、演習方式で読解と翻訳の訓練を行います。

■授業の進め方■

まず課題文の内容を確認したうえで全員に試訳を提出してもらい、毎回のクラスで各訳例について批評と討論を行います。

授業の到達目標
単なる読解手法としての中文和訳を脱し、文意の正確な伝達と日本語として違和感のない表現の両立について、自分なりの方法論あるいはその端緒を見いだすこと。

成績評価方法
平常点　60%（授業参加・課題提出）
レポート　40%（訳文の完成度）

備考・関連URL
日中主要コーパス（語料庫）：ある語彙が実際の文中でどのように使われているかを概観するのに役立つデータ集。
少納言（現代日本語書き言葉均衡コーパス）
http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/
北大语料库（北京大学中国语言学研究中心）
http://ccl.pku.edu.cn/corpus.asp
北京语言大学现代汉语语料库（汉语国际教育技术研发中心）
http://bcc.blcu.edu.cn/
现代汉语词汇历时检索系统
http://nlp.blcu.edu.cn/others/historical%20computing/
現代漢語平衡語料庫（中央研究院）
http://app.sinica.edu.tw/kiwi/mkiwi/

科 目 名	中国語字幕翻訳1　中国語映画のセリフを翻訳する							
担当者名	樋口　裕子							
中語	1単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要
配布されたスクリプトを日本語訳し、
一部を字数制限に合わせた日本語字幕に作る。
予習は必須です。

授業の到達目標
登場人物に合ったこなれた日本語に訳す。
各地の方言から中国語の多様性に触れ、
中国の歴史や社会の背景を理解する。

成績評価方法
授業に臨む態度と翻訳の課題提出で総合評価します。

科 目 名	中国語ヒアリング（上級）2							
担当者名	南　勇							
中語	1単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要
今までマスターした中国語文法知識を活用して、より高い次元で中国語聴力の実力をレベルアップします。そのため、さまざまなジャンルの音声（映像）を素材に、聞く・話す・読む・書くなど多様な練習を通じて、聴覚イメージを総合的に形成します。特に、ネイティブスピーカーの発話で「耳」を刺激し、単語・文法・表現などの知識を内面化します。

授業の到達目標
中国語のテレビ番組、映画、演説などを聞き取ること、また自分の言いたいことを伝えるようにする。

成績評価方法
●**試験**　70%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　授業参与の積極性を評価します。また、様々な課題の完成度も評価のポイントにします。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL
履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と方法を調整することがある。

科 目 名	中国語翻訳2　中文翻訳の技法　レベル4							
担当者名	土屋　文子							
中語	1単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要
■授業概要■
1年以上の学習歴を持ち、基礎的な読解力を身につけた上で、中日翻訳の具体的な技法を学びたい方を対象とするクラスです。
ニュース・論説・文芸などさまざまなジャンルの文章を題材に、演習方式で読解と翻訳の訓練を行います。
■授業の進め方■
まず課題文の内容を確認したうえで全員に試訳を提出してもらい、毎回のクラスで各訳例について批評と討論を行います。

授業の到達目標
単なる読解手法としての中文和訳を脱し、文意の正確な伝達と日本語として違和感のない表現の両立について、自分なりの方法論あるいはその端緒を見いだすこと。

成績評価方法
平常点　60%（授業参加・課題提出）

レポート　40%（訳文の完成度）

備考・関連URL

初回の教材は講師があらかじめ用意しますが、2つ目以降については受講者の希望があれば可能なかぎり取り入れます。
日中主要コーパス（語料庫）：ある語彙が実際の文中でどのように使われているかを概観するのに役立つデータ集。
少納言（現代日本語書き言葉均衡コーパス）
http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/
北大语料库（北京大学中国语言学研究中心）
http://ccl.pku.edu.cn/corpus.asp
北京语言大学现代汉语语料库（汉语国际教育技术研发中心）
http://bcc.blcu.edu.cn/
现代汉语词汇历时检索系统
http://nlp.blcu.edu.cn/others/historical%20computing/
現代漢語平衡語料庫（中央研究院）
http://app.sinica.edu.tw/kiwi/mkiwi/

科 目 名	中国語字幕翻訳2　中国語映画のセリフを翻訳する							
担当者名	樋口　裕子							
中語	1単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

配布されたスクリプトを日本語訳し、
一部を字数制限に合わせた日本語字幕に作る。
予習は必須です。

授業の到達目標

登場人物に合ったこなれた日本語に訳す。
各地の方言から中国語の多様性に触れ、
中国の歴史や社会の背景を理解する。

成績評価方法

授業に臨む態度と翻訳の課題提出で総合評価します。

科 目 名	スペイン語中上級（作文力をつける）1　スペイン語での発信力を高めよう							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	1単位	春学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

スペイン語による「発信力」「伝える力」を鍛えることを目的とするクラスです。4技能（話す、聞く、読む、書く）を通じてコミュニケーション力を高めるための基礎作りを行います。パターン化した文の暗記ではなく、状況を感じ取って反応する、簡潔に伝えるストラテジーなどについても学びます。
授業は以下の3種類の活動を組み合わせ、履修者の関心や状況に応じて調整しながら進めます。
1.実際に文を作る際に間違い易いこと、迷うことに焦点を当て、基礎文法の確認をしながら作文力の底固めをする。
2.社会生活の色々な話題に関する短い教材を読み、キーセンテンスを選んだり、自分の考えや経験を簡潔に伝える活動を行う。
3.語彙力・文章力を高めるための活動として、DELE（外国語としてのスペイン語認定試験）A2～B1に準拠した練習問題を取り入れる。

授業の到達目標

1.実際のスペイン語使用場面での基礎文法の運用力を高める。
2.話題を提供する、相手の話に反応する、自分の意見や考えを簡潔に伝えるなど、積極的にコミュニケーションする態度やストラテジーを身に着ける。
3. DELE　A2～B1レベルの語彙力・表現力をつける。

成績評価方法

- **試験**　40%　　文章構成力・語彙力・表現力の習得度を確認するテストを行います。
- **レポート**　0%
- **平常点**　60%　　出席率、課題の達成度、自らの意見・関心・疑問を積極的に表現する態度を総合的に判断します。
- **その他**　0%

備考・関連URL

クラスでは積極的に発言して、考え方・感じ方をシェアして学べる貴重な場を有効に使いましょう。
教室での活動を効果的なものにするために、作文や教材など毎回の授業準備はきちんと行ってください。

科 目 名	スペイン語中上級（作文力をつける）2　スペイン語での発信力を高める							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	1単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

スペイン語による「発信力」「伝える力」を鍛えることを目的とするクラスです。4技能（話す、聞く、読む、書く）を通じてコミュニケーション力を高めるための活動を行います。直訳ではなく、意味を考え、簡潔に内容を伝える工夫などについて考えます。状況を把握する、相手を気遣う応答、上手に伝えるストラテジーなどについても学びます。
授業は以下の活動を組み合わせていきますが、履修者の関心や状況に応じて適宜調整しながら進めます。
1.日常生活の実際のやり取りでよくあるメール文を作る練習をする。

2.社会生活の色々な話題に関する短い教材を読み、要約を書いたり、簡潔に意見をまとめるなどの活動を行う。
3.語彙力・文章力を高めるための活動として、DELE（外国語としてのスペイン語認定試験）B1～B2に準拠した練習問題を取り入れる。

授業の到達目標

1.日常的な話題であれば、簡単なメールのやり取りができる。
2.話題を提供する、相手の話に反応する、自分の意見や考えを簡潔に伝えるなど、その場に相応しいコミュニケーション・ストラテジーを使える。
3. DELE　B1レベルの語彙力・表現力をつける。

成績評価方法

●**試験**　40%　　文章構成力・語彙力・表現力の習得度を確認するテストを行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%　　出席率、課題の達成度、自らの意見・関心・疑問を積極的に表現する態度を総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

クラスでは積極的に発言して、考え方・感じ方をシェアして学べる貴重な場を有効に使いましょう。
教室での活動を効果的なものにするために、作文や教材など毎回の授業準備はきちんと行ってください。

科 目 名	スペイン語上級（近現代史を知る）1　スペインの社会文化事情を読み解く							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	1単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

スペインの近現代の重要な歴史的出来事や社会事情の変化に関する様々な記事を読み、スペインやヨーロッパ社会に対する理解を深めながら、スペイン語力、特に読解力のアップを図ります。日本の近現代の出来事や社会事情と対比するなどして、批判的に読み解く能力を高めることも目指します。
授業活動としては、記事の内容確認を全体で行った後、チェックシートを使って理解の確認をする、キーセンテンスを探す、異なる語や表現を使って内容を言い換えるなどしてスペイン語力を高めます。また、関連する補足資料（映画などの映像資料、新聞やネットの記事など）を紹介して背景的知識を補い、興味を持ったこと・疑問に思ったことについて意見を交換します。
履修者の希望や状況に応じて、扱うテーマを調整したり、スペイン語での意見交換を円滑にするために語彙や文法の補足学習を適宜取り入れたりしていきます。

授業の到達目標

1. 歴史的背景を踏まえて、スペインの現代社会事情の概略を理解する。
2. 辞書を使えば、ある程度まとまった内容のスペイン語の資料について、概要を把握し、キーワード・キーセンテンスを認識できる。
3. 既存の知識や自文化の状況を踏まえ、情報を多角的にとらえ、批判的に読み解く態度を身に付ける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　1. 授業を振り返って関心のあるテーマを選び、概要をまとめる課題を出します。 2. 授業で自分が関心を持ったことについて補足情報を調べ、簡単な報告をします。
●**平常点**　60%　　出席率、授業参加度（自らの疑問・意見・関心を積極的に発言する態度）、授業の準備などを総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

幅広く色々なテーマを扱っていくので、各テーマに関心を向けて世界を広げる一方、自分が深めたいと思うテーマに巡りあうきっかけになればと思っています。身近な問題と比べるなどして積極的に発言する態度を歓迎します。教室での活動を効果的なものにするために、教材の予習などはきちんと行ってください。

科 目 名	スペイン語上級（近現代史を知る）2　ラテンアメリカ諸国の社会文化事情を読み解く							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	1単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

ラテンアメリカ諸国の近現代の歴史的出来事や社会事情に関する様々な記事を読み、ラテンアメリカ諸国に対する理解を深めながら、スペイン語力、特に読解力のアップを図ります。日本の近現代の出来事や社会事情と対比するなどして、批判的に読み解く能力を高めることも目指します。
授業の活動としては、記事の内容確認を全体で行った後、チェックシートを使ってやりとりしたり、キーセンテンスを探したり、異なる表現を使って内容を言い換えたりして、スペイン語力を高めます。また、関連する補足資料（映画などの映像資料、新聞やネットの記事など）を紹介して背景的知識を補い、興味を持ったこと・疑問に思ったことについて意見を交換します。
履修者の希望や状況に応じて、扱うテーマを調整したり、スペイン語での意見交換を円滑にするために、語彙や文法の補足学習を適宜取り入れたりしていきます。

授業の到達目標

1. 歴史的背景を踏まえて、ラテンアメリカ諸国の社会文化事情を理解し、興味を持つ。
2. 辞書を使えば、ある程度まとまった内容のスペイン語の資料について、概要を把握し、キーセンテンスを認識できる。
3. 既存の知識や自文化の状況を踏まえ、情報を多角的にとらえ、批判的に読み解く態度を身に付ける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　1. 授業を振り返り、関心のあるテーマを選んで概要をまとめる課題を出します。 2. 授業で関心を持っ

たことについて補足情報を調べ、簡単な報告をします。
●**平常点**　60%　　出席率、授業参加度（自らの疑問・意見・関心を積極的に表現する態度）、授業の準備などを総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

色々な国のテーマを扱っていくので、各国の事情に関心を向けて世界を広げる一方、自分が深めたいと思うテーマに巡りあうきっかけになればと思っています。身近な問題と比べるなどして積極的に発言する態度を歓迎します。教室での活動を効果的なものにするために、教材の予習はきちんと行ってください。

科 目 名	スペイン語中級（文法・実践）1　A							
担当者名	Ph.D. チリ・サンティアゴ大　　中島　さやか							
西語	1単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

「基礎スペイン語」「初級スペイン語」を終えた学習者を対象に、1年次に学習した基本的な文法を復習しながら「聞く・読む・書く・話す」の4技能の運用力を高める演習をします。この授業では特に、日本人が不得意な傾向にある聴く力と語彙・表現力アップを重視します。

課題や試験範囲などの指定・説明は日本で行いますが、授業は平易なスペイン語を使って行い、スペイン語でスペイン語を理解する訓練を行います。

授業の到達目標

表現の幅を増やしながら1年次に学習した基礎文法を、特に目的人称代名詞、再帰動詞、線過去・点過去、命令法など習得しにくいポイントを中心に復習し、場面に適切なアウトプットを行えるようになることを目指します。

日本語の逐語訳に頼らずに、文脈の中でスペイン語を理解しながら使える表現を獲得していく学習態度を身に付けることも目標としています。

成績評価方法

●**試験**　50%　　習熟度テスト 50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　小テスト・授業参加・課題
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業は端末室で行われる予定です。PCでのスペイン語入力を学習し、文法や語彙の復習を授業外に自動採点で行えるようにすることで、教室での活動の効率をあげることを目指します。指定された範囲の授業準備及び復習は必ず行ってきてください。

中級（文法・実践）1Bとは同一科目になるので重複履修はできません。

科 目 名	スペイン語中級（文法・実践）1　B　未習文法の修得とスペイン語のレベルアップ							
担当者名	博士（神学）立教大　　宮内　ふじ乃							
西語	1単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

「基礎スペイン語」「初級スペイン語」を終えた学習者を対象に、多くのタスクや語彙を含む教科書に沿って授業を進めます。講義前半は基礎文法の復習および接続法の定着を図る学習活動を取り入れ、それをさらに発展させて語彙力と応用力をつけることを目指します。

文法・作文・講読を中心に、スペイン語圏の文化・歴史・自然についての理解を深めると同時に、スペイン語の検定試験に対応する練習問題なども取り入れて、スペイン語力の総体的アップを図ります。

授業の到達目標

1. 接続法・条件文とその複雑な構造の文の読解ができ、書けるようになる。
2. スペイン語を使って身近なテーマや関心のあるテーマについての情報を取ることができる。
3. スペイン語検定の合格を目指す。（DELE A2レベル、西語検定3-4級）

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度の確認
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　小テスト、出席、授業参加度、課題達成度を総合的に判断する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業の進行は学生の習熟度にもよるので、必ずしもこの通りに進むわけではありません。中級（文法・実践）1Aとは同一科目になるので重複履修はできません。

科 目 名	スペイン語中級（社会文化事情を知る）1　A　ラテンアメリカ諸国について学ぼう！							
担当者名	杉守　慶太							
西語	1単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

この授業は「基礎スペイン語」「初級スペイン語」を終えた学習者を対象にしています。既習のスペイン語の基礎文法事項の定着をはかるとともに、それを応用した読解力を養うことを目的にしています。また、読解力が身につくだけではなく、スペイン語圏（特にラテンアメリカ諸国）の社会文化事情についての理解を深めることができます。講読の他に、ラテンアメリカ諸国に関する映像教材（映画・音楽など）を毎回使用する予定です。

授業の到達目標

1．テキストの内容を正しく理解し、読めるようにする。
2．スペイン語圏（特にラテンアメリカ諸国）の社会文化事情について知る。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末試験
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　予習、提出物、授業態度などを総合的に評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

第1回「イントロダクション」にて授業を受ける上での注意事項を詳しく説明しますので、必ず出席すること。
授業の進行は学生の習熟度によって変更することがあります。
中級(社会文化事情を知る）1Bとは同一科目になるので、重複履修はできません。

科 目 名	スペイン語中級（社会文化事情を知る）１　B　Introducción a la Sociedad y Cultura Latinoamericana 1							
担当者名	博士(アジア太平洋学)立命館アジア太平洋大　　新谷　ロクサナ							
西語	１単位	春学期	水曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

Clase de español de nivel intermedio para incrementar las habilidades lingüísticas aprendidas durante el nivel básico. Este curso se enfoca en la adquisición no solo de vocabulario y gramática, si no también en el desarrollo de las habilidades lingüísticas, al mismo tiempo que se aprende sobre la sociedad y cultura de Latinoamérica.
Los estudiantes profundizarán sobre el mundo latinoamericano a través de discusiones individuales o grupales de los materiales como lecturas, audios e imágenes. Al final del curso los estudiantes escribirán un reporte y harán presentación final sobre sus investigaciones.

基礎レベルで習得した言語スキルを引き続き向上させるための中級クラス。
話す、読む、聞く、書く、の4技能をバランスよくさらに習得し、同時にラテンアメリカ諸国の社会と文化について学ぶため、より統合的なアプローチで語彙・文法の学習に取り組みます。

個々の意見を発表する、グループでのディスカッションなどを重ね、読み物、オーディオ、映像など異なる素材を総合的に用いる中でラテンアメリカの世界に浸かることになります。コースの最後にはレポートを書き、プレゼンテーションを行います。

授業の到達目標

1.　Adquirir conocimientos sobre la sociedad y cultura de los países latinoamericanos.
2.　Mejorar las habilidades lingüísticas e incrementar el vocabulario en español.
1. ラテンアメリカ諸国の社会と文化に関する知識を習得する。
2. スペイン語の語学力を向上する.

成績評価方法

●**試験**　30%　　Examen parcial　中間試験
●**レポート**　50%　　Reporte y presentaciones　レポートとプレゼンテーション
●**平常点**　20%　　Participación y tareas　授業参加と宿題
●**その他**　0%

科 目 名	スペイン語中級（文法・実践）２　A							
担当者名	Ph.D. チリ・サンティアゴ大　　中島　さやか							
西語	１単位	秋学期	月曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

前期に引き続き、「基礎スペイン語」「初級スペイン語」を終えた学習者を対象に、1年次に学習した基本的な文法を復習しながら「聞く・読む・書く・話す」の4技能の運用力を高める演習をします。この授業では特に、日本人が不得意な傾向にある聴く力と語彙・表現力アップを重視します。
課題や試験範囲などの指定・説明は日本で行いますが、授業は平易なスペイン語を使って行い、スペイン語でスペイン語を理解する訓練を行います。

授業の到達目標

表現の幅を増やしながら1年次に学習した基礎文法を、特に接続法現在・過去、未来・過去未来、間接話法、関係詞などを中心に復習し、場面に適切なアウトプットを行えるようになることを目指します。
日本語の逐語訳に頼らずに、文脈の中でスペイン語を理解しながら使える表現を獲得していく学習態度を身に付けることも目標としています。

成績評価方法

●**試験**　50%　　習熟度テスト
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　小テスト・課題・提出物など
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

授業は端末室で行われる予定です。PCでのスペイン語入力を学習し、文法や語彙の復習を授業外に自動採点で行えるようにすることで、教室での活動の効率をあげることを目指します。指定された範囲の授業準備及び復習は必ず行ってきてください。
中級（文法・実践）2Bとは同一科目になるので重複履修はできません。

科 目 名	スペイン語中級（文法・実践）２　B　スペイン語で小説を読む							
担当者名	博士（神学）立教大　　宮内　ふじ乃							
西語	１単位	秋学期	水曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

「基礎スペイン語」および「中級スペイン語」を終えた学生を対象に、スペインの短編小説と映画を通して、スペイン語の読解力や表現力を高めることを目標とします。これまでに習得した基本的な文法知識を使って、文法の用例や文法理解のために書かれた文章とは異なるスペイン語に挑戦します。スペイン語の文学テキストを「読む」（音読と読解）ことによって、スペインの人・社会・歴史についての理解や興味を深めることも目指します。ネイティヴが親しんできた小説を、自分も読めるのだということを実感し、自らのスペイン語力に自信が持てるようになってもらうのも本講義の狙いのひとつです。

授業の到達目標

1. スペイン語で小説が読めるようになる。
2. 文学作品を通して、スペインの社会や歴史の理解を深める。
3. 映画の中で話されている日常的なスペイン語を聞き取り、使えるようになる。

成績評価方法

- **試験**　50%　　理解度の確認
- **レポート**　10%　　課題提出（1回）
- **平常点**　40%　　出席、授業参加度、課題達成度を総合的に判断します。
- **その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

進度などは学生の理解度に合わせ、ある程度の柔軟性を持たせて進む場合があります。中級（文法・実践）2Aとは同一科目になるので重複履修はできません。

科 目 名	スペイン語中級（社会文化事情を知る）２　A　ラテンアメリカ諸国について学ぼう！							
担当者名	杉守　慶太							
西語	１単位	秋学期	月曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

この授業は「基礎スペイン語」、「中級スペイン語」を終えた学習者を対象にしています。既習の文法事項を確認しながら、読解力をさらに養うことを目的にしています。スペイン語の新聞・雑誌記事を読めるようになることを目指します。また、様々な内容を扱ったテキストの読解を通じて、「読む」力が身につくだけではなく、スペイン語圏（特にラテンアメリカ）の社会文化事情についての理解を深めることができます。講読の他に、ラテンアメリカ諸国に関する映像教材（映画・音楽など）を毎回使用する予定です。

授業の到達目標

1. スペイン語で新聞・雑誌の記事、論文を読めるようになる。
2. スペイン語圏（特にラテンアメリカ諸国）の社会文化について知る。

成績評価方法

- **試験**　50%　　期末試験
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　50%　　予習、提出物、授業態度などを総合的に評価する。
- **その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

第1回「イントロダクション」にて授業を受ける上での注意事項を詳しく説明しますので、必ず出席すること。
授業の進行は学生の習熟度によって変更することがあります。履修者の希望をできるだけ取り入れて進めていく予定です。
中級（社会文化事情を知る）2Bとは同一科目になるので、重複履修はできません。

科 目 名	スペイン語中級（社会文化事情を知る）２　B　Introducción a la Sociedad y Cultura Latinoamericana 2							
担当者名	博士（アジア太平洋学）立命館アジア太平洋大　　新谷　ロクサナ							
西語	１単位	秋学期	水曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

Clase de español de nivel intermedio para incrementar las habilidades lingüísticas aprendidas durante el nivel básico. Este curso se enfoca en la adquisición no solo de vocabulario y gramática, si no también en el desarrollo de las habilidades lingüísticas, al mismo tiempo que se aprende sobre la sociedad y cultura de Latinoamérica.

Los estudiantes profundizarán sobre el mundo latinoamericano a través de discusiones individuales o grupales de los materiales como lecturas, audios e imágenes. Al final del curso los estudiantes escribirán un reporte y harán presentación final sobre sus investigaciones.

基礎レベルで習得した言語スキルを引き続き向上させるための中級クラス。
話す、読む、聞く、書く、の4技能をバランスよくさらに習得し、同時にラテンアメリカ諸国の社会と文化について学ぶため、より統合的なアプローチで語彙・文法の学習に取り組みます。

個々の意見を発表する、グループでのディスカッションなどを重ね、読み物、オーディオ、映像など異なる素材を総合的に用いる中でラテンアメリカの世界に浸かることになります。コースの最後にはレポートを書き、プレゼンテーションを行います。

授業の到達目標

1. Adquirir conocimientos sobre la sociedad y cultura de los países latinoamericanos.
2. Mejorar las habilidades lingüísticas e incrementar el vocabulario en español.

1. ラテンアメリカ諸国の社会と文化に関する知識を習得する。
2. スペイン語の語学力を向上する.

成績評価方法

●**試験**　30%　　Examen parcial　中間試験
●**レポート**　50%　　Reporte y presentación　レポートとプレゼンテーション
●**平常点**　20%　　Participación y tareas　授業参加と宿題
●**その他**　0%

科 目 名	イタリア語を読む2（歴史・思想）　イタリア史への招待							
担当者名	三森　のぞみ							
伊語	1単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

都市や地域によって歴史の歩みが大きく異なるイタリア。1861年の「イタリア王国」成立まで、イタリアには統一国家が存在しませんでした。イタリアの文化や社会をより深く知るためには、こうしたイタリア史への理解が欠かせません。そのための一歩として、いくつかの平易なテキストを読みながら、古代ローマ世界の伝統、中世都市社会、ルネサンス、そしてイタリアという「国家」が作られる過程を学んでいきます。これまでのイタリア語の知識の応用、新たな文法や語彙の習得に加え、イタリア語の文章に慣れ、読み方のコツを身につけることで、「読む」のみならず、「聴く」「話す」「書く」力も高めることができるでしょう。また授業では、パワーポイントを活用し、視覚資料によってできるだけ具体的に歴史を捉える作業を行います。さらに学期末には、イタリア史に関連する映画作品を観賞し、その時代背景を考えてみます。

授業の到達目標

「1年イタリア語」既習者あるいはそれと同等の語学力を持つ学生が、リーディングの効果的なトレーニングを行うことで総合的な語学能力を向上させること、また、「イタリア語を学ぶ」という単純な語学学習にどどまることなく、「イタリア語で学ぶ」ために必要なスキルを身につけ、イタリアの歴史や思想、文化、社会に対する理解を深めることを目的とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　指定されたイタリア語テキストの和訳を学期末に提出して下さい。
●**平常点**　70%　　通常の授業への参加度（出席、授業態度、予習など）によって評価します。期末試験は行いません。
●**その他**　0%

備考・関連URL

イタリアの歴史、思想、文化、社会に関心を持ち、イタリア語を通してその理解を深めたいと思う人であれば、誰でも歓迎します。異なる分野を学ぶ人たちが集まり、楽しく活気にあふれた授業の場ができることを期待しています。

科 目 名	イタリア文化を知る3（映画）							
担当者名	M. カマンドーナ							
伊語	1単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

現代イタリアの映画を日本語字幕で鑑賞する講座です。1作品を3回にわけて鑑賞します。各授業は、前半が作品上映、後半がその日の内容の記述です。3回目の授業では内容とともに感想や意見も書いてもらいます。それを4回目の授業で一緒に見ていき、文法的な間違いなどがあれば正しく直します。

授業の到達目標

この授業の目標は以下の3点です。
1.　映画を通して、現代イタリアの文化や社会を知る
2.　作品の感想や自分の意見を伝えるために必要な表現力の向上
3.　これまで勉強した文法などの復習

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　各授業における映画についての記述
●**平常点**　50%　　出欠席、授業への参加意欲
●**その他**　0%

備考・関連URL

http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad
イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方留学センターへお問い合わせください。

科 目 名	イタリア文化を知る4（映画）							
担当者名	M. カマンドーナ							
伊語	1単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

現代イタリアの映画を日本語字幕で鑑賞する講座です。1作品を3回にわけて鑑賞します。各授業は、前半が作品上映、後半がその日の内容の記述です。3回目の授業では、内容とともに感想や意見も書いてもらいます。それを4回目の授業で一緒に見ていき、文法的な間違いなどがあれば正しく直します。

授業の到達目標

この授業の目標は以下の3点です。
1.　映画を通して、現代イタリアの文化や社会を知る
2.　作品の感想や自分の意見を伝えるために必要な表現力の向上

3.　これまで勉強した文法などの復習

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　各授業における映画についての記述
●**平常点**　50%　　出欠席、授業への参加意欲
●**その他**　0%

備考・関連URL

http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad
イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方留学センターへお問い合わせください。

科 目 名	資格を目指すイタリア語　1　レベルA1～B1（初級・準中級）							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	1単位	春学期	木曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

このクラスでは、イタリア語検定試験CILS（シエナ外国人大学）とCELI（ペルージャ外国人大学）の受験準備が行われます。イタリア政府認定のイタリア語検定試験CILSとCELIは、外国語としてのイタリア語のコミュニケーション能力を証明するものです。この授業中に過去問題「レベルA1-A2」（初級）と「レベルB1」（準中級）の解答をし、必要に応じて試験項目を検証します。言語およびコミュニケーション能力に関するすべての試験内容についてレッスンを行います。

授業の到達目標

イタリア語検定試験CILSとCELIは、イタリア語のコミュニケーションの能力を客観的に測る試験です。この授業では、CILS/CELI「レベルA1-A2-B1」(*) の受験準備を目指し、語彙力の増強、文法事項の把握、聴き取り及び読解の能力の向上を図ります。必要があれば、基本的な文法や語法を復習するためのプリントを課題として配布します。
*この「A1-A2」及び「B1」（初級/準中級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準と同等であり、詳しくは『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』で参照できます。『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』（CEFR）とはEU評議会が作成した、言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法

●**試験**　20%　　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　80%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

検定試験を受けない方も受講可です。
http://www.iictokyo.esteri.it/IIC_Tokyo/Menu/Imparare_Italiano/Certificazioni/
イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	資格を目指すイタリア語　2　レベルA2～B2（初級・中級）、C1（上級）							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	1単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

このクラスでは、イタリア語検定試験CILS（シエナ外国人大学）とCELI（ペルージャ外国人大学）の受験準備が行われます。イタリア政府認定のイタリア語検定試験CILSとCELIは、外国語としてのイタリア語のコミュニケーション能力を証明するものです。この授業中に、CILS/CELI過去問題「レベルA2、B1-B2」（初級、準中級・中級）と「レベルC1」（上級）の解答をし、必要に応じて試験項目を検証します。言語およびコミュニケーション能力に関するすべての試験内容についてレッスンを行います。

授業の到達目標

イタリア語検定試験CILSとCELIは、イタリア語のコミュニケーションの能力を客観的に測る試験です。この授業では、CILS/CELI「レベルA2、B1-B2、C1」(*) の受験準備を目指し、語彙力の増強、文法事項の把握、聴取及び読解の能力の向上を図ります。必要があれば、基本的な文法や語法を復習するためのプリントを課題として配布します。
*この「A2、B1-B2」及び「C1」（初級～上級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準と同等であり、詳しくは『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』で参照できます。『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』（CEFR）とはEU評議会が作成した、言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法

●**試験**　20%　　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　80%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

検定試験を受けない方も受講可です。
http://www.iictokyo.esteri.it/IIC_Tokyo/Menu/Imparare_Italiano/Certificazioni/
イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語を読む1（文学・社会） イタリア、そして世界への窓							
担当者名	M. カマンドーナ							
伊語	1単位	秋学期	水曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

イタリアの新聞を一緒に読んでいく中級レベルの授業です。マスコミで使われるイタリア語を通して、さまざまな形式の文章表現を学びつつ、語彙を増やします。政治・経済・文化など様々なジャンルのテキストを扱います。イタリアのオンラインメディア「Il POST」（政治的に中道・信頼性のあるニュースメディア）の記事を基にしたオリジナル教材を用いて読解力を強化します。

授業の到達目標

時事イタリア語に触れながら、イタリアの近現代の社会や文化についてより深い知識を身につけることを目指します。

成績評価方法

- **試験** 0%
- **レポート** 0%
- **平常点** 100%　出欠席、授業への参加意欲、提出物による総合評価とします。特に授業態度を重視します。
- **その他** 0%

備考・関連URL

Il POST : www.ilpost.it

科 目 名	イタリア文化を知る1（美術） ルネッサンス							
担当者名	L. トゥッチ							
伊語	1単位	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

この授業では、ビデオ教材・マルチメディア教材とオリジナル資料を通して、ルネサンス期のイタリア美術を学びます。

歴史的・文化的背景を考察しながら、ヨーロッパ近代絵画の創始者ジョットから万能の天才レオナルド・ダ・ヴィンチまで、代表的画家の作品を取り上げて解説します。美術史を研究している学生、または関心を持っている学生が対象です。

イタリア美術を学びながら、これまでに学習したイタリア語文法、語彙を活用し、さらにイタリア語力をレベルアップして行きます。

授業の到達目標

これまでに学習したイタリア語の基礎的な内容を土台にして常用表現と語彙を増やしながら、文法知識の活用をはかります。この授業の目標は以下の三点です。

1. 既習の文法を習得
2. 語彙を増強
3. 新しい表現を習得

成績評価方法

- **試験** 0%
- **レポート** 0%
- **平常点** 80%　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
- **その他** 20%　グループプレゼンテーションの内容を評価します。

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア文化を知る2（美術） ルネッサンスから20世紀まで							
担当者名	L. トゥッチ							
伊語	1単位	秋学期	金曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

この授業では、ビデオ教材・マルチメディア教材とオリジナル資料を通して、ルネッサンスから20世紀までのイタリア美術を学びます。

歴史的・文化的背景を考察しながら、マニエリスムの代表的画家アルチンボルドからボッチョーニのような20世紀の芸術運動を担う芸術家まで、代表的画家の作品を取り上げて解説します。

美術史を研究している学生、または関心を持っている学生が対象です。

イタリア美術を学びながら、これまでに学習したイタリア語文法、語彙を活用し、さらにイタリア語力をレベルアップして行きます。

授業の到達目標

これまでに学習したイタリア語の基礎的な内容を土台にして常用表現と語彙を増やしながら、文法知識の活用をはかります。この授業の目標は以下の三点です。

1. 既習の文法を習得
2. 語彙を増強
3. 新しい表現を習得

成績評価方法

- **試験** 0%
- **レポート** 0%
- **平常点** 80%　出席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
- **その他** 20%　グループプレゼンテーションの内容を評価します。

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語中級1							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	1単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本科目はレベル2（準中級）で、週2コマ履修【春期・イタリア語中級1＋イタリア語中級2（会話）】が可能な授業です。「1年イタリア語」の続きとなるクラスです。

「読む」と「書く」ことを重視すると同時に、「聞く」と「話す」の能力も養成する授業です。「質」を重視し、ビデオ教材・マルチメディア教材と教科書の内容を中心に、学生が主役であるという形で授業を行います。実用的なコミュニケーションに必要な文法と表現を、段階を追いながら学びます。日常的な場面を想定した会話のトレーニングが主ですが、読解力とリスニングの能力の練習もします。また、ペアーワーク、グループワークやスキット作りなど、学生が参加して作り上げる練習を行いますので、間違うことを気にせず積極的に授業に参加する事が大事です。さらにイタリアの社会的や文化的な知識も深めるよう学習します。

授業の到達目標

この「イタリア語中級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリア文化とその日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語資格の取得を目指している人を対象とします。

この講義では「A2」（初級）及び「B1」（準中級）レベルの教材を使用し、イタリア人講師のもとで特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「1年イタリア語」のテキストを継続して使用し、初級クラスで学習した文法事項・語彙と表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSという（イタリア政府認定の）イタリア語検定試験問題の構成・レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。

成績評価方法

- **試験**　20%　　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
- **レポート**　0%
- **平常点**　80%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
- **その他**　0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語中級2（会話）							
担当者名	L. トゥッチ							
伊語	1単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本科目はレベル2（準中級）で「1年イタリア語」の続きとなるクラスです。週2コマの履修（春期／イタリア語中級1＋イタリア語中級2）が可能です。この授業の目標は次の二つです。一つは1年生で学んだ内容をしっかりと自分のものにすること、もう一つは新たな知識を吸収することです。そのため、会話、リスニング、作文、読解を総合的に学習します。グループワークを中心にイタリア語で積極的に会話することで、イタリア語の能力を総合的に向上させ、イタリアについての知識を深めます。

語学力の向上に真剣に取り組みたい人には、週2コマの履修をお勧めします。

授業の到達目標

「イタリア語中級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリアの文化と日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語の資格の取得を目指している人を対象とします。この講義では、「A2＊」および「B1＊」レベル（準中級）の教材を使用し、イタリア人講師のもとで、特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「1年イタリア語」のテキストを継続して使用し、初級クラスで学習した文法事項や語彙、表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSというイタリア政府認定のイタリア語検定試験問題の構成、レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。

＊この「A2」（初級）および「B1」（準中級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準と同等であり、詳しくは「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」で参照できます。「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」（CEFR）とは、EU評議会が作成した、言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法

- **試験**　30%　　学習成果や理解度の確認のために、学期末試験を実施します。
- **レポート**　0%
- **平常点**　70%　　出席、授業への参加意欲など総合的に評価します。
- **その他**　0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味がある方は、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語中級3							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	1単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本科目はレベル2（準中級）で、週2コマ履修【秋期・イタリア語中級3＋イタリア語中級4（会話）】が可能な授業です。「イタリア語中級1・2」の続きとなるクラスです。

「読む」と「書く」ことを重視すると同時に、「聞く」と「話す」の能力も養成する授業です。「質」を重視し、ビデオ教材・マルチメディア教材と教科書の内容を中心に、学生が主役であるという形で授業を行います。実用的なコミュニケーションに必要な文法と表現を、段階を追いながら学びます。日常的な場面を想定した会話のトレーニングが主ですが、読解力とリスニングの能力の練習もします。また、ペアーワーク、グループワークやスキット作りなど、学生が参加して作り上げる練習を行いますので、間違うことを気にせず積極的に授業に参加する事が大事です。さらにイタリアの社会的や文化的な知識も深めるよう学習します。

授業の到達目標

この「イタリア語中級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリア文化とその日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語資格の取得を目指している人を対象とします。

この講義では「B1」（準中級）レベルの教材を使用し、イタリア人講師のもとで特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「1年イタリア語」で使用したテキストのレベルアップを図るもので、初級クラスで学習した文法事項・語彙と表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSという（イタリア政府認定の）イタリア語検定試験問題の構成・レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。

成績評価方法

- **試験**　20%　　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
- **レポート**　0%
- **平常点**　80%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
- **その他**　0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語中級4（会話）							
担当者名	L. トゥッチ							
伊語	1単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本科目はレベル2（準中級）で「イタリア語中級1，2」の続きとなるクラスです。週2コマの履修（秋期／イタリア語中級3＋イタリア語中級4）が可能です。この授業の目標は次の二つです。一つは1年生で学んだ内容をしっかりと自分のものにすること、もう一つは新たな知識を吸収することです。そのため、会話、リスニング、作文、読解を総合的に学習します。グループワークを中心にイタリア語で積極的に会話することで、イタリア語の能力を総合的に向上させ、イタリアについての知識を深めます。

語学力の向上に真剣に取り組みたい人には、週2コマの履修をお勧めします。

授業の到達目標

「イタリア語中級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリアの文化と日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語の資格の取得を目指している人を対象とします。この講義では、「B1＊」レベル（準中級）の教材を使用し、イタリア人講師のもとで、特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「1年イタリア語」で使用したテキストのレベルアップを図るもので初級クラスで学習した文法事項や語彙、表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSというイタリア政府認定のイタリア語検定試験問題の構成、レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。

＊「B1」（準中級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準と同等であり、詳しくは「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」で参照できます。「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」（CEFR）とは、EU評議会が作成した、言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法

- **試験**　30%　　学習成果や理解度の確認のために、学期末試験を実施します。
- **レポート**　0%
- **平常点**　70%　　出席、授業への参加意欲など総合的に評価します。
- **その他**　0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味がある方は、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語中上級							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	1単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本科目は「イタリア語中級」の続きとなるクラスです。「読む」と「書く」ことを重視すると同時に、「聞く」と「話す」の能力も養成する授業です。「質」を重視し、ビデオ教材・マルチメディア教材と教科書の内容を中心に、学生が主役であるという

形で授業を行います。実用的なコミュニケーションに必要な文法と表現を、段階を追いながら学びます。日常的な場面を想定した会話のトレーニングが主ですが、読解力とリスニングの能力の練習もします。また、ペアーワーク、グループワークやスキット作りなど、学生が参加して作り上げる練習を行いますので、間違うことを気にせず積極的に授業に参加する事が大事です。さらにイタリアの社会的や文化的な知識も深めるよう学習します。

授業の到達目標

この「イタリア語中上級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリア文化とその日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語資格の取得を目指している人を対象とします。

この講義では「B1*」及び「B2*」レベルの教材を使用し、イタリア人講師のもとで特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「イタリア語中級」で使用したテキストのレベルアップを図るもので、中級クラスで学習した文法事項・語彙と表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSという（イタリア政府認定の）イタリア語検定試験問題の構成・レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。

*この「B1-B2」（準中級・中級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準であり、詳しくは『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』で参照できます。『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』（CEFR）とはEU評議会が作成した言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法

- **試験**　20%　　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
- **レポート**　0%
- **平常点**　80%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
- **その他**　0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科目名	イタリア語上級							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	1単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本科目は「イタリア語中上級」の続きとなるクラスです。

「読む」と「書く」ことを重視すると同時に、「聞く」と「話す」の能力も養成する授業です。「質」を重視し、ビデオ教材・マルチメディア教材と教科書の内容を中心に、学生が主役であるという形で授業を行います。実用的なコミュニケーションに必要な文法と表現を、段階を追いながら学びます。日常的な場面を想定した会話のトレーニングが主ですが、読解力とリスニングの能力の練習もします。また、ペアーワーク、グループワークやスキット作りなど、学生が参加して作り上げる練習を行いますので、間違うことを気にせず積極的に授業に参加する事が大事です。さらにイタリアの社会的や文化的な知識も深めるよう学習します。

授業の到達目標

この「イタリア語上級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリア文化とその日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語資格の取得を目指している人を対象とします。

この講義では「B2*」レベルの教材を使用し、イタリア人講師のもとで特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「イタリア語中級」で使用したテキストのレベルアップを図るもので、中上級クラスで学習した文法事項・語彙と表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSという（イタリア政府認定の）イタリア語検定試験問題の構成・レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。

*この「B2」（中級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準であり、詳しくは『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』で参照できます。『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』（CEFR）とはEU評議会が作成した言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法

- **試験**　20%　　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
- **レポート**　0%
- **平常点**　80%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
- **その他**　0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科目名	イタリア文化を知る5（都市を巡る）　イタリア都市の伝統と文化							
担当者名	高津　美和							
伊語	1単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

世界遺産登録数の国別ランキングで堂々の一位に輝き、多くの旅行者を魅了するイタリア。そんなイタリアの魅力をより良く知る鍵は、「都市」にあります。中世に都市国家として高い自立性を誇ったイタリアの諸都市は、現在もなお豊かな個性をそなえています。この授業では、ヨーロッパ最古の大学を擁するボローニャ、『ロミオとジュリエット』の舞台となったヴェローナをはじめとするいくつかの魅力的なイタリアの都市を取り上げて、その多種多様な歴史や美術、文学、祝祭、食文化などについて学びます。授業では、各都市に関連する内容が記されたイタリア語資料の講読を行います。また、CDやDVDなどの視聴覚資料を活用することによって理解を補います。

授業の到達目標

1. 新しい単語・熟語表現の習得
2. 既習の文法知識の応用、読解力の向上
3. イタリアの歴史や文化に関する知識の習得

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　40%　　レポート
- **平常点**　60%　　出席、授業への参加意欲
- **その他**　0%　　なし

備考・関連URL

受講者数や進度に応じて授業内容を変更する場合があります。

科 目 名	イタリア文化を知る6（都市を巡る）　机上で旅するイタリア							
担当者名	横山　修一郎							
伊語	1単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

机上の旅行者の特権はどこへでも自由に行けること。

せっかくイタリア語の基礎を学んだのだから、言葉が実際に話されている場所に行ってみたい。その望みをかなえるのは、皆さんの一瞬のいきごみ次第、けれど、そのためには準備も必要。本講座が皆さんに提供できることは、これまで以上に「言葉を知ること」と「言葉が話されている場所を知ること」です。

本講座では、イタリアのいくつかの町を描いた映像作品を鑑賞します。また、町に関する説明文や文学作品を読みます。その過程において、イタリア語の語学力の維持とさらなる向上を目指します。そして、履修者の皆さんが、「イタリアの町の姿形」をより身近に捉えるようになること、これが本講座の最終的な目標です。

授業の到達目標

1. イタリア語の基礎学力を維持する。
2. 文法知識や語彙力のさらなる向上をめざす。
3. 映像作品などを通して、言葉そのものや言葉が話されている場所の持つ「雰囲気」をつかむ。

成績評価方法

- **試験**　0%　　実施しません。
- **レポート**　40%　　日本語レポート
- **平常点**　30%　　出席、宿題課題への取り組み、授業への参加意欲
- **その他**　30%　　授業内発表

備考・関連URL

グループで読解・練習などする機会も多々あります。知るも知らぬも互いに力合わせる気持ちで授業に参加して下さい。
また、履修者数及び進度の都合で、授業計画を変更することもあります。

科 目 名	朝鮮語中級							
担当者名	博士（人文科学）お茶の水女子大　　印　省熙							
朝語	1単位	春学期	木曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

週4回の授業を1年（週2回の授業を1年半）程度学習した人を対象に、中級レベルの学習を行います。授業は中級の文法と会話を中心に行いますが、課題を通して読解、作文作成など読み・書き能力の向上を目指します。

毎回、テキストの題材と関連した予習・復習の課題と読解や作文の課題があるため、自宅学習が多く求められます。

授業の到達目標

ハングル能力検定4級～3級前半レベルの文法の習得を目指します。

成績評価方法

- **試験**　50%　　期末試験
- **レポート**　0%　　無し
- **平常点**　50%　　出席、授業への参加度、小テスト、課題などで総合的に判断します。
- **その他**　0%　　無し

備考・関連URL

受講者のレベルによって、上記の授業計画は変更になることがあります。
本授業のほか、「朝鮮語会話中級」または「朝鮮語作文中級」の授業を合わせて受講することをお勧めします。
＜留意点＞
・最初の授業でテキストを決め、人数分注文するので、受講希望者は最初の授業に必ず出席してください。
・3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。
・本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、コースナビを利用した自律学習を促しています。
毎回、コースナビ資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科 目 名	朝鮮語中上級							
担当者名	博士（人文科学）お茶の水女子大　　印　省熙							
朝語	1単位	秋学期	木曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

春学期の「朝鮮語中級」に続き、中上級前半レベルの学習を行います。授業は中級の文法と会話を中心に行いますが、課題を

通して読解、作文作成など読み・書き能力の向上を目指します。
毎回、テキストの題材と関連した予習・復習の課題と読解や作文の課題があるため、自宅学習が多く求められます。

授業の到達目標

ハングル能力検定3級レベルの文法の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末試験
●**レポート**　0%　　無し
●**平常点**　50%　　出席、授業への参加度、小テスト、課題などで総合的に判断します。
●**その他**　0%　　無し

備考・関連URL

受講者のレベルによって、上記の授業計画は変更になることがあります。
本授業のほか、「朝鮮語会話中上級1」または「朝鮮語作文中上級」の授業を合わせて受講することをお勧めします。
＜留意点＞
・最初の授業の人数でテキストを注文するので、受講希望者は最初の授業に出席してください。
・3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。
・本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、コースナビを利用した自律学習を促しています。毎回、コースナビ資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科 目 名	朝鮮語上級1							
担当者名	博士（人文科学）お茶の水女子大　　印　省熙							
朝語	1単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	―	―	―

授業概要

「朝鮮語中上級」履修者、韓国短期留学経験者など中上級レベルの文法事項の習得を終えた学習者を対象に、上級レベルの韓国語運用能力の向上を目指します。
授業では文法事項の習得と会話や発表を中心に行い、読解や作文の課題を通して、文法項目の定着と表現の幅を広げます。
毎回、テキストの題材と関連した予習・復習の課題と、読解・作文や発表などの課題があり、自宅学習が多く求められます。

授業の到達目標

ハングル能力検定準2級前半レベルの文法事項の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　中間試験・期末試験
●**レポート**　0%　　無し
●**平常点**　50%　　出席、授業への参加度、小テスト、課題などで総合的に判断します。
●**その他**　0%　　無し

備考・関連URL

受講者のレベルによって上記の授業計画は変更になることがあります。
最初の授業でテキストを決め、人数分注文するので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。
3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。
本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、コースナビを利用した自律学習を促しています。
コースナビ資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科 目 名	朝鮮語上級2							
担当者名	博士（人文科学）お茶の水女子大　　印　省熙							
朝語	1単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	―	―	―

授業概要

「朝鮮語中上級」履修者、韓国短期留学経験者など中上級レベルの文法事項の習得を終えた学習者を対象に、上級レベルの韓国語運用能力の向上を目指します。
授業では文法事項の習得と会話や発表を中心に行い、読解や作文の課題を通して、文法項目の定着と表現の幅を広げます。
毎回、テキストの題材と関連した予習・復習の課題と、読解・作文や発表などの課題があり、自宅学習が多く求められます。

授業の到達目標

ハングル能力検定準2級後半レベルの文法事項の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　中間試験・期末試験
●**レポート**　0%　　無し
●**平常点**　50%　　出席、授業への参加度、小テスト、課題などで総合的に判断します。
●**その他**　0%　　無し

備考・関連URL

受講者のレベルによって上記の授業計画は変更になることがあります。
最初の授業でテキストを決め、人数分注文するので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。
3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。
本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、コースナビを利用した自律学習を促しています。
コースナビ資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科 目 名	朝鮮語会話上級1							
担当者名	林　周禧							
朝語	1単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

授業はすべて韓国語で行い、韓国人との会話に自信が持てるようにしたい。
会話はもちろん韓国の文化や社会についても学ぶ。

授業の到達目標

韓国語の語彙を増やし、会話力を高める。

成績評価方法

●**試験**　100%
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

備考・関連URL

出席及び授業中の態度も評価対象になる。

科 目 名	朝鮮語会話上級2							
担当者名	林　周禧							
朝語	1単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

授業はすべて韓国語で行い、韓国人との会話に自信が持てるようにしたい。
会話はもちろん韓国の文化や社会についても学ぶ。

授業の到達目標

韓国語の語彙を増やし、会話力を高める。

成績評価方法

●**試験**　100%
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

備考・関連URL

出席及び授業中の態度も評価対象になる。

科 目 名	朝鮮語会話中級							
担当者名	李　和貞							
朝語	1単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

初級文法の学習を終えた学生を対象にし、さらに語彙、文法、表現力を学びながら会話力を磨いていきます。それと並行し聞き取り練習、読解、作文を組み合わせ、総合的な学習を行います。中級教科書はやや易しめのものを用います。その代わり、映像、雑誌・新聞記事など、多様な媒体を使い、朝鮮半島の社会、文化についての理解を深めながら会話中心の学習を進めていきます。授業ではペアワークやグループワークを多く取り入れます。また教科書本文の暗記、発表も毎回行います。学習を通して、履修者同士のコミュニケーションスキルの向上を目指します。

授業の到達目標

初級文法を確実に使いこなし、そのうえで応用的な表現の運用能力を身につけることが目標です。会話においては、少々の間違いがあっても朝鮮語で自分の言いたいことを伝え、相手とコミュニケーションが取れるようになること、読解においては、簡単な文なら辞書を引かずに推測しながら文意がつかめるようにすることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　40%　　学期末試験（最終回の授業時に試験を実施します。追試、レポート等による救済措置はありません）
●**レポート**　30%　　小テスト、課題、レポートなど
●**平常点**　25%　　授業への積極的な参加が必須です。理解度確認のために、教科書本文暗記、小テストを毎回実施します。欠席があまりにも多い場合は、試験の成績が良くても評価の対象になりませんので注意してください。
●**その他**　5%　　コミュニケーションカードの作成（詳細はガイダンスの際に説明）

備考・関連URL

朝鮮語学習を通して、朝鮮文化に関する皆さんの興味、関心を広げるような授業を行いたいと思っています。授業外での教科書の復習は必須ですが、知識の詰め込みに終わらず、多角的に朝鮮語へアプローチできるよう皆さんと工夫しながら授業を進めます。授業中の積極的な発言、意見、質問を歓迎します。

科 目 名	朝鮮語会話中上級1							
担当者名	李　和貞							
朝語	1単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本授業は春学期の＜会話中級＞に引き続き、中級会話教科書を用いて進めます。初級文法を確実に身につけながら、さらに語彙、文法、表現力を会話中心に磨いていきます。それと並行し、聞き取り練習、読解、翻訳を組み合わせ、総合的な学習を行います。中級教科書はやや易しめのものを用います。その代わり、映像、雑誌・新聞記事、文学、マンガなど多様な媒体を使い、

朝鮮半島の教育、社会、文化についての理解を深めながら学習を進めていきます。
授業ではペアワークやグループワークを多く取り入れます。また教科書本文の暗記、発表も毎回行います。

授業の到達目標

初級文法を確実に使いこなし、そのうえで応用的な表現の運用能力を身につけることが目標です。会話においては、少々の間違いがあっても朝鮮語で自分の言いたいことを伝え、相手とコミュニケーションが取れるようになること、読解においては、簡単な文なら辞書を引かずに推測しながら文意がつかめるようにすることを目指します。
こうした学習を通し、この授業を履修し終える頃には、朝鮮語で会話ができ、自分の意見および意思を伝えられるようになることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　40%　　最終回の授業時に試験を実施します。追試、レポート等による救済措置はありません。
●**レポート**　30%　　小テスト、レポート、課題など
●**平常点**　25%　　授業への積極的な参加が必須です。理解度確認のために、教科書本文暗記、小テストを毎回実施します。欠席があまりにも多い場合は、試験の成績が良くても評価の対象になりませんので注意してください。
●**その他**　5%　　コミュニケーションカードの作成（詳細はガイダンスの際に説明）

備考・関連URL

朝鮮語学習を通して、朝鮮文化、教育に関する皆さんの興味、関心を広げるような授業を行いたいと思っています。授業外での教科書の復習は必須ですが、知識の詰め込みに終わらず、多角的に朝鮮語へアプローチできるよう皆さんと工夫しながら授業を進めます。授業中の積極的な発言、意見、質問を歓迎します。
また、学習を通してコミュニケーションスキルの向上を目指します。

科 目 名	朝鮮語会話中上級2							
担当者名	博士（人文科学）お茶の水女子大　　印　省熙							
朝語	1単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

「朝鮮語中上級」や「朝鮮語会話中上級1」履修者、韓国短期留学経験者など中級レベル（ハングル能力検定3級）の文法事項の習得を終えた学習者を対象に、上級に向けて会話能力の向上を目指します。 テキスト内容と自由討論や発表などを半分ずつの比重で進めて行く予定です。
授業は会話・発表や討論を中心に行いますが、課題を通して読解、作文作成など読み・書き能力の向上を目指します。
毎回、授業の題材と関連した課題が多く、授業への積極的な参加が求められます。

授業の到達目標

中上級レベルの会話能力の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　中間会話試験・期末筆記試験
●**レポート**　0%　　無し
●**平常点**　50%　　出席、授業への参加度、課題などで総合的に判断します。
●**その他**　0%　　無し

備考・関連URL

＜留意点＞
・受講者のレベルによって、上記の授業計画は変更になることがあります。
・受講希望者は最初の授業に必ず出席してください。
・3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。
・本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、コースナビを利用した自律学習を促しています。毎回、コースナビ資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科 目 名	朝鮮語会話中上級3							
担当者名	博士（人文科学）お茶の水女子大　　印　省熙							
朝語	1単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

「朝鮮語中上級」や「朝鮮語会話中上級2」履修者、韓国短期留学経験者など中級レベル（ハングル能力検定3級以上）の文法事項の習得を終えた学習者を対象に、会話能力の向上を目指します。 テキスト内容と自由討論や発表を半分ずつの比重で進めて行く予定です。
授業は会話・発表や討論を中心に行いますが、課題を通して読解、作文作成など読み・書き能力の向上を目指します。
毎回、授業の題材と関連した課題が多く、授業への積極的な参加が求められます。

授業の到達目標

中上級～上級レベルの会話能力の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　中間会話試験・期末筆記試験
●**レポート**　0%　　無し
●**平常点**　50%　　出席、授業への参加度、課題などで総合的に判断します。
●**その他**　0%　　無し

備考・関連URL

＜留意点＞
・受講者のレベルによって、上記の授業計画は変更になることがあります。
・受講希望者は最初の授業に必ず出席してください。
・3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。

・本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、コースナビを利用した自律学習を促しています。毎回、コースナビ資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科 目 名	朝鮮語作文中級							
担当者名	李　和貞							
朝語	1単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本講義では多種類の教材を通してナチュラルな韓国語の文章に触れ、自分の考えを文にする力を身につけることを目標とする。そのため韓国の社会や文化に関する内容の資料を中心にリーディングをしながら、具体的な表現を学習し、文章の読み方、書き方、言い回しなどの表現について学ぶ。その上、自分の考えや意見について作文・個人発表をし、実践的な語学力の向上を促す。

授業の到達目標

授業では毎回作文学習を行うが、必要に応じて履修者の作文課題を授業で紹介し、間違いやすい表現や言い回しや細かい部分について授業教材として利用することもある。授業では履修者のモチベーションを重要視しつつ履修者の関心・興味のある分野の様々の題材を活用しながら授業を進める。ニュース、会話、アナウンス、音楽、映画など、多種類の教材に触れながら、自然な韓国語に翻訳・表現することを学ぶ。また文の表現力の幅を広げると同時に、授業で学習した内容を中心にペア学習、個人発表の実践を促し、受講者の実用的な韓国語コミュニケーション力の向上に主力したい。

成績評価方法

試験：　40%　　期末テスト
レポート：　20%　　毎回の宿題、レポート
平常点評価：　30%
その他：　10%　　授業での発言・発表

備考・関連URL

授業への積極的な参加を重要視します。授業計画は、履修人数及び履修者のレベルによって変更することがあります。

科 目 名	朝鮮語作文中上級							
担当者名	李　和貞							
朝語	1単位	秋学期	水曜日	2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本講義では多種類の教材を通してナチュラルな韓国語の文章に触れ、自分の考えを文にする力を身につけることを目標とする。
授業では、履修者のモチベーションを高めるため、履修者の関心・興味のある分野の様々の題材を活用する。例えば、ニュース、会話、アナウンス、音楽、映画など、多種類の教材に触れながら自然な韓国語に翻訳・表現することを学ぶ。また必要に応じて履修者の作文を授業で紹介し、間違いやすい表現や言い回しなど細かい部分について学習する。そのほか、授業では韓国の社会や文化に関する様々な内容の資料を中心としたリスニング＆リーディング練習にも力を入れる。

授業の到達目標

文章の読み方、書き方、さまざまな表現を学習し、作文中心の実践的な語学力の向上を目指す。

成績評価方法

- **試験**　30%　　中間試験、期末試験
- **レポート**　10%　　小レポート
- **平常点**　50%　　出席・授業参加度・日々の課題が含まれます。
- **その他**　10%　　毎回の発言

備考・関連URL

・学期に1回ぐらいは韓国の大衆文化映像を鑑賞し、韓国文化および生きた朝鮮語の表現について学びます。
・スキルアップのため卒業まで韓国語スピーチコンテストへの参加を心がけて下さい（特に毎年12月に行われる早稲田大学のスピーチコンテストにも積極的な参加を期待しています。）

科 目 名	時事朝鮮語　ニュースで学ぶ朝鮮語							
担当者名	黒澤　朋子							
朝語	1単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

新語や時事関連用語をリアルな韓国のニュースを通して習得し、ビジネスシーンにも使える上級朝鮮語の習得を目指す。2年生以上から履修可能となっているが、中級朝鮮語の授業よりレベルが高い。したがって、履修可能な学年よりも、朝鮮語の実力が重要である。ハングル検定で言えば、3級以上のレベルであることが望ましい。秋学期の通訳朝鮮語を履修予定の場合は、履修することが望ましい。

授業の到達目標

新聞記事のように漢字語の多いテキストの場合、日本語ネイティブであれば、理解するのは困難ではないだろう。本授業では、読んで理解するだけでなく、聞いて理解できるようになることを目標とする。そのため、新聞記事ではなくニュース音声に重点を置いて学習する。一般的な語学力で言えば、ハングル検定準2級レベルに到達することを目標とする（ただし検定には時事用語は頻出しないため、時事朝鮮語の学習が検定合格に直結するわけではない）。

成績評価方法

試験：70%：授業中に2回試験を実施し、理解度の確認を行う。
課題と平常点：30%：課題への取り組み、授業への積極性、出席率を評価する。

備考・関連URL

KBSホームページ　http://www.kbs.co.kr/

科 目 名	通訳朝鮮語　朝鮮語逐次通訳入門							
担当者名	黒澤　朋子							
朝語	1単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

本授業は、逐次通訳の入門に当たる。逐次通訳とは、スピーカーの発言が一区切りした後に通訳するという形式の通訳である。ヘッドフォンとマイクを使用してスピーカーの発言にかぶって通訳する同時通訳とは異なる。授業では、自己紹介のような個人的な話題から始め、インタビュー、ニュース原稿、ビジネス会話、イベント司会など様々な場でのスピーチを通訳する練習を行う。語彙を増やすための単語テストも随時行う。通訳をするには、朝鮮語を聞き取れることが必須条件であるため、朝鮮語の聞き取りに重点を置いた授業となる。2年生以上から履修可能となっているが、中級朝鮮語の授業よりレベルが高い。したがって、履修可能な学年よりも、朝鮮語の実力が重要である。ハングル検定で言えば、3級以上のレベルであることが望ましい。本授業は、外国語の授業である。よって、朝鮮語のネイティブスピーカーやそれに準じる者が履修したとしても、朝鮮語学習者のレベルに合わせた授業を行う点に注意されたい。また、本授業は、通訳者を養成するものではない。通訳の練習方法を用いて、受講者の朝鮮語を上級レベルに到達させることが目的である。春学期の「時事朝鮮語」を履修しているとなおよい。

授業の到達目標

①通訳についての予備知識を持つ②日常会話のくだけた表現ではなく、改まった表現や敬語が使える。③通訳の練習方法を用いて語彙を増やし、上級レベルの朝鮮語を目指す。一般的な指標で言えば、ハングル検定準2級以上のレベルに到達する。

成績評価方法

試験：60%：授業中に2回試験を実施し、理解度の確認を行う。

課題と平常点：40%：課題への取り組み、授業への積極性を評価する。また、出席率も重要である。毎回タスクを与えるので、欠席すればその日のタスクを消化しなかったことになるからである。

考古調査士関連科目

科 目 名	文化財行政学特論　埋蔵文化財保護の制度と行政							
担当者名	博士(文学)早大　　御堂島　正							
考古調査士関連科目	２単位	秋学期	土曜日	２時限	１年以上	―	―	―

授業概要

わが国における埋蔵文化財保護の制度と行政実務について解説する。また埋蔵文化財に関する諸課題を取り上げて議論する。受講生には、授業の中で講師が示す課題についてレポートの提出と発表を求める。

授業の到達目標

地方公共団体等の文化財専門職員として必要な文化財保護制度と行政実務の基本的理解とともに、埋蔵文化財行政における諸課題を考えることを通して、より深い知識と課題認識をもつことができる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　授業時間中に示す課題について、レポートの提出を求める（3回程度）。後の授業でレポートの内容について発表してもらうこともある。課題に関する理解度、内容の論理性などを評価する。
●**平常点**　30%　　授業に対する取り組み姿勢などを評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	文化財の保存と活用特論　さまざまな視点や立場から文化財保護と活用を考える							
担当者名	品川　欣也　他／亀田　直美／武田　昭子／中門　亮太							
考古調査士関連科目	２単位	秋学期	土曜日	３時限	１年以上	―	―	―

授業概要

講義は、さまざまな視点や立場から進められている文化財の保存と活用の具体例を紹介し、文化財の保護活動について理解を深めていきたい。中門は、行政的な制度や仕組みを踏まえた上で、埋蔵文化財の保存と活用の在り方について、実例をもとに紹介する。品川は、博物館の歴史、指定制度の変遷、環境保存や修復、展示のなりたちという視点から講義をし、博物館における文化財保護と活用を進め方について紹介する。武田は、保存科学の観点から、漆文化財を中心とした製作技法や保存の実際について講義する。亀田は、埋蔵文化財と現代社会のとの関係、地域社会の中での埋蔵文化財の役割と課題を考える。

授業の到達目標

文化財（埋蔵文化財）の保存と活用を学び、考古学と社会の関係について理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　該当なし
●**レポート**　50%　　レポートの提出とその内容、ならびにレポートをもとにした講義や討論への参加・貢献を評価します。
●**平常点**　50%　　授業への参加・貢献を評価します。
●**その他**　0%　　該当なし

科 目 名	考古学特殊研究							
担当者名	博士(文学)早大　　中門　亮太							
考古調査士関連科目	２単位	秋学期	土曜日	５時限	１年以上	―	―	―

授業概要

近年の研究により、縄文文化は日本全域で単一の文化であったのではなく、各地の豊かな生態系・自然に適応した、いくつかの地域文化圏が存在していたと考えられている。本講義では、その中でも土器の出現期から晩期まで約1万5000年にわたり集落が出現・展開・発展した東北地方の縄文時代を中心に紹介する。また、文化財行政における専門職員の役割は、単に発掘・報告をすれば良いだけではなく、専門的知識に基づき調査成果等を地域の歴史の中で位置付けていくことが重要である。

本科目は考古調査士資格科目でもあることから、地域研究としての縄文時代研究の事例も紹介する。

授業の到達目標

本研究で取り上げるは主に東北地方の縄文時代であるが、地域文化の捉え方、地域研究という視点などを自身の研究分野にフィードバックしてほしい。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席状況、受講態度、何度か意見交換を行うのでその際の取組状況等に基づいて判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	考古学専門実習　埋蔵文化財調査の専門技術の養成							
担当者名	高橋　龍三郎							
考古調査士関連科目	２単位	通年	土曜日	１時限	１年以上	―	―	―

授業概要

各自の希望するフイールドで、考古学調査の実践的な活動をおこなうことを旨とする。通年科目であるが、教場での授業ではない。夏休みや冬休みを利用して、埋蔵文化財調査に必要な専門技術を養成するために、学外の発掘調査現場、または整理現場において、専門職の社会人に混じって技術を磨くために、20日間（160時間）以上の実習を必要とする。受け入れ調査機関と相談のうえ、期間や内容などを具体的に設定する。春期・秋期の初回は研究室で講義を行う。

授業の到達目標

考古学調査を通じて、実践的かつ専門的な埋蔵文化財調査の知識、技術などを身につけることを目標とする。「考古調査士」の1級資格に必要な技術、知識、安全対策などの諸策を学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。

●**レポート**　100%　　現場実習に関する報告が必要である。そのために「発掘調査日誌類」を提出すること。ただし、当道府県の埋蔵文化財センターなどでは、発掘調査事で明らかになった事実関係を事前に漏らすことを禁止する規定があるので、それについては事前に相談すること。

●**平常点**　0%　　平常点による評価はしない。

●**その他**　0%　　「発掘担当者の所見」、「発掘調査報告」、「発掘調査日誌類」などの書式を提出することにより、評価の判断基準にする。

備考・関連URL

夏季休暇などを利用して、最低20日間の調査実習をすることが単位取得の条件である。受講生は、本科目の履修のために、受け入れ先の発掘調査現場あるいは整理作業現場について、直接担当者と交渉・相談し、その受け入れの諾否について早めに科目担当者に伝えること。

科目担当者は、受講者がお世話になる発掘現場、整理現場の担当者に連絡し、予め科目の主旨を伝えてお願いするので、交渉状況について必ず科目担当者に連絡すること。

講義計画では15回分を記載するが、通年授業なので注意すること。

科 目 名	考古学特殊演習　文化財調査の現在							
担当者名	博士(文学)千葉大　　白井　久美子							
考古調査士関連科目	２単位	秋学期	土曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

・文化財調査の現状について、調査者の立場から課題を投げかけて検討する。・特に、1970年代～2000年代の高度経済成長期に、全国規模でおこなわれた大規模な埋蔵文化財調査の功罪を考えるとともに、膨大な資料をどのように学界に活かし、社会に還元したらよいか考える。

・日本の文化財調査体制・「日本型」発掘調査について、諸外国の例と比較・検討する。

・経済成長が減速した現在、文化財調査体制や文化行政にどのような変化が生じているのか確認する。

授業の到達目標

・文化財調査機関による調査・研究の実態と問題点を知る。

・列島規模で行われた埋蔵文化財調査について、一般社会・マスコミがどのように受け止め、反応したか理解する。

・文化財調査担当者の学界への参加、取り組みについて知る。

・文化財調査の成果をどのように社会に還元し、周知したらよいか考える。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　課題について、内容を把握し、誠実に取り組んでいるかどうか。

●**平常点**　50%　　発表資料と発表内容。講義や発表内容を理解し、質疑や討論に参加できているかどうか。

●**その他**　0%

合併隨意科目

科 目 名	ラテン語講読2　キケロを読む							
担当者名	土屋　睦廣							
合併随意科目	1単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	—	—

授業概要

春期科目「ラテン語講読2」は、「詳しく学ぶラテン語」、「入門ラテン語」等を学んだ人、もしくはそれと同等程度のラテン語に関する基礎知識を持っている人が、古典古代のラテン語作品を原典で読むための科目です。

今期は、古代ローマを代表する散文作家であるキケロの作品を、文法的知識を踏まえながら、丁寧に講読します。短い作品なら半期で読了できますが、大きな作品の場合は、有名な箇所を抜き出して読むことになります。作品の選択は受講者の希望をできるだけ尊重するので、とくに希望がある場合は初講時に申し出てください。

受講者の語学力に応じて、毎回数十行を精読します。受講者には、数行ずつ区切りながら、音読して訳をつけてもらいます。接続法の用法など、基本的な文法事項も繰り返し確認しながら進めていきます。

前1世紀の代表的弁論家・政治家・思想家であるキケロのラテン語は、古典ラテン語の模範とされる名文です。古典作品を原典で読む喜びを、受講者の皆さんと分かち合いたいと思います。

授業の到達目標

ラテン語文法に関してはすでに大筋を理解していることを前提とし、基礎事項も繰り返し復習しながら、古典ラテン語の文献を独力で読めるようになるための語学力の養成を目指します。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　毎回の訳読により評価します。語学力のレベルだけでなく、積極的な取り組みと努力を評価します。
- **その他**　0%

備考・関連URL

ラテン語に限らず、外国語の習得には多大な労力と時間を要しますが、努力をいとわぬ者には必ずやそれを上回る喜びが得られるはずです。ラテン語を学んだ経験のある人は、是非とも果敢に挑戦してください。

科 目 名	ギリシャ語講読1　プラトン『国家』講読							
担当者名	博士(文学)東大　　松浦　和也							
合併随意科目	1単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

古代ギリシアが残した文献が現在においてもなお文化の基盤である、すくなくとも重要な参照軸あることを否定することは難しい。そうであるならば、現代に生きるわれわれが古代ギリシアの文献に立ち戻ることは、思索や文芸を新たに創造する際にきわめて有効な手段である。

しかし、古典的な一次文献に対峙するためには、専門的な修練を必要とすることも事実である。古典語文法の大枠を把握するだけでも一朝一夕に達成することは困難である。

本講義は、その修練の場を受講者に提供するために、プラトン『国家』を講読する。この作品の重要性はもはや説明する必要はないだろうが、ギリシア語講読の訓練にも極めて有益である。

ただし、プラトン『国家』は10巻から構成される長い著作であるので、文法的事項を確認しながらでは、わずかな部分しか講読できないだろう。それゆえ、『国家』の中からいくつか有名な個所を講読の対象とすることにしたい。

本講義では、訳読担当箇所を事前に受講者に割り振り、担当となった者は該当箇所の訳読を作成してもらう。しかし、担当以外の受講者も、自分自身で訳読を作成することが、ギリシア語の技能を早期に習得し、「教養」という名の価値が測れぬ財産を獲得することにつながるだろう。

授業の到達目標

古代ギリシア語文法と基本単語の定着度の向上

成績評価方法

訳読の担当：50%
出席：50%

科 目 名	サンスクリット語基礎講読1							
担当者名	伊藤　康裕　他／山部　能宜							
合併随意科目	1単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

サンスクリット原典を文法的に解析読解しつつ、インド仏教やインド哲学における重要な教理・思想を学ぶことを目的とする。単なる知識の収集ではなく、テキストの内容を正確に理解するための文献学的方法論を学び、思想を学問的に考究する講義を目指す。

今期のトピックとしては、空の思想について考察する。具体的には、大乗仏典である『中論』をテキストとして講読する。また、梵語原典の解読の一助として、漢訳文献を中心に『中論』諸注釈の参照と比較考察も行う。さらには必要に応じて研究論文も読解参照する。すなわち、たんに知識を得るための講義ではなく、古典語を習得し、原典を正確に読解して、その思想を解釈する、という文献学的方法論を学び、その実践にふれる、という学問的な経験が得られることを目標とするものである。

「講読」となってはいるが、初めの数回の講義で基礎的な文法事項の概説を行い、その後も基本的な文法を解説しながらテキストを読み進めていく。また、サンスクリット語文法事項の復習もカリキュラムに含めており、必要に応じて基本文法の復習を講読と併修する。

以上、サンスクリット語文法を未習得の段階でも講読にはついてこられるように配慮するので、初学者も積極的に参加されることを期待する。また、すでにサンスクリット語文法の講義を履修済みで基本文法を習得している者は文法のさらなる熟達を目指す。

授業の到達目標

1. サンスクリット語文法の習得、ならびに、簡単な文章の解読が可能となるようにする。
2. インド仏教における空の思想について、基本的な考え方を了得する。
3. 文献学の方法論の基礎を習得し、原典テキストの扱い方ならびに自力で読解する手法を学ぶ。
4. 学問的に思想や哲学を学ぶ意義について理解する。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業内容の理解度の確認
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　60%　　授業の参加状況、質疑応答の評価
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

希望あるいは必要に応じて、Course N@viによるサンスクリット文法習得のための添削指導を行います。

科 目 名	サンスクリット語基礎講読2							
担当者名	伊藤　康裕　他／山部　能宜							
合併随意科目	1単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

サンスクリット原典を文法的に解析読解しつつ、インド仏教やインド哲学における重要な教理・思想を学ぶことを目的とする。単なる知識の収集ではなく、テキストの内容を正確に理解するための文献学的方法論を学び、思想を学問的に考究する講義を目指す。

今期のトピックとしては、唯識思想について考察する。具体的には、大乗仏典である『唯識三十頌釈』をテキストとして講読する。また、梵語原典の解読の一助として、諸注釈や他の唯識論書の参照と比較考察も行う。さらには必要に応じて研究論文も読解参照する。すなわち、たんに知識を得るための講義ではなく、古典語を習得し、原典を正確に読解して、その思想を解釈する、という文献学的方法論を学び、その実践にふれる、という学問的な経験が得られることを目標とするものである。

「講読」となってはいるが、初めの数回の講義で基礎的な文法事項の概説を行い、その後も基本的な文法を解説しながらテキストを読み進めていく。また、サンスクリット語文法事項の復習もカリキュラムに含めており、必要に応じて基本文法の復習を講読と併修する。

以上、サンスクリット語文法を未習得の段階でも講読にはついてこられるように配慮するので、初学者も積極的に参加されることを期待する。また、すでにサンスクリット語文法の講義を履修済みで基本文法を習得している者は文法のさらなる熟達を目指す。

授業の到達目標

1. サンスクリット語文法の習得、ならびに、簡単な文章の解読が可能となるようにする。
2. 唯識思想について、基本的な考え方を了得する。
3. 文献学の方法論の基礎を習得、可能ならば応用を幅広く習得し、、原典テキストの扱い方ならびに自力で読解する手法を学ぶ。
4. 学問的に思想や哲学を学ぶ意義について理解する。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業内容の理解度の確認
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　60%　　授業の参加状況、質疑応答の評価
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

希望あるいは必要に応じて、Course N@viによるサンスクリット文法習得のための添削指導を行います。

科 目 名	サンスクリット語講読　唯識の基礎文献および宗教風刺戯曲を読む							
担当者名	齋藤　直樹　他／野武　美弥子							
合併随意科目	1単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

齋藤及び野武担当授業において、それぞれ以下の文献を取り上げる。

齋藤担当：Vasubandhu（世親, ca. 400-480A.D.), Viṃśikā Vijñaptimātratāsiddhiḥ（唯識二十論）を読む。サンスクリット原典の講読を中心としながら、仏教を、宗教的もしくは実践的側面においてではなく、世界史上における一つの重要で顕著な思想的成果として捉えようとするときに重要となる諸概念の分析にも時間を割く。特に「因果関係」「空間」「全体と部分」「実体と属性」「現実性と可能性」といった哲学的な諸観念の解説に注力することで，ひろく人文科学一般の理解のための基礎付けにも役だつような授業構成となるであろう。

野武担当：ジャヤンタ・バッタによる戯曲『アーガマダンバラ』（聖典騒動）を取り上げる。ジャヤンタ・バッタは9世紀のカシュミールにおいて活躍した人物であり、バラモン教の伝統的立場に立った宗教哲学書の著者として知られる。戯曲『アーガマダンバラ』では、ヴェーダ聖典の学習を終えた人物が、ヴェーダの敵を負かしてやろう、と、仏教徒をはじめ各宗派の人々と哲学論争を繰り広げていく。コミカルな会話形式の中、当時の諸宗教の考え方や議論の様子が描写される。本授業では、いくつかのシーンを取り上げ、思想的・社会的背景について解説を加えながら読み進める。

授業の到達目標

サンスクリット原典の読解を通じて、大乗仏教の教義の二大潮流の一つである「唯識」において展開された諸概念を理解すること。そのうえで、抽象的な思考を組みたてるための基本的な構図に習熟すること。

『アーガマダンバラ』講読を通し、生き生きとしたサンスクリット会話の表現に親しむこと。また、中世インドにおける諸宗派の理論上の立場の違いを理解すると共に、当時の現実的な宗教観を知ること。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　授業中に解読したサンスクリットテキストのローマ字表記とその和訳等。
●**平常点**　30%　　授業への取り組みかた。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL
サンスクリット文法を多少勉強したことがあり、文献講読に興味を持つ人であればどなたでも歓迎します。文法はこれからという人は、初級サンスクリットやサンスクリット基礎講読の授業をあわせて受講することをお勧めします。

科目名	初級ラテン語（速修）							
担当者名	小倉　博行							
合併随意科目	２単位	春学期	月５時限	木５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
今から2,000年以上も前にイタリアのローマを中心に用いられていたラテン語の初級文法を学びます。ローマの支配圏が拡大するのに伴い、このラテン語も西ヨー ロッパの全域に広まりました。現在のイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語などロマンス諸語と呼ばれる言語は、ラテン語が人々によって用いられる間に少しずつ変化し、成立したものなのです。したがって、ヨーロッパの社会・歴史・言語のどの分野であれ、深い理解を得ようとするにはラテン語（そしてギリシア語）の知識が不可欠です。本講座ではラテン語の読解力を身につけるべく、その初級文法を学びます。また、古い時代に存在した言語とはいえ、外国語を学ぶという点では、ラテン語の学習方法は現代語のそれと基本的には異なりません。課ごとに文法項目を説明し、その上でみなさんに練習問題を解いていってもらいます。現代語に比べてやや複雑な仕組みを持つラテン語ですが、少しずつ確実に学べば必ず身につくものです。

授業の到達目標
ラテン語の初級文法の知識を身につけることが目標です。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行わない予定です.
●**レポート**　0%　　レポートはありません
●**平常点**　100%　　課が終わるごとに，教科書の作文問題を提出してもらいます．20点満点で添削し，平均6割（12点）以上を合格とします.
●**その他**　0%　　上記が成績判定の基準です.

科目名	中級ラテン語2　古典ラテン語の原書講読入門							
担当者名	小倉　博行							
合併随意科目	１単位	秋学期	月曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
「中級ラテン語2」は，ラテン語の初級文法を学び終えた人を対象にした、平易なラテン語で書かれた文献を使ってラテン語読解力の基礎作りを目標とする授業です。ラテン語の読解で無視できない存在が「接続法」と呼ばれる動詞の用法で、これを克服することなくしてラテン語が読めるようにはなりません。この用法を中心に学ぶための併設科目「ラテン語中級文法」に対して、本講座では実際のラテン語の文献にあたりながら、この接続法を学んでいってもらいたいと思います。講読なので実際には輪読形式の授業になります。毎回予習して臨んでください。

授業の到達目標
初級文法を学んだ皆さんが古典ラテン語の原文を読むことによって、読解力を向上させることが目標です。

成績評価方法
●**試験**　0%　　これまで行なってきませんでしたが，受講者の数によっては最終授業時に，読解力を判断する簡単なテストを実施する可能性もあります．柔軟に対応したいと思います.
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席50%, 訳出発表50%
●**その他**　0%　　なし

科目名	中級ラテン語1							
担当者名	小倉　博行							
合併随意科目	１単位	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要
前期科目「初級ラテン語（速習）」を履修した人、あるいはすでに何らかのかたちでラテン語の初級文法を学んだ人を対象にした講座です。とくに後者に該当する人は、動詞とその分詞、そして名詞と形容詞の変化形を身につけていることを前提とします。「中級ラテン語1」では接続法と呼ばれる、ラテン語読解には不可欠な動詞の用法を徹底的に学びます。具体的には『標準ラテン文法』（中山恒夫著、白水社）の16課以降の内容です。

授業の到達目標
課ごとに練習問題を解き、ラテン語の文法のさらなる理解を深めることが目標です。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行いません
●**レポート**　0%　　レポートは行いません
●**平常点**　100%　　課ごとに練習問題を提出してもらい、20点満点で添削して返却。また，課ごとに20点満点の小テストを行ないます。両者とも平均点が6割である12点以上を合格とします。
●**その他**　0%　　上記が成績判定の方法です

科 目 名	初級ギリシャ語（速修） 古典ギリシャ語文法の全体を1セメスターで修得する							
担当者名	兼利　琢也							
合併随意科目	２単位	春学期	火５時限	金５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

このコースでは，1セメスター週2回計30回の集中学習で古典ギリシャ語文法の基礎を学ぶ．講読を行う秋学期の「中級ギリシャ語」等に接続し，計1年間でギリシャ語文献を読解するための基礎的な知識をつけるのが目標である．最初からしっかりギリシャ語を学びたい人，「入門ギリシャ語」や自習で学んだが基礎固めをしたい人を念頭に置いている．

西洋の文化を調べるとたいていどこかでギリシャ語につきあたる．西洋文化と教養の基礎に直接触れたい，自分にそれが必要だと感じる人にはこの言葉を学ぶことを勧めたい．

ギリシャ語は古来むずかしい言葉の代表であり，その面は否めないが（それだけ学ぶ楽しみも大きい），戸山では週二回という恵まれた状況で学習できる．春学期の30回でも文法の全項目を網羅するには不足だが基礎は十分に学べるだろう．秋学期は講読の合間に復習や補足をするので，年間を通して学べば古典ギリシャ語について全般的な理解が得られる．

なお，この授業で学ぶギリシャ語は現代ギリシャ語ではなく，西洋古典文学，紀元前8世紀頃のホメロスに始まって5世紀頃まで続く古代文化が遺した膨大な言語遺産の言葉である．

ギリシャ語は古典の傑作：叙事詩・叙情詩・劇・歴史・演説・哲学・小説などを生み出しただけでない，今日に繋がる学問の礎はギリシャ人が敷いた（数学や哲学など抽象度の高い学問はギリシャ語の独壇場である．古代ではラテン語は学術語ではない）．また，これら異教古代の遺産と並んで西洋文化の基礎をなすキリスト教は，ギリシャ語圏ユダヤ世界で生まれ，新約聖書はローマ時代の日常語のギリシャ語で綴られた．西洋の言葉と文化の知識を深めたいと思うのであれば，古典ギリシャ語を学ぶのが確実である．

授業の到達目標

古典ギリシャ語文法の習得

成績評価方法

●**試験**　0%　　学期末試験はしません．
●**レポート**　0%　　期末の提出物はありません．
●**平常点**　100%　　毎回の練習問題の回答，変化形の書取りの出来，クイズの成績などです．　時折小テストや小さな課題を出すことがあるかもしれません．
●**その他**　0%　　とくにありません．

備考・関連ＵＲＬ

週2回授業があります，時間割に気をつけてください（片方だけだとたぶん挫折します）．

科 目 名	中級ギリシャ語1　古典ギリシャ語散文の基礎講読							
担当者名	兼利　琢也							
合併随意科目	１単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	—	—

授業概要

秋学期の「中級ギリシャ語1」は，春「初級ギリシャ語（速習）」を履修した人，またはこれまでに「入門（初級）ギリシャ語」等を学んだか，それと同程度のギリシャ語に関する基礎知識を持っている人を対象に，実際の文章に直接当たることで読解力を養成することを念頭に置いています．

講読なので文法の大枠を理解していることを前提にしますが，多くの人はまだ始めて3か月です（し夏の休止があります）から，基礎知識の説明と復習は常に繰り返します．平易な散文で読む意義の大きな古典を（可能であれば比較的速めに）読んで読解力を鍛えたいと思います．

今年は，プラトーン『小ヒッピアース』とホメーロス『イーリアス』からの抜粋を読む予定です（ただし場合によっては別のプラトーン対話篇その他に変更する可能性もあります．『小ヒッピアース』は短いので，そのあとのホメーロスを変更してリクエストに応えることも可能です）．『小ヒッピアース』はプラトーンの初期対話篇の典型で，ソフィストのヒッピアースが披露したホメーロスを扱う演示演説とその内容に対するソークラテースの批判です．ソークラテースの哲学的手法を，古代における修辞とホメーロスの重要性とともに直に学ぶことができます．これを読み終えたら，ホメーロス『イーリアス』からの抜粋を読む予定です（古代ギリシャとは結局のところホメーロスの文化ですから，これに一度は触れておくべきです）．

講読ですから毎回少しずつ訳読していきます（あらかじめ割り当てをしておきます）．細かな文法的な説明をしますが，あわせて教科書や文法書の該当個所を復習して変化や文法の知識を固めます．毎回ごとに復習と訓練を積み重ねていきますから，半年でもギリシャ語文法の全域を学べます．（なお，ホメーロスの文法は，アッティカ散文を読むために作られている教科書では足らないところが間々ありますので，それらは毎回説明を加えます．）

大切なのは，自分で形を確かめて暗記する努力をすることです．当然ですが聞いているだけでは理解はできるにせよ，独力で読みこなせる力は身に付きません．予習復習を欠かさないでください．助力は惜しみません．ただし単語と変化は，あるレベルまで必ず覚えなければいけません．頑張って下さい．

授業の到達目標

古典ギリシャ語文献の初歩的な読解能力の養成

成績評価方法

●**試験**　0%　　テストは行いません．
●**レポート**　0%　　期末提出物はありません．
●**平常点**　100%　　毎回の訳読です．
●**その他**　0%　　なし．

科 目 名	初級ラテン語1　ラテン語文法の学習							
担当者名	兼利　琢也							
合併随意科目	1単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

ラテン語とは，古代にイタリア半島中部のラティウム地方に源を発しローマ帝国と共に西地中海世界の共通語となった言語で，同時期に文語として完成して多くの古典作品を生み出した．中世以降もカトリック教会と法律と学問の言葉として西洋の普遍的教養の伝統を担い，18世紀まで学問の伝達手段であった．他方，口語（俗ラテン語）はしだいに変化してロマンス諸語（イタリア語，スペイン語，フランス語など）へ変貌する．西洋の古文であるラテン語に直接の実用性はないが，言葉に興味のある人，真の教養に触れたい人はこの言葉を学ぶとよい．今のアメリカでも既修外国語としてスペイン語，フランス語に次ぐ．英語の語彙も3/4がラテン語に由来するのみならず，文法はすべてラテン語文法が元だから，近代語学習には必ず役立つはずである．

春学期の本科目では，教科書の半分程度（9課辺り）まで進む予定．

授業の到達目標

ラテン語文法の基礎の学習と習得，ラテン語の詩文の観賞

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　毎回配布回収する変化形書取り＋クイズの成績（と不定期に実施予定の基礎的な少テストの予定）
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	初級ラテン語2　ラテン語文法の学習							
担当者名	兼利　琢也							
合併随意科目	1単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

ラテン語とは古代ローマ帝国の言葉である．前1世紀後半の共和政末期，カエサル，キケローによって技巧的文語として完成し，アウグストゥスに始まる元首政の2世紀の間に幾多の古典文学を生み出した．歴史（サッルスティウス，リーウィウス，タキトゥス），哲学（キケロー，セネカ），文学（ルクレーティウス，ウェルギリウス．ホラーティウス，オウィディウス他）にわたる古典は，ルネサンス以降の西洋文化に深く広い影響を及ぼしている，またラテン語は，ローマ帝国滅亡後も教会と法と学術の言語として西洋の教養を担いつづけた．それゆえ西洋のすべての学問と文化はこの言葉が源である．秋学期は，教科書の後半を進める（第10課から第20課），余裕があれば何らかの古典作品を読む予定（文法学習中にも随時紹介する．また希望があれば優先したいと思う）．

授業の到達目標

ラテン語文法の学習と習得，ラテン語の詩文の観賞

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　毎回配布回収返却する変化形書取り＋少クイズ，不定期に実施する予定の復習小テスト，講読の出来など
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	初級ギリシャ語1							
担当者名	高梨　誠							
合併随意科目	1単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

ギリシャのアテナイで，紀元前5-4世紀用いられた古典ギリシャ語を学びます。この言語を学ぶことで，ソフォクレス・アリストファネスによる悲喜劇，ヘロドトス・トゥキュディデスの歴史書，プラトン・アリストテレスによる哲学書などの原典に直接触れることができるようになります。約2500年前に，9500km離れたギリシャの地で記されたこれらの優れた作品の数々を，まさに時空をこえて私たちは直接読むことができるのです。そのこと自体，とても驚くべきことではないでしょうか。

この授業では教科書に沿って基礎的な文法を学びます。毎回1～2課ずつ，受講生の理解の程度に応じて進みます。ギリシャ語の大きな特徴は，動詞の法・相・時称の変化と名詞等の格変化ですが，春学期は，まず動詞の直説法能動相各時称の変化と，名詞・形容詞・代名詞の格変化について学んでいきます。講師が各項目の解説を行い，受講生には練習問題に解答してもらうという形で進みますが，受講生の理解度によっては，取り扱う項目を変更することもあります。

英・仏・独語などの近代語に比べて，古典語であるギリシャ語は，複雑な文法の学習に重点が置かれることもあり，学ぶのがとても困難であることは否めませんが，ギリシャ・ローマ文化に関するさまざまな映像などをも随時交えながら授業を進めていく予定です。予備知識は必要ありませんが，ラテン語や英・仏・独語などを学んだ経験は役に立ちます。また，これからそれらの言語を学習するさいにも，ギリシャ語の知識は大いに役立つでしょう。

授業の到達目標

やさしく短いギリシャ語の文であれば，読解ができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　0%　　レポート等の課題はありません。
●**平常点**　100%　　受講者に教科書にある練習問題に解答してもらうことで主に評価しますが，大きな項目ごとに簡単な小テストなども実施する予定です。できる限り毎回休まずに出席することが重要です。
●**その他**　0%

備考・関連URL

この授業の内容は，秋学期に開講される「初級ギリシャ語2」に続きます。あわせて履修することで，ギリシャ語文法の全体像が見えてきます。ぜひ「初級ギリシャ語2」も受講してください。

科目名	初級ギリシャ語2							
担当者名	高梨　誠							
合併随意科目	1単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	—	—

授業概要

この「初級ギリシャ語2」では，春学期に「初級ギリシャ語1」で学んだ内容を踏まえ，動詞の直説法中・受動相，接続法・希求法・命令法の各相・時称、分詞の用法などについて学んでいきます。可能であれば少し長いの散文の読解練習にも取り組む予定です。なお，初級ギリシャ語1の進度によっては，取り扱う項目を変更することもあります。

授業の到達目標

ギリシャ語文法の骨格を理解し、やさしい散文の読解に取り組むことができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　0%　　レポート等の課題はありません。
●**平常点**　100%　　受講者に教科書にある練習問題に解答してもらうことで主に評価しますが，大きな項目ごとに簡単な小テストなども実施する予定です。できる限り毎回休まずに出席することが重要です。
●**その他**　0%

備考・関連URL

この授業は，春学期に開講される「初級ギリシャ語1」の内容を踏まえて進められます。履修登録のさいには注意してください。

科目名	社会調査法1							
担当者名	博士(文学)早大　　岡本　智周							
合併随意科目	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

社会学は様々な方法で社会を認識した上で成立する学問である。そのための主要かつ有効な方法の一つが社会調査である。社会調査の領域では、具体的な社会事象を客観的に把握するため様々な手法が開発され、また多くの先行研究が蓄積されている。本講義は、先行研究例をふまえつつ、実践に向けての基礎知識を習得することを目的とする。なお、本講義は社会調査法2と併せて履修することが望ましい。

授業の到達目標

社会調査の基礎知識を習得することを目標とする。社会調査法1においては、とくに調査票の作成のスキルを習得することを課題とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末試験の結果を評価する。
●**レポート**　10%　　授業内で提出してもらうレポートの内容を評価する。
●**平常点**　40%　　出席状況を評価する。
●**その他**　0%

科目名	社会調査法2							
担当者名	博士(文学)早大　　岡本　智周							
合併随意科目	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	—	—

授業概要

サンプリングから実査後の集計方法までの手順を学習する。変数間の関連性についての社会学的想像力を駆使した集計が、社会現象についていかに多くの知見を提供してくれるのかを理解する。また、社会調査における計量的研究の方向性と現象学的な質的研究への方向性を学習し、両者が実証研究において相互補完的であることを理解する。なお、本講義は社会調査法1と併せて履修することが望ましい。

授業の到達目標

社会調査の基礎知識を習得することを目標とする。社会調査法2においては、とくにクロス集計結果の理解の仕方を習得することを課題とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末試験の結果を評価する。
●**レポート**　10%　　授業内で提出してもらうレポートの内容を評価する。
●**平常点**　40%　　出席状況を評価する。
●**その他**　0%

科目名	社会統計学1							
担当者名	津田　好美							
合併随意科目	2単位	春学期	火曜日	1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

社会調査によってえられたさまざまな形式のデータを整理、分析するために必要となる基礎的な手法を学ぶ。量的調査から得られたデータを処理する基本的な方法を扱い、次にデータの分布を記述する指標の読み方や算出の仕方を扱う。その上で、2変数間の相関関係を読み解く方法や統計量、疑似相関などの概念について講義する。社会統計学の基礎的な分析結果の統計的意味

や社会的含意を理解できるようになることを目指す。

授業の到達目標

データの分布、記述統計量を理解し、社会調査のリテラシー（読み書き能力）を習得する。

成績評価方法

- **試験**　80%　　期末試験
- **レポート**　0%
- **平常点**　0%
- **その他**　20%　　授業時に提示する課題

科 目 名	社会統計学2							
担当者名	津田　好美							
合併随意科目	２単位	秋学期	火曜日	１時限	１年以上	—	—	—

授業概要

社会調査から得られたデータが標本のデータである場合、母集団に関する一般的な結論を導出するには、推定ならびに検定とよばれる統計的処理を経る必要がある。この講義では、確率論の基礎、確率分布、検定・推定の基礎、平均の差の検定、カイ二乗検定、相関係数や回帰分析について、その理論と実践的な意味の両面について扱う。受講生は、推測統計の基本的な考え方が理解できるようになること、その上で代表的な統計的検定の結果を適切に解釈できるようになることが期待される。

授業の到達目標

推測統計の基本的な考え方が理解できるようになること。その上で代表的な統計的検定の結果を適切に解釈できるようになること。

成績評価方法

- **試験**　80%　　期末試験
- **レポート**　0%
- **平常点**　0%
- **その他**　20%　　授業時に提示する課題

科 目 名	データ解析2（質的分析）　質的調査の技法と質的データの分析							
担当者名	畑山　直子							
合併随意科目	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	—	—

授業概要

この授業では、社会調査が量的調査と質的調査に大きく分類されることを理解した上で、質的調査に含まれるフィールドワークや参与観察、インタビュー調査など、個々の調査技法を具体的に解説していく。また、これらの調査技法によって集めることができる質的データ（ライフヒストリーデータやビジュアル記録等）の分析方法を学ぶ。

授業の到達目標

質的調査の考え方と方法に関する基礎的な知識を習得し、調査の目的に合わせて適切な調査技法とデータの分析方法を選ぶことができるようになる。

成績評価方法

第8回に行う小テスト（20%）と第15回に行う授業内容の理解度の確認（80%）で評価する。

備考・関連ＵＲＬ

卒業論文で質的調査（インタビュー調査など）を実施しようと考えている人は、質的調査を具体的に企画し、実施するためのスキルを身につけるために、ぜひ受講してほしい。